

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第71集

た どころ
田 所 遺 跡

1 9 9 7

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター



1. 93Hb区



2. 94Bb区



1. 92F区



2. 92Ga区



1.92Gb区



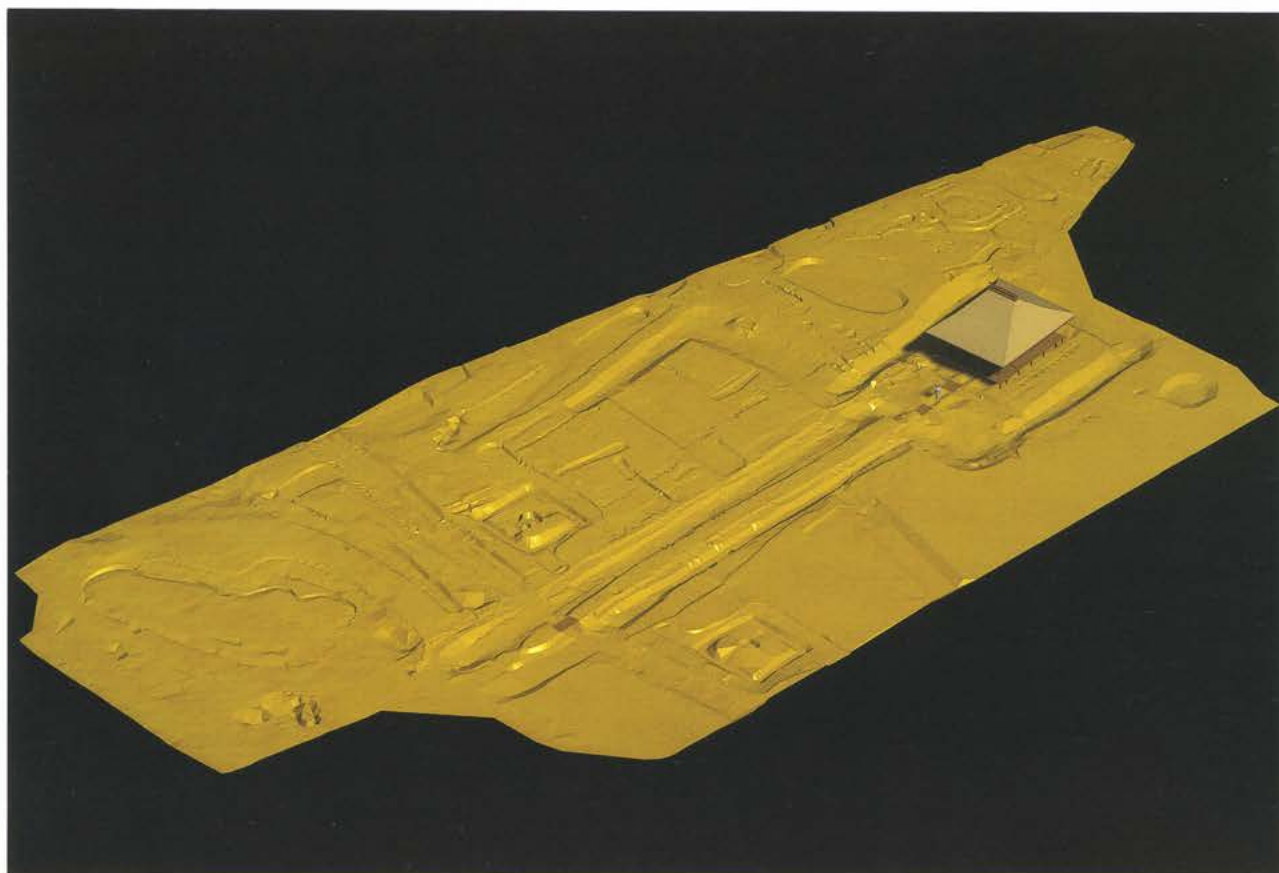
2.92F区



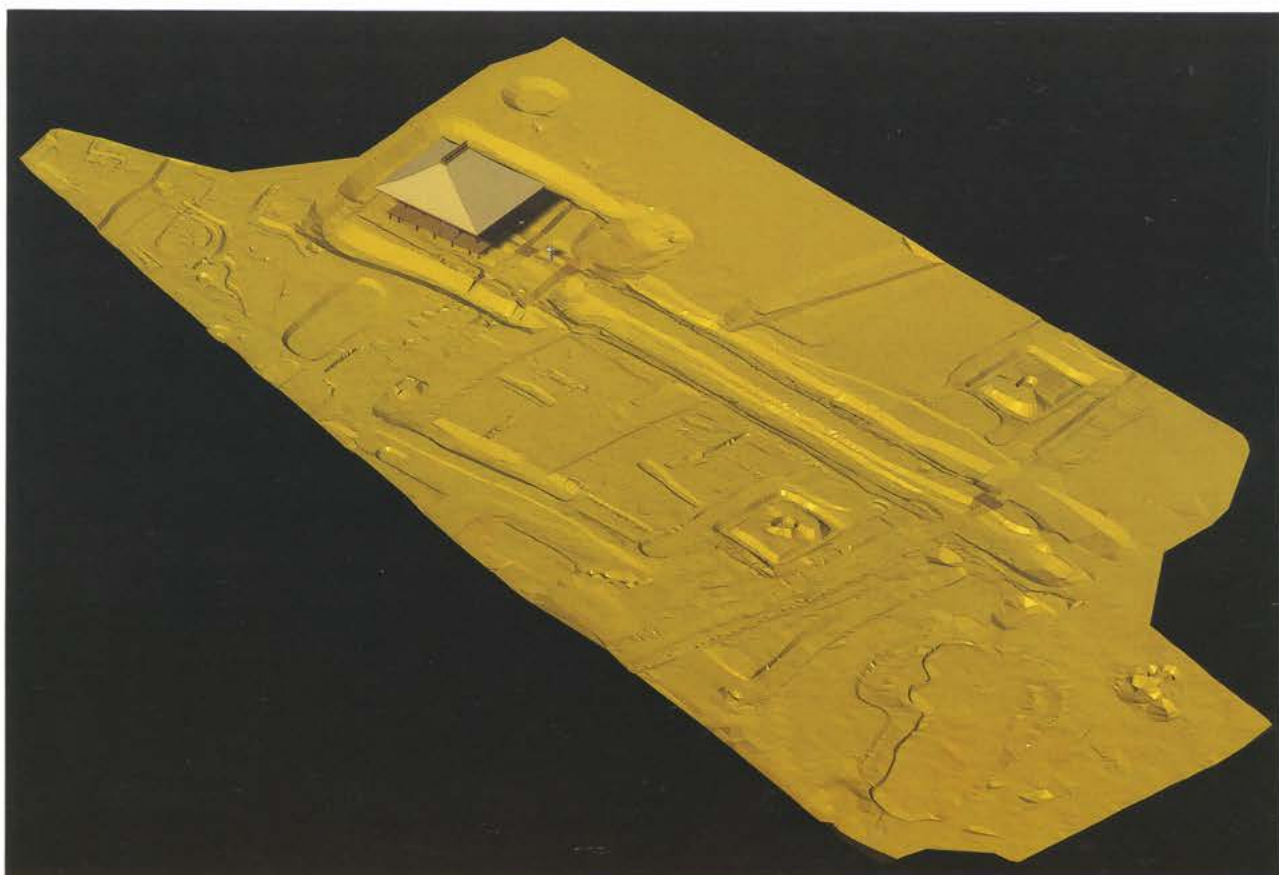
1.93 I 区



2.95Aa区



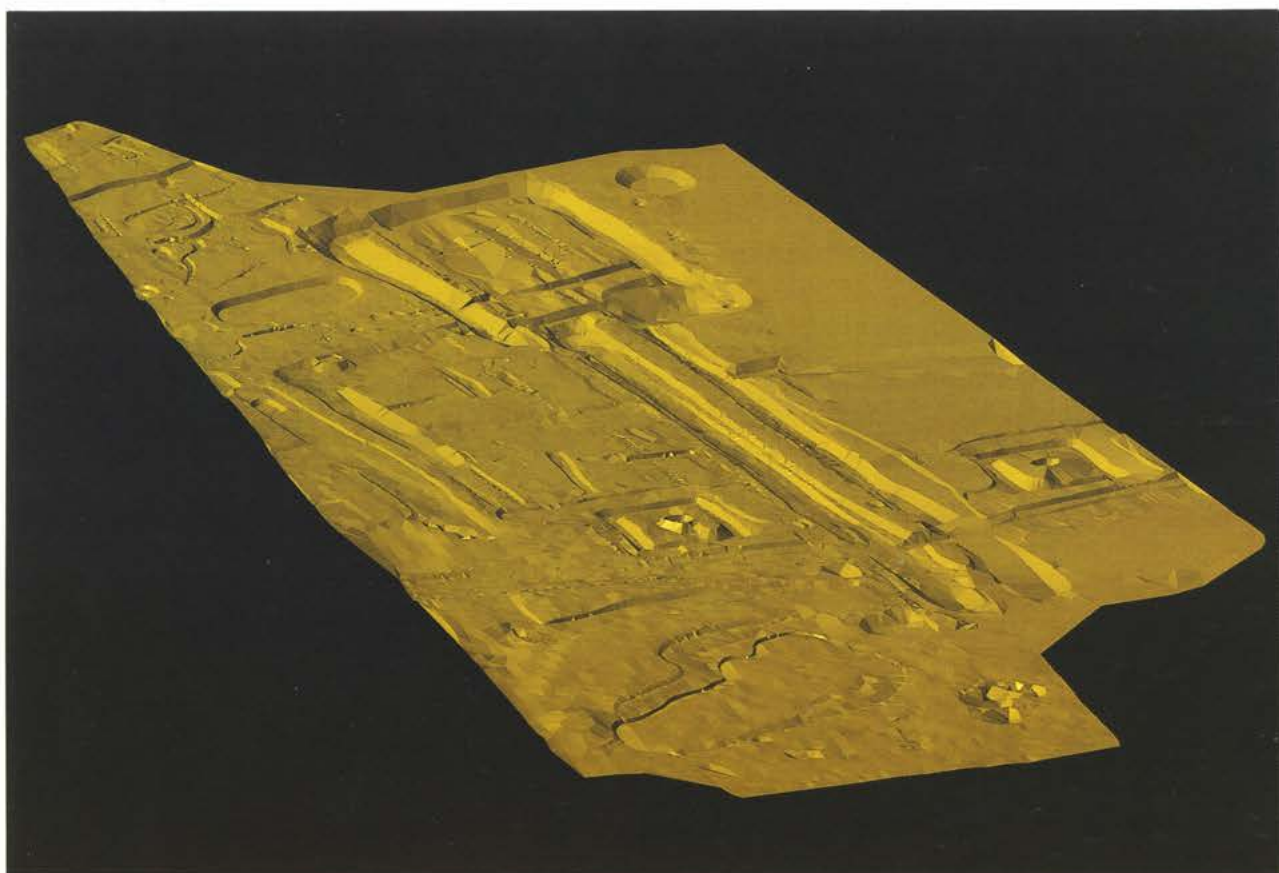
1. 南東側より



2. 南西側より



1. 復元墳墓堂



2. 遺構俯瞰



1. セアカヒゲツグムシ *Helorus latens* SCHALLER
右前翅 長さ11.0mm (岡山県道誌—標本92)



2. アサマツグムシ *Anara obscuripes* BATES
右前翅 長さ4.6mm (岡山県道誌—標本37)



3. アサマツグムシ *Attila interstinctus*
quadrangulatus G.
右前翅 長さ4.1mm (岡山県道誌—標本9)



4. ノコギリカミキリ *Priocis insularis* MOTSCHULSKY
右前翅 長さ11.2mm (田所道誌—標本74)



5. マダガスカ *Papilio japonica* NEWMANN
右前翅 長さ6.1mm (田所道誌—標本94)



6. シシツグムシ *Spathius stipes* (FABRICIUS)
右前翅 長さ16.6mm (田所道誌—標本27)



7. キイロヒゲツグムシ *Erochus similis* (SHARP)
右前翅 長さ4.4mm (田所道誌—標本343)



8. マダガスカ *Regimbartia attenuata* (FABRICIUS)
右前翅 長さ3.4mm (田所道誌—標本33)



9. ツマムシ *Amphips mater* SHARP
右前翅 長さ3.2mm (田所道誌—標本126)

序

東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、一宮市と木曽川町に所在する田所遺跡の調査を平成4年より平成7年の4年間かけて実施しました。

「田所大溝」と「墳墓堂」が注目され、今回その調査成果をまとめ報告書を刊行することになりました。

報告書の刊行も文化財保護の一翼を担っている私たちに課せられた責務であり、こうした調査成果が学術的な資料として、また社会教育や学校教育の現場でおおいに活用されることを期待しております。

最後になりましたが調査の実施にあたりまして、地元の方々をはじめ、関係者及び関係機関からご指導とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

平成9年8月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

理事長 安 部 功

例 言

1. 本書は、愛知県一宮市大字田所・光明寺と愛知県葉栗郡木曾川町大字黒田に所在する田所遺跡（愛知県遺跡番号02-095）の調査報告書である。
2. 調査は、東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として実施し、日本道路公団・愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成4年（1992）から平成7年（1995）まで、財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査において次の関係機関の御協力を得た。
愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県土木部一宮事務所、一宮市教育委員会、日本道路公団名古屋建設局、日本道路公団一宮事務所。
4. 発掘調査、報告書の作成においては以下の方々の協力を得た。
井上喜久男、遠藤才文、江崎 武、織田真弓、尾野善裕、木田康子、久保禎子、斎藤孝正、佐藤 洋、柴垣勇夫、城ヶ谷和広、仲野泰裕、中嶋 隆、檜崎彰一、土本典生、寺澤なつ江、橋口定志、服部敬史、原田恵理子、日野幸司、北條猷司、本澤楨輔、藤澤良祐、松井孝宗、松原隆治、森 達也、八重樫忠郎、渡辺博人。（五十音順、敬称略）
5. 報告書の作成に関わる作業では次の方々の協力を得た。
宇佐美美幸、河合明美、永井智子、中馬妙子、服部恵子、平野みどり、本多恵子、本所千恵子。
6. 出土遺物の写真撮影については深川 進氏の手を煩わした。
7. 本書の執筆は以下のとおりである。なお編集は小澤一弘が担当した。

第1章第1節1、第2節、第2章、第3章第1節～第3節、	
第4節1. 2. 4～6. 8～10、第5章第3節	小澤一弘（主任）
第1章第1節2	伊藤秀紀（調査研究員）
第3章第4節3. 7、第5章第1節	永井智子（元調査研究補助員）
第4章第1節、第2節、第3節、第5節	鬼頭 剛（調査研究員）
第4章第3節	堀木真美子（調査研究員）
第4章第3節	尾崎和美（調査研究補助員）
第4章第4節	森 勇一（愛知県立明和高等学校）
第4章第6節	服部俊之（愛知県立津島北高等学校）
第5章第2節	増澤 徹（岡崎市立本宿小学校）
8. 出土遺物の登録番号は挿図の通し番号をこれに当てた。
9. 調査記録の座標は、国土座標第Ⅶ系に準拠する。
10. 調査記録及び出土品は愛知県埋蔵調査センターに保管している。

目 次

第1章 立地と調査経過

第1節 遺跡の立地

1. 立地と周辺の遺跡 1
2. 歴史的環境 3

第2節 調査の経緯と経過

1. 調査経緯 8
2. 調査経過 8

第2章 遺構

第1節 遺跡の概要 12

第2節 遺跡の層位 23

第3節 古代の遺構

1. 住居跡 24
2. 土坑 38
3. 溝 39

第4節 水田跡 40

第5節 中世の遺構

1. 溝 47
2. 大溝 47
3. 墳墓堂遺構の前の溝 50
4. 墳墓堂遺構の周溝 54
5. 墳墓堂遺構内の建物 54
6. 方形区画溝 54
7. 方形台状遺構 55
8. 集石 56
9. 井戸 61

第3章 遺構出土の遺物

第1節 古代の出土遺物

1. 住居跡 67
2. 土坑 77
3. 溝 77

第2節 水田跡出土遺物 78

第3節 中世の出土遺物 78

1. 溝 87
2. 大溝 87

3. 墓道両脇溝	87
4. 墳墓堂遺構の周溝	102
5. 方形台状遺構区画溝	105
6. 井戸	105
第4節 その他の出土遺物	
1. 墨書陶器	109
2. 陰刻花文陶器と緑釉陶器	114
3. その他の遺物	114
4. 中国陶磁器	116
5. 土錘	118
6. 加工円盤	121
7. 石製品	125
8. 金属製品	131
9. 木製品	132
10. 陶丸	132
第4章 自然科学	
第1節 大溝の堆積	133
第2節 放射性炭素年代	134
第3節 花粉、珪藻、プラント・オパールからみた古環境	135
第4節 畑作農村地帯を特徴づける田所遺跡の地表性歩行虫	154
第5節 鉄滓類の分析	159
第6節 田所遺跡の地震痕跡	163
第5章 まとめ	
第1節 田所遺跡出土の中国陶磁器について	167
第2節 田所集落と大溝	175
第3節 遺構・遺物から見た田所遺跡	182
遺構一覧表	191
図版	199
遺構	200
遺物	210
自然科学	219

図版目次

カラー図版1. 遺跡全景：1. 93Hb区 2. 94Bb区

カラー図版2. 遺跡全景：1. 92F区 2. 92Ga区

カラー図版3. 遺跡全景：1. 92Gb区 2. 92F区

カラー図版4. 大溝全景：1. 93I区 2. 95Aa区

カラー図版5. 復元墳墓堂俯瞰：1. 南東側より 2. 南西側より

カラー図版6. 復元墳墓堂と遺構：1. 復元墳墓堂 2. 遺構俯瞰

カラー図版7. 昆虫化石

図版1. 墳墓堂遺構全景：1. 92F・Ga・Gb・E区 2. 93K区

図版2. 墳墓堂遺構近景：92F・Ga・Gb区

図版3. 墳墓堂遺構南側全景：1. 93E区 2. 93K区

図版4. 大溝全景（北より）：1. 93J区 2. 93I区 3. 92Ca区 4. 92Cb区

図版5. 水田全景：1. 93Hb区 2. 93Hb区下面 3. 92Cb区下面 4. 93Ha区

図版6. 住居跡と大溝：1. 92Aa・Ca・Da区 2. 92Ab・Cb・Db区

図版7. 住居跡：1. 92Aa区 2. 92Ab区 3. 93G区 4. 92H区

図版8. 集石・92F区：1～3. 全景 4. SX03 5. SX09 6. 7. SX05

図版9. 墳墓堂遺構周辺・墳墓堂遺構：1. 2. 92F区 3. 93Ga区 4～8. 92Gb区

図版10. 井戸・93G区：1. SD214・SE10 2. SE08 3. SE08

4. 5. SE09 6～8. SE10

図版11. 出土遺物：SB01～SB16

図版12. 出土遺物：SB16～SB23

図版13. 出土遺物：SB23. SK64・251. SD196・239. ST24・64

図版14. 出土遺物：SD214・239・240

図版15. 出土遺物：SD214. SD01

図版16. 出土遺物：SD01・03・21・22. 墨書陶器. その他. 土錘.

図版17. 出土遺物：墨書陶器

図版18. 出土遺物：緑釉陶器. 中国陶磁器. 金属製品. 木製品

図版19. 出土遺物：石製品

図版20. 珪藻化石

図版21. 花粉化石・植物珪酸体

插图目次

第1図	一宮市・木曽川町位置図	1
第2図	木曽川扇状地の微地形図	1
第3図	田所遺跡周辺の遺跡	2
第4図	文献にみられる中世葉栗郡の地名図	3
第5図	遺跡位置図	10
第6図	明治17年の地籍図から見た遺跡位置図	11
第7図	遺構全体図(1)	13
第8図	遺構全体図(2)	14
第9図	遺構全体図(3)	15
第10図	遺構全体図(4)	16
第11図	遺構全体図(5)	17
第12図	遺構全体図(6)	18
第13図	遺構全体図(7)	19
第14図	遺構全体図(8):下面1	20
第15図	遺構全体図(9):下面2	21
第16図	遺構全体図(10):下面3	22
第17図	調査区配置図	23
第18図	住居跡全体図(1)	26
第19図	住居跡全体図(2)	27
第20図	住居跡全体図(3)	28
第21図	住居跡全体図(4)	29
第22図	住居跡全体図(5)	30
第23図	住居跡全体図(6)	31
第24図	住居跡全体図(7)	32
第25図	S B 0 1 平面実測図	33
第26図	S B 1 5 平面実測図	34
第27図	S B 1 8 平面実測図	35
第28図	S B 2 2 平面実測図	36
第29図	S B 2 3 平面実測図	37
第30図	S K 2 5 1 平面実測図	38
第31図	S K 3 3 3 遺物出土状態図	38
第32図	水田跡全体図(1)	41
第33図	水田跡全体図(2)	42
第34図	水田跡全体図(3)	43

第35図	水田跡全体図（4）	44
第36図	水田跡全体図（5）：下面	45
第37図	大溝SD01全体図（1）	48
第38図	大溝SD01全体図（2）	49
第39図	墳墓堂遺構全体図	51
第40図	墓道遺構実測図	52
第41図	墳墓堂遺構実測図	53
第42図	方形台状遺構実測図	55
第43図	集石遺構実測図（1）：SX09	56
第44図	集石遺構実測図（2）：SX05	57
第45図	集石遺構実測図（3）：SX08	58
第46図	井戸実測図（1）：SE03	59
第47図	井戸実測図（2）：SE09	60
第48図	井筒出土状態図：SE09	61
第49図	井戸実測図（3）：SE10	62
第50図	井戸枠出土状態図：SE10	63
第51図	井戸実測図（4）：SE11	64
第52図	井戸実測図（5）：SE08	65
第53図	井戸実測図（6）：SE06	66
第54図	住居跡出土遺物実測図（1）：SB01・02・03・04	70
第55図	住居跡出土遺物実測図（2）：SB05・06・07・08	71
第56図	住居跡出土遺物実測図（3）：SB09・10・11・12・13・14	72
第57図	住居跡出土遺物実測図（4）：SB15・16・17	73
第58図	住居跡出土遺物実測図（5）：SB18	74
第59図	住居跡出土遺物実測図（6）：SB19・20・21	75
第60図	住居跡出土遺物実測図（7）：SB22・23	76
第61図	土坑・溝出土遺物実測図：SK251・333・SD196	77
第62図	水田跡出土遺物実測図（1）	79
第63図	水田跡出土遺物実測図（2）	81
第64図	溝出土遺物実測図（1）：SD239（1）	82
第65図	溝出土遺物実測図（2）：SD239（2）	83
第66図	溝出土遺物実測図（3）：SD239（3）	84
第67図	溝出土遺物実測図（4）：SD240（1）	85
第68図	溝出土遺物実測図（5）：SD240（2）	86
第69図	溝出土遺物実測図（6）：SD214（1）	88
第70図	溝出土遺物実測図（7）：SD214（2）	89

第71図	溝出土遺物実測図（8）：SD 2 1 4（3）	90
第72図	溝出土遺物実測図（9）：SD 2 1 4（4）	91
第73図	大溝出土遺物実測図（1）：SD 0 1・0 2（1）	92
第74図	大溝出土遺物実測図（2）：SD 0 1・0 2（2）	93
第75図	大溝出土遺物実測図（3）：SD 0 1・0 2（3）	94
第76図	大溝出土遺物実測図（4）：SD 0 1・0 2（4）	95
第77図	大溝出土遺物実測図（5）：SD 0 1・0 2（5）	96
第78図	大溝出土遺物実測図（6）：SD 0 1・0 2（6）	97
第79図	大溝出土遺物実測図（7）：SD 0 1・0 2（7）	98
第80図	大溝出土遺物実測図（8）：SD 0 1・0 2（8）	99
第81図	大溝出土遺物実測図（9）：SD 0 1・0 2（9）	100
第82図	大溝出土遺物実測図（10）：SD 0 1・0 2（10）	101
第83図	墓道両脇溝出土遺物実測図：SD 0 6・0 7	102
第84図	墳墓堂遺構周溝出土遺物実測図（1）：SD 0 3（1）	103
第85図	墳墓堂遺構周溝・方形区画溝出土遺物実測図：SD 0 3（2）, SD 2 1・2 2	104
第86図	井戸出土遺物実測図（1）：SE 0 9	106
第87図	井戸出土遺物実測図（2）：SE 1 0	107
第88図	井戸出土遺物実測図（3）：SE 1 1, SE 0 8	108
第89図	墨書陶器実測図（1）	110
第90図	墨書陶器実測図（2）	111
第91図	墨書陶器実測図（3）	112
第92図	陰刻花文・緑釉陶器実測図	113
第93図	その他の遺物実測図	115
第94図	中国陶磁器実測図	117
第95図	土錘実測図	119
第96図	土錘法量図（1）	121
第97図	土錘法量図（2）	121
第98図	加工円盤実測図	122
第99図	加工円盤法量図	124
第100図	石製品実測図（1）：石鏃	126
第101図	石製品実測図（2）：剥片石器、敲石、磨石、紡錘車、有孔円盤	127
第102図	石製品実測図（3）：砥石	128
第103図	石製品実測図（4）：五輪塔	129
第104図	金属製品実測図	131
第105図	下駄実測図	132
第106図	陶丸法量図	132

第107図 大溝 S D 0 1 土層断面図	133
第108図 92Gb区試料採取位置図	136
第109図 分析調査地点の柱状図	136
第110図 95Aa区分析試料採取位置図	137
第111図 分析調査地点の柱状図	137
第112図 92Gb区 S D 2 7 珪藻分析グラフ図	139
第113図 92Gb区 S D 2 7 花粉化石群集の層位分布図	140
第114図 95Aa区の主要珪藻化石群集の分布図	142
第115図 95Aa区花粉化石群集の分布図	143
第116図 95Aa区植物珪酸体群集の分布図	144
第117図 92Gb区 S D 2 7 の層序、試料採取層準図	154
第118図 西上免遺跡試料採取位置図	155
第119図 X線回析測定結果図(1)	162
第120図 X線回析測定結果図(2)	162
第121図 X線回析測定結果図(3)	162
第122図 92Aa区噴砂スケッチ図	163
第123図 上面：堅穴住居跡検出状況	164
第124図 下面：古墳時代水田と噴砂検出状況	164
第125図 中国陶磁器実測図(1)	169
第126図 中国陶磁器実測図(2)	170
第127図 中国陶磁器出土分布図	170
第128図 中国陶磁器組成図	171
第129図 田所の土地利用図	175
第130図 大溝推定ラインと平成5・6年度調査区位置図	176
第131図 大溝 S D 0 1 土層断面図	177
第132図 田所集落における本家・分家の関係図	180
第133図 田所周辺字境図	183
第134図 墨書陶器(須恵器・灰釉陶器)地区別出土分布図	184
第135図 墨書陶器(灰釉系陶器)地区別出土分布図	184
第136図 緑釉陶器地区別出土分布図	184
第137図 土鍾地区別出土分布図	185
第138図 加工円盤地区別出土分布図	185
第139図 S D 2 1 4 出土遺物組成図	186
第140図 S D 1 9 6・2 3 9・2 4 0 出土遺物組成図	186
第141図 大溝(S D 0 1)出土遺物組成図(1)	187
第142図 大溝(S D 0 2)出土遺物組成図(2)	187

第143図 墓道脇溝出土器種組成図	189
第144図 墳墓堂遺構周溝出土器種組成図	189
第145図 墳墓堂遺構周辺概念図	190

付 表 目 次

第1表 年表	4
第2表 調査進行表	9
第3表 竪穴住居一覧表(1)	24
第4表 竪穴住居一覧表(2)	25
第5表 土坑一覧表	38
第6表 溝一覧表	39
第7表 水田一覧表	40
第8表 大溝一覧表	46
第9表 墳墓堂遺構関係一覧	50
第10表 集石一覧表	57
第11表 井戸一覧表	58
第12表 その他の墨書陶器一覧表	109
第13表 その他の緑釉陶器一覧表	113
第14表 その他の土錘一覧表(1)	119
第15表 その他の土錘一覧表(2)	120
第16表 その他の加工円盤一覧表(1)	123
第17表 その他の加工円盤一覧表(2)	124
第18表 石製品一覧表	130
第19表 銭貨一覧表	132
第20表 陶丸一覧表	132
第21表 放射性炭素年代測定結果表	134
第22表 試料採取場所および分析対象	135
第23表 92Gb区 S D 2 7 珪藻分析結果表(1)	148
第24表 92Gb区 S D 2 7 珪藻分析結果表(2)	149
第25表 95Aa区珪藻分析結果表(1)	150
第26表 95Aa区珪藻分析結果表(2)	151
第27表 95Aa区珪藻分析結果表(3)	152
第28表 95Aa区花粉分析結果表	153
第29表 95Aa区植物珪酸体分析結果表	153

第30表	西上免遺跡91 A区採取試料	155
第31表	田所遺跡から産した昆虫化石	156
第32表	西上免遺跡から産した昆虫化石	157
第33表	鉄滓分析結果概要	160
第34表	鉄滓化学成分一覧表	161
第35表	分布図以外の検出 I 出土中国陶磁器一覧表	170
第36表	出土中国陶磁器器種別一覧表	171
第37表	出土中国陶磁器一覧表 (1)	172
第38表	出土中国陶磁器一覧表 (2)	173
第39表	出土中国陶磁器一覧表 (3)	174
第40表	S D 2 1 4 出土遺物集計表	186
第41表	S D 1 9 6 ・ 2 3 9 ・ 2 4 0 出土遺物集計表	186
第42表	大溝出土遺物集計表 (1) : S D 0 1	187
第43表	大溝出土遺物集計表 (2) : S D 0 2	187
第44表	墓道脇溝出土遺物器種別集計表 : S D 0 6 ・ 0 7 ・ 0 8 ・ 1 5	187
第45表	墓道脇溝出土遺物集計表 : S D 0 6 ・ 0 7 ・ 0 8 ・ 1 5	189
第46表	墳墓堂遺構周溝出土遺物器種別集計表	189
第47表	墳墓堂遺構周溝出土遺物集計表	189

第1章 立地と調査経過

第1節 遺跡の立地

1、立地と周辺の遺跡

田所遺跡は、一宮市大字田所と葉栗郡木曽川町黒田の二つの市町にまたがる遺跡で、北緯35度20分56秒、東経136度49分49秒にある。一宮市の北西部と木曽川町の北東部とが接したところに位置し、一宮市田所の集落の西側に近接してひろがった畑地・水田地帯のなかにあり、遺跡の西側には愛知県と岐阜県を結ぶ大動脈である国道22号線が走っている。

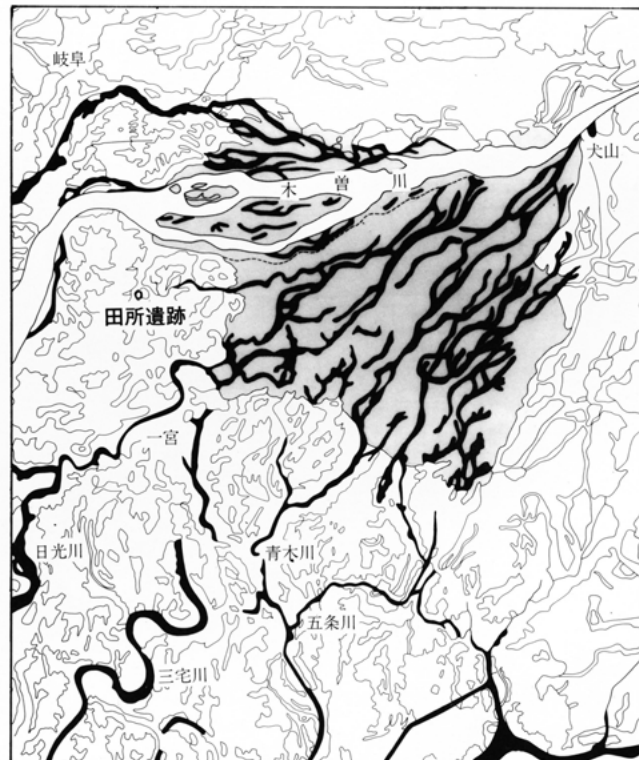
遺跡は木曽川水系の河川が作り上げた木曽川扇状地の西側端部にあり、扇状地形から沖積平野部に移行する地形のなかに位置し、木曽川によって形成された、自然堤防上および後背湿地上に立地し、現況は標高10m前後の水田や畑となっている。

田所遺跡の周辺には北側に北道手遺跡と下渡遺跡があり、南側に大毛池田遺跡、大毛沖遺跡、門間沼遺跡があり、下渡遺跡（古墳時代）以外の遺跡はいずれも東海北陸自動車道に関連する発掘調査によって明らかになった遺跡である。

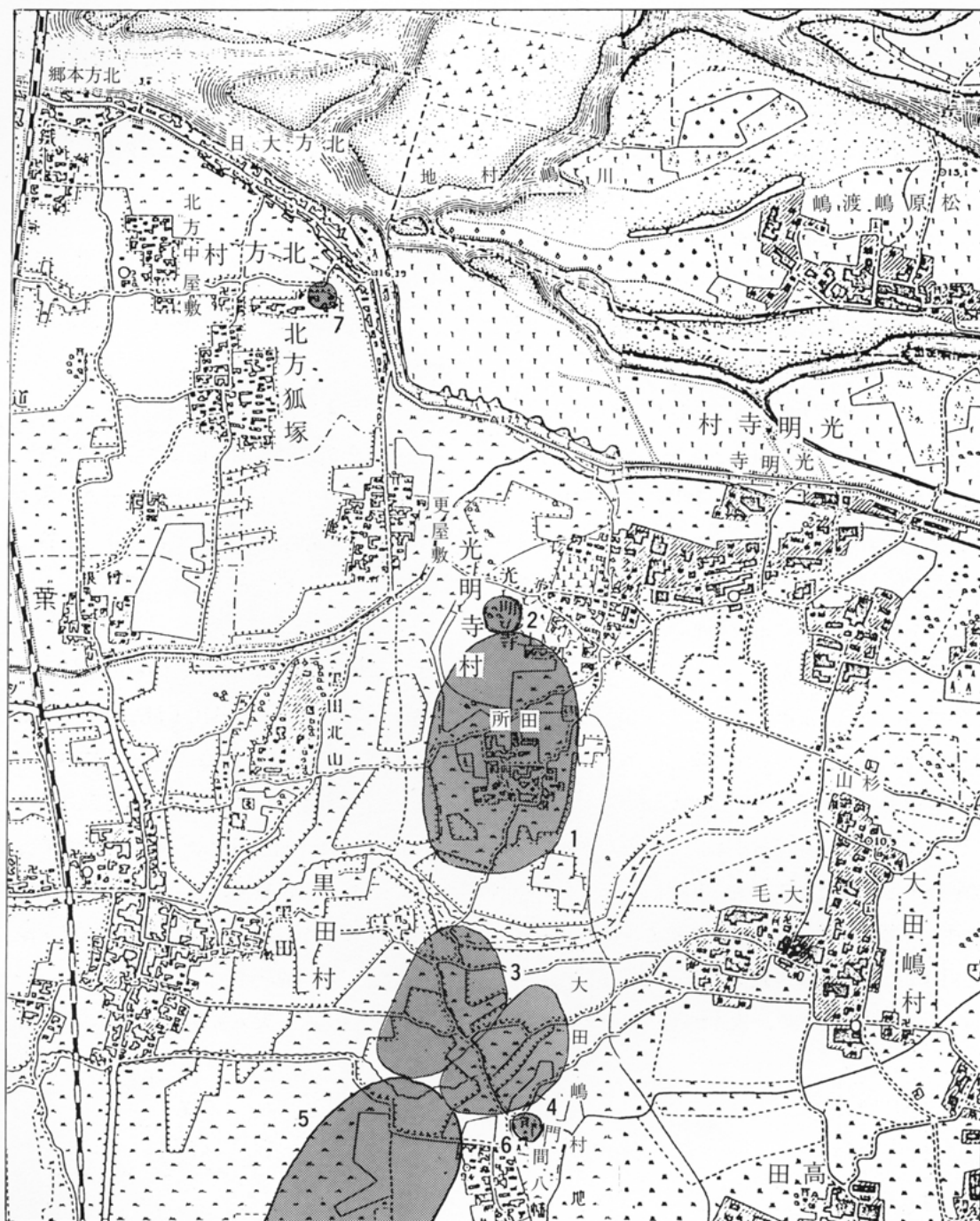
北道手遺跡は古墳時代の集落遺跡で掘立柱建物1棟、溝、土坑等が検出され、水辺の祭祀に関する遺跡でもある。



第1図 一宮市・木曽川町位置図



第2図 木曽川扇状地の微地形図
(URBAN KUBOTA NO11より)



- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| 1. 田所遺跡 | 4. 大毛沖遺跡 | 7. 下渡遺跡 |
| 2. 北道手遺跡 | 5. 門間沼遺跡 | |
| 3. 大毛池田遺跡 | 6. 伊富利部古墳 | |

第3図 田所遺跡周辺の遺跡

大毛池田遺跡は古墳時代前期から戦国時代にかけての複合遺跡で、古墳時代の水田、古代の竪穴住居跡、戦国期の方形居館の区画溝等が検出され、「美濃」の刻印須恵器2点や「天文八年（1539）」銘のある板塔婆等が出土している。

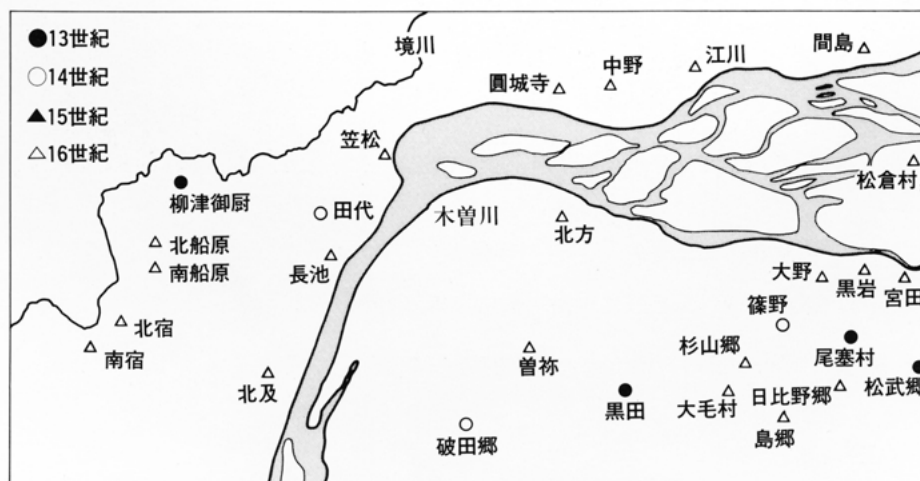
大毛沖遺跡は奈良・平安時代から戦国時代にかけての複合遺跡で、奈良・平安時代の集落跡と流路に関わる低水位護岸施設、河道左岸に結束する集石遺構等が検出され、集石遺構からは呪符木簡が出土し祭祀遺跡の可能性があり、旧河道からは木製鐙と鉄製の羽釜が出土している。

門間沼遺跡は弥生時代中期初頭から中世にかけての複合遺跡で、古墳時代を中心とし、竪穴建物、井戸、掘立柱建物、溝、円墳等が検出され、古墳時代後期の溝からは板作りの琴が出土している。

2. 歴史的環境

田所は一宮市に所属する以前は葉栗郡に属していた。その葉栗郡も1586年に木曽川の大洪水で流路が変わったことがきっかけとなり大きく郡域を変えている。1589年の美濃太閤検地によってであろうが、岐阜県の旧羽島郡域が美濃国になり、そのかわりに東西浅井や佐千原・高田などが葉栗郡に編入された。以下田所周辺の歴史的環境をみていく際に、葉栗郡はこの郡域変更以前の範囲を指す。特に古代においては資料も少ないことからこの葉栗郡の範囲内を概観し、中世においては太毛・黒田・門間付近を含めてその変遷を見ていくことにする。

葉栗郡内の古代氏族としてまず挙げられるのは郡名を冠する葉栗氏であり郷名を持つ村国氏である。その他には平城宮跡出土木簡や『延喜式』の神名帳などから、凡海部氏・敢石部氏・伊富利部（＝伊福部）氏・穴太部氏などが推定される。葉栗氏は大和の和迺部氏から分かれたという系譜を持つが、地方の和迺部を統括する部族が擬制的同族系譜に組み込まれたものと考えられている。村国氏は美濃の各務郡にも村国郷があり木曽川を挟んだこの両地を本貫としていた。凡海部氏は尾張氏と同祖で海部を統べる氏族である。敢石部氏は敢氏の海産物貢納の職業部である。伊福部氏も尾張氏の同族で美濃国池田郡に同名の郷があり美濃国戸籍にも多く見いだすことができることから木曽川を挟んで美濃・尾張に広がっていた氏族であろう。また、穴太部氏は安康天皇の名代の後裔といわれている。672年の壬申の乱で尾張の氏族達は大海人方として戦いその勝利に貢献した。葉栗郡でも村国氏は美濃の



第4図 文献にみられる中世葉栗郡の地名図

田 所 遺 跡 関 係 年 表

西暦（年号）	事 項
672（天武1）	壬申の乱。尾張の兵、大海人皇子方で活躍する。
678（天武7）	葉栗臣人麿、光明寺を建立する。
7世紀後半	黒岩廃寺・東流廃寺建立される。
720（養老4）	平城宮跡出土紀年銘木簡に「尾張国葉栗郡若栗郷□□里敢石部赤猪」と記される。 葉栗郡の初見。
730頃（聖武治世）	凡海部忍人、川島社の縁起を奏上する。
734（天平6）	この年の葉栗郡の穀は18,567石余、穎は8,297束余であった。
8世紀中頃	「貢進士丁歴名帳」に「尾張国葉栗郡大沼郷戸主生島勝人足」と記述される。
752（天平勝宝4）	尾張国内7郡の田地、東大寺に勅施入される。東大寺領葉栗庄成立する。
769（神護景雲3）	鵜沼川大洪水。葉栗・中島・海部に甚大な被害を及ぼす。
775（宝亀6）	伊勢・尾張・美濃の河川、台風により氾濫する。
866（貞観8）	広野河事件起こる。
927（延喜5）	『延喜式』奏上される。「神名帳」に葉栗郡内の神社として穴太以下10座が挙げられる。
930頃（承平年間）	『倭名抄』成る。このころ葉栗郡には葉栗・河沼・大毛・村国・若栗の5郷があった。
950（天曆4）	この年の東大寺の莊園等の目録によれば葉栗庄は4町であった。
970（天禄1）	このころ黒田市はじまる。
998（長徳4）	この年の東大寺の書上によれば葉栗庄は36町7段であった。 このころ平致頼、平維盛と闘乱する。
11世紀前半	光明寺本尊の薬師如来造像される。
1021（治安1）	このころまでに平致経、尾張国某郡の郡庁を壊しその跡に私宅を構える。
1031（長元4）	この年以前平致経、平正輔と闘乱する。
1140（保延5）	安楽寿院領野間内海庄立券される。寄進者は門真致像かその子長田忠致と推定される。
12世紀後半	笹野妙光寺の聖観音立像造像される。
1191（建久2）	『長講堂領課役注進状案』に上門真庄の名が現れる。このころまでに長講堂領上門真庄成立する。
1220（承久2）	西園寺公経、松枝庄を白川家の京都北山の地と交換する。
1221（承久3）	承久の変。尾張の武士、多く後鳥羽上皇方で戦う。
1238（嘉禎4）	尾塞某、尾塞・大毛等五代相伝の本領を衛門尉・兵衛尉で折半するように指示する。
1283（弘安6）	安嘉門院五七日修法用途賦課所の一所として黒田庄の名が現れる。黒田庄の初見。

西暦（年号）	事 項
1322（元亨2）	西園寺実兼、孫の大宮季衛に黒田庄を処分する。
1333（元弘3）	後醍醐天皇、黒田庄以下を後伏見院の管領下に置く旨の綸旨を出す。
1335（建武2）	足利尊氏討伐軍、黒田宿から東山道を経て信濃に進む。
1338（暦応1）	北畠顕家、下津・黒田で足利軍を破る。
1350（観応1）	水野致秋、直義派として高師直・師泰と黒田宿で戦う。
1388（嘉慶2）	土岐康行、家督をめぐり土岐満貞と黒田宿で戦う。
1395（応永2）	足利義満、大宮実尚が相国寺に寄進した黒田庄南方を安堵する。
1417（応永24）	貞威、伏見宮家を継ぐ。
1418（応永25）	このころ後伏見院聖忌法事、黒田庄役の減少により寺で行われる。『看聞日記』における黒田庄の初出。
1441（嘉吉1）	後伏見院聖忌法事で黒田庄役、いつものように沙汰される。『看聞日記』の黒田庄に関する最後の記事。
1467（応仁1）	応仁の乱。
1479（文明11）	織田敏広・敏定和睦する。敏広は岩倉に入り葉栗・丹羽・中島・春日井を敏定は清須に入り郡を支配する。
1490頃（明応年間）	五藤氏、黒田城にはいる。
1533（天文2）	この年に写された「法金剛院所領並びに末寺目録」に黒田庄の名が見える。
1540頃（天文年間）	山内氏黒田城主となる。
1559（永禄2）	岩倉織田、信長に攻め滅ぼされる。黒田城主、織田勘解由となる。
1562（永禄5）	織田勘解由、美濃輕海で討ち死にする。黒田城主、和田定利となる。
1564（永禄7）	犬山織田、信長に追われる。
1582（天正10）	本能寺の変。
1583（天正11）	黒田城主、沢井雄重となる。
1584（天正12）	小牧・長久手の戦い。
1585（天正13）	「織田信雄分限帳」成る。田所の初見。この時田所の知行主は本能寺の変で織田信忠とともに討ち死にしたもの達の子供であった。
1586（天正14）	木曾川、大洪水によりその主流路を変える。
1589（天正17）	美濃太閤検地。木曾川右岸の葉栗郡・中島郡美濃の属す。
1590（天正18）	秀吉、信雄を追放する。黒田城主沢井氏これに従う。秀吉、一柳直盛を黒田城主とする。
1600（慶長5）	関ヶ原の戦い。
1601（慶長6）	一柳氏伊勢神戸に移封され、黒田城廃城となる。

村国男依が大海人の舍人として活躍し、葉栗氏も同族の和珥部君手が舍人となっていることからその一族も大海人側で戦ったことであろう。凡海部（＝大海部）は大海人皇子の乳母の一族と推定され、伊福部氏も尾張氏の同族であることや美濃国の伊福部氏が戸籍からその軍功を読み取れることからいずれも大海人とともに戦ったと思われる。

この壬申の乱前後から次第に律令制も整い、地方の支配も8世紀半ばごろには国・郡・郷という体制をとるようになった。葉栗郡は『倭名抄』には葉栗・河沼・大毛・村国・若栗の5郷が挙げられ、それ以外に大沼郷もあったようである。大毛は一宮市大毛、村国は江南市村久野、大沼は一宮市大野を遺称地としている。島村には若栗神社があり、島村東隣の大日比野に若栗を含む小字があるので若栗郷はこの辺りと考えられている。河沼郷は郷内に川島神社があることから岐阜県羽島郡川島町付近であろう。葉栗郷は一般に岐阜県羽島郡北部域と考えられているが、『新編一宮市史』では郡名と同じ郷で郡家がおかれるようなところだからということで浅井古墳群・黒岩廃寺のある一宮市尾関付近に比定している。

尾張・美濃の境を流れる木曽川は8世紀半ば以降頻繁に洪水を起こし、やがて美濃側に中州を作り尾張の方に氾濫が続くようになった。866年太政官の承認をえて尾張の中島郡、そしておそらく葉栗郡の人々が河道掘削を行ったが、美濃各務・厚見の郡大領各務氏により妨害された。木曽川の洪水の激しさとともに律令政府の決定をも力で覆そうとする地方豪族の成長がみられる。

葉栗氏の一族人麿は678年に光明寺を建立したが、現在の光明寺との関係は明らかではない。付近の黒岩廃寺を人麿の建立した光明寺に比定する考えもある。この他に葉栗郡内の白鳳期寺院には東流廃寺があり、初期仏教の葉栗郡への浸透を見て取ることができる。現在の光明寺には11世紀前半に造られた薬師如来があるが、これ以外にも笹野の妙光寺聖観音立像をはじめ葉栗郡内にはいくつかの平安後期の仏像がある。これらの仏像は天台系のものであり、庶民信仰を背景としてこの時期に天台系の仏教が葉栗郡に広まっていったようである。現在では尾張扇状地には禅宗系、平野部には浄土真宗の寺院が多いが、これは中世以降の新仏教の興隆によるものである。浄土真宗とこの地の関係は親鸞・覚如・緯如それぞれに結び付ける伝承があるが、大きく教線が拡張されたのは15世紀後半の蓮如の布教以後であろう。禅宗は14世紀頃美濃守護土岐氏が北条得宗家と結びつきとくに臨済宗を保護することで美濃国に広がっていった。土岐氏は一時尾張の守護でもあり、尾張北部で禅宗が盛んなのは美濃からの影響と考えられる。

葉栗郡に設置された最初の荘園は752年大仏建立によって東大寺に勅施入された尾張国内の7つの郡に置かれた荘園の内の一つ、葉栗庄である。この葉栗庄は10世紀末まで存在したことが確かめられるが、それ以降消滅し鎌倉後期にはどこにあったかもわからなくなっていた。11世紀以降には在地領主による大規模な開発が行われ、その土地が権門寺社へ寄進されることによって各地で多くの荘園が作られていった。田所の南にある門間は長田流平氏に門真を名字とするものがあることから彼らが開発領主と思われる。彼らは11世紀前半に伊勢国で平清盛の先祖との闘乱に破れ尾張に本拠を移したようである。安楽寿院領野間内海庄はその子孫門真致俊かその子長田忠致が1140年に寄進してできたと推定され、このころには門間も開発されたと思われる。割田は美濃源氏の改田氏が開発したとの伝承があるが、美濃源氏の一流は12世紀頃に尾張に進出しているのでこれとつながる動きではなかろうか。

また、鎌倉期の1238年深栖源氏の尾塞氏が息子と思われる二人に折半するように命じた五代相伝の地は田所周辺の尾塞・大毛などであった。「五代」を逆算すれば、尾塞氏がこの地を開発したのは12世紀前半頃と考えられる。以上から遅くとも12世紀半ばには田所周辺はこれらの在地領主によって開発が進められたことであろう。そして、それを背景にして12世紀末から13世紀には松枝・上門真・黒田等の荘園が成立していった。松枝は木曽川町黒田の白山神社西付近の小字としてその名を残しており、その範囲は字黒田の内野府川以南・字外割田・内割田辺りと思われる。上門真は木曽川町門間を遺称地とし葉栗郡の東部域のかなりの部分がその範囲と思われる。黒田は木曽川町黒田として地名が残っているが、その範囲は現在の字黒田とややことなりその野府川以北で北方町までも含まれたと思われる。田所には野府川の北で字光明寺ととなり合わせた南方という小字があり、後述のように黒田に「南方」という地のあることからこの黒田庄に属していたと考えられる。黒田庄の文献上の初見は1283年、安嘉門院五七修法用途賦課所の一所で室町院領であった。16世紀半ばに写された目録によると黒田庄が法金剛院領であったこともあるようでその規模から考えて成立当初のものかとも考えられる。以後本家職は1333年の後醍醐天皇の令旨により持明院統の後伏見院の管領下にはいった。その後北朝の皇室領荘園であったと思われるが、15世紀初め頃には伏見宮家の所有となっており後伏見院聖忌法事の役を課せられていた。領家職は西園寺家のものであったが、1322年西園寺家の一流大宮家に分け与えられた。1395年大宮実尚はその南方を相国寺に寄進している。なお、後伏見院聖忌法事の役にはこの相国寺塔頭常德院が関わっていた。黒田庄の名を文献で追える最後は伏見宮貞成の『看聞日記』1441年の記事であるが、おそらく2、30年後に起きた応仁の乱を通じて多くの荘園と同様その実態を失っていったものと思われる。

黒田はまた京都と関東を結ぶ鎌倉街道と木曽川左岸を通して美濃で東山道とつながる善光寺街道の分岐点であり黒田川の水運もあり交通の要衝であった。970年には市が開かれたという伝承があるが、おそらくこの市がもとになって鎌倉初期には宿がおかれるようになったのであろう。南北朝期にはこの交通の要衝であることが災いして少なくとも3度付近で合戦が行われた。戦国期には城も築かれ、1490年頃には岩倉織田氏の家臣五藤氏が入城し、1540年頃にはそれにかわって同じく岩倉織田氏の家臣の山内氏がいっている。1559年に岩倉織田氏が滅びると周辺は犬山織田氏の支配下に入り、その家臣織田勘解由が城主となった。織田勘解由が1562年美濃攻略の際に戦死すると同じく犬山織田氏の家臣和田氏が入城している。1564年犬山織田氏は信長に犬山城を追われるが、そのきっかけとなったのが和田氏の裏切りであったためこの時に城主の交替はなかった。1582年本能寺の変で信長とともにその息子で尾張国主であった信忠が殺されると信忠の弟信雄が尾張国主となった。この時黒田城主は沢井氏にかえられる。1564年の小牧・長久手の戦いでは葉栗郡も戦場となり沢井氏は秀吉軍と戦闘を行っている。1590年後北条氏が滅びると秀吉は家康を関東に移封し家康の旧領に信雄をいれようとするが、信雄が拒否したため彼を追放した。沢井氏は信雄に従って黒田城を出たため秀吉は家臣一柳氏に葉栗郡西部を与え黒田城主とした。1601年一柳氏が関ヶ原の功で伊勢神戸に移封されると黒田城は廃城となり葉栗郡西部城も家康の息子で尾張藩主松平忠吉のものとなった。

田所の名の初見は1585年に成立した「織田信雄分限帳」においてであるが、この分限帳では「光明寺の内田所」と記述されており、まだ独立した村落とは認められていなかったようである。

第2節 調査の経緯と経過

1、調査経緯

東海北陸自動車道の建設にあたり建設予定地の試掘調査が平成4年（1992）に行われ、田所遺跡においては10地点で実施され、県道木曽川停車場線以南、国道22号線にかけて古代・中世の包含層が確認された。この結果、建設予定地内の本格的な発掘調査が必要となり、日本道路公団から愛知県教育委員会を通した委託事業として、平成4年（1992）7月から開始され、平成8年（1996）3月まで継続し発掘調査を実施した。平成4年度から平成7年度の4年に渡る発掘調査となった。

2、調査経過

調査は、各年度ごとに工事の先行する部分を優先的に実施したことと、建設予定地内に既設の農道が存在するため結果として多くの調査区24を設定することにもなった。

平成4年度はA～H区の8調査区、平成5年度はA～K区の11調査区、平成6年度はA～C区の3調査区、平成7年度はA・Bの2調査区となった。平成5年度の11調査区のうち、県道光明寺木曽川停車場線以北のA～D区(5,387㎡)については、検出遺構・遺物から田所遺跡とは別な遺跡であることが明かになり北道手遺跡となり、報告書も平成8年に刊行された。

調査方法は、現地表面から表土のみをバックホウで掘削した後、平面直角座標Ⅶ系に準拠したグリッドを設定し、手堀で包含層を掘削し遺構を検出する方法をとった。

平成4年度は地下水を強制的に汲み上げるウエルポイントを使用しなかったため一部の調査区において、湧水のため作業が困難を極めた。このため平成5年度より各調査区でウエルポイントを使用して調査を実施することとなった。

遺構の測量にあたっては、各調査区ごとにヘリコプターによる航空写真測量を実施したが、一部調査区および重要な部分については手測りによる測量をおこなった。

また、平成5年2月27日には現地説明会を開催し、中世の墳墓堂等の遺構の説明とともに出土遺物の展示を行い、地元の人々約500名の参加を得ることができた。

なお、それぞれの年度別調査区、担当者、調査期間、面積は第2表に示すとおりである。

年度別調査担当者（現職名）

平成4年度

太田芳巳（愛知県一宮市立千秋小学校教諭）
赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター主査）
服部信博（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員）
鬼頭 剛（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員）

平成5年度

太田芳巳
高橋信明（愛知県教育委員会文化財課教育主事）
黒田哲生（愛知県埋蔵文化財センター主査）

服部信博

酒井俊彦（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員）

西原 正（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員）

今西康二（愛知県立丹羽高等学校教諭）

牧 謙治（愛知県立木曾川高等学校教諭）

鬼頭 剛

平成6年度

高橋信明

小澤一弘（愛知県埋蔵文化財センター主任）

増澤 徹（愛知県岡崎市立本宿小学校教諭）

平成7年度

前田雅彦（愛知県小牧市立北里小学校教頭）

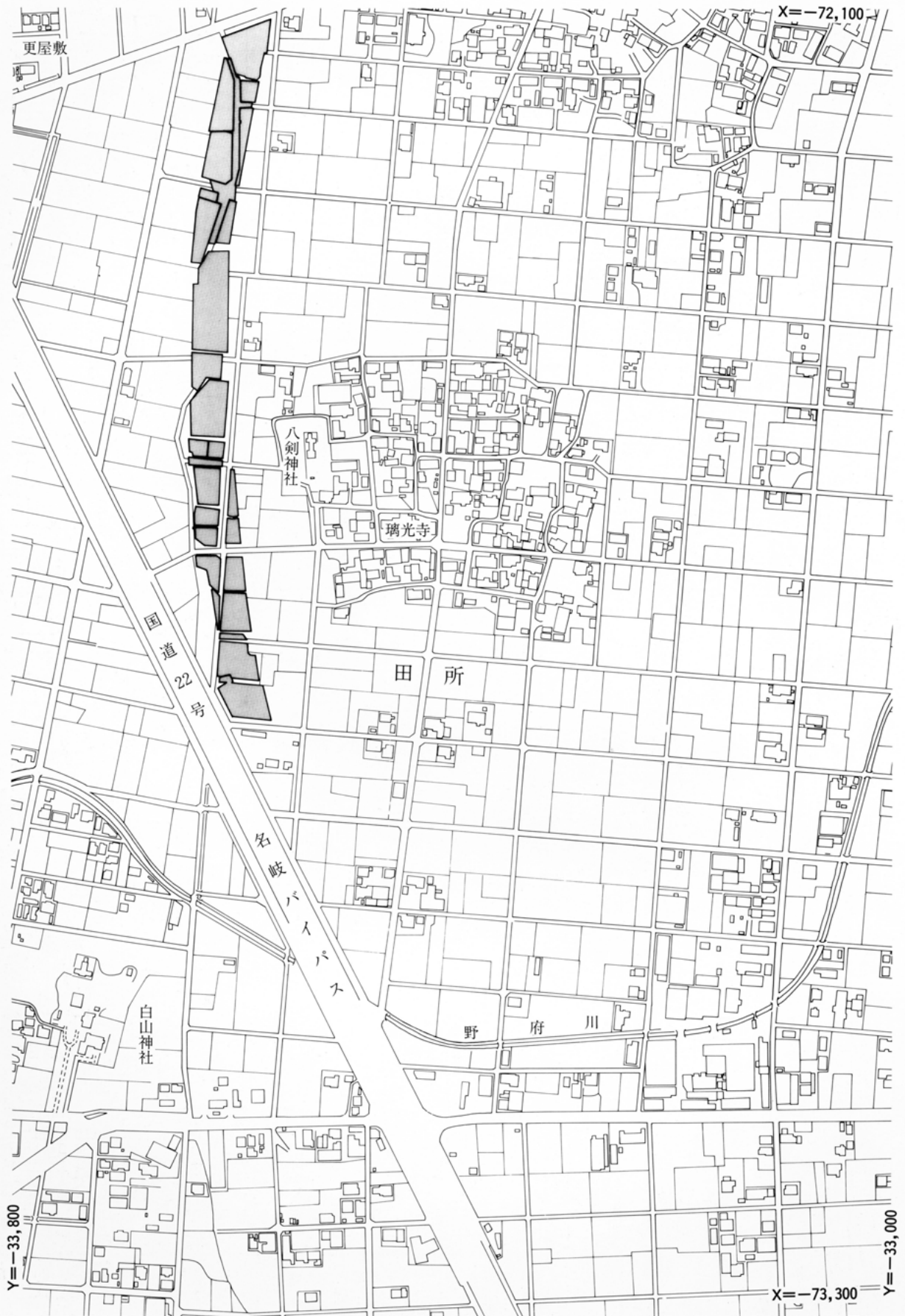
小澤一弘

小池一徳（愛知県立東郷高等学校教諭）

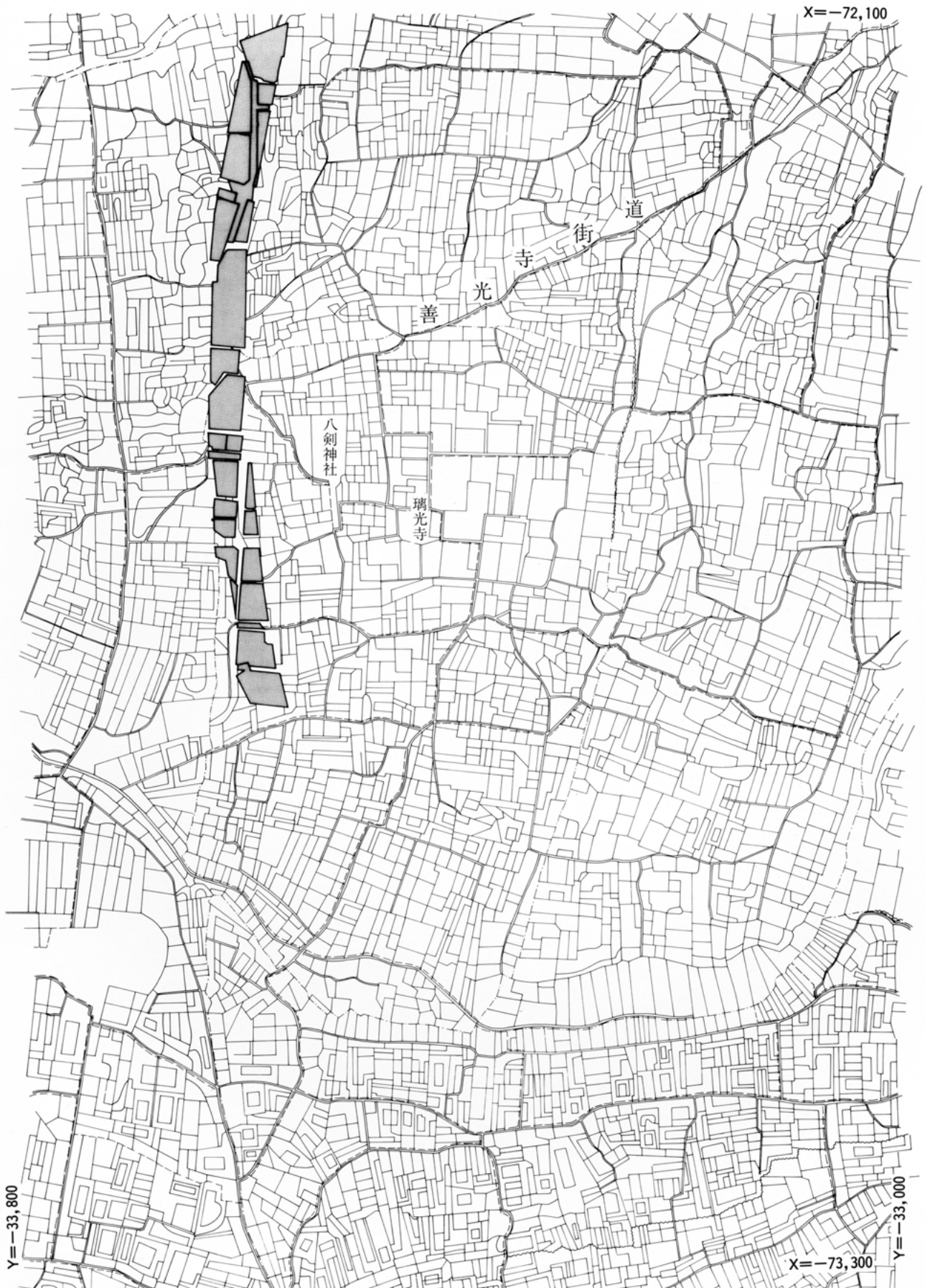
早野浩二（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員）

年 度	調査区	調査担当者	調 査 期 間（月）			面 積（㎡）	年度別面積（㎡）
			4	8	12		
平成四年度 92	試掘	太田・赤塚・服部・鬼頭				950	
	A・B	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,000	
	C	太田・赤塚・服部・鬼頭				580	
	D	太田・赤塚・服部・鬼頭				770	
	E	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,050	
	F	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,250	
	G	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,020	
	H	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,480	8,100
平成五年度 93	A	太田・高橋・西原・鬼頭				1,970	
	B	太田・高橋・西原・鬼頭				1,125	
	C	太田・高橋・西原・鬼頭				586	
	D	太田・高橋・西原・鬼頭				1,706	
	E	太田・酒井・黒田・牧				1,500	
	F	太田・酒井・黒田・牧				742	
	G	太田・酒井・黒田・牧				1,391	
	H	太田・酒井・黒田・牧				1,986	
	I	太田・酒井・黒田・牧				962	
	J	太田・酒井・今西・鬼頭				2,193	
	K	太田・服部				598	14,759
平成六年度 94	A	高橋・小澤・増澤				800	
	B	高橋・小澤・増澤				3,200	
	C	高橋・小澤・増澤				500	4,500
平成七年度 95	A	前田・小澤・小池・早野				600	
	B	前田・小澤・小池・早野				1,700	2,300
調査面積計							29,659

第2表 調査進行表



第5図 遺跡位置図 1:2500



第6図 明治17年の地籍図から見た遺跡位置図 1:2500

第2章 遺 構

第1節 遺跡の概要

田所遺跡は一宮市大字田所と隣接する葉栗郡木曽川町黒田にまたがる縄文時代晩期から近世にかけての複合遺跡である。調査区全体が東海北陸自動車道建設予定地のため南北に細長く東西が狭い調査範囲となり、遺跡の南北のひろがりも想定できたが東西の広がりは不明確である。

田所遺跡は古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、と大きく4期に区分して考えることができ、なかでも幅6mを測る大溝と鎌倉時代の「墳墓堂」と推定した遺構とその周辺に展開する方形区画をもった墓域を検出することができたことが特筆される。

古墳時代の遺構では水田跡と土坑等が検出された。水田跡からは東山11号窯式の杯蓋や土師器の甕が、土坑では畦畔上に掘削された土坑SK114より石製有孔円板等が出土した。

奈良時代の遺構は奈良時代末期に属すると考えられる一辺5m前後の方形プランを呈する竪穴住居が15棟検出された。

平安時代の遺構では竪穴住居、土坑、溝等が検出された。

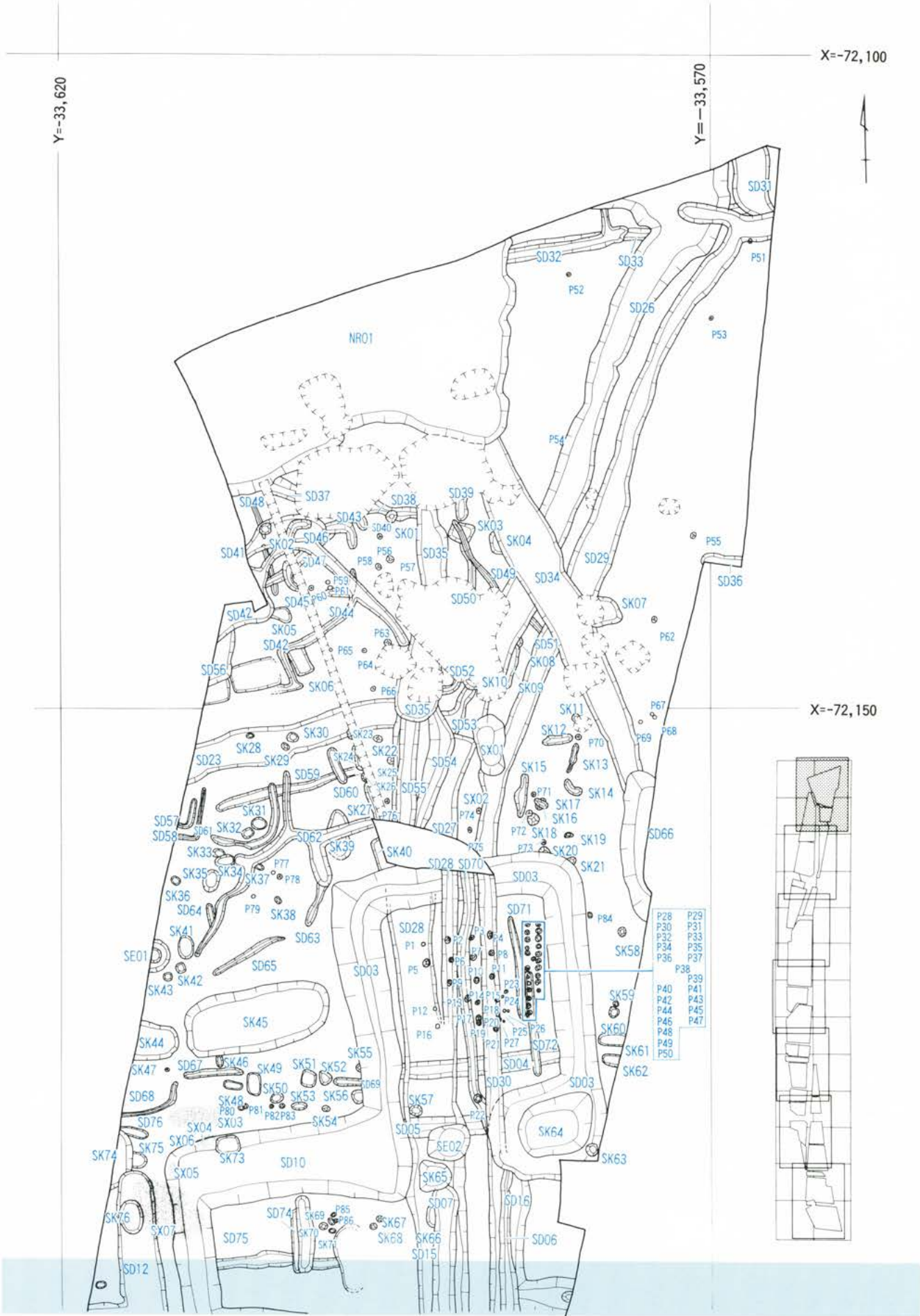
竪穴住居は一辺5～6m前後の方形プランを呈し14棟検出されている。竪穴住居SB16からは篠岡窯の製品がまとまってみられ、また土坑SK251からは「富壽神寶」が出土した。

鎌倉時代の遺構では溝と土坑群と井戸等が検出された。

溝のなかで幅8mから10mを測る大溝SD01は調査区の南半部分においてほぼ南北に直線的に掘削され、南端では東西に走る大溝の一部が検出されている。当初は現在の田所集落を囲むように位置すると推定したが平成5年度の調査によって大溝が途切れることが確認された。

また溝(最大幅約6m、深さ80cm)によって区画された「墳墓堂」が検出され、平坦部の幅が東西約13m、南北15mを測り、溝で囲まれた内部には総柱の掘立柱建物(東西3間・南北4間)が1棟、南側には入口部と考えられる開口部が、その西側には井戸が築かれており、溝からは灰釉系陶器の碗、伊勢型鍋、土師質皿、四耳壺、水注等が出土した。

こうした4時期以外には、縄文時代晩期の擦痕土器、弥生時代の土器・石器、弥生時代後期から古墳時代にかけての多孔銅鏃、室町時代から近世にいたるまでの土器、陶器、磁器片等が出土した。



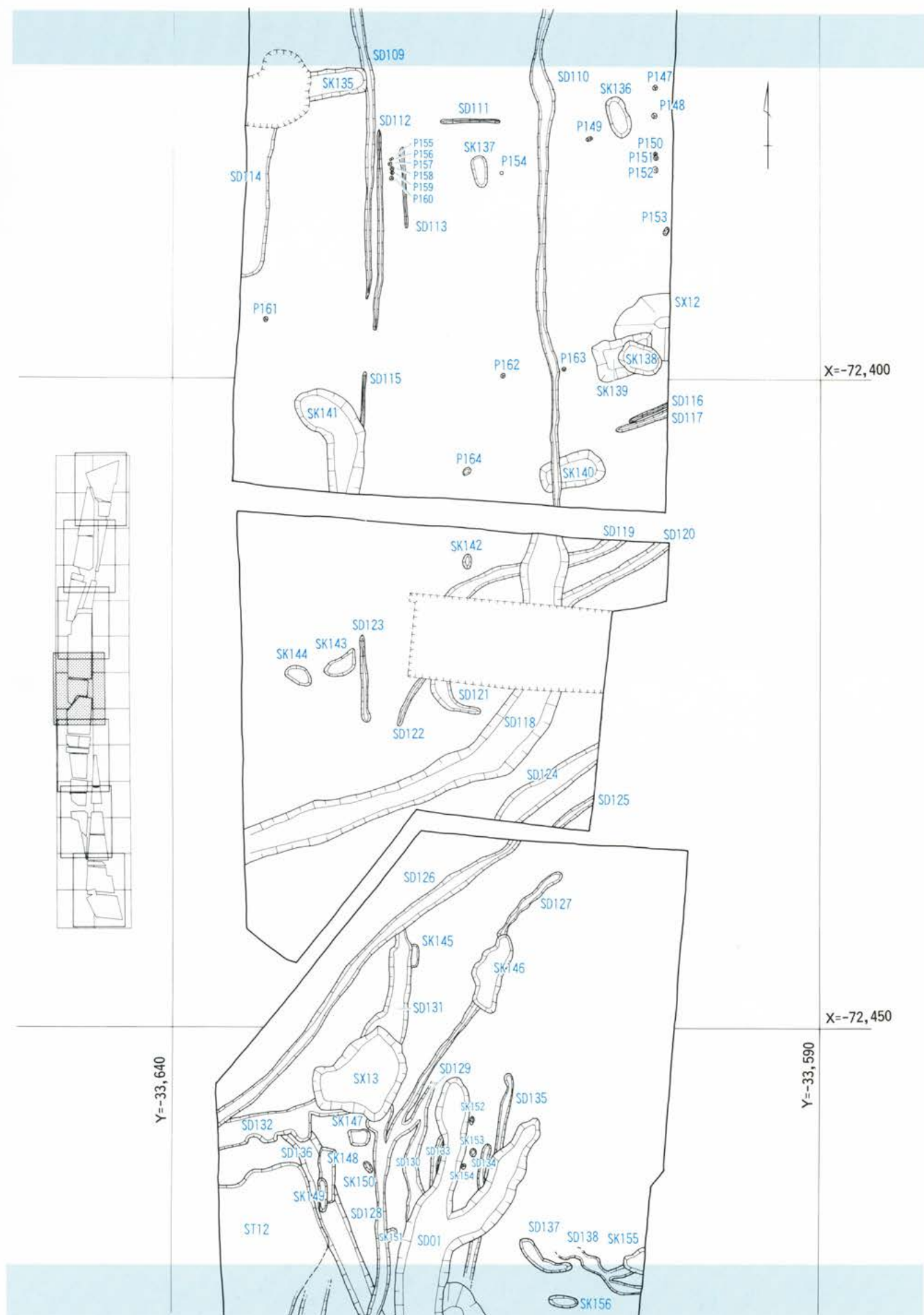
第7図 遺構全体図(1) 1:400



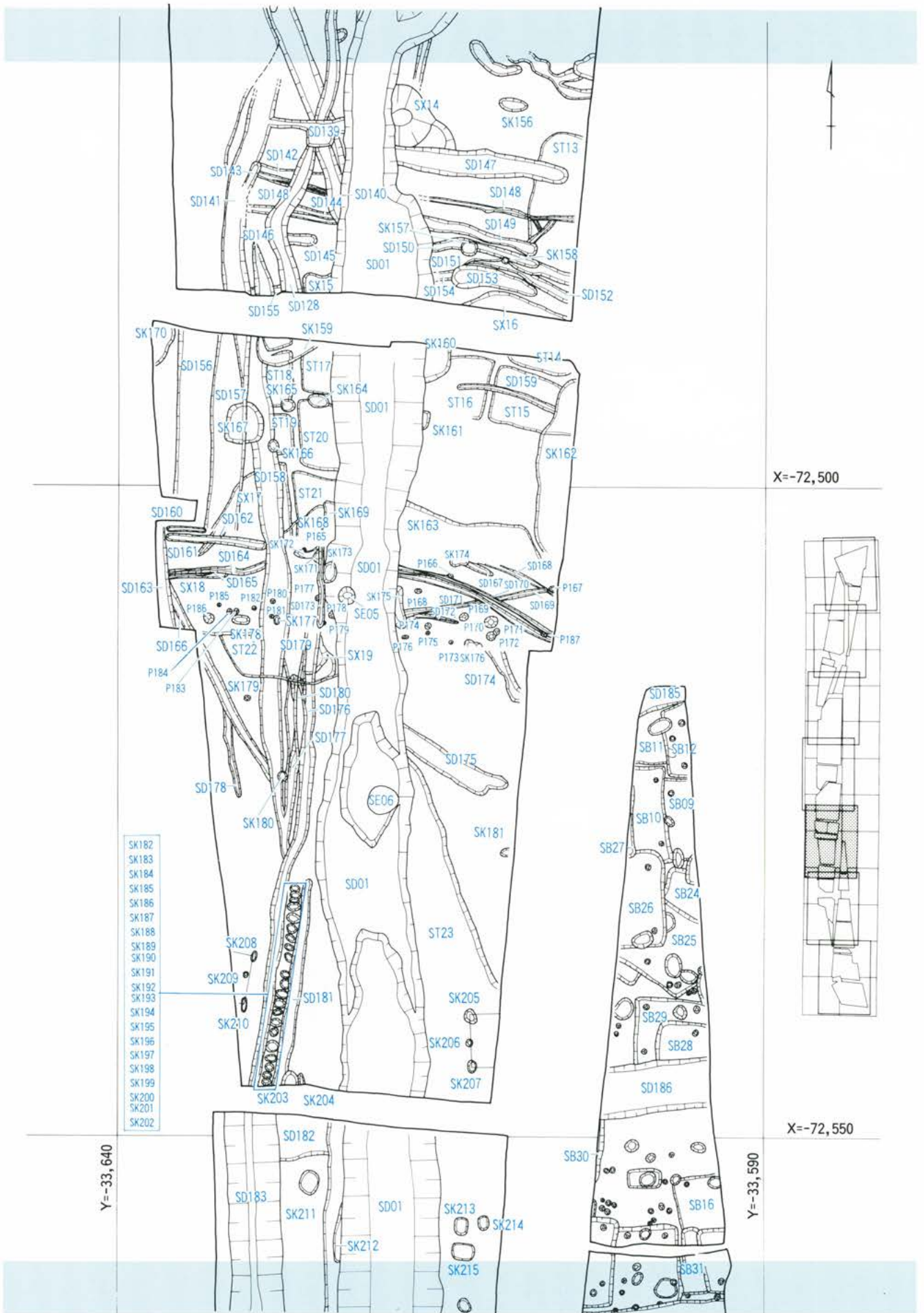
第8図 遺構全体図(2) 1:400



第9図 遺構全体図(3) 1:400



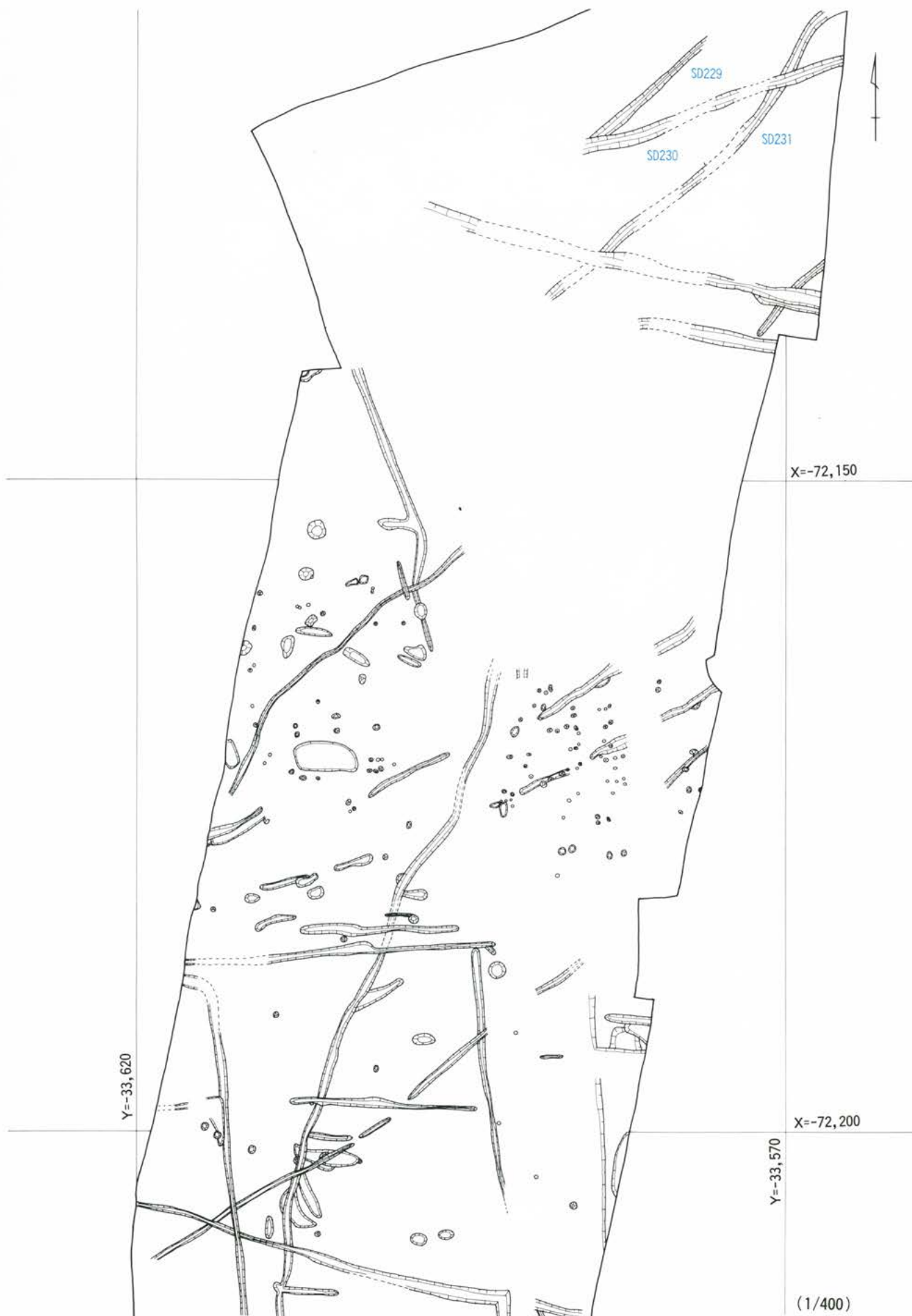
第10図 遺構全体図(4) 1:400



第11図 遺構全体図(5) 1:400



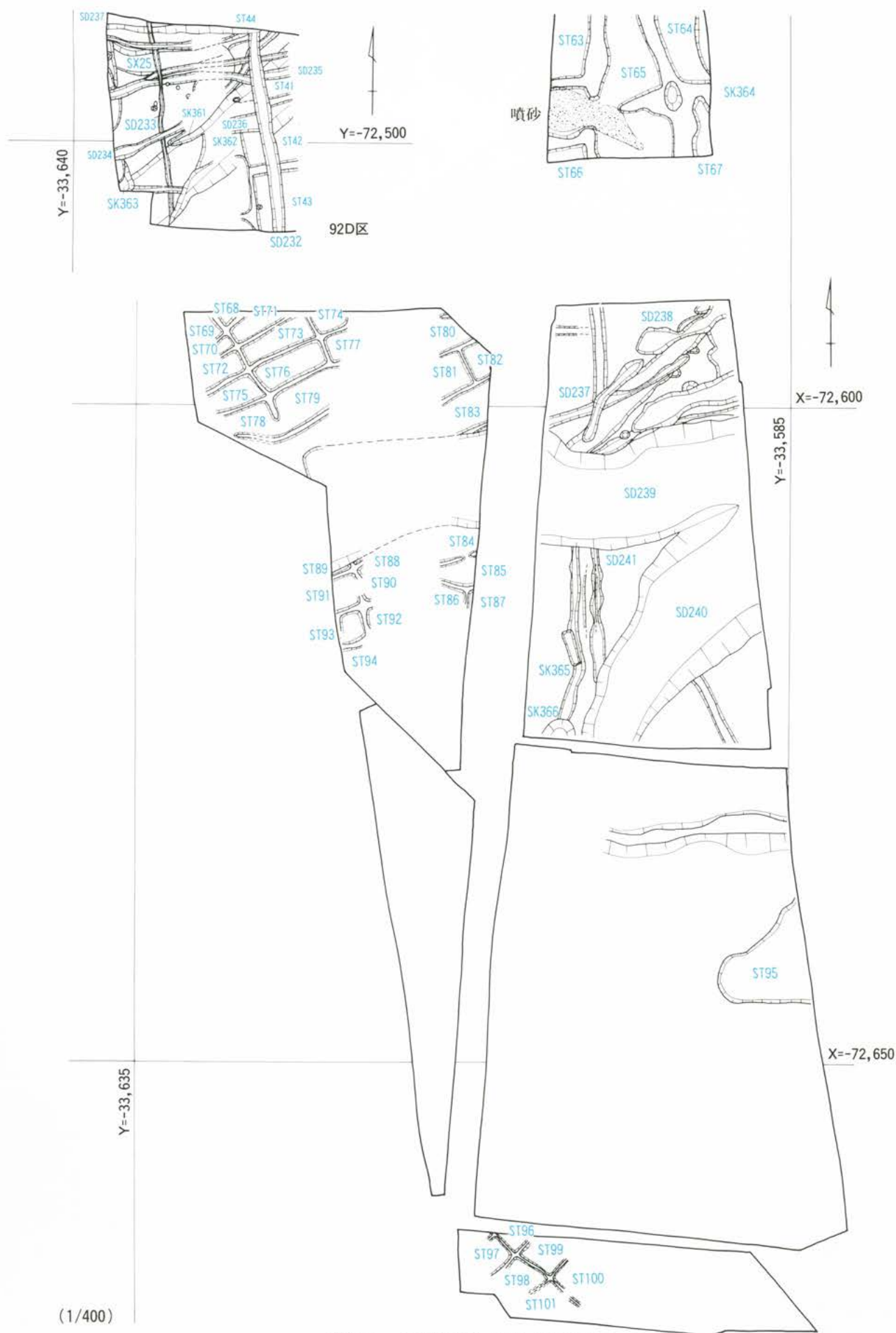
第13図 遺構全体図(7) 1:400



第14図 遺構全体図(8):下面1



第15図 遺構全体図(9): 下面2



第16図 遺構全体図(10)：下面3

第2節 遺跡の層位

田所遺跡の基盤層は木曾川がもたらした洪水性の堆積層である。基本層序は、耕作土の下に黄褐色シルト（近世）、その下に天正地震の噴砂に起因する砂層を噛み、さらに暗褐色シルト層（中世包含層）が存在する。この暗褐色シルト層（奈良時代包含層・無遺物層）を経て古墳時代の水田土壌（灰褐色シルト）となる。

遺跡北部92E区以北は序々に微高地状の高まりが展開しており、墳墓堂遺構周辺は基本的には表土を掘削するとすぐに黒褐色土となりその下部には砂層が堆積している。

遺跡中央部93I・J区では表土を掘削すると明黄白色粗砂と灰色シルトからなる不安定な層があり、黒褐色土層、砂層となる。

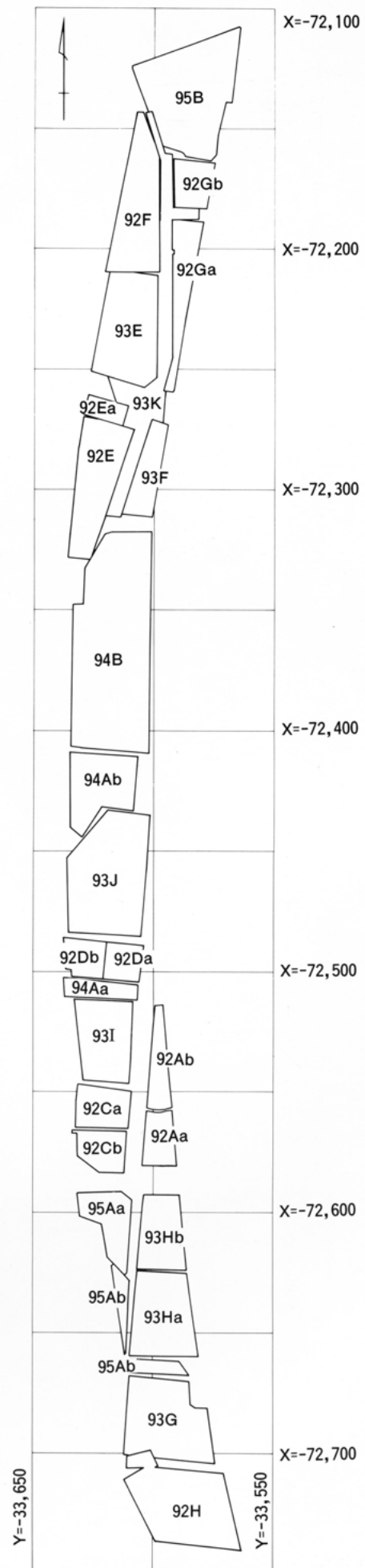
遺跡南部93H・G区では表土を掘削すると明褐色粗細砂層、黒褐色土層、砂層となる。



墳墓堂遺構検出作業風景 92Gb区



墳墓堂遺構周辺完掘状況 92F区



第17図 調査区配置図

第3節 古代の遺構

1、住居跡

調査によって奈良時代から平安時代の竪穴住居跡が29棟検出された。住居跡は遺跡の南に偏っており、92A区においては重複が激しく狭い地域に何度も建て替えられたことが窺える。ただし南下するにしたがい住居跡も重複も少なく、1棟単独のみの調査区もある。集落の中心は現在の田所集落にあると考えられる。住居内部の構造について、4棟の住居から、壁面の近くで石、焼土、土師器甕がセットとなる「竈」状の遺構が認められた。住居内からは須恵器、灰釉陶器、土師器甕等が出土した。住居跡の大部分が中世の遺構等によって削平を受け住居跡の床面の埋土が10cmから15cm程で遺存状況が悪く、遺物のまったく出土しない住居跡やかろうじて床面に近い部分で検出した住居跡もある。

92A区の北半部で折戸10号窯式に属すると考えられる奈良時代の竪穴住居を重複した形で15棟検出したが、出土遺物も少なく不明な部分も多いがいずれも一辺5m前後の方形プランを呈している。

92A区の南半部で尾北窯の篠岡4号窯式に属する竪穴住居1棟をふくむ平安時代の竪穴住居14棟が重複し検出され、いずれも一辺が5～6mの方形状のプランを呈している。

93H区の北端で5棟、南東部分で1棟、93G区の北端で3棟、93H区南部で1棟、92H区で1棟の住居跡が検出された。

挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期	備考
23	SB01	93Hb	SB01	VE19a20b	4.5	3.8	0.04	○		
23	SB02	93Hb	SB04	VE19bc	(2.2)	(0.8)	0.02	○		
23	SB03	93Hb	SB03	VE19a20b	(3.1)	(1.1)	0.03	○		
23	SB04	93Ha	SB01	VE10d11d	(5.3)	(1.6)	0.17	○	9C前	
24	SB05	92H	SB118	VE3c4d	5.8	5.2	0.24			
24	SB05-P1	92H		VE3c	0.4	0.3	0.11			
24	SB05-P2	92H		VE3d	0.3	0.3	0.07			
24	SB05-P3	92H		VE4c	0.3	0.3	0.11			
24	SB05-P4	92H		VE4d	0.3	0.3	0.10			
24	SB05-SK	92H		VE3c	1.3	0.9	0.10			
23	SB06	93Hb	SB05	VE19a	(1.6)	(1.2)	0.05	○		
24	SB07	93G	SB02	VE15bc	(4.0)	(1.3)	0.22	○	9C前	
24	SB07-P1	93G	SK79	VE15b	0.3	0.3	0.23	○		
24	SB08	93G	SB03	VE15cd	(4.2)	(0.8)	0.22	○	9C前	
18	SB09	92Ab	SB108	VE5a6b	(6.2)	(2.0)	0.10	○		
18	SB09-P1	92Ab		VE5a	0.5	0.4	0.17			
18	SB10	92Ab	SB107	VE5a6a	(7.5)	(2.3)	0.12	○		
18	SB10-P1	92Ab		VE5a	0.4	0.4	0.11			
18	SB10-P2	92Ab		VE6a	0.4	0.4	0.12			
18	SB11	92Ab	SB105	VE4a5a	(3.8)	(2.1)	0.14	○		
18	SB12	92Ab	SB104	VE4a5a	(5.4)	(1.9)	0.14	○		焼土
18	SB12-P1	92Ab		VE4a	0.5	0.4	0.06			
18	SB12-P2	92Ab		VE4a	0.4	0.3	0.14			
18	SB12-P3	92Ab		VE5a	0.4	0.3	0.11			
22	SB13	92Aa	SB101	VD14t15t	6.2	4.8	0.06	○		焼土
22	SB13-P1	92Aa		VE14a	0.4	0.4	0.15			
22	SB13-P2	92Aa		VE14a	0.2	0.2	0.25			
22	SB13-P3	92Aa		VE14a	0.3	0.2	0.18			
22	SB13-P4	92Aa		VE14a	0.2	0.2	0.18			
22	SB13-P5	92Aa		VE15a	0.3	0.2	0.07			
21	SB14	92Aa	SB06	VE15a16a	6.0	5.5	0.11	○	11C前・12C後	
21	SB14-P1	92Aa		VE15a	0.4	0.3	0.16			
21	SB14-P2	92Aa		VE15a	0.3	0.4	0.12			
21	SB14-P3	92Aa		VE15b	0.4	0.4	0.10			
21	SB14-P4	92Aa		VE15b	0.3	0.4	0.10			
21	SB14-P5	92Aa		VE15b	0.4	0.4	0.09			
21	SB15	92Aa	SB07	VE14a15b	4.9	(3.3)	0.05	○		
21	SB15-P1	92Aa		VE14a	0.3	0.3	0.07			
21	SB15-P2	92Aa		VE15b	0.4	0.3	0.13			
21	SB15-P3	92Aa		VE15b	0.4	0.4	0.01			
21	SB15-P4	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.04			
19	SB16	92Ab	SB14	VE11a12b	(4.1)	(3.5)	0.13	○		
19	SB16-P1	92Ab		VE11a	0.4	0.4	0.06			

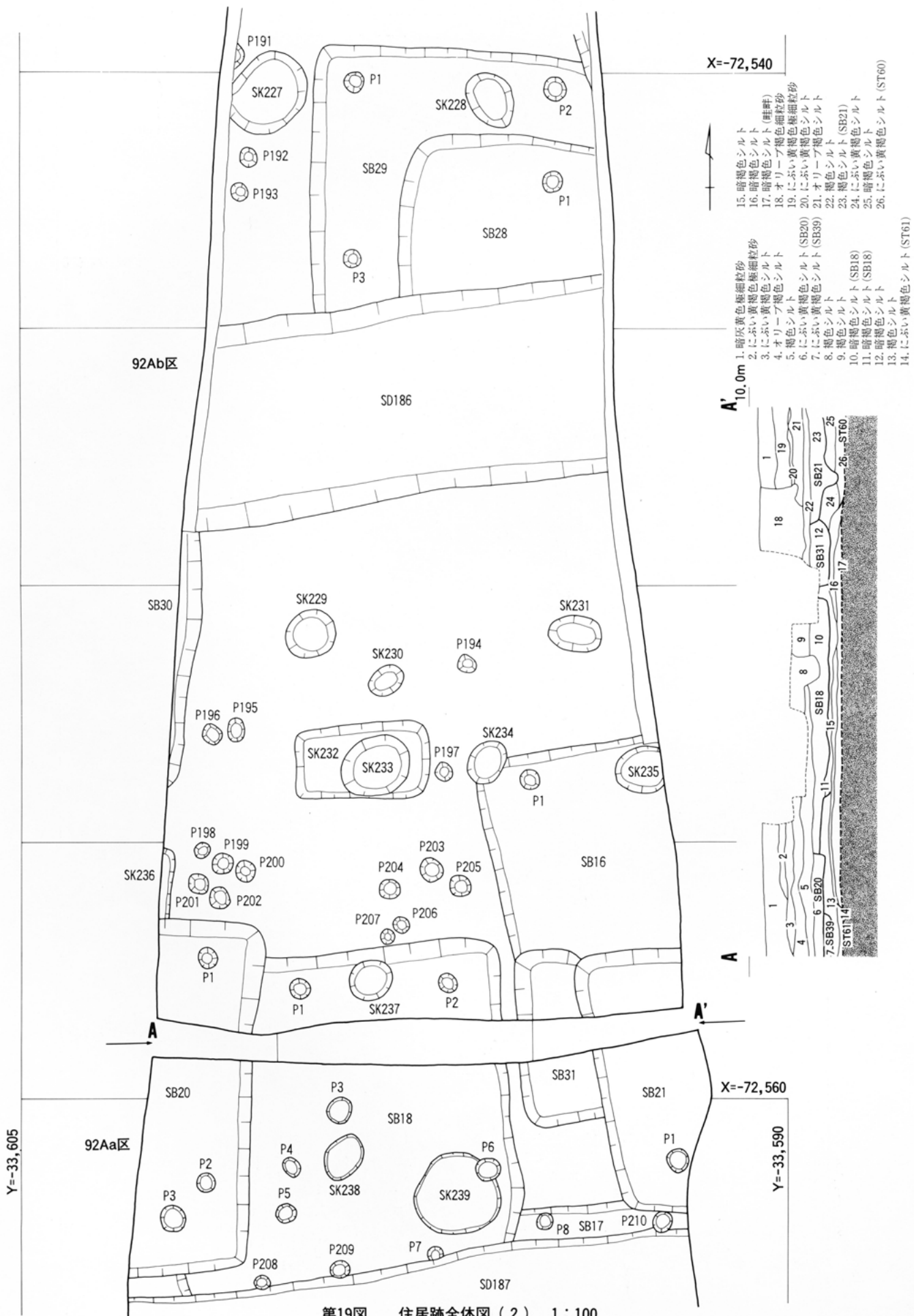
第3表 竪穴住居一覧表(1)

挿 号	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺 物	時 期	備 考
21	SB17	92Aa	SB08	VE13a14b	6.3	(3.7)	0.04	○	12C後	
21	SB17-P1	92Aa	P1	VE13b	0.4	0.4	0.09			
21	SB17-P2	92Aa	P2	VE13b	0.3	0.3	0.07			
21	SB17-P3	92Aa	P3	VE14a	0.3	0.3	0.07			
21	SB17-P4	92Aa	P4	VE14b	0.4	0.4	0.09			
21	SB17-P5	92Aa	P5	VE14b	0.5	0.4	0.12			
21	SB17-P6	92Aa	P6	VE14b	0.4	0.4	0.07			
21	SB17-P7	92Aa		VE14a	0.6	(0.4)	0.03			
19	SB17-P8	92Aa		VE13b	0.3	0.3	0.08			
19	SB18	92Aab	SB12	VE12a13a	(6.2)	(5.0)	0.15	○		
19	SB18-P1	92Ab		VE12a	0.4	0.4	0.04			
19	SB18-P2	92Ab		VE12a	0.4	0.4	0.05			
19	SB18-P3	92Aa		VE13a	0.5	0.5	0.05			
19	SB18-P4	92Aa		VE13a	0.4	0.3	0.05			
19	SB18-P5	92Aa		VE13a	0.4	0.4	0.05			
19	SB18-P6	92Aa		VE13a	0.5	0.4	0.04			
19	SB18-P7	92Aa		VE13a	(0.3)	0.3	0.06			
21	SB19	92Aa	SB04	VD14t VE15a	(5.8)	(5.1)	0.14	○	11C前	
19	SB20	92Aab	SB13	VD12t13t	(6.9)	(2.1)	0.25	○	9C後・12C後	
19	SB20-P1	92Ab		VD12t	0.4	0.4	0.07			
19	SB20-P2	92Aa		VE13t	0.4	0.4	0.09			
19	SB20-P3	92Aa		VE13t	0.5	0.5	0.07			
19	SB21	92Aab	SB09	VE12b13b	(5.1)	(2.1)	0.15	○	12C後	
19	SB21-P1	92Aa		VE13b	0.4	0.3	0.09	○		
21	SB22	92Aa	SB03	VD14t VE15a	4.6	4.0	0.11	○	11C前	
21	SB22-P1	92Aa		VD14t	0.4	0.3	0.04			
21	SB22-P2	92Aa		VD15t	0.4	0.4	0.08			
21	SB22-P3	92Aa		VE15a	0.4	0.3	0.04			
21	SB23	92Aa	SB01	VD15t VE16a	5.2	4.3	0.20	○	9C後・12C後	
21	SB23-P1	92Aa	P1	VE15a	0.3	0.3	0.03			
21	SB23-P2	92Aa		VE15a	0.3	0.2	0.24			
21	SB23-P3	92Aa		VE16a	0.3	0.3	0.06			
21	SB23-P4	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.07			
21	SB23-P5	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.08			
21	SB23-P6	92Aa		VE15t	0.3	0.3	0.05			
21	SB23-P7	92Aa		VE15t	0.3	0.3	0.06			
21	SB23-P8	92Aa		VE15t	0.6	0.4	0.06			
21	SB23-P9	92Aa		VE16t	0.3	0.3	0.03			
18	SB24	92Ab	SB109	VE6a7b	(2.3)	(2.8)	0.21	○		
18	SB25	92Ab	SB111	VE7a8b	(5.8)	(5.6)	0.14	○		
18	SB25-P1	92Ab		VD8t	0.4	0.4	0.11			
18	SB25-P2	92Ab		VE8a	0.5	0.4	0.16			
18	SB25-P3	92Ab		VE8a	0.4	0.4	0.27			
18	SB26	92Ab	SB110	VD8t VE8a	(7.5)	(3.4)	0.12	○		
18	SB26-P1	92Ab		VE6a	0.5	0.4	0.08			
18	SB26-P2	92Ab		VE7a	0.4	0.4	0.13			
18	SB27	92Ab	SB106	VD6t	(5.7)	(0.5)	0.15	○		
19	SB28	92Ab	SB112	VE9a	(3.9)	(3.0)	0.13			
19	SB28-P1	92Ab		VE9b	0.4	0.4	0.13			
19	SB29	92Ab	SB113	VE8a9a	(5.5)	(5.2)	0.18			
19	SB29-P1	92Ab		VE9a	0.4	0.4	0.10			
19	SB29-P2	92Ab		VE9a	0.4	0.4	0.09			
19	SB29-P3	92Ab		VE9a	0.4	0.4	0.20			
19	SB30	92Ab	SD15	VE11a	(5.0)	0.5	0.19	○		
18	SB31	92Aab	SB10	VE12a13b	(3.4)	(1.6)	0.19	○	10C前・12C後	
21	SB32	92Aa	SB11	VD14t VE14a	(5.6)	1.8	0.15	○		
21	SB32-P1	92Aa	P1	VE14a	0.3	0.3	0.21			
21	SB32-P2	92Aa	P2	VE14a	0.4	0.3	0.09			
21	SB32-P3	92Aa		VD14t	(0.4)	(0.2)	0.04			
21	SB33	92Aa	SB05	VE15b	(3.5)	(0.9)	0.10	○	10C前	
21	SB33-P1	92Aa	P1	VE15b	0.4	0.3	0.05			
21	SB34	92Aa	SB02	VE14b15b	(4.6)	(4.3)	0.09	○	12C後	
21	SB34-P1	92Aa	P1	VE14b	0.4	0.4	0.12			
21	SB34-P2	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.09			
20	SB35	92Ab	SB116	VE10ab	(2.8)	(1.3)	0.14			
20	SB35-P1	92Ab		VE10a	0.4	0.4	0.11			
20	SB36	92Ab	SB114	VD10t11t	(4.6)	(1.2)	0.06	○		
20	SB36-P1	92Ab		VD10t	0.3	0.3	0.07			
20	SB36-P2	92Ab		VD11t	0.3	0.3	0.06			
20	SB37	92Ab	SB115	VE11a12b	(5.6)	(4.4)	0.10	○		
20	SB37-P1	92Ab		VE11a	0.3	0.2	0.04			
20	SB37-P2	92Ab		VE12a	0.4	0.4	0.08			
22	SB38	92Aa	SB102	VE14ab	5.5	5.1	0.12	○		
22	SB38-P1	92Aa		VE14a	0.4	0.3	0.11			
22	SB38-P2	92Aa		VE14a	0.4	0.4	0.16			
22	SB38-P3	92Aa		VE14a	0.4	0.4	0.18			
22	SB38-P4	92Aa	P107	VE14a	0.3	0.3	0.22	○		
22	SB38-P5	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.06			
22	SB38-P6	92Aa	P106	VE14ab	0.3	0.2	0.18			
22	SB38-P7	92Aa	P103	VE14a	0.3	0.3	0.15	○		
22	SB38-P8	92Aa		VE14a	0.3	0.3	0.08			
22	SB38-P9	92Aa	P102	VE14ab	0.3	0.2	0.10	○		
22	SB38P10	92Aa		VE14a	0.3	0.3	0.14			
22	SB39	92Aa	SB103	VD12t13t	(4.8)	(2.2)	0.12			焼土
23	SB40	93Hb	SB02	VE19a20b	3.6	(0.4)	0.02	○		
24	SB41	95Ab	SB01	VE14c	-	-	-	○	8C後～9C前	焼土
24	SB42	93G	SB01	VE15b	(4.2)	(0.6)	0.16	○		
24	SB43	92H	SB119	VE2d3d	(3.8)	(2.2)	0.19			
24	SB43-P1	92H		VE3d	0.4	0.3	0.10			

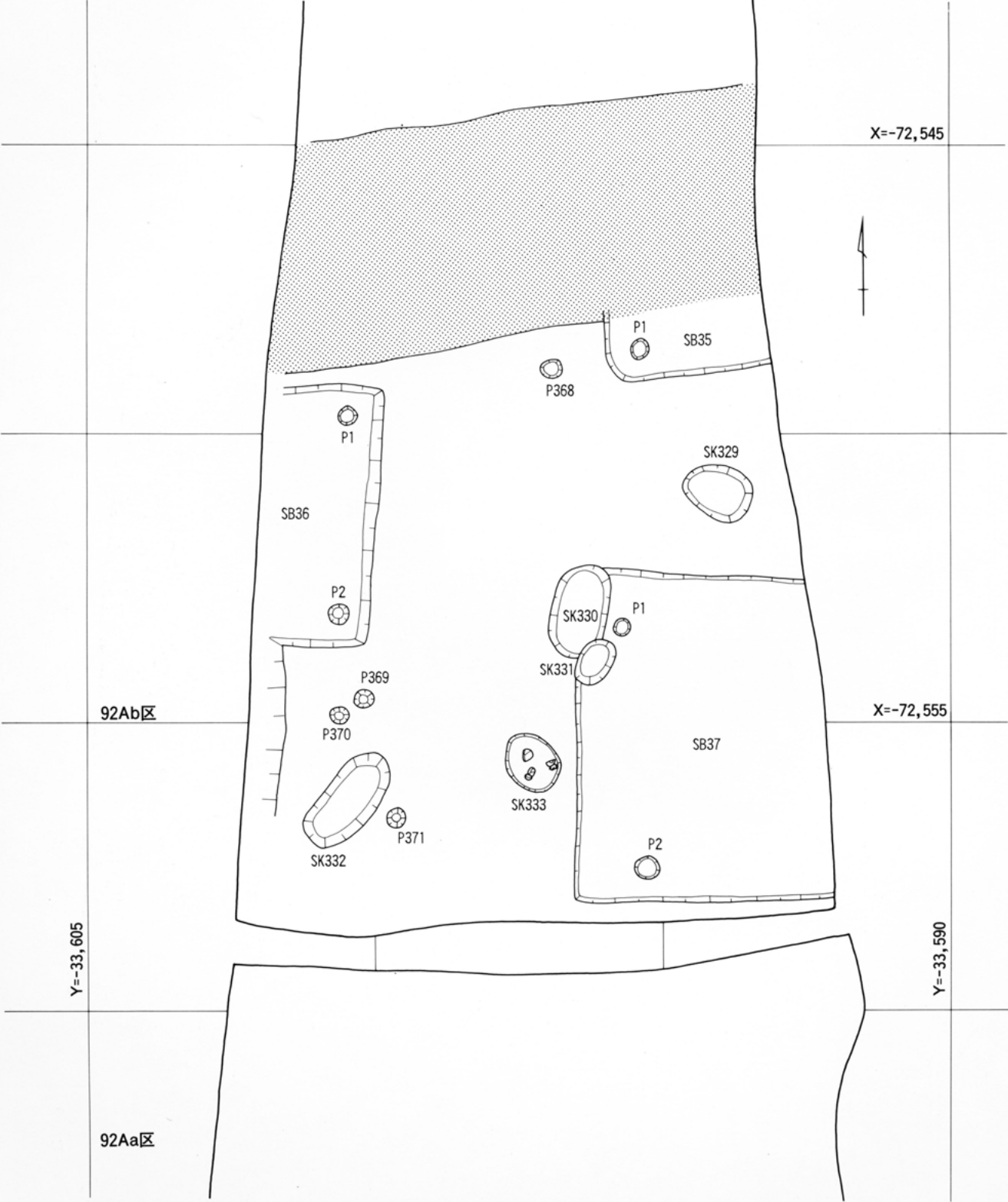
第4表 竪穴住居一覧表(2)



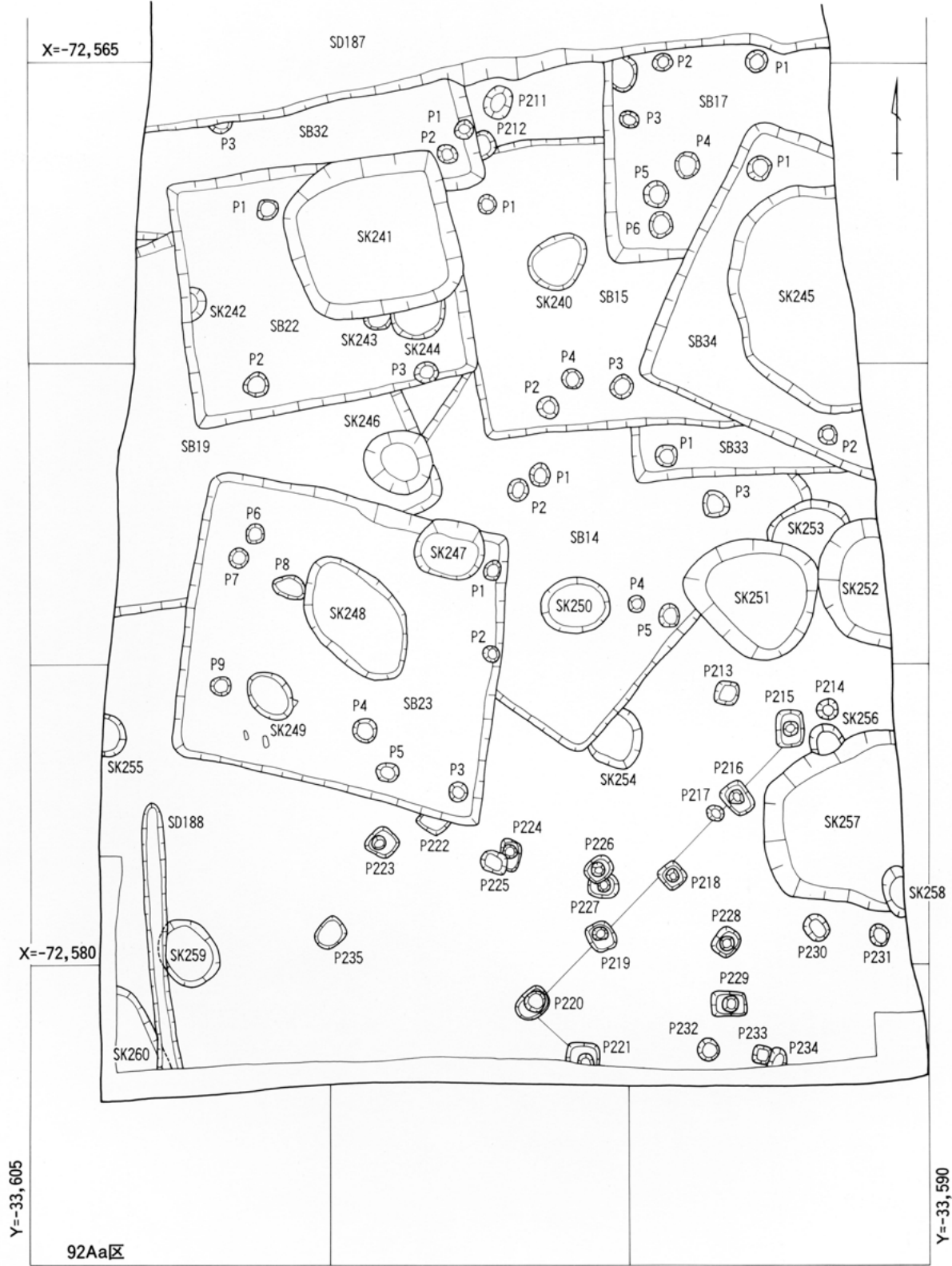
第18図 住居跡全体図(1) 1:100



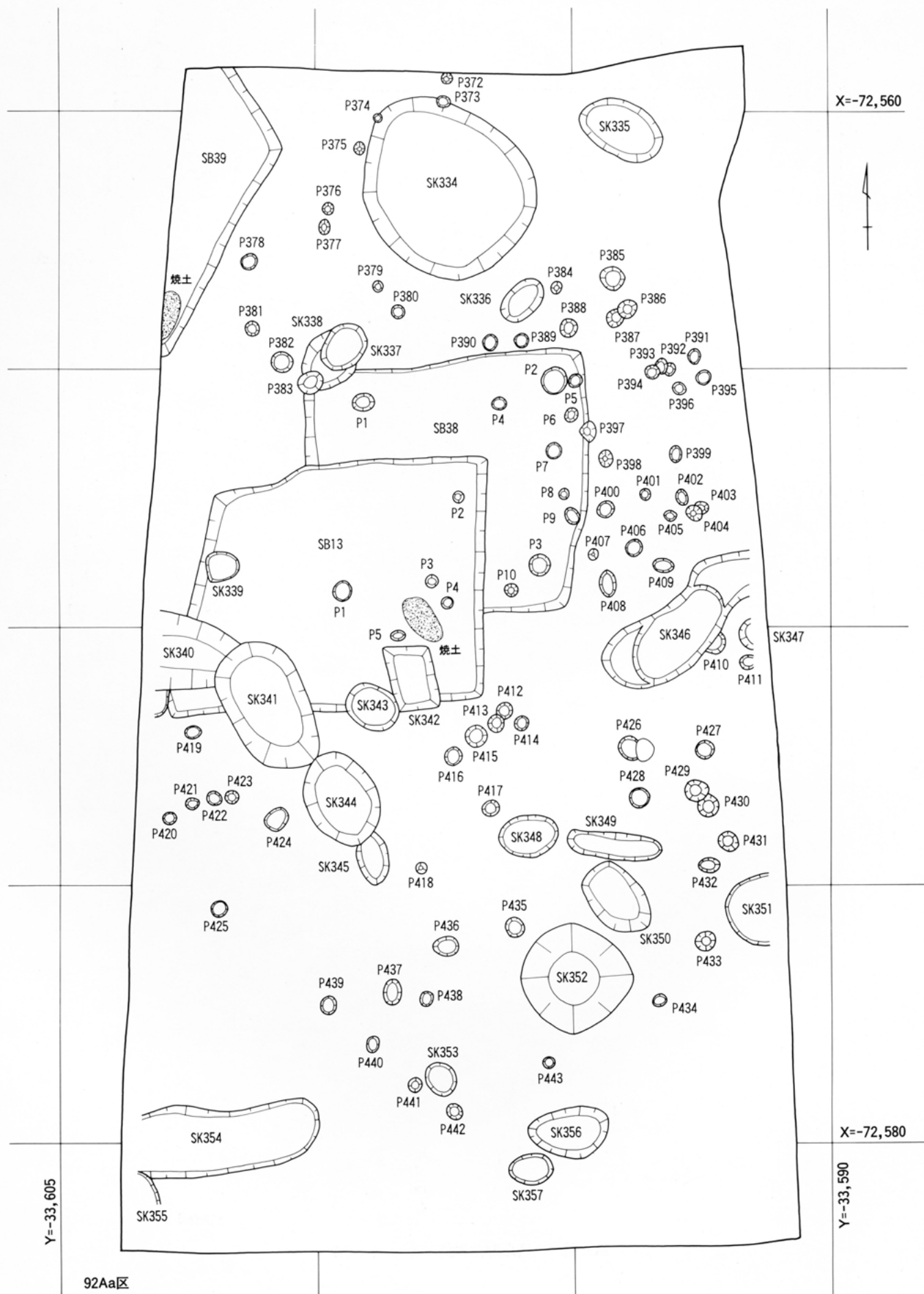
第19図 住居跡全体図 (2) 1:100



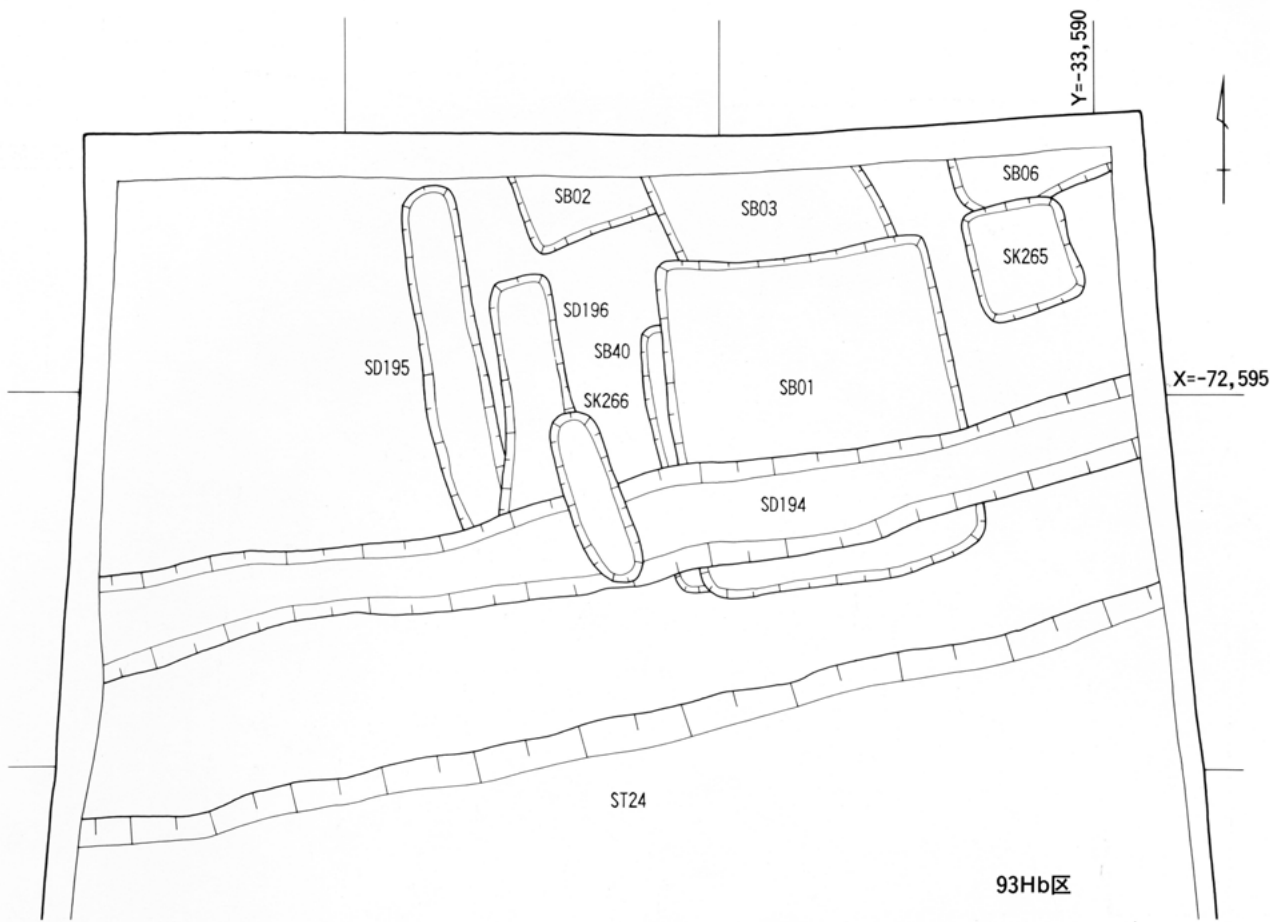
第20図 住居跡全体図（3） 1：100



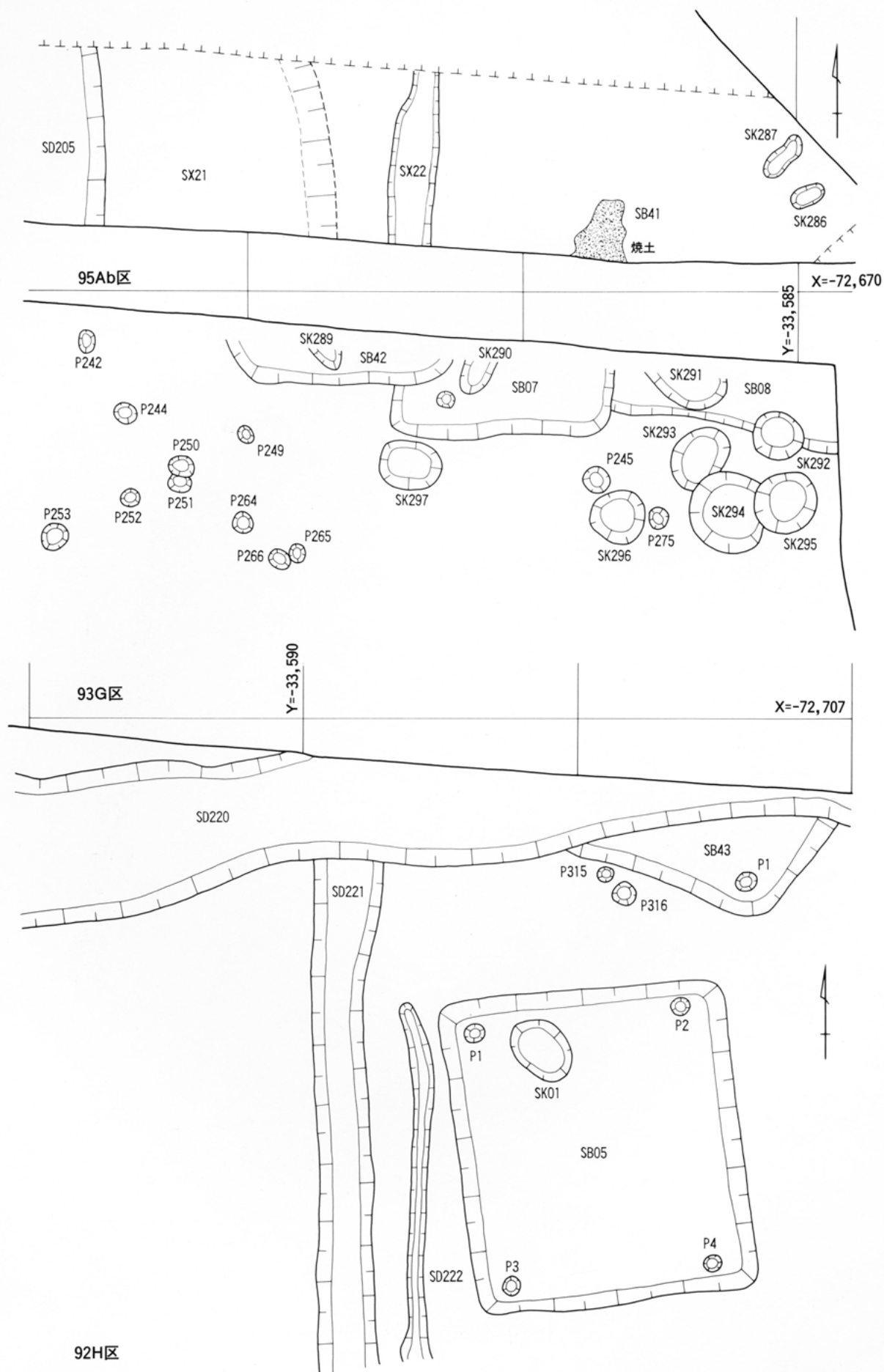
第21図 住居跡全体図（4） 1：100



第22図 住居跡全体図(5) 1:100



第23図 住居跡全体図 (6) 1 : 100

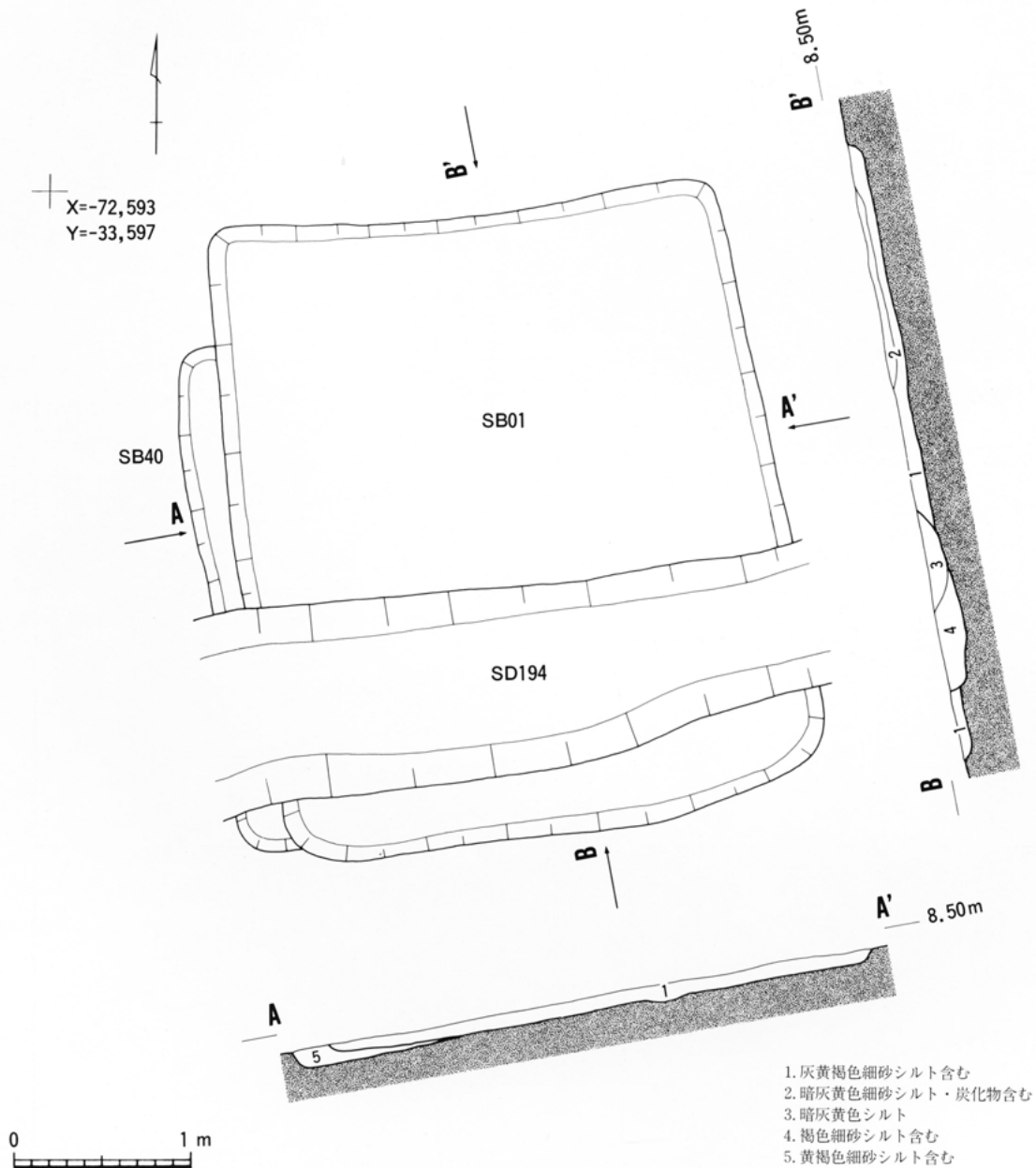


第24図 住居跡全体図(7) 1:100

主な住居跡は以下のとおりである。

SB01（第25図、第54図、図版11）

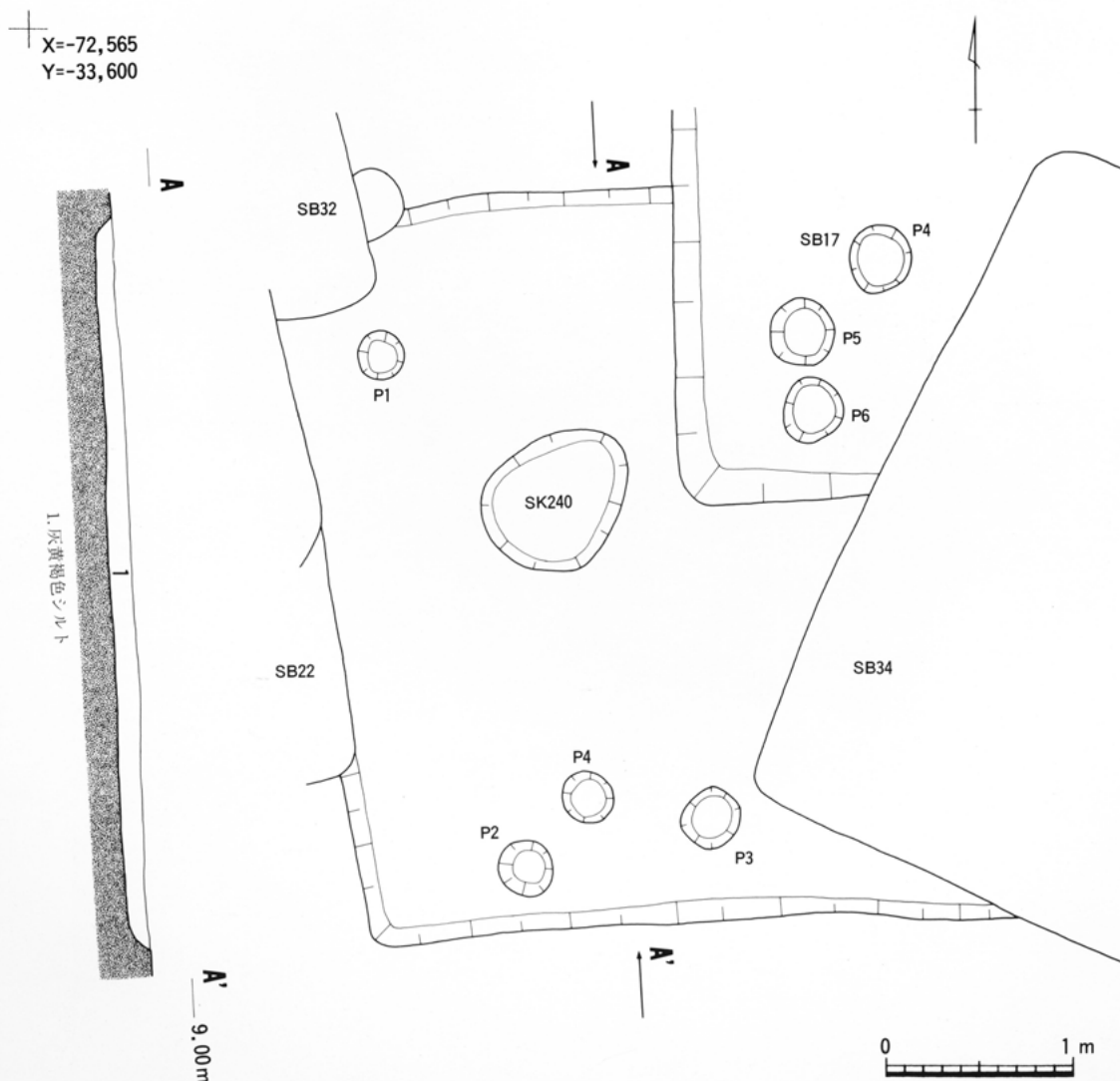
93Hb区の北東端に位置する。旧SB01で、2棟の住居を切って建てられておりSB40の大部分を切っている。住居の南側は中世の溝により切られている。平面形状は北辺3 m64cm、南辺3 m84cm、東辺4 m20cm、西辺4 m54cmの長方形を呈す。壁高は確認面から10cmを測る。覆土は2層にわかれ、上から暗灰黄色土、灰黄褐色土となる。床面はほぼ平坦である。周溝及び柱穴は検出されなかった。遺物は住居内床面から覆土にわたって美濃須衛窯と猿投窯の製品が出土しており8世紀後半と考えられる。



第25図 SB01平面実測図

SB15 (第26図、第57図、図版6、7、11)

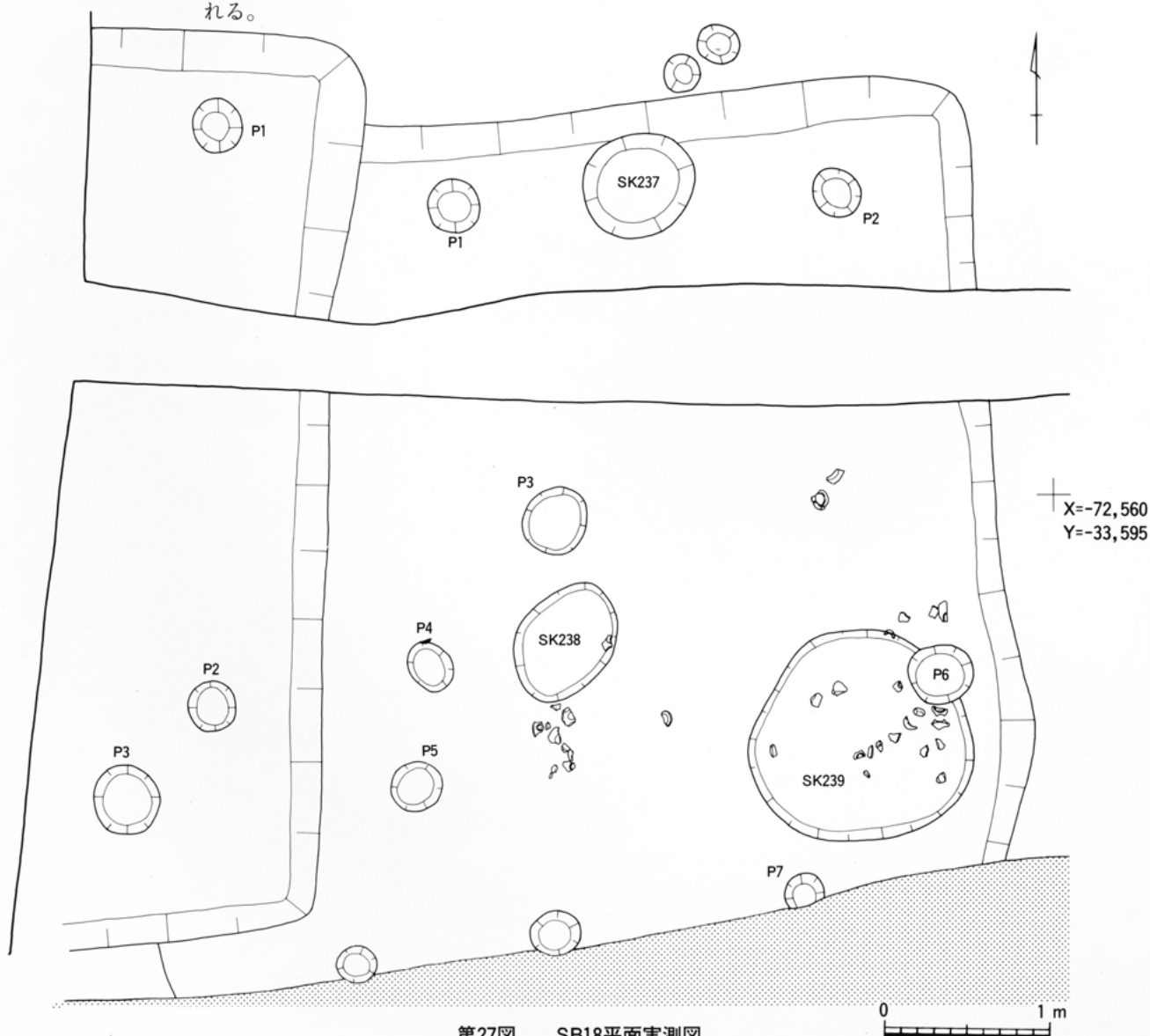
92Aa区の南側に位置する。旧SB07で、SB17、SB34によって東側半分が切られ、SB32、SB22、によって北西側が切られており、住居の北壁の一部、西壁の一部、南東コーナーを欠き、南壁しか残っておらず全容は不明である。平面形状は推定北辺4m90cm、南辺4m90cm、西辺5mの方形を呈すると思われる。壁高さは確認面から16cmを測る。覆土は1層の灰黄褐色シルト土で床面はほぼ平坦である。周溝は検出されなかったが、北西隅(P1)に径30cm、深さ7cmのピット、南壁に径30cm、深さ13cm(P2)と径40cm、深さ23cm(P3)の径34cm、深さ4cm(P4)とピットが4ヶ所検出され柱穴と考えられる。床面はほぼ平坦である。住居跡の中央西寄りでは長径110cm、短径90cmの土坑(SK240)が検出された。美濃須衛窯と猿投窯、尾北窯の製品が出土しており8世紀後半と考えられる。



第26図 SB15平面実測図

SB18 (第27図、第58図、図版7、12)

92Ab区のほぼ中央に位置する。旧SB12で西側がSB20によって切られており、南側はSD187によって切られている。一部を欠くが北壁と東壁が残るのみで全容は不明である。平面形状は推定北辺6m60cm、東辺6m50cmの方形を呈すると思われる。壁高さは確認面から20cmを測る。覆土は1層の灰黄褐色土で床面はほぼ平坦である。周溝は検出されなかったが、北西(P1)に径39cm、深さ4cm、北東(P2)に径38cm、深さ4cm、ほぼ中央(P3)に径50cm、深さ5cm、南西に径35~40cm、深さ5cm(P4)と径40cm、深さ5cm(P5)が、南東に径50cm、深さ4cm(P6)とピットが6ヶ所検出され柱穴と考えられる。南東隅のP6に接して径168cm、深さ2cmの土坑(SK239)が検出され、美濃窯の製品が多く出土した。またP3の南には径100cm、深さ4cmの土坑(SK238)が検出され、この土坑の南側からも美濃窯の製品が出土。10世紀末から11世紀初と考えられる。

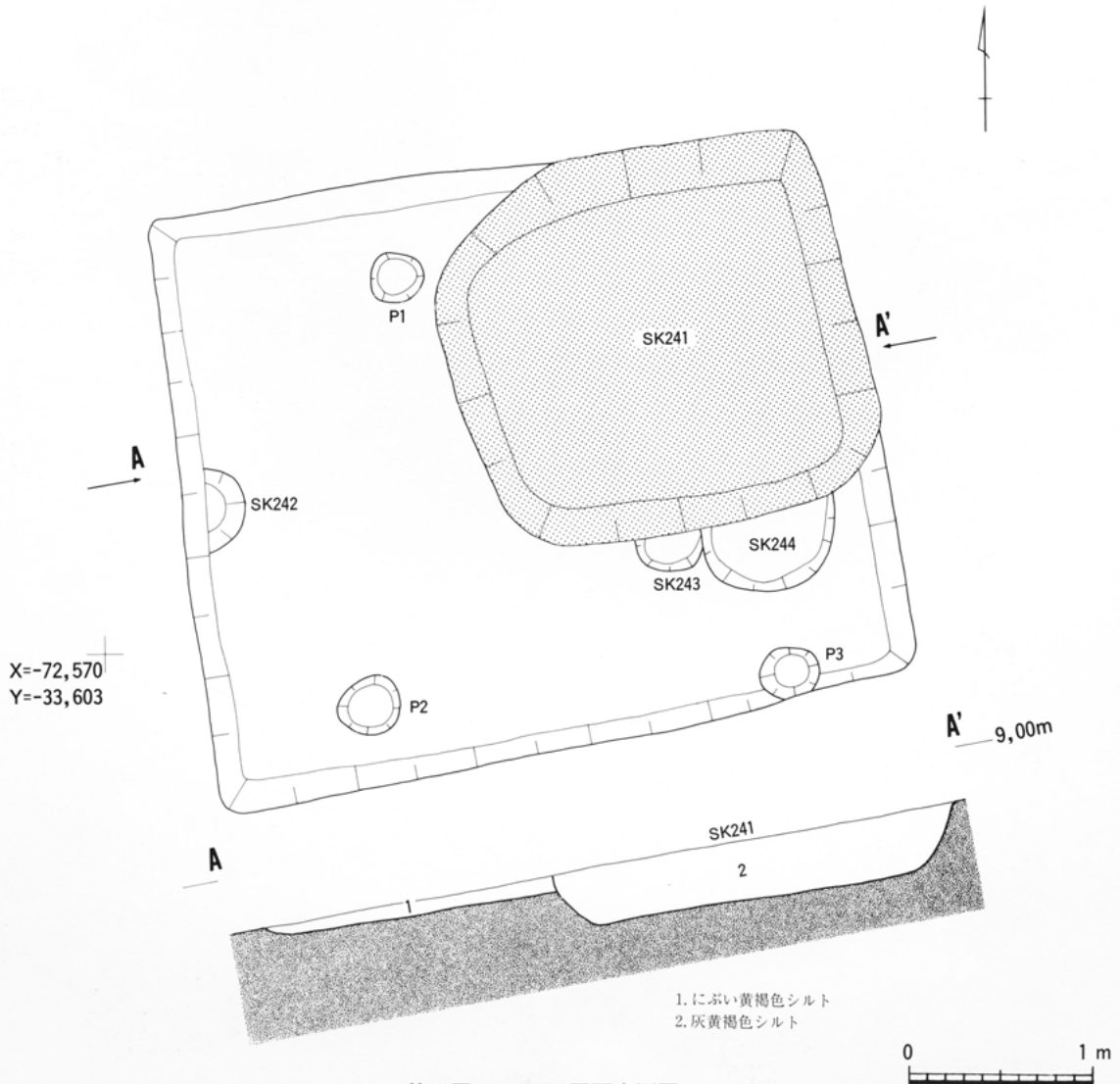


SB22 (第28図、第60図、図版6、7、12)

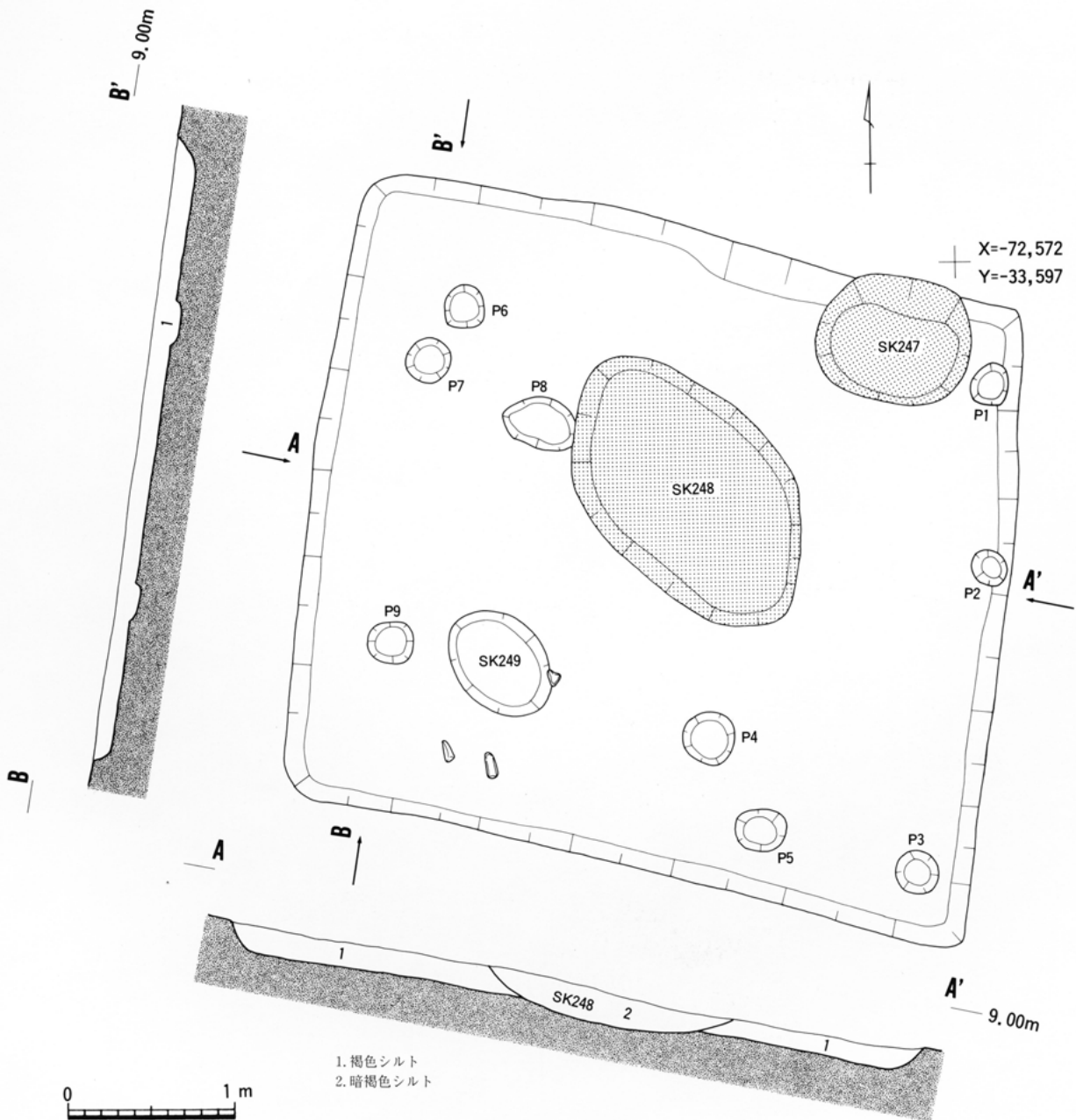
92Aa区の南側に位置する。旧SB03で中世の土坑(SK241)によって北東部分が切られている。平面形状は北辺440cm、南辺460cm、東辺380cm、西辺410cmの長方形を呈する。壁高さは確認面から10cmを測る。覆土は1層の黄褐色土で床面はほぼ平坦である。北側に径34cm、深さ4cm(P1)と南西側に径44cm、深さ7cm(P2)と南東の南壁際に径30cm、深さ16cm(P3)とピットが3ヶ所検出され柱穴と考えられる。西壁中央際に半裁状態の土坑(SK24)径50cmが検出されている。美濃窯、尾北窯、猿投窯の製品が出土。9世紀後半と考えられる。

SB23 (第29図、第60図、図版6、7、12、13)

92Aa区の南側に位置する。旧SB01で住居中央で中世の土坑(SK248)が、北東隅で中世の土坑(SK247)が、それぞれ住居を切っている。平面形状は北辺500cm、南辺520cm、東辺490cm、西辺480cmの方形を呈する。壁高は確認面から20cmを測る。覆土は



1層の褐色シルト土で床面はほぼ平坦である。東壁にそって北東隅に径32cm、深さ4cm（P1）と中央に径26cm、深さ24cm（P2）と南東隅に径32cm、深さ6cm（P3）のピットが、南壁の東寄りに径40cm、深さ7cm（P4）と径32cm、深さ8cm（P5）のピット、西壁寄りには北から径34cm、深さ5cm（P6）と径34cm、深さ6cm（P7）と径30cm、深さ3cm（P9）のピット、やや中央寄りで楕円形状の長径58cm、深さ6cm（P8）のピットが検出されいずれも柱穴と考えられる。南西部分に楕円形状の土坑（SK249）長径92cm、深さ2cmが検出され、付近からは円礫が3点出土している。美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の製品が出土。10世紀後半と考えられる。



第29図 SB23平面実測図

2、土坑

主な土坑として、92Aa区の南側で竪穴住居S B 14を切ってつくられた土坑S K 2 5 1と92A区の土坑S K 64がある。また、93G区北端部から93H区端部にかけてのS K ~ S K。この他に竪穴住居の周辺には土坑が点在しているが、該当する時期の遺構は少ない。

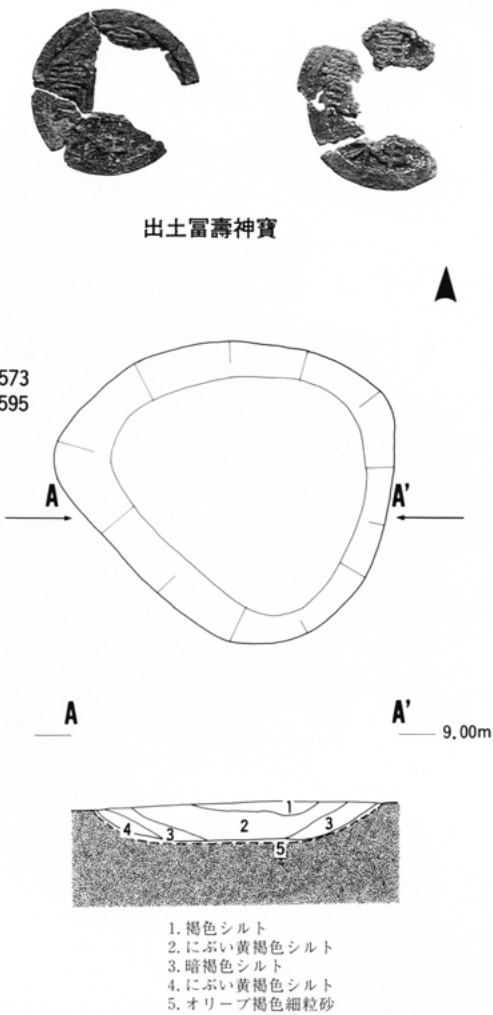
S K 2 5 1 (第30図、第61図、図版 6、7、13)

92Aa区の南側に位置する。旧S K 0 3で竪穴住居S B 14を切ってつくられた土坑で長軸220cm、深さ22cmを測る。9世紀後半と考えられる。

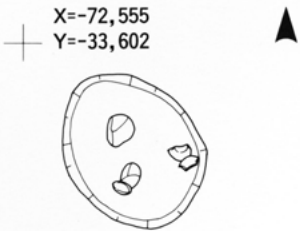
猿投窯の灰釉陶器とともに残存状態が不良であるが「富壽神寶」が3枚出土した。「富壽神寶」は818年より834年にかけて鑄造された皇朝十二銭の一つである。

S K 3 3 3 (第31図、第61図、図版 6、7、13)

92Ab区のに位置する。旧S K 6 4で長径110cm、深さ4cmの楕円形状を呈する。円礫とともに灰釉陶器が出土した。尾北窯の製品が出土し9世紀後半と考えられる。



第30図 SK251平面実測図 1：50



第31図 SK333遺物出土状態図 1：50

挿 図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	遺 物	時 期
12	SK251	92Aa	SK03	ⅥE15b	2.2	2.0	0.22	○	9C後半
20	SK333	92Ab	SK64	ⅥE12a	1.1	0.9	0.04	○	9C後半

第5表 土坑一覧表

3、溝

溝のなかで短頸壺の出土したSD196と東西方向の溝で遺物が多く出土した93Hb区のSD239・240がある。

SD196（第61図、図版13）

93Hb区の南端に位置する。旧SD03で、調査区の南壁にそって東西方向にL字を伏せたような溝で、鍵の手になった西南付近の幅は301cmと広く、東側の溝の幅は90cmを測る。

SD239（第64図～第66図、図版13、14）

93Ha区の南側、SD196の北側に位置する。旧SD06で、東西に走る溝で西側で鍵の手状に南下する。幅460cm、深さ18cmを測る。9世紀後半と考えられる。

SD240（第67図、第68図、図版14）

93Ha区の旧SD05で9世紀後半と考えられる。

挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
12	SD196	93Hb	SD03	ⅥE19a20a	(3.1)	0.9	0.03	○	
16	SD239	93Hb	SD06	ⅦD1tⅦE2c	(18.7)	(9.2)	0.66	○	9C後
16	SD240	93Hb	SD05	ⅦD5tⅦE2b	(15.5)	(8.5)	0.58	○	9C後
13	SD214	93G	SD02	ⅦD20sⅦE20f	(30.5)	(3.8)	0.66	○	12C後～13C初
13	SD214	93G	SD05	ⅦD20de	(8.6)	(3.8)	0.57	○	12C後～13C初

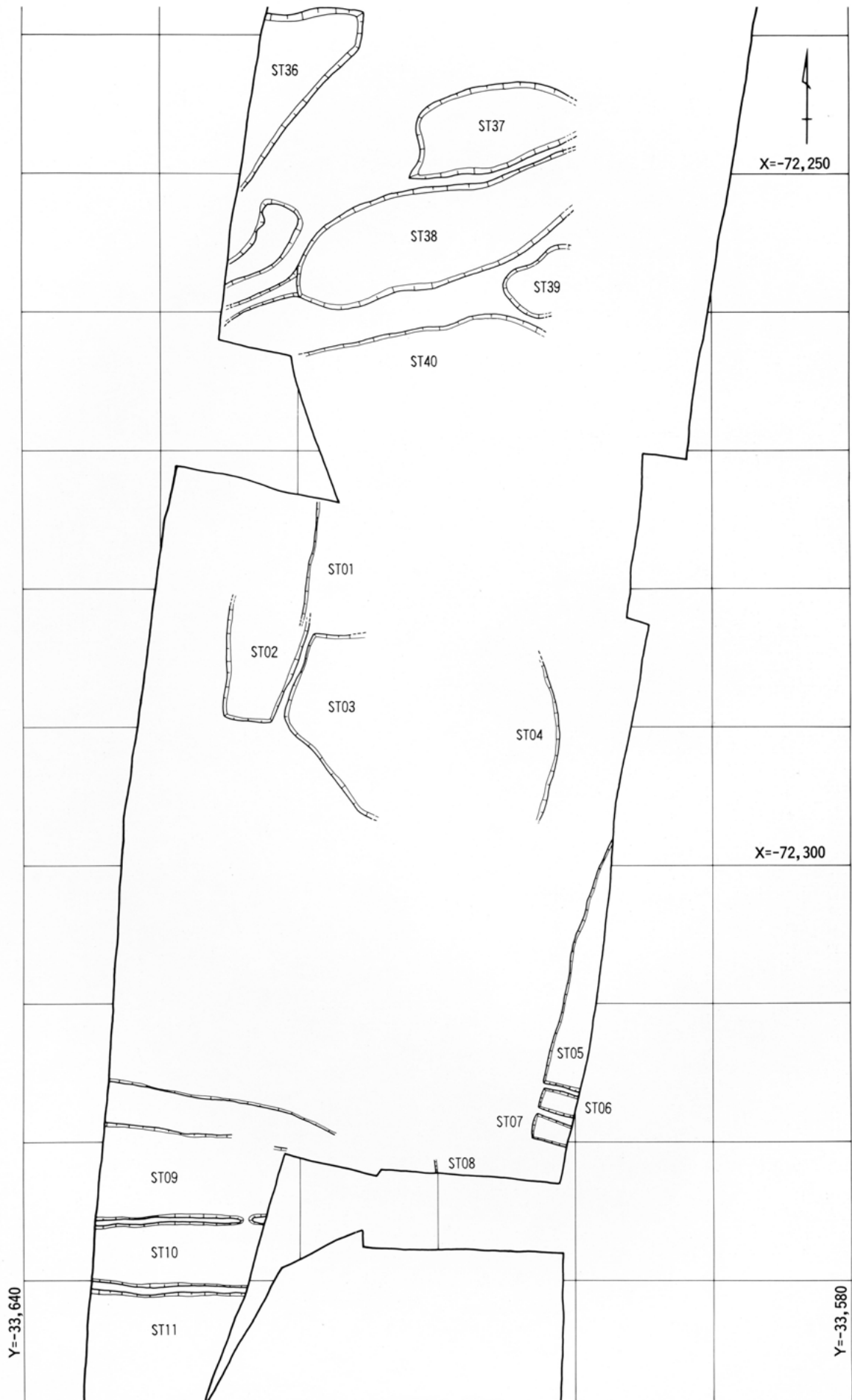
第6表 溝一覧表

第4節 水田跡

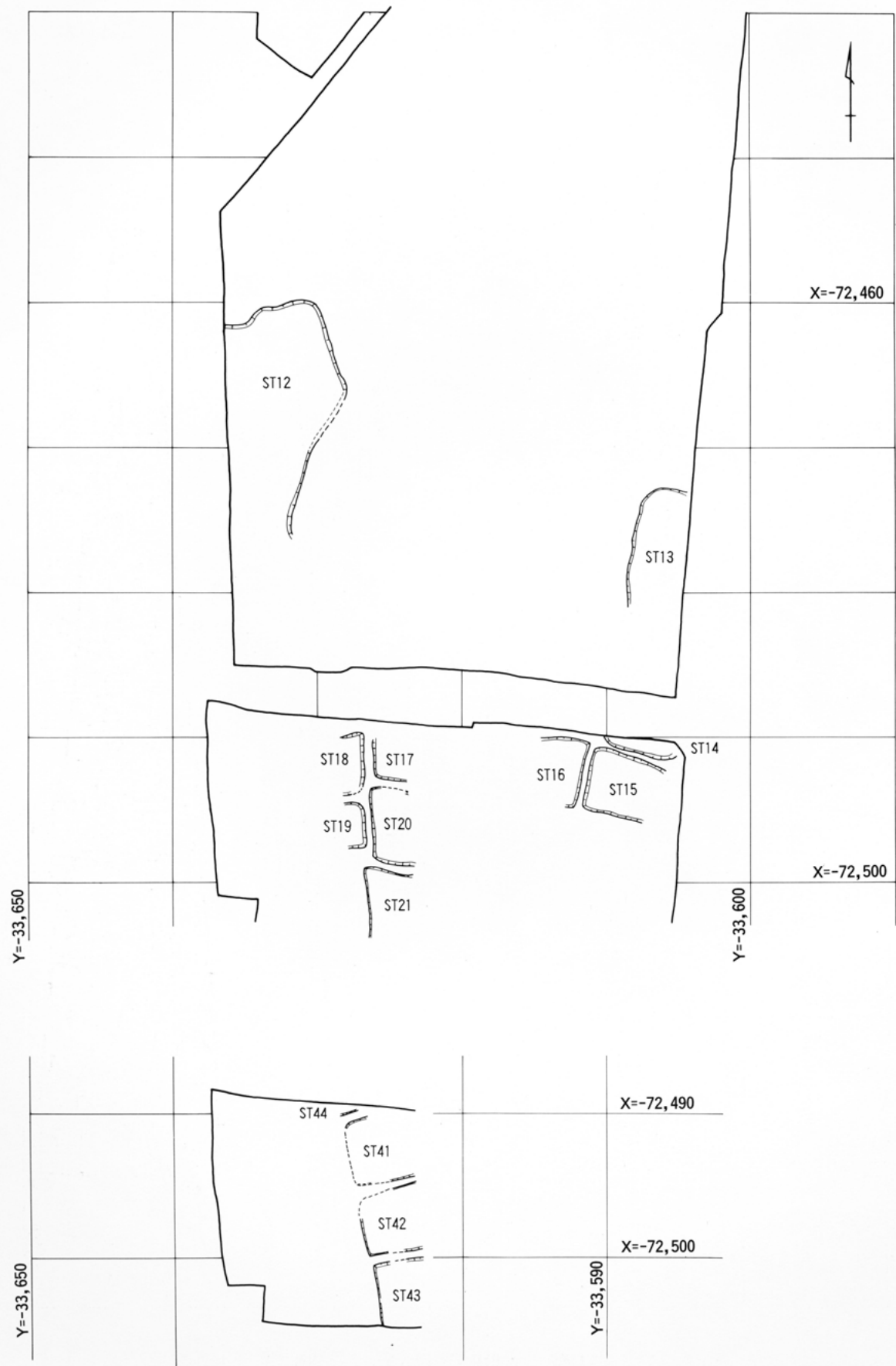
水田跡は93E区の南側以南より広がっており、古墳時代の水田から中世の水田を検出した。基本層序は耕作土、暗褐色シルト層（近世～中世・奈良時代）、灰褐色シルト層あるいは黒褐色土層（古墳時代）となる。調査区南側の95Aa区では耕作土、暗褐色シルト層、白色極細粒砂層、灰色シルト層（奈良時代遺物包含層）、灰褐色粘土層（古墳時代）と堆積している。

挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物
32	ST01	93Ea	ST01	ⅢD13q	(8.4)	(7.0)	0.06	○
32	ST02	92E	ST43	ⅢD15p16p	(8.2)	(5.2)	-	○
32	ST02	92E	SK75	ⅢD15p16p	(8.2)	(5.2)	-	○
32	ST03	92E	ST42	ⅢD15q18r	(13.9)	(9.7)	-	○
32	ST03	92E	SK76	ⅢD15q18r	(13.9)	(9.7)	-	○
32	ST04	93F	ST06	ⅢD16t18t	(7.2)	(1.2)	0.21	○
32	ST05	93F	ST02	ⅢE18aⅣD11t	(17.0)	(2.4)	0.19	○
32	ST06	93F	ST03	ⅣD2t	(2.3)	(1.5)	0.15	○
32	ST07	93F	ST04	ⅣD2t3t	(2.5)	(1.4)	0.24	○
32	ST08	93F	ST05	ⅣD2t	-	(1.0)	0.05	○
32	ST09	92E	ST41	ⅣD2n4p	(12.6)	6.0	-	○
32	ST10	92E	ST40	ⅣD4n5p	(11.2)	4.4	-	○
32	ST11	92E	ST39	ⅣD5n6p	(10.8)	(5.5)	-	○
33	ST12	93J	ST01	ⅤD12n17n	(36.5)	(8.2)	0.03	○
33	ST13	93J	ST02	ⅤD15s17t	(10.3)	(3.7)	0.15	○
33	ST14	92Da	ST01	ⅤD19s	(4.8)	(0.9)	0.18	○
33	ST15	92Da	ST02	ⅤD19rs	(4.9)	(4.4)	0.10	○
33	ST16	92Db	ST03	ⅤD19r	(4.8)	(3.5)	0.06	○
33	ST17	92Db	ST15	ⅤD19p	(4.0)	(2.3)	0.03	○
33	ST18	92Db	ST14	ⅤD19o	(4.2)	(2.0)	0.03	○
33	ST19	92Db	ST16	ⅤD20o	(3.0)	(1.4)	0.02	○
33	ST20	92Db	ST17	ⅤD20o20p	(5.1)	(2.8)	0.03	○
33	ST21	92Db	ST18	ⅤD20oⅤD1p	(5.0)	(3.3)	0.03	○
34	ST22	93I	ST02	ⅤD3n4p	(9.7)	(4.2)	0.14	○
34	ST23	93I	ST01	ⅤD5q8r	(18.0)	-	0.19	○
35	ST24	93Hb	ST01	ⅤD1tⅤE3c	(15.8)	(12.5)	0.26	○
35	ST25	93Hb	ST02	ⅤD5tⅤE3c	(17.8)	(10.7)	0.17	○
35	ST26	93Hb	ST03	ⅤE6b5c	(4.3)	(2.1)	0.07	○
35	ST27	93Hb	ST04	ⅤE6b	(1.9)	(0.9)	0.03	○
35	ST28	93Ha	ST04	ⅤD6tⅤE6b	(8.6)	(1.5)	0.16	○
35	ST29	93Ha	ST03	ⅤD6tⅤE7b	(9.0)	(6.5)	0.18	○
35	ST30	93Ha	ST01	ⅤE6b7c	(6.2)	(5.7)	0.08	○
35	ST31	93Ha	ST02	ⅤD7s10s	(14.3)	(1.9)	0.12	○
36	ST32	93Ha	ST08	ⅤE8a9d	(13.0)	(8.2)	0.10	○
36	ST33	93Ha	ST07	ⅤE9b11c	(11.5)	(7.8)	0.05	○
36	ST34	93Ha	ST06	ⅤE9a11c	(10.1)	(8.3)	0.30	○
35	ST35	93G	ST01	ⅤE17e18e	(8.1)	(1.0)	0.14	○
32	ST36	93Eb		ⅢD6p8p	(10.4)	(7.0)	0.23	○
32	ST37	93Eb		ⅢD8s8t	(12.6)	(6.8)	0.06	○
32	ST38	93Eb		ⅢD9q8t	(21.6)	(7.2)	0.09	○
32	ST39	93Eb		ⅢD10t	(5.0)	(4.8)	0.04	○
32	ST40	93Eb		ⅢD11q11t	(17.0)	(5.6)	0.07	○
33	ST41	92Db	ST36	ⅤD19o20o	(4.3)	4.7	0.08	○
33	ST42	92Db	ST19	ⅤD20op	(4.2)	4.5	0.07	○
33	ST43	92Db	ST35	ⅤD1op	(4.2)	3.3	0.11	○
33	ST44	92Db	ST37	ⅤD19o	(2.1)	0.9	0.19	○
34	ST45	92Ab	ST20	ⅤE4a	(3.1)	(1.1)	0.02	○
34	ST46	92Ab	ST21	ⅤE4a6a	(8.6)	(4.2)	0.02	○
34	ST47	92Ab	ST22	ⅤE6a7a	(8.1)	(3.5)	0.02	○
34	ST48	92Ab	ST23	ⅤE6a7a	(5.0)	(1.5)	0.01	○
34	ST49	92Ab	ST24	ⅤE7a7b	(2.6)	(1.7)	0.05	○
34	ST50	92Ab	ST25	ⅤE7a8a	(4.4)	(2.3)	0.11	○
34	ST51	92Ab		ⅤE8a8b	4.0	2.5	0.11	○
34	ST52	92Ab	ST28	ⅤE8a9a	(6.4)	(3.7)	0.10	○
34	ST53	92Ab	ST27	ⅤE9a9b	(3.8)	(2.4)	0.07	○
34	ST54	92Ab	ST29	ⅤD9tⅤE9a	(2.6)	(1.0)	0.07	○
34	ST55	92Ab	ST31	ⅤD10tⅤE10a	(4.2)	(3.8)	0.09	○
34	ST56	92Ab	ST30	ⅤE10a10b	(3.8)	(2.9)	0.06	○
34	ST57	92Ab	ST32	ⅤD10tⅤE11b	(7.0)	(3.8)	0.07	○
34	ST58	92Ab	ST33	ⅤD11tⅤE11a	5.0	4.0	0.04	○
34	ST59	92Ab	ST34	ⅤD12tⅤE12a	6.0	2.5	0.07	○
34	ST60	92Ab	ST13	ⅤE12b	(2.8)	(2.1)	0.10	○
34	ST61	92Aa	ST12	ⅤE13t14t	(6.8)	(4.1)	0.09	○
34	ST62	92Aa	ST12	ⅤD12t	(2.9)	(0.8)	0.06	○
34	ST62	92Aa	ST11	ⅤE13ab	(7.2)	(5.9)	0.06	○
34	ST62	92Aa	ST13	ⅤE12b13b	(2.4)	(1.4)	0.01	○
34	ST63	92Aa	ST10	ⅤE14t15t	(8.1)	(2.7)	0.15	○
34	ST64	92Aa	ST07	ⅤE14b15b	(8.8)	(3.9)	0.06	○
34	ST65	92Aa	ST08	ⅤE14a17b	(9.5)	(8.2)	0.07	○
34	ST66	92Aa	ST06	ⅤD17t	(3.0)	(1.2)	0.04	○
34	ST67	92Aa	ST04	ⅤE16b	(4.7)	(1.5)	0.08	○
36	ST68	95Aa	ST12	ⅤD19o	(0.6)	(0.6)	0.01	○
36	ST69	95Aa	ST13	ⅤD19o20o	(1.5)	(0.5)	-	○
36	ST70	95Aa	ST14	ⅤD20o	(1.0)	(0.7)	0.02	○
36	ST71	95Aa	ST11	ⅤD19o20o	(3.8)	(1.2)	0.01	○
36	ST72	95Aa	ST15	ⅤD20o	(3.2)	(1.5)	0.02	○
36	ST73	95Aa	ST10	ⅤD20o19p	(5.4)	(1.6)	0.03	○
36	ST74	95Aa	ST09	ⅤD19pq	(2.5)	(1.3)	0.03	○
36	ST75	95Aa	ST18	ⅤD20oⅤD1o	(3.3)	(1.9)	0.07	○
36	ST76	95Aa	ST17	ⅤD20op	(5.2)	(2.0)	0.01	○
36	ST77	95Aa	ST16	ⅤD19q20q	(1.7)	(1.6)	0.01	○
36	ST78	95Aa	ST20	ⅤD1o	(3.0)	(2.0)	0.09	○
36	ST79	95Aa	ST19	ⅤD20qⅤD1o	(5.3)	(2.7)	0.07	○
36	ST80	95Aa	ST01	ⅤD19rs	(2.7)	(2.1)	0.11	○
36	ST81	95Aa	ST03	ⅤD20rs	(2.6)	(2.6)	0.04	○
36	ST82	95Aa	ST02	ⅤD20s	(2.5)	(1.9)	0.13	○
36	ST83	95Aa	ST04	ⅤD20rⅤD1s	(4.0)	(2.5)	0.04	○
36	ST84	95Aa	ST05	ⅤD2r3s	(2.5)	(2.1)	0.01	○
36	ST85	95Aa	ST06	ⅤD3rs	(2.6)	(1.5)	0.01	○
36	ST86	95Aa	ST07	ⅤD3rs	(1.6)	(0.5)	0.02	○
36	ST87	95Aa	ST08	ⅤD3s	(1.4)	(0.3)	0.01	○
36	ST88	95Aa	ST27	ⅤD3q	(0.7)	(0.2)	0.02	○
36	ST89	95Aa	ST26	ⅤD3q	(1.2)	(0.2)	0.04	○
36	ST90	95Aa	ST21	ⅤD3q	(2.2)	(0.4)	0.02	○
36	ST91	95Aa	ST22	ⅤD3q4q	(2.2)	(1.6)	0.01	○
36	ST92	95Aa	ST23	ⅤD4q	(1.2)	(0.4)	0.03	○
36	ST93	95Aa	ST24	ⅤD4q	(2.0)	(1.4)	0.02	○
36	ST94	95Aa	ST25	ⅤD4q	(2.3)	(1.5)	0.12	○
35	ST95	93Ha	ST05	ⅤE8d10d	(8.0)	(7.0)	0.11	○
36	ST96	95Ab	ST32	ⅤD13s	(2.0)	(1.8)	0.01	○
36	ST97	95Ab	ST31	ⅤD13s	(2.5)	(2.0)	0.01	○
36	ST98	95Ab	ST33	ⅤD14st	(3.0)	(2.0)	0.01	○
36	ST99	95Ab	ST34	ⅤD13t14t	(3.0)	(1.5)	0.03	○
36	ST100	95Ab	ST36	ⅤD14t	(3.0)	(1.5)	0.01	○
36	ST101	95Ab	ST35	ⅤD14t	(3.0)	(1.5)	0.01	○

第7表 水田一覧表



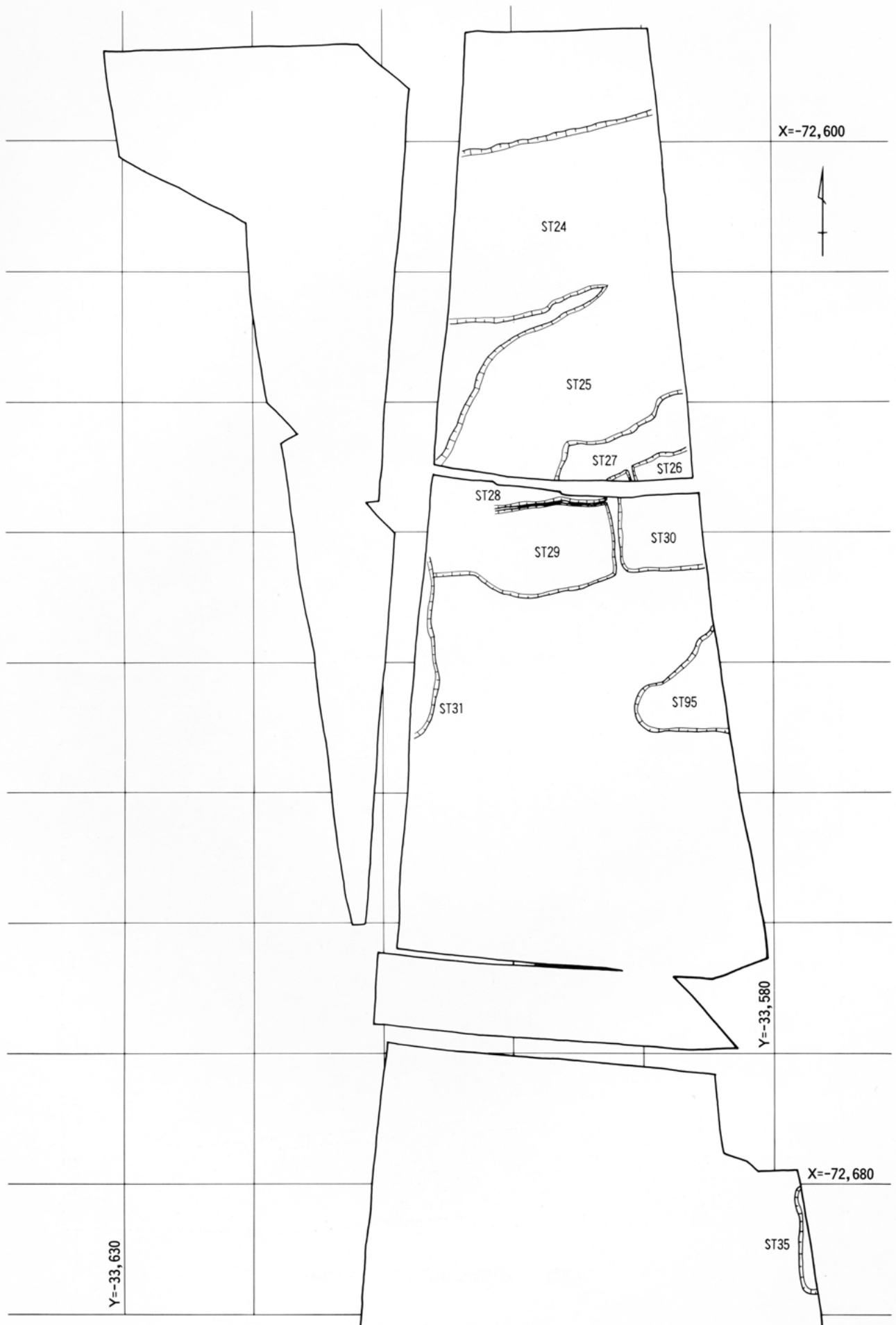
第32図 水田跡全体図(1) 1:400



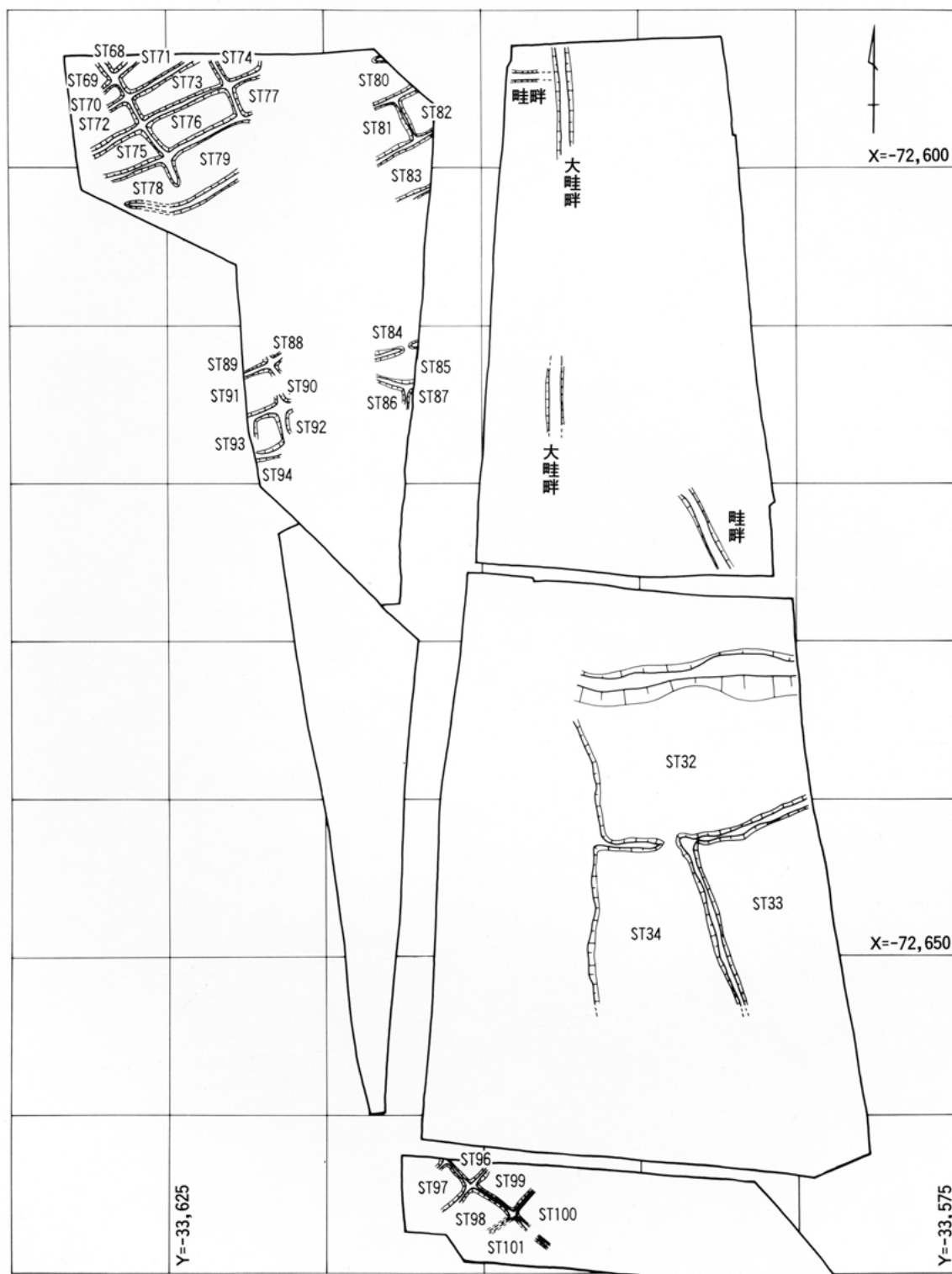
第33図 水田跡全体図 (2) 1 : 400



第34図 水田跡全体図 (3) 1 : 400



第35図 水田跡全体図(4) 1:400



第36図 水田跡全体図 (5) 1 : 400

古墳時代の水田（92A・D区、93G・H区、95A区）

古墳時代の水田は92A区、92D区、93G区、93H区、95A区で灰褐色シルト層あるいは黒褐色土層で検出した。畦畔によって区画され矩形が基本であるが不定形なものもある。奈良時代・中世の水田は現水田面下に水田の耕作土が連続して堆積しており93E区以南に広がっているが、調査区によっては現水田等によって掘削され畦畔が検出されなかった。

92A区では、水田は畦畔によって区画され、やや南北方向に細長く延びる長方形状及び不定形の平面形態を呈し、一区画が東西3～4m、南北5～7mを測る。耕作土等から出土した遺物（第62図184～187）によって、古墳時代後期を中心とした水田と考えられる。また、畦畔上に掘削された土坑（SK114）より石製有孔円板（第101図31）が出土している。

93G・H区では、H区北端からG区中央部にかけ水田を検出したが削平により遺構の遺存状態が悪く、北に向い南北に一直線に延びる大畦畔の一部とH区の中央部でこれに直交して東に向かう大畦畔が検出された。大畦畔は幅約180cm、耕作土面からの高さ約30cmで明黄褐色シルトを盛ったものである。93G区の南部ではこれに続く大畦畔は確認できなかった。

93H区では大畦畔内を区画する小畦畔、幅40cm前後、高さ20cmを検出した。大畦畔と同様に明黄褐色シルトを盛っている。大畦畔に対して角度が若干振れるが大畦畔による区画を矩形に分割している。

92A区で検出された小畦畔は南側と北側で軸線がずれており、93H区で検出された大畦畔の南北の軸線が92A区の軸線と交わったところの変換点となり、この付近より小畦畔が北西に傾くような形状に変わるようである。

95Aa区では一辺が2～5mを測る小区画の水田を検出した。

中世の水田

93E区SD20以南より、墳墓堂遺構関係の遺構群の南側より全調査区に広がっていたものと思われる。但し、中世の水田の畦畔は古墳時代水田ほど明確には確認できなかった。この時期の水田が部分的にしか確認できないのは現水田直下にあり、すでに削平され滅失していたためである。

挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
10	SD01	93J	SD25	VD12r14q	(11.6)	2.8	0.37
10	SD01	93J	SD26	VD11q17p	(32.0)	8.0	1.00
11	SD01	92D	SD03	VD19pVD1q	(14.6)	7.3	0.15
11	SD01	94Aa	SD01	VD2q3q	(6.5)	(5.5)	1.51
11	SD01	93I	SD03	VD3p10q	(35.2)	6.9	1.38
11	SD01	92C	SD03	VD10p17r	(35.6)	8.2	1.37
12	SD01	95Aa	SD01	VD19qVD12r	(61.7)	(8.2)	1.73
13	SD01	95Ab	SD01	VD13r14s	(5.5)	(1.8)	-
13	SD01	93G	SD01	VD14sVD1r	(32.1)	(6.6)	0.40
13	SD01	92H	SD39	VD1r5s	(22.5)	(6.5)	-
13	SD02	92H	SD43	VD7tVE4g	(33.6)	(17.1)	2.11

第8表 大溝一覧表

第5節 中世の遺構

1. 溝

遺物が多く出土した東西方向の溝がある。

SD214（第69図～第72図346～459、図版14、図版15、図版18）

93G区の南側、旧SD02、SD05で東西方向に走る溝で東側で幅305cmを測り中程でSE10に切られており、西側では幅86cmと狭くなっている。深さ66cmから57cm。12世紀後半から13世紀初めと考えられる。

2. 大溝

調査区中央部以南より南北に走り南側で東に屈曲したL字型の溝で、南北に走る溝(SD01)と東西に走る溝(SD02)を称して大溝という。

SD01（第37図、第38図、第73図～第82図460～703、図版4、図版15、図版16）

調査区のはほぼ中央、93J区より以南の調査区すべてにわたり南北に走る大溝を検出した。幅8m～10m、深さ1.5m～1.6mを測る。溝の埋土は明黄白色粗砂で強い流水による堆積がみとめられた。

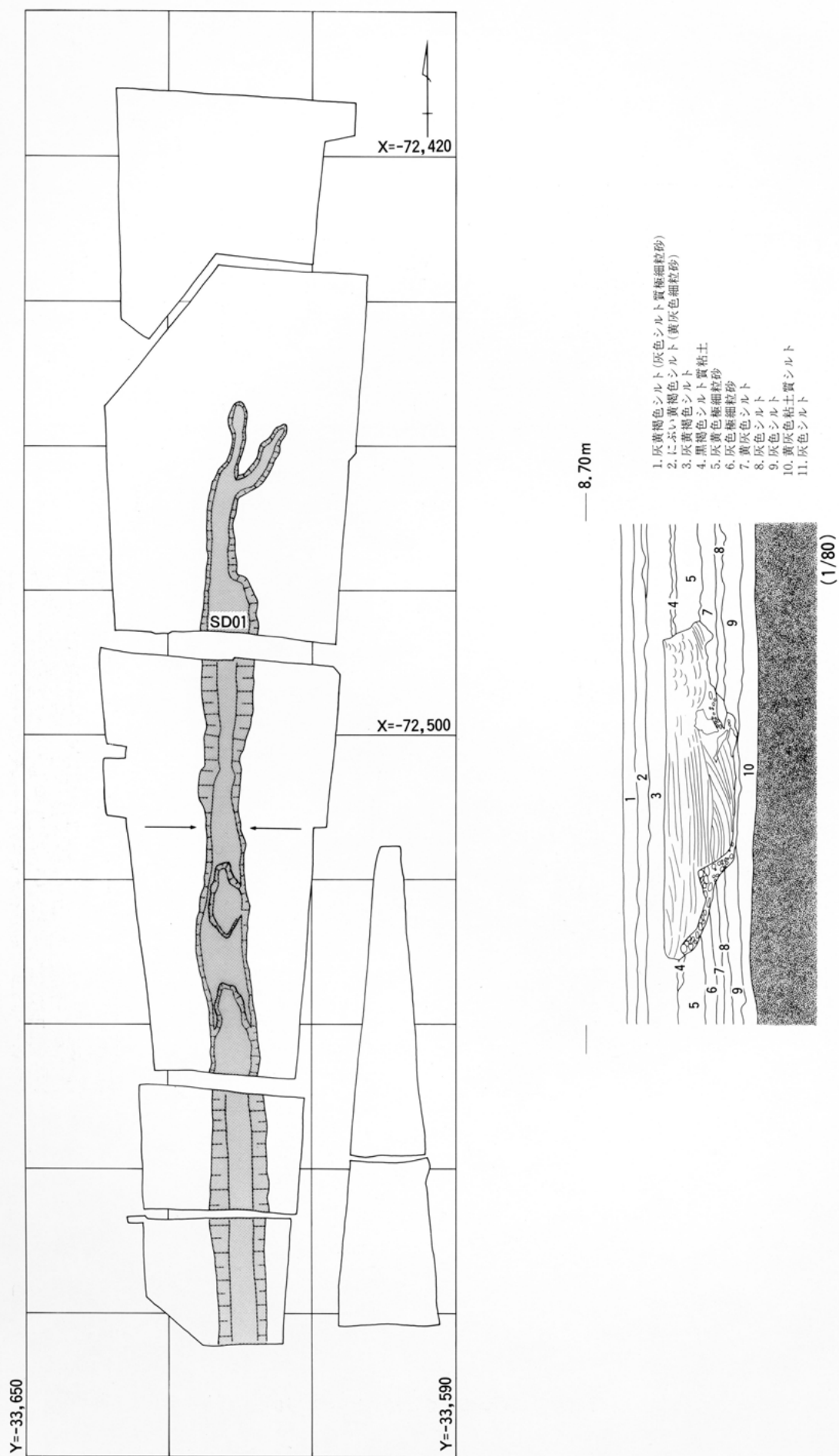
95Aa区で若干東に振れ、堆積した粗粒砂から大溝は激しい水流により埋没したとみられ、粗粒砂層の下層から出土した15世紀末から16世紀代の遺物により大溝の埋没時期を知ることができる。

詳しくは第3章第8節、大溝の堆積を参照されたい。

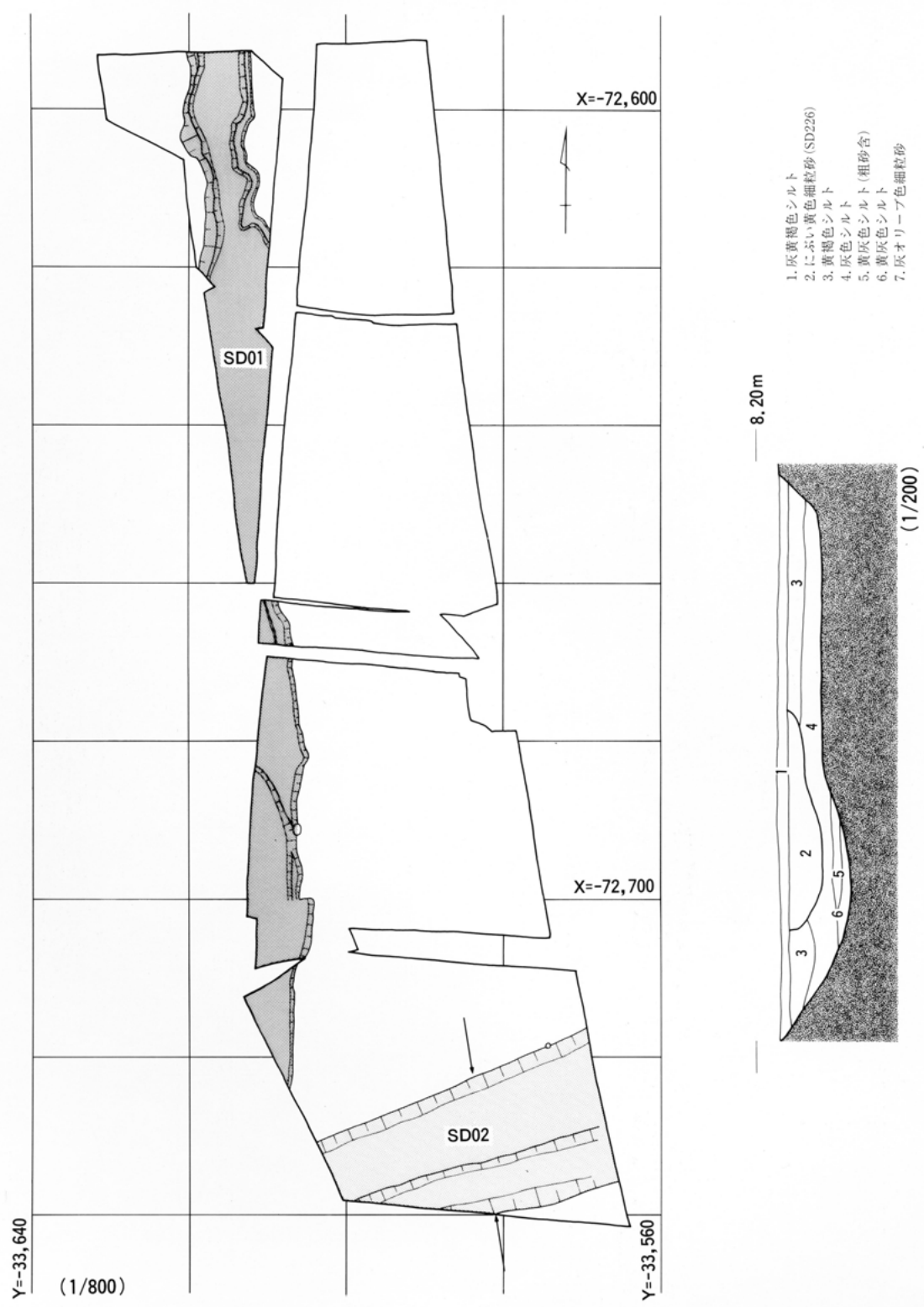
調査当初において中世の田所集落を取り囲み400m四方の溝になる可能性が考えられたが、93J区の調査によって大溝が北に延びずに終わっていることが判明した。9世紀後半から10世紀代、12世紀後半の時期に遺物が多い。この前後の時期の遺物も出土している。10世紀前半に掘削され12世紀後半頃がその中心と考えられる。



SD01土層断面



第37図 大溝SD01全体図(1) 1:800



第38図 大溝SD01全体図 (2) . 1 : 800

3. 墳墓堂遺構前の溝（第39図、第40図、第83図704～721、図版1～3、図版9）

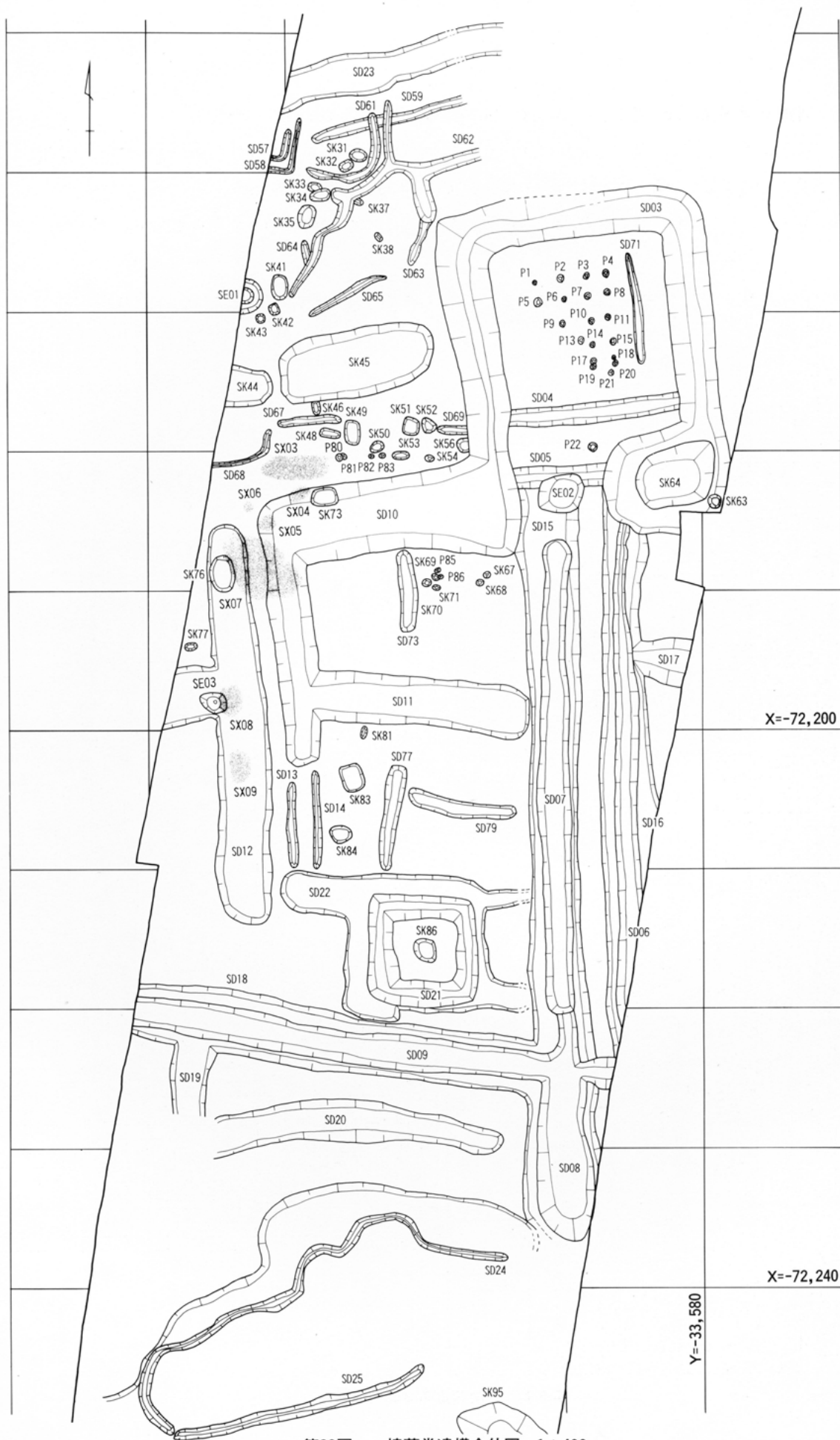
調査区北側に位置し、墳墓堂遺構に通じる南北溝で墓道の脇を走る溝SD06・07・08と墳墓堂遺構を含む墓域の南限溝等がある。SD20以外の溝は拡幅されている。

SD06 南北溝。墓道東側の溝で、旧92Ga区SD59、93K区SD06で現存長さ29m、幅1.6m、深さ49cmを測る。

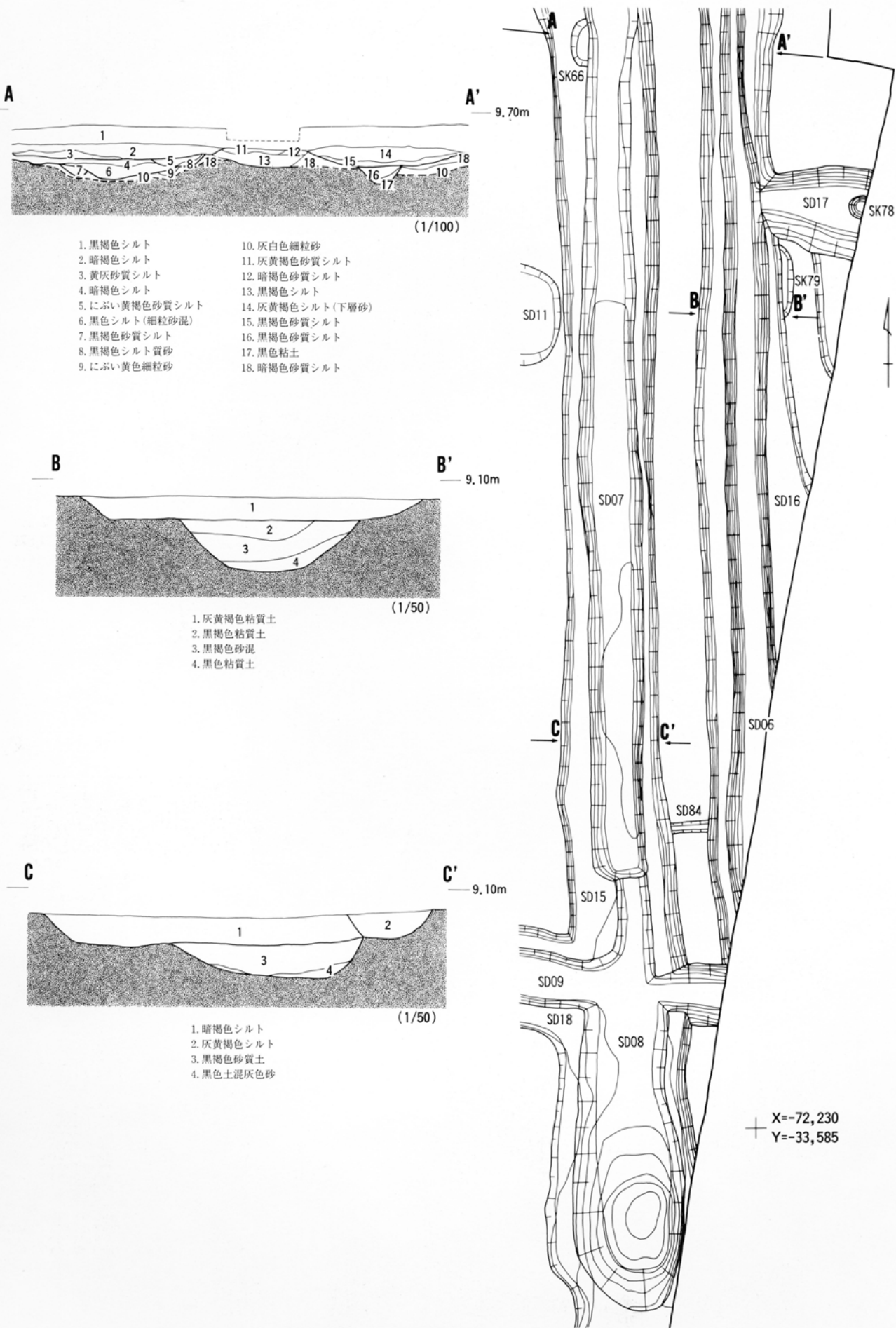
挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
7	SD03	95B	SD01	ⅡE13cd	(7.5)	(1.8)	0.80	○	13C後
7		92F	SD54	ⅡE13a15a	(9.6)	(1.7)	0.77	○	
7		92Gb	SD26	ⅡE13d16e	(15.5)	3.2	0.80	○	13C前～後
7		92Gb	SD27	ⅡE13b13d	(10.0)	(2.4)	0.79	○	
7		92Gb	SD28	ⅡE17c18e	(8.0)	(6.0)	1.09	○	13C前～後
7		93K	SD03	ⅡE13b17a	(20.9)	(3.1)	0.65	○	13C前～後
7		93K	SD17	ⅡE17b18b	(4.6)	(1.8)	0.61	○	12C後～13C前
7	SD04	92Gb	SD33	ⅡE16cd	(5.5)	0.7	0.12	○	
7		93K		ⅡE16b	(1.4)	1.2	0.31		
7	SD05	92Gb	SD38	ⅡE17bc	(6.0)	1.2	0.44		
7		93K		ⅡE17b	(1.0)	1.5	0.60		
7	SD06	92Ga	SD59	ⅡE18cⅢE5c	(29.0)	1.6	0.49	○	12C後～13C前
7	SD07	93K	SD06	ⅡE18c	3.5	0.7	0.26	○	
7		92Ga	SD58	ⅡE18bⅢE4b	(32.1)	1.9	0.37	○	13C後・15C前
7		93K	SD08	ⅡE18b	(1.7)	(2.0)	0.20	○	
7	SD10	92F	SD37	ⅡD19s	(19.3)	2.5	0.47	○	13C前
7		92F	SD62	ⅡE17aⅢD18s	(13.5)	5.4	0.48	○	13C後
7		93K	SD04	ⅡE1718ab	(5.2)	(6.5)	0.30	○	13C前
7	SD12	92F	SD61	ⅡD18r19r	(13.0)	3.2	0.20	○	13C後
7	SD15	92Ga	SD29	ⅡE18bⅢE5b	(36.6)	1.8	0.15	○	13C前
7		92Ga	SD57	ⅡE19cⅢE2c				○	14C後～15C前
7		93K	SD02	ⅡE17b18c	(5.6)	(4.4)	0.50	○	
7	SD16	92Ga	SD25	ⅡE18bⅢE5c	(33.4)	2.6	0.28	○	
7		93K	SD01	ⅡE17c18d	(4.6)	(2.9)	0.24	○	13C後
8	SD18	92Ga	SD58	ⅡE18bⅢE4b	(32.1)	1.9	0.37	○	13C後・15C前
8	SD09	92Ga	SD64	ⅢE5bc	(2.0)	(4.0)	0.28	○	
8		92Ga	SD65	ⅢE5c6c	(2.5)	2.4	0.52	○	12C後
8		93K	SD15	ⅢE5b	(6.1)	2.3	0.18	○	13C後
8		93Eb	SD21	ⅢD4p5t	(21.0)	2.5	0.21	○	13C前
8	SD11	92F	SD34	ⅢD20sⅢE20a	(11.1)	3.8	0.28	○	
8		92Ga		ⅢE20bⅢE1b	2.9	(0.5)	0.16	○	
8		93K	SD05	ⅢE20aⅢE1b	(5.1)	3.5	0.19	○	
8	SD12	92F	SD23	ⅢD20q	(3.2)	4.2	0.26	○	13C後
8		92F	SD36	ⅢD1r2r	(11.0)	4.2	0.26	○	12C後・13C後
8		93Eb	SD18	ⅢD3r	(4.2)	4.1	0.12	○	
8	SD13	92F		ⅢD1s2s	(5.8)	0.7	0.14	○	
8	SD14	92F		ⅢD1s2s	(6.7)	0.6	0.07	○	
8	SD15	93K	SD18	ⅢE1b	(1.8)	(0.5)	0.10	○	13C前
8	SD17	92Ga	SD60	ⅢE18c20d	(3.9)	3.5	0.54	○	13C前・後
8	SD18	93K		ⅢE5a6b	(6.1)	4.0	0.09	○	
8		93Eb	SD19	ⅢD4p5t	(21.0)	4.5	0.25	○	12C後
8	SD19	93Eb	SD42	ⅢD5p6p	(5.0)	2.6	0.20	○	
8	SD20	93K	SD16	ⅢE6a7b	(4.9)	1.8	0.37	○	13C後
8		93Eb	SD20	ⅢD6rⅢE6a	(15.0)	(3.1)	0.33	○	
7	SD23	95B	SD07	ⅢD11tⅢE10b	(4.7)	2.30	0.35	○	
7		92F	SD51	ⅢD11st	(8.8)	2.9	0.32	○	12C後
7		93K	SD09	ⅢD11tⅢE11a	(2.9)	2.3	0.28	○	
8	SD21	93K	SD14	ⅢE3a4a	(10.0)	1.5	0.63	○	13C前
8		93Eb	SD22	ⅢD3rⅢE4a	(13.0)	(2.0)	0.45	○	
8		93Eb	SD24	ⅢD4t	(12.5)	2.3	0.85	○	13C後
8	SD22	93Eb	SD22	ⅢD3t4t	(9.0)	1.7	0.18	○	14C後～15C前
8		93Eb	SD26	ⅢD3s	(5.0)	2.6	0.26	○	15C前
8	SD24	93K2		ⅢE9a9b	(6.1)	0.5	0.22	○	
8		93Eb2	SD34	ⅢD11qⅢE8a	(27.6)	0.7	0.11	○	
8	SD25	93K2		ⅢE11a	(1.3)	(0.4)	-		
8		93Eb2	SD29	ⅢD11qⅢE10a	(17.8)	1.1	0.21	○	
7	SD57	92F	(6)	ⅢD12rs	(2.9)	0.4	0.11	○	
7	SD58	92F	(7)	ⅢD12rs	(5.6)	0.4	0.08	○	
7	SD59	92F	(8)	ⅢD12st	(8.0)	0.9	0.13	○	
7		93K	SD13	ⅢD12tⅢE12a	(3.2)	0.5	0.10	○	
7	SD61	92F	(9)	ⅢD12st	(9.0)	0.7	0.13	○	
7	SD62	92F	SD53	ⅢE12aⅢD14s	(16.5)	1.2	0.21	○	
7		93K	SD07	ⅢE13t	(3.3)	(1.0)	0.19	○	
7	SD63	92F	(19)	ⅢE13aⅢD14t	(3.2)	0.7	0.09	○	
7	SD64	92F	(23)	ⅢD14s	(1.5)	0.5	0.09	○	
7	SD65	92F	(24)	ⅢD14t15s	6.2	0.6	0.04	○	
7	SD67	92F	(25)	ⅢD16r16s	4.5	0.6	0.29	○	
7	SD68	92F	(30)	ⅢD16r17r	(5.2)	0.5	0.22	○	
7	SD69	92F	SK83	ⅢE16a	1.0	0.7	0.13	○	13C前
7		93K	(2)	ⅢE16a	1.1	0.5	0.12	○	
7	SD71	92Gb	SD31	ⅢE14c15d	8.1	0.7	0.06	○	
7	SD73	92F	(39)	ⅢD18r19t	5.8	1.2	0.09	○	
8	SD77	92F	SD24	ⅢD1t2t	(7.2)	1.4	0.19	○	
8		93Eb	(2)	ⅢD3t	(0.7)	(0.2)	0.08	○	
8	SD79	92F	(56)	ⅢD1tⅢE2a	(3.2)	1.2	0.22	○	
8		93K	SD20	ⅢE2a2b	(4.7)	1.0	0.17	○	

挿図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
7	P1	92Gb		ⅢE14b	0.4	0.3	0.13		
7	P2	92Gb		ⅢE14b	0.6	0.5	0.08		
7	P3	92Gb		ⅢE14c	0.5	0.5	0.21		
7	P4	92Gb	P21	ⅢE14c	0.6	0.4	0.38		
7	P5	92Gb		ⅢE14b	0.6	0.6	0.44		
7	P6	92Gb		ⅢE14b	0.4	0.4	0.06		
7	P7	92Gb		ⅢE14c	0.5	0.4	0.37		
7	P8	92Gb		ⅢE14c	0.5	0.4	0.30		
7	P9	92Gb		ⅢE15b	0.5	0.4	0.03		
7	P10	92Gb		ⅢE15c	0.5	0.4	0.34		
7	P11	92Gb		ⅢE15c	0.5	0.4	0.18		
7	P12	92Gb		ⅢE15d	0.4	0.4	-		
7	P13	92Gb		ⅢE15c	0.6	0.5	0.11		
7	P14	92Gb	P20	ⅢE15c	0.4	0.4	0.20		
7	P15	92Gb		ⅢE15c	0.6	0.5	0.18		
7	P16	92Gb		ⅢE15d	0.5	0.5	-		
7	P17	92Gb		ⅢE15c	0.4	0.4	0.14		
7	P18	92Gb		ⅢE15c	0.3	0.3	0.31		
7	P19	92Gb	P02	ⅢE15c	0.5	0.4	0.30	○	
7	P20	92Gb		ⅢE15c	0.4	0.3	0.38		
7	P21	92Gb		ⅢE15c	0.4	0.4	0.22		
7	P22	92Gb	P23	ⅢE16c17c	0.7	0.7	0.21	○	
7	P80	92F		ⅢD17s	(0.4)	0.4	0.06		
7	P81	92F		ⅢD17s	0.4	0.4	0.13		
7	P82	92F		ⅢD17t	0.3	0.3	0.06		
7	P83	92F		ⅢD17t	0.4	0.4	0.04		
7	P85	92F		ⅢE18a	0.5	0.4	0.06		
7	P86	92F		ⅢE18a	0.4	0.3	0.06		
7	SK31	92F		ⅢD12t	1.2	1.0	0.06		
7	SK32	92F		ⅢD12s	0.9	0.7	0.05		
7	SK33	92F		ⅢD13s	0.9	0.6	0.07		
7	SK34	92F	SK78	ⅢD13s	1.5	0.9	0.05		
7	SK35	92F	SK80	ⅢD13s	1.6	1.4	0.32		
7	SK37	92F	SK81	ⅢD13t	(0.6)	0.5	0.09	○	13C後
7	SK38	92F	SK82	ⅢD13t	0.6	0.5	0.16	○	
7	SK41	92F		ⅢD14r	1.8	1.2	0.02		
7	SK42	92F		ⅢD14r15r	0.8	0.7	0.06		
7	SK43	92F		ⅢD15r	0.7	0.6	0.12		
7	SK44	92F	SK28	ⅢD15r16r	3.1	3.0	0.31	○	
7	SK45	92F	SD55	ⅢE15aⅢD16s	11.3	4.9	0.34	○	13C前
7	SK46	92F	SK84	ⅢD16s	1.0	0.5	0.11		
7	SK48	92F	SK85	ⅢD16s	1.5	0.6	0.07	○	
7	SK49	92F		ⅢD16s16t	1.7	1.1	0.11		
7	SK50	92F		ⅢD16t17t	1.0	0.9	0.13		
7	SK51	92F		ⅢD16t	1.3	1.2	0.11		
7	SK52	92F		ⅢE16a	1.1	1.0	0.16		
7	SK53	92F		ⅢD17t	1.2	0.6	0.08		
7	SK54	92F		ⅢE17a	0.6	0.5	0.10		
7	SK56	93K		ⅢE16a	(0.8)	0.9	0.09		
7	SK63	92Gb		ⅢE17e	1.6	1.0	0.18		
7	SK64	92Gb	SK70	ⅢE17ce	(8.5)	(6.0)	1.09	○	
7	SK67	93K		ⅢE18a	0.4	0.4	0.08		
7	SK68	93K		ⅢE18a	0.5	0.4	0.09		
7	SK69	92F		ⅢE18a	(0.6)	0.4	0.07		
7	SK70	92F		ⅢE18a	0.6	0.6	0.05		
7	SK71	92F		ⅢD18a19a	0.7	0.4	0.05		
7	SK73	92F	SK87	ⅢD17s	1.9	1.4	0.13	○	
7	SK76	92F	SK88	ⅢD18r19r	2.6	1.9	0.14	○	13C後
8	SK77	92F	SK91	ⅢD19q	0.8	0.5	0.06	○	13C前
8	SK81	92F	SK90	ⅢD1t	0.9	0.5	0.07	○	
8	SK83	92F	SK92	ⅢD1s1t	2.0	1.6	0.03	○	
8	SK84	92F	(55)	ⅢD2s	(1.5)	1.2	0.06		
8	SK86	93Eb	SK167	ⅢD4tⅢE4a	(1.3)	(1.7)	0.60		
7	SE01	92F	SK79	ⅢD14r	(2.6)	(1.4)	0.51		
7	SE02	92Gb	SK77	ⅢE17bc	(3.8)	(2.0)	0.73	○	
7	SE02	93K	SE01	ⅢE17bc	(2.9)	(0.7)	0.54	○	13C前
8	SE03	92F2	SK94	ⅢD20q20r	1.9	1.6	0.90		

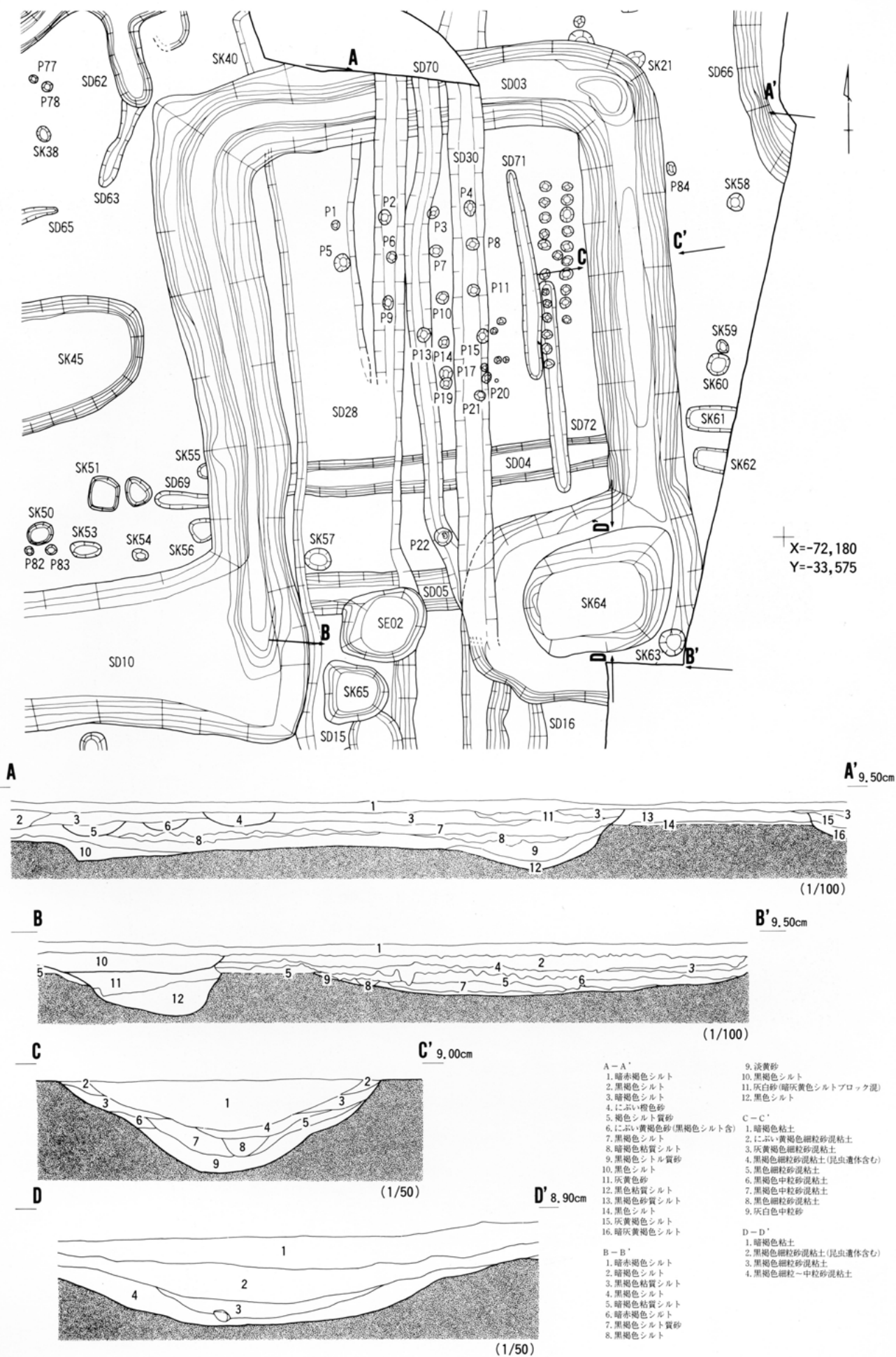
第9表 墳墓堂遺構関係一覧表



第39回 墳墓堂遺構全体図 1:400



第40図 墓道遺構実測図 1:200



- SD07・08** 南北溝。墓道西側の溝で、旧92Ga区SD58、93K区SD08で現存長さ32m、幅1.9m、深さ37cmを測る。SD15がこの溝を掘削している。
- SD09** 東西溝。墓域の南限溝である。堂の建物より南約40mで検出。旧93Eb区SD21、93K区SD15で現存長さ34m、幅2m30cmから50cm、最も深い所で52cmを測る。SD18がこの溝を掘削している。12世紀後半から13世紀後半の灰釉系陶器が出土。
- SD15** 南北溝。旧92Ga区SD29・SD57、93K区SD02で墳墓堂南側のSE02以南でSD08と同じ墓道西側の溝。13世紀前半から15世紀初めの灰釉系陶器が出土。
- SD16** 南北溝。旧92Ga区SD25、93K区SD01で墳墓堂南側でSD06と同じ墓道東側の溝。13世紀後半の灰釉系陶器が出土。
- SD18** 旧93Eb区SD19、墓域の南限の東西溝でSD09の上に掘られている。現存長さ34m、最大幅幅4m50cm、深さ25cmを測る。12世紀後半から13世紀前半の灰釉系陶器が出土。
- SD20** 東西溝。旧93Eb区SD20、93K区SD16、墓域の南限の溝で東で終る。13世紀後半の灰釉系陶器が出土。

4. 墳墓堂遺構の周溝（第39図、第41図、第84図722～753、図版1～3、図版9）

調査区北側に位置する区画された墳墓堂遺構の周溝で幅3mから6m、深さ80cmを測り、南側で溝は切れている。

- SD03** 旧95B区SD01と92Gb区SD27は北側溝、92Gb区SD26は東側溝、92Gb区SD28は南側溝、旧92F区SD54、93K区SD03・17は西側溝である。最大長は北側で19m、東側で23m、西側で22m、南側で9mを測る。

5. 墳墓堂遺構内の建物（第39図、第41図、図版1～3、図版9）

調査区の北側、旧92Gb区でSD03によって構成された区画である。平坦部の幅が東西約13m、南北15mを測り、溝によって囲まれた内部から総柱掘立柱建物が1棟検出された。柱穴は21ヶ所検出し、長径30cm～60cm、深さ11cm～44cmで礎板と柱根の遺存したものもあった。建物は東西3間（約5m）、南北4間（約6.5m）である。

6. 方形区画溝（第39図、第41図754～757、図版1～3、図版9、図版16）

堂の南西部に位置し、方形に区画した幅約5mの溝が規則的に東西・南北方向に配置されており、約20m前後の方形区画群を形成している。

- SD10** 旧92F区SD37の西溝、旧92F区SD62と93K区SD04の北溝でSD11の南溝とで方形区画となる。最大長は北溝で19m30cm、幅6m50cm、深さ47cm、西溝で19m、幅30cm、深さ48cmを測る。13世紀代の灰釉系陶器が出土。北西コーナー部分で集石（SX06）が、SK73の北西に接した位置に集石（SX05）が検出された。

SD11 旧92F区SD34、93K区SD05の南溝でSD10とで方形区画となる。最大長は18m、幅は3m80cm、深さは28cmを測る。

SD12 旧92F区SD61・36、93Eb区SD18の南北方向の溝とまん中より西方向の92F区SD23の溝がありT字を横にしたような形状となる。南北溝の最大長は29m、幅は4m、深さは26cmを測る。13世紀後半の灰釉系陶器が出土。

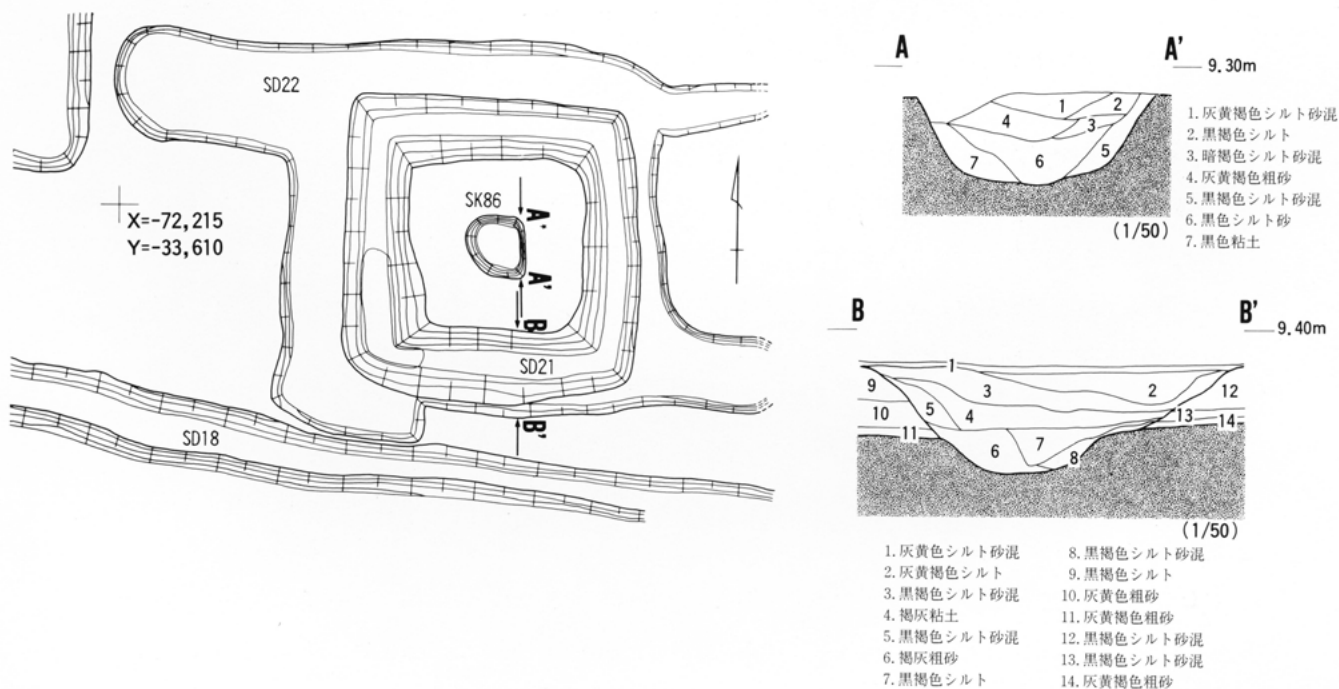
7. 方形台状遺構（第39図、第42図、図版1～3、図版9）

墓域の南限に位置する溝のある方形台状の遺構で台状部は約4m四方の広さである。

SD22 旧93Eb区SD22で西側の南北溝、最大長10m、幅2m、深さ18cm、旧93Eb区SD26で北側の東西溝、最大長17m、幅3m～1m、深さ26cm、東側の南北溝は最大長8m90cm、幅1m、南側の東西溝は最大長さ12m80cm、幅95cm～2mを測り、南西部分の溝幅が2mと広がっている。14世紀後半から15世紀前半の灰釉系陶器が出土。

SD21 SD22の内側の旧93Eb区SD24と93K区SD14の周溝で、西側溝、北側溝、東側溝はともに7m40cm、南溝が7m80cmとやや長い溝となる。周溝の断面はV字状を呈し、幅1m50cm～2m30cm、深さ63cm～85cmと深い周溝である。

SK86 台状部中央に位置する長軸1m70cm、短軸1m30cmの土坑で、その中から土師質皿が1点出土。中世の塚墓かと考えられる。

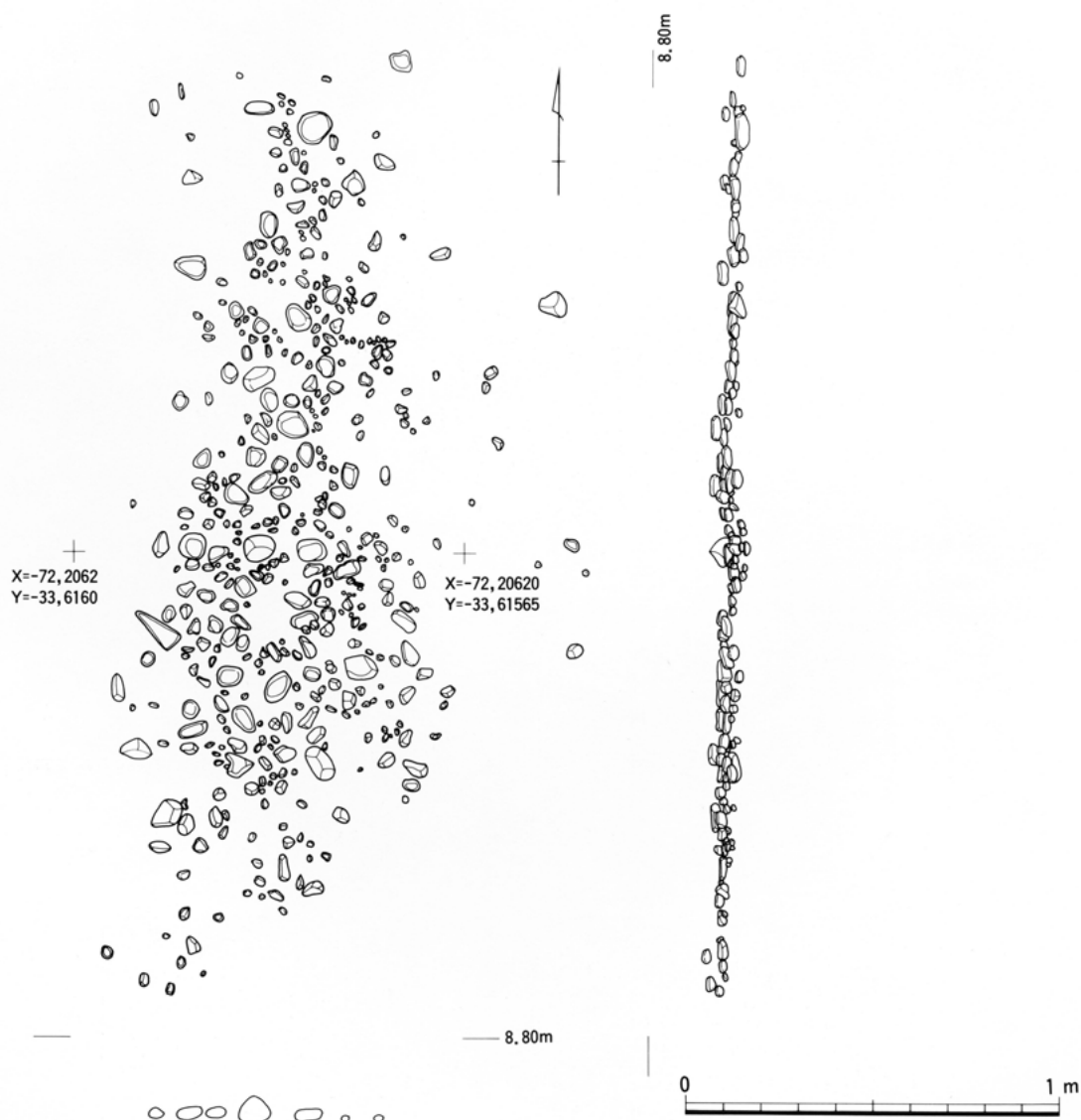


第42図 方形台状遺構実測図 1:200

8. 集石遺構（第43図～第45図）

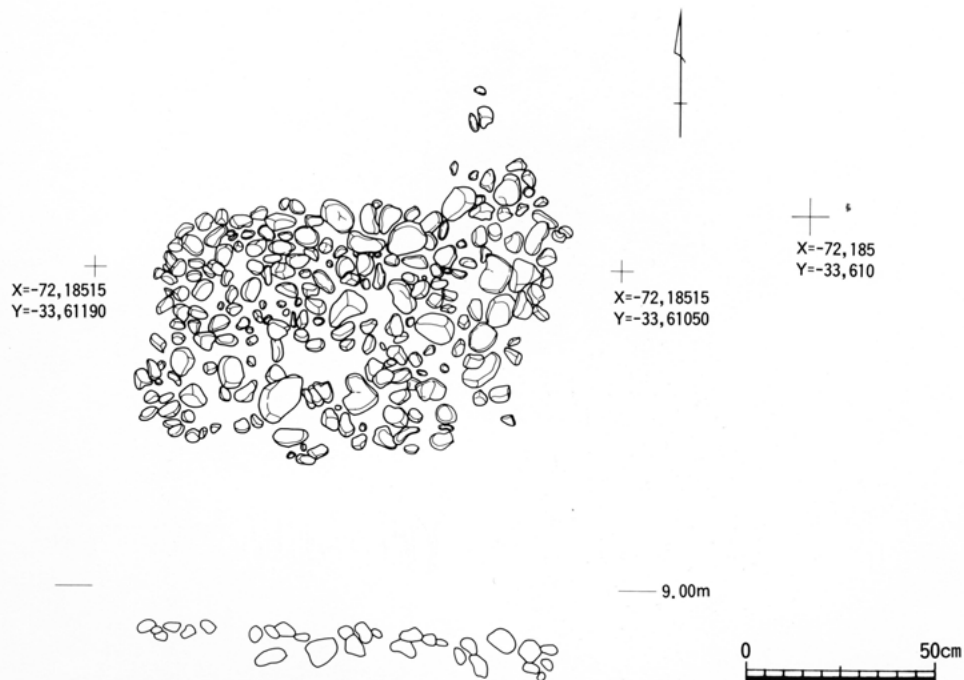
いずれも墳墓堂遺構の南西に位置する。SD12の北半とSD10の北西コーナー部分で7ヶ所（SX04～SX10）検出した。比較的良好な形で残っていたのはSX05・08・09である。

完全な区画は復元できないが、それぞれの集石は円礫によって長方形や正方形に区画されているように見える。外側の区画には径8cm～10cmの円礫を用い、内側の区画はそれより小さい円礫を用いている。区画は一辺40cm、小さい区画では20cmを測る。集石の下より墓壙は検出されず、出土遺物もなかった。



第43図 集石遺構実測図（1）：SX09

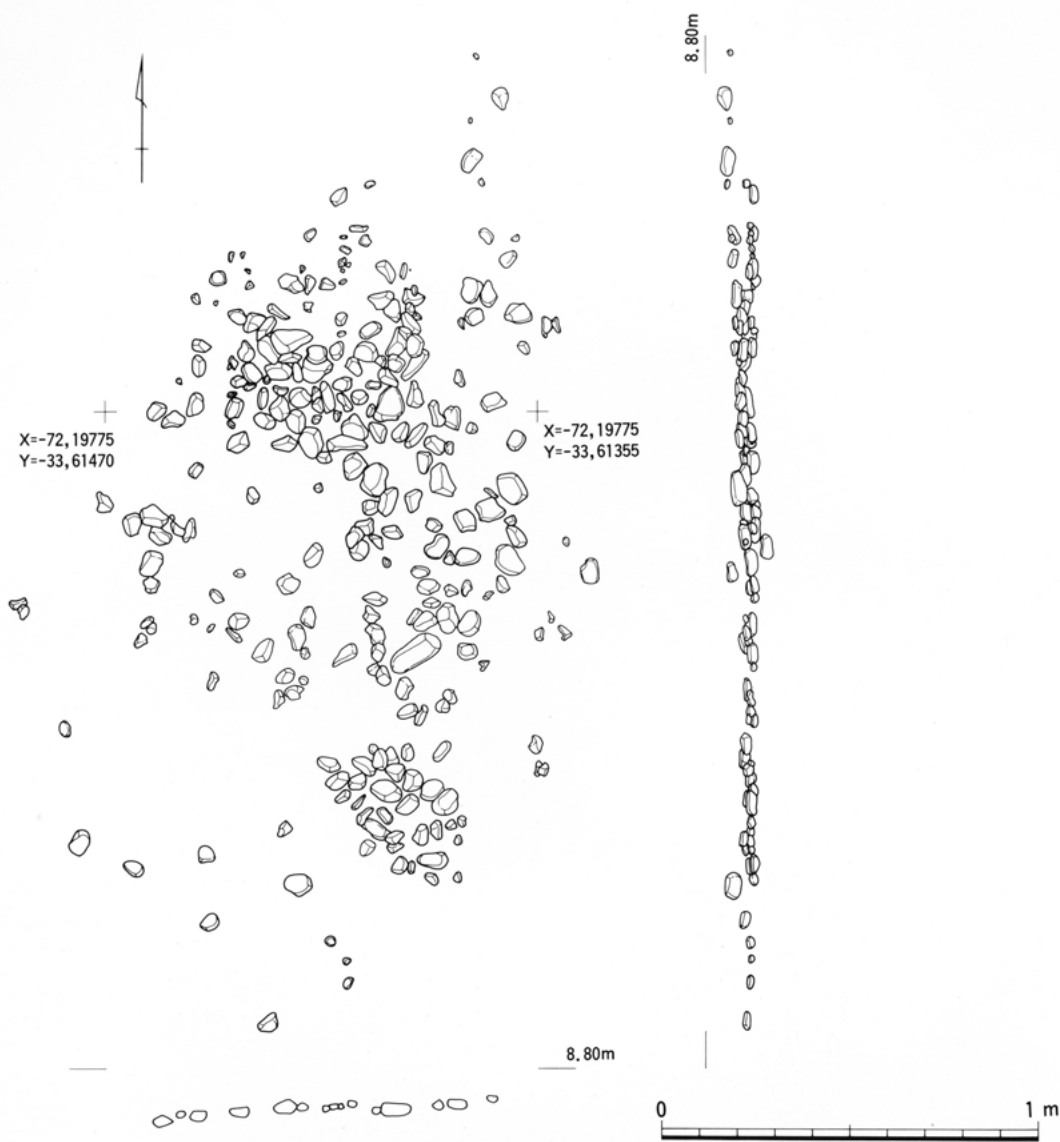
- S X 0 9** S D 1 2 の中程よりやや下がった所に位置し、旧92F区 S X 1 0 である。南北に細長く長軸 2 m 50cm、短軸 1 m 30cmの広がりである。区画したと思われる径 8 石が中央部に 4 個一列に並んでいる。
- S X 0 8** S D 1 2 の中程で S X 0 9 の北側に位置し、旧92F区 S X 0 9 である。長軸 1 m 60cm、短軸 1 m 60cmの広がりである。径10cm前後の石が密集した北部分では長軸40cm、短軸25cmの長方形区画を呈する。径 8 cm 前後の石が密集した南東部分は一辺20cm前後の方形区画を呈する。
- S X 0 5** S K 7 3 の北側に位置し、旧92F区 S X 0 5 である。集石遺構のなかで一番密集した状態の遺構で、S D 1 0 に規制されたのか東西に広がっている。長軸 1 m 10cm、短軸80cmの長方形を呈する。径10cm前後の石が北東隅に集まっており長軸40cm、短軸30cmの長方形を呈した区画となっている。



第44図 集石遺構実測図（2）：S X 0 5

挿 図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺 物
7	SX02	95B	SX02	Ⅱ E12c	(1.5)	(0.6)	-	○
7	SX03	92F	SX04	Ⅱ D17r17s	(5.0)	(1.5)	-	
7	SX04	92F	SX06	Ⅱ D17s	(1.5)	(0.6)	-	
7	SX05	92F	SX05	Ⅱ D18r	1.1	0.8	-	
7	SX06	92F	SX07	Ⅱ D17r	(1.0)	(0.5)	-	
7	SX07	92F	SX08	Ⅱ D18rs	(5.5)	(4.0)	-	
8	SX08	92F	SX09	Ⅱ D20r	1.6	1.6	-	
8	SX09	92F	SX10	Ⅲ D1r	2.5	1.3	-	

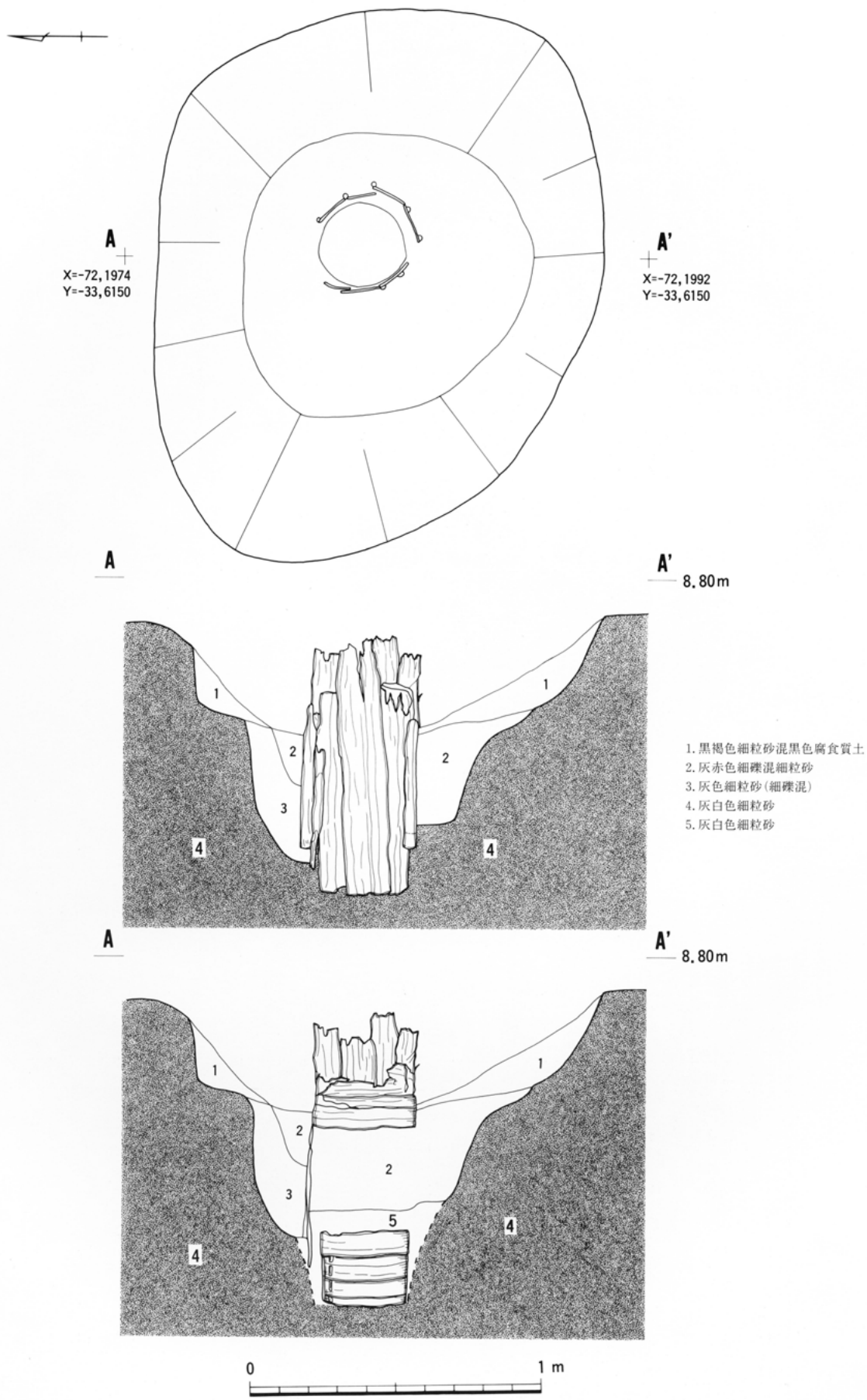
第10表 集石一覧表

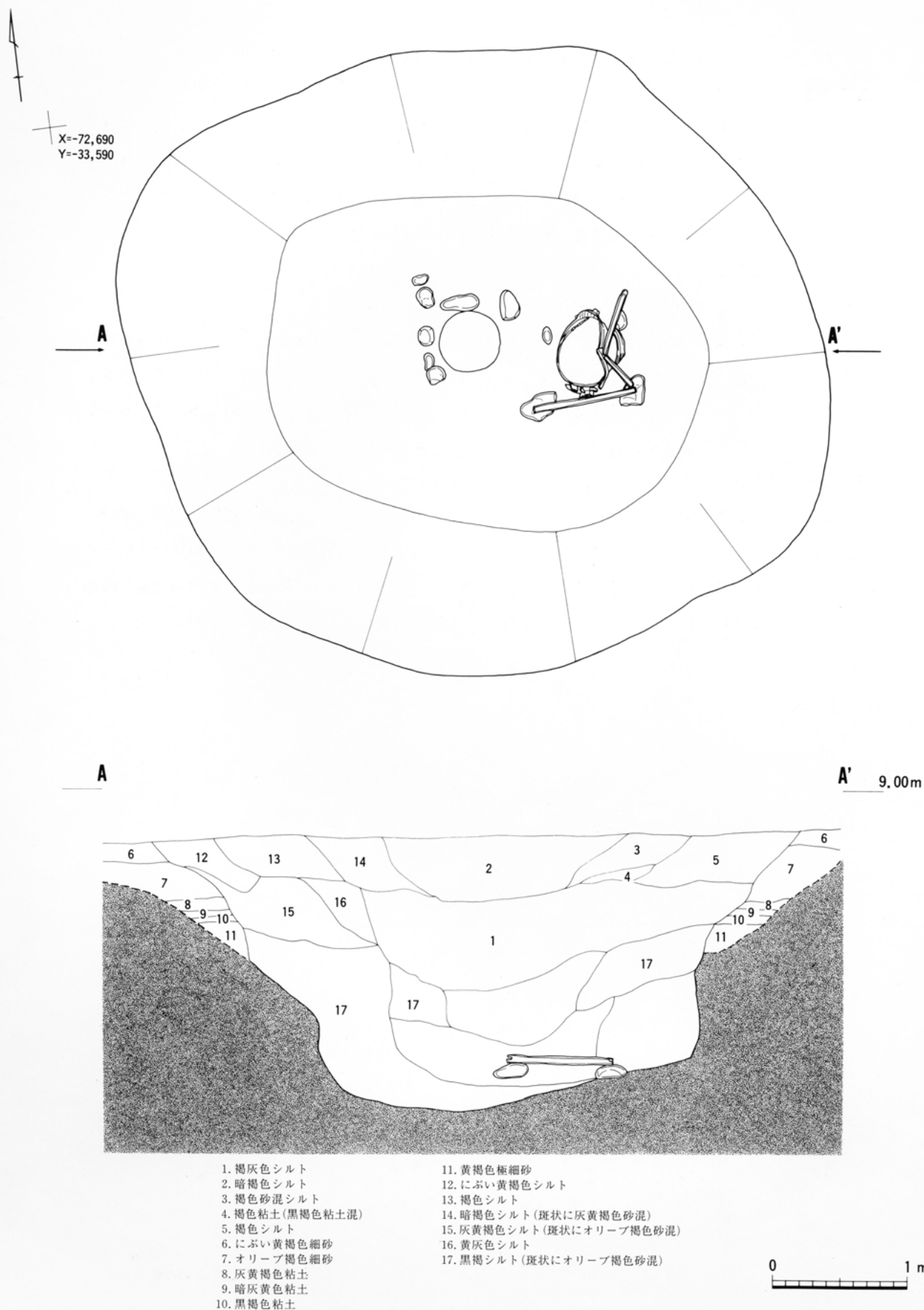


第45図 集石遺構実測図（3）：S X 0 8

挿 図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺 物	時 期
7	SE01	92F	SK79	Ⅱ D14r	(2.6)	(1.4)	0.51		
7	SE02	92Gb	SK77	Ⅱ E17bc	(3.8)	(2.0)	0.73	○	
7	SE02	93K	SE01	Ⅲ E17bc	(2.9)	(0.7)	0.54	○	13C前
8	SE03	92F	SK94	Ⅱ D20q20r	1.9	1.6	0.90		
8	SE04	93K	SE02	Ⅲ E6b	2.0	1.7	0.55		
11	SE05	94Aa	SE01	Ⅵ D2p	1.4	1.4	0.85	○	10C前・14C
11	SE06	93I	SE01	Ⅵ D4q	2.4	2.3		○	
12	SE07	95Aa	SD06	Ⅳ D1o2s	(14.0)	(7.0)		○	9C前
13	SE08	93G	SE04	Ⅶ E15b	3.4	3.2	0.89	○	12C末～13C初
13	SE09	93G	SE01	Ⅶ E19c	5.5	4.7	1.01	○	13C後半
13	SE10	93G	SE02	Ⅶ E20cd	4.2	3.6	1.27	○	13C後半
13	SE11	93G	SE03	Ⅶ E1d	2.8	2.6	0.68	○	14C前半

第11表 井戸一覧表





第47図 井戸実測図(2):SE09

9. 井戸 (第47図～第53図、第86図～第88図758～843、図版10、図版16、図版18)

SE03 (第46図)

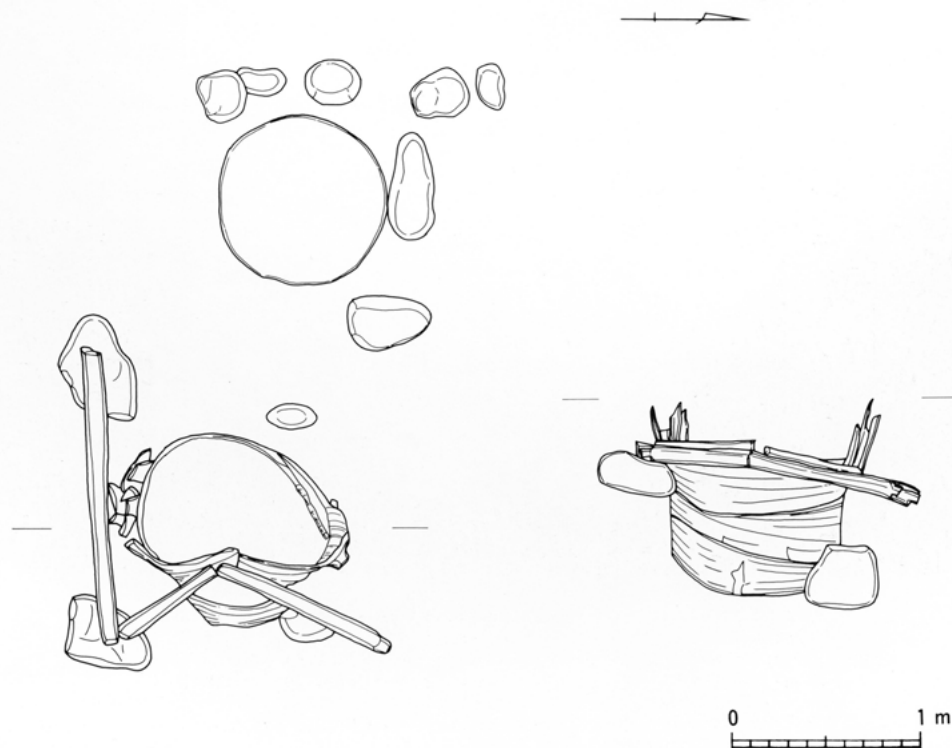
墳墓堂遺構の南西に位置するSD12の中ほどの西に延びる溝でSX08の下面付近に位置し旧92F区SK94である。縦板組横棧どめ、井筒に曲物を持つ井戸。長径1 m 90cm、短径1 m 60cmの楕円形の掘方を持つ。検出面よりの深さ90cmで曲物基底部で7 m 20cmの標高を測る。井筒の曲物の径は30cmで上段と下段の曲物が残っていた。遺物は出土しなかった。

SE09 (第47図、第48図、第86図758～783、図版10、図版16)

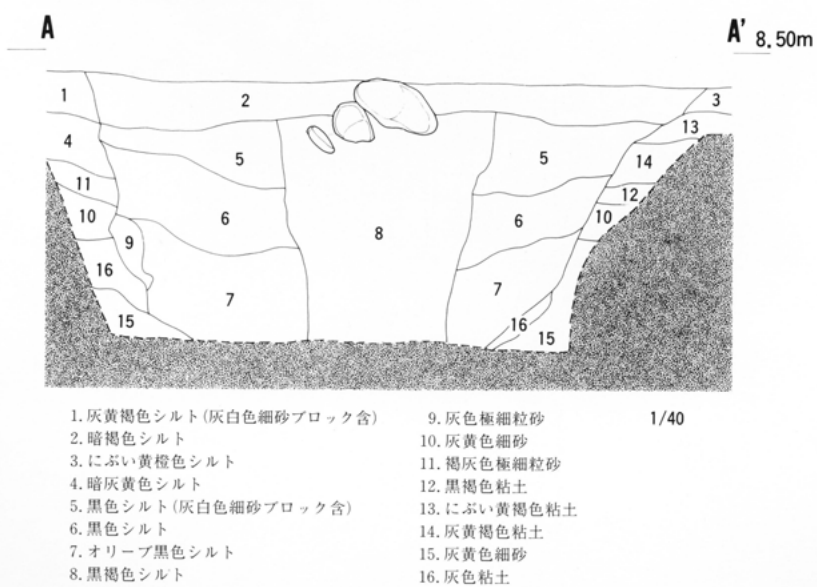
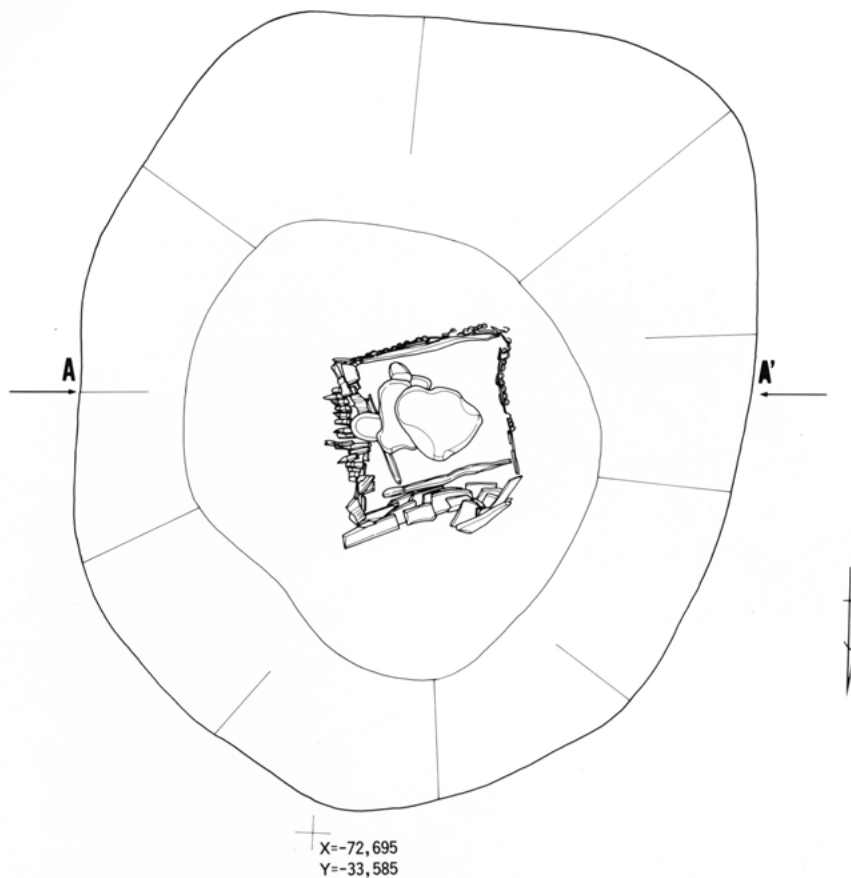
調査区の南端に位置し旧93G区SE01である。縦板は抜き取られたのか横棧どめの一部と井筒の曲物を2ヶ所で検出した。長径5 m 50cm、短径4 m 70cmの楕円形の大きな掘方を持つ。西側の曲物の径45cm、東側の曲物径50cmでそれぞれ1段のみ。井戸基底部の標高7 m 46cm。灰釉系陶器等が出土。13世紀後半。

SE10 (第49図、第50図、第87図784～819、図版10)

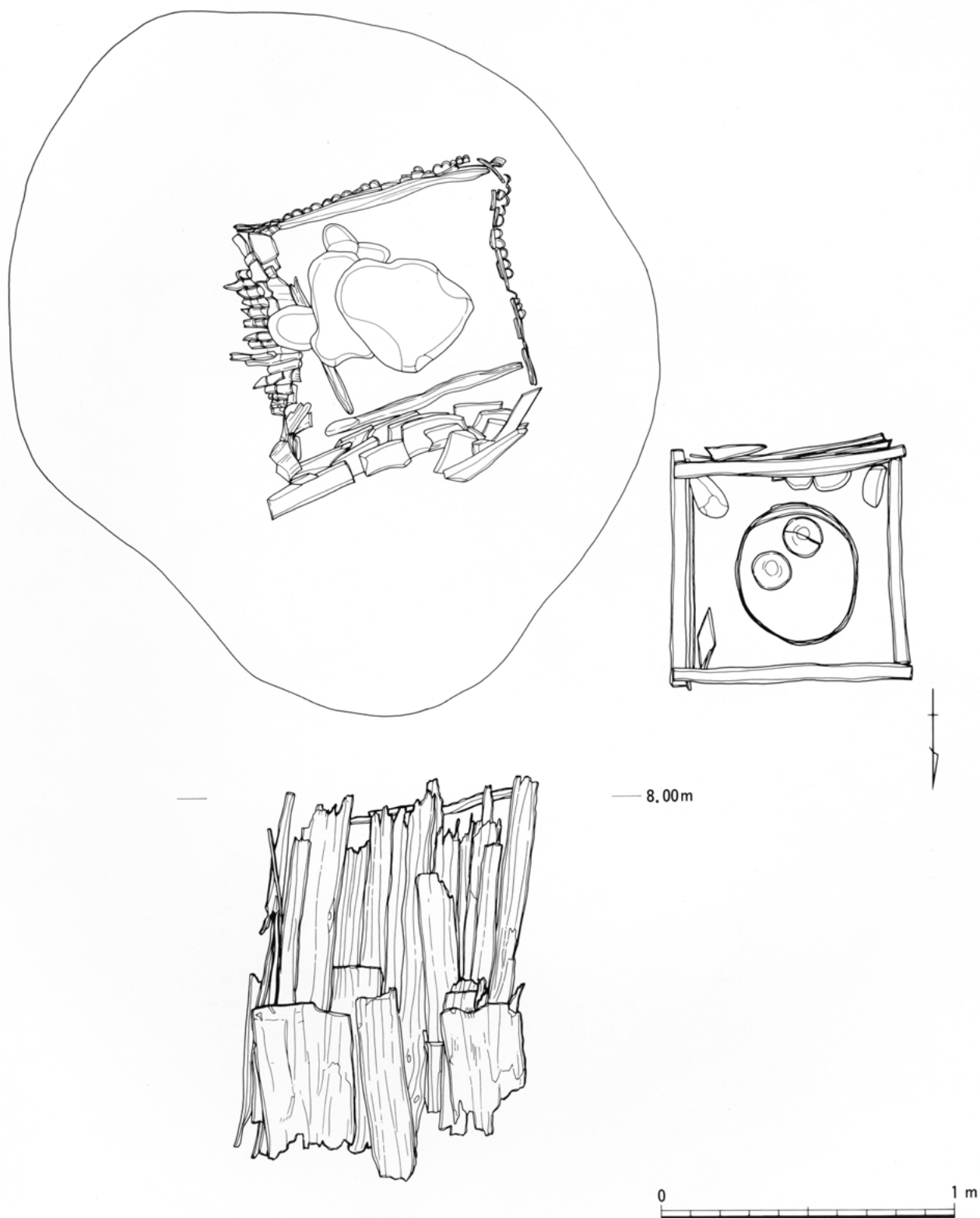
調査区の南端SE09の南側で、旧93G区SE02である。縦板組横棧どめ、井筒に曲物を持つ井戸。長径4 m 20cm、短径3 m 60cmの楕円形の掘方を持つ。縦板は2段となる。井戸の上面では長径47cmの石と長径24cmの石が重なって出土し、曲物の底より灰釉系陶器の椀(791・792)が2点出土した。遺物出土の標高は6 m 50cm。13世紀後半。



第48図 井筒出土状態図：SE09



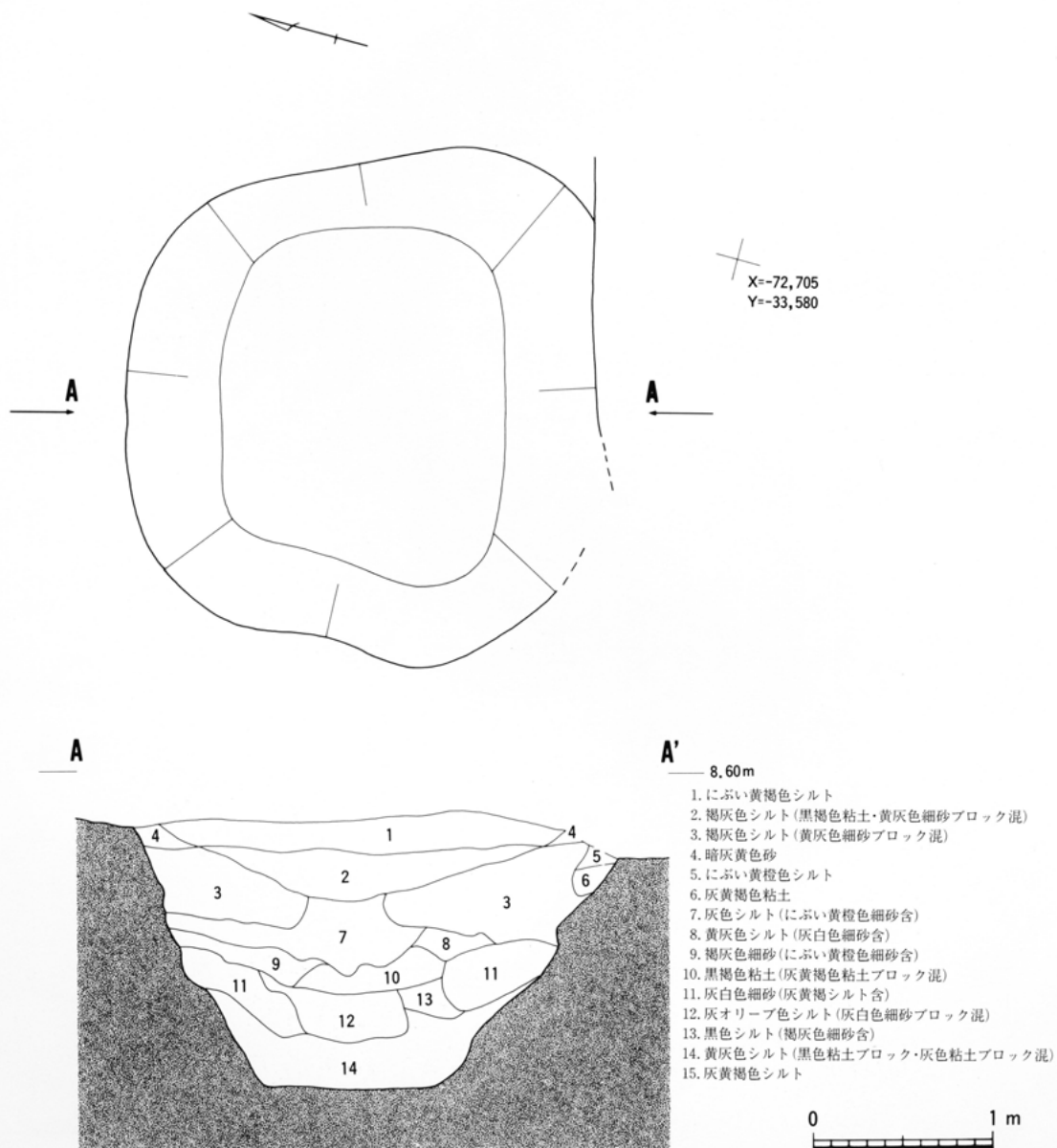
第49図 井戸実測図(3):SE10



第50図 井戸枠出土状態図：SE、10

SE11 (第51図、第88図820、821)

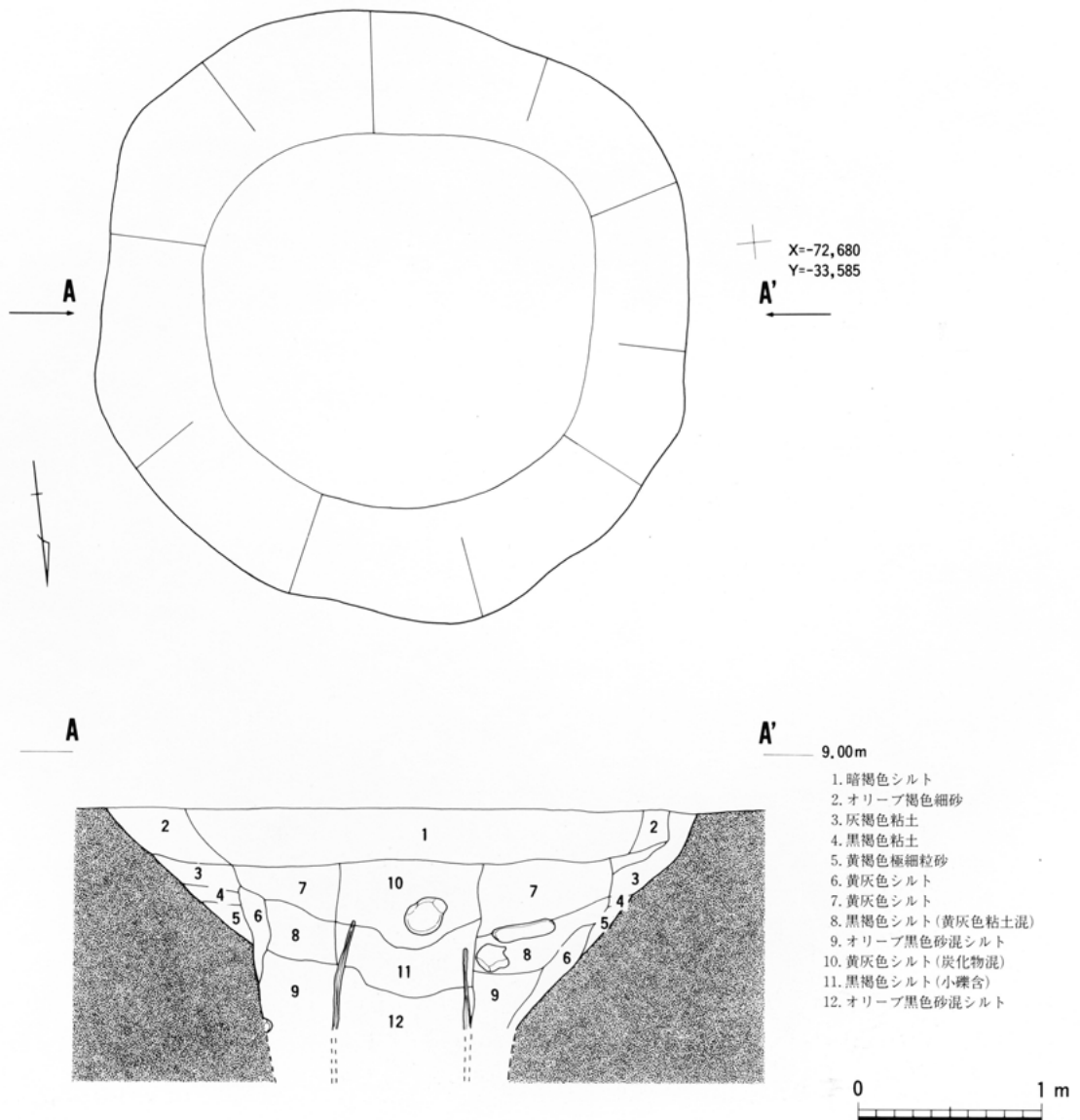
調査区の南端、SE10の東南側で、井戸としても南端に位置する旧93G区SE03である。長径2 m80cm、短径2 m60cmの円形状の掘方を持つ。井筒は抜き取られたのか何もなかった。井戸基底部の標高7 m45cm。灰釉系陶器が出土。14世紀前半。



第51図 井戸実測図(4): SE11

SE08 (第52図、第88図822~843、図版10、図版18)

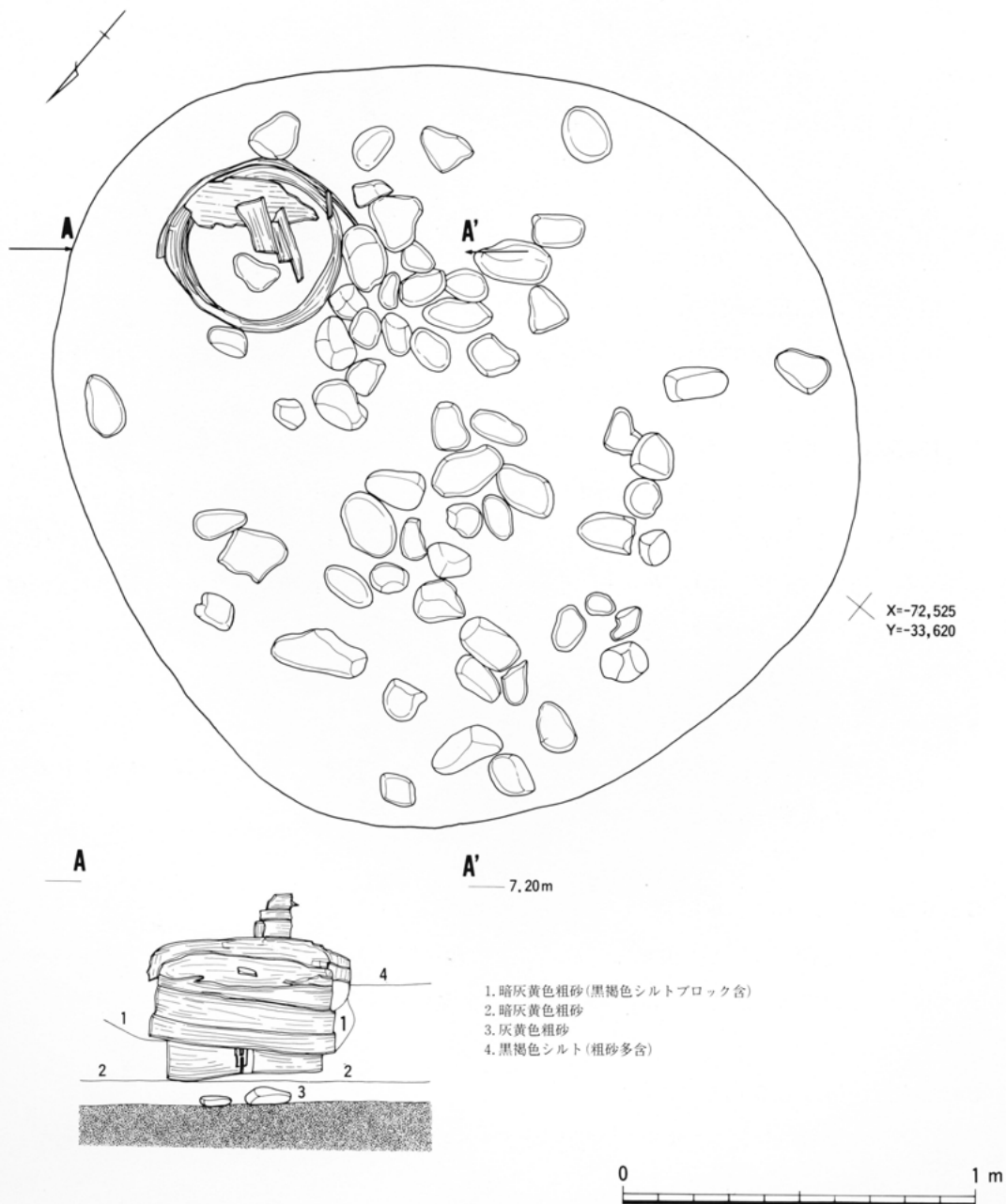
調査区の南端で、旧93G区SE04である。長径3m40cm、短径3m20cmの円形状の掘方を持つ。木組の一部が残っていたが井筒の曲物はなかった。湧水が激しく井戸底部まで調査ができなかった。灰釉系陶器等が出土。12世紀末から13世紀初。



第52図 井戸実測図(5): SE08

SE06 (第53図)

調査区の南半で大溝SD01の底部より検出した。旧93I区SE01である。長径2 m40cm、短径2 m30cmの円形状の掘方を持ち、掘方の東端に曲物があり曲物の径は50cmを測る。円形の掘方の中に20cm前後の円礫が多く出土した。曲物基底部の標高6 m57cm。遺物は出土しなかった。



第53図 井戸実測図(6): SE06

第3章 遺構出土の遺物

第1節 古代の出土遺物

主要な各器種の形態分類は以下のとおりである。

- 杯蓋 外面頂部に擬宝珠鈕を有し、口縁端部が「く」の字状におれる。
- 碗 A 無高台。底部から体部が丸みを帯びて斜めに立ち上がった形状で、腰部に稜はなく平底のもの。底部外面には篋切り痕、糸切り痕がのこる。
- 碗 B 高台を有し、体部よりほぼ斜めに立ち上がった形状で、高台より丸みを帯びて立ち上がったものも含む。
- 杯 A 無高台の杯身。腰部に稜をもちほぼ直線的に斜め上方へのびて体部を整形したもの。
- 杯 B 高台を有する杯身。杯 A に高台をつけたもの。
- 盤 浅い皿状の体部に高台がついたもの。
- 盤 B 浅い皿状の体部に高台がつき口縁端部が「く」の字に折り返し引き上げたもの。

1. 住居跡出土遺物

奈良時代から平安時代の竪穴住居跡が29棟検出された。住居跡の大部分が中世の遺構等によって削平を受け、住居床面の埋土が10cmから15cm程で遺存状態が悪く、遺物の全く出土しない住居跡や辛うじて床面を検出した住居跡もある。このため住居跡よりの出土遺物が少なく1、2点の場合もあるが実測可能なものはすべて掲載した。

SB01 (第25図、第54図1～13、図版11)

旧93Hb区SB01で、碗A、杯B、杯蓋、盤、瓶が出土。猿投窯の製品主体を占め、美濃須衛窯の製品が3点出土している。8世紀後半。

SB02 (第54図14、図版11)

旧93Hb区SB04で、図示できたのが碗A1点のみで、底部外面に篋による窯記号がある。猿投窯の製品で他に美濃須衛窯の破片も出土。8世紀後半。

SB03 (第54図15・16)

旧93Hb区SB03で、盤と杯蓋で猿投窯の製品。8世紀後半。

SB04 (第54図17～24)

旧93Ha区SB01と93G区SB01で、椀A、杯蓋、盤、土師器の甕が出土。猿投窯の製品が主体を占め、美濃須衛窯の製品が2点出土。9世紀初。

SB05 (第55図25～30)

旧92H区SB118で、椀A、杯蓋、盤、土師器の甕が出土。美濃須衛窯の製品で8世紀後半。

SB06 (第55図31・32、図版11)

旧93Hb区SB05で、高盤と灰釉椀が出土。猿投窯の製品で9世紀初頭。

SB07 (第55図33～43、図版11)

旧93G区SB02で、椀Aと盤、灰釉皿、長頸瓶、土師器の甕が出土。主体は美濃須衛窯の製品で8世紀後半。灰釉陶器は猿投窯製品で9世紀初頭。

SB08 (第55図44～46、図版11)

旧93G区SB03で、椀A、盤、短頸壺が出土。美濃須衛窯の製品で8世紀後半。

SB09 (第56図48～52)

旧92Ab区SB108で、椀A、盤、灰釉椀、灰釉皿が出土。美濃須衛窯と猿投窯の製品である。8世紀後半から9世紀後半。

SB10 (第56図53～55、図版11)

旧92Ab区SB107で、杯蓋、盤、長頸瓶が出土。猿投窯の製品で9世紀初頭。

SB11 (第56図56～60、図版11)

旧92Ab区SB105で、杯蓋、双耳椀、杯が出土。猿投窯の製品で8世紀後半。

SB12 (第56図61～65)

旧92Ab区SB104で、杯蓋、杯A、盤が出土。杯A(65)の底部外面に篋による窯記号がある。美濃須衛窯と猿投窯の製品である。8世紀後半。

SB13 (第56図66～68)

旧92Aa区SB101で、椀A、灰釉椀、灰釉皿が出土。猿投窯と尾北窯の製品である。9世紀後半。

SB14 (第56図69～78、図版11)

旧92Aa区SB06で、杯蓋、甕、灰釉椀、灰釉段皿、灰釉皿、土師質柱状高台皿が出土。猿投窯、尾北窯、美濃窯の製品である。8世紀後半から各時期の製品があり9世紀後半のものがやや多い。

SB15 (第26図、第56図47、第57図79～86、図版11)

旧92Aa区SB07で、杯蓋、椀A、甕、土師器甕、灰釉椀、灰釉皿が出土。美濃須衛窯、猿投窯、尾北窯、美濃窯の製品である。8世紀後半から各時期の製品があり、8世紀後半と9世紀後半のものがやや多い。

SB16 (第57図87～100、図版11、図版12)

旧92Ab区SB14で、椀A、椀B、長頸瓶、灰釉椀、灰釉皿、瓶、清郷型鍋が出土。美濃須衛窯、猿投窯、尾北窯の製品である。尾北窯の製品が主体となり、9世紀後半。

SB17 (第57図101～104)

旧92Aa区SB08で、土師質の皿、灰釉椀が出土。猿投窯と美濃窯の製品である。9世紀後半。

SB18 (第27図、第58図105～132、図版7、図版12)

旧92Aa区SB12で、灰釉椀、灰釉深椀、灰釉皿、土師器甕、清郷型鍋が出土し、輪花椀(116)と輪花(126)もあり、尾北窯と美濃窯の製品である。美濃窯の製品が圧倒的に多い。大宰府編年Ⅴ類とⅧ類の白磁碗片が出土。10世紀後半から11世紀前半。

SB19 (第59図133～135)

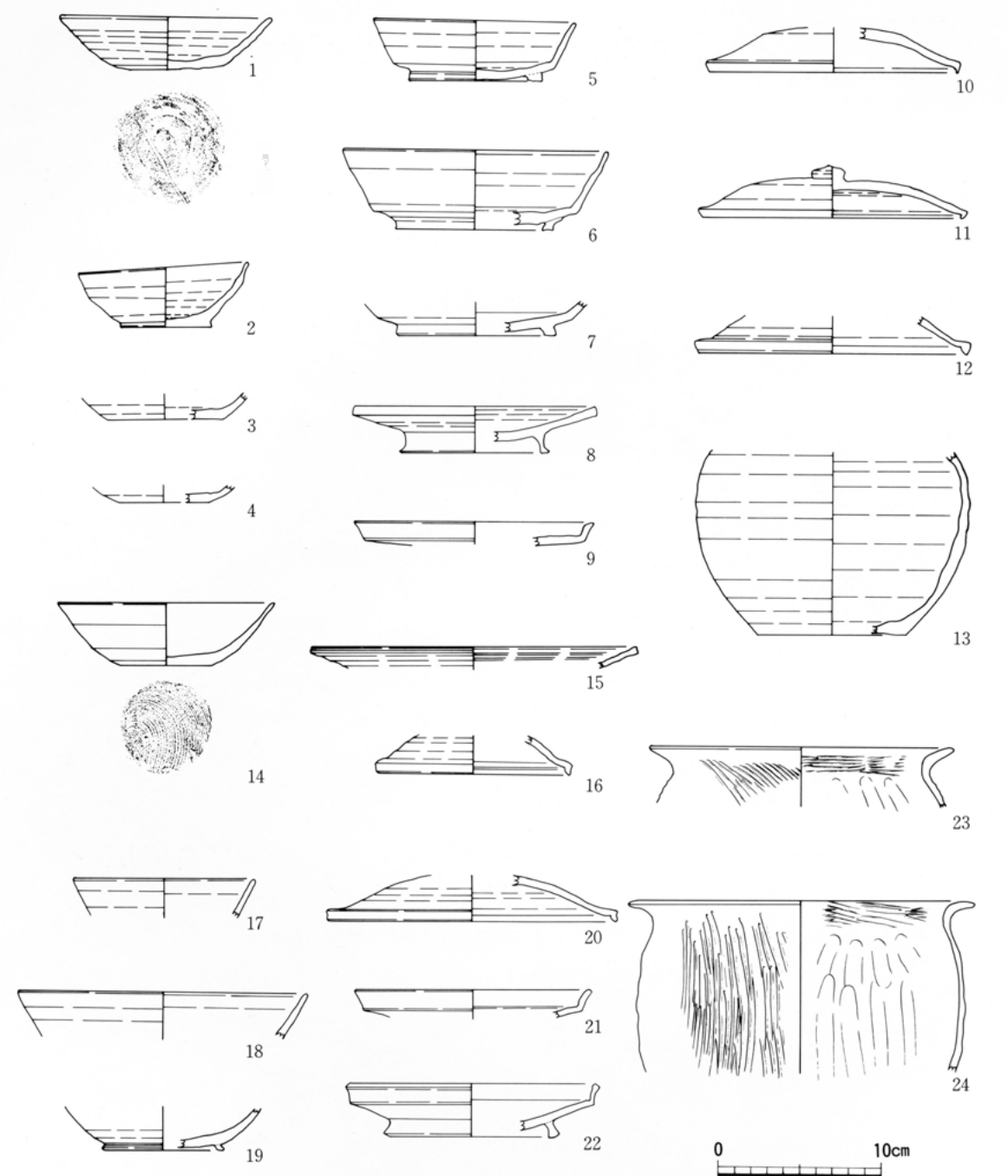
旧92Aa区SB04で、猿投窯と美濃須衛窯の製品が3点出土。椀Aが猿投窯の製品で、杯A(135)が美濃須衛窯の製品で底部外面に篋による窯記号がある。8世紀後半。

SB20 (第59図136～140)

旧92Aa・Ab区SB13で、灰釉椀と段皿が出土。いずれも美濃窯の製品である。10世紀後半。

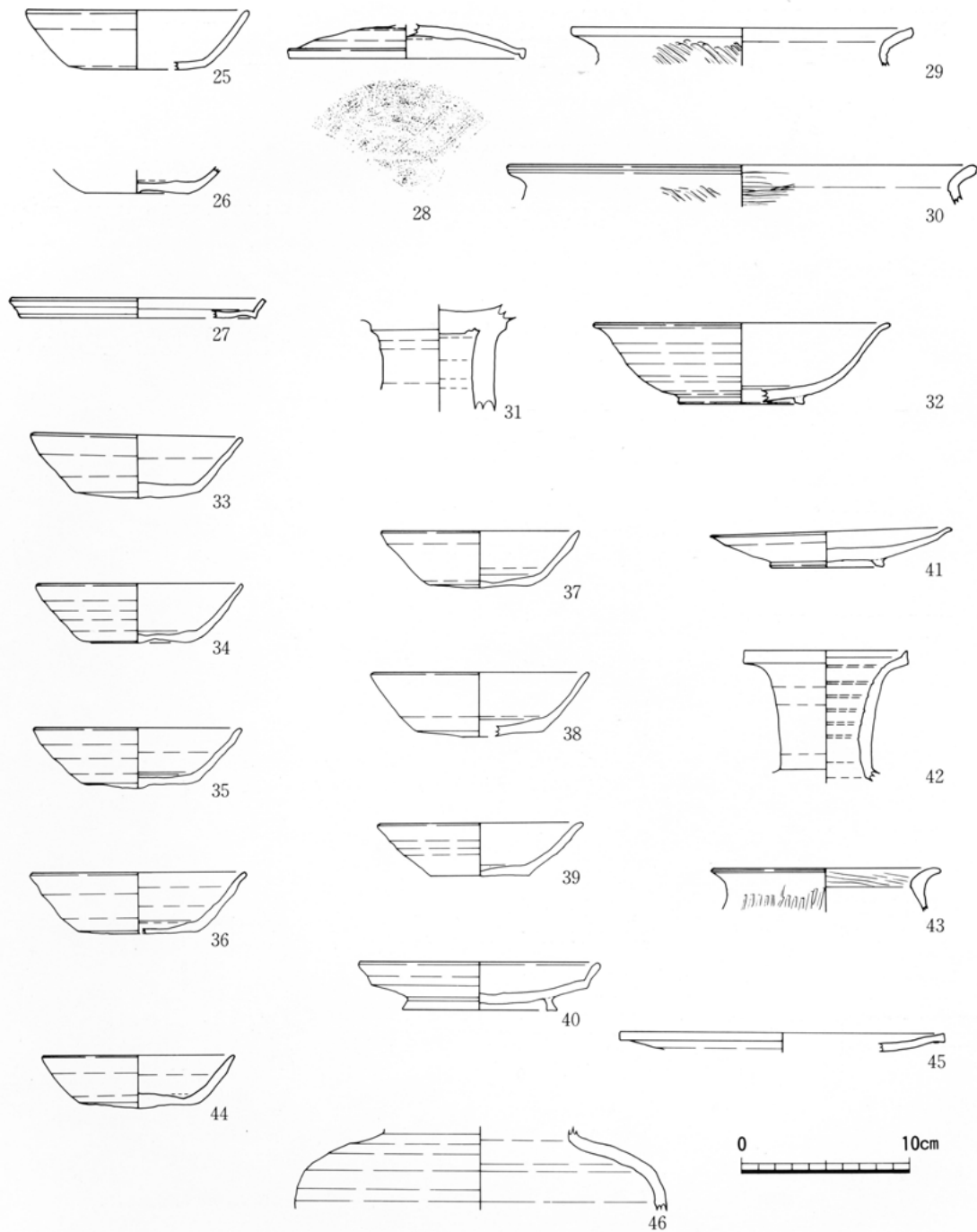
SB21 (第59図141～150)

旧92Aa・Ab区SB09で、椀A、杯B、灰釉椀、灰釉皿、土鍾が出土。猿投窯と美濃窯の製品で猿投窯の製品が多い。8世紀後半から各時期の製品があり、9世紀後半から10世紀前半のものがやや多い。



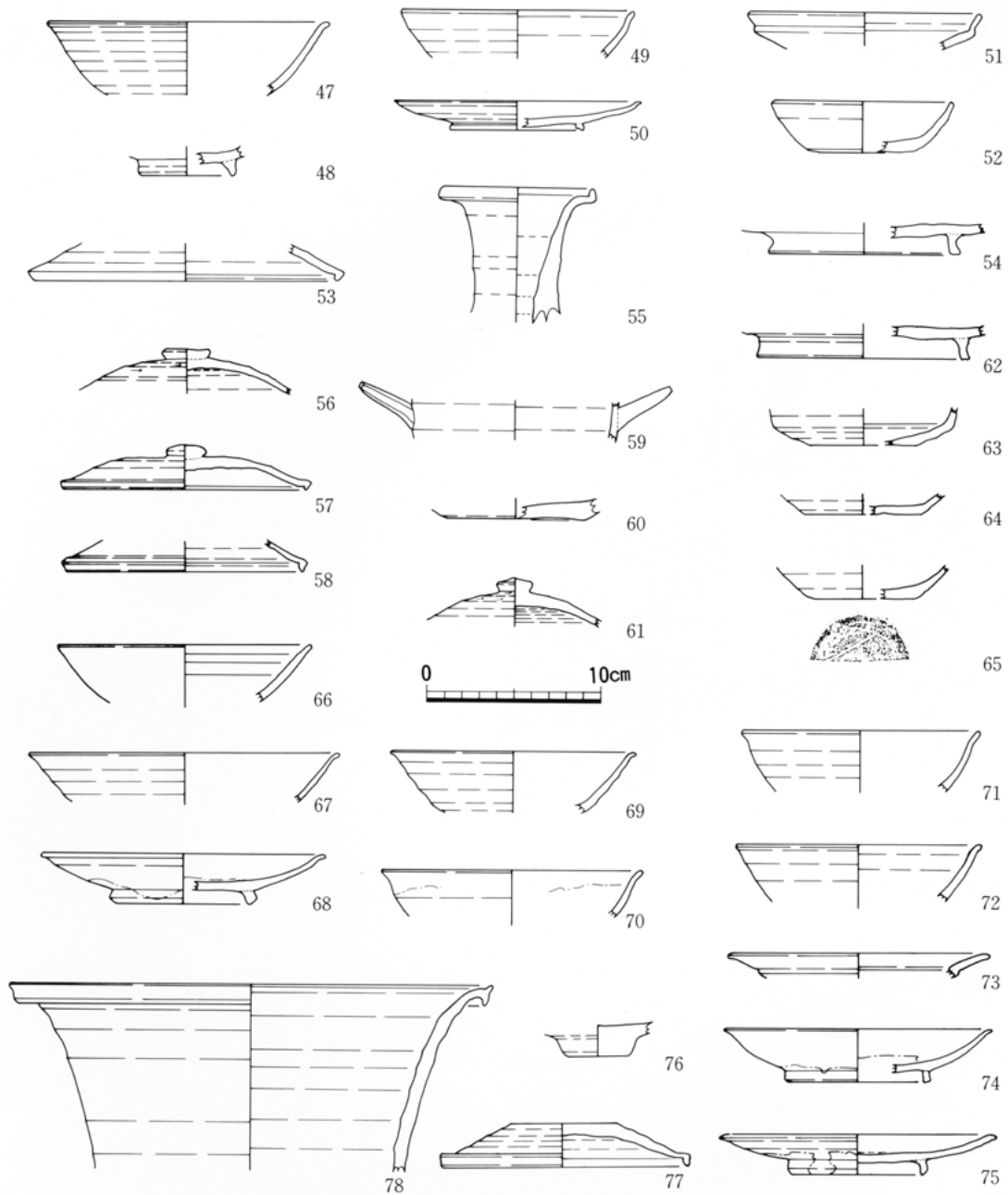
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
1	碗A	12.6		3.25	4/12 12/13	SB01	93Hb SB01	美須衛	11	13	瓶		(9.2)	(11.2)	1/12	SB01	93Hb SB01	猿投	
2	碗A	10.4	5.5	5.0	10/12 12/12	SB01	93Hb SB01	猿投	11	14	碗A	(13.2)	5.6	3.9	1/12	SB02	93Hb SB05	猿投	11
3	碗A		(7.0)	(2.1)	3/12	SB01	93Hb SB01	美須衛		15	盤	(20.0)		(1.4)	1/12	SB03	93Hb SB03	猿投	
4	碗A		(5.5)	(1.1)	4/12	SB01	93Hb SB01	猿投		16	杯蓋	(11.8)		(2.4)	2/12	SB01	93Hb SB03	猿投	
5	杯B	12.2	8.2	3.8	7/12 10/12	SB01	93Hb SB01	猿投	11	17	碗A	(13.2)		(2.9)	1/12	SB04	93Ha SB01	猿投	
6	杯B	(16.1)	(9.6)	4.85	2/12 4/12	SB01	93Hb SB01	美須衛	11	18	碗A	(17.6)		(2.8)	1/12	SB04	93Ha SB01	猿投	
7	杯B		(9.6)	(2.1)	3/12	SB01	93Hb SB01	猿投		19	碗		(7.3)	(2.7)	5/12	SB04	93Ha SB01	猿投	
8	盤	(14.8)	(9.0)	2.9	3/12 1/1	SB01	93Hb SB01	猿投	11	20	杯蓋	(17.8)		(2.8)	2/12	SB04	93Ha SB01	猿投	
9	盤B	(14.6)		(1.4)	2/12	SB01	93Hb SB01	猿投		21	盤B	(14.4)		(1.7)	2/12	SB04	93G SB01	美須衛	
10	杯蓋	(15.4)		(2.7)	1/12	SB01	93Hb SB01	猿投		22	盤B	(15.0)	(10.0)	3.3	1/12 4/12	SB04	93G SB01	美須衛	
11	杯蓋	(16.2)		(3.2)	7/12	SB01	93Hb SB01	猿投	11	23	甕	(16.4)		(3.6)	3/12	SB04	93G SB01	土師器	
12	杯蓋	(16.6)		(2.3)	7/12	SB01	93Hb SB01	猿投		24	甕	(19.8)		(10.5)	3/12	SB04	93G SB01	土師器	

第54図 住居跡出土遺物実測図(1): S B 01・02・03・04



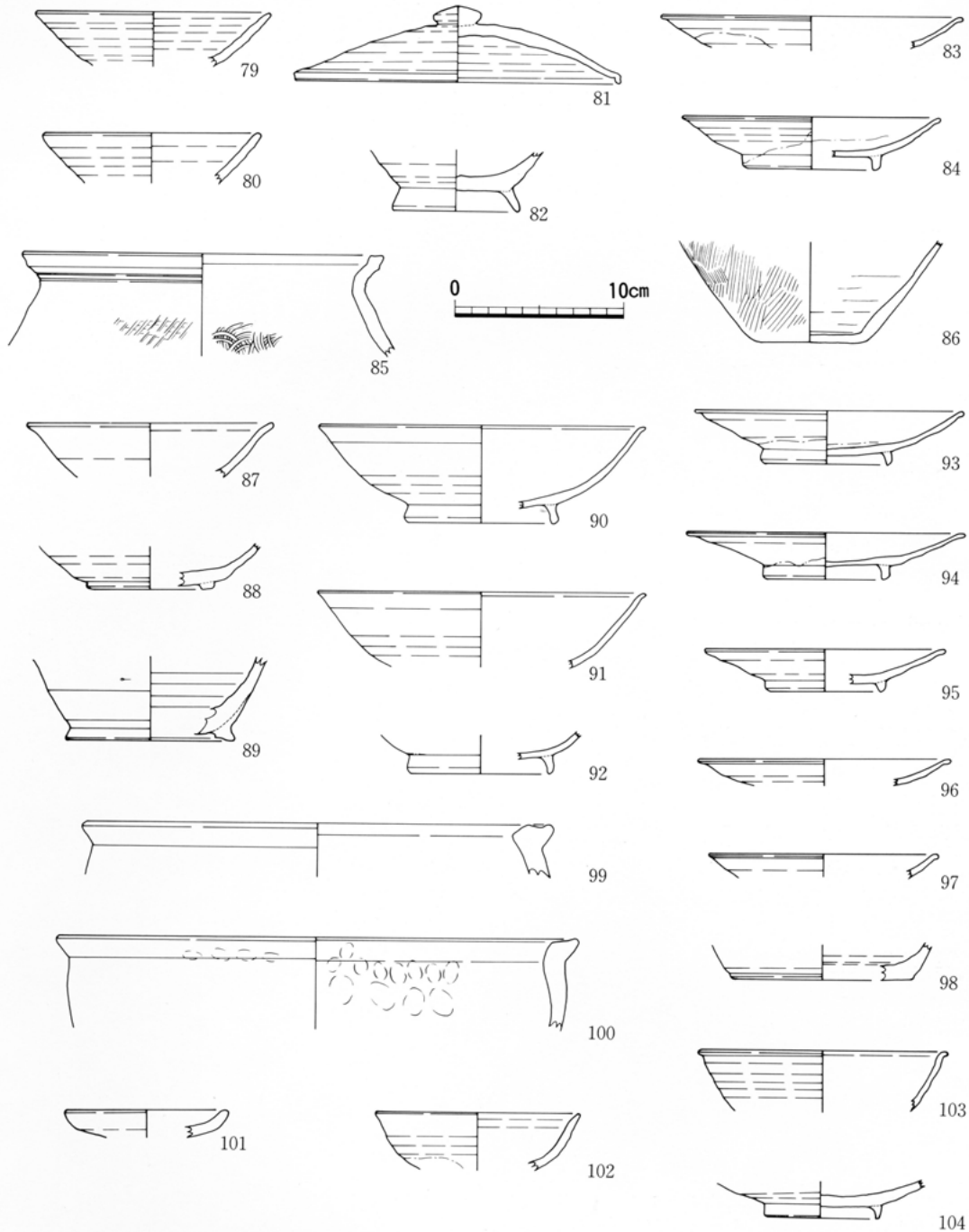
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
25	碗A	(13.2)	(6.6)	3.5	3/12 : 4/12	SB05	92H SB118	美須衛		36		(12.8)	(7.0)	3.6	6/12 : 6/12	SB07	93G SB02	美須衛	11
26			(16.2)	(1.6)	7/12	SB05	92H SB118	美須衛		37		11.6	5.6	3.3	12/12 : 12/12	SB07	93G SB02	美須衛	11
27	盤B	(14.8)	(14.0)	(1.2)	1/12 : 1/12	SB05	92H SB118	美須衛		38		(12.8)	(7.6)	3.8	5/12 : 6/12	SB07	93G SB02	美須衛	11
28	杯蓋	(13.9)	(2.0)	4/12		SB05	92H SB118	美須衛		39		(12.0)	(5.5)	3.1	3/12 : 5/12	SB07	93G SB02	美須衛	
29	甕	(20.2)	(2.2)	2/12		SB05	92H SB118	美須衛		40	盤B	(14.0)	(9.2)	2.8	6/12 : 6/12	SB07	93G SB02	美須衛	11
30	甕	(27.5)	(2.3)	1/12		SB05	92H SB118	美須衛		41	皿	(13.8)	(6.6)	2.3	7/12 : 12/12	SB07	93G SB02	猿投	11
31	高盤		(5.8)			SB06	93Hb SB04	猿投		42	長頸瓶	(9.6)		(7.8)	6/12	SB07	93G SB02	猿投	
32	碗	(17.2)	(7.4)	4.8	2/12 : 4/12	SB06	92Hb SB04	猿投	11	43	甕	(13.2)		(2.6)	2/12	SB07	93G SB02	土師器	
33	碗A	12.3	7.6	3.9	8/12 : 12/12	SB07	93G SB02	美須衛	11	44	碗B	11.4	7.1	3.2	5/12 : 9/12	SB08	93G SB03	美須衛	11
34		12.1	6.4	3.5	12/12 : 12/12	SB07	93G SB02	美須衛	11	45	盤	(22.6)		(1.35)	1/12	SB08	93G SB03	美須衛	
35		12.3	6.6	3.5	12/12 : 12/12	SB07	93G SB02	美須衛	11	46	短頸瓶			(5.0)		SB08	93G SB03	美須衛	

第55図 住居跡出土遺物実測図(2): SB05・06・07・08



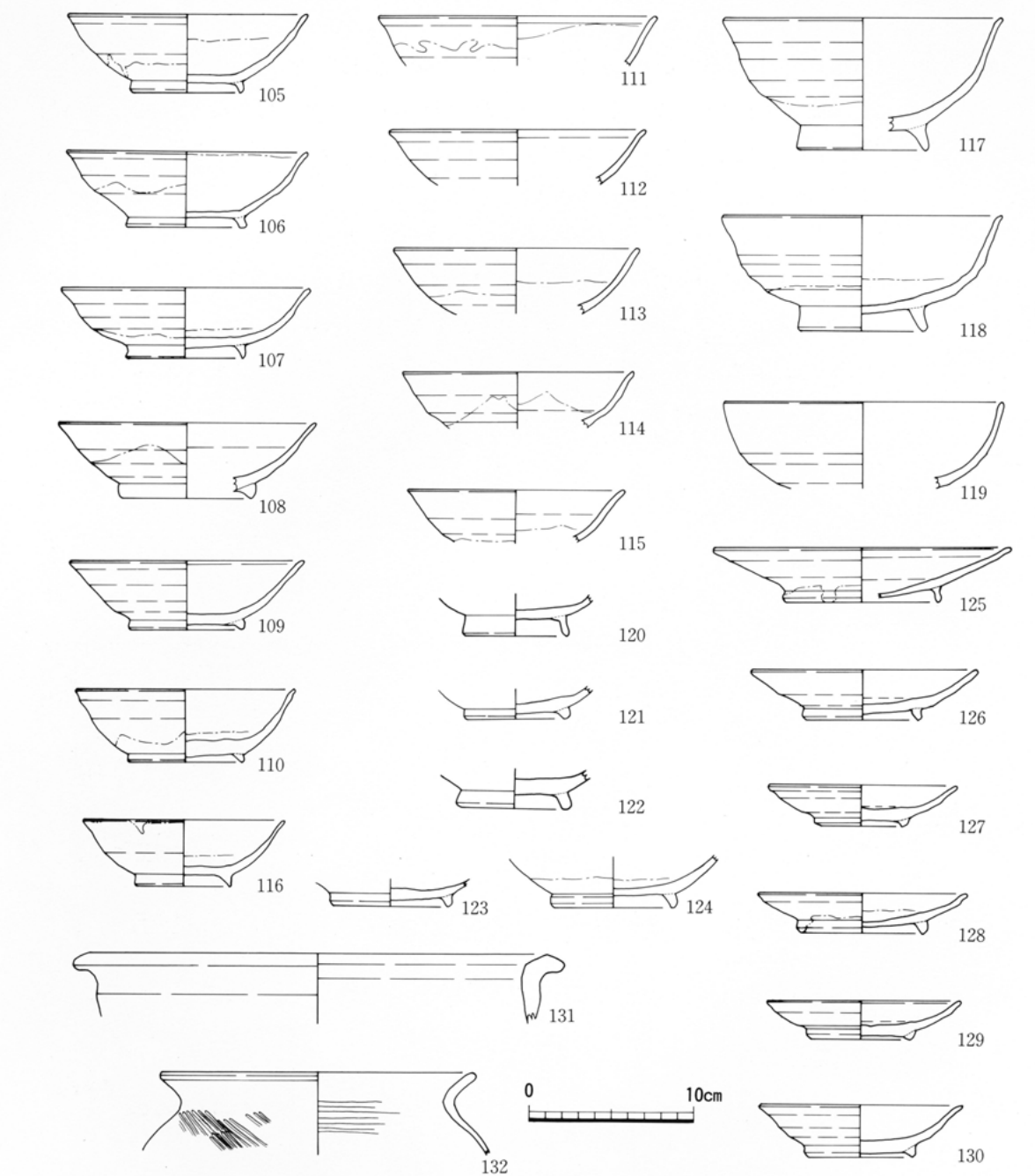
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
47	碗	(16.0)		(4.2)	2/12	SB15	92Aa SB07	猿投	図版	63	杯A		(6.0)	(2.2)	2/12	SB12	92Ab SB104	猿投	図版
48	碗		(5.2)	(1.7)	2/12	SB09	92Ab SB108	猿投		64	杯A		(6.8)	(2.2)	3/12	SB12	92Ab SB104	猿投	
49	碗A	(10.0)		(2.6)	3/12	SB09	92Ab SB108	美須衛		65	杯A		(5.8)	(1.9)	2/12	SB12	92Ab SB104	美須衛	
50	皿	(13.4)		(1.7)	3/12	SB09	92Ab SB108	猿投		66	碗A	(14.6)		(3.3)	2/12	SB13	92Aa SB101	猿投	
51	盤	(13.0)		(2.1)	1/12	SB09	92Ab SB108	猿投		67	碗	(17.8)		(2.8)	2/12	SB13	92Aa SB101	尾北	
52	碗A	(10.0)	(5.0)	(3.0)	2/12 2/12	SB09	92Ab SB108	美須衛		68	皿	(16.2)	(7.7)	(2.9)	1/12 2/12	SB13	92Aa SB101	尾北	
53	杯蓋	(17.4)		(2.1)	2/12	SB10	92Ab SB107	猿投		69	碗	(13.8)		(3.5)	1/12	SB14	92Aa SB06	美濃窯	
54	盤		(11.0)	(1.8)	2/12	SB10	92Ab SB107	猿投		70	碗	(15.0)		(2.7)	2/12	SB14	92Aa SB06	美濃窯	
55	長頸瓶	(8.5)		(7.8)	2/12	SB10	92Ab SB107	猿投 11		71	碗	(13.6)		(3.5)	2/12	SB14	92Aa SB06	美濃窯	
56	杯蓋			(2.6)		SB11	92Ab SB105	猿投		72	碗	(14.2)		(3.3)	1/12	SB14	92Aa SB06	美濃窯	
57	杯蓋	14.0		2.55	8/12	SB11	92Ab SB105	猿投 11		73	段皿	(14.4)		(1.4)	1/12	SB14	92Aa SB06	美濃窯	
58	杯蓋	(13.6)		(1.8)	1/12	SB11	92Ab SB105	猿投		74	皿	(15.2)	(7.6)	3.0	3/12 4/12	SB14	92Aa SB06	尾北	
59	双耳碗			(3.3)		SB11	92Ab SB105	猿投		75	皿	(15.4)	7.5	2.3	5/12 12/12	SB14	92Aa SB06	美濃窯 11	
60	杯		(8.0)	(1.2)	1/12	SB11	92Ab SB105	猿投		76	柱状皿		3.4	(1.9)	12/12	SB14	92Aa SB06	土師器 11	
61	杯蓋			(2.8)		SB12	92Ab SB104	猿投		77	杯蓋	14.0	5.9	2.6	11/12 12/12	SB14	92Aa 検皿	猿投 11	
62	盤		(12.2)	(1.9)	3/12	SB12	92Ab SB104	美須衛		78	甕	(27.7)		(10.8)	1/12	SB14	92Aa SB06	猿投	

第56図 住居跡出土遺物実測図(3): SB09・10・11・12・13・14



番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	
79	碗A	(13.8)		(3.2)	3/12	SB15	92Aa SB07	猿 投		92	碗		(8.2)	(2.5)		5/12	SB16	92Ab SB14	尾 北	
80	碗A	(12.6)		(3.0)	3/12	SB15	92Aa SB07	猿 投		93	皿	15.8	7.2	3.2	8/12 12/12	SB16	92Ab SB14	尾 北	11	
81	杯蓋	(19.2)		4.45	8/12	SB15	92Aa SB07	猿 投		94	皿	16.2	6.8	2.8	2/12 12/12	SB16	92Ab SB14	尾 北	12	
82	碗		(7.2)	(3.6)		1/12	SB15	92Aa SB07	美濃窯	95	皿	(14.0)	6.6	2.5	7/12 7/12	SB16	92Ab SB14	尾 北	12	
83	皿	(17.6)		(1.9)	2/12	SB15	92Aa SB07	猿 投		96	皿	(14.8)		(1.55)	3/12	SB16	92Ab SB14	尾 北		
84	皿	(15.2)	(7.3)	(3.1)	3/12 9/12	SB15	92Aa SB07	尾 北	11	97	皿	(13.6)		(1.4)	2/12	SB16	92Ab SB14	尾 北		
85	甕	(21.2)		(5.95)	2/12	SB15	92Aa SB07	美須衛		98	瓶		(10.6)	(2.2)		1/12	SB16	92Ab SB14	尾 北	
86	甕		(5.8)	(6.0)		6/12	SB15	92Aa SB07	土師器	99	鍋	(27.4)		(3.2)	2/12	SB16	92Ab SB14	土師器		
87	碗A	(14.6)		(3.2)	5/12	SB16	92Ab SB14	美須衛		100	鍋	(30.6)		(5.4)	1/12	SB16	92Ab SB14	土師器		
88	碗B		(6.4)	(2.7)		4/12	SB16	92Ab SB14	美須衛	101	皿	(9.5)		(1.6)	3/12	SB17	92Aa SB08	土師器		
89	長頸瓶		(9.6)	(5.0)		2/12	SB16	92Ab SB14	猿 投	102	碗	(12.0)		(3.4)	2/12	SB17	92Aa SB08	美濃窯		
90	碗	(19.4)	(8.6)	5.8	1/12 5/12	SB16	92Ab SB14	尾 北	11	103	碗	(14.4)		(3.6)	2/12	SB17	92Aa SB08	美濃窯		
91	碗	(19.4)		(4.4)	1/12	SB16	92Ab SB14	猿 投		104	碗		6.4	(2.0)		12/12	SB17	92Aa SB08	猿 投	

第57図 住居跡出土遺物実測図(4): SB15・16・17



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
105	碗	14.4	6.6	4.7	5/12 : 12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	119	深碗	(16.8)		(5.25)	6/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	
106	碗	14.6	7.2	4.6	12/12 : 6/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	120	深碗			6.2 (2.5)	7/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
107	碗	15.0	6.9	4.3	9/12 : 12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	121	碗			6.2 (2.0)	12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
108	碗	(15.4)	(7.8)	4.55	4/12 : 4/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	122	碗			(6.2) (2.4)	7/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
109	碗	14.0	7.0	4.2	6/12 : 5/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	123	碗			7.0 (1.8)	6/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
110	碗	13.2	6.8	4.4	2/12 : 8/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	124	碗			7.0 (3.2)	3/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
111	碗	(16.8)		(3.0)	3/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	125	皿	(18.0)	(9.0)	3.25	4/12 : 5/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
112	碗	(15.4)		(3.3)	3/12	SB18	92Aa SB12	尾北		126	皿	13.8	6.8	3.05	9/12 : 11/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
113	碗	(14.8)		(3.9)	2/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯		127	皿	11.3	5.2	2.5	12/12 : 12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
114	碗	(13.8)		(3.45)	3/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯		128	皿	(12.8)	(7.2)	2.4	5/12 : 8/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
115	碗	(13.2)		(3.15)	4/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯		129	皿	11.7	6.0	2.4	6/12 : 12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
116	碗	12.2	5.8	4.0	12/12 : 12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	130	皿	(12.4)	6.4	3.1	2/12 : 12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12
117	深碗	16.8	7.6	8.0	11/12 : 6/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	131	鍋	(27.8)		(3.3)	1/12	SB18	92Aa SB12	土師器	
118	深碗	16.6	7.5	7.0	4/12 : 6/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	12	132	甕	19.0		(4.8)	3/12	SB18	92Aa SB12	土師器	12

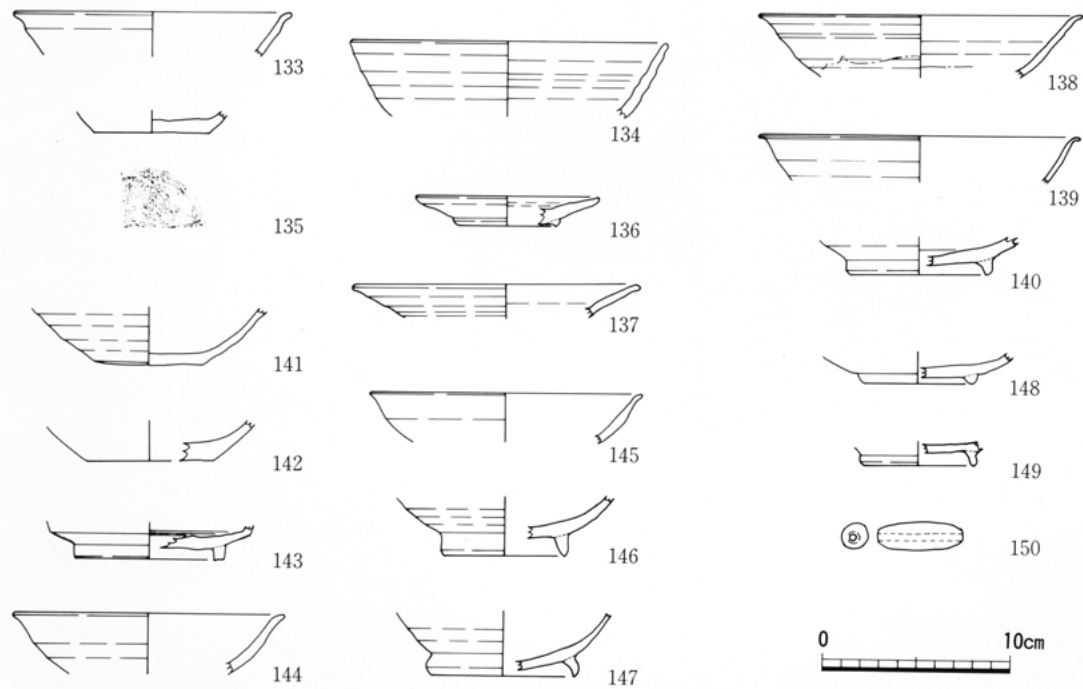
第58図 住居跡出土遺物実測図(5) : SB18

SB22 (第28図. 第60図151~160、図版6. 図版7. 図版12. 図版13)

旧92Aa区SB03で、短頸壺、灰釉椀、灰釉深椀、小瓶、長頸瓶、四耳壺、土師器甕が出土。猿投窯、尾北窯、美濃窯、瀬戸窯の製品で8世紀後半から各時期の製品があるが、9世紀後半のものが多く出土。

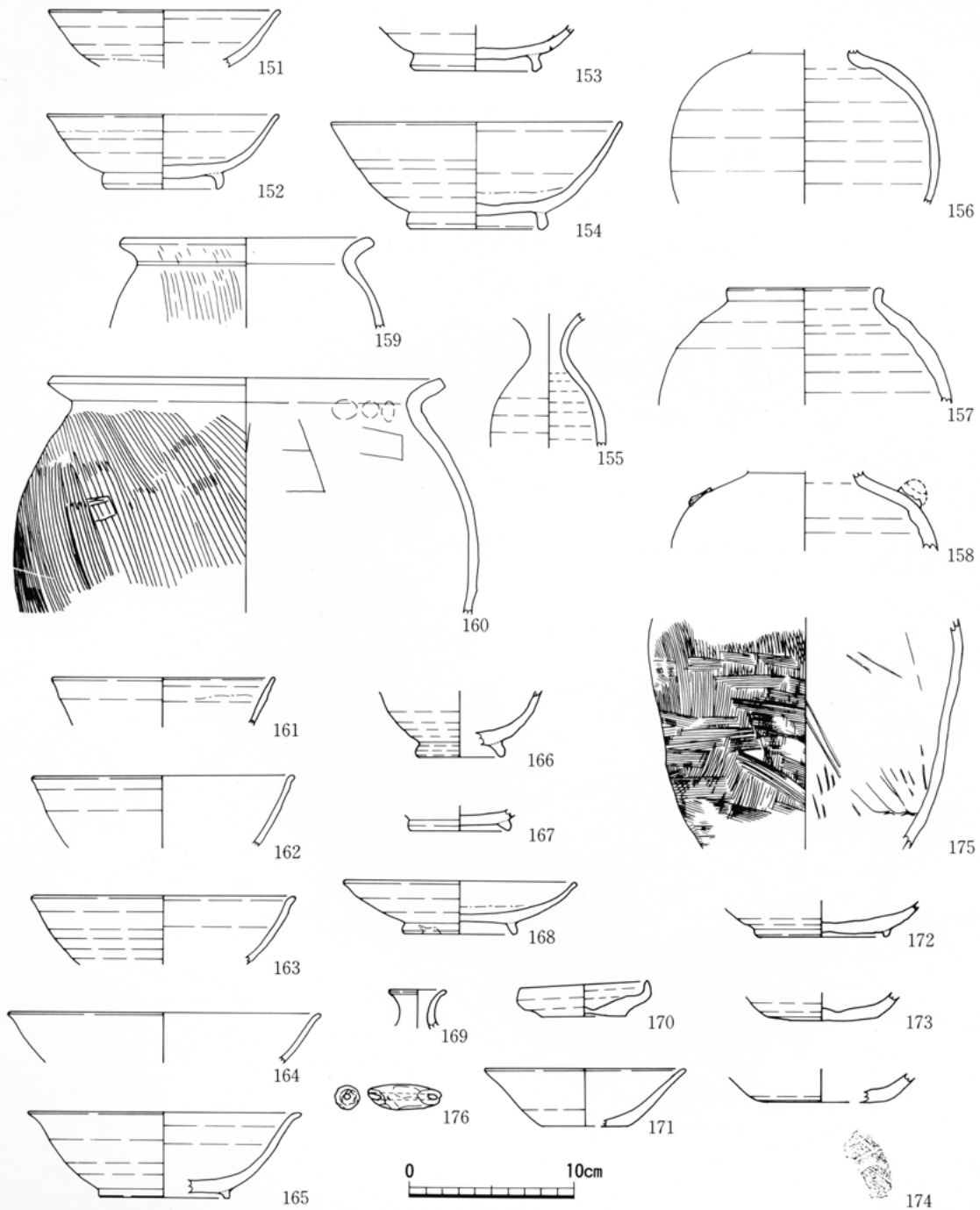
SB23 (第29図. 第60図161~176、図版6. 図版7. 図版12. 図版13)

旧92Aa区SB01で、椀A、椀B、杯A、灰釉椀、灰釉皿、小瓶、土師器甕、土錘が出土。美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の製品で美濃窯の製品が主体を占める。8世紀前半から各時期のものがあり、11世紀前後のものが多く出土。



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
133	椀A	(14.6)		(2.35)	3/12	SB19	92Aa SB04	猿投		142	椀A		(6.8)	(2.1)	3/12	SB21	92Aa SB09	猿投	
134	椀A	(16.8)		(4.0)	2/12	SB19	92Aa SB04	猿投		143	杯B		(8.0)	(1.9)	3/12	SB21	92Aa SB09	猿投	
135	杯A		(6.2)	(1.2)	4/12	SB19	92Aa SB04	美濃		144	椀	(14.4)		(3.3)	1/12	SB21	92Aa SB09	猿投	
136	段皿	(9.6)	(5.2)	1.5	2/12	1/12	SB20	92Aa SB13	美濃	145	椀	(14.4)		(2.7)	1/12	SB21	92Aa SB09	猿投	
137	段皿	(15.0)		(1.7)	1/12	SB20	92Aa SB13	美濃		146	椀		(6.6)	(3.15)	5/12	SB21	92Aa SB09	美濃	
138	椀	(17.0)		(3.3)	2/12	SB20	92Aa SB13	美濃		147	椀		(7.6)	(2.9)	3/12	SB21	92Aa SB09	美濃	
139	椀	(16.6)		(2.45)	1/12	SB20	92Aa SB13	美濃		148	皿		(6.0)	(1.65)	4/12	SB21	92Aa SB09	美濃	
140	椀		(7.2)	(2.0)	3/12	SB20	92Aa SB13	美濃		149	皿		(5.8)	(1.2)	2/12	SB21	92Aa SB09	猿投	
141	椀A		5.8	(3.1)	12/12	SB21	92Aa SB09	猿投		150	土錘					SB21	92Aa SB09		

第59図 住居出土遺物実測図(6)：SB19・20・21



番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版		
151	椀	(14.0)		(3.4)	3/12	SB22	92Aa SB03	尾 北		164	椀	(18.8)		(3.0)	1/12	SB23	92Aa SB01	美濃窯			
152	椀	(14.0)	6.8	4.5	2/12 12/12	SB22	92Aa SB03	猿 投	12	165	椀	(16.6)	(8.0)	5.2	1/12 5/12	SB23	92Aa SB01	猿 投	12		
153	椀		(7.4)	(2.8)		12/12	SB22	92Aa SB03	美濃窯	12	166	椀		(5.0)	(4.0)		1/12	SB23	92Aa SK33	美濃窯	
154	深椀	(17.4)	8.0	6.5	2/12 7/12	SB22	92Aa SB03	尾 北	12	167	椀			6.0	(1.4)		12/12	SB23	92Aa SB01	美濃窯	
155	小瓶			(8.0)			SB22	92Aa SB03	美濃窯	12	168	皿	(14.2)	(7.0)	3.2	1/12 6/12	SB23	92Aa SB01	美濃窯	13	
156	長頸瓶			(9.9)			SB22	92Aa SB03	猿 投		169	小瓶	(3.2)		(2.3)	2/12	SB23	92Aa SB01	猿 投		
157	短頸壺	(9.0)		(7.05)	5/12		SB22	92Aa SB03	猿 投	12	170	窯道具	7.7		2.2~1.7	12/12		SB23	92Aa SK31	猿 投	13
158	四耳壺			(4.8)			SB22	92Aa SB03	猿 投		171	杯A	(12.2)	(5.0)	3.5	2/12 3/12	SB23	92Aa SB01	猿 投		
159	甕	(15.0)		(5.5)	6/12		SB22	92Aa SB03	土師器		172	椀B		(7.5)	(2.1)		2/12	SB23	92Aa SB01	美須衛	
160	甕	(23.6)		(14.3)	5/12		SB22	92Aa SB03	土師器	13	173	椀A		(4.0)	(1.7)		3/12	SB23	92Aa SB01	美須衛	
161	椀	(13.5)		(2.9)	3/12		SB23	92Aa SB01	美濃窯		174	椀A		(6.6)	(1.7)		3/12	SB23	92Aa SB01	美須衛	
162	椀	(15.8)		(4.3)	1/12		SB23	92Aa SB01	美濃窯		175	甕			(14.0)			SB23	92Aa SK37	土師器	
163	椀	(15.8)		(4.1)	1/12		SB23	92Aa SB01	美濃窯		176	土錘						SB23	92Aa SB01		

第60図 住居跡出土遺物実測図(7): SB22・23

2. 土坑出土遺物

SK251（第30図、第61図177～180、図版6、図版7、図版13）

旧92Aa区SK03で、竪穴住居SB14を切って土坑がつくられている。灰釉碗、灰釉皿とともに残存状態の悪い「富壽神寶」3枚が出土。「富壽神寶」は818年より834年にかけて鑄造されている。灰釉碗は猿投窯、灰釉皿は尾北窯である。9世紀後半。

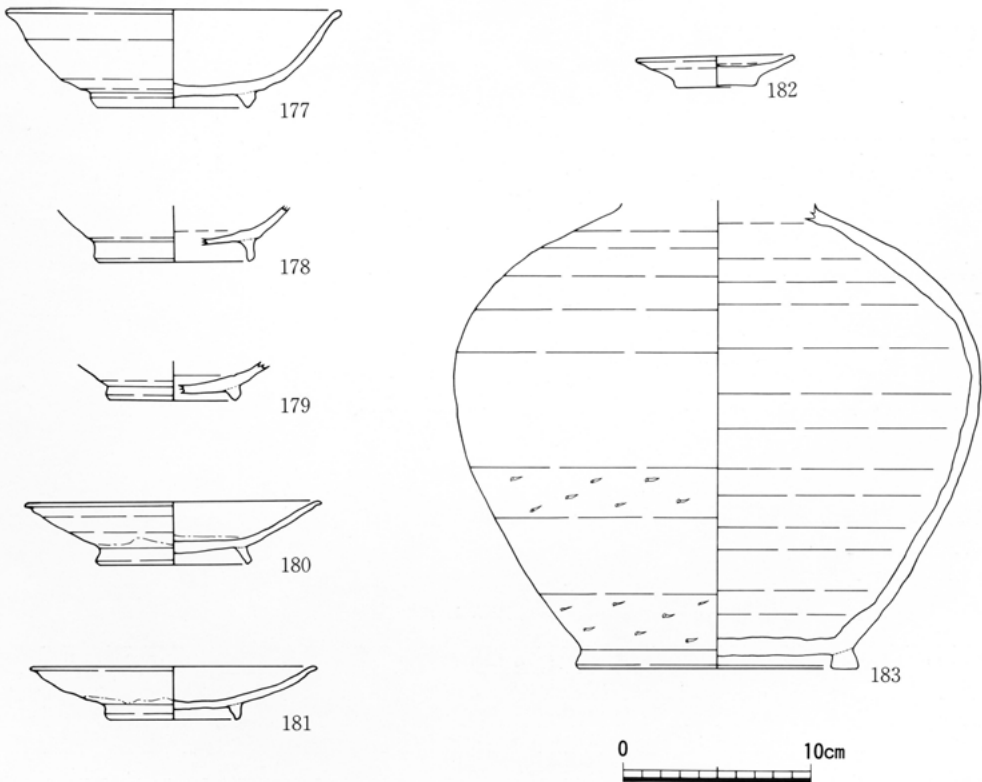
SK333（第31図、第61図181、図版6、図版7、図版13）

旧92Ab区SK64で、尾北窯の灰釉皿が円礫とともに出土。9世紀後半。

3. 溝出土遺物

SD196（第61図182・183、図版13）

旧93Hb区SD03で、柱状高台皿と猿投窯の8世紀後半の短頸壺が出土。



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
177	碗	(18.0)	(8.0)	(5.15)	6/12	SK251	92Aa SK03	猿投	13
178	碗	(8.0)	(2.9)		3/12	SK251	92Aa SK03	猿投	13
179	碗	(6.7)	(2.05)		3/12	SK251	92Aa SK03	猿投	13
180	皿	15.4	7.7	3.3	6/12	SK251	92Aa SK03	尾北	13
181	皿	15.0	6.6	3.0	10/12	SK333	92Aa SK64	尾北	13
182	柱状皿	8.1	4.1	1.6	11/12	SD196	93Hb SD03	土師器	13
183	短頸壺		(14.8)	(24.7)		SD196	93Hb SD03	猿投	13

第61図 土坑・溝出土遺物実測図：SK251・333、SD196

SD239 (第64図～第66図246～313、図版13、図版14)

旧93Ha区SD06で、杯蓋、杯A、杯B、椀A、椀B、盤A、盤B、盤C、鉢、甗、甕、広口壺、短頸壺、長頸瓶、灰釉椀、灰釉皿、灰釉三足盤、土師器甕や底部内外面に墨書のある杯A(256)が出土。美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の各製品で須恵器は美濃須衛窯の製品が主体を占め、灰釉陶器は美濃窯が多い。9世紀前半から10世紀後半の各時期のものがあり、9世紀後半のものが最も多い。

SD240 (第67図、第68図314～345、図版14)

旧93Ha区SD05で、杯蓋、杯A、杯B、椀A、椀B、盤B、甕、横瓶、甗、長頸瓶、甕、灰釉椀、灰釉皿、段皿、耳皿、土師器甕や底部外面に墨書のある灰釉椀(328)が出土。美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の各製品で美濃須衛窯と猿投窯の製品が主体を占める。8世紀から11世紀前半の各時期のものがあり、9世紀後半のものが多く、

第2節 水田跡出土遺物 (第32図～第36図、第62図、第63図184～245、図版5、図版13、図版18)

水田跡は93E区の南側より以南に広がっており、古墳時代の水田から中世の水田を検出した。水田耕作土から出土した遺物である。古墳時代の遺物と古墳時代以降を中世の遺物として取り上げた。

古墳時代の遺物**ST64** (第62図184～186、図版13)

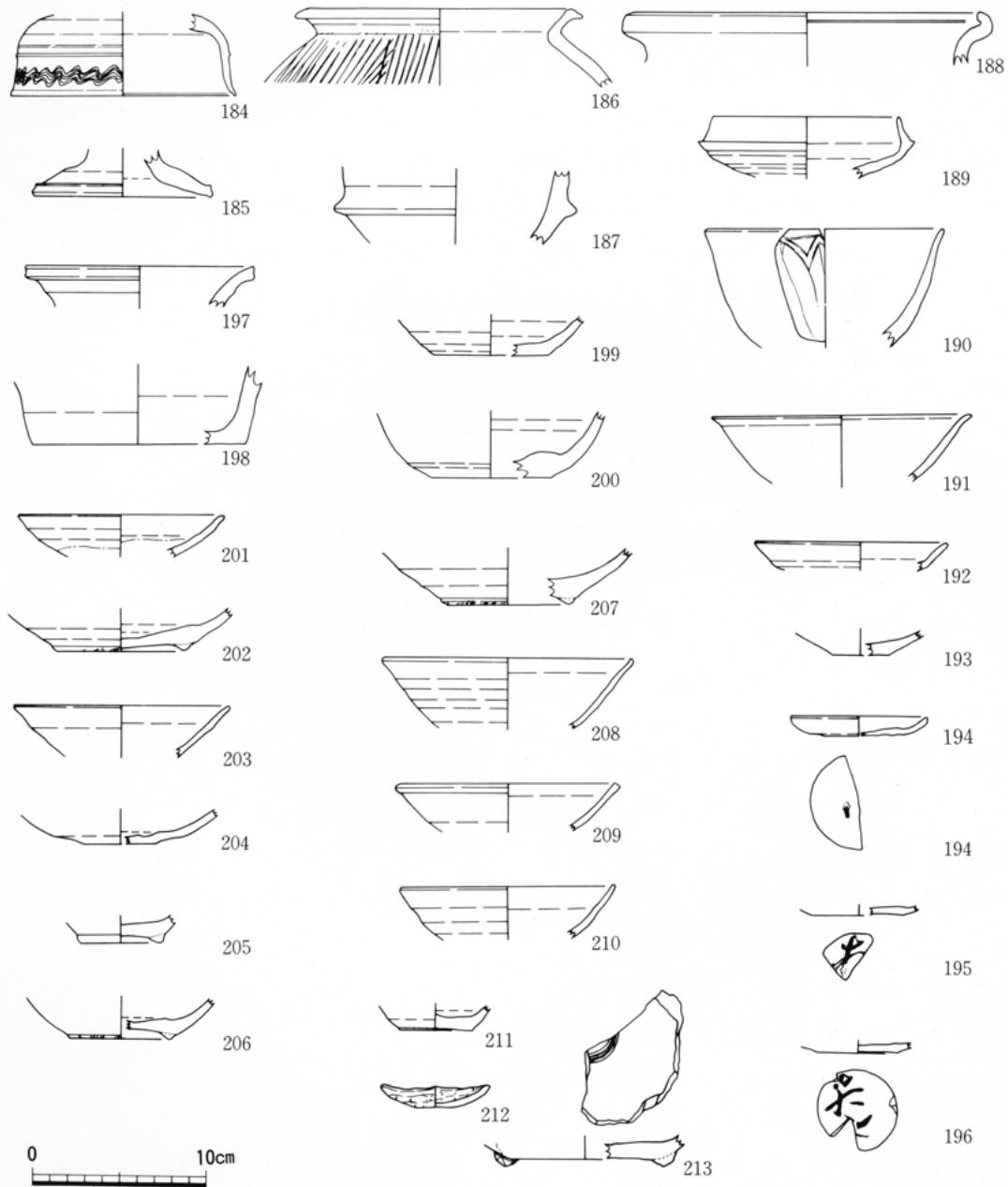
92Aa区旧ST07で杯蓋、高杯の脚部、土師器甕、5世紀後半。

ST65 (第62図187)

93Aa区旧ST08で土師器高杯の胴部、5世紀。

ST26 (第62図188、189)

93Hb区旧ST03で甕、杯身ともに美濃須衛窯の製品、7世紀。但し面的には中世の水田跡である。古墳の遺構の遺物が混じったものと考えられる。



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
184	杯蓋	(12.8)		(4.6)	2/12	ST64	92Aa ST07	猿投	13	199	碗A		(6.4)	(2.25)	1/12	ST20	92Db ST17	美須衛	
185	高杯		(10.1)	(2.7)	2/12	ST64	92Aa ST07	猿投		200	鉢		(6.8)	(3.8)	2/12	ST20	92Db ST17	美須衛	
186	甕	(14.8)		(4.45)	2/12	ST64	92Aa ST07	土師器		201	皿	(11.6)		(2.4)	2/12	ST03	92E ST42	美濃	
187	高杯			(4.3)		ST65	92Aa ST08	土師器		202	碗		(7.2)	(2.4)	7/12	ST03	92E ST42	尾張	
188	甕	(19.6)		(3.0)	4/12	ST26	93Hb ST03	美須衛		203	碗	(12.2)		(2.9)	3/12	ST03	92E ST42	東濃	
189	杯身	(10.6)		(3.4)	2/12	ST26	93Hb ST03	美須衛		204	碗		(4.0)	(2.0)	4/12	ST03	92E ST42	東濃	
190	青磁碗	13.6		(6.8)	1/12	ST25	93Hb ST02	中国	18	205	碗		(4.6)	(1.6)	7/12	ST05	93F ST02	尾張	
191	白磁碗	14.8		(3.8)	2/12	ST95	93Ha ST05	中国	18	206	碗		(5.8)	(2.35)	4/12	ST05	93F ST02	東濃	
192	青磁皿	10.0		(1.6)	2/12	ST24	93Hb ST01	中国		207	碗		(6.8)	(3.15)	3/12	ST01	93Ea ST01	尾張	
193	青磁皿		3.2	(1.4)	2/12	ST24	93Hb ST01	中国		208	碗	(14.1)		(3.95)	2/12	ST01	93Ea ST01	東濃	
194	小皿	(7.6)	(5.4)	(1.1)	4/12	ST24	93Hb ST01	東濃		209	碗	(12.2)		(2.7)	2/12	ST01	93Ea ST01	東濃	
195	碗		(5.0)	(0.5)	1/12	ST24	93Hb ST01	東濃		210	碗	(12.1)		(3.0)	2/12	ST01	93Ea ST01	東濃	
196	碗		4.5	(0.6)	9/12	ST24	93Hb ST01	東濃		211	小皿		4.1	1.4	9/12	ST01	93Ea ST01	尾張	
197	広口瓶	(13.0)		(2.3)	2/12	ST19	92Db ST16			212	皿	(6.2)	(2.0)	1.25	3/12	ST01	93Ea ST01	土師質	
198	瓶		(12.2)	(4.5)	3/12	ST19	92Db ST16			213	折縁盤		(8.6)	(1.8)	4/12	ST01	93Ea ST01	古瀬戸	

第62図 水田跡出土遺物実測図(1)

中世の遺物

ST 25 (第62図190. 図版18)

93Hb区旧ST 02で青磁碗が出土。

ST 95 (第62図191. 図版18)

93Hb区旧ST 05で白磁碗が出土。

ST 24 (第62図192～196)

93Hb区旧ST 01で青磁、白磁の皿、東濃型の灰釉系陶器の碗、皿が出土、灰釉系陶器の底部外面には墨書がある。15世紀前半。

ST 19 (第62図197. 198)

92Db区旧ST 16で広口瓶、瓶が出土。10世紀後半。

ST 20 (第62図199. 200)

92Db区旧ST 17で美濃須衛窯の碗、鉢が出土。9世紀後半。

ST 03 (第62図201～204)

92E区旧ST 42で9世紀後半の美濃窯の灰釉皿(201)と、尾張型の灰釉系碗、12世紀後半が出土。15世紀中頃の脇之島窯(204)の碗も出土。

ST 05 (第62図205. 206)

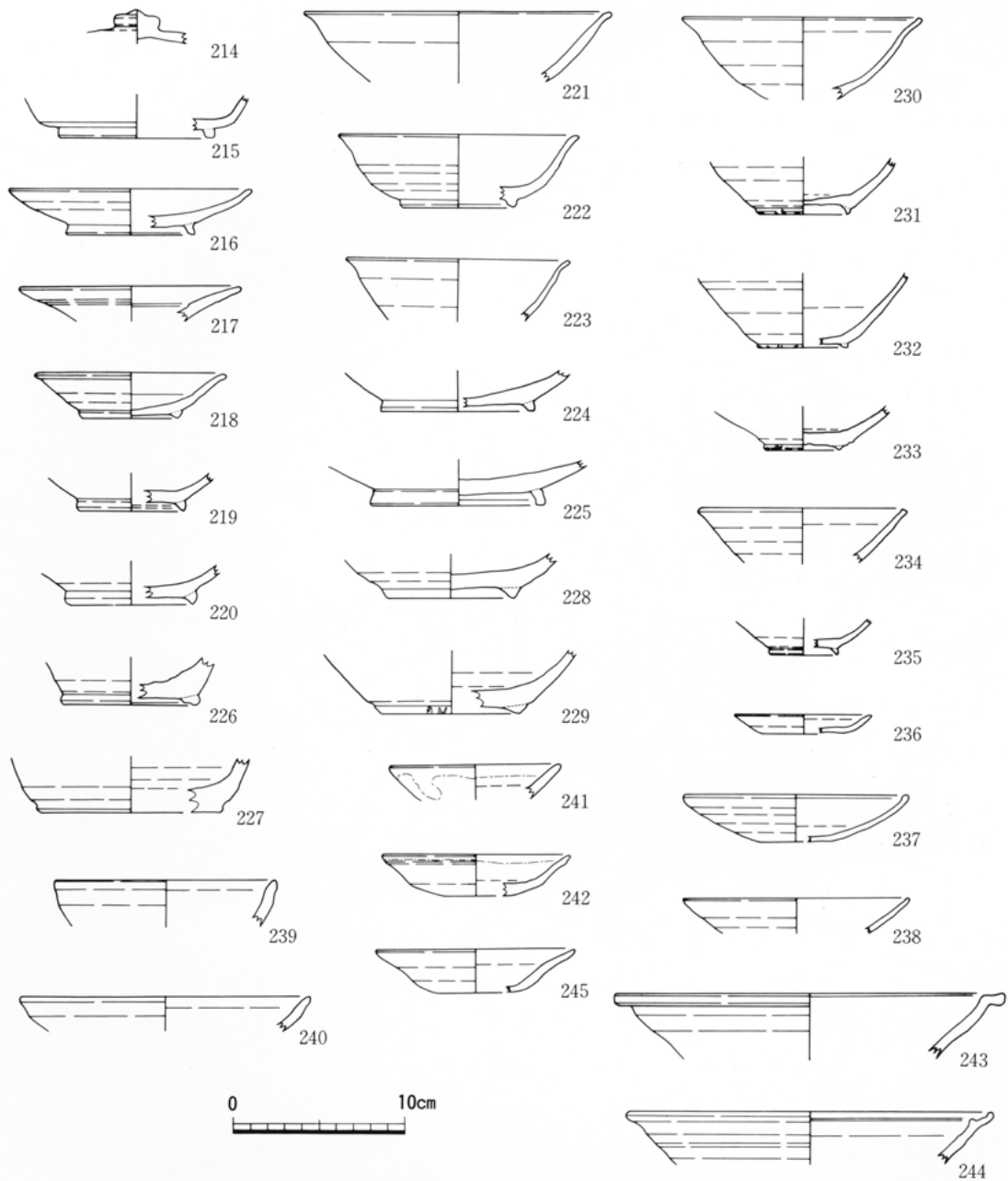
93F区旧ST 02で12世紀前半の尾張型の灰釉系碗と13世紀前半の東濃型の灰釉系碗が出土。

ST 01 (第62図207～213)

93Ea区旧ST 01で12世紀代の尾張型灰釉系碗・小皿と13世紀代、15世紀前半の東濃型の灰釉系碗、13世紀後半の古瀬戸中期の折縁盤、土師質皿が出土した。

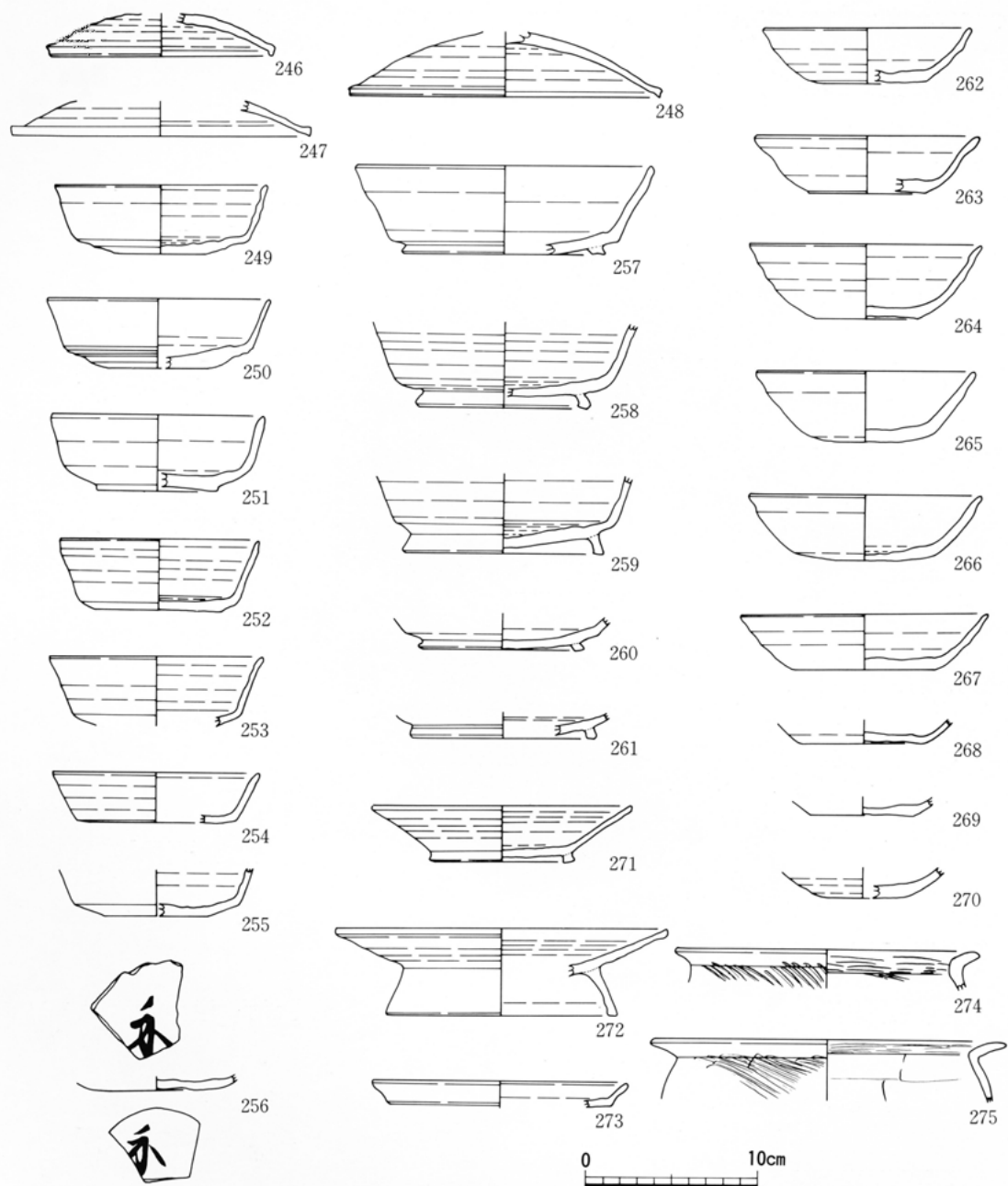
ST 24 (第63図214～245、図版13)

93Hb区ST 01で美濃須衛窯の杯蓋、猿投窯の杯B、灰釉皿、段皿、灰釉、長頸瓶、瓶と東濃型の灰釉系碗、尾張型の灰釉系碗、古瀬戸の平碗、縁釉皿、折縁鉢、擂鉢、皿と美濃窯連房期の天目茶碗が出土している。9世紀後半から17世紀までの遺物である。9世紀後半から10世紀にかけての時期と、14世紀から15世紀の時期に遺物のまとまりがみられる。



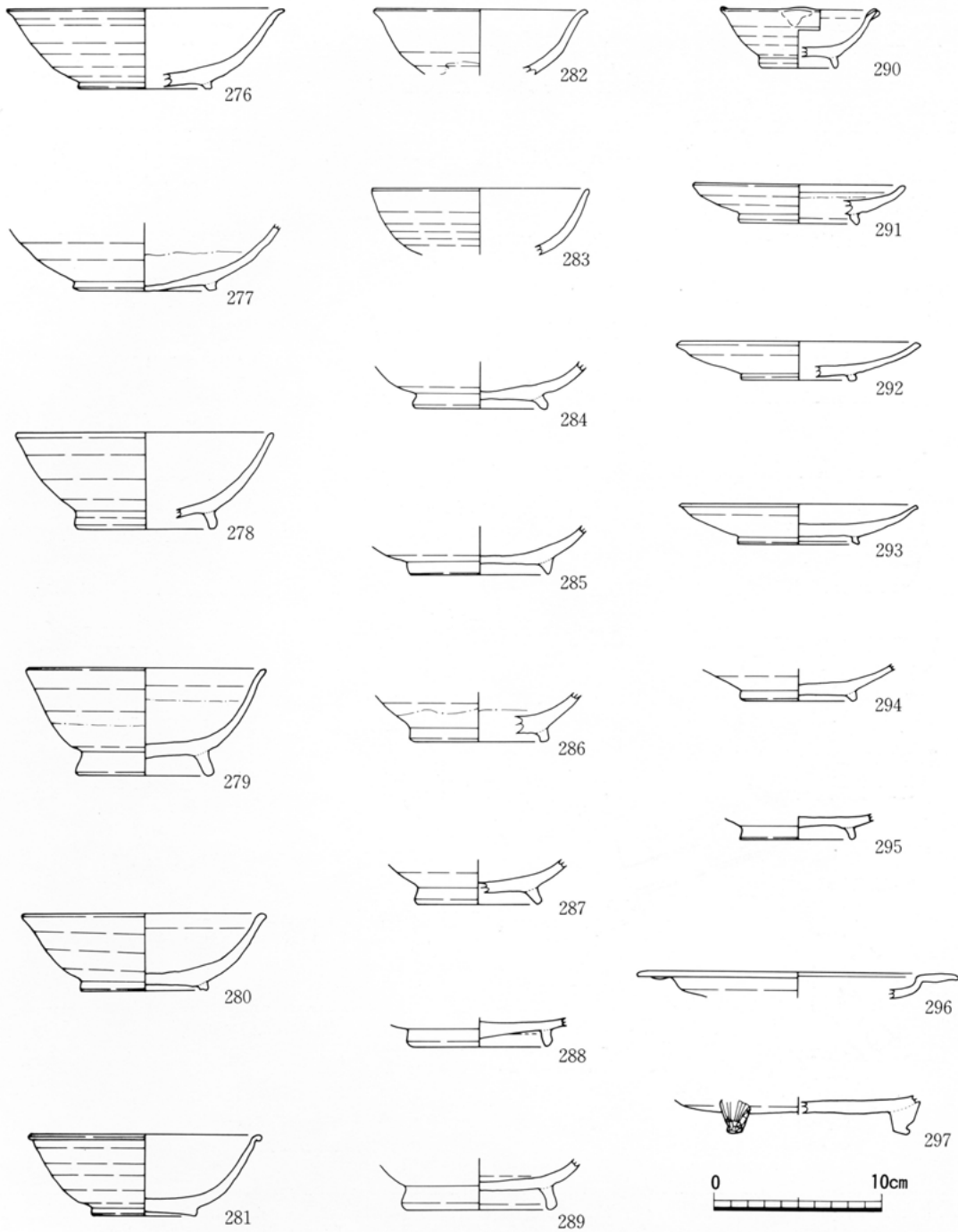
番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	
214	杯蓋			(2.0)		ST24	93Hb ST01	美須衛		230	碗	(13.8)		(4.7)	2/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
215	杯B		(9.0)	(2.4)	3/12	ST24	93Hb ST01	猿 投		231	碗		(5.2)	(3.2)	6/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
216	皿	(14.0)	(7.4)	(2.5)	4/12 3/12	ST24	93Hb ST01	猿 投	13	232	碗		(5.2)	(4.2)	4/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
217	段皿	(12.4)		(2.5)	2/12	ST24	93Hb ST01	猿 投		233	碗			4.3 (2.45)	12/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
218	段皿	(10.8)	(5.6)	2.6	1/12 3/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		234	碗	(11.6)		(3.1)	2/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
219	碗		(6.0)	(2.2)	4/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		235	碗			(3.9)	(2.0)	6/12	ST24	93Hb ST01	東 濃	
220	碗		(7.2)	(2.3)	4/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		236	碗	(7.8)	(4.8)	(1.1)	4/12 6/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
221	碗	(17.6)		(4.1)	1/12	ST24	93Hb ST01	猿 投		237	碗	(13.0)	(4.4)	(2.7)	1/12 2/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
222	碗	(13.6)	(6.4)	4.2	1/12 1/12	ST24	93Hb ST01	猿 投		238	碗	(13.0)		(2.0)	3/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		
223	碗	(12.7)		(3.6)	2/12	ST24	93Hb ST01	東 濃		239	天目茶碗	(12.8)		(2.7)	1/12	ST24	93Hb ST01	美 濃		
224	碗		(9.0)	(2.35)	3/12	ST24	93Hb ST01	東海系		240	平碗	(17.0)		(2.0)	2/12		93Hb ST01	古瀬戸		
225	碗		(10.0)	(2.6)	3/12	ST24	93Hb ST01	猿 投		241	縁軸皿	(9.8)		(2.0)	2/12	ST24	93Hb ST01	古瀬戸		
226	長頸瓶		(7.8)	(2.2)	6/12	ST24	93Hb ST01	猿 投		242	縁軸皿	(10.8)	(4.0)	(2.4)	2/12	ST24	93Hb ST01	古瀬戸		
227	手付瓶		(10.5)	(3.2)	3/12	ST24	93Hb ST01	猿 投		243	折縁鉢	(22.4)		(3.7)	1/12	ST24	93Hb ST01	古瀬戸		
228	碗		(7.4)	(2.5)	6/12	ST24	93Hb ST01	尾 張		244	搦鉢	(21.0)		(3.0)	1/12	ST24	93Hb ST01	古瀬戸		
229	碗		(8.0)	(3.6)	5/12	ST24	93Hb ST01	尾 張		245	皿	(11.4)		(2.5)	3/12	ST24	93Hb ST01	古瀬戸	13	

第63図 水田跡出土遺物実測図(2)



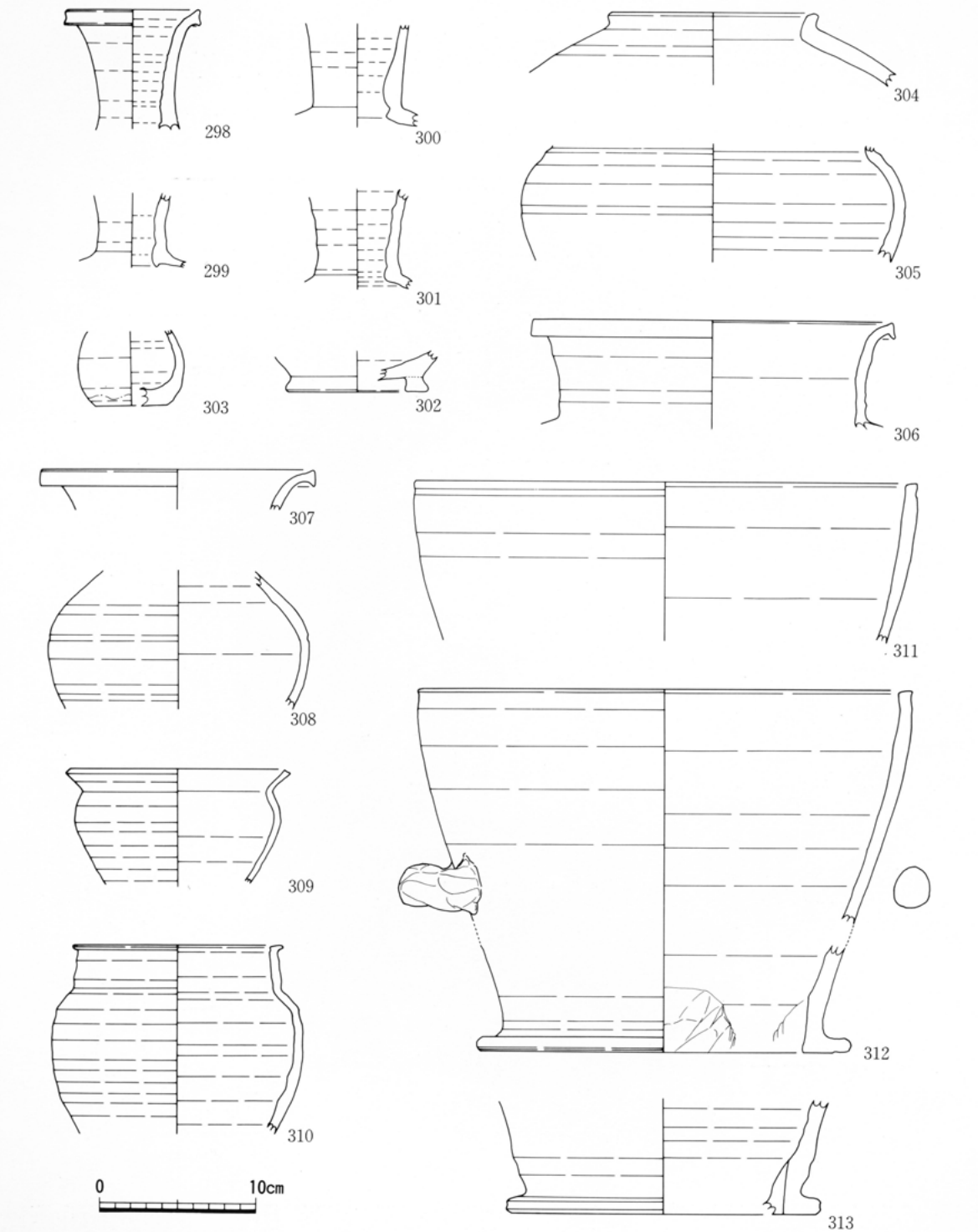
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
246	杯蓋	(13.0)		(2.4)	3/12	SD239	93Hb SD06	美須衛		261	杯B		(10.6)	(1.5)	5/12	SD239	93Hb SD06	猿投	
247	盤	(17.4)		(2.0)	3/12	SD239	93Hb SD06	美須衛		262	碗A	(12.0)	(6.6)	3.2	1/12 3/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
248	杯蓋	(18.0)		(3.7)	1/12	SD239	93Hb SD06	猿投		263	碗A	(12.8)	6.8	3.25	7/12 8/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
249	杯A	12.3	5.2	4.0	9/12 12/12	SD239	93Hb SD06	猿投	13	264	碗A	(13.4)	(6.0)	4.3	3/12 7/12	SD239	93Hb SD06	猿投	13
250	杯A	(12.8)	(5.8)	(4.0)	1/12 6/12	SD239	93Hb SD06	猿投		265	碗A	12.8		4.1	8/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	13
251	杯A	(12.4)	(6.8)	4.4	5/12 6/12	SD239	93Hb SD06	猿投	13	266	碗A	(13.4)		3.8	3/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
252	杯A	(11.6)	7.2	4.1	2/12 8/12	SD239	93Hb SD06	猿投	13	267	碗A	(14.2)	(8.0)	3.2	1/12 4/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
253	杯A	(12.4)		(4.0)	5/12	SD239	93Hb SD06	猿投		268	碗A		(7.0)	(1.2)	3/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
254	杯A	(12.0)	(7.8)	2.9	1/12 3/12	SD239	93Hb SD06	猿投		269	碗A		(6.0)	(1.1)	6/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
255	杯A		(6.0)	(2.7)	3/12	SD239	93Hb SD06	猿投		270	碗A		(4.0)	(1.8)	3/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
256	杯A		(5.8)	(0.8)	4/12	SD239	93Hb SD06	美須衛		271	碗B	(14.8)	(7.8)	(3.3)	4/12 12/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	13
257	杯B	(17.0)	(11.6)	5.1	2/12 5/12	SD239	93Hb SD06	美須衛		272	盤C	(19.2)	(13.4)	(5.0)	1/12 3/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
258	杯B		(9.8)	(4.9)	7/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	13	273	盤B	(14.8)		(1.5)	2/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
259	杯B		11.3	(4.55)	11/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	13	274	甕	(17.1)		(2.2)	3/12	SD239	93Hb SD06	土師器	
260	杯B		(9.2)	(1.9)	6/12	SD239	93Hb SD06	美須衛		275	甕		20.0	(3.5)	5/12	SD239	93Hb SD06	土師器	13

第64図 溝出土遺物実測図(1): SD239(1)



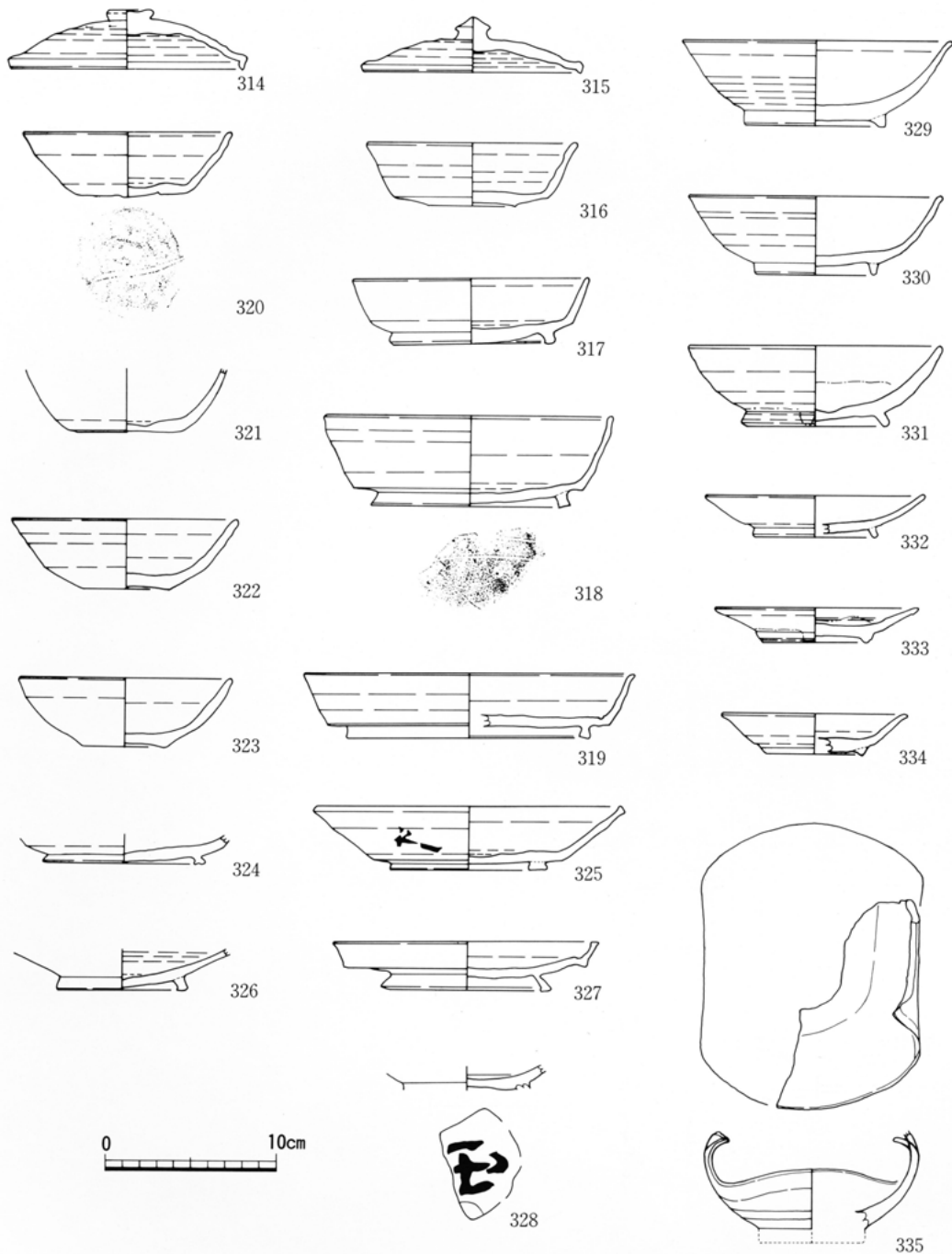
番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	
276	碗	(16.4)	(7.8)	4.75	1/12 4/12	SD239	93Hb SD06	東海系	13	287	碗		(7.1)	(2.7)		3/12	SD239	93Hb SD06	美 濃	
277	碗		(7.8)	(4.0)		9/12	SD239 93Hb SD06	東海系		288	碗		8.0	(1.7)		12/12	SD239 93Hb SD06	美 濃		
278	碗	(15.1)	(7.8)	5.8	3/12 4/12	SD239	93Hb SD06	美 濃	13	289	碗		(8.6)	(3.1)		7/12	SD239 93Hb SD06	美 濃		
279	碗	(14.2)	8.0	6.4	1/12 12/12	SD239	93Hb SD06	美 濃	13	290	輪花碗	(9.6)	4.4	3.6	4/12 3/12	SD239	93Hb SD06	美 濃	14	
280	碗	(14.2)	7.6	4.65	5/12 12/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	13	291	皿	(12.4)	(7.0)	2.3	2/12 1/12	SD239	93Hb SD06	美 濃		
281	碗	(13.6)	6.1	4.8	3/12 7/12	SD239	93Hb SD06	東海系	13	292	皿	(14.2)	(6.8)	(2.3)	5/12 5/12	SD239	93Hb SD06	東海系	14	
282	碗	(12.4)		(3.85)	2/12	SD239	93Hb SD06	美 濃		293	皿	(14.0)	(7.2)	(2.4)	1/12 12/12	SD239	93Hb SD06	東海系	14	
283	碗	(13.8)		(4.0)	3/12	SD239	93Hb SD06	美 濃		294	皿		6.4	(2.15)		12/12	SD239	93Hb SD06	東 濃	
284	碗			7.8	(2.9)	SD239	93Hb SD06	美須衛		295	皿		(6.7)	(1.45)		11/12	SD239	93Hb SD06	猿 投	
285	碗		8.2	(2.9)		11/12	SD239 93Hb SD06	猿 投	14	296	盤	(18.0)		(1.5)	1/12	SD239	93Hb SD06	美 濃		
286	碗		(8.1)	(2.9)		4/12	SD239 93Hb SD06	美 濃		297	三足盤		(13.2)	(2.3)		4/12	SD239	93Hb SD06	美 濃	

第65図 溝出土遺物実測図(2): SP239(2)



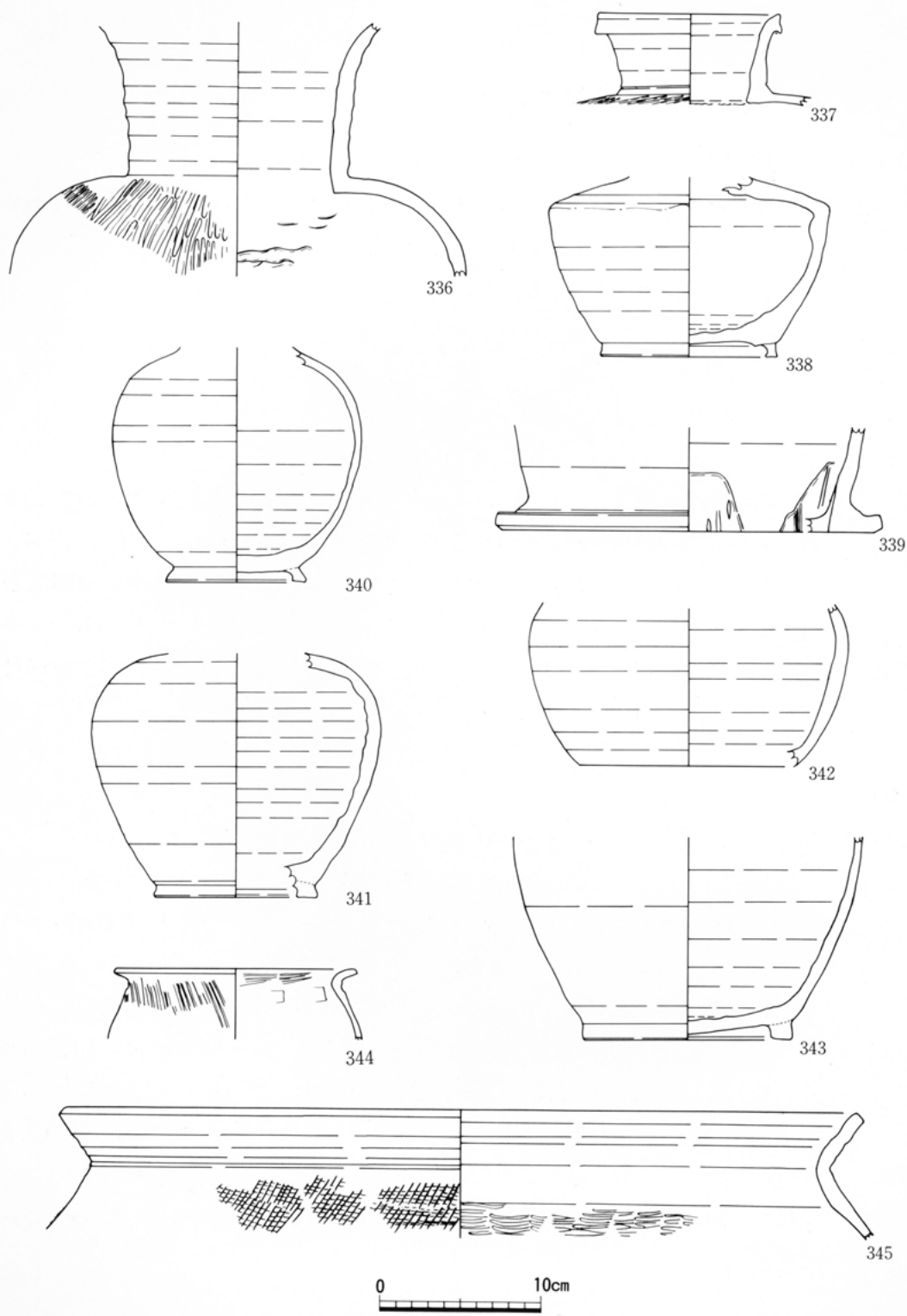
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通標番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通標番号	旧遺構番号	産地	図版
298	長頸瓶	(8.4)		(7.5)	5/12	SD239	93Hb SD06	猿投 14		306	甕	(22.8)		(6.7)	2/12	SD239	93Hb SD06	猿投	
299	長頸瓶			(4.7)		SD239	93Hb SD06	美須衛		307	広口壺	(17.4)		(2.0)	3/12	SD239	93Hb SD06	猿投	
300	長頸瓶			(6.6)		SD239	93Hb SD06	美須衛		308	長頸瓶			(8.8)		SD239	93Hb SD06	美須衛	
301	長頸瓶			(6.3)		SD239	93Hb SD06	美須衛		309	鉢	(13.6)		(7.3)	2/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
302	長頸瓶		(8.6)	(2.6)	4/12	SD239	93Hb SD06	猿投		310	鉢	(13.2)		(12.0)	2/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
303	小瓶		(4.6)	(4.7)	5/12	SD239	93Hb SD06			311	こしき	(31.9)		(10.15)	2/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
304	短頸壺	(13.0)		(6.3)	1/12	SD239	93Hb SD06	美須衛		312	こしき	(31.2)	(23.0)	(23.0)	1/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	
305	鉢			(7.4)		SD239	93Hb SD06	美須衛		313	こしき		(19.4)	(7.3)	2/12	SD239	93Hb SD06	美須衛	

第66図 溝出土遺物実測図（3）：SD239（3）



番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版
314	杯蓋	13.3		3.45	8/12		SD240 93Hb SD05	猿 投	14	325	碗B	(17.4)	(9.0)	(3.7)	2/12 8/12	SD240 93Hb SD05	美須衛		
315	杯蓋	(12.5)		3.2	3/12		SD240 93Hb SD05	美須衛	14	326	碗B		7.4	(2.1)		12/12	SD240 93Hb SD05-06	猿 投	
316	杯A	(12.2)	5.0	(3.7)	4/12 12/12		SD240 93HbSD05-17	猿 投	14	327	盤B	15.4	9.2	2.9	10/12 5/12	SD240 93Hb SD05	美須衛	14	
317	杯B	13.8	9.2	3.8	10/12 12/12		SD240 93Hb SD05	美須衛	14	328	碗			(1.45)			SD240 93Hb SD05	美須衛	
318	杯B	16.6	11.4	5.25	10/12 10/12		SD240 93Hb SD06	猿 投	14	329	碗	15.6	8.0	5.0	9/12 12/12	SD240 93Hb SD05-14	美 濃	14	
319	杯B	(19.0)	(14.0)	3.7	6/12 6/12		SD240 93Hb SD05	猿 投	14	330	碗	14.4	6.6	4.6	5/12 11/12	SD240 93Hb SD05	猿 投	14	
320	碗A	12.2		3.8	7/12		SD240 93Hb SD04-05	美須衛	14	331	碗	(14.5)	(8.0)	4.7	1/12 6/12	SD240 93Hb SD05	美 濃		
321	碗A		(5.6)	(3.7)		5/12	SD240 93Hb SD05	美須衛		332	皿	12.6	(6.8)	2.4	3/12 6/12	SD240 93Hb SD05	美 濃	14	
322	碗A	(13.0)	(5.0)	(4.1)	5/12 12/12		SD240 93Hb SD05-06	猿 投	14	333	段皿	11.7	6.0	2.0	10/12 12/12	SD240 93Hb SD05	美須衛	14	
323	碗A	(12.3)	(4.8)	(4.0)	6/12 8/12		SD240 93Hb SD05-07	猿 投	14	334	段皿	10.6	5.6	2.35	2/12 6/12	SD240 93Hb SD05	美 濃		
324	碗B		(9.0)	(1.7)		11/12	SD240 93Hb SD05-9	美須衛	14	335	耳皿		(5.2)		5/12		SD240 93Hb SD05	美 濃	14

第67図 溝出土遺物実測図(4):SD240(1)



番号	器 種	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	
336	甕		(15.7)			SD240	93Hb SD05	猿 投		341	長頸瓶		(10.0)	(15.0)	(3/12)	SD240	93HbSD05-06	美 須 衛		
337	横瓶	11.2		(7.6)	9/12	SD240	93Hb SD05	猿 投	14	342	長頸瓶			(10.1)			SD240	93HbSD05-08	美 須 衛	
338	長頸瓶		(11.0)	(11.1)	(8/12)	SD240	93Hb SD05	美 須 衛		343	長頸瓶			12.8	(12.5)	12/12	SD240	93HbSD05-13	美 須 衛	
339	甕		(23.0)	(6.5)	(4/12)	SD240	93Hb SD05-23	美 須 衛	14	344	甕	(14.8)		(4.4)	4/12		SD240	93Hb SD05	土 師 器	
340	長頸瓶		8.6	(14.5)	12/12	SD240	93Hb SD06-16	猿 投		345	甕		(47.0)		(7.8)	3/12	SD240	93Hb SD05	美 須 衛	

第68図 溝出土遺物実測図（5）：SD240（2）

第3節 中世の主要遺構出土遺物

中世における灰釉系陶器「山茶碗」は「尾張型」と「東濃型」に区分した。

「尾張型」 碗は体部が内彎し口縁部が僅かに外反するものと体部が直線的で口縁になるものがあり、高台は大きく底部は厚い。粘土紐積上技法で粗製品。

「東濃型」 薄手の製品、轆轤水引技法で精製品である。碗は器高の高いものから器高の低いものも含む。

1. 溝

SD214 (第69図～第72図346～459、図版14. 図版15. 図版18)

93G区の南側、旧SD02、SD05で美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の灰釉碗、広口瓶、長頸瓶、瓶と尾張型と東濃型の灰釉系陶器の碗、片口碗、小皿、片口鉢と白磁碗、青磁皿、常滑窯の甕、土師質皿、伊勢型鍋、清郷型鍋が出土。9世紀後半から13世紀前半の時期の遺物で、灰釉陶器は美濃窯、灰釉系陶器は尾張型が多い。また土師質皿が多く、二段くぼみナデ(440.448.449)も出土している。12世紀後半から13世紀初めの時期の遺物が主体を占める。

2. 大溝

SD01・02 (第37図. 第38図. 第73図～第82図460～703、図版4. 図版15. 図版16. 図版18)

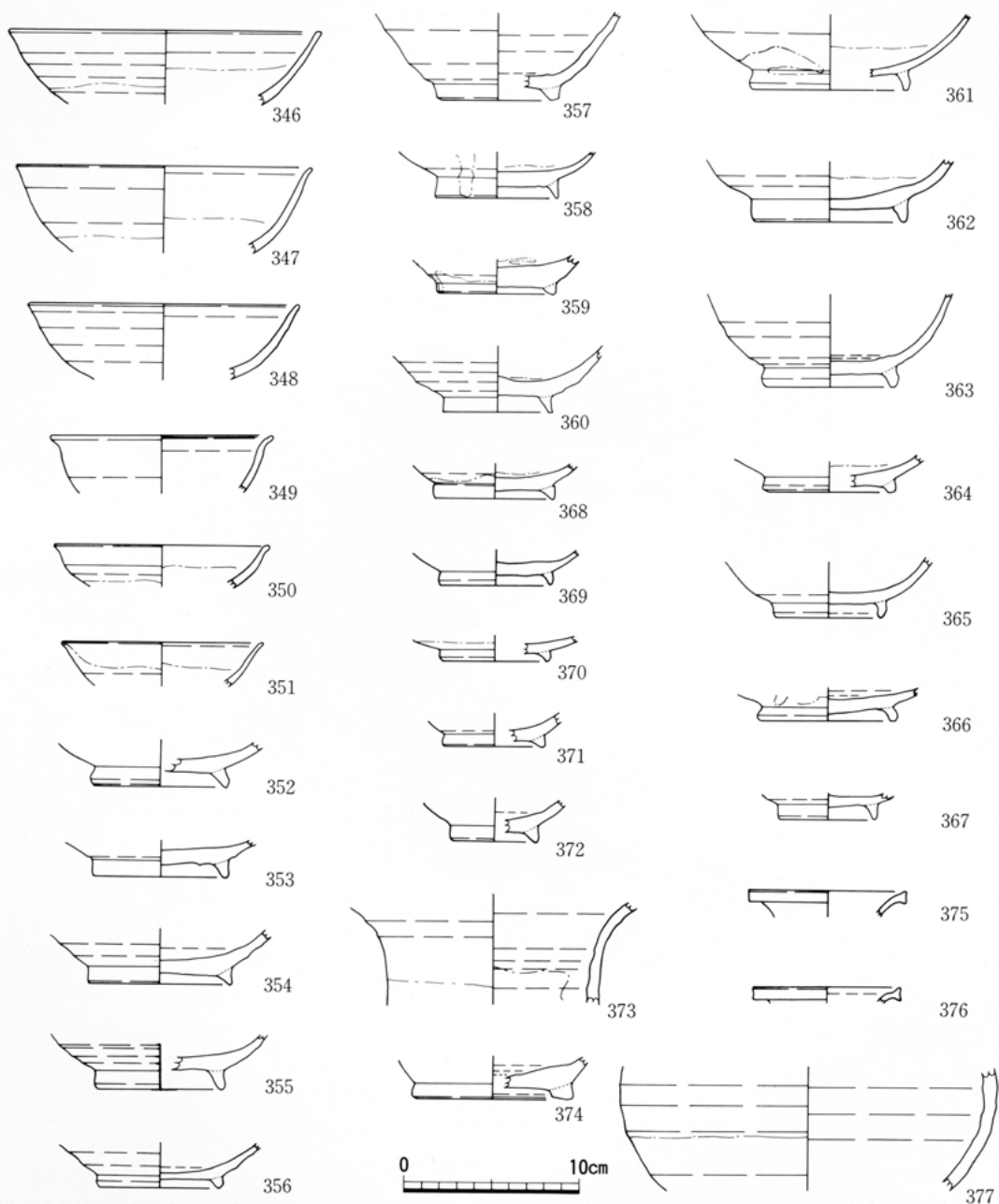
調査区の中央、93J区以南を南北に走るSD01と東に走るSD02である。

美濃須衛窯、猿投窯の杯身、杯蓋、碗A、碗B、杯A、杯B、盤、鉢、甕。猿投窯、尾北窯、美濃窯の灰釉碗、灰釉深碗、灰釉皿、段皿、耳皿、輪花皿、三足盤、広口瓶、把手付長頸瓶、長頸瓶、瓶、灰釉鉢。尾張型と東濃型の灰釉系陶器の碗、小皿、片口鉢。常滑窯の甕、羽釜。この他に柱状高台皿、土師質皿、伊勢型鍋、清郷型鍋。古瀬戸の天目茶碗、平碗、折縁深皿、四耳壺、瓶子、灰釉皿、連房期の美濃窯の灰釉菊皿が出土。5世紀後半から17世紀までの時期の遺物が出土しているが、杯蓋、杯、碗は美濃須衛窯が多く、灰釉陶器は美濃窯が多い。灰釉系陶器は12世紀後半は尾張型が多く、13世紀後半からは東濃型が多い。9世紀後半から10世紀代と12世紀後半の時期の遺物が主体を占める。

3. 墓道両脇溝

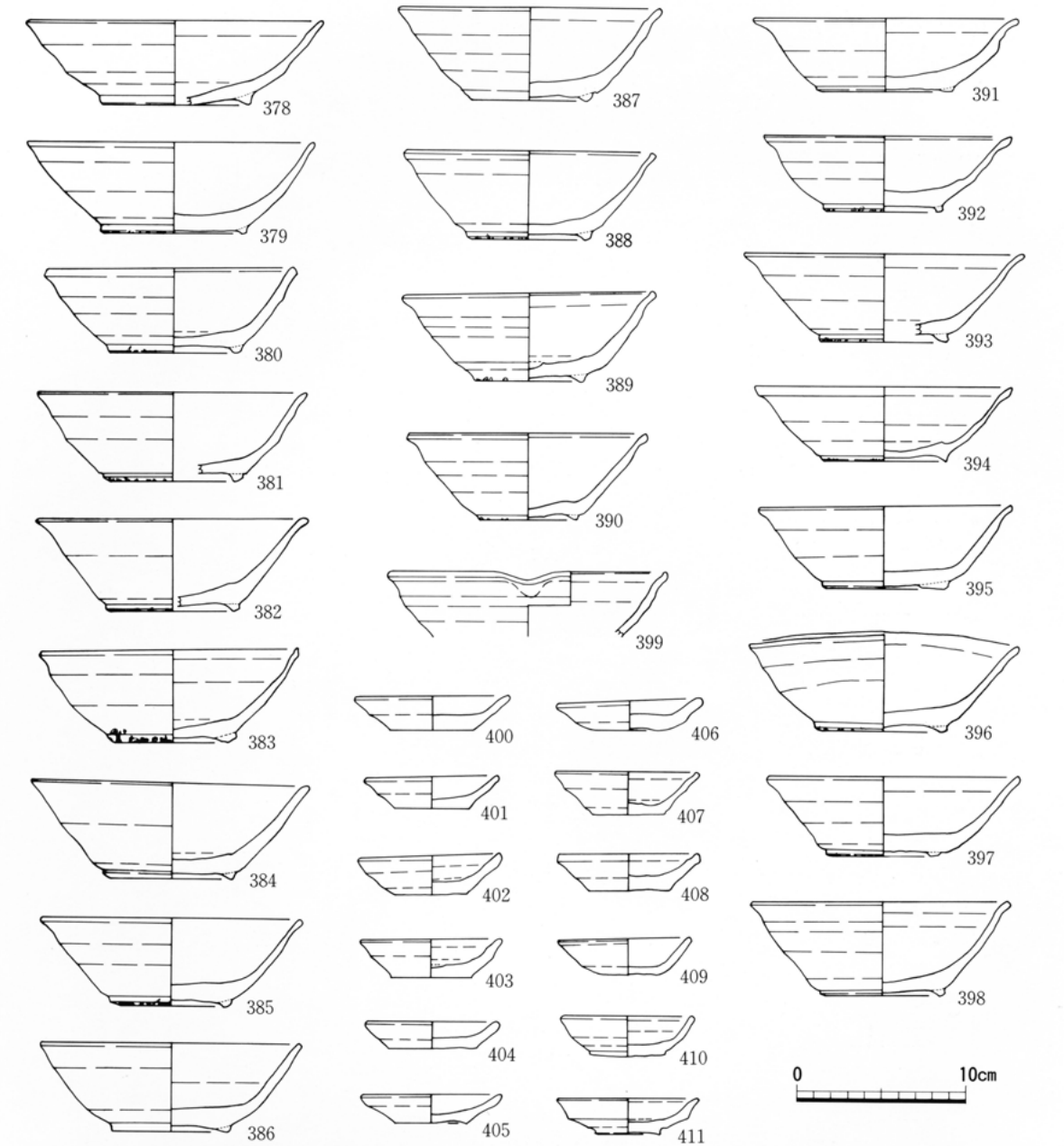
SD06・07 (第39図. 第40図. 第83図704～721. 図版1～3. 図版9)

墓道両脇の溝で92Ga区旧SD58・59である。東濃型の灰釉系陶器の碗、尾張型の鉢と古瀬戸の灰釉花瓶、灰釉縁釉皿そして土師質皿が出土。土師質皿は手頭圧痕が残る。13世紀後半から14世紀前半の時期の遺物である。



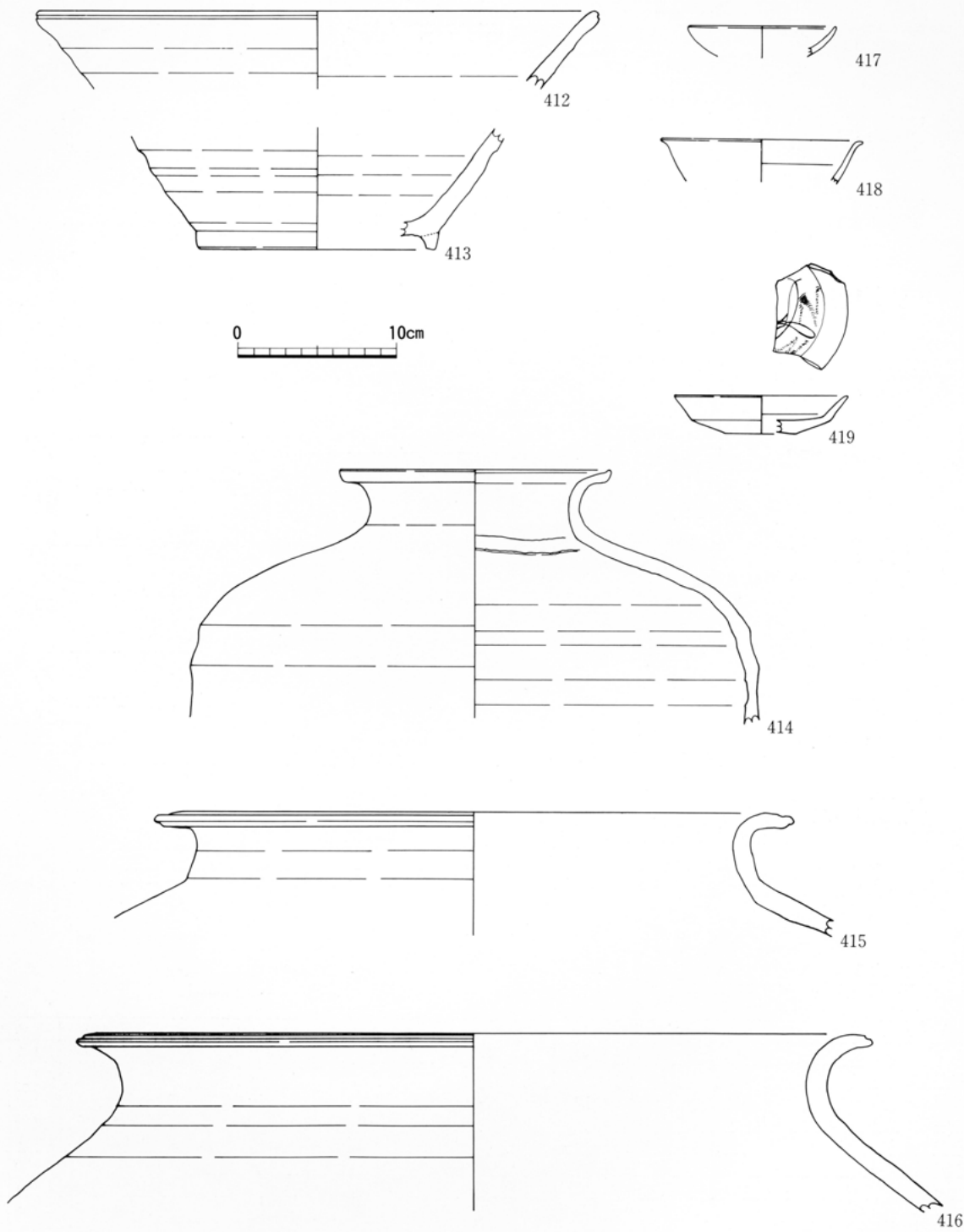
番号	器 種	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版
346	椀	(17.8)		(4.2)	2/12	SD214	93G SD02	美 濃		362	椀		(8.6)	(3.5)	2/12	SD214	93G SD05	美 濃	
347	椀	(12.6)		(3.3)	2/12	SD214	93G SD02	美 濃		363	椀		(7.4)	(5.3)	3/12	SD214	93G SD05	美 濃	
348	椀	(15.4)		(4.3)	4/12	SD214	93G SD02	美 濃		364	椀		(6.8)	(1.8)	4/12	SD214	93G SD05	美 濃	
349	椀	(12.6)		(3.3)	2/12	SD214	93G SD02	美 濃		365	椀		6.0	(3.2)	12/12	SD214	93G SD05	美 濃	
350	椀	(12.0)		(2.4)	2/12	SD214	93G SD02	美須衛		366	椀		(7.4)	(1.9)	4/12	SD214	93G SD05	美 濃	
351	椀	(11.4)		(2.5)	1/12	SD214	93G SD02	美 濃		367	椀		(5.4)	(1.5)	7/12	SD214	93G SD05	美 濃	
352	椀		(7.6)	(2.6)	3/12	SD214	93G SD02	美 濃		368	椀		(6.8)	(2.0)	5/12	SD214	93G SD02	美 濃	
353	椀		(7.6)	(2.1)	4/12	SD214	93G SD02	美 濃		369	椀		(6.4)	(2.0)	4/12	SD214	93G SD02	美 濃	
354	椀		(8.2)	(3.1)	4/12	SD214	93G SD02	美 濃		370	椀		(6.0)	(1.4)	3/12	SD214	93G SD02	猿 投	
355	椀		(6.0)	(3.2)	4/12	SD214	93G SD02	美 濃		371	椀		(5.6)	(1.9)	3/12	SD214	93G SD02	尾 張	
356	椀		(6.8)	(2.6)	6/12	SD214	93G SD02	尾 北		372	椀		(4.6)	(2.4)	4/12	SD214	93G SD02	美 濃	
357	椀		(6.1)	(5.0)	4/12	SD214	93G SD02	美 濃		373	広口瓶			(5.9)		SD214	93G SD02	美 濃	
358	椀		(6.8)	(2.6)	9/12	SD214	93G SD02	美 濃		374	長頸瓶		(8.6)	(2.4)	5/12	SD214	93G SD02	猿 投	
359	椀		(6.6)	(2.1)	7/12	SD214	93G SD02	美須衛		375	長頸瓶	(9.0)		(1.5)	1/12	SD214	93G SD02	美 濃	14
360	椀		(6.2)	(3.8)	2/12	SD214	93G SD02	美須衛		376	長頸瓶	(8.4)		(0.9)	2/12	SD214	93G SD02	猿 投	
361	椀		(8.9)	(4.3)	4/12	SD214	93G SD05	美 濃		377	瓶			(7.0)		SD214	93G SD05	猿 投	

第69図 溝出土遺物実測図(6):SD214(1)



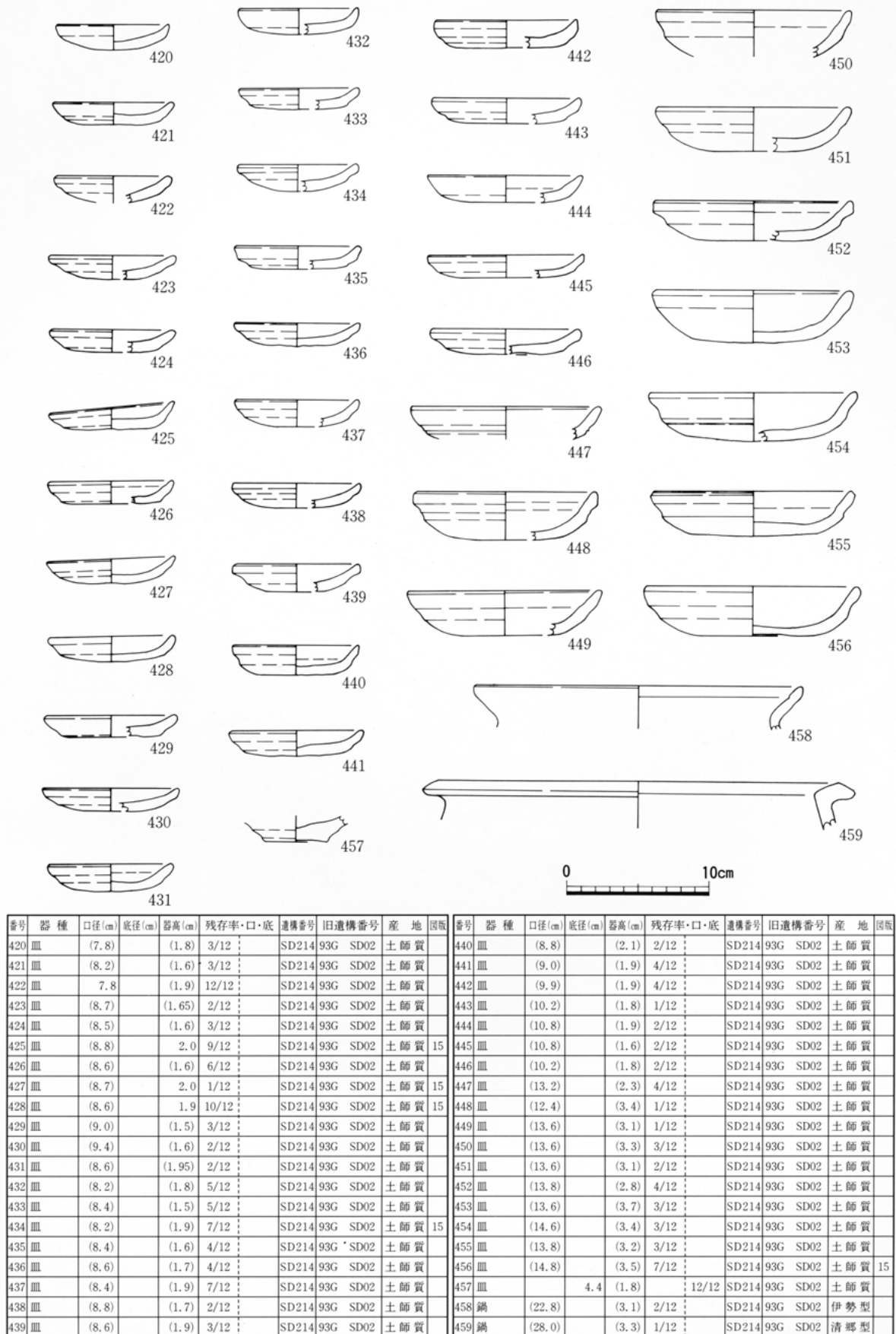
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
378	碗	(17.2)	(8.6)	4.9	3/12 : 3/12	SD214	93G SD02	尾張	図版
379	碗	(16.9)	8.0	5.4	2/12 : 9/12	SD214	93G SD05	尾張	14
380	碗	(14.6)	7.4	5.1-4.9	9/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	14
381	碗	(15.8)	(7.4)	5.3	3/12 : 4/12	SD214	93G SD02	尾張	
382	碗	(15.8)	(7.4)	5.4	5/12 : 5/12	SD214	93G SD02	尾張	
383	碗	15.3	6.8	5.5	7/12 : 12/12	SD214	93G SD02	東濃	15
384	碗	16.4	(7.2)	5.9	11/12 : 1/12	SD214	93G SD02	尾張	15
385	碗	(15.4)	6.2	5.2	4/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
386	碗	(15.2)	(7.0)	5.3	5/12 : 4/12	SD214	93G SD02	尾張	15
387	碗	(15.8)	(6.8)	5.4	5/12 : 9/12	SD214	93G SD02	尾張	15
388	碗	(14.5)	(6.6)	5.2	1/12 : 6/12	SD214	93G SD02	東濃	
389	碗	14.7	6.4	5.3	11/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	15
390	碗	(14.0)	5.6	5.1	5/12 : 9/12	SD214	93G SD02	尾張	
391	碗	(15.4)	7.8	4.3	1/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
392	碗	(15.0)	6.8	4.5	3/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
393	碗	(16.4)	(7.4)	5.2	2/12 : 4/12	SD214	93G SD02	尾張	
394	碗	(15.2)	7.2	4.4	4/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
395	碗	(14.8)	7.0	5.0	8/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
396	碗	(15.8)	7.0	5.8	1/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	15
397	碗	(14.8)	5.8	4.7	1/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
398	碗	(14.9)	6.9	5.6	1/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
399	片口碗	(16.2)		(3.9)	8/12 : 12/12	SD214	93G SD02	東濃	
400	小皿	(9.0)	(5.0)	(2.0)	3/12 : 5/12	SD214	93G SD02	尾張	
401	小皿	7.8	4.4	2.0	11/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
402	小皿	8.2	4.3	2.5	12/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	15
403	小皿	8.2	4.8	2.3	11/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	15
404	小皿	(7.6)	(5.2)	1.6	5/12 : 6/12	SD214	93G SD02	尾張	
405	小皿	(8.2)	(4.2)	1.7	3/12 : 4/12	SD214	93G SD02	尾張	
406	小皿	8.4	4.0	1.9	11/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
407	小皿	8.3	4.3	2.6	12/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
408	小皿	(8.2)	4.7	2.2	4/12 : 7/12	SD214	93G SD05	尾張	
409	小皿	7.7	3.6	2.3	12/12 : 12/12	SD214	93G SD02	尾張	
410	小皿	(7.6)	(3.4)	2.3	5/12 : 6/12	SD214	93G SD02	東濃	
411	小皿	(8.2)	3.8	2.1	4/12 : 7/12	SD214	93G SD02	東濃	

第70図 溝出土遺物実測図(7):SD214(2)

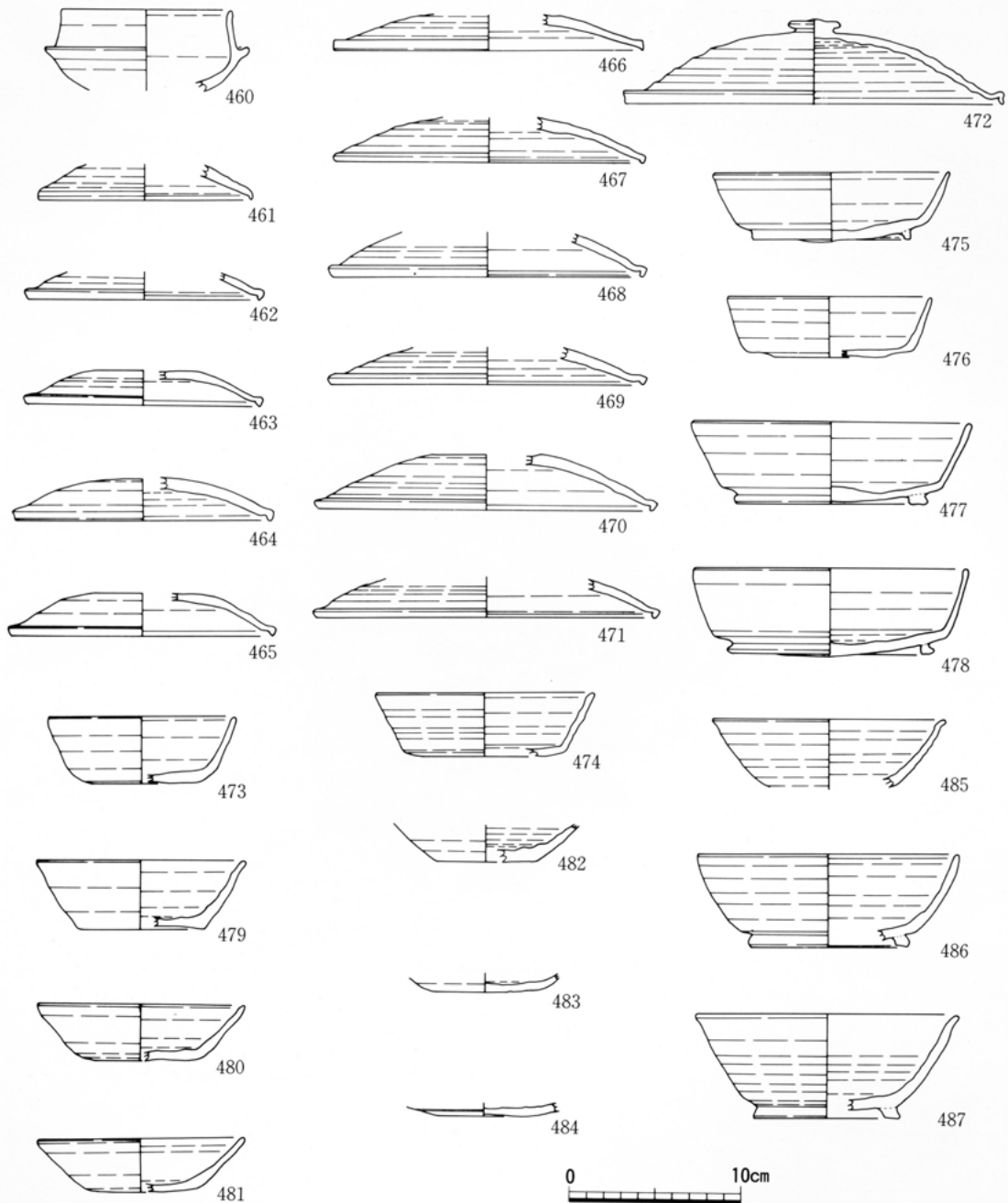


番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	国版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	国版
412	片口鉢	(35.2)		(4.9)	1/12	SD214	93G SD02	尾張		416	甕	(47.4)		(11.0)	1/12	SD214	93G SD02	常滑	
413	片口鉢		(14.8)	(7.6)	2/12	SD214	93G SD02	尾張		417	白磁皿	9.4		(1.8)	2/12	SD214	93G SD05	中国	
414	甕	(17.0)		(15.6)	1/12	SD214	93G SD02	常滑		418	白磁碗	12.8		(2.7)	1/12	SD214	93G SD02	中国	
415	甕	(36.4)		(7.8)	3/12	SD214	93G SD02	常滑		419	青磁皿	10.8	4.4	(2.4)	3/12	SD214	93G SD02	中国	18

第71図 溝出土遺物実測図(8) : SD214(3)

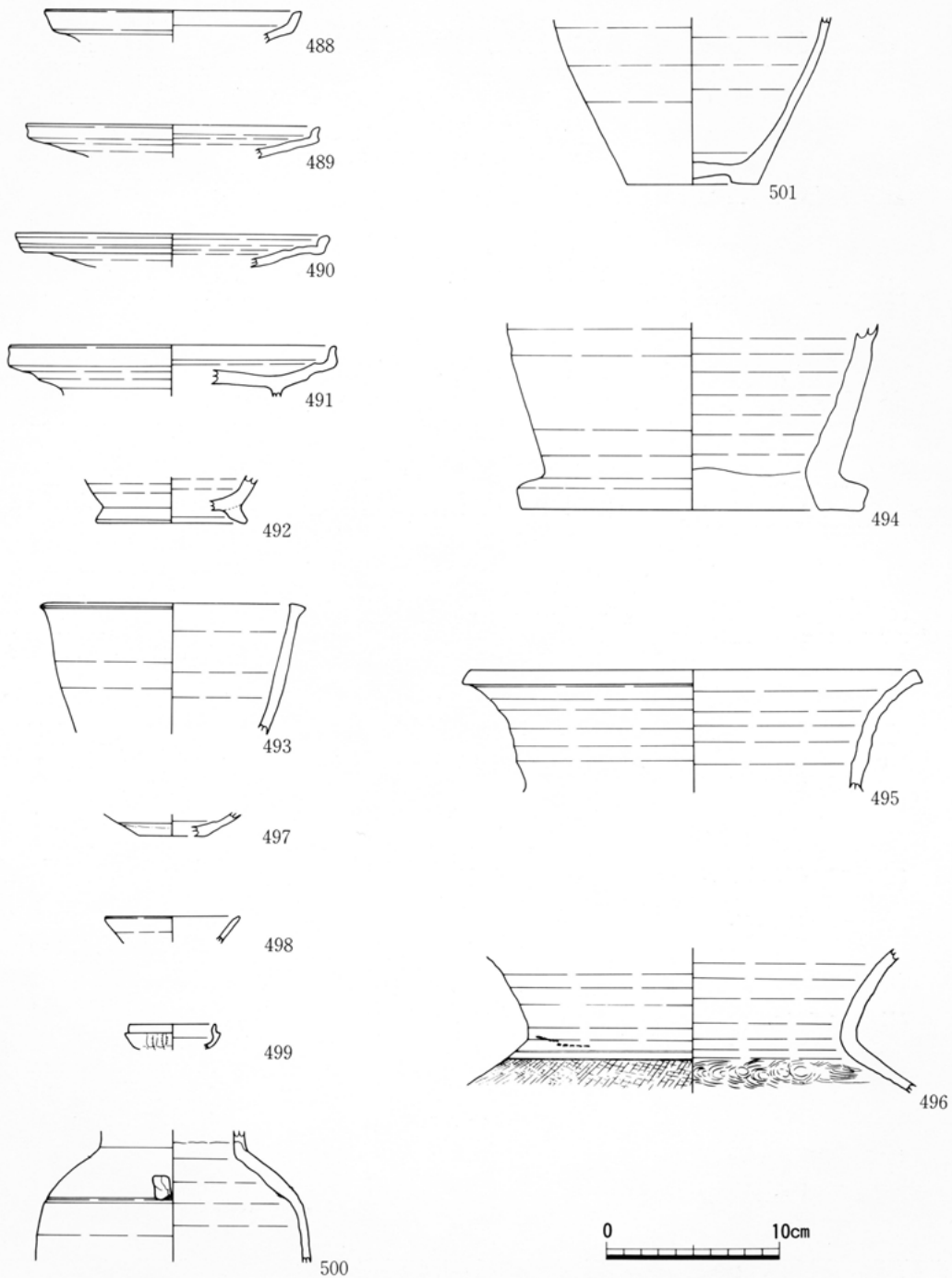


第72図 溝出土遺物実測図(9):SD214(4)



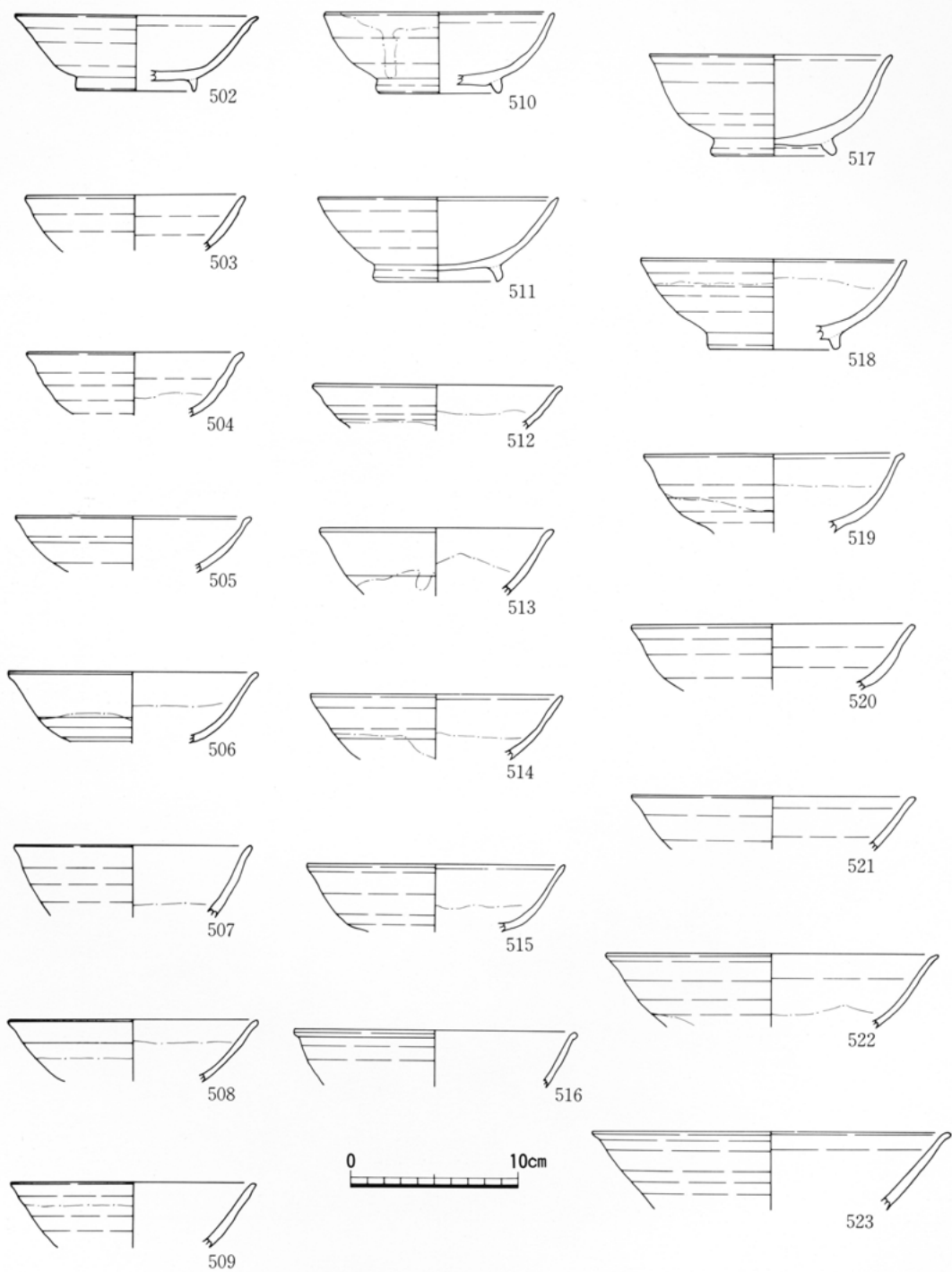
番号	器 種	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(㎝)	底径(㎝)	器高(㎝)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	
460	杯身	(12.0)		(4.3)	2/12	SD01	93J SD26	猿 投		474	杯A	(12.7)	(7.0)	(3.7)	4/12 1/12	SD01	92Ca SD03	猿 投		
461	杯蓋	(12.4)		(2.0)	3/12	SD01	93I SD03	美須衛		475	杯B	(13.6)	9.2	3.9	5/12 12/12	SD02	92H SD43	美須衛	15	
462	杯蓋	(13.4)		(1.6)	2/12	SD02	92H SD43	美須衛		476	杯B	(14.8)	(7.9)	4.1	2/12 2/12	SD02	92H SD43	猿 投		
463	杯蓋	(13.6)		(2.0)	3/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		477	杯B	16.3	11.2	4.8	6/12 12/12	SD02	92H SD43	美須衛	15	
464	杯蓋	(14.8)		(2.5)	6/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		478	杯B	(16.0)	11.4	5.1	3/12 8/12	SD01	93J SD26	美須衛		
465	杯蓋	(15.2)		(2.5)	2/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		479	碗A	(12.2)	(7.4)	(4.0)	2/12 5/12	SD01	92Cb SD03	猿 投		
466	杯蓋	(18.0)		(2.1)	2/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		480	杯A	(12.0)	(5.0)	3.3	4/12 4/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		
467	杯蓋	(17.9)		(2.6)	2/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		481	杯A	(12.0)	(4.8)	3.1	2/12 3/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		
468	杯蓋	(18.0)		(2.6)	3/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		482	杯A		(6.0)	(2.1)		3/12	SD01	95Aa SD01	美須衛	
469	杯蓋	(18.2)		(2.15)	3/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		483	杯A		(5.0)	(1.1)		5/12	SD01	95Aa SD01	美須衛	
470	杯蓋	(19.6)		(3.2)	3/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		484	杯A		(5.0)	(0.8)		5/12	SD01	95Ab SD01	美須衛	
471	杯蓋	(19.6)		(2.2)	2/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		485	碗A	(13.4)		(4.1)	2/12		SD01	92Cb SD03	猿 投	
472	杯蓋	(22.4)		4.9	6/12	SD01	93J SD26	猿 投		486	碗B	(15.0)	(9.2)	5.4	2/12 2/12	SD01	92Ca SD03	猿 投		
473	杯A	(11.0)	(7.8)	3.9	1/12 4/12	SD01	93J SD26	美須衛		487	碗B	(15.4)	(8.6)	6	5/12 5/12	SD01	95Aa SD01	猿 投		

第73図 大溝出土遺物実測図(1):SD01・02(1)



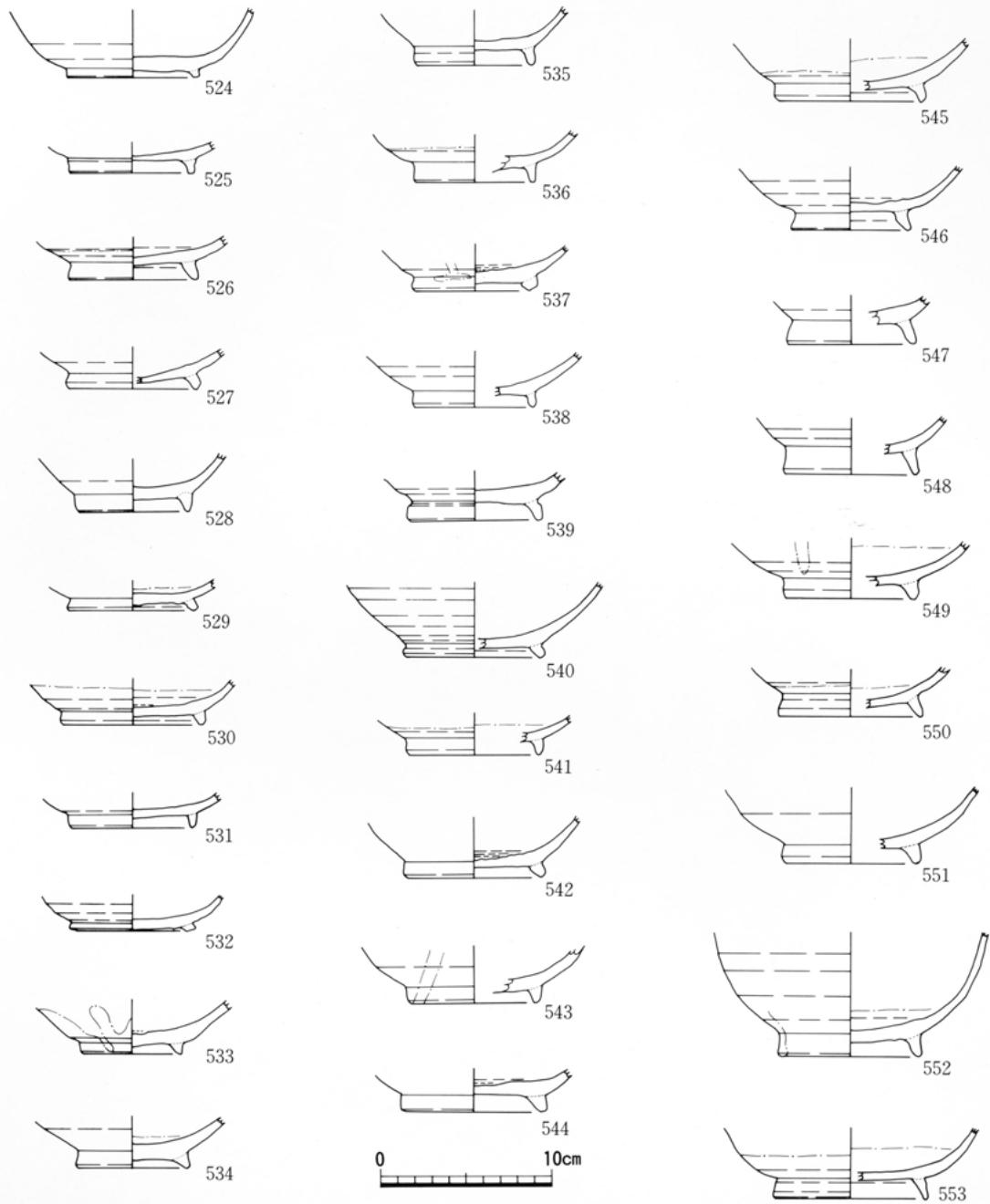
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
488	盤	(15.0)		(1.8)	1/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		495	甕	(25.8)		(7.0)	4/12	SD02	92H SD43	美須衛	
489	盤	(16.9)		(1.8)	2/12	SD02	92H SD43	猿投		496	甕			(8.3)		SD01	931 SD03	美須衛	
490	盤	(18.0)		(1.9)	1/12	SD02	92H SD43	猿投		497	白磁皿		4.0	(1.2)	1/12	SD02	92H SD43	中国	
491	盤	(18.8)		2.35		SD01	92Cb SD03	美須衛		498	白磁皿	8.0		(1.5)	1/12	SD02	92H SD43	中国	
492	長頸瓶		(8.4)	(2.6)	2/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		499	青白磁合子	5.1		(1.4)	1/12	SD02	92H SD43	中国	
493	播鉢	(15.4)		(7.5)	1/12	SD01	95Aa SD01	美須衛		500	白磁四耳壺			(7.6)		SD02	92H SD43	中国	18
494	甕	(19.6)		(10.8)		SD02	92H SD43	美須衛		501	甕		7.6	(9.6)		SD02	92H SD43	朝鮮	18

第74図 大溝出土遺物実測図(2):SD01・02(2)



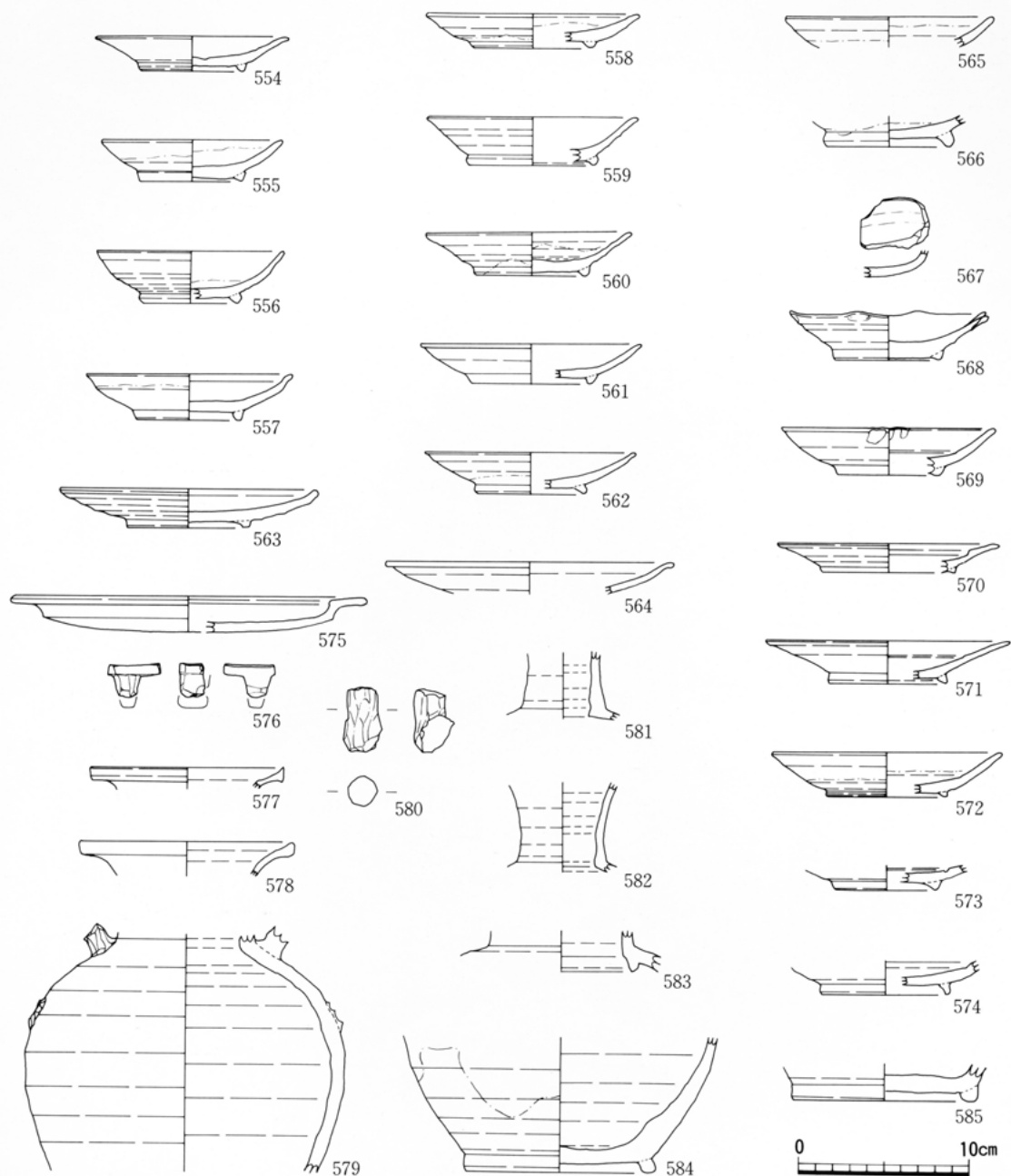
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
502	椀	(14.6)	(7.0)	(4.5)	2/12 5/12	SD01	93J SD26	猿投		513	椀	(13.6)		(3.9)	1/12	SD02	92H SD43	美濃	
503	椀	(17.0)		(3.2)	1/12	SD01	95Aa SD01	猿投		514	椀	(15.0)		(3.9)	3/12	SD02	92H SD43	美濃	
504	椀	(12.8)		(3.8)	4/12	SD02	92H SD43	美濃		515	椀	(15.4)		(4.0)	2/12	SD02	92H SD43	美濃	
505	椀	(14.0)		(3.2)	2/12	SD02	92H SD43	猿投		516	椀	(16.8)		(3.3)	2/13	SD02	92H SD43	美濃	
506	椀	(14.8)		(4.2)	1/12	SD02	92H SD43	美濃		517	椀	(14.3)	7.0	6.0	4/12 12/12	SD02	92H SD43	美濃	15
507	椀	(14.0)		(4.3)	2/12	SD02	92H SD43	尾北		518	椀	(16.0)	(7.6)	(5.4)	2/12 2/12	SD02	92H SD43	美濃	
508	椀	(14.8)		(3.6)	2/12	SD02	92H SD43	美濃		519	椀	(15.6)		(4.7)	3/12	SD02	92H SD43	美濃	
509	椀	(14.4)		(3.8)	2/12	SD02	92H SD43	美濃		520	椀	(17.0)		(3.9)	1/12	SD01	95Aa SD01	美濃	
510	椀	(13.6)	(7.0)	4.8	9/12 5/12	SD02	92H SD43	美濃	15	521	椀	(17.0)		(3.2)	1/12	SD01	95Aa SD01	美濃	
511	椀	(14.2)	7.0	5.0	3/12 12/12	SD02	92H SD43	美濃	15	522	椀	(19.6)		(5.3)	1/12	SD01	95Ab SD01	美濃	
512	椀	(14.8)		(2.6)	3/12	SD02	92H SD43	美濃		523	椀	(21.4)		(4.6)	2/12	SD01	93I SD03	美須衛	

第75図 大溝出土遺物実測図(3) : S D 01・02 (3)



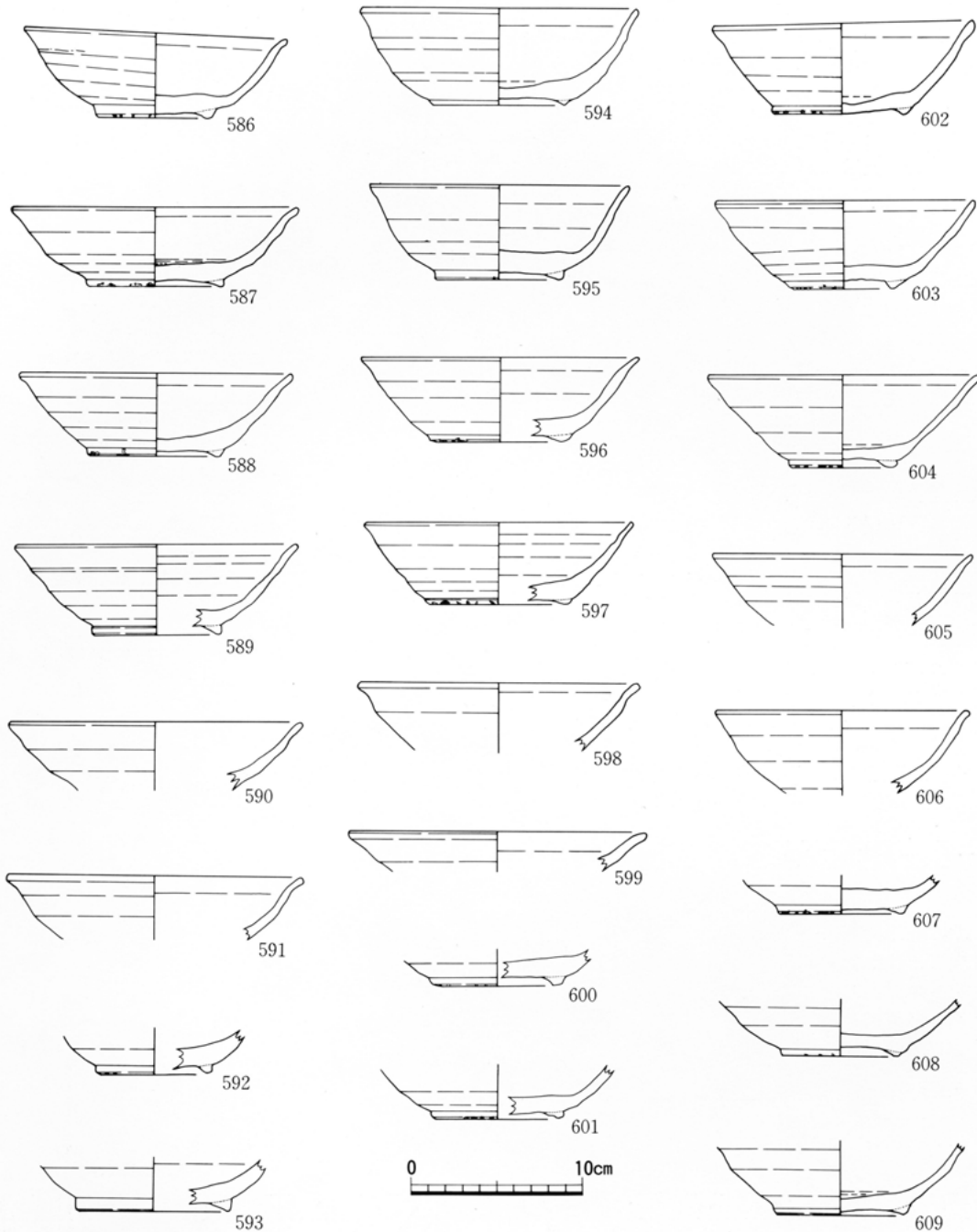
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
524	碗		(7.8)	(4.0)	4/12	SD01	93I SD03	猿投		539	碗		(7.4)	(2.8)	5/12	SD02	92H SD43	美濃	
525	碗		(7.2)	(1.8)	5/12	SD01	93I SD03	猿投		540	碗		(7.7)	(4.4)	6/12	SD02	92H SD43	美濃	
526	碗		(7.4)	(2.5)	4/12	SD01	93I SD03	美濃		541	碗		(7.8)	(2.3)	3/12	SD02	92H SD43	美濃	
527	碗		(7.4)	(2.1)	6/12	SD01	93G SD01	猿投		542	碗		(7.8)	(3.5)	4/12	SD02	92H SD43	美濃	
528	碗		6.4	(3.2)	7/12	SD01	93J SD26	尾北		543	碗		(7.4)	(3.3)	4/12	SD02	92H SD43	美濃	
529	碗		(7.2)	(1.8)	6/12	SD01	93G SD01	美濃		544	碗		(8.0)	(2.5)	4/12	SD02	92H SD43	美濃	
530	碗		8.2	(2.2)	6/12	SD01	92Cb SD03	尾北		545	碗		(8.3)	(3.7)	5/12	SD02	92H SD43	尾北	
531	碗		(7.0)	(2.0)	5/12	SD01	93J SD03	猿投		546	碗		6.8	(3.7)	11/12	SD02	92H SD43	美濃	
532	碗		(6.0)	(2.1)	6/12	SD02	92H SD43	美濃		547	碗		(7.6)	(2.7)	2/12	SD02	92H SD43	美濃	
533	碗		(5.8)	(3.1)	5/12	SD02	92H SD43	美濃		548	碗		(7.8)	(3.4)	2/12	SD02	92H SD43	美濃	
534	碗		6.4	(3.0)	12/12	SD02	92H SD43	美濃		549	碗		(7.6)	(3.4)	4/12	SD02	92H SD43	美濃	
535	碗		7.6	(3.4)	12/12	SD02	92H SD43	美濃		550	碗		(8.4)	(2.9)	4/12	SD02	92H SD43	美濃	
536	碗		(7.0)	(3.0)	5/12	SD02	92H SD43	美濃		551	碗		(7.8)	(4.4)	5/12	SD02	92H SD43	美濃	
537	碗		6.5	(2.4)	12/12	SD02	92H SD43	美濃		552	深碗		8.0	(7.2)	12/12	SD02	92H SD43	美濃	
538	碗		(6.8)	(3.2)	2/12	SD02	92H SD43	美濃		553	深碗		(8.8)	(4.2)	3/12	SD02	92H 6D43	美濃	

第76図 大溝出土遺物実測図(4): S D01・02(4)



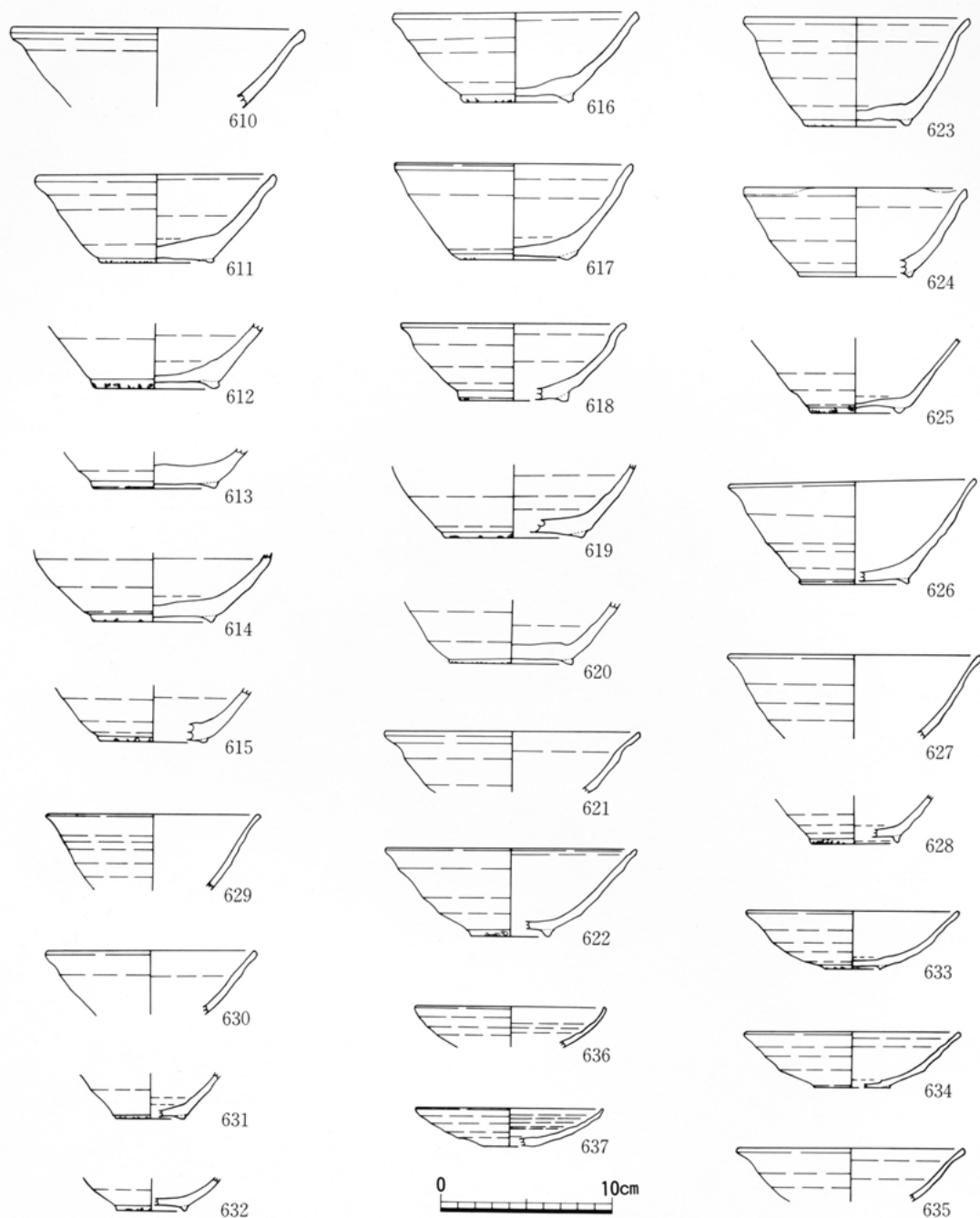
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
554	段皿	(11.0)	6.0	2.0	2/12 7/12	SD02	92H SD43	美濃		570	段皿	(12.6)	(7.8)	1.7	2/12 1/12	SD02	92H SD43	美濃	
555	皿	(10.5)	6.0	2.4	2/12 3/12	SD02	92H SD43	美濃		571	段皿	(14.4)	(6.8)	2.5	2/12 2/12	SD02	92H SD43	美濃	
556	皿	(10.8)	(5.5)	3.1	3/12 6/12	SD02	92H SD43	美濃		572	段皿	(13.2)	(6.8)	2.1	1/12 2/12	SD02	92H SD43	美濃	
557	折縁皿	(12.2)	(6.2)	2.7	1/12 4/12	SD02	92H SD43	美濃		573	段皿		(5.8)	(1.5)		6/12	SD02	92H SD43	美濃
558	皿	(12.2)	(6.8)	2.0	1/12 3/12	SD02	92H SD43	美濃		574	段皿		(7.4)	(2.0)		1/12	SD02	95Aa SD01	美濃
559	皿	(12.0)	(7.4)	2.9	2/12 3/12	SD02	92H SD43	美濃		575	三足盤	(20.2)	(6.0)	(2.1)	3/12 4/12	SD02	93J SD26	美濃	
560	皿	11.8	6.5	2.6	7/12 12/12	SD02	92H SD43	美濃	15	576	三足盤						SD02	95Aa SD01	美濃
561	皿	(12.7)	(7.0)	2.3	2/12 2/12	SD01	95Aa SD01	美濃		577	広口瓶	(11.2)		(1.3)	2/12		SD02	92H SD43	美濃
562	皿	(12.4)	(6.2)	2.4	1/12 3/12	SD01	92Cb SD03	尾北		578	広口瓶						SD02	92H SD39	美濃
563	皿	14.8	7.2	2.3	12/12 12/12	SD02	92H SD43	尾北	15	579	手付長頸瓶			(14.4)			SD02	92H SD43	尾北
564	皿	(16.8)		(1.9)	2/12		SD01 93I SD03	尾北		580	手付長頸瓶						SD02	92H SD43	尾北
565	皿	(12.0)		(1.8)	1/12		SD01 95Aa SD01	美濃		581	長頸瓶			(4.0)			SD02	93I SD03	尾北
566	皿		(7.2)	(1.8)	6/12		SD01 95Aa SD01	美濃		582	長頸瓶			(5.2)			SD02	92H SD43	美濃
567	耳皿						SD02 92H SD43	美濃		583	広口瓶			(2.45)			SD02	92H SD43	美濃
568	輪花皿	(12.0)	6.2	2.8	4/12 11/12	SD02	92H SD43	美濃		584	長頸瓶		10.8	(8.0)		12/12	SD01	93I SD03	尾北
569	輪花皿	(12.4)	(6.0)	2.7	3/12 1/12	SD01	93J SD26	美濃		585	瓶		10.9	(2.2)		9/12	SD02	92H SD43	美濃

第77図 大溝出土遺物実測図(5):SD01・02(5)



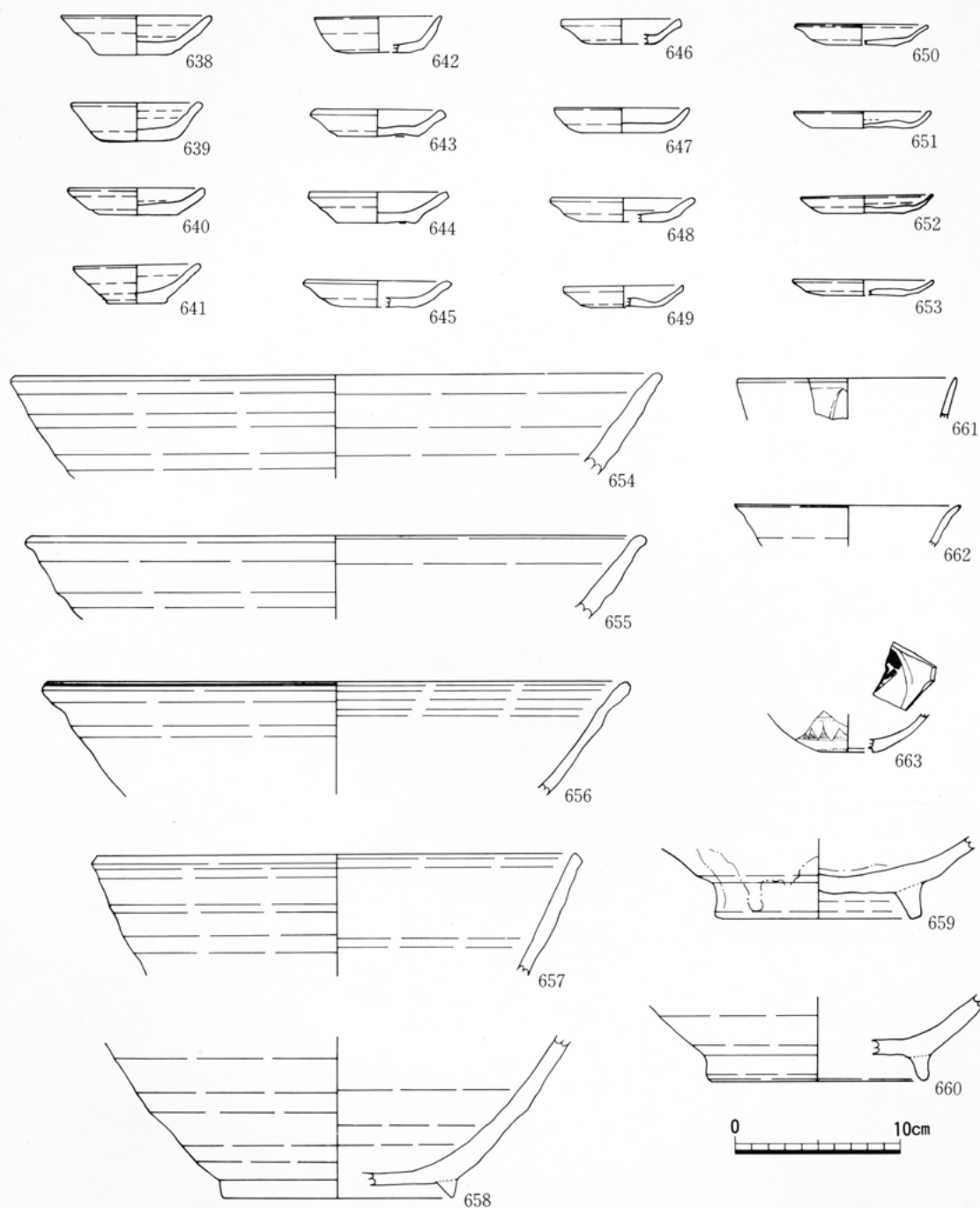
番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	
586	碗	15.2	6.6	5.2	8/12 : 9/12	SD02	92H SD43	尾 張	15	598	碗	(16.0)		(4.9)	1/12	SD01	93G SD01	尾 張		
587	碗	(16.6)	7.8	4.6	5/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾 張	15	599	碗	(17.2)		(2.3)	2/12	SD01	93G SD01	尾 張		
588	碗	(15.8)	7.6	4.8	5/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾 張	15	600	碗		(6.4)	(2.1)		3/12	SD01	93G SD01	尾 張	
589	碗	(16.3)	(7.5)	5.2	2/12 : 3/12	SD02	92H SD43	尾 張		601	碗		(7.2)	(3.1)		5/12	SD02	92H SD43	尾 張	
590	碗	(17.0)		(3.9)	2/12	SD02	93G SD01	尾 張		602	碗	15.1	7.7	5.4	8/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾 張	15	
591	碗	(17.1)		(4.7)	3/12	SD02	93G SD01	尾 張		603	碗	(14.8)	5.9	5.1	8/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾 張	16	
592	碗		(6.3)	(2.6)		3/12	SD02	93G SD01	尾 張		604	碗	(15.7)	6.0	5.3	1/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾 張	
593	碗		(8.8)	(3.1)		3/12	SD02	95Aa SD01	尾 張		605	碗	(15.0)		(4.1)	4/12	SD02	92H SD43	尾 張	
594	碗	(16.0)	7.6	5.1	4/12 : 7/12	SD02	92H SD43	尾 張		606	碗	(14.8)		(4.8)	2/12	SD02	92H SD43	尾 張		
595	碗	(15.0)	7.4	5.5	2/12 : 10/12	SD02	92H SD43	尾 張		607	碗		(7.2)	(2.2)		6/12	SD02	92H SD43	尾 張	
596	碗	(16.0)	(7.2)	4.9	1/12 : 5/12	SD02	92H SD43	尾 張		608	碗		6.8	(3.4)		12/12	SD02	92H SD43	尾 張	
597	碗	(15.4)	(8.0)	4.7	4/12 : 5/12	SD02	92H SD43	尾 張		609	碗		7.4	(4.2)		12/12	SD02	92H SD43	尾 張	

第78図 大溝出土遺物実測図(6): S'D01・02(6)



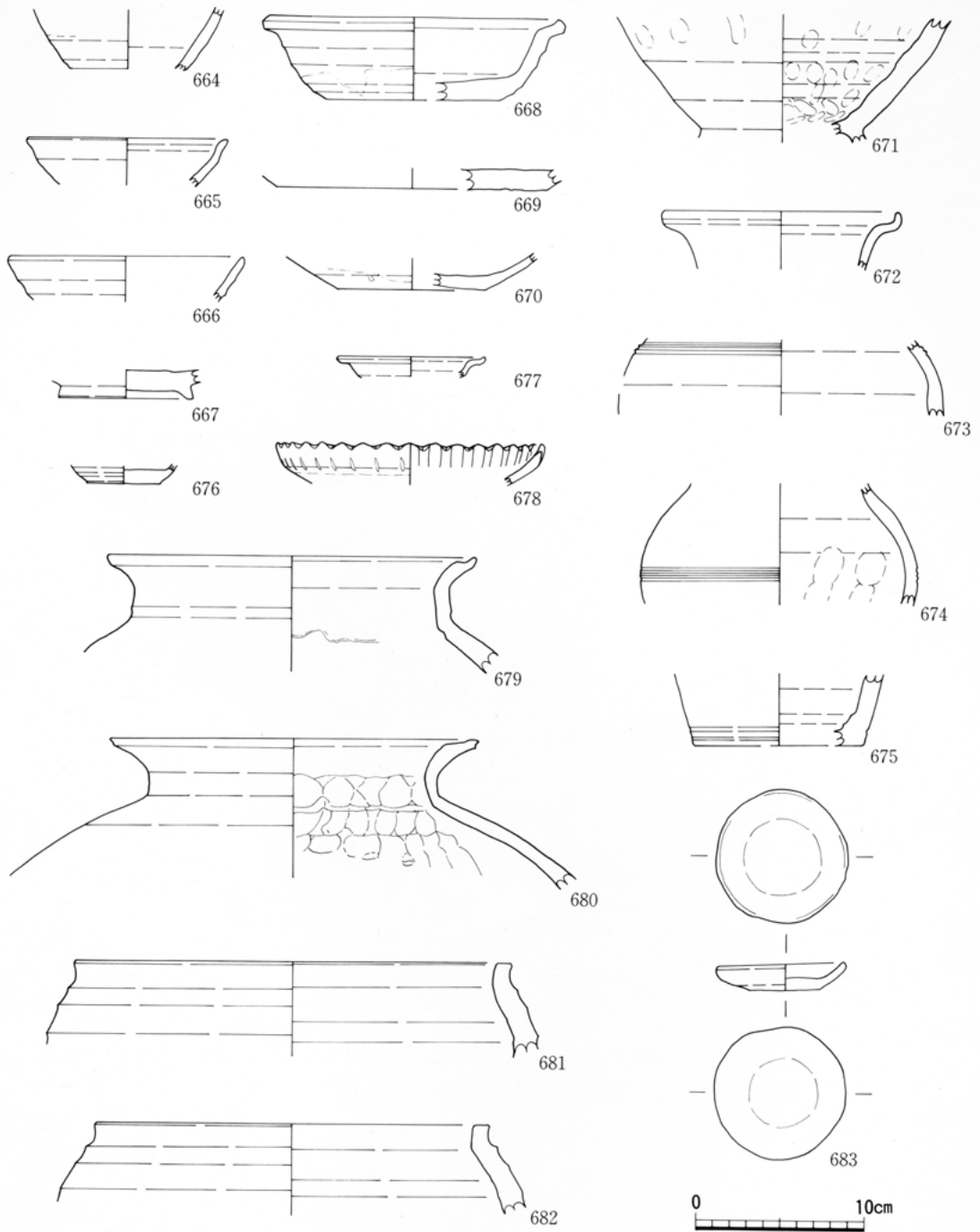
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
610	碗	(17.0)		(4.6)	1/12	SD01	93G SD01	尾張		624	碗	(13.0)	(6.6)	5.2	2/12	SD02	92H SD43	尾張	
611	碗	13.9	6.6	5.2	3/12	SD01	93G SD01	尾張		625	碗			5.2		SD02	92H SD43	東濃	
612	碗		(7.0)	(3.8)	4/12	SD01	93G SD01	尾張		626	碗	14.3	6.2	6.2	9/12	SD01	93I SD03	東濃	16
613	碗		7.0	(2.3)	12/12	SD01	93G SD01	尾張		627	碗	(14.6)		(4.9)	2/12	SD01	93I SD03	東濃	
614	碗		(7.0)	(4.1)	5/12	SD01	95Aa SD01	尾張		628	碗		(5.0)	(2.8)	5/12	SD01	93G SD01	東濃	
615	碗		(7.8)	(3.3)	3/12	SD01	93G SD01	尾張		629	碗	(12.3)		(4.4)	2/12	SD01	93I SD03	東濃	
616	碗	14.1	6.0	5.3	7/12	SD02	92H SD43	尾張	16	630	碗	(12.1)		(3.8)	3/12	SD01	93G SD01	東濃	
617	碗	(13.3)	6.2	5.6	2/12	SD02	92H SD43	尾張		631	碗		(4.0)	(2.7)	5/12	SD01	93G SD01	東濃	
618	碗	(13.2)	(6.2)	4.5	4/12	SD02	92H SD43	尾張		632	碗		(4.0)	(2.0)	5/12	SD01	93I SD03	東濃	
619	碗		(8.0)	(4.3)	3/12	SD02	92H SD43	尾張		633	碗	(12.2)	(3.2)	3.4	3/12	SD02	92H SD43	東濃	
620	碗		7.0	(3.6)	12/12	SD02	92H SD43	尾張		634	碗	(12.4)	4.4	3.3	3/12	SD01	95Aa SD01	東濃	
621	碗	(15.0)		3.6	2/12	SD01	95Aa SD01	東濃		635	碗	(13.2)		(3.1)	2/12	SD01	93J SD26	東濃	
622	碗	(14.6)	4.6	5.1	3/12	SD01	95Aa SD01	東濃		636	碗	(11.1)		(2.4)	1/12	SD01	95Aa SD01	東濃	
623	碗	(13.1)	(5.8)	6.4	2/12	SD02	92H SD43	東濃		637	碗	(10.8)		(2.8)	2/12	SD01	95Aa SD01	東濃	

第79図 大溝出土遺物実測図(7):SD01・02(7)



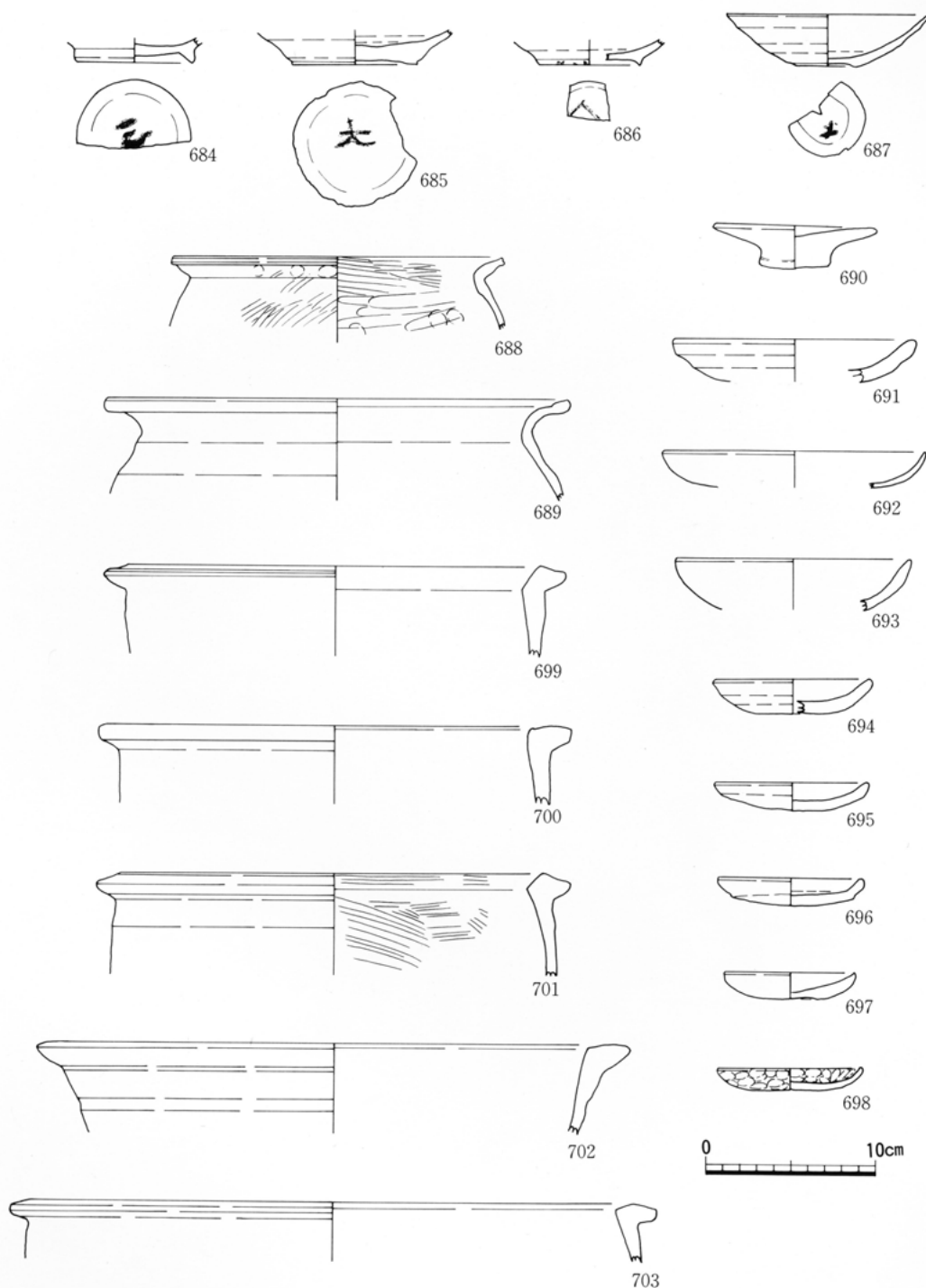
番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版
638	小皿	9.0	4.1	2.4	12/12	12/12	SD02 92H SD43	尾 張		651	小皿	(8.2)	(6.2)	1.0	3/12	5/12	SD02 92H SD43	東 濃	
639	小皿	(7.8)	(3.4)	2.3	3/12	9/12	SD02 92H SD43	尾 張		652	小皿	8.0	4.9	1.15	7/12	12/12	SD01 95Aa SD01	東 濃	
640	小皿	8.2	4.9	1.6	8/12	10/12	SD02 92H SD43	尾 張		653	小皿	(8.4)	(5.0)	1.0	3/12	4/12	SD01 93G SD01	東 濃	
641	小皿	7.4	3.4	2.6	11/12	12/12	SD02 92H SD43	尾 張		654	片口鉢	(38.8)		(6.15)	1/12		SD01 92H SD39	尾 張	
642	小皿	9.6	3.8	2.2	1/12	5/12	SD01 93G SD01	尾 張		655	片口鉢	(36.6)		(5.0)	1/12		SD01 92H SD39	尾 張	
643	小皿	(7.6)	(5.0)	2.1	3/12	4/12	SD01 93G SD01	尾 張		656	片口鉢	34.8		(6.8)	2/12		SD02 92H SD43	尾 張	
644	小皿	8.3	4.7	1.9	5/12	12/12	SD01 93G SD01	尾 張		657	片口鉢	(28.9)		(7.3)	1/12		SD02 92H SD43	尾 張	
645	小皿	(8.4)	(4.6)	1.6	2/12	5/12	SD01 95Ab SD01	尾 張		658	片口鉢		14.0	(9.8)		6/12	SD02 92H SD43	尾 張	
646	小皿	(7.2)	(3.8)	1.5	3/12	?	SD01 93G SD01	尾 張		659	鉢		(11.3)	(4.9)		3/12	SD01 92H SD39	尾 張	
647	小皿	(8.2)	(5.0)	1.5	4/12	6/12	SD01 93G SD01	尾 張		660	鉢		(12.8)	(5.2)		3/12	SD01 92H SD39	尾 張	
648	小皿	(8.4)	(5.0)	1.5	2/12	3/12	SD01 92Ga SD03	東 濃		661	青磁碗	13.3		(2.5)		1/12	SD01 94Aa SD01	中 国	
649	小皿	(7.2)	(3.8)	1.3	2/12	7/12	SD02 92H SD43	東 濃		662	白磁碗	13.6		(2.5)		2/12	SD01 93G SD01	中 国	
650	小皿	(7.8)	(4.2)	1.3	2/12	3/12	SD02 92H SD43	東 濃		663	青花皿		3.0	(2.4)		4/12	SD01 95Aa SD01	中 国	

第80図 大溝出土遺物実測図(8): S・D01・02(8)



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
664	天目茶碗			(3.55)		SD02	92H SD43	瀬戸,美濃		674	瓶子			(7.2)		SD01	92H SD39	瀬戸	
665	碗	(12.0)		(2.8)	1/12	SD02	92H SD43	瀬戸,美濃		675	瓶子		(10.2)	(4.3)	4/12	SD01	95Ab SD01	瀬戸	
666	平碗	(13.8)		(2.7)	1/12	SD02	92H SD43	瀬戸		676	皿		4.4	(1.1)	12/12	SD02	92H SD43	瀬戸,美濃	
667	碗		(8.0)	(1.7)	3/12	SD02	92H SD43	尾張		677	皿		(8.6)	(1.2)	2/12	SD01	92H SD39	瀬戸,美濃	
668	折縁深皿	(17.2)	(10.0)	(4.9)	2/12	SD02	92H SD43	瀬戸		678	菊皿	(15.8)		(2.5)	1/12	SD02	92H SD43	瀬戸,美濃	
669	折縁深皿		(16.0)	(1.2)	2/12	SD01	92H SD39	瀬戸		679	甕	(21.8)		(6.9)	3/12	SD02	92H SD43	常滑	
670	折縁深皿		(8.8)	(2.3)	5/12	SD02	92H SD43	瀬戸		680	甕	(21.8)		8.3	1/12	SD01	93G SD01	常滑	
671	四耳壺			(7.7)		SD01	92H SD39	瀬戸		681	羽釜	(25.8)		(5.6)	1/12	SD02	92H SD43	土師質	
672	折縁深皿	(14.0)		(3.5)	1/12	SD02	92H SD43	瀬戸		682	羽釜	(23.2)		(5.3)	2/12	SD02	92H SD43	土師質	
673	四耳壺			(4.5)		SD01	93G SD01	瀬戸		683	小皿	7.3	4.1	1.75	12/12	SD02	92H SD43	尾張	

第81図 大溝出土遺物実測図(9):SD01・02(9)



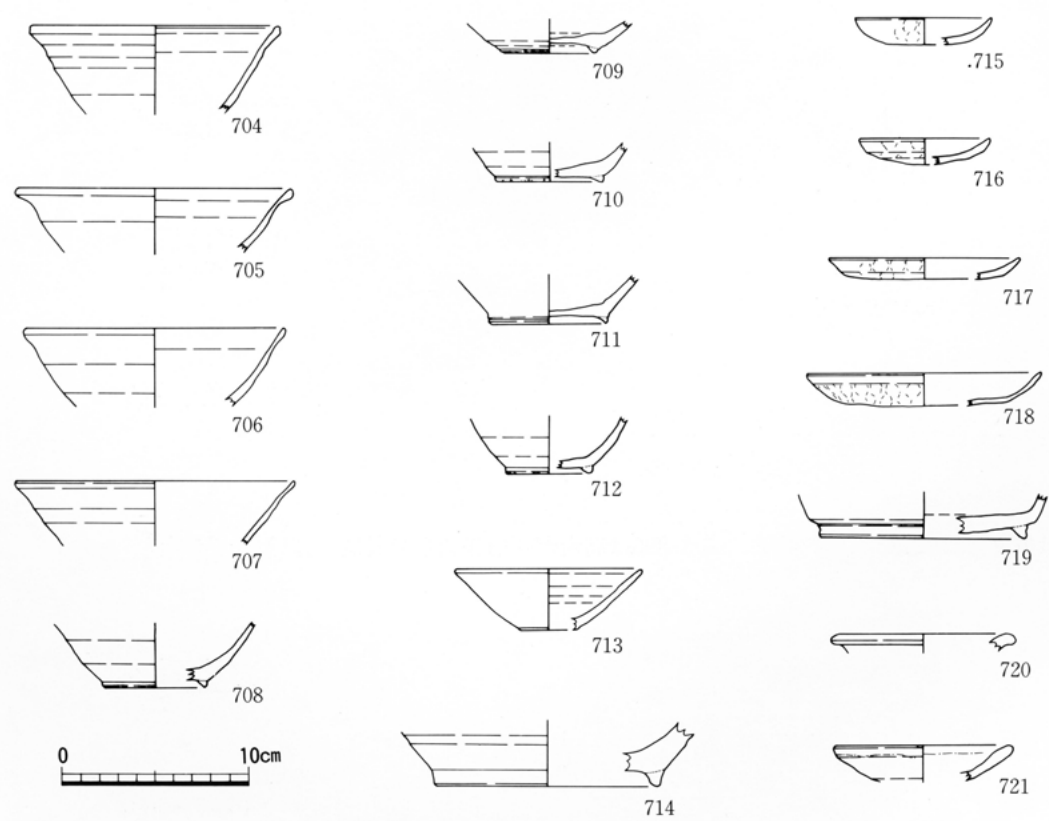
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通構番号	旧遺構番号	産地	図版
684	碗		(6.7)	(1.5)	6/12	SD02	92H SD43	美濃		694	皿	(9.0)	(3.6)	2.0	5/12 : 5/12	SD02	92H SD43	土師質	
685	碗		7.4	2.1	10/12	SD02	92H SD43	尾張		695	皿	8.8	?	1.65	12/12 : 12/12	SD02	92H SD43	土師質	
686	碗		(6.0)	(1.5)	2/12	SD02	92H SD43	東濃		696	皿	8.4	?	1.65	9/12 : 12/12	SD02	92H SD43	土師質	
687	碗	(12.2)	3.4	3.1	5/12 : 8/12	SD02	95Aa SD01	東濃	16	697	皿	(7.6)	(3.4)	1.6	4/12 : 3/12	SD02	92H SD43	土師質	
688	甕	(19.4)		(3.3)	1/12	SD02	92H SD39	土師質		698	皿	(8.4)	(4.0)	1.2	5/12 : 6/12	SD02	92H SD43	土師質	
689	鍋	(27.2)		(6.0)	1/12	SD02	92H SD43	伊勢型		699	鍋	(24.5)		(5.4)	1/12	SD02	92H SD43	清郷型	
690	柱状皿	9.2	4.0	2.65	9/12 : 12/12	SD02	92H SD43	土師質	16	700	鍋	(26.8)		(4.7)	2/12	SD02	92H SD43	清郷型	
691	皿	(14.0)		(2.5)	2/12	SD02	92H SD39	土師質		701	鍋	(25.0)		(6.0)	2/12	SD02	92H SD43	清郷型	
692	皿	(15.5)		(2.1)	1/12	SD02	92H SD39	土師質		702	鍋	(32.5)		(5.3)	1/12	SD02	92H SD43	清郷型	
693	皿	(13.6)		(3.0)	2/12	SD02	92H SD43	土師質		703	鍋	(35.6)		(3.5)	1/12	SD02	92H SD43	清郷型	

第82図 大溝出土遺物実測図(10) : S D01・02 (10)

4. 墳墓堂遺構の周溝

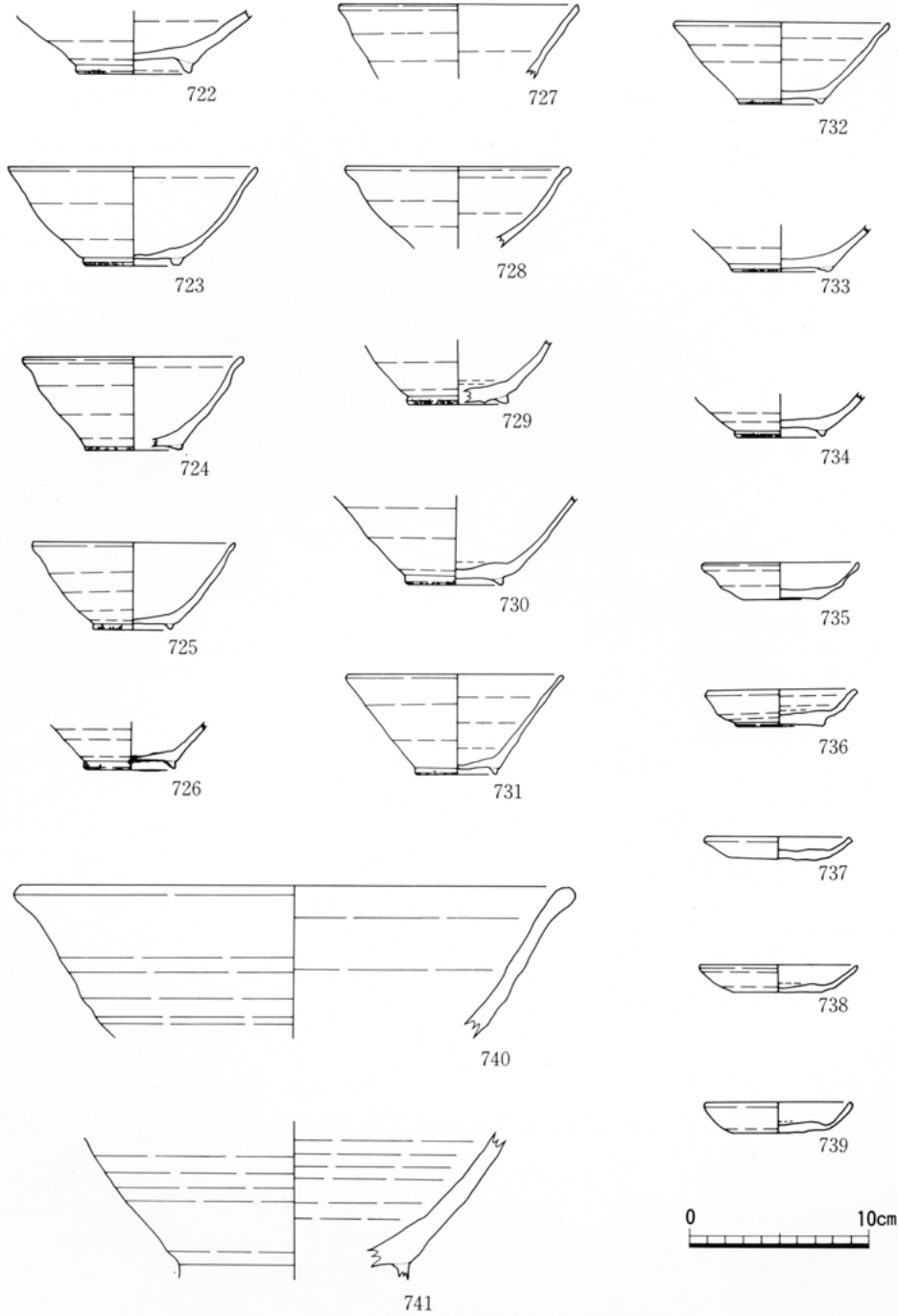
SD03 (第39図、第41図、第84図722~753、図版1~3、図版9、図版16、図版18)

堂を巡る溝で、95B区旧SD01、92F区旧SD54、92Gb区SD26・27・28、93K区SD03・17である。東濃型の灰釉系陶器の椀、小皿、尾張型のこね鉢、常滑窯の甕、青磁碗、古瀬戸の水注、四耳壺、土師質の羽釜、伊勢型鍋、土師質皿が出土。古瀬戸の水注は漆継ぎが施されている。土師質皿の中に非クロ手頭圧痕口縁横撫でタイプ(753)がある。13世紀後半の東濃型の灰釉系陶器が主体を占める。



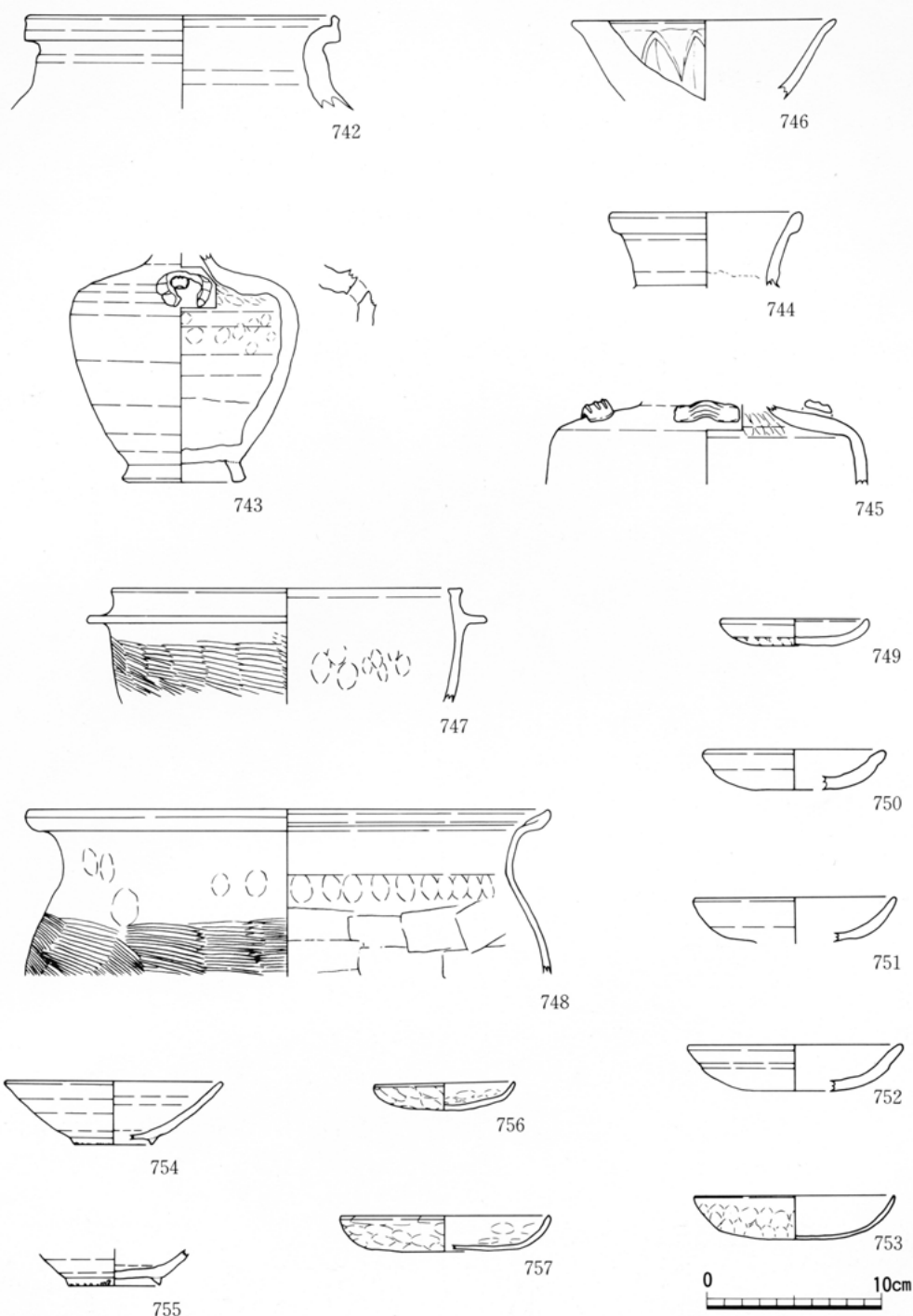
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通構番号	旧遺構番号	産地	図版
704	椀	(13.1)		(4.7)	2/12	SD06 SD07	92Ga SD58	東濃		713	椀	(9.8)	(3.2)	(3.2)	2/12	1/12	SD06 SD07	92Ga SD58	東濃
705	椀	(14.6)		(3.7)	1/12	SD06 SD07	92Ga SD58	東濃		714	鉢		(11.8)	(3.4)		3/12	SD06 SD07	92Ga SD59	尾張
706	椀	(13.8)		(4.1)	3/12	SD06 SD07	92Ga SD58	東濃		715	皿	(7.3)		(1.4)	2/12		SD06 SD07	92Ga SD58	土師質
707	椀	(14.8)		(3.4)	2/12	SD06 SD07	92Ga SD59	東濃		716	皿	(7.0)		(1.4)	3/12		SD06 SD07	92Ga SD58	土師質
708	椀		(5.4)	(3.45)	4/12	SD06 SD07	92Ga SD59	東濃		717	皿	(10.0)		(1.1)	2/12		SD06 SD07	92Ga SD58	土師質
709	椀		(4.8)	(1.8)	3/12	SD06 SD07	92Ga SD59	東濃		718	皿		(12.4)	(1.7)	3/12		SD06 SD07	92Ga SD58	土師質
710	椀		(5.4)	(2.05)	3/12	SD06 SD07	92Ga SD59	東濃		719	杯B		(11.0)	(2.3)		3/12	SD06 SD07	92Ga SD58	美須衛
711	椀		(6.1)	(2.5)	2/12	SD06 SD07	92Ga SD59	東濃		720	花瓶	(9.1)		(1.0)	2/12		SD06 SD07	92Ga SD58	古瀬戸
712	椀		(4.4)	(3.05)	5/12	SD06 SD07	92Ga SD58	東濃		721	縁軸皿	(9.2)		(1.9)	2/12		SD06 SD07	92Ga SD58	古瀬戸

第83図 墓道両脇溝出土遺物実測図：SD06・07



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	通構番号	旧遺構番号	産地	図版
722	碗		(6.2)	(3.5)	4/12	SD03	93K SD03	東濃		732	碗	(12.0)	(4.6)	4.5	3/12	7/12	SD03	92Gb SD28	東濃
723	碗	(13.8)	5.3	5.4	5/12	12/12	SD03	93K SD03	東濃 16	733	碗		5.4	(2.5)		8/12	SD03	92Gb SD28	東濃
724	碗	(12.0)	(5.4)	5.1	3/12	7/12	SD03	93K SD03	東濃	734	碗		(4.6)	(2.45)		6/12	SD03	92Gb SD28	東濃
725	碗	(11.2)	4.4	4.9	8/12	12/12	SD03	93K SD03	東濃 16	735	小皿	(8.5)	4.2	2.0	4/12	8/12	SD03	92Gb SD26	東濃
726	碗		4.8	(2.7)		12/12	SD03	93K SD03	東濃	736	小皿	(8.1)	4.8	2.0	2/12	10/12	SD03	92Gb SD26	東濃 16
727	碗	13.1		(4.1)	10/12		SD03	95B SD01	東濃	737	小皿	7.9	5.2	1.3	7/12	7/12	SD03	92Gb SD26	東濃
728	碗	(12.4)		(4.5)	3/12		SD03	95Ab SD26	東濃	738	小皿	(8.8)	(5.0)	1.4	3/12	7/12	SD03	93K SD03	東濃
729	碗		(5.5)	(3.55)		6/12	SD03	92Gb SD26	東濃	739	小皿	(8.0)	4.0	1.7	6/12	12/12	SD03	93K SD03	東濃
730	碗		5.2	(4.9)		12/12	SD03	92Gb SD26	東濃	740	鉢	(30.6)		(8.4)	3/12		SD03	92Gb SD26	尾張
731	碗	11.9	4.5	5.55	5/12	12/12	SD03	92Gb SD26	東濃 16	741	鉢			(8.3)			SD03	92Gb SD26	尾張

第84図 墳墓堂遺構周溝出土遺物実測図(1)：SD03(1)



番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版	番号	器 種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	図版
742	甕	(17.2)		(5.3)	3/12		SD03 92Gb SD26	常 滑		750	皿	8.0					SD03 93K SD03	土師質	
743	水注		5.8	(13.1)	12/12		SD03 92Gb SD26-28	古瀬戸	16	751	皿	(11.6)		(2.5)	4/12		SD03 93Gb SD26	土師質	16
744	四耳壺	11.0		(4.3)	8/12		SD03 92Gb SD26	古瀬戸		752	皿	(12.2)	(4.8)	2.6	1/12	1/12	SD03 92Gb SD28	土師質	
745	四耳壺			(4.5)			SD03 92Gb SD26	古瀬戸	16	753	皿	11.4	3.5	2.5	8/12	10/12	SD03 93K SD03	土師質	16
746	青磁碗	15.2		(4.6)	3/12		SD03 92Gb SD26	中国	18	754	碗	(12.3)	(4.3)	3.65	3/12	6/12	SD21 SD22 93Eb SD24	東 濃	
747	羽釜	20.0		(6.5)	2/12		SD03 92Gb SD26	土師質		755	碗		(5.2)	(2.0)		5/12	SD21 SD22 93K SD14	東 濃	
748	鍋	30.0		(9.4)	2/12		SD03 92Gb SD27	伊勢型		756	皿	8.0	?	1.65	12/12	12/12	SD21 SD22 93Eb SD24	土師質	16
749	皿	8.4	4.5	1.6	10/12	12/12	SD03 92Gb SD26	土師質		757	皿	(11.9)	(5.0)	2.0	3/12	3/12	SD21 SD22 * SD24-26	土師質	第

第85図 墳墓堂遺構周溝・方形区画溝出土遺物実測図：SD03(2), SD21・22

5. 方形台状遺構区画溝

SD21・22 (第39図、第42図、第85図754～757、図版1～3、図版9、図版16)

方形区画溝で、93K区旧SD14、93Eb区旧SD22・24・26である。東濃型の灰釉系陶器碗と非ロクロ手頭圧痕口縁横撫での土師質皿が出土。14世紀前半。

6. 井戸

SE09 (第47図、第48図、第86図758～783、図版10、図版16)

93G区旧SE01で、美濃窯の灰釉碗、尾北窯の短頸壺、東濃型の灰釉系陶器の碗、尾張型の灰釉系陶器の小皿、片口鉢、青磁・白磁の碗、皿、非ロクロ横撫での土師質皿が出土。墨書が施された碗(769)と小皿(776)がある。東濃型の灰釉系陶器が多く、12世紀末から13世紀前半が主体となる。

SE10 (第49図、第50図、第87図784～819、図版10)

93G区旧SE02で、美濃窯の灰釉皿、東濃型の灰釉系陶器の碗、小皿、尾張型の灰釉系陶器の片口鉢、常滑窯の壺、古瀬戸の花瓶、四耳壺、土師質皿が出土。墨書が施された碗(797～799)と小皿(807～809)がある。東濃型の灰釉系陶器が多く、13世紀後半が主体となる。

SE11 (第51図、第88図820、821)

93G区旧SE03で、東濃型の灰釉系陶器の碗が出土。13世紀後半。

SE08 (第52図、第88図822～843、図版10、図版18)

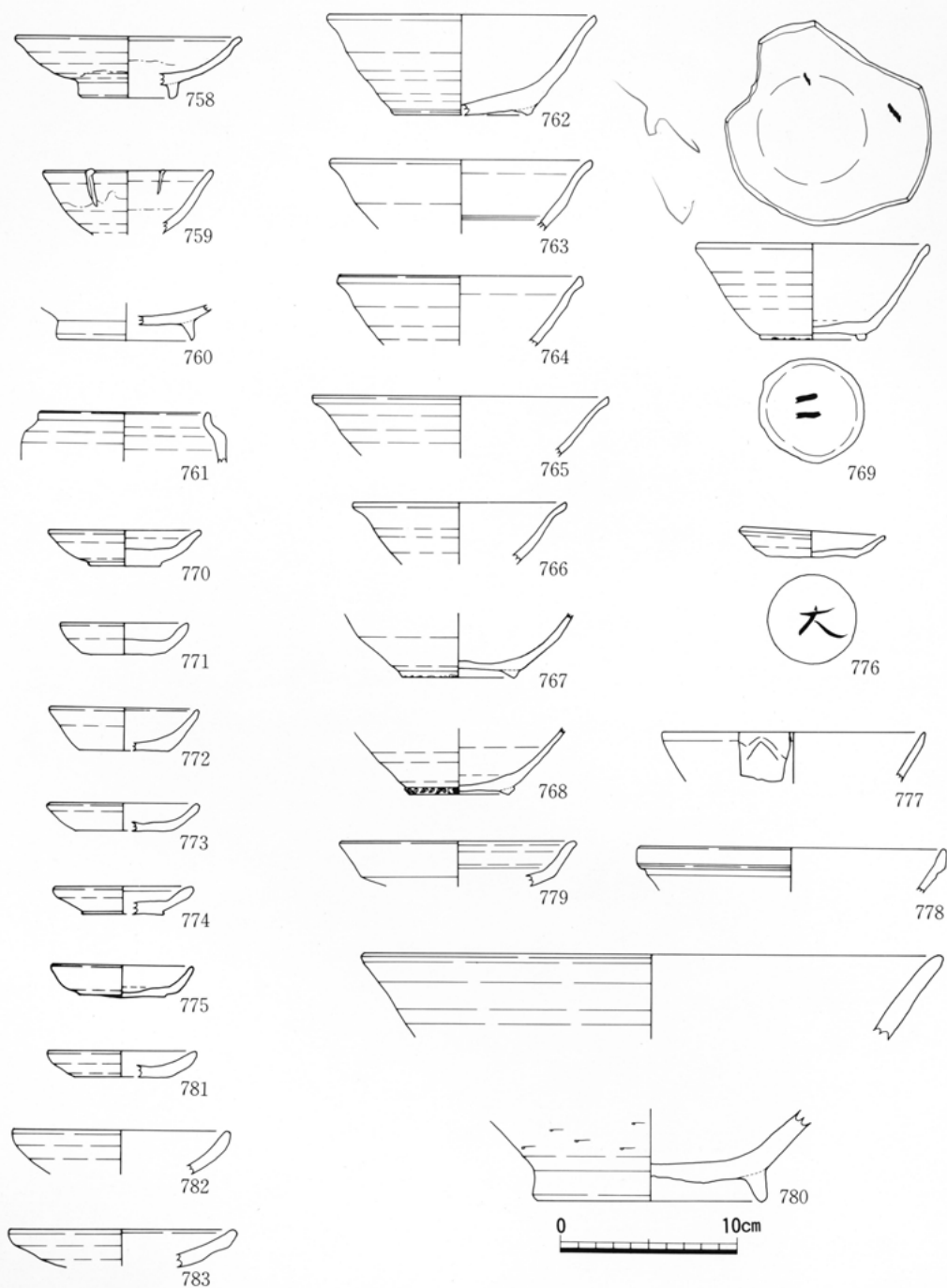
93G区旧SE04で、尾張型の灰釉系陶器の碗と小皿、東濃型の灰釉系陶器の碗、白磁の碗、横撫で土師質皿が出土。尾張型の灰釉系陶器が多く12世紀末から13世紀初めが主体となる。



方形台状遺構

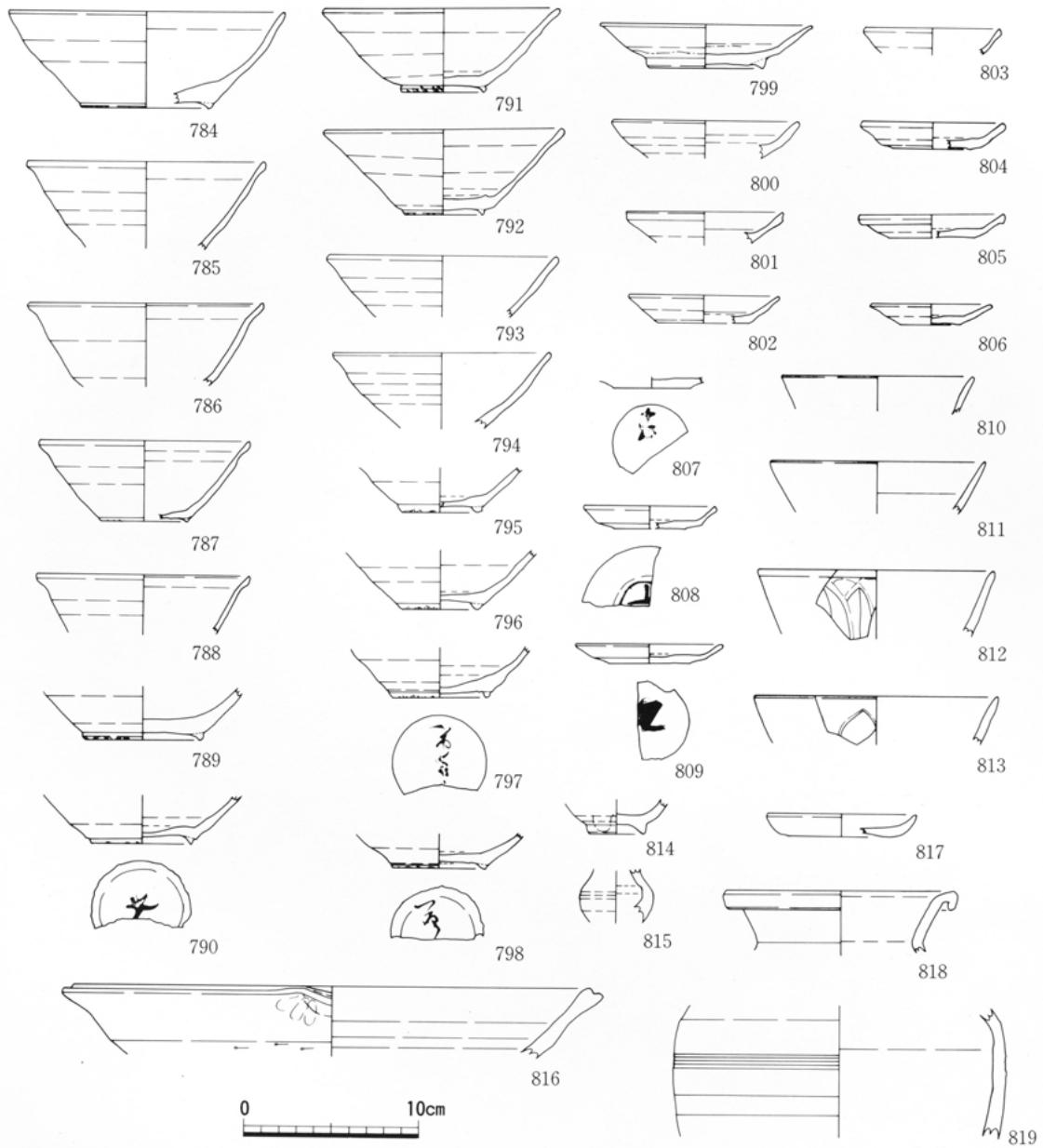


SE10



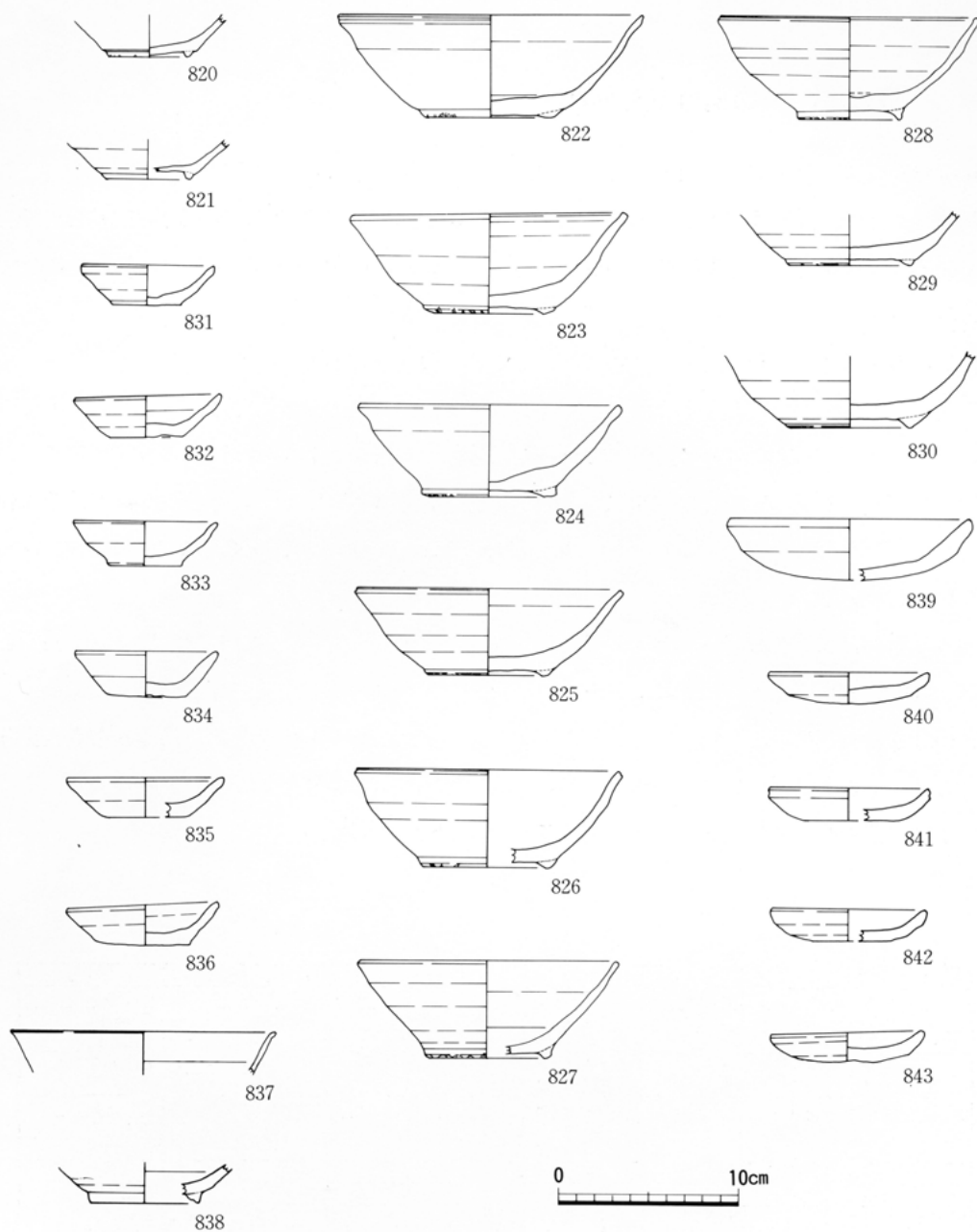
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
758	碗	(12.6)	(5.0)	3.5	1/12 1/12	SE09	93G SE01	美濃		771	小皿	(7.2)	(3.6)	1.8	2/12 4/12	SE09	93G SE01	尾張	
759	小碗	(9.4)		(3.5)	2/12	SE09	93G SE01	美濃		772	小皿	(8.4)	(5.0)	2.4	2/12 4/12	SE09	93G SE01	尾張	
760	碗		(7.6)	2.05	3/12	SE09	93G SE01	美濃		773	小皿	(8.4)	(5.4)	1.6	4/12 4/12	SE09	93G SE01	尾張	
761	短頸壺	(9.5)		(2.8)	2/12	SE09	93G SE01	尾北		774	小皿	(7.6)	(4.6)	1.6	3/12 4/12	SE09	93G SE01	尾張	
762	碗	(15.2)	(7.4)	5.65	2/12 4/12	SE09	93G SE01	尾張		775	小皿	7.9	4.8	1.8	6/12 7/12	SE09	93G SE01		
763	碗	(14.7)		(4.0)	2/12	SE09	93G SE01	尾張		776	小皿	8.1	5.0	1.7	12/12 12/12	SE09	93G SE01	東濃	
764	碗	(13.8)		(4.0)	3/12	SE09	93G SE01	東濃		777	青磁碗	(14.9)		(2.8)	1/12	SE09	93G SE01	中国	
765	碗	(16.8)		(3.4)	2/12	SE09	93G SE01	東濃		778	白磁碗	(17.2)		(1.5)	1/12	SE09	93G SE01	中国	
766	碗	(12.0)		(3.5)	2/12	SE09	93G SE01	尾張		779	白磁皿	(13.2)		(2.5)	2/12	SE09	93G SE01	中国	
767	碗		(6.4)	(3.7)	5/12	SE09	93G SE01	東濃		780	鉢	(32.6)	(12.8)	(11.0)	1/12 3/12	SE09	93G SE01	尾張	
768	碗		(5.6)	(3.8)	7/12	SE09	93G SE01	東濃		781	皿	(8.4)	(5.2)	1.5	4/12 4/12	SE09	93G SE01	土師質	
769	碗	13.0	6.0	5.4	2/12 12/12	SE09	93G SE01	東濃 16		782	皿	(12.2)		(2.5)	2/12	SE09	93G SE01	土師質	
770	小皿	(8.6)	(2.0)	2.0	1/12 2/12	SE09	93G SE01	尾張		783	皿	(12.8)		(2.1)	2/12	SE09	93G SE01	土師質	

第86図 井戸出土遺物実測図(1): SE09



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	図版
784	碗	(15.8)	(7.0)	5.5	2/12	2/12	SE10 93G SE02	尾張		802	小皿	(8.5)	(5.2)	1.6	3/12	3/12	SE10 93G SE02	東濃	
785	碗	(13.5)		(5.0)	2/12		SE10 93G SE02	東濃		803	小皿	(7.7)		(1.5)	5/12		SE10 93G SE02	東濃	
786	碗	(13.3)		(4.8)	3/12		SE10 93G SE02	東濃		804	小皿	(8.0)	(4.4)	1.5	3/12	3/12	SE10 93G SE02	東濃	
787	碗	(11.9)		4.6	3/12		SE10 93G SE02	東濃		805	小皿	(8.2)	(4.9)	1.35	6/12	6/12	SE10 93G SE02	東濃	
788	碗	(12.3)		(3.4)	3/12		SE10 93G SE02	東濃		806	小皿	(6.8)	(3.4)	1.15	2/12	4/12	SE10 93G SE02	東濃	
789	碗		6.7	(3.05)		7/12	SE10 93G SE02	尾張		807	小皿		4.4	(0.6)		6/12	SE10 93G SE02	東濃	
790	碗			5.6	(2.75)	7/12	SE10 93G SE02	東濃		808	小皿	(7.4)	(4.0)	1.3	3/12	3/12	SE10 93G SE02	東濃	
791	碗	13.4	4.8	4.85	12/12	12/12	SE10 93G SE02	東濃		809	小皿	(8.4)	(4.6)	1.1	4/12	6/12	SE10 93G SE02	東濃	
792	碗	13.5	4.4	5.0	12/12	12/12	SE10 93G SE02	東濃		810	白磁碗						SE10 93G SE02	中国	
793	碗	(13.0)		(3.5)	2/12		SE10 93G SE02	東濃		811	白磁碗						SE10 93G SE02	中国	
794	碗	(12.3)		(4.4)	2/12		SE10 93G SE02	東濃		812	青磁碗						SE10 93G SE02	中国	
795	碗		(4.4)	(2.6)		8/12	SE10 93G SE02	東濃		813	青磁碗						SE10 93G SE02	中国	
796	碗		(4.4)	(3.4)		7/12	SE10 93G SE02	東濃		814	碗		3.2	(2.0)		10/12	SE10 93G SE02	美濃	
797	碗		5.4	(2.9)		9/12	SE10 93G SE02	東濃		815	花瓶			(3.1)			SE10 93G SE02	古瀬戸	
798	碗		5.3	(2.1)		6/12	SE10 93G SE02	東濃		816	片口鉢	(29.6)		(4.05)	2/12		SE10 93G SE02	尾張	
799	皿	(12.0)	(6.6)	2.5	4/12	5/12	SE10 93G SE02	美濃		817	皿	(8.5)	(6.0)	1.3	3/12	3/12	SE10 93G SE02	土師質	
800	皿	(10.6)		(2.2)	2/12		SE10 93G SE02	美濃		818	壺	(13.0)		(3.6)	1/12		SE10 93G SE02	常滑	
801	小皿	(9.0)		(1.8)	3/12		SE10 93G SE02	東濃		819	壺			(7.5)			SE10 93G SE02	古瀬戸	

第87図 井戸出土遺物実測図(2): SE10



番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	国版	番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産 地	国版
820	碗		4.6	(2.4)		12/12	SE11 93G SE02	東 濃		832	小皿	8.0	4.0	2.2-2.5	7/12 12/12	SE08 93G SE04	尾 張		
821	碗		(4.6)	(2.3)		1/12	SE11 93G SE03	東 濃		833	小皿	(7.8)	(4.2)	2.45	4/12 6/12	SE08 93G SK101	尾 張		
822	碗	(17.0)	(7.0)	5.7	1/12 6/12	SE08 93G SK01	尾 張			834	小皿	7.7	4.2	2.5	12/12 12/12	SE08 93G SE04	尾 張		
823	碗	15.0	6.0	5.7	10/12 12/12	SE08 93G SE04	尾 張			835	小皿	(8.8)	(4.0)	2.2	4/12 5/12	SE08 93G SE04	尾 張		
824	碗	(14.3)	6.2	5.1	3/12 12/12	SE08 93G SE04	尾 張			836	小皿	8.3	4.8	2.4-2.0	9/12 12/12	SE08 93G SE04	尾 張		
825	碗	(14.8)	(6.6)	4.8	6/12 6/12	SE08 93G SE04	尾 張			837	白磁碗	(14.8)		2.4	2/12	SE08 93G SK101 (SE04)	中 国		
826	碗	(14.6)	(7.0)	5.4	3/12 5/12	SE08 93G SK101	尾 張			838	白磁碗		(6.0)	2.0		1/12 SE08 93G SK101	中 国	18	
827	碗	(14.2)	(6.6)	5.4	6/12 5/12	SE08 93G SK101	東 濃			839	皿	(13.2)		3.4	4/12	SE08 93G SE04	土 師 質		
828	碗	(14.1)	5.7	5.7	4/12 12/12	SE08 93G SK101	東 濃			840	皿	(8.6)		2.2	3/12	SE08 93G SK101	土 師 質		
829	碗		6.8	(3.05)		12/12	SE08 93G SE04	東 濃		841	皿	(8.8)		1.8	3/12	SE08 93G SK101	土 師 質		
830	碗		(6.8)	4.3		6/12	SE08 93G SK101	尾 張		842	皿	(8.4)		1.8	6/12	SE08 93G SE04	土 師 質		
831	小皿	(7.3)	(3.8)	2.2	8/12 8/12	SE08 93G SE04	尾 張			843	皿	8.3	3.8	1.8	9/12 8/12	SE08 93G SE04	土 師 質		

第88図 井戸出土遺物実測図(3): SE11, SE08

第4節 その他の出土遺物

1. 墨書陶器（第89図～第91図844～862. 第132図. 第133図. 図版16. 図版17）

田所遺跡からは墨書陶器が70点出土している。美濃須衛窯の椀、灰釉陶器では美濃窯の椀と三足盤、灰釉系陶器では尾張型と東濃型の椀、小皿、が出土している。灰釉系陶器の東濃型が墨書陶器の大半を占める。

墨書陶器の表記は1. 数字、2. 文字、3. その他、の3種類ある。

数字表記として「二」（769. 855）、「五」（325）、「十一」（858）、文字表記として漢字の「長万」（844. 845）、「玉」（328. 846）、「禾」（256. 847）、「大」（685. 776）、「天」（856）、仮名で「い」（853）や「め」（860）のように一字表記したものと二字表記（861. 862）のものがある。その他の表記として、記号のようなもの（683. 686. 808. 851. 852. 857. 859.）や、呪術に関係するもの（854）などが出土している。

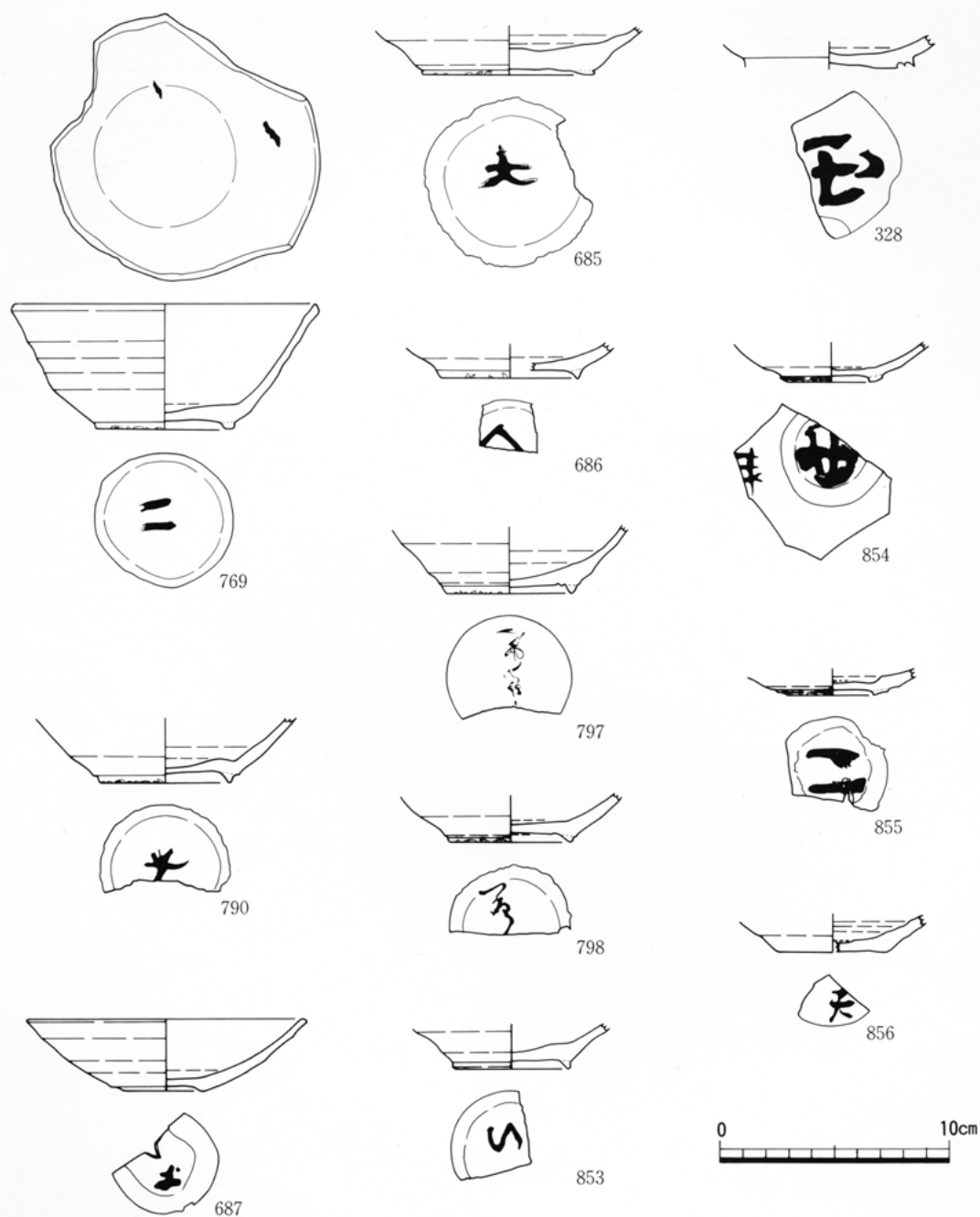
墨書表記の部位は底部外面が大半を占めるが、底部の内外面に表記したもの（848. 683. 256）と底部外面と側面に表記したもの（325. 854）もある。

墨書の施された須恵器、灰釉陶器は94B区以北からは出土しておらず、灰釉系陶器が調査区全体から出土しているのと違いがある。灰釉系陶器は93G区、92H区に集中して出土している。

なお墨書陶器のなかでは美濃須衛窯の椀（325）が一番古い時期となる。

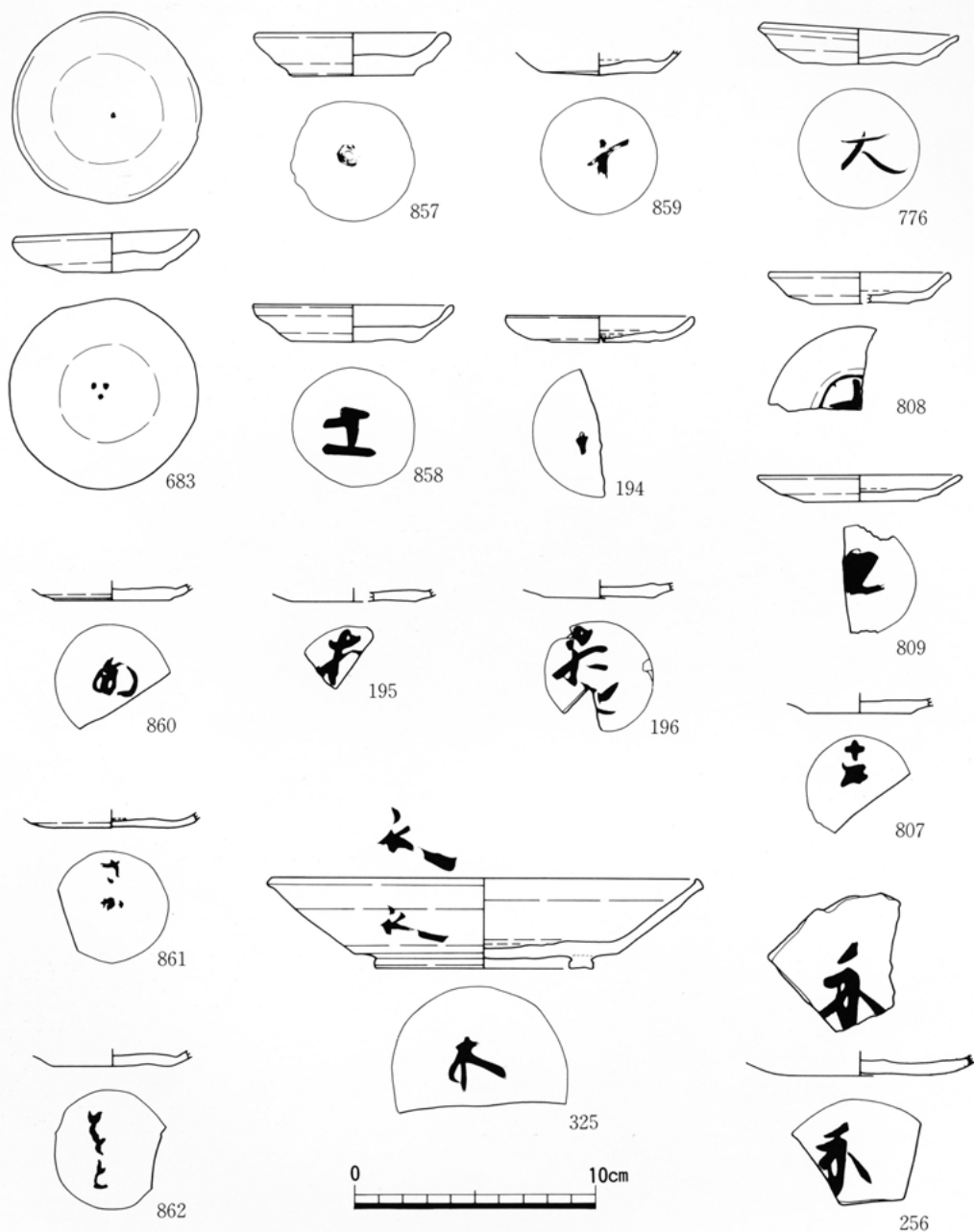
遺構番号	調査区	旧番号	グリッド	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	墨書部位
	92Gb	検Ⅰ	ⅡE15e	灰釉系陶器	椀	—	5.7	(2.9)	底部外面
SD91	93F	SD10下層	ⅣE19a	灰釉系陶器	椀	—	7.7	(3.1)	底部外面
	93F	掘り下	ⅣD3s	灰釉系陶器	椀	16.8	7.7	5.3	底部外面
	93F	掘り下	ⅣD2s	灰釉系陶器	椀	—	—	(0.5)	底部外面
ST02	92E	ST43	ⅢD15o16p	灰釉系陶器	椀	—	(8.0)	(1.4)	底部外面
	94Ba	検Ⅱ	ⅣD11n	灰釉系陶器	椀	—	4.1	(1.4)	底部外面
	94Ba	検Ⅰ		灰釉系陶器	皿	—	(5.6)	(0.7)	底部外面
	94Ba	検Ⅰ		灰釉系陶器		—	—	—	底部外面
	94Ba	検Ⅰ		灰釉系陶器		—	—	—	底部外面
	94Ba	検Ⅰ		須恵器		—	—	—	底部外面
SK138	94Bb	SK09	ⅣD20t	灰釉系陶器	皿	8.6	5.6	1.1	底部外面
SX11	94Bb	SX01	ⅣD11r	須恵器		—	(4.6)	(1.2)	底部外面
SX12	94Bb	SX02	ⅣD20t	灰釉系陶器	皿	—	(4.8)	(0.7)	底部外面
	94Ab	西T		須恵器	杯	—	(5.6)	(0.8)	底部外面
SD01	93J	SD26	ⅤD13q	灰釉系陶器	椀	—	(4.8)	(2.9)	底部外面
SK162	92Da	SK20	ⅤF20s	灰釉系陶器	椀	—	(5.0)	(1.5)	底部外面
	92Da	検Ⅱ	ⅤD19q	灰釉系陶器	椀	—	5.0	(3.1)	底部外面
SD01	94Aa	SD01		灰釉系陶器	椀	—	(4.8)	(1.8)	底部外面
	94Aa	検Ⅰ	ⅥD3o	灰釉系陶器	皿	—	4.6	(0.9)	底部外面
	94Aa	検Ⅰ	ⅥD3o	灰釉系陶器	皿	—	4.0	(1.0)	底部外面
SK193	93I	SK15	ⅥD8o	灰釉陶器	椀	—	(7.0)	(1.7)	底部外面
	95Aa	検Ⅰ	ⅥD2r	灰釉陶器	椀	—	(7.8)	(2.3)	底部外面
ST24	93Hb	ST01	ⅦE1b	灰釉系陶器	皿	(8.8)	5.6	1.0	底部外面
ST24	93Hb	ST01	ⅦE4c	施釉陶器	皿	—	(4.8)	(1.1)	底部外面
SE10	93G	SE02	ⅦD20a20d	灰釉系陶器	椀	—	5.4	(2.9)	底部外面
SE10	93G	SE02下層	ⅦE20c	灰釉系陶器	椀	—	(6.2)	(3.3)	底部外面
SE10	93G	SE02下層	ⅦE20c	灰釉系陶器	椀	—	—	(0.7)	底部外面
SE10	93G	SE02下層	ⅦE20c	灰釉系陶器	椀	—	(5.4)	(2.0)	底部外面
SE10	93G	SE02枠内	ⅦE20c. d	灰釉系陶器	皿	—	(4.6)	(1.1)	底部外面
SE11	93G	SE03	ⅧE1d	灰釉系陶器	皿	—	—	—	底部外面
	93G	検出		灰釉系陶器	皿	(9.2)	(5.4)	2.1	底部外面
SD226	92H	SE40	ⅧE6e7f	灰釉系陶器	皿	—	—	—	底部外面

第12表 その他の墨書陶器一覧表



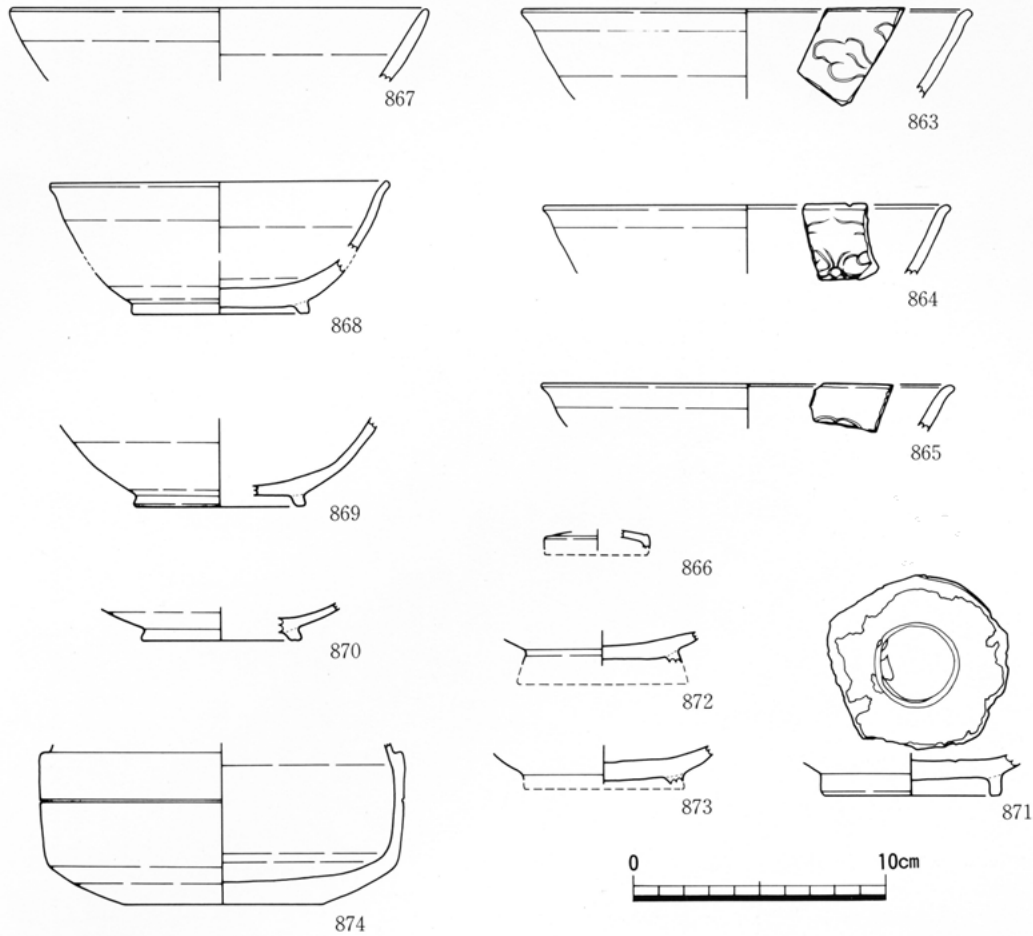
序号	器 種	産 地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	通標番号	旧遺構番号	墨書	墨書部位	図版	番号	器 種	産 地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	通標番号	旧遺構番号	墨書	墨書部位	図版
328	碗	美 須	—	—	(1.1)		93B SD05下層	王	底部外面		797	碗	東 濃	—	5.4	(2.9)	SE10	93G SE02		底部外面	
685	碗	尾 張	—	7.4	2.1	SD02	92H SD43	大	底部外面		798	碗	東 濃	—	5.3	(2.1)	SE10	93G SE02下層		底部外面	
686	碗	東 濃	—	6.0	(1.5)	SD02	92H SD43		底部外面		853	碗	東 濃	—	5.0	(1.9)		94Aa 檢 I	い	底部外面	17
687	碗	東 濃	12.2	3.4	3.1	SD01	95Aa SD01		底部外面		854	碗	東 濃	—	3.7	(1.7)		92Ga 檢 II		底部外面	17
769	碗	東 濃	13.0	6.0	5.4	SE09	93G SE01	二	底部外面		855	碗	東 濃	—	3.5	(1.1)		94Ab 檢 I	二	底部外面	17
790	碗	東 濃	—	5.6	(2.7)	SE10	93G SE02上層		底部外面		856	碗	東 濃	—	4.6	(1.6)		94Ba 檢 I	天	底部外面	17

第90図 墨書陶器実測図(2)



番号	器種	産地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺構番号	旧遺構番号	墨書	墨書部位	図版
194	皿	東濃	7.6	5.4	(1.1)	ST24	93Hb ST01		底部外面	
195		東濃	—	5.0	0.3	ST24	93Hb ST01	あ・お	底部外面	
196	皿	東濃	—	4.5	0.3	ST24	93Hb ST01		底部外面	
256	碗	東濃	—	5.8	(0.5)		93Hb SD06下層	禾	底部外面	
325	碗B	美須	(17.4)	(9.0)	(3.7)		93Hb SD05	五	底部外面	
683	皿	尾張	7.3	4.1	1.75	SD02	92H SD43-72	・	底部外面	
776	皿	東濃	8.1	5.0	1.2	SE09	93G SE01	大	底部外面	
807	皿	東濃	—	4.4	(0.6)	SE10	93G SE02下層		底部外面	
808	皿	東濃	7.4	4.0	(1.3)	SE10	93G SE02枠内		底部外面	
809	皿	東濃	8.4	4.6	(1.1)	SE10	93G SE02枠内		底部外面	
857	皿	尾張	7.8	5.0	1.8	SD214	93G SD02上層	○	底部外面	17
858	皿	東濃	8.2	5.2	(1.5)	SK160	92Da SK21	土	底部外面	17
859	皿	東濃	—	6.8	0.9	SD220	92H SD45		底部外面	17
860	皿	東濃	—	4.8	(0.6)		93F 掘り下	め	底部外面	17
861	皿	東濃	—	4.7	(0.6)		94Aa 検I	さ□	底部外面	17
862	皿	東濃	—	4.9	(0.6)		94Aa 検I	□と	底部外面	17

第91図 墨書陶器実測図(3)



番号	器 種	産 地	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構 番号	グリッド	図版	
863	椀	猿投	18.0			1/12	SD01	93G SD01下層		16	
864	椀	猿投	16.2			1/12	SD187	92Aa SD01	VID13t VEI3a	16	
865	椀	猿投	16.4			1/12		93G 検Ⅰ			
866	蓋	猿投	—	—	—	—		92Aa 検Ⅱ	VID17t VEI7a		
867	椀	猿投	16.6	—	(3.5)	1/12	SB22	92Aa SB03	VID14t VEI4a		
868	椀	猿投	13.4	7.0	(5.2)	1/12 6/12	SD01	95Aa SD01	VID1r	18	
869	椀	猿投	—	6.8	(3.5)	—	3/12	SD01	93J SD26	VID18p	18
870	椀	尾張	—	6.2	(1.4)	—	2/12		92Ab 検Ⅱ	VID11t VEI2a	
871	皿	猿投	—	7.0	(1.6)	—	12/12		93Ha掘り下Ⅱ	VEI7a	18
872	皿	美須	—	6.4		—	3/12	ST24	93Hb ST01	VEI20c	18
873	椀	美須	—	6.4		—	4/12		93Ha掘り下Ⅱ	VEI7a	18
874	合子	猿投	—	7.8	6.4	—	11/12	ST24	(SD05) 93Hb ST01	VEI2a3b	

第92図 陰刻花纹・緑釉陶器実測図

遺構番号	調査区	旧番号	グリッド	器種	部位	残存	仮番号	産地
SB14	92Aa	SB06	VI G15a	皿	胴		5	猿投
SB20	92Aa	SB13	VI D12t13t	椀	口縁		4	近江
	92Aa	検Ⅰ		皿	口縁	2/12	9	近江
	92Aa	検Ⅰ		手付瓶	胴	—	10	猿投
	92Aa	検Ⅰ		椀	底	—	11	?
	92Aa	検Ⅰ		椀?	底	—	12	近江
	92Aa	検Ⅱ	VI E14b15b	段皿	胴	—	6	猿投
	92Aa	検Ⅱ	VI D16t VI E16a	?	胴	—	7	猿投
	92Ab	検Ⅱ	VI E7a7b	椀	胴	—	15	猿投
	92Ab	検Ⅲ	VI E5a6a	輪花皿	胴		13	猿投
	92Ab	検Ⅲ	VI E7a	?	胴	—	14	猿投
SD01	92C	SD03上層	VI D11p12p	椀	口縁		17	?
ST01	93Ea	ST01	III D15r	皿	底		26	?
SD201	93Ha	SD03	VI E13d	椀	胴	—	22	近江
	93Ha	掘り下Ⅰ	VI D13t	椀	口縁		28	?
	93Ha	SD03	VI E12a	?	胴		27	?
	93Hb	掘り下Ⅰ	VI E5c5b	?	胴	—	21	猿投
	94Aa	検Ⅰ	VI D2q	椀・皿	胴	—	2	猿投
	94Ab	検Ⅰ		?	胴		25	?

第13表 その他の緑釉陶器一覧表

2. 陰刻花文陶器と緑釉陶器（第92図863～874、第134図、図版16、図版17、図版18）

陰刻花文 猿投窯の陰刻花文が施された椀が3点出土。いずれも内側に陰刻花文が施されている。

9世紀後半。

緑釉陶器 猿投窯と尾北窯と美濃窯の緑釉椀、皿、段皿、蓋、瓶、合子が28点出土。9世紀前半から10世紀前半。868.869の椀は9世紀前半の猿投窯産で緑釉陶器の中では一番古い。

866. 猿投窯の小瓶の蓋で、やや青味のある淡緑色の釉で胎土は灰白色で軟質。

867. 猿投窯の椀で、やや青味がかった淡緑色の釉で胎土は軟質気味で黄色味を帯びる。

868. 猿投窯の椀で、淡緑色の釉で釉層はやや薄めである。胎土は硬質で明灰白色を呈す。

底部内外面に三又トチン痕がある。

869. 猿投窯の椀で、やや黄褐色気味の淡緑色の釉で胎土は硬質灰褐色を呈す。内面に三又トチン痕がある。

870. 尾北窯椀で、青味のある緑色の釉で胎土は緻密で灰色を呈する。

871. 猿投窯の椀で、淡緑色の釉で胎土は緻密であるが焼きが甘く灰黄色を呈す。見込み部分に同心円の沈線がある。

872. 美濃窯の椀で、濃緑色の釉で胎土は緻密で暗灰色を呈する。底部には糸切り痕、底部内面に三又トチン痕がある。

873. 美濃窯の椀で、青味を帯びた緑色の釉で胎土はやや軟質気味の灰白色。

874. 猿投窯の合子で、淡黄緑色の釉で胎土はやや軟質の灰白色を呈する。胴部に沈線が一条あり、底部はベタ底となる。外面の緑釉の剥落が激しい。

3. その他の遺物（第93図904～926、図版16）

甕、美濃須衛窯と猿投窯と尾北窯の杯B、杯、鉢、平瓶、猿面硯、風字硯、灰釉椀、灰釉皿、段皿、水注、古瀬戸の四耳壺、天目茶碗、緑釉皿、大窯期美濃窯の丸皿、紡錘車が出土している。

904. 縄文時代晩期の擦痕土器で、底部のみの出土。94Ab区東南トレンチの湿地性堆積土より出土し、出土標高は7 m 55cmを測る。

908. 猿投窯の鳥鈕蓋付平瓶の尾の部分である。9世紀前半。尾の部分以外は出土しなかった。

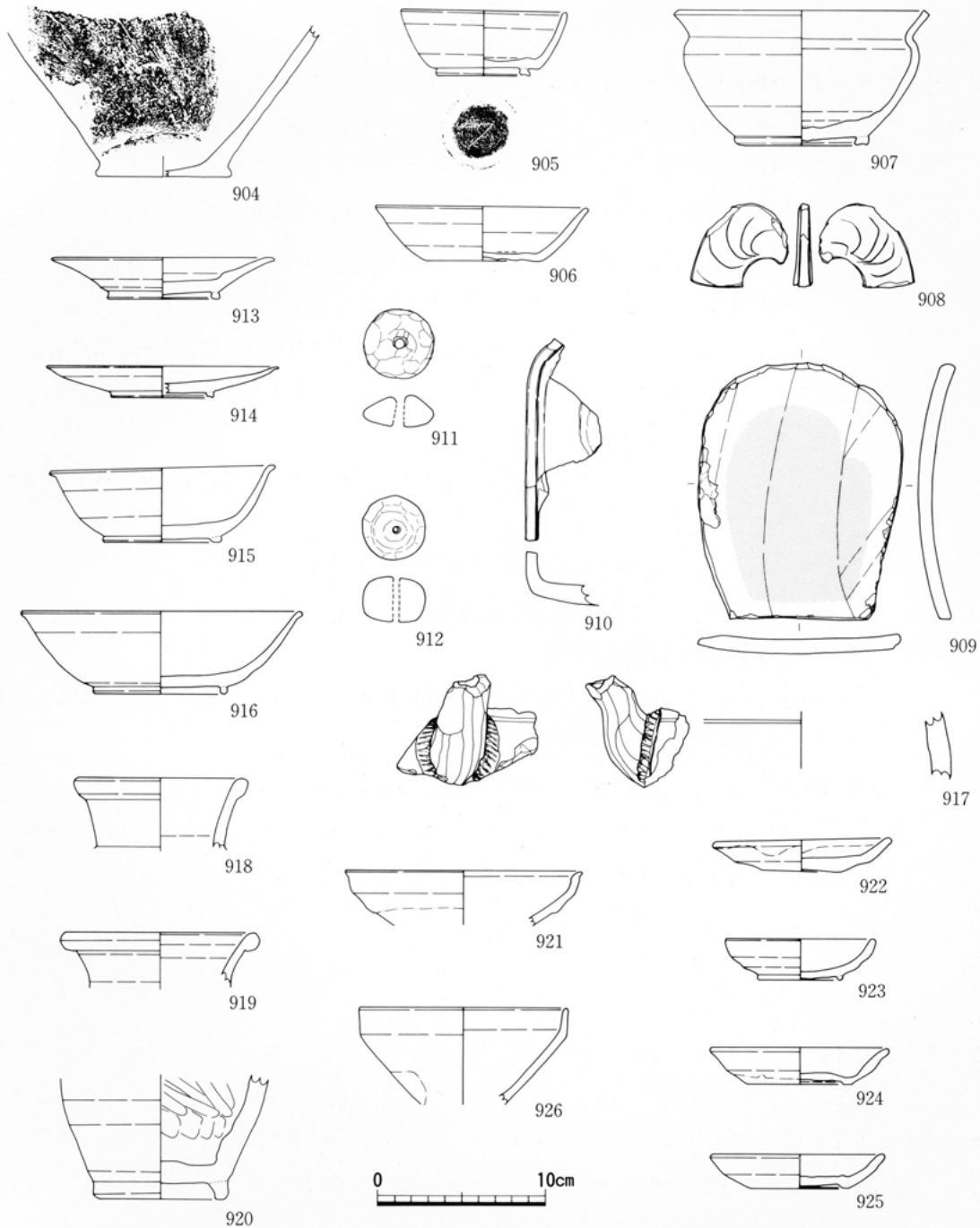
909. 甕の胴部を転用した転用硯で猿面硯である。内外面には薄い釉を塗った痕が認められる。甕の胴部破片を用いており、面取りにより形を整え、下辺以外は縁辺部を面取り後磨いている。

910. 猿投窯の風字硯で9世紀後半。

911. 土製で面の調整痕が顕著。紡錘車か。

912. 陶製で面の調整痕があり、紡錘車か。

917. 美濃須衛窯の水注である。



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	国版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	遺構番号	旧遺構番号	産地	国版
904	甕		(8.0)	(8.9)	9/12			土器	16	916	碗	(16.5)	7.8	4.9	1/12 : 12/12			猿投	
905	杯B	9.8	5.4	3.9	12/12 : 12/12			美須衛		917	水注							美須衛	
906	杯	12.5	6.7	3.3	12/12 : 12/12			美須衛		918	四耳壺	(9.6)		(4.3)	2/12			古瀬戸	
907	鉢	(14.6)	6.6	8.0	4/12 : 12/12			美須衛		919	四耳壺	(11.3)		(3.2)	3/12			古瀬戸	
908	平瓶							猿投	16	920	四耳壺		6.3	(7.4)		12/12		古瀬戸	
909	猿面碗							猿投		921	天目茶碗	(13.8)		(3.2)	2/12			古瀬戸	
910	風字碗							猿投		922	縁軸皿	10.2	4.6	2.0	10/12 : 12/12			古瀬戸	
911	紡錘車							土製	16	923	丸皿	(8.8)	(4.8)	(2.4)	1/12 : 4/12			瀬戸、美濃	
912	紡錘車							陶製	16	924	丸皿	(10.4)	6.2	(2.2)	3/12 : 12/12			瀬戸、美濃	
913	段皿	12.8	6.5	2.5	10/12 : 12/12			猿投		925	丸皿	10.2	5.8	2.4	12/12 : 12/12			瀬戸、美濃	
914	皿	(13.5)	(6.0)	2.3	3/12 : 3/12			尾北		926	天目茶碗	12.1		(5.7)	3/12			古瀬戸	
915	碗	13.0	6.9	4.6	9/12 : 12/12			猿投											

第93図 その他の遺物実測図

4. 中国陶磁器（第94図、図版18）

白磁 碗（第94図875～885）

875・876は口縁部が小さい玉縁状になり、釉全体に貫入がみられる。875の釉色はうすい緑色、876は黄色味をおびた白色である。877は高台部が幅広く削り出しはわずかで、内面見込みに沈線状の段をもつ。878・879・880は口縁端部が外反するもの。878は体部内面に櫛で紋様を施す。879は体部内面に櫛目の紋様、上位に一条の沈線が入る。881・884は体部が外方向にのび、881は内面上位に一条の沈線が入る。882・883は口縁部に釉のかからない、いわゆる口禿の碗である。885は体部にやや丸味があり、体部内面上位に一条の沈線が入る。

白磁 皿（第94図886～888）

886は体部上位で内彎する皿。887は口禿の皿である。体部外面下半部は施釉されていない。888は口縁部を外反させる16世紀代の皿。

青白磁 皿（第94図889）

889は口縁部に施釉されない口禿の皿。13世紀～14世紀前半のものと思われる。

合子（第94図890）

890は12世紀代のものと思われる。

青磁 同安窯系碗（第94図891）

891は体部外面に細かい櫛目を施し、釉はうすい。

同安窯系皿（第94図892・893）

892・893は体部と見込みの境に段を有する。892は内外面とも無文の皿である。

龍泉窯系碗（第94図894～899、図版18）

894は体部外面は無文、内面に紋様を有する。895・896は高台が断面四角形で露胎。器肉は厚く、見込みに紋様を施す。897は鎚連弁紋の碗。898はヘラ状工具で連弁紋を施し、胎土は黒色である。899は口縁部が外反する碗。

龍泉窯系皿（第94図900～902）

900は内底見込みに花紋を櫛状のもので描き、底部の釉は焼成前に掻き取られる。901は体部中位で屈曲し口縁部はうすく引き出されている。902は口縁部を外反させ端部を上引き出す高台の付く皿。体部内面を菊状につくり出している。

青花 皿（第94図903、図版18）

口縁部をやや内彎させ、紋様は外面口縁部に波涛紋、体部外面に芭蕉葉紋が描かれている。

* 中国陶磁器の産地、分類については森達也氏に御教示を得た。記して感謝いたします。

* 中国陶磁器の分類にあたっては以下の文献を参考にした。

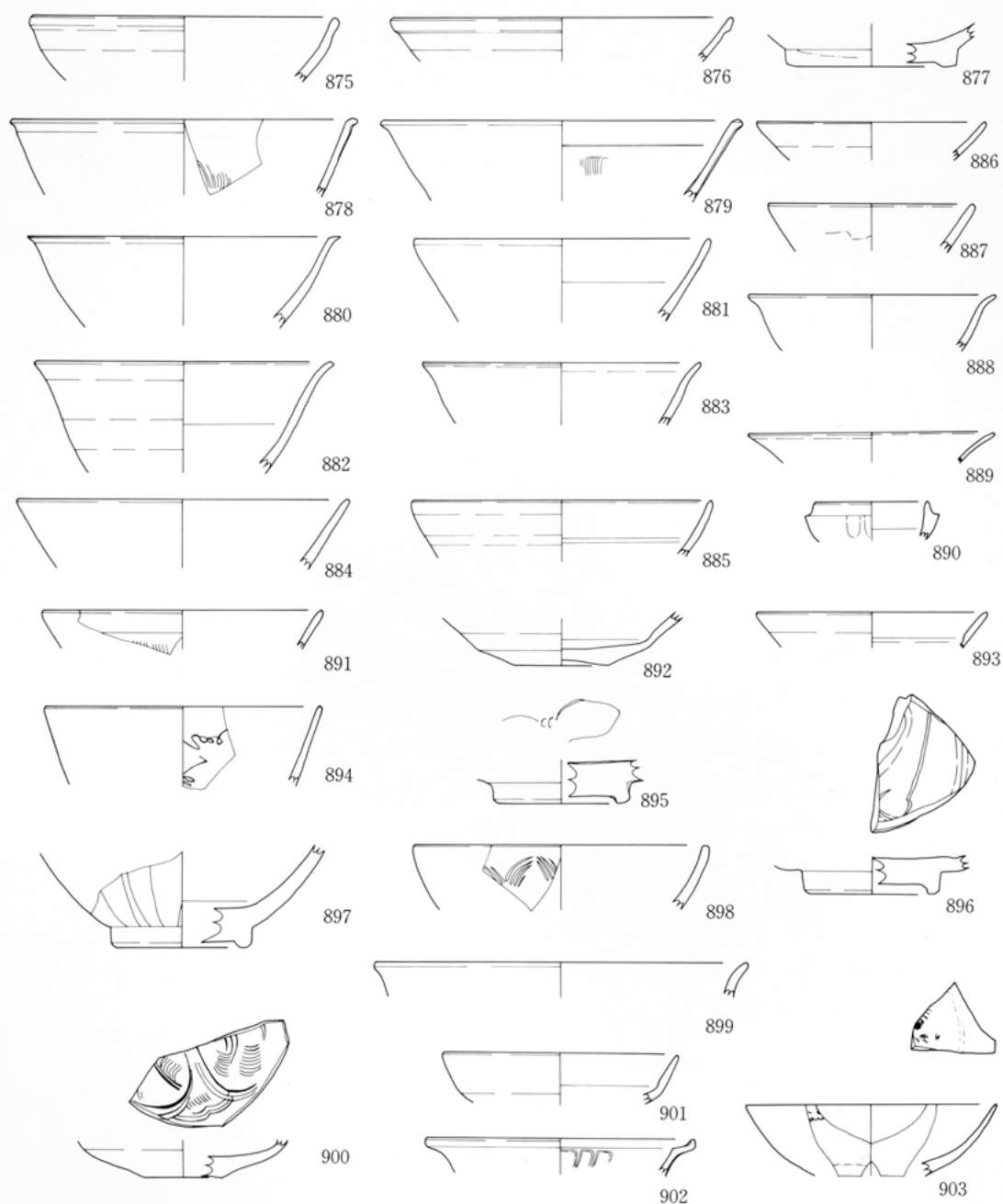
横田堅次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』1978

上田秀夫「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2号 1982

森田勉「14から16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2号 1982

小野正敏「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』2号 1982

国立歴史民俗博物館『日本出土の貿易陶磁 東日本編2』1994



0 10cm

番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	遺構番号	旧遺構番号	種別	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	遺構番号	旧遺構番号	種別	図版
875	碗	13.2	—	(2.9)	3/12		94Ba 検Ⅱ	白磁	18	890	合子	4.9	—	(1.7)	1/12		92Aa 検Ⅰ	青白磁	
876	碗	14.8	—	(1.8)	2/12		93G SD11	白磁		891	碗	12.2	—	(1.7)	1/12		95Ab 検Ⅰ	青磁	
877	碗	—	7.3	(1.9)	4/12		92Ab SK48	白磁		892	皿	—	4.0	(2.3)	3/12		93Ha 検Ⅰ	青磁	
878	碗	15.0	—	(3.3)	1/12		95Ab 検Ⅰ	白磁		893	皿	10.0	—	(1.6)	2/12		93Ha 検Ⅰ	青磁	
879	碗	15.6	—	(3.5)	3/12		93G 検Ⅰ	白磁	18	894	碗	12.0	—	(3.4)	1/12		93Ha掘り下Ⅰ	青磁	
880	碗	13.6	—	(3.9)	2/12		94Ba 検Ⅱ	白磁		895	碗	—	6.0	(1.9)	3/12		93G 検Ⅰ	青磁	
881	碗	12.8	—	(3.7)	1/12		92Aa SK10	白磁		896	碗	—	5.4	(1.7)	6/12		95Ab 検Ⅰ	青磁	
882	碗	13.0	—	(4.8)	1/12		94Bb 検Ⅰ	白磁	18	897	碗	—	5.6	(4.2)	5/12		94Aa 検Ⅰ	青磁	
883	碗	12.0	—	(2.6)	1/12		93G 検Ⅰ	白磁		898	碗	12.6	—	(2.8)	1/12		SD05	青磁	18
884	碗	14.4	—	(3.0)	1/12		92Ab 検Ⅱ	白磁		899	碗	16.2	—	(1.4)	2/12		94Aa 検Ⅰ	青磁	
885	碗	11.8	—	(2.7)	1/12		93F 掘り下	白磁		900	皿	—	3.4	(1.7)	4/12		SD03-11	青磁	
886	皿	10.0	—	(1.5)	1/12		95Ab 検Ⅰ	白磁		901	皿	10.2	—	(2.2)	3/12		92H SD43	青磁	
887	皿	9.0	—	(2.1)	2/12		92E 検Ⅰ	白磁		902	皿	11.8	—	(1.6)	1/12		92Da 検Ⅱ	青磁	
888	皿	10.8	—	(2.4)	1/12		92E 掘り下Ⅰ	白磁		903	皿	10.8	—	(3.1)	1/12		95B 検Ⅰ	青花	18
889	皿	10.6	—	(1.3)	1/12		94Bb 検Ⅱ	青白磁											

第94図 中国陶磁器実測図

5. 土鍾（第95図927～945. 第96図. 第97図、図版16）

土鍾はすべて管状土鍾で106点出土。土鍾の他に陶鍾（948）が2点出土している。

分類は大毛沖遺跡の久保分類に準拠した。

形態には大きく分けて2種類あり、孔径が小さくて重量も軽い小型のものをⅠ類、孔径が大きく重いものをⅡ類とした。さらに、両端部を平坦にするか否かによってAa・Ab・Bと分類した。

分類1. Ⅰ. 孔径が0.5cm以下で重量が20g未満。93点

Ⅱ. 孔径が0.5cm以上で重量が20g以上。11点

分類2. Aa. 両端部を平坦に調整するもの。

Ab. 両端部を平坦に調整するが、痕跡が不明瞭なもの。

B. 両端部を平坦に調整しないもの。

分類3. イ. 中央部が膨らみ、胎土中に不純物（木片）が混入するもの。

ロ. 中央部が膨らまず、胎土に不純物が混入しないもの。

ハ. イよりもさらに長さとの割合が小さく、軽くて小さいもの。

土鍾が一番多く出土した調査区は95Ab区の31点で、92Aa区の17点、92H区の15点、93G区の12点、92Ab区の6点、93Ha区、93Hb区、94Da区の4点、92F区、94Bb区の2点で、その他11の調査区で各1点出土している。

分類による出土状況は

ⅠAaが23点、ⅠAbが40点、ⅠBが21点、分類不能9点。Ⅰの合計は93点。

ⅡAaが5点、ⅡAbが2点、分類不能4点。Ⅱの合計は11点。

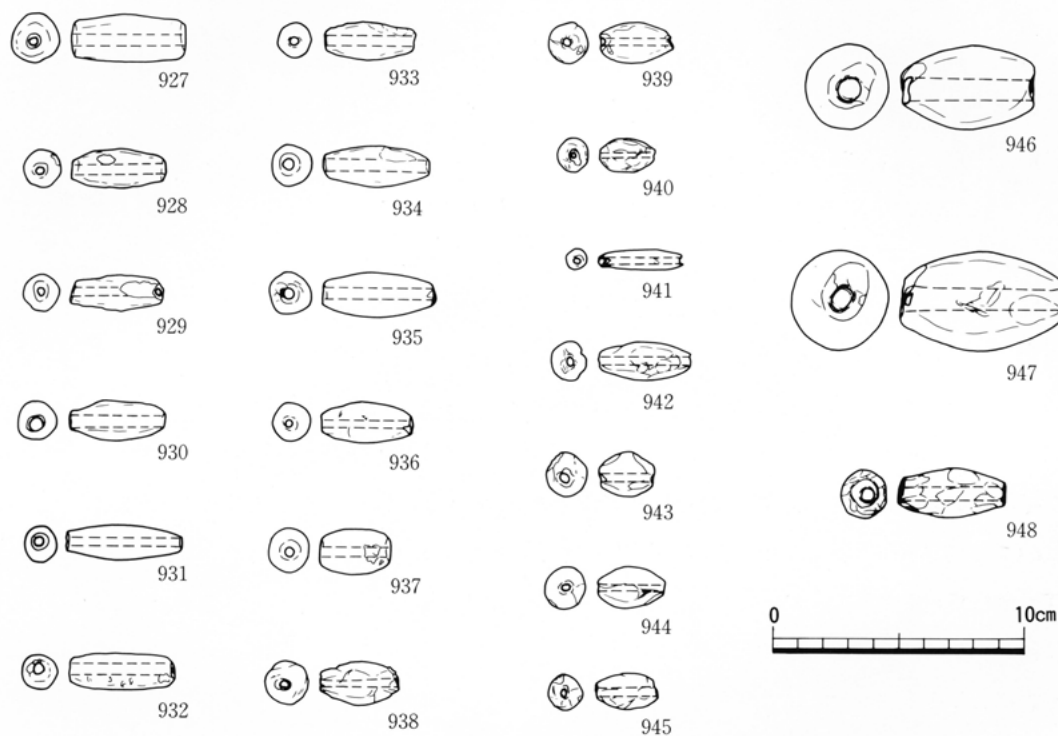
となる。

調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類1	分類2	分類3	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存	備考
93G		検Ⅰ	ⅣE17b	Ⅰ	A a	口	(2.0)	(1.3)	0.2	(2.5)	破片	
93G		掘り下		Ⅰ	A a	口	(4.0)	1.2	0.2	(5.6)	片端少欠損	
92H	SB05	SB118	ⅣE3c	Ⅰ	—	口	(3.5)	(1.3)	0.3	(5.0)	両端少欠損	
92H	SD02	SD43上層	ⅣE6fg	Ⅰ	A b	口	(3.1)	1.8	0.5	(7.8)	片端少欠損	
92H	SD02	SD43	ⅣE8f	Ⅰ	A b	口	(3.1)	1.2	0.3	(4.5)	片端少欠損	
92H	SD02	SD43	ⅣE6b7b8b	Ⅱ	A b	—	(4.7)	(2.9)	0.7	(17.0)	破片	
92H	SD02	SD43	ⅣE8e8f	Ⅰ	B	口	(3.7)	1.4	0.4	(4.6)	破片	
92H	SD220	SD45	ⅣE3b	Ⅱ	—	—	(3.8)	(2.3)	0.6	(8.6)	破片	
92H	SD220	SD45	ⅣE3b	Ⅰ	A b	口	(3.0)	(1.4)	0.3	(4.5)	片端少欠損	
92H	SD226	SD40	ⅣE6e7f	Ⅰ	A b	口	(1.9)	0.7	0.2	(0.8)	片端少欠損	
92H		SD46	ⅣE7f	Ⅰ	A a	口	4.2	1.9	0.4	14.2	完形	
92H		SD46	ⅣE7f	Ⅰ	B	口	(4.5)	0.9	0.3	(3.0)	片端少欠損	
92H		検Ⅳ	ⅣE6a7b	陶鍾			(1.4)	(1.4)	0.4	(1.1)	破片	

第14表 その他の土鍾一覧表（1）

土錘が出土した遺構はSD01、SD02、SD214から4点、SD226から2点、SD15、SD16、SD207、SD220よりそれぞれ1点ずつ出土しているがその他の土錘は遺構からの出土資料ではない。

土錘の主体は12世紀から14世紀までである。

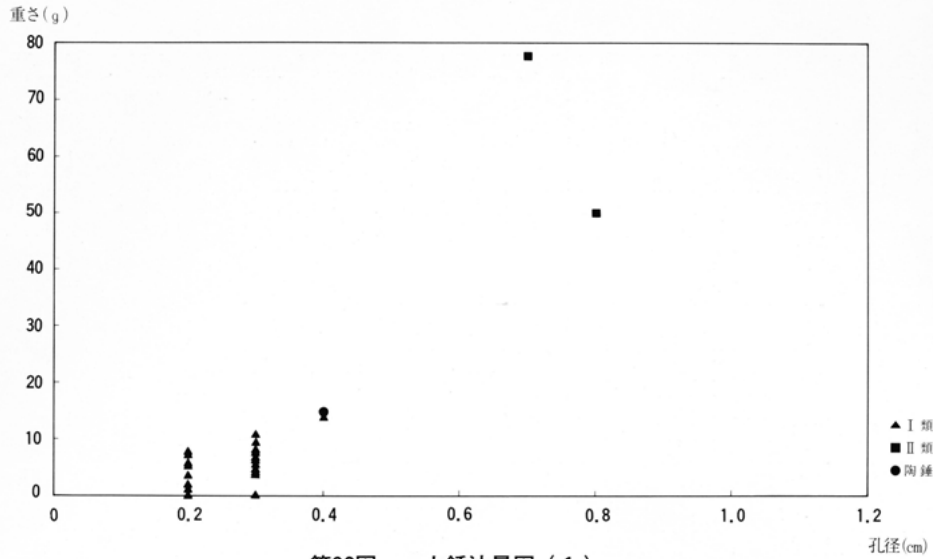


番号	調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類1	分類2	分類3	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存	備考
927	93G	SD214	SD02上層	ⅦE19c	I	A a	□	4.5	1.7	0.4	13.9	完形	
928	95Ab		検Ⅰ	ⅦE14c	I	A a	□	3.7	1.5	0.2	7.2	完形	
929	93Ha		掘り下		I	A a	□	3.6	1.4	0.2	6.0	完形	
930	95Ab		検Ⅰ	ⅦE14b	I	A a	□	3.8	1.5	0.3	7.6	完形	
931	95Ab		検Ⅰ	ⅦE14b	I	A b	□	4.6	1.4	0.3	7.3	完形	
932	94Ab		検Ⅰ		I	A b	□	4.1	1.3	0.3	7.7	完形	
933	93Ha		掘り下Ⅰ	ⅦE13d	I	A b	□	3.6	1.4	0.2	5.7	完形	
934	95Ab		検Ⅰ	ⅦE14d	I	A b	□	4.1	1.6	0.3	9.3	完形	
935	95Ab		検Ⅰ	ⅦE14a	I	A b	□	4.4	1.6	0.3	10.7	完形	
936	92C	SD01	SD03	ⅦD13q	I	A b	□	3.6	1.6	0.2	8.0	完形	
937	92H	SD02	SD43	ⅦE8f	I	A b	□	2.8	1.7	0.3	7.0	完形	
938	92Da	SK162	SK20	ⅦD1s	I	A b	ハ	3.1	1.7	0.3	7.7	完形	
939	92Da		検Ⅲ	ⅦD19s	I	A b	ハ	2.8	1.6	0.2	6.0	完形	
940	92Aa		検Ⅱ	ⅦD16t	I	A b	ハ	2.1	1.4	0.2	3.5	完形	
941	92Aa	SB17-P4	SB08-P4	ⅦE14b	I	B	□	3.3	0.7	0.2	1.9	完形	
942	93Hb	ST25	ST02	ⅦE1bc	I	B	□	3.6	1.5	0.3	6.5	完形	
943	94Bb	SD99	SD01	ⅦD7s	I	B	ハ	2.1	1.7	0.3	5.2	完形	
944	94Bb		検Ⅰ		I	B	ハ	2.7	1.7	0.3	6.1	完形	
945	93Hb	ST25	ST02	ⅦE5a	I	B	□	2.5	1.4	0.3	4.2	完形	
946	92H	SD02	SD43上層	ⅦE6fg	Ⅱ	A a	—	5.3	3.1	0.8	49.9	完形	
947	92H	SD220	SD45	ⅦE2c	Ⅱ	A a	—	6.4	3.8	0.7	77.7	完形	
948	92H		検Ⅳ	ⅦD4t	陶錘			4.2	1.9	0.4	14.8	完形	

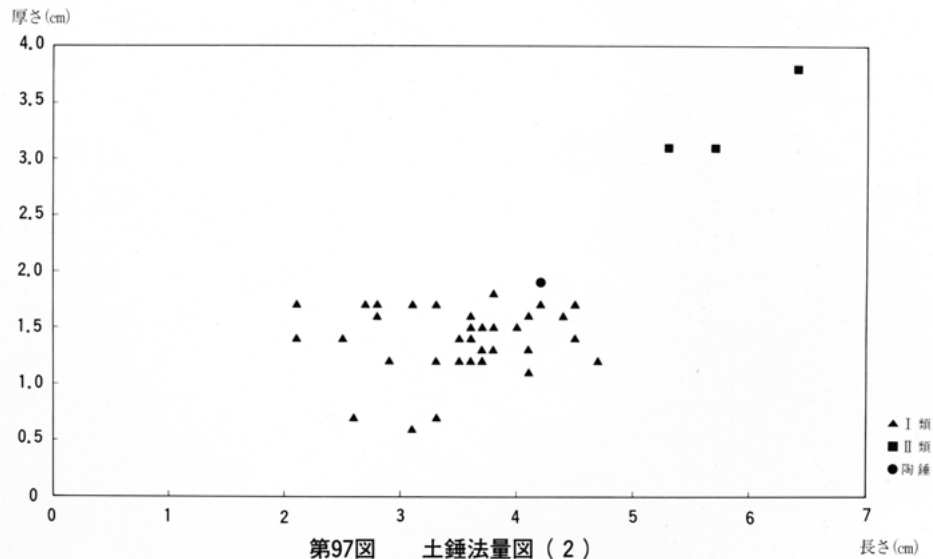
第95図 土錘実測図

調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類1	分類2	分類3	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存	備考
95B		検Ⅰ	ⅡE3g	I	A a	□	(2.6)	1.3	0.4	(3.4)	両端少欠損	
92F		検Ⅰ	ⅡD17s	I	A a	□	(3.6)	1.2	0.3	(5.0)	片端少欠損	
92F		検Ⅰ	ⅡD20t ⅡE1a	I	A a	□	4.5	(1.3)	0.3	(4.6)	1/2欠損	
92Ga	SD15	SD29	ⅢE6b7b	I	B	□	4.1	1.1	0.3	(4.5)	片端少欠損	
93K	SD16	SD01	ⅡE17c18d	I	—	イ	(3.3)	1.2	0.3	(4.3)	両端少欠損	
94Ba		検Ⅰ		I	B	□	3.8	1.3	0.4	(5.8)	一部欠	
92Da	SK160	SK21	V F19q	Ⅱ	A a	—	4.5	(3.2)	1.2	(18.3)	1/2欠損	
92Da		検Ⅲ	V D20r	—	—	—	(3.4)	(0.8)	0.4	(4.7)	破片	
92D		検Ⅱ	V D1p	I	A a	□	4.2	1.7	0.2	(9.6)	片端少欠損	
94Aa		検Ⅰ	V D2n	I	A b	□	(3.6)	1.4	0.4	(6.6)	片端少欠損	
93I	SD01	SD03	V D9pq	I	A a	□	(3.7)	1.3	0.3	(6.4)	片端少欠損	
92Aa	SB17	SB08	V E14b	I	B	□	(3.1)	0.7	0.2	(1.5)	片端少欠損	
92Aa	SB22	SB03	V D14t	I	B	□	(2.9)	(0.8)	0.2	(1.6)	1/3欠損	
92Aa	SB23	SB01	V F15t V G16a	I	A b	□	3.3	1.7	0.2	(7.7)	片端少欠損	
92Aa	SB34	SB02	V G14b	I	A a	□	(2.8)	0.8	0.2	(1.8)	片端少欠損	
92Aa	SB34	SB02	V G14b	Ⅱ	—	—	(2.7)	(1.7)	0.6	(3.3)	破片	
92Aa	P398	P104	V E14b	I	B	□	(3.5)	0.7	0.2	(1.7)	両端少欠損	
92Aa	P398	P104	V E14b	I	B	□	(3.2)	0.7	0.2	(2.1)	片端少欠損	
92Aa	P398	P104	V E14b	I	B	□	(1.3)	0.8	0.2	(0.7)	破片	
92Aa		検Ⅲ	V E14b	I	B	□	(3.3)	(0.7)	0.2	(2.0)	両端少欠損	
92Aa		検Ⅲ	V E14a	I	—	—	(1.8)	(1.2)	0.2	(2.5)	1/2欠損	
92Aa		検Ⅱ	V D17t	—	—	—	(1.2)	(0.9)	0.3	(0.6)	破片	
92Aa		検Ⅱ	V D17t	I	B	□	(2.5)	0.8	0.2	(1.5)	両端少欠損	
92Aa		検Ⅱ	V E14a	I	A b	□	(3.1)	1.4	0.2	(4.9)	片端少欠損	
92Aa		検Ⅱ	V E14a	I	—	□	(2.6)	0.8	0.2	(1.2)	両端少欠損	
92Ab	SB24	SB109	V E7ab	Ⅱ	—	—	(3.2)	(2.1)	0.6	(5.5)	破片	
92Ab	SB25	SB111	V E7a8b	Ⅱ	A a	—	5.6	(2.7)	0.5	(18.2)	1/2欠損	
92Ab		検Ⅱ	V E11a	I	—	□	(3.5)	1.3	0.3	(5.4)	両端少欠損	
92Ab		検Ⅱ	V E7a	I	A a	—	(2.9)	2.3	0.5	(6.8)	破片	
92Ab		検Ⅱ	V E7a	I	—	—	(3.5)	(2.2)	0.5	(10.1)	破片	
92Ab		検Ⅲ	V E7a	I	—	—	(2.2)	(2.1)	0.6	(5.9)	破片	
92C	SD01	SD03	V D16q	I	—	—	2.9	1.2	0.3	3.8	両端少欠損	
95Aa		検Ⅰ	V D19r	I	A b	□	4.7	1.2	0.3	7.5	片端少欠損	
93Hb	ST24	ST01	V D2t	I	B	□	(1.9)	(1.2)	0.4	(1.7)	破片	
93Hb	ST24	ST01	V E4b	I	A b	□	(4.1)	1.4	0.3	(6.9)	片端少欠損	
93Ha		掘り下	V D13s	I	A b	—	(3.1)	1.8	0.3	7.0	両端少欠損	
93Ha		掘り下		Ⅱ	A a	—	5.7	3.1	0.5	(22.8)	1/2欠損	
95Ab	SD01	SD01	V D13t	I	B	□	3.1	0.6	0.1	(1.0)	片端少欠損	
95Ab	SD207	SD04	V D14t	I	A b	□	(2.5)	1.0	0.2	(2.2)	両端少欠損	
95Ab	SX21	SX04	V E14b	I	A a	□	4.2	(1.5)	0.3	4.5	1/2欠損	
95Ab	SX21	SX04	V E14b	I	A a	□	(2.6)	(1.2)	0.2	1.1	破片	
95Ab	SX21	SX04	V E14b	I	A a	□	4.0	1.5	0.3	(8.5)	片端少欠損	
95Ab		検Ⅱ	V E13c	I	A b	□	3.7	1.2	0.2	(4.8)	片端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14a	I	A b	—	(1.9)	(1.6)	0.3	(1.8)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14a	I	A a	—	(1.9)	(1.6)	0.3	(2.1)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14a	I	A b	—	3.8	1.8	0.2	(6.7)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14a	I	—	—	(2.2)	(1.4)	0.2	(1.6)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14b	I	A b	—	(3.1)	(1.6)	0.3	(2.9)	1/2欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14b	I	A a	□	3.6	1.2	0.2	5.3	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14b	I	A b	—	(2.6)	(1.6)	0.2	(2.5)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14b	I	A b	—	(2.2)	(1.2)	0.3	(1.3)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14b	I	—	—	(2.6)	(1.4)	0.3	(2.3)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14b	I	—	—	(3.6)	(1.8)	0.3	(4.3)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A a	□	(2.8)	(1.6)	0.4	(3.7)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	3.7	1.3	0.2	(5.4)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	3.5	1.2	0.2	(4.4)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	3.5	1.4	0.2	(6.3)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	4.1	1.6	0.4	(7.5)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	—	(2.7)	(1.5)	0.2	(2.5)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	—	3.5	1.4	0.3	(5.6)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	3.3	1.2	0.3	(4.6)	片端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	(2.5)	1.2	0.3	(2.6)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A a	□	(3.7)	(1.5)	0.3	(3.9)	1/2欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	Ⅱ	—	—	(3.2)	(2.8)	0.5	(12.2)	破片	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A a	□	(3.4)	(1.8)	0.3	(4.4)	1/2欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	(3.8)	1.6	0.3	(6.1)	両端少欠損	
95Ab		検Ⅰ	V E14c	I	A b	□	(2.6)	1.1	0.3	(2.9)	片端少欠損	
93G	SD01	SD01下層	V E18s	I	A b	□	(1.6)	0.8	0.2	(0.7)	破片	
93G	SD214	SD02上層	V E20a	I	A a	イ	(2.9)	1.1	0.2	(2.8)	片端少欠損	
93G	SD214	SD02上層	V D20t	I	B	—	2.6	0.7	0.2	(0.8)	片端少欠損	
93G	SD214	SD02上層	V E20a	I	B	—	(1.9)	0.6	0.1	(0.7)	1/2欠損	
93G	SD214	SD02上層	V E20c	Ⅱ	A b	□	(2.4)	1.6	0.6	(4.8)	1/2欠損	
93G	SE10	SE02上層	V E20c	I	B	□	(2.5)	0.8	0.1	(1.6)	片端少欠損	
93G	SK290	SK78	V15b	I	A b	□	(3.8)	1.2	0.2	(5.1)	両端少欠損	
93G		SK14	V E1c	I	A b	—	(1.7)	(0.8)	0.1	(1.2)	1/2欠損	
93G		検Ⅰ	V E19b	I	A b	□	(3.5)	1.2	0.2	(5.9)	片端少欠損	

第15表 その他の土錘一覧表(2)



第96図 土錘法量図(1)



第97図 土錘法量図(2)

6. 加工円盤 (第98図949～975. 第99図)

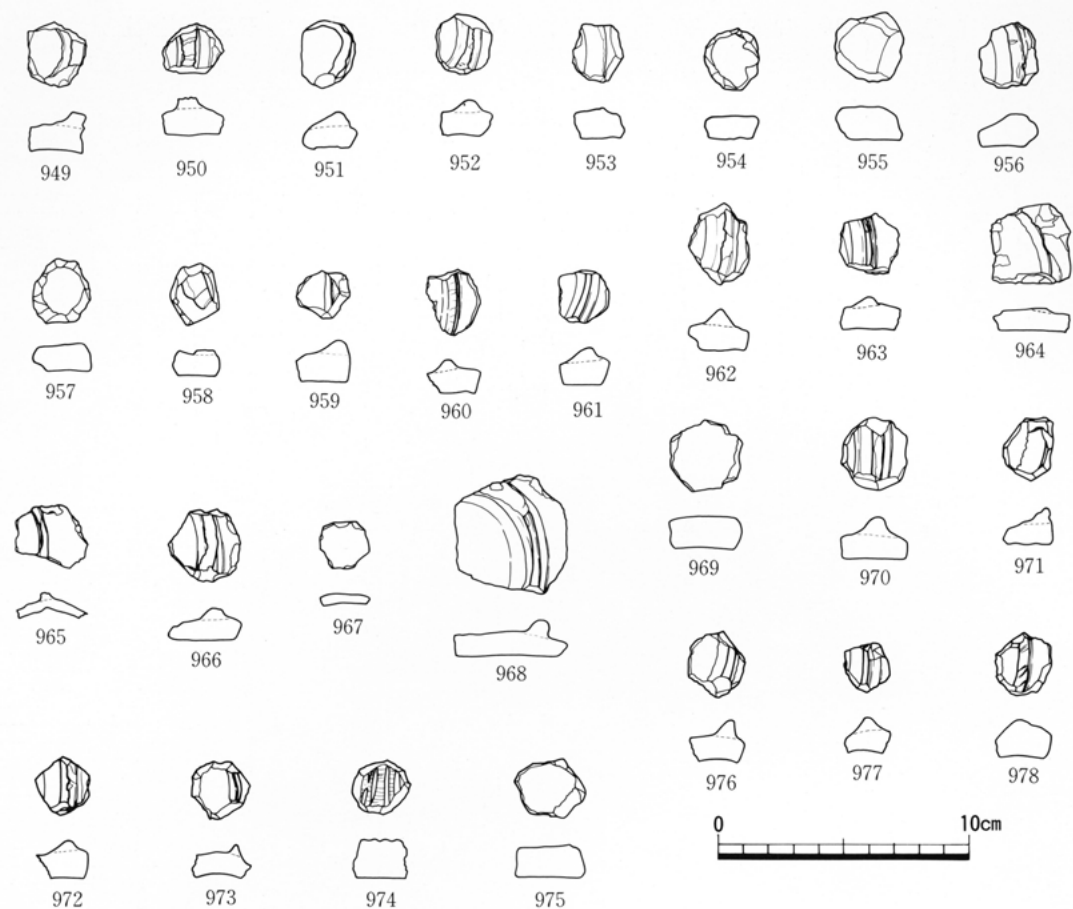
加工円盤は23調査区より341点出土し、A類、B類、C類の3種類に分類した。

分類A. 灰釉系陶器の底部を利用したもの。 241点出土。

分類B. 灰釉系陶器の底部以外を利用したもの。 41点出土。

分類C. その他、施釉陶器などを利用したもの。 59点出土。

出土した加工円盤の総点数は341点で、A類241点、B類41点、C類59点となる。調査区別では93G区60点、92Aa区57点、93Hb区42点、93Ha区27点、92Ab区24点、94Ba区21点と92H区20点、93I区17点、92Ca区13点、95Aa区11点出土している。



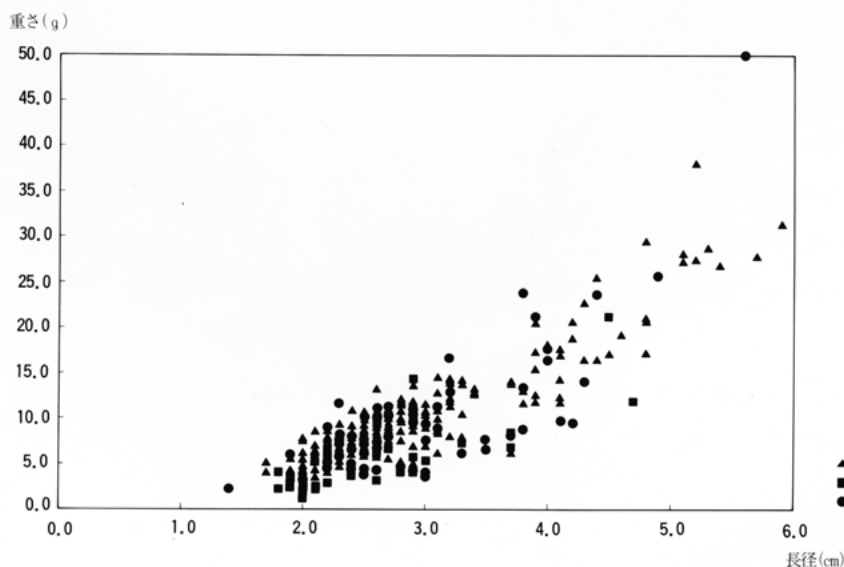
番号	実測番号	整理番号	調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類	長径(cm)	短径(cm)	重さ(g)	時期	備考
949	1	93J-01	93J	SD126	SD01	VD11n	A	2.5	2.2	9.1		
950	2	92Da-01	92Da	SK168	SK51	VD10p	A	2.5	2.0	6.7		
951	3	93I-07	93I	SD158	SD05	VD4o5o6o	A	2.7	2.1	7.3		
952	4	93I-08	93I	SD158	SD05	VD4o5o6o	A	2.4	2.2	8.0		
953	5	93I-09	93I	SD158	SD05	VD4o5o6o	A	2.4	2.1	6.7		
954	6	93I-11	93I	ST22	ST02	VD3o	C	2.4	2.1	6.5		須恵器 胴部
955	7	93I-12	93I	ST22	ST02	VD3o	C	2.6	2.6	10.1		土師質 胴部
956	8	93I-13	93I	ST22	ST02	VD3o	A	2.5	2.3	8.4		
957	9	93I-14	93I	ST22	ST02	VD3o	A	2.7	2.3	7.4		
958	10	92Aa-01	92Aa	SB34	SB02	VG14b15b	A	2.1	2.1	6.0		
959	11	92Aa-02	92Aa	SB34	SB02	VG14b15b	A	2.2	1.8	6.1		
960	12	92Aa-09	92Aa	SB18	SB12	VG12a13a	A	2.6	2.1	6.8		
961	13	92Aa-10	92Aa	SB18	SB12	VG12a13a	A	2.1	1.9	5.7		
962	14	92Aa-12	92Aa	SK252	SK09	VE12b13b	A	3.3	2.3	10.4		
963	15	92Aa-13	92Aa	SK252	SK09	VE12b13b	A	2.4	2.3	7.7		
964	16	92Aa-17	92Aa	SD187	SD01	VD13tVE13a	A	3.2	3.2	11.8		
965	17	92Aa-18	92Aa	SD187	SD01	VD13tVE13a	A	2.8	2.4	4.4		
966	18	92Aa-20	92Aa		SD03	VE13b	A	2.8	2.8	9.8		
967	19	92Ab-03	92Ab	SD186	SD09	VD10tVE10a	B	1.9	1.9	2.3		
968	20	93Hb-11	93Hb	ST24	ST01	VE1bc	C	4.9	4.8	25.7		灰釉陶器 底部
969	21	93Hb-17	93Hb	ST24	ST01	VE3a	B	2.9	2.7	14.2		
970	22	93Hb-21	93Hb	ST25	ST02	VD5t	A	2.9	2.6	13.6		
971	23	93Hb-22	93Hb	ST25	ST02	VE5a	A	2.5	1.8	5.9		
972	24	93Ha-09	93Ha	ST26	ST03	VE6a	A	2.3	2.1	6.0		
973	25	93Ha-10	93Ha	ST26	ST03	VE7a	A	2.3	2.3	6.0		
974	26	93G-15	93G	SD210	SD11	VE18d	C	2.2	2.1	8.9		須恵器 胴部
975	27	93G-18	93G	SK297	SK76	VE15b	A	2.8	2.4	9.6		
976	28	93G-24	93G	SK294	SK107		A	2.5	2.2	8.5		
977	29	93G-26	93G	SX23	SX01	VE18a19a	B	1.8	1.7	4.0		
978	30	92E-03	92E		検 I	ND1pq	A	2.5	2.3	7.9		

第98図 加工円盤実測図

調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類	長さ(cm)	短径(cm)	重さ(g)	備考	調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類	長さ(cm)	短径(cm)	重さ(g)	備考
92Ga		検Ⅲ	ⅢE4c5c	A	2.4	1.8	3.9		92Ab		検Ⅲ	ⅢE7a	A	2.8	2.6	9.7	
93Eb		掘り下Ⅱ	ⅢD10q	A	2.4	2.2	9.0		92Ab		検Ⅲ	ⅢE7a	A	2.9	2.4	10.1	
93Eb		掘り下Ⅲ	ⅢD11s	A	2.2	1.9	5.3		92Ca	SD183	SD05	ⅢD13o	A	2.2	2.1	8.6	
93K	SX01	ⅢE8a	A	2.0	1.7	4.2		92Ca		検Ⅰ	ⅢD11p	A	3.2	2.6	11.3		
93F		ⅢD18t	A	3.2	2.7	12.1		92Ca		検Ⅰ	ⅢD13p14p	A	2.6	2.3	10.6		
92E	SK72	ⅢD20nⅣD2n	A	2.3	2.1	6.4		92Ca		検Ⅰ	ⅢD12r13r	A	2.9	2.0	10.2		
92E		検Ⅰ	ⅣD4o	A	2.7	2.4	11.1		92Ca		検Ⅰ	ⅢD13r	A	2.2	2.1	6.3	
92E		検Ⅰ		A	2.8	2.4	9.8		92Ca			ⅢD11q	A	2.6	2.6	8.9	
94Ba		検Ⅰ		A	4.1	3.8	14.3		92Ca			ⅢD11q	A	2.2	1.8	6.7	
94Ba		検Ⅰ		A	2.9	2.6	8.6		92Cb	SD01	SD03	ⅢD1617p	A	2.7	2.2	8.0	
94Ba		検Ⅰ		A	3.8	3.5	11.6		92Cb	SD01	SD03	ⅢD16q17r	A	2.3	1.8	6.1	
94Ba		検Ⅰ		A	4.2	3.6	20.6		92Cb	SD01	SD03	ⅢD16q17r	A	2.6	2.3	8.4	
94Ba		検Ⅰ		A	4.5	4.4	17.1		92Cb	SD01	SD03	ⅢD15r16r	A	2.5	2.3	7.6	
94Ba		検Ⅰ		A	3.9	3.2	20.5		92Cb	SD189	SD11	ⅢD14n15n	A	2.1	1.8	3.5	
94Ba		検Ⅰ		A	3.1	2.3	10.9		95Aa		検Ⅰ	ⅢD20r	A	3.3	2.7	7.8	
94Ba		検Ⅰ		A	4.2	4.0	18.8		95Aa		検Ⅰ	ⅢD20q	A	3.2	2.3	8.0	
94Ba		検Ⅰ		A	4.3	3.9	16.4		95Aa		検Ⅰ	ⅢD1s	A	3.0	2.5	8.9	
94Ba		検Ⅰ		A	3.2	3.1	14.1		93Hb	ST24	ST01	ⅢE20b	A	3.9	3.7	17.3	
94Ba		検Ⅰ		A	1.9	1.6	5.9		93Hb	ST24	ST01	ⅢE20b	A	4.1	3.1	11.7	
94Ba		検Ⅰ		A	2.0	1.8	4.0		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1a	A	2.9	1.9	11.4	
94Ba		検Ⅰ		A	2.2	2.1	5.4		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1a	A	2.3	2.3	9.3	
94Ba		検Ⅰ		A	3.1	2.1	8.4		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1b	A	3.4	2.9	12.8	
94Ba		検Ⅰ		A	2.9	2.9	11.8		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1b	A	2.4	2.4	7.1	
94Ba		検Ⅱ		A	2.6	2.5	10.7		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1b	A	3.0	2.1	11.5	
94Ba		検Ⅱ		A	2.5	2.2	7.2		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1bc	A	3.0	2.6	10.5	
94Ba		検Ⅱ	ⅣD8q	A	2.4	1.7	4.9		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1bc	A	2.9	2.5	11.5	
94Bb	SK140	SK11	ⅤD2s	A	3.7	3.0	14.0		93Hb	ST24	ST01	ⅢE1tⅢE1a	A	3.1	2.5	14.5	
94Bb	SX12	SX02	ⅣD20t	A	3.0	2.9	10.5		93Hb	ST25	ST02	ⅢE5b	A	3.4	2.6	13.2	
94Bb		検Ⅰ		A	3.1	2.7	6.2		93Hb	ST25	ST02	ⅢE4b	A	2.5	2.3	8.5	
94Bb		検Ⅲ	ⅣD6r	A	1.9	1.6	5.5		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE20b	A	3.7	2.9	13.8	
94Bb		表土はぎ		A	4.1	4.0	12.2		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE1a	A	4.1	3.7	16.9	
94Ab	SD18	SD02		A	2.2	2.2	5.7		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE1t	A	2.1	2.1	5.5	
94Ab		検Ⅰ		A	2.7	2.3	9.2		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE5a	A	2.6	2.1	9.4	
93J	SD127	SD02	ⅤD12p	A	2.6	2.2	7.2		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE4a	A	2.2	1.9	6.9	
94Aa		検Ⅰ	ⅤD2q	A	2.7	2.3	7.5		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE20bc	A	2.9	2.6	9.2	
93J	SD01	SD03	ⅤD6pq	A	5.7	3.9	27.9		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE20bc	A	2.4	2.3	7.7	
93J	SD01	SD03	ⅤD4pq	A	4.0	3.7	18.1		93Hb		掘下Ⅰ	ⅢE5bc	A	2.5	2.5	9.0	
93J	SD01	SD03	ⅤD10pq	A	3.9	3.8	12.5		93Hb		中央ベルト	ⅢE2a3a	A	2.5	2.1	7.0	
93J	SD01	SD03	ⅤD4pq	A	3.9	3.3	11.8		93Hb		中央ベルト	ⅢE2a3a	A	2.6	2.3	6.5	
93J	SD01	SD03	ⅤD4pq	A	3.8	2.9	13.0		93Hb		中央ベルト	ⅢE2a3a	A	2.4	2.1	4.7	
93J	ST22	ST02	ⅤD3o	A	2.1	2.0	6.3		93Ha	SD198	SD01	ⅢD6t78t	A	2.6	2.5	10.1	
93J	ST22	ST02	ⅤD3o	A	2.4	2.2	8.1		93Ha	SD198	SD01	ⅢD6t78t	A	3.0	2.8	10.4	
93J	ST22	ST02	ⅤD3o	A	2.6	2.2	8.8		93Ha	SD198	SD01	ⅢD6t78t	A	2.3	2.2	5.6	
92Aa	SB14	SB06	ⅤG15ab	A	3.1	2.6	11.3		93Ha	SD199	SD02	ⅢE12ab	A	2.3	1.7	6.6	
92Aa	SB15	SB07	ⅤG14a15b	A	2.0	1.7	3.3		93Ha	SD199	SD08	ⅢD13s	A	4.8	4.0	20.7	
92Aa	SB15	SB07	ⅤG14a15b	A	2.7	2.2	9.2		93Ha	SD199	SD08	ⅢD13s	A	4.1	4.0	17.6	
92Aa	SB15	SB07	ⅤG14a15b	A	2.7	1.8	8.9		93Ha	SD199	SD08	ⅢD13s	A	2.2	1.8	5.7	
92Aa	SB17	SB08	ⅤE14b	A	5.1	4.2	27.3		93Ha		掘下Ⅰ	ⅢE11d	A	2.6	2.4	7.6	
92Aa	SB18	SB12	ⅤG12a13a	A	2.0	2.0	7.5		93Ha		掘下Ⅰ	ⅢE12s	A	2.2	1.9	5.2	
92Aa	SB34	SB02	ⅤG14b15b	A	2.0	1.8	4.6		93Ha		掘下Ⅰ	ⅢE12s	A	2.5	1.9	6.1	
92Aa	SD187	SD01	ⅤD13tⅤE13a	A	2.9	2.6	11.0		93Ha		掘下Ⅰ	ⅢD5t	A	2.1	2.1	8.5	
92Aa	SD187	SD01	ⅤD13tⅤE13a	A	3.2	2.1	13.2		93Ha		掘下Ⅱ	ⅢE7a	A	2.7	2.7	8.8	
92Aa	SK252	SK09	ⅤE12b13b	A	2.3	1.6	4.7		93Ha		掘下Ⅱ	ⅢD7t	A	2.6	2.3	13.2	
92Aa		SD03	ⅤE13b	A	2.8	2.3	10.8		93Ha		掘下Ⅱ	ⅢD7t	A	2.8	2.6	10.8	
92Aa		SD03	ⅤE13b	A	2.2	1.9	6.2		93Ha		検Ⅱ	ⅢD7t	A	2.7	2.5	8.1	
92Aa		検Ⅰ	ⅤE15b	A	2.5	2.5	9.8		93Ha		表探	ⅢD12tⅢE12a	A	2.8	2.6	12.0	
92Aa		検Ⅰ	ⅤE15b	A	2.5	2.1	6.8		95Ab	SD01	SD01	ⅢD14s	A	3.1	2.5	10.8	
92Aa		検Ⅰ		A	2.8	2.3	9.5		95Ab	SD01	SD01	ⅢD13t	A	2.9	2.3	6.9	
92Aa		検Ⅰ		A	2.8	2.2	5.1		95Ab		検Ⅰ	ⅢD14c	A	3.1	2.7	11.3	
92Aa		検Ⅰ		A	2.4	2.1	6.0		95Ab		検Ⅰ	ⅢD13s	A	5.9	4.3	31.5	
92Aa		検Ⅰ		A	2.7	2.5	8.9		95Ab		検Ⅰ	ⅢD13t	A	2.2	1.9	4.0	
92Aa		検Ⅱ	ⅤE12a13a	A	2.5	2.2	8.4		95Ab		検Ⅰ	ⅢE14a	A	2.9	2.5	10.0	
92Aa		検Ⅱ	ⅤE14a15a	A	2.9	2.3	11.6		95Ab		検Ⅰ	ⅢE14b	A	3.1	2.4	7.6	
92Aa		検Ⅱ	ⅤE14a	A	2.7	2.7	10.8		95Ab		検Ⅰ	ⅢE14c	A	2.2	1.8	6.6	
92Aa		検Ⅱ	ⅤE14b15b	A	2.8	2.5	11.3		95Ab		検Ⅰ	ⅢE14b	A	2.9	2.7	10.4	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD15tⅤE15a	A	2.9	2.4	8.6		95Ab		検Ⅰ	ⅢD14t	A	2.7	2.5	10.3	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD15tⅤE15a	A	2.5	2.3	7.8		95Ab		表土はぎ		A	2.5	2.0	9.1	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD15tⅤE15a	A	3.2	3.0	14.3		95Ab		表土はぎ		A	2.6	2.3	6.4	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD15tⅤE15a	A	2.7	2.6	9.9		95Ab		検Ⅱ	ⅢD14b	A	3.7	2.9	6.2	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	2.0	1.9	7.7		93G	P274	SK43	ⅢD16t	A	2.0	1.8	5.4	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	3.3	2.5	14.2		93G	SD01	SD01下層	ⅢD18s	A	2.6	2.1	9.6	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	2.9	2.7	10.2		93G	SD01	SD01上層	ⅢD17s	A	2.9	2.1	8.6	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	3.1	2.4	11.1		93G	SD01	SD01上層	ⅢD16s	A	3.4	2.7	13.2	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	2.8	2.2	8.5		93G	SD01	SD01上層	ⅢD16s	A	3.2	2.6	11.7	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	2.5	2.0	7.3		93G	SD210	SD11	ⅢE18d	A	5.1	5.1	28.2	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	2.2	2.0	7.2		93G	SD210	SD11	ⅢE18d	A	2.6	2.5	11.0	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	3.1	2.7	8.6		93G	SD214	SD02下層	ⅢE20a	A	2.5	2.4	6.1	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD14tⅤE14a	A	2.7	1.8	6.9		93G	SD214	SD02上層	ⅢE20b	A	5.4	5.3	26.9	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD13tⅤE13a	A	2.7	2.5	11.0		93G	SD214	SD02上層	ⅢD20t	A	2.2	2.2	7.4	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD13tⅤE13a	A	3.1	2.5	12.7		93G	SD214	SD02上層	ⅢD20t	A	2.3	2.2	8.3	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD13tⅤE13a	A	2.6	2.4	9.2		93G	SD214	SD05下層	ⅢE20a	A	2.6	2.4	7.7	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD13tⅤE13a	A	3.1	2.4	9.9		93G	SE08	SE04	ⅢE16d	A	2.7	2.4	10.4	
92Aa		検Ⅱ	ⅤD13tⅤE13a	A	2.3	2.2	5.2		93G	SE08	SE04下層	ⅢE16d	A	2.7	2.2	8.6	
92Ab	SD186	SD09	ⅢE9a10b	A	2.9	2.9	10.9		93G	SE08	SE04上層	ⅢE17d	A	1.9	1.7	4.2	
92Ab	SD186	SD09	ⅢE9a10b	A	3.3	3.1	13.7		93G	SE08	SE04上層	ⅢE16d17d	A	4.4	4.2	16.4	
92Ab	SD186	SD09	ⅢE9a10b	A	3.9	3.2	15.4		93G	SE08	SE04上層	ⅢE16d17d	A	2.8	2.4	8.5	
92Ab	SK232	SK62	ⅢE11a	A	2.2	2.1	7.6		93G	SE09	SE01	ⅢE19c	A	2.1	1.8	5.1	
92Ab		検Ⅰ	ⅢD11tⅢE12a	A	2.6	2.2	5.7		93G	SE10	SE02下層	ⅢE20d	A	3.1	3.1		

調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類	長径(cm)	短径(cm)	重さ(g)	備考	調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類	長径(cm)	短径(cm)	重さ(g)	備考
93G		検I	WE20a	A	2.7	2.0	5.5		92H	SD220	SD45	WE3ab	B	2.0	1.9	2.2	
93G		検I	WE20c	A	2.6	2.5	7.8		92H	SD220	SD45	WE3ab	B	1.9	1.8	2.7	
93G		検I	WE20c	A	2.1	2.1	5.2		92H		検II	WE5c4c	B	2.9	2.5	4.1	
93G		検I	WE20c	A	2.7	1.8	7.9		92H		検III	WE6a6b	B	2.7	2.5	6.4	
93G		検I	WE16b	A	2.7	2.3	8.2		93Eb		掘り下	WD6r	C	3.2	3.2	16.6	施軸陶器 胴部
93G		検I	WE15b15c	A	2.7	2.2	8.2		93Eb		掘り下		C	2.2	2.0	5.0	施軸陶器 胴部
93G		検I	WE15b15c	A	2.9	2.6	4.9		93Eb		掘り下		C	2.3	2.2	7.1	常滑 胴部
93G		検I	WE19c	A	2.2	2.1	6.6		93Eb		掘り下		C	2.3	1.8	5.9	近世磁器 底部
93G		検I		A	2.8	2.6	11.6		92E		検I	WD20p	C	2.4	1.9	7.9	白磁 底部
93G		検I	WE17d	A	1.7	1.6	5.1		94Bb		検I	VD7t	C	3.0	2.6	7.5	灰軸陶器 底部
93G		検I	WE18c	A	4.3	4.3	22.7		94Bb		表土はき		C	4.3	2.7	14.0	灰軸陶器 底部
93G		西壁T		A	4.8	4.6	29.5		94Ab		検I		C	2.7	2.7	7.9	須恵器 胴部
93G		表採		A	4.8	3.5	17.2		93I	SD158	SD05	WD4o	C	1.9	1.9	5.8	灰軸陶器
93G		表採		A	4.8	4.0	21.0		93I		検出	WD4op5op	C	3.1	2.2	8.9	灰軸陶器 底部
92H	SD02	SD43	WE6c7c	A	2.1	1.7	6.9		92Aa		検I	VD13t	C	3.0	2.7	9.3	須恵器 胴部
92H	SD02	SD43	WE6c7c	A	2.2	1.9	6.6		92Aa		検I		C	2.6	2.6	11.1	須恵器 胴部
92H	SD02	SD43	WE7cd	A	2.6	2.4	8.1		92Aa		検II	WE14b15b	C	2.6	2.2	7.3	須恵器 胴部
92H	SD02	SD43	WE7a8a	A	2.6	2.2	10.6		92Aa		検II	VD14tWE14a	C	2.6	2.4	4.2	須恵器 胴部
92H	SD220	SD45	WE3ab	A	3.0	2.4	9.0		92Aa		検II	VD14tWE14a	C	2.2	1.9	4.4	須恵器 胴部
92H	SD220	SD45	WD3t	A	4.4	4.3	25.5		92Ab		検II	WE7a	C	3.8	2.9	8.8	須恵器 胴部
92H	SD220	SD45	WD3t	A	5.2	4.1	38.1		92Ab		検II	WE10a10b	C	2.5	2.5	3.6	灰軸陶器 胴部
92H	SD220	SD45	WD3t	A	5.2	4.0	27.5		92Ca		検I	VD13r	C	4.0	3.4	17.8	灰軸陶器 胴部
92H	SD226	SD40	WE7ef	A	2.4	2.3	10.8		92Ca		検I	VD11r	C	2.4	2.3	4.3	須恵器 胴部
92H	SD226	SD40	WE8ab	A	2.5	2.5	7.6		92Ca		検I	VD11r	C	3.0	2.2	4.0	須恵器 胴部
92H	SD226	SD40	WE57f	A	3.0	2.2	10.7		92Ca		表土		C	2.5	2.4	10.1	近世?
92H		SD46	WE7f	A	2.4	2.1	6.0		92Cb	SD01	SD03	WD1516q	C	2.6	2.4	7.4	灰軸陶器 底部
92H		検II	WE5c4c	A	3.0	2.6	6.9		92Cb	SD01	SD03	WD16q17r	C	2.3	1.9	11.6	須恵器 胴部
93Ea		検I	WD13o	B	4.7	3.8	11.8		95Aa		検I	VD20q	C	2.9	2.4	10.4	須恵器 底部
92E		検I	VD4o	B	1.9	1.4	3.8		95Aa		検I	WD3r	C	2.6	2.3	6.7	
94Ba		検I		B	2.1	1.5	2.4		95Aa		検I	WD4r	C	2.4	2.0	4.9	施軸陶器 胴部
94Ba		検I		B	2.8	2.6	4.3		95Aa		検I	VD20p	C	3.2	3.1	12.9	施軸陶器 胴部
94Ba		検I		B	2.0	2.0	2.9		95Aa		検I	WD1p	C	3.5	3.1	7.6	須恵器 胴部
94Bb	SK140	SK11	VD2s	B	2.2	2.1	5.4		95Aa		検I	VD20s	C	2.3	2.2	7.6	須恵器 胴部
94Ab		検I		B	2.6	2.0	6.0		95Aa		検II	WD1s	C	2.9	2.6	9.5	須恵器 胴部
92Aa	SD187	SD01	VD13tWE13a	B	2.5	2.2	4.1		93Hb	SD239	SD06上層	WE1b	C	4.1	2.9	9.7	須恵器 胴部
92Aa		検I		B	2.8	2.1	4.0		93Hb	SD239	SD06上層	WE1b	C	3.8	3.0	13.2	須恵器 胴部
92Aa		検II	VD15tWE15a	B	2.6	2.0	9.2		93Hb	SD239	SD06上層	WE1b	C	2.5	2.5	4.1	須恵器 胴部
92Ab	SB21	SB09	WE12b	B	2.2	1.8	2.8		93Hb	ST24	ST01	WE1bc	C	2.8	2.4	4.4	須恵器 胴部
92Ab		検II	VD10tWE10a	B	2.9	2.9	5.6		93Hb	ST24	ST01	WE1bc	C	2.9	2.9	4.3	須恵器 胴部
92Ab		検II	WE12ab	B	2.2	1.9	6.4		93Hb	ST24	ST01	WE2a	C	3.0	2.5	3.5	灰軸陶器 胴部
92Ca		検I	VD12r	B	3.3	3.1	7.2		93Hb		掘り下		C	5.6	5.0	50.0	常滑?
92Ca		検I	VD12p	B	2.6	2.6	9.5		93Hb		掘り下	WE20b	C	3.5	2.7	6.5	須恵器 胴部
92Cb	SD183	SD05	VD16n17n	B	2.2	2.0	5.9		93Hb		掘り下	WE20b	C	3.7	3.8	8.3	灰軸陶器 底部
95Aa		検I	WD1r	B	2.2	2.2	4.8		93Hb		掘り下	WE1t	C	2.7	2.1	10.0	灰軸陶器 底部
93Hb		掘り下	WE1t	B	2.5	2.3	4.1		93Hb		掘り下	WE1t	C	2.5	2.4	6.1	須恵器 底部
93Hb		中央ベルト	WE2a3a	B	2.4	2.1	3.6		93Hb		掘り下	WE2bc	C	1.4	1.4	2.3	須恵器 胴部
93Ha	SD203	SD08	WD13s	B	2.4	2.4	4.5		93Hb		掘り下	WE5bc	C	4.4	4.1	23.6	施軸陶器 胴部
93Ha	ST26	ST03	WD6t	B	2.2	3.0	4.2		93Ha	ST26	ST03	WD6t	C	3.8	2.6	23.8	灰軸陶器 底部
93Ha	ST26	ST03	WD6t	B	3.0	2.9	5.3		93Ha		掘り下	WE11s	C	3.3	2.6	6.2	須恵器 胴部
93Ha		掘り下	WE10c	B	4.5	4.1	21.2		95Ab		検I	WD14c	C	2.5	2.1	7.7	須恵器 胴部
93Ha		掘り下	WE12c	B	2.6	2.2	3.1		95Ab		検I	WD14c	C	4.2	3.8	9.4	灰軸陶器 胴部
93Ha		検I	WD7tWE7a	B	2.4	2.1	3.9		93G	SD214	SD05上層	WE20e	C	3.9	3.5	21.1	須恵器 胴部
93Ha		西壁T		B	3.7	3.1	8.4		93G	SE10	SE02下層	WE20d	C	3.1	2.9	11.2	灰軸陶器 底部
95Ab	SX22	SX01	WD14c	B	2.4	2.3	4.3		93G		検I	WE20a	C	4.0	3.0	16.4	常滑 胴部
93G	SD01	SD01下層	WD19s	B	1.8	1.6	2.2		93G		検I	WE20a	C	2.0	1.8	3.1	灰軸陶器 胴部
93G	SD01	SD01上層	WD19s	B	2.4	2.2	4.6		93G		検I	WE18d	C	2.3	2.1	8.2	灰軸陶器 底部
93G	SE08	SE04下層	WE16d	B	2.1	1.9	2.2		92H	SD02	SD43	WE6c7c	C	2.7	2.5	11.3	灰軸陶器 底部
93G	SK294	SK107	WE15c	B	2.0	1.4	1.9		92H	SD02	SD43	WE6c7c	C	2.5	2.3	7.1	灰軸陶器 底部
93G		検I	WE20a	B	2.0	1.8	1.1		92H		土坑	WD2t	C	2.5	2.4	4.3	灰軸陶器 胴部
93G		検I	WD16s	B	3.0	2.2	3.9		92Aa	SB14	SB06	VD14tWE14a	C	2.3	1.9	5.6	白磁碗 底部
93G		表採		B	3.7	2.5	6.7		95Aa		検I	WD3q	C	2.9	2.8	11.0	青磁碗 胴部

第17表 その他の加工円盤一覧表(2)



第99図 加工円盤法量図

7. 石製品（第100図～103図、図版19）

打製石鏃（第100図1～20）

石鏃は未成品と思われるものも含めて39点確認できる。形態分類すると、凹基有茎鏃9点、平基で基部が舌状になるもの13点、茎部が舌状になるもの10点、凹基鏃が2点となる。石材は安山岩（下呂石）27点、チャート12点。包含層中からの出土であるが弥生時代の石鏃と思われる。

石錐（第100図21・22）

21の石材は安山岩（下呂石）で錐部に使用痕が観察できる。22は棒状の形態で石材はチャート。

磨製石鏃（第100図23）

無茎で五角形にちかい形態をしている。石材は頁岩。

粗製剥片石器（第101図24・25）

24は砂岩の剥片を自然面を残したままほとんど調整を加えず石器とするもの。25は明確に使用痕を確認できないが刃部らしき調整をもつ。

凹石・敲石・磨石（第101図26～30）

26・27・28は円礫の平坦面・側面にアバタ状にくぼむ敲打痕がある。28は側面に明瞭な擦痕が確認できる。29・30は棒状の礫の先端部に敲打痕があるもの。

紡錘車（第101図31）

円盤状で中心部に穿孔される。石材は凝灰岩。

有孔円盤（第101図32）

石材は絹雲母片岩。92Aa区 S K 364から出土した。

管玉（第101図33）

長さ2.1cm、幅0.7cm、孔径は0.3cmと0.1cm。石材は安山岩質凝灰岩。

砥石（第102図34～40）

砥石は出土した石製品の中で最も多く80点を数える。石材によって分類されるが39はシルト岩、40は頁岩製で仕上げ砥と思われる。34・35は S D 0 3（墳墓堂区画溝）から出土した。

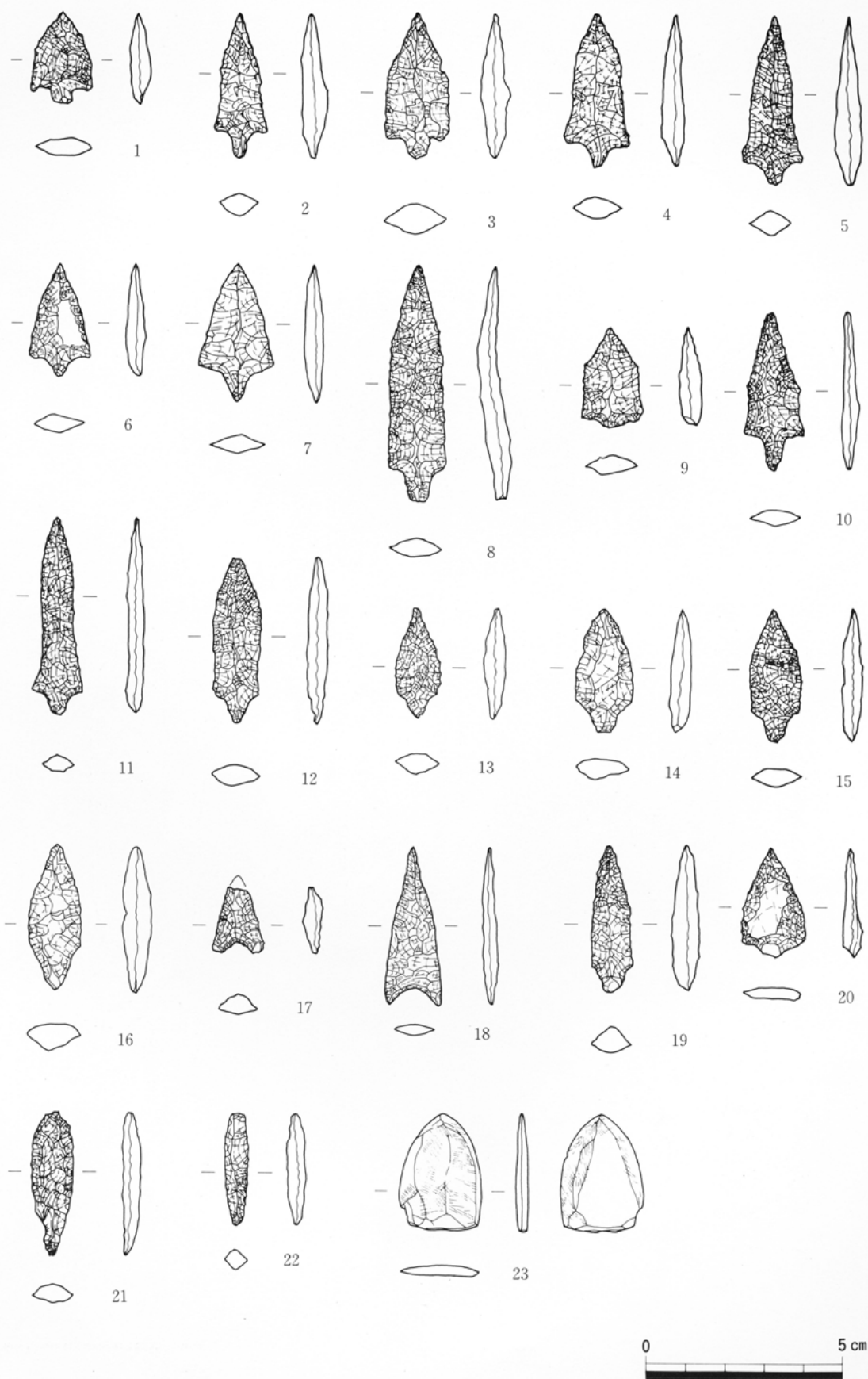
硯（第102図41・42）

41は含絹雲母片岩製で両面を硯面としている。

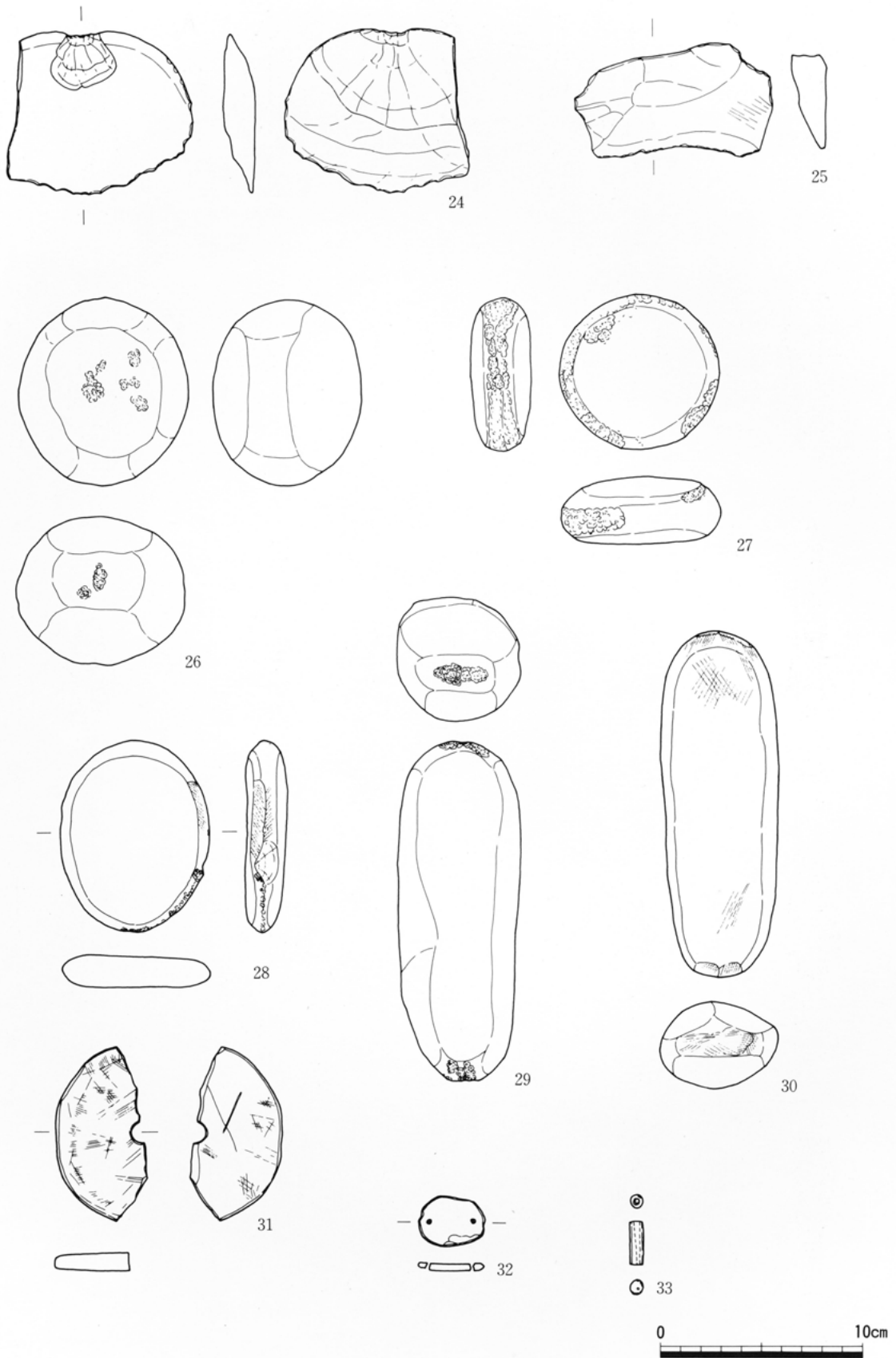
五輪塔（第103図43～46）

43は95B区 S D 43から出土した水輪。44は火輪、45・46は水輪で 94Ab区 S D 1 1 8 から出土し、この溝からは他に空風輪、地輪も出土している。石材はすべて花崗岩。

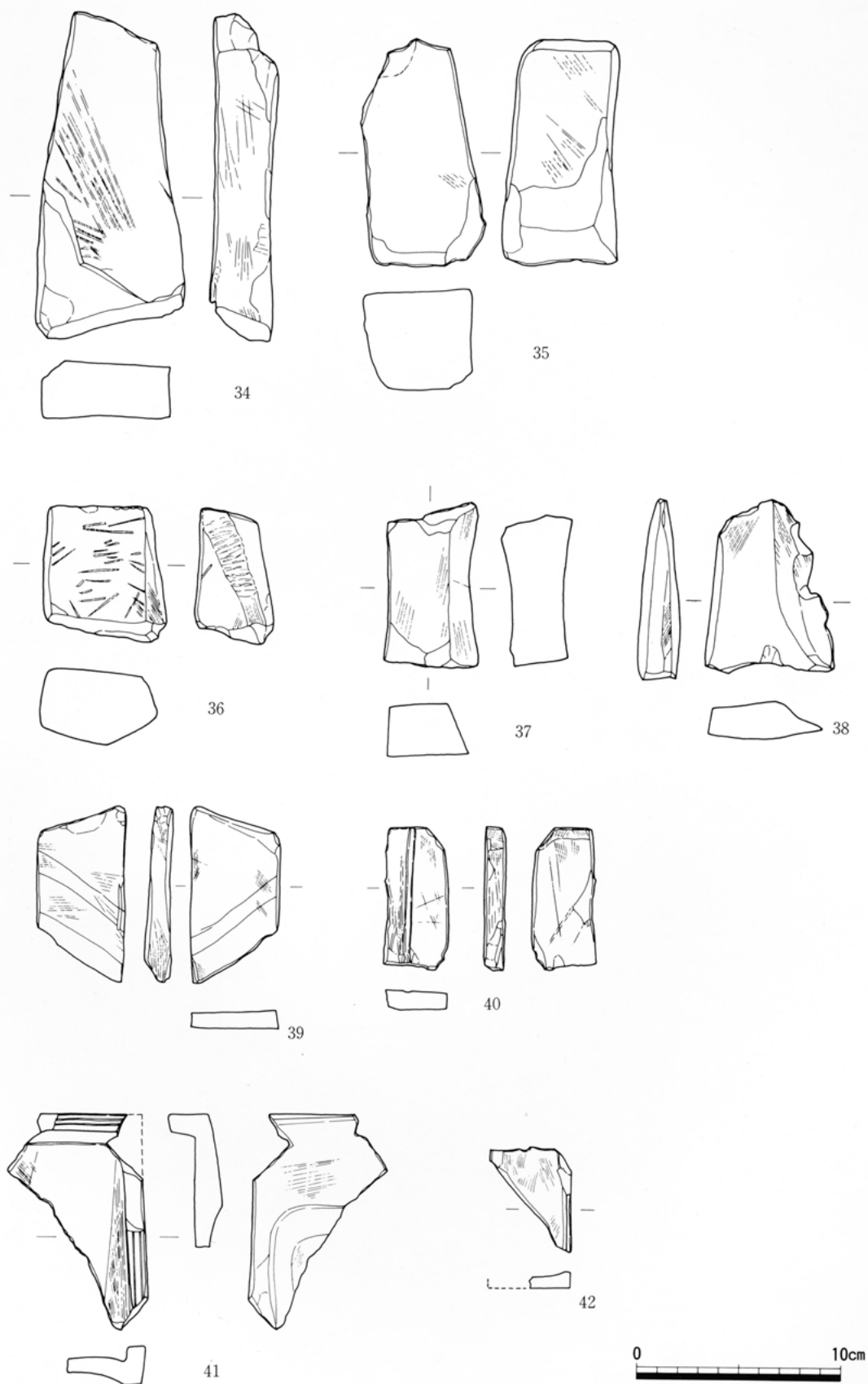
なお、石鏃の形態分類は『朝日遺跡Ⅳ』（財）愛知県埋蔵文化財センター1993を参考にし、石材の鑑定は堀木真美子・鬼頭剛が行った。



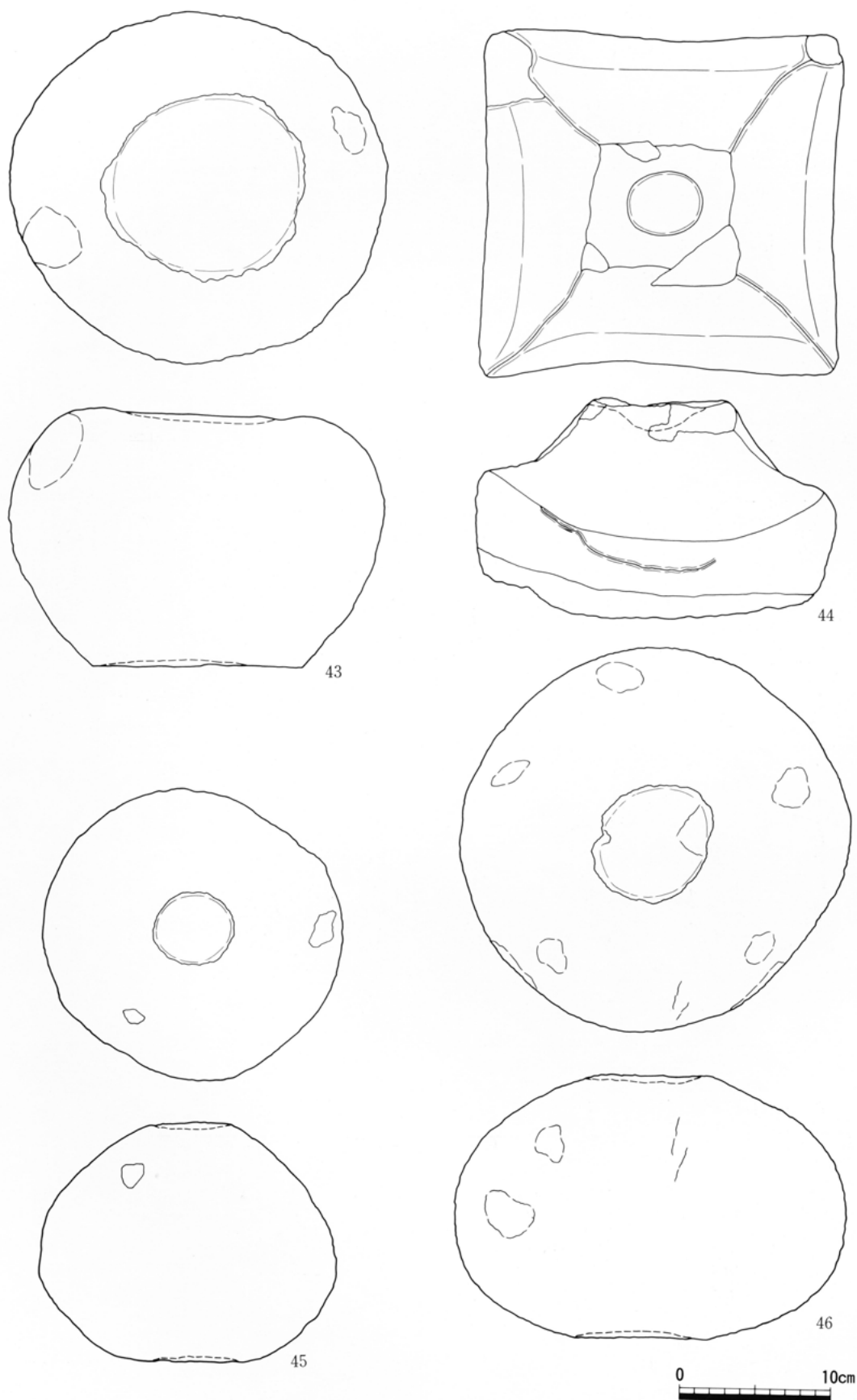
第100図 石製品実測図(1): 石鏃



第101図 石製品実測図(2): 剥片石器、敲石、磨石、紡錘車、有孔円盤



第102図 石製品実測図(3):砥石



第103図 石製品実測図（4）：五輪塔

番号	種類	調査区	遺構番号	グリッド	旧遺構	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
1	打製石鏃	93Ea		Ⅲ D15p	検Ⅰ	2.3	1.6	0.4	1.7	チャート
2	打製石鏃	92F		Ⅱ D17r	SD56	3.6	1.4	0.6	2.4	チャート
3	打製石鏃	93K	SD87	Ⅲ D15t16t	SD23	3.6	1.7	0.7	3.5	チャート
4	打製石鏃	93Eb		Ⅲ D7t	掘り下Ⅰ	3.8	1.7	0.5	2.9	安山岩(下呂石)
5	打製石鏃	93Eb		Ⅲ D7t	検Ⅲ	4.3	1.5	0.6	3.2	チャート
6	打製石鏃	93Eb		Ⅲ D8p	検Ⅲ	2.9	1.6	0.4	1.6	チャート
7	打製石鏃	92F		Ⅱ D15r	検Ⅲ	3.5	1.9	0.5	2.3	安山岩(下呂石)
8	打製石鏃	94Ba		Ⅳ D17o		5.9	1.3	0.5	4.5	安山岩(下呂石)
9	打製石鏃	93Eb		Ⅲ D6r	検Ⅲ	(2.5)	1.5	0.5	(1.7)	安山岩(下呂石)
10	打製石鏃	93J			大トレンチ	4.0	1.6	0.4	1.7	安山岩(下呂石)
11	打製石鏃	93Hb		Ⅴ E20b	掘り下Ⅱ	4.9	1.3	0.4	2.0	安山岩(下呂石)
12	打製石鏃	92Ga		Ⅲ E12b	検Ⅱ	(4.2)	1.3	0.5	(2.6)	チャート
13	打製石鏃	92H	SD225	Ⅴ E3f	SD42	2.8	1.2	0.5	1.3	安山岩(下呂石)
14	打製石鏃	95B		Ⅱ E3f	検Ⅰ	3.1	1.5	0.5	2.2	安山岩(下呂石)
15	打製石鏃	93Eb		Ⅲ D11s	掘り下Ⅰ	3.3	1.2	0.5	2.1	チャート
16	打製石鏃	95B	SX01	Ⅱ E11c	SX01-21	3.7	1.4	0.7	2.8	安山岩(下呂石)
17	打製石鏃	95B		Ⅱ E8c	検Ⅰ	(1.6)	1.4	0.5	(0.8)	安山岩(下呂石)
18	打製石鏃	92Ga		Ⅲ E2c	検Ⅱ	4.0	1.4	0.3	1.5	安山岩(下呂石)
19	打製石鏃	93Eb		Ⅲ D10s	掘り下Ⅱ	3.7	1.1	0.7	2.6	チャート
20	打製石鏃	92E	ST02	Ⅲ D15p	SK75	2.7	1.6	0.3	1.7	チャート
21	石錐	93Hb		Ⅴ E5c	掘り下Ⅲ	3.6	1.1	0.4	1.6	安山岩(下呂石)
22	石錐	93Eb			壁面	2.7	0.6	0.5	0.9	チャート
23	磨製石鏃	92Ga	SD16	Ⅱ E20c	SD25	3.0	2.1	0.3	2.2	頁岩
24	粗製剥片石器	95Aa	SD192	Ⅴ D1o	SD02	8.1	8.7	1.6	139.8	砂岩
25	粗製剥片石器	92Aa		Ⅴ D15t	SK40	9.7	5.1	1.7	81.0	雲母片岩
26	凹石	92H		Ⅴ E3c4c	SD48	9.4	8.5	7.3	779.6	ヒン岩
27	すり石	95Aa	SD192	Ⅴ D1o	SD02	8.0	7.7	3.3	295.2	砂岩
28	すり石	92H	SD02	Ⅴ E8f	SD43-38	9.5	7.6	1.6	199.2	砂岩
29	たたき石	93G	SD214	Ⅴ E20b	SD02上層	17.0	6.0	6.1	901.2	濃飛流紋岩
30	たたき石	93G	SD214		SD05	17.2	5.8	4.3	606.5	泥質片岩
31	紡錘車	93G	SB07	Ⅴ E15b15c	SB02	(8.6)	(4.4)	0.9	47.5	凝灰岩
32	有孔円板	92Aa	SK364	Ⅴ G16b	SK114	3.3	2.5	0.4	5.7	絹雲母片岩
33	管玉	93I	SD01	Ⅴ D7q	SD03	2.1	0.7	0.7	1.8	安山岩質凝灰岩
34	砥石	92Gb	SD03		SD26	(15.8)	(5.4)	2.8	475.7	頁岩
35	砥石	92Gb	SD03	Ⅱ E15d	SD26	(11.1)	(5.6)	4.8	484.3	流紋岩
36	砥石	95Aa	SD192		SD02	(6.2)	(6.0)	3.5	235.7	砂岩
37	砥石	93Hb	SD240		SD05	(7.5)	(4.4)	2.5	170.0	珪質頁岩
38	砥石	93Hb	SD240		SD05	(8.0)	(6.2)	1.7	97.1	凝灰岩質砂岩
39	砥石	93Ha	SD199	Ⅴ E12c	SD02	(8.6)	(4.3)	0.9	51.4	シルト岩
40	砥石	92H		Ⅴ E4d	検Ⅱ	(6.7)	(3.1)	0.9	38.4	頁岩
41	硯	92H	SD02	Ⅴ E7f	SD43	(10.5)	(6.6)	1.9	126.1	含絹雲母片岩
42	硯	93G	SE10	Ⅴ E20c	SE02	(5.0)	(4.0)	0.8	15.1	粘板岩
43	五輪塔水輪	95B	SD34	Ⅱ E9d	SD03	24.5	23.1	16.9		花崗岩
44	五輪塔火輪	94Ab	SD118		SD02-1	22.8	22.2	14.1		花崗岩
45	五輪塔水輪	94Ab	SD118		SD02-4	19.7	19.1	15.8		花崗岩
46	五輪塔水輪	94Ab	SD118		SD02-9	25.6	25.4	17.2		花崗岩

第18表 石製品一覧表

8. 金属製品（第104図1～14. 図版18）

金属関係の出土総点数は230点、内訳は金属製品が22点、鉄宰類が208点である。金属製品の出土が少なく、鉄宰の類の出土が多い。なお鉄宰類の分析は第4章、第5節に掲載している。

多孔銅鏃（1） 弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものでSD101より出土。94Ba区旧SD01。石鏃とともに北道手遺跡との関連が考えられる。

角釘（2、3） 先端の曲がったものも出土。

煙管（4～7） 江戸時代のもので雁頸部分と睡口部分が出土。

和鏡（8） 薄手の草花文鏡で平安時代か。

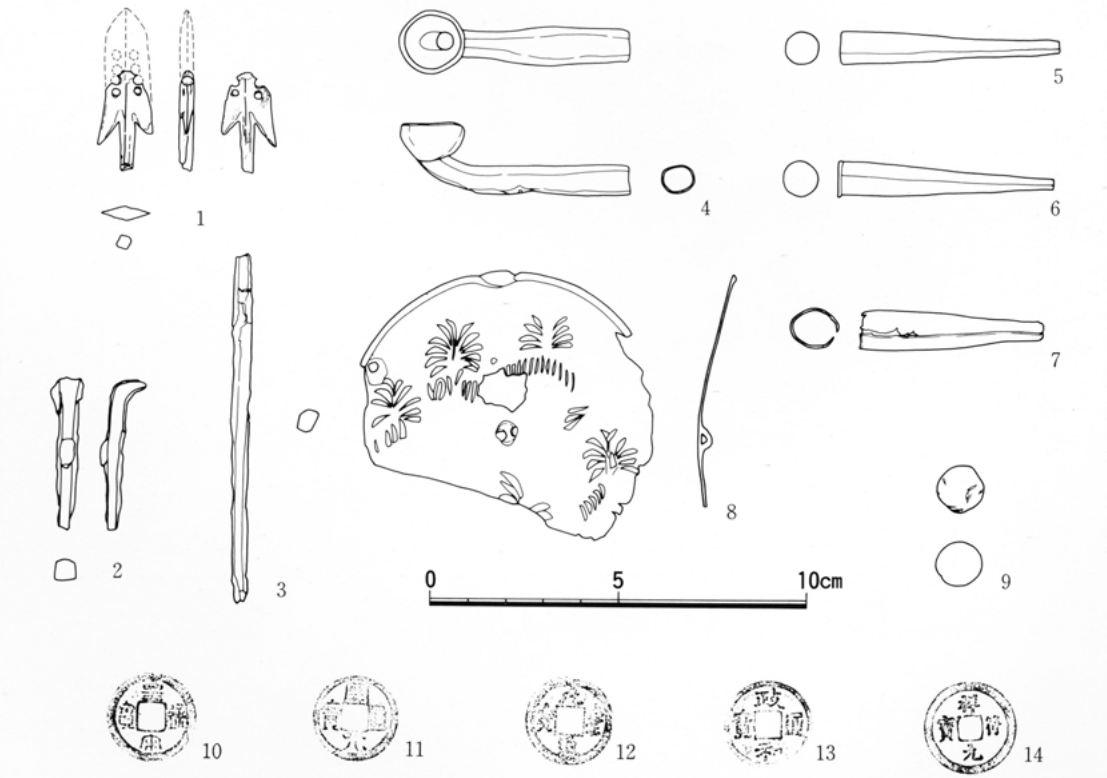
古銭（10～14） 銭貨は総計18点出土しており、皇朝十二銭の一つである「富壽神寶」がSK251、92Aa区旧SK03より出土している。他は全て渡来銭。

富壽神寶（818年初鑄） 1点。 皇宋通寶（1039年初鑄） 2点。

開元通寶（621年初鑄） 2点。 元豊通寶（1078年初鑄） 1点。

祥符元寶（1008年初鑄） 1点。 政和通寶（1111年初鑄） 1点。

不明 9点



番号	種別	遺構番号	調査区	旧遺構番号	全長(cm)	番号	種別	遺構番号	調査区	旧遺構番号	全長(cm)
1	多孔銅鏃	SD101	94Ba	SD01	現2.6	6	煙管	掘り下Ⅰ	93Hb	ⅦE4cb	5.7
2	角釘	検Ⅲ	92Da	ⅦF1qr	4.0	7	煙管	検Ⅰ	95Aa	ⅦD1r	4.8
3	角釘	SB15	92Aa	SB07	9.2	8	和鏡	検Ⅰ	93J		8.0
4	煙管	検Ⅰ	92H		6.1	9	鉛玉	SD226	92H	SD40	1.2
5	煙管	検Ⅰ	95Aa	ⅦD3q	5.8						

第104図 金属製品実測図

登録番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	グリッド	種類	備考	処理番号	番号
10	93Hb	ST24	ST01	ⅥE20c	皇宋通寶			
11	94Ab		検Ⅰ		開元通寶			
12	94Ba		検Ⅰ		元豐通寶		94-3280C	
13	94Ba		検Ⅱ	ⅣD18n	政和通寶		94-3281C	
14	94Ba		検Ⅰ		祥元符寶		94-3279C	
	93F		掘り下	ⅣD2s	皇宋通寶			1
	93F		掘り下	ⅢE15a	開元通寶		94-3799C	2
	93J	SD01	SD26	ⅤD13q	不明		94-3800C	7
	93J		検Ⅰ		不明		94-3797C	8
	94Aa		検Ⅰ		不明			9
	92Aa	SK251	SK03	ⅥG15b	富寿神寶	3点出土	92-670C	10
	92Ca		検Ⅰ	ⅥF12q	寛永通寶			11
	93Hb	ST25	ST02	ⅥE5b	不明			13
	93G	SE11	SE03	ⅧE1d	不明			14
	93G	SX23	SX01	ⅥE18.19a	不明	3枚融着している		15
	93G	SD01	SD01	ⅥD17s	不明		93-194C	16

第19表 銭貨一覧表

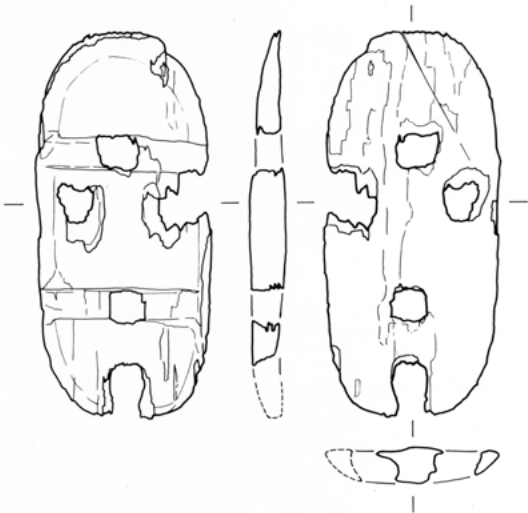
9. 木製品（第105図、図版18）

木製品は少なく下駄、漆塗り椀、箸などが出土しているが、図示できたのは連齒下駄のみである。

墳墓堂遺構の周溝の西溝で93K区旧SD03ⅡE13bより出土。

溝の底より一足の2点が近接し、いずれも上面を上とした正位状態で出土した。

その内の1点で全長20cm、幅9.2cmを測る。



第105図 下駄実測図 1：4

10. 陶丸

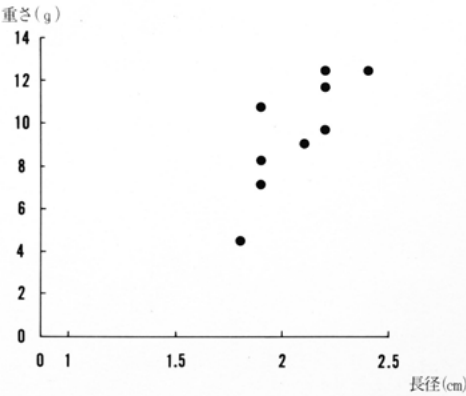
図示しなかったが9点出土している。

ほぼ球形で長径が1.8cmから2cmまでのもの4点と、長径が2.1cmから2.4cmのものの5点が出土している。

重さは一歩軽いもので4.5gが1点、一番重いもので12.5gが2点ある。

調査区	遺構番号	旧遺構番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	重さ(g)	番号
92F		検Ⅰ	ⅢD2q	1.9	1.9	7.2	1
93K	SD03	SD03	ⅡE17ab	2.1	1.9	9.1	2
93K		ST02	ⅢD15s	2.2	2.2	12.5	3
92E		検Ⅰ	ⅣD4n	2.4	2.4	12.5	4
92E		検Ⅰ	ⅢD20n	1.9	1.9	8.3	5
92Da		検Ⅲ	ⅤF19s	2.2	1.9	11.7	6
94Aa	SE05	SE01	ⅥD2p	2.2	1.9	9.7	7
93G		検Ⅰ		1.8	1.7	4.5	8
93G		検Ⅰ	ⅥE20c	1.9	1.9	10.8	9

第20表 陶丸一覧表



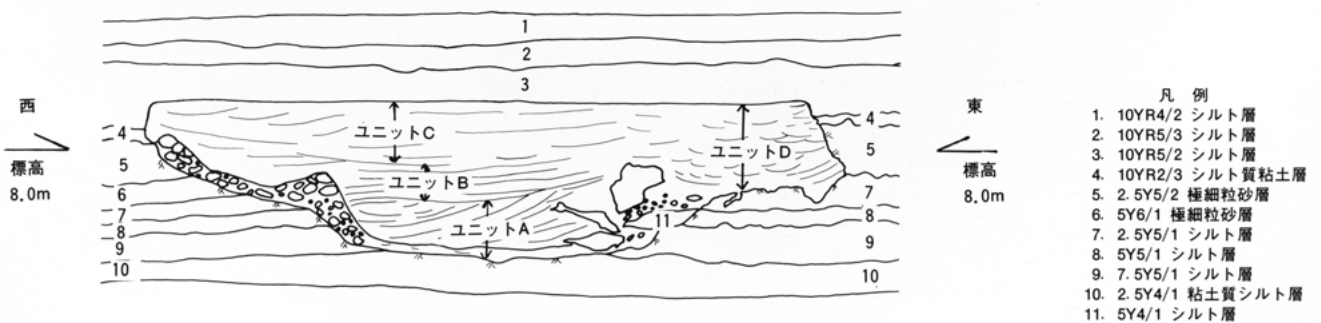
第106図 陶丸法量図

第4章 自然科学

第1節 大溝の堆積

田所遺跡では幅およそ8～10mの南北方向に延びる中世（鎌倉時代）の溝が検出されている。大溝を埋積する堆積物は基質に泥やシルトなどをほとんど含まない粗粒～細粒砂からなる。大溝の埋積過程を93I区の断面図をもとに堆積学的見地から検討を加えたい。

93I区では幅およそ4m、深さおよそ1mのチャンネル（溝を含めた流路一般を堆積学的にはチャンネル（channel）と呼ぶ。以下ではチャンネルを用いる）が検出された（第107図）。ほぼ水平に堆積するシルトや粘土質シルト層とは明瞭な境界面をもって接する。チャンネルの基底面には、径10cmほどの粘土やシルトの偽礫状を呈するブロックがみられる。埋積する砂は一様ではなく、4つのユニット（A～D）からなる。Aのユニットでは細粒～中粒砂からなり、平板状（tabular）の斜交層理が認められる。Bのユニットは細礫～粗粒砂からなる低角の平板状斜交層理がみられる。Cのユニットでも平板状斜交層理がみられるものの、砂の粒径は細粒～中粒とBのユニットよりも細かい。Dのユニットでは1セットが3～4cmの明瞭なトラフ斜交層理が確認される。また、トラフ状斜交層理は下位から上位へ規模が小さくなる。チャンネルの基底でみられる偽礫は、田所地域の沖積氾濫原上に新たにチャンネルができ、その初期の浸食マテリアルと推定できる。したがって、偽礫層はチャンネルのできる初期に形成されたラグ堆積物（channel lag deposits）とみなせる。一般に、平板状斜交層理よりもトラフ斜交層理のほうが高流速のもとで発生する。このことからA～Cの砂層よりもDの砂層の堆積時のほうが、流速が速かったことがわかる。また、攻撃斜面（チャンネルの外側）にあたる基盤（平行に堆積するシルトなど）があまり削られていないことから、チャンネルは形成されてからほとんど側方に移動しなかったことを示す。人為的に流量等を規制されていたのかもしれない。ユニットDで、トラフ斜交層理の規模が下位から上位へ小さくなったのは、チャンネルの埋積が進んで急激に浅くなったことを示唆する。ユニットDの砂層形成時には複数のチャンネルをもっていたと推定される。



第2節 放射性炭素年代

93J区および94Ab区・94Ba区の遺構面より下位の堆積層序は、細礫混じりの粗粒～極粗粒砂層（1層）を基底として上位に緑～緑灰色腐植質粘土層（2層）、黒色～黒褐色腐植質粘土層（3層）、褐色シルト層（4層）の4つのユニットからなる。このうち褐色シルト層が主な遺物包含層となっている。93J区では2層上部あるいは3層下部付近より材片の集積がみられた。94Ab区および94Ba区でも、1層および2層中で木材を得ている。堆積物の形成年代を確認するため放射性炭素年代（ ^{14}C 年代）測定をおこなった。試料を採取した調査区および結果を第21表に示す。なお、測定はパリノ・サーヴェイ株式会社を通じて、学習院大学放射性炭素年代測定室に依頼した。

93J区の年代値は3320y. B. P. ～2340y. B. P. の範囲で3320～2940y. B. P. と3320y. B. P. ～2340y. B. P. と大きく2つの範囲に分かれることから、2層と3層の時期差が混在していると思われる。94Ab区、試料番号12の材が出土した同一層準からは縄文時代晩期の土器が出土している。材片は2660y. B. P. を示し、土器から推定される年代値とも調和的である。試料番号13～15は、細礫混じりの粗粒砂層中に埋積されていた木材である。年代値は3300y. B. P. ～3010y. B. P. であり近似している。

試料 番号	調査区	堆積物	標高 (m)	試料	Code No.	測定結果
1	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18028	2590±90 y.B.P. (640 B.C.)
2	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18029	2360±90 y.B.P. (410 B.C.)
3	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18030	2630±90 y.B.P. (680 B.C.)
4	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18031	2940±100 y.B.P. (990 B.C.)
5	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18032	3270±100 y.B.P. (1320 B.C.)
6	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18033	3320±100 y.B.P. (1370 B.C.)
7	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18034	2970±80 y.B.P. (1020 B.C.)
8	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18035	2540±100 y.B.P. (590 B.C.)
9	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18036	2340±100 y.B.P. (390 B.C.)
10	93J	緑灰色腐植質粘土層上部, 黒色腐植質粘土層下部	7.6	材	Gak-18037	2360±90 y.B.P. (410 B.C.)
11	94Ab	緑灰色腐植質粘土層中	7.4	材	Gak-18831	3120±90 y.B.P. (1170 B.C.)
12	94Ab	緑灰色腐植質粘土層中	7.4	材	Gak-18832	2660±90 y.B.P. (710 B.C.)
13	94Ab	細礫混じり粗粒砂層中	6.5	材	Gak-18833	3300±90 y.B.P. (1350 B.C.)
14	94Ba	細礫混じり粗粒砂層中	7.8	材	Gak-18834	3100±100 y.B.P. (1150 B.C.)
15	94Ba	細礫混じり粗粒砂層中	7.9	材	Gak-18835	3010±80 y.B.P. (1060 B.C.)

第21表 放射性炭素年代測定結果表

第3節 花粉・珪藻・プラント・オパールからみた古環境

本章では花粉・珪藻・プラント・オパール微化石分析を通して、田所遺跡の当時の自然環境について考察を加えたいと思う。田所遺跡で採取した分析試料は、墳墓堂の周溝より採取したもの（92Gb区）と、大溝の検出されている調査区より採取したもの（94Ab区）がある。詳細を第22表に示す。各分析方法について以下に述べる。なお、94Ab区より採取した試料の分析はパリノ・サーヴェイ株式会社をお願いした。

珪藻分析 試料の分析にあたって、乾燥重量1gをトールピーカーにとり過酸化水素水（35％）を加えて煮沸し、有機物の分解と粒子の分散をおこなった。岩片除去ののち、水洗を4～5回繰り返しながら同時に比重選別をおこなった。分離した試料を希釈し、マウント・メディア（和光純薬製）にて封入した。検鏡は1000倍の光学顕微鏡を使用し、各試料とも200個の珪藻殻を同定した。同定に際し、Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.（1986・1988・1991a・1991b）を参考にした。

花粉分析 湿重約10gの試料について、HF処理、重液分離（ZnBr₂：比重2.2）、アセトリシス処理、KOH処理の順に物理・化学処理を施し、花粉・孢子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入しプレパラートを作成した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら出現する種類（Taxa）の同定・計数をおこなう。また、イネ科花粉については、ノマルスキー微分干渉装置を使用し表面模様の観察をおこない、発芽装置の形態・大きさなどを考慮しながら栽培植物のイネ属と他のイネ科に同定区分する。結果は、同定・計数結果の一覧表として示す。

植物珪酸体 湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W、250Khz、分間）、沈底法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理をおこない、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を近藤・佐藤（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

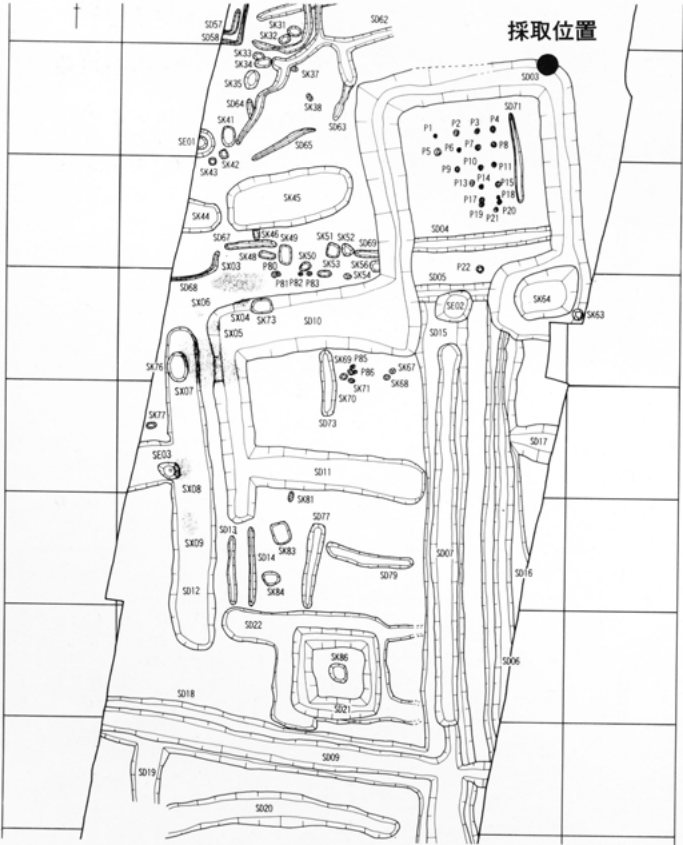
調査区	試料採取場所	主な遺構（遺物）	分析対象	分析目的	試料数	時期
92Gb区	墳墓堂を区画する溝（SD27）	墳墓堂	珪藻	溝内の古環境	18	鎌倉時代
	墳墓堂を区画する溝（SD27）	墳墓堂	花粉	溝周辺の古植生	16	鎌倉時代
94Ab区	調査区北側トレンチ	大溝	珪藻	流水環境	13	古代～中世
	調査区北側トレンチ	大溝	花粉	古植生	13	古代～中世
	調査区北側トレンチ	大溝	植物珪酸体	古植生および稲作状況	13	古代～中世

第22表 試料採取場所および分析対象

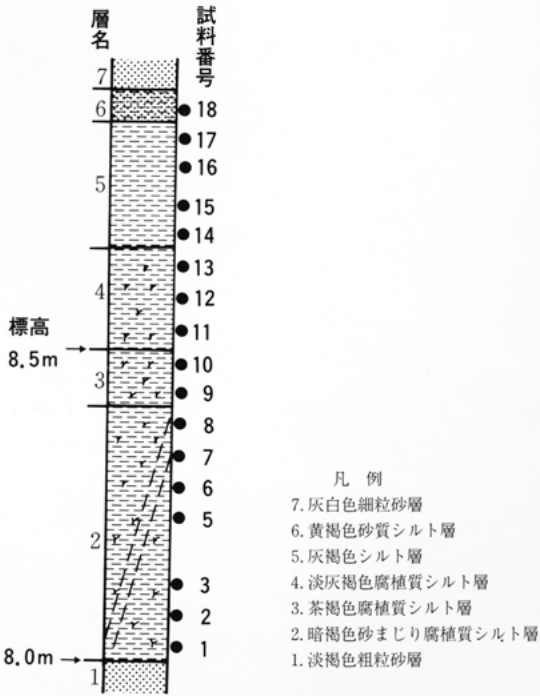
墳墓堂周溝 92Gb区では鎌倉時代の墳墓堂遺構が検出されている。ここでは調査区北壁において墳墓堂遺構の周溝SD03の北溝の堆積物を垂直的に試料採取し、18試料を得た（第108図、第109図）。珪藻、花粉の順に結果を報告する。

珪藻分析 試料全体（試料番号1～18）についてみると、試料中より出現した珪藻遺骸は22属90種（10変種を含む）であった。pHについては好酸性種と不定性種が、流水性については止水性種が、生態性については浮遊性種が、塩分については嫌塩性種が全層準を通じて優占した。特徴種としてpH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性種の*Aulacoseira ambigua*が全体の42.9%を占め、圧倒的に多い。また、種までの同定が不可能な*Eunotia spp.*が4.6%、好酸性・流水不定性・付着生・嫌塩性種の*Eunotia lunaris*が4.3%、好酸性・好止水性・付着生・嫌塩性種の*Frustulia rhomboides*が3.9%を占める。珪藻の群集組成と出現頻度の特徴から、分析試料は下位よりⅠ・Ⅱ・Ⅲの3珪藻帯に区分され、Ⅱ帯はさらにⅡa帯、Ⅱb帯に分けられる（第112図）。以下に珪藻の群集組成の特徴を各帯ごとに記す。

Ⅰ帯（試料番号1～5）での出現種数は53種である。群集組成の特徴は、pHについては真・好酸性種が優占した。流水性については、*Aulacoseira ambigua*といった好止水性種の出現率が高かった。生態性では付着生種と底生種の出現率が高い。Ⅱ帯・Ⅲ帯と比較して浮遊性種の出現率が極端に少ないのが特徴である。塩分については嫌塩性種が優占した。



第108図 92Gb区試料採取位置図

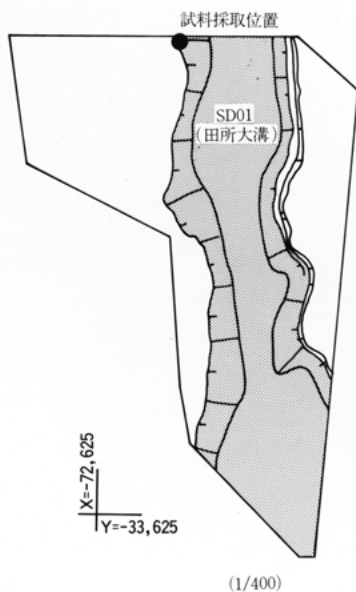


第109図 分析調査地点の柱状図

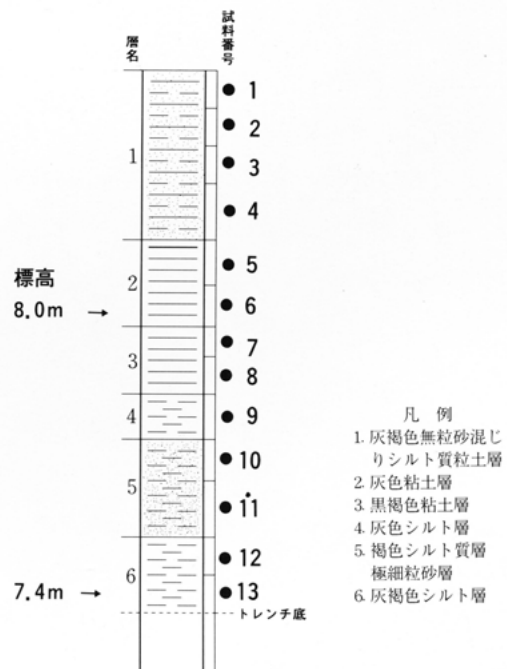
特徴種としては、好酸性・流水不定性・付着生・嫌塩性種の*Eunotia lunaris* (10.9%) および*Eunotia lunaris var. subarcuata* (8.4%) が19.3%を占めた。また、好酸性・付着生種の*Eunotia*属で全体の32.5%を占める。pH不定性・好止水性・付着生種の*Gomphonema gracile*が5.9%、pH不定性・好止水性・底生・嫌塩性種の*Neidium iridis*が5.1%、好酸性・流水不定性・底生種の*Pinnularia gibba*が7.8%を占め、特に*Pinnularia*属で全体の15.9%を占めた。また、*Tabellaria*属も12.1%を占め、この*Tabellaria*属の多産がⅠ帯の特徴である。

Ⅱ帯（試料番号6～14）での出現種数は49種である。群集組成の特徴は、pHについては不定性種および好酸性種が、水流性については真・好止水性種が、生態性では浮遊性種が圧倒的に多く、全体の60%以上を占める。塩分については不定性種と嫌塩性種が大部分を占める。Ⅱ帯はさらにⅡa帯、Ⅱb帯に分けられる。それぞれの特徴について以下に述べる。

Ⅱa帯（試料番号6～10）での出現種数は34種である。群集組成の特徴は、pHについては不定性種が占め、水流性については真・好止水性種が大部分を占める。生態性では浮遊性種が圧倒的に多く、底生種の割合がⅡb帯に比べて若干少ない。塩分については不定性種が大部分を占めるが、Ⅱb帯に比べて好塩性種が全くみられないこと、嫌塩性種の割合が少ないことで特徴づけられる。特徴種としては、pH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性の*Aulacoseira ambigua*が全体の67.4%を占め、圧倒的に多い。ほかにpH不定性・流水不定性・付着生・塩分不定性の*Frustulia vulgaris*が5.7%、好酸性・流水不定性・付着生・嫌塩性種の*Eunotia lunaris*が3.1%、*Eunotia lunaris var. subarcuata*が3.1%を占め、*Eunotia*属では全体の8.9%を占める。また、pH不定性・好止水性・底生・嫌塩性種の*Neidium*



第110図 95Aa区、分析試料採取位置図



第111図 分析調査地点の柱状図

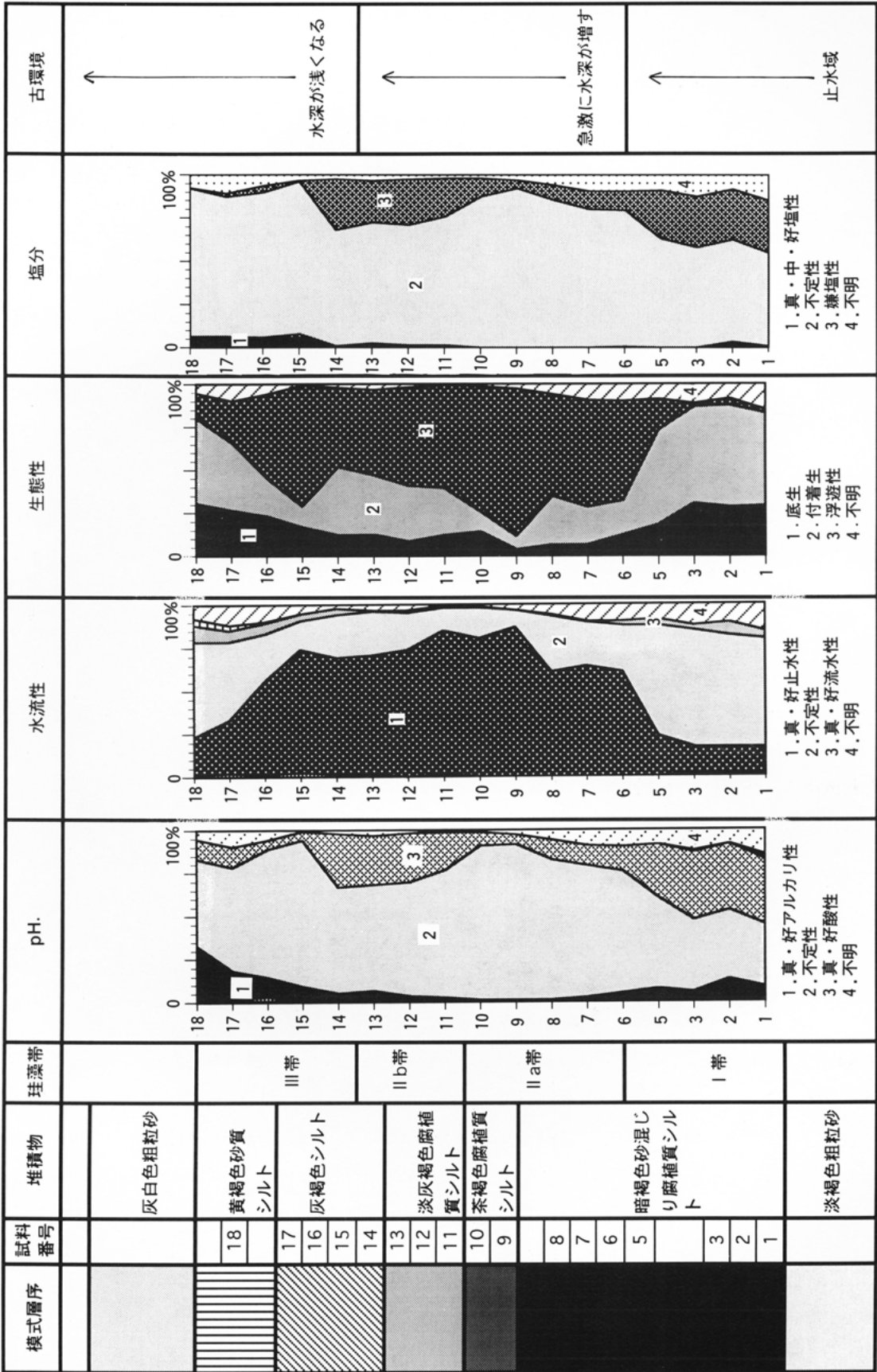
iridis (1.8%) がみられるのも本帯の特徴である。

Ⅱb帯(試料番号11~14)での出現種数は42種である。群集組成の特徴は、Ⅱa帯とほとんど同様であるが、pHにおける酸性種、生態性では底生種、塩分では嫌塩性種のそれぞれの増加傾向がⅡa帯との相違点である。特徴種としては、Ⅱa帯と同様にpH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性の*Aulacoseira ambigua*が全体の52.9%を占め、圧倒的な多さを示すが、Ⅱa帯よりも若干割合は少なくなる。*Eunotia lunaris*や*Eunotia lunaris var. subarcuata*などの*Eunotia*属が全体の9.5%を占める。また、好酸性・好止水性・付着生・嫌塩性種の*Frustulia rhomboides* (16.4%)の出現でも特徴づけられる。

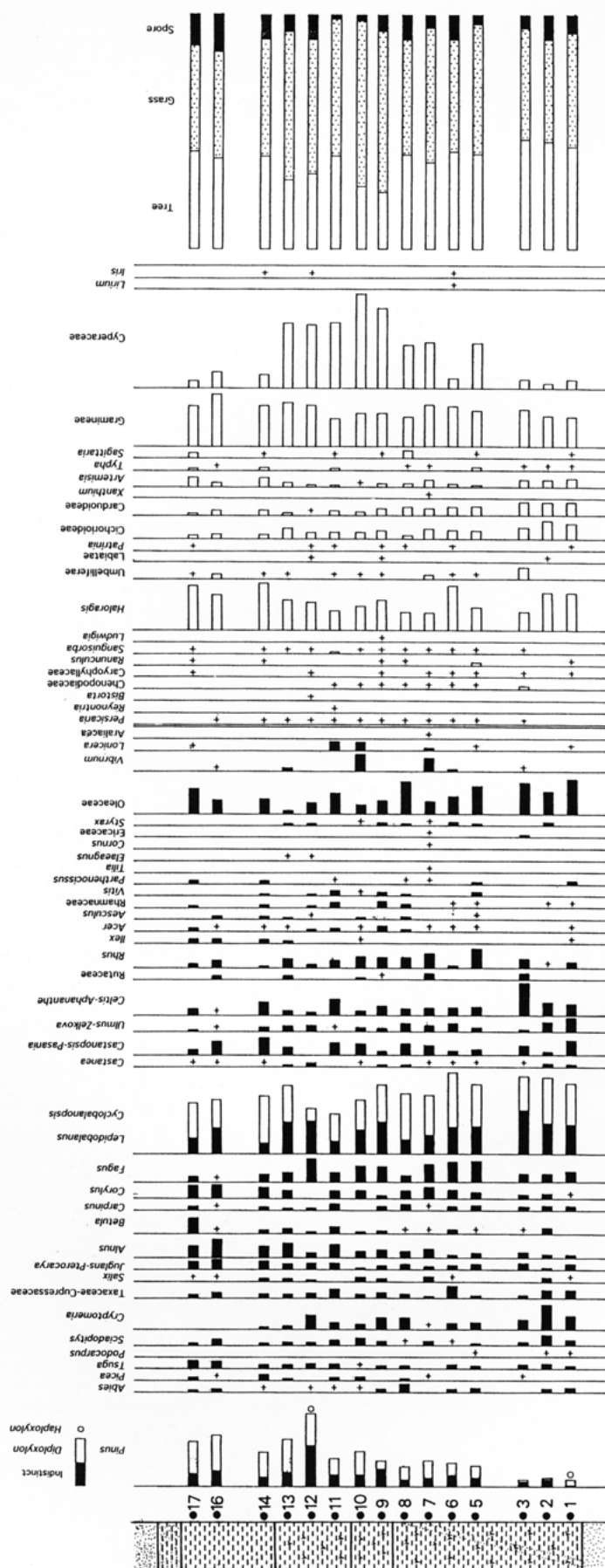
Ⅲ帯(試料番号15~18)での出現種数は53種である。群集組成の特徴は、pHについては真・好アルカリ性種が、水流性については不定性種および止水性種が、生態性については底生種と付着生種が、塩分については不定性種および好塩性種が大部分を占める。特徴種としては、本帯においてもpH不定性・好止水性・浮遊性・塩分不定性の*Aulacoseira ambigua*が全体の39.3%を占めるが、その割合はⅡ帯と比べると減少傾向にある。pH不定性・流水不定性・付着生・塩分不定性の*Frustulia vulgaris*が5.9%を占めるとともに、底生種の*Pinnularia*属が12.5%を占める。ほかにpH不定性・好流水性・付着生種の*Cymbella minuta*が3%、好アルカリ性・底生・中塩性種の*Nitzschia obtusa*が3.3%、好アルカリ性・付着生・中塩性種の*Rhopalodia gibberula*が2.3%、好アルカリ性・流水不定性・付着生の*Synedra ulna*が2.5%と割合は少ないものの、本種がみられることが本帯の特徴である。

花粉分析 花粉分析は試料番号1~17(試料番号4・15・18を除く)の計15試料についておこなった。結果を第113図に示す。全般にイネ科やカヤツリグサ科などの草本花粉が木本花粉より多い傾向を示した。木本花粉については、針葉樹ではマツ属やスギ属が、広葉樹ではコナラ亜属、エノキ属が卓越した。草本花粉については、イネ科やアリノトウグサ科が試料全般にみられるのにもない、ヨモギ属、タンポポ亜科、キク亜科などがみられる。また、試料番号7~13でカヤツリグサ科が急激に増加するのも特徴である。ほかにガマ属・フサモ属・オモダカ属・アヤメ属といった水生植物も確認される。

95Aa区 結果を第114図に示す。珪藻化石は5層の試料番号10、2層の試料番号6、1層の試料番号4~1の6試料から産出するが、それ以外の7試料(試料番号13~11, 9~7, 5)は非常に少ない。また、珪藻殻も壊れたり溶解しているものがほとんどである。産出種は全て淡水生種からなり、産出分類群数は28属162分類群である。完形殻の出現率は1層の試料番号4~1では60~70%と高いが、それ以外は5~50%と低い。淡水生種の生態性(塩類、pH、流水に対する適応能)の特徴は、試料番号10は貧塩不定性種(少量の塩分があってもこれに耐えられるもの)、pH不定性種と真・好アルカリ性種(中性および弱アルカリ性水域を最適とするもの)、流水性種(流水に特徴的なもの)・流水不定性種(流水にも止水にも認められるもの)・止水性種(止水に特徴的なもの)が優占あるいは多産する。試料番号6は3適応性とも不明なものが多い。試料番号4~1では互いに生態性が近似しており、貧塩-不定性種が優占し、pH不定性種と真・好アルカリ性種、流水不定



第112図 92Gb区SD27珪藻分析グラフ図



第113図 92Gb区SD27花粉化石群集の層位分布図

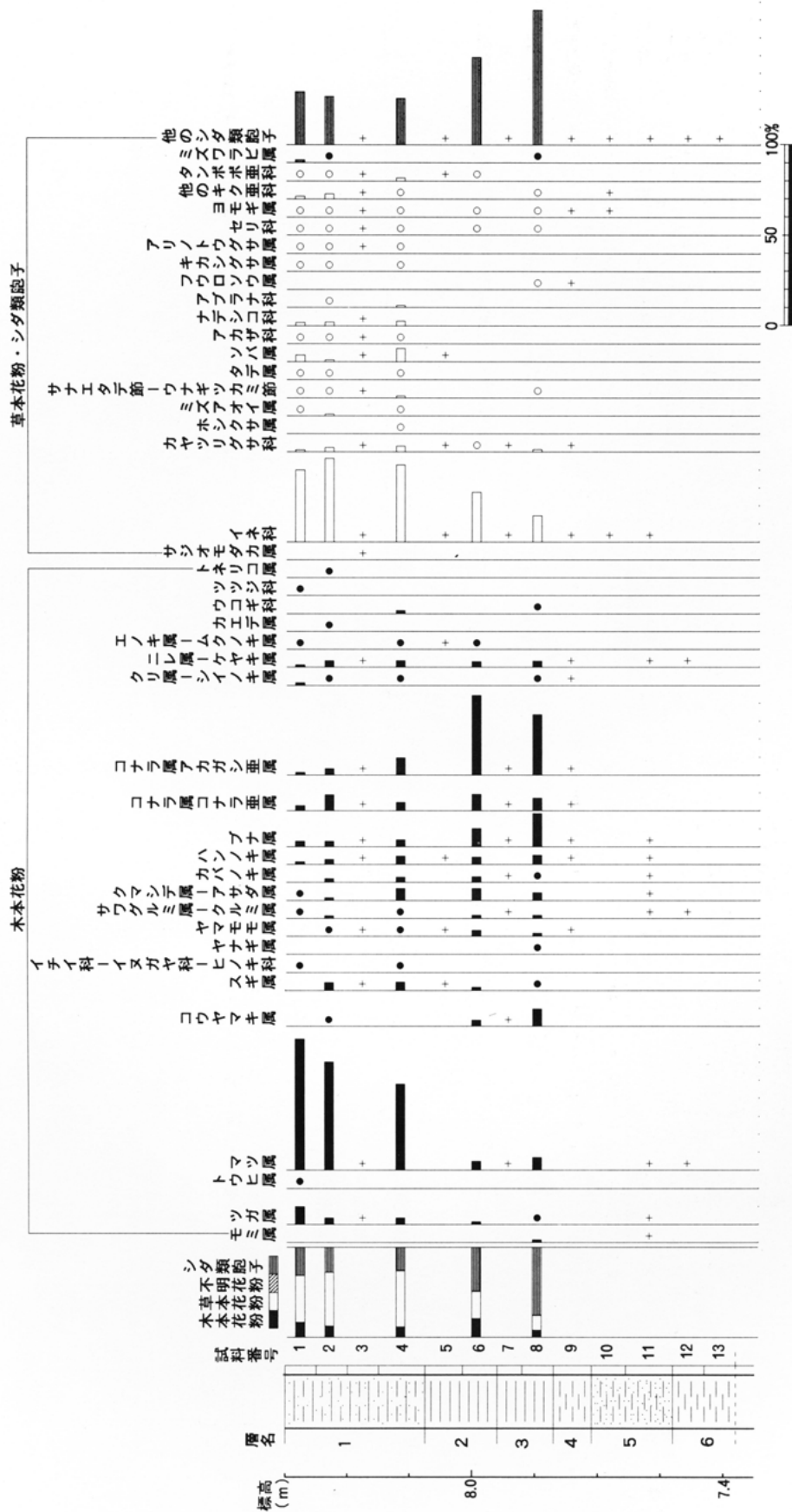
性種と真・好止水性種とで特徴づけられる。次に産出種の特徴を述べる。試料番号10は流水性の*Gomphonema sumatrense*、流水不定性の*Cymbella silesiaca*、止水性の*Aulacoseira ambigua*、*Fragilaria construens* fo. *venter*、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保った好気的環境に耐性のある陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*などが産出する。試料番号6は流水不定性の*Amphora ovalis* var. *affinis*、*Rhopalodia gibberula*、止水性の*Aulacoseira ambigua*、化石の保存が悪く属の段階までしか同定できない*Pinnularia*属、*Diploneis*属、*Stauroneis*属が多産する。試料番号4～1は群集も近似しており流水性の*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水不定性の*Cymbella silesiaca*、*Fragilaria pinnata*、*Gomphonema parvulum*、*Rhopalodia gibberula*、止水性の*Aulacoseira ambigua*、*Fragilaria construens* fo. *venter*、*Fragilaria exigua*などが多産する。

花粉分析 結果を第28表、第115図に示す。試料によって化石の保存状態や群集組成は異なる。以下に各試料で花粉化石群集について述べる。

試料番号13～9は全般に花粉・胞子化石の保存状態が悪く検出数も少ない。試料番号9ではシダ類胞子が多く検出される。試料番号6～8では花粉・胞子化石の保存状態は試料番号7を除いてほぼ良好であったが、試料中に含まれる花粉化石の数は少ない。木本花粉のしめる割合は10～20%と低く、シダ類胞子の割合が高い。木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属が多産し、ブナ属、コナラ属コナラ亜属などを伴出する。草本花粉はイネ科が多産しカヤツリグサ科などを伴う。試料番号5～1では花粉・胞子化石の保存状態は試料番号5と3を除いておおむね良好であったが、試料中に含まれる花粉化石の数は少ない。木本花粉の占める割合は10～15%と低く、草本花粉の割合が50～60%と高い。木本花粉ではマツ属が非常に卓越し、前時期に多産していたアカガシ亜属は急激に減少する。コナラ属コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属などを伴う。針葉樹のツガ属、スギ属などが微増する。草本花粉は検出される種類数が多くなる。イネ科が多産し、ナデシコ科、カヤツリグサ科などを伴う。水生植物のミズアオイ属、サジオモダカ属、ミズワラビ属などが随伴あるいは希に産出する。また、栽培植物のソバ属が各試料から高率に検出される。

植物珪酸体 結果を第29表、第116図に示す。各地点の試料からは植物珪酸体が検出されるが、保存状態の悪いものが多く、表面に多数の小孔（溶食痕）の認められるものがある。

試料番号13～9（6～4層）までは検出個体数が少なく、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族が認められるにすぎない。試料番号8、7、6（3層・2層下部）ではイネ属が出現し、特に機動細胞珪酸体の出現率が高い。このほか、ヨシ属とウシクサ族の産出が目立ち、タケ亜科やイチゴツナギ亜科も認められる。試料番号5～1（2層上部・1層）でも、イネ科機動細胞珪酸体の出現率が高い。しかし、ヨシ属の割合が低くなり、タケ亜科が増加する。このほか、下位と同様にウシクサ族やイチゴツナギ亜科が認められる。また、栽培種か否かの判別がつかないものの、オオムギ族も検出される。



第115図 95Aa区花粉化石群集の分布図

分析調査地点の花粉化石群集
出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、○●は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

古環境変遷 珪藻、花粉分析および堆積物の層相より推定される、鎌倉時代の墳墓堂遺構を区画する周溝SD03の北溝の埋積過程について述べる。

珪藻の群集組成からは非常に明確な変化がみられ、特にⅠ帯（試料番号1～5）からⅡ帯（試料番号6～14）にかけて急激に環境の変化が起こっている。試料番号5では真・好止水性種および浮遊性種が20%であったのに対し、試料番号6では真・好止水性種および浮遊性種がおよそ60%と3倍近い増加を示す。これは、溝の中に徐々に水が入り込み水深が増したのではなく、短期間に一気に水深が増加し止水環境となったことを示すものである。試料番号5と6の間に人為的な関与が示唆される。

Ⅱ帯（試料番号6～14）では、*Aulacoseira ambigua*の止水性かつ浮遊性の種群がみられ、圧倒的な出現率（60%以上）を占めた。このことは、Ⅱ帯を構成する堆積物である下位の砂混じり腐植質シルト（ユニット2）中部層から灰褐色シルト（ユニット6）下部層が堆積する間、溝の中は止水（滞水）域で水深のある水域であったことを示すものである。Ⅱ帯はさらにⅡa帯（試料番号6～10）、Ⅱb帯（試料番号11～14）の2珪藻帯に分けることができた。Ⅱb帯ではⅡa帯と比較すると、真・好止水性種の増加（70%以上）、底生種の増加および浮遊性種の減少傾向が確認された。Ⅱb帯を形成する堆積物が埋積する過程で徐々に水深が浅くなっていったことがうかがえる。その傾向はⅢ帯（試料番号15～18）の形成時まで続く。底生種が増加傾向を示す事実がそれを物語っている。

花粉分析ではイネ科やカヤツリグサ科といった草本花粉の割合が、マツ属やスギ属といった木本花粉より多い。この事実から、墳墓堂周辺はかなり開けた裸地的な環境であったことを示す。珪藻分析では試料番号6から14において水深のある止水域が推定されるが、花粉分析においてもガマ属・セリ科・オモダカ属といった水生植物が確認されている。溝の中にはある深さをもって水が溜まり、水生植物が繁茂していたことがうかがえる。また、珪藻分析において止水環境を明確に示した層準の試料から、草本花粉（特にカヤツリグサ科）の増加が確認されるのは興味深い。溝は凹地であり滞水域であったため、溝の周辺に繁茂する草本花粉がより集積したものと思われる。ユリ属やアヤメ属の花粉も割合は少ないものの確認された。墳墓堂に献花されたものか、溝の周辺に繁茂していたものかはわからないが、興味ある事実である。

以上の結果から、墳墓堂に廻らした溝は水深のある止水（滞水）域であり、周辺はかなり開けた裸地的な環境であったことがわかる。また、溝の水は短期間に水深を増し、滞水域となった事実が指摘でき、溝の中にはガマ属・オモダカ属・セリ科などの水生植物が繁茂していたことがわかった。

95Aa区

本遺跡周辺は、犬山扇状地の末端と木曽川の三角州帯の間に位置し、自然堤防や後背湿地がモザイク状に配列した複雑な地形が形成されている（鬼頭、1996）。本遺跡における微化石の産状も木曽川の広い集水域の状況を反映していると考えられる。6層～2層において複数の水域環境を指標する珪藻化石がみられるのは、このことを示唆している。特に、5層上部は*Gomphonema sumatrense*を始めとする流水性種、*Cymbella silesiaca*などの流水不定性種、*Aulacoseira ambigua*などの止水性種、それに陸上の好気的環境に耐性のあ

る陸生珪藻など様々な環境を指標する種が混在する、いわゆる混合群集の特徴がみられる。これは、様々な場所から本地点に堆積物が運搬され堆積したことを示している。

一方、花粉化石および植物珪酸体の産状は、6層～4層では検出個体数が少なかった。前述の堆積環境を考慮すれば、堆積速度が速いために堆積物中に取り込まれる微化石が少なかった可能性が高い。なお、少ないながらも産出した植物珪酸体の種類から、流域には少なくともタケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などが生育していたと思われる。

3層～2層下部にかけては、木本類はコナラ属アカガシ亜属が多産する。アカガシ亜属は、暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成要素である。随伴するコナラ属コナラ亜属は暖温帯から冷温帯に分布する落葉広葉樹で、ブナ属は冷温帯の優占種である。また、サワグルミ属-クルミ属、ハンノキ属、カエデ属などは冷温帯で河畔林や溪谷林を形成する要素である。堆積環境を考慮すれば、この時期にこれらで構成される植生が成立していたと思われる。2層上部から1層では、マツ属（そのほとんどが複雑管束亜属）が多産する。マツ属複雑管束亜属、暖温帯から冷温帯に分布し、陽樹であることからしばしば二次林を形成する。これに随伴して微増するツガ属やスギ属は、暖温帯から冷温帯への移行帯またはその中間帯に発達する中間温帯林の構成要素を含む種類であり、後背の山地に分布していた可能性がある。近接する大毛沖遺跡における花粉分析結果では、9世紀～12・13世紀に埋積した旧流路でスギ属、マツ属、コナラ亜属、アカガシ亜属などが高い割合を占める組成と、中世の遺物包含層でマツ属複雑管束亜属が卓越する組成が得られている（鬼頭ほか、1996）。2層上部から1層での花粉化石群集組成は、大毛沖遺跡の中世の結果と類似する。なお、2層上部から1層ではイネ科の出現率が高くなり、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、サジオモダカ属、ミズワラビ属などの湿潤な場所に生育していた可能性がある。また、ウシクサ族やタケ亜科、イチゴツナギ亜科などのイネ科植物も周辺に生育していたと思われる。

また、3層からはイネ属の植物珪酸体が出現し、上位にかけて連続して検出された。特に、機動細胞珪酸体の出現率は高く、現在のイナワラ堆肥連用（8年間、500kg/10a/年）の水田土壌表層でイネ属機動細胞珪酸体の出現率が16%を示す調査例（近藤、1988）と比較しても、高い出現率である。そのため、3層以浅で稲作がおこなわれた公算が強い。1層の珪藻化石の産状が富栄養沼沢地の検鏡を示唆することやヨシ属の産出が目立つことを考慮すれば、湿潤な場所であったことがうかがえ、水田稲作がおこなわれた可能性が考えられる。このほか、2層上部と1層からソバ属の花粉化石が高率に検出されている。ソバは古い時代に日本に渡来してきた栽培植物で、花粉生産量の少ない虫媒花であることから、花粉が検鏡された地点近くに母植物が存在していた可能性は高い。立地を考慮すれば、ソバは本地点に近い微高地上で栽培されていたことが示唆される。また、検出されたオオムギ族が栽培種であれば、ムギ栽培の可能性もある。

（鬼頭 剛・堀木真美子・尾崎和美）

文 献

- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境への応用, 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa, Diatom, 10, 35-47.
- Hustedt, F., 1927-1966, Die Kieselalgen Deutschland, Osterreichs und der Schweiz unter Berucksichtigung der Obrigen Lander Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. Krypt gamen-Flora von Deutschland, Teil 1 ~ 3, Leipzig, W. Deutschland, 920p., 845p., 856p.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用, 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 鬼頭 剛, 1996, 第4章科学分析. 北道手遺跡, (財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第67集, 72-73.
- 鬼頭 剛・堀木真美子・尾崎和美, 1996, 第5章自然科学, 第3節生活環境. (財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集, 大毛沖遺跡, (財)愛知県埋蔵文化財センター, 160-184.
- 近藤鍊三, 1988, 十二遺跡の植物珪酸体分析, 鋳師屋遺跡群十二遺跡-長野県佐久郡御代田町十二遺跡発掘調査報告書, 御代田町教育委員会, 377-383.
- 近藤鍊三・佐瀬 隆, 1986, 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, 31-64.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (1), Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (2), Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1991a, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (3), Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K., & H. Lange-Bertalot., 1991b, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2 (4), Gustav Fischer Verlag, 248p.

学 名	試料番号	1	2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
<i>Achnanthes hungarica</i> (Grun.) Grunow	6	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	7
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Bréb.) Grunow	•	1	1	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	2	5	12
<i>Achnanthes linearis</i> (W. Smith) Grunow	2	7	6	5	1	3	1	•	•	1	2	6	8	8	3	8	10	12	83
<i>Achnanthes marginulata</i> Grunow	•	•	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Achnanthes minutissima</i> Kützing	•	3	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
<i>Achnanthes</i> spp.	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Amphora tibyea</i> Ehrenberg	•	1	•	3	1	•	1	•	•	2	•	1	1	2	•	•	•	3	15
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	4	6	4	36	116	124	118	171	145	119	114	99	91	140	97	48	29	1461	1
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cl	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
<i>Coconeis placenticula</i> var. <i>euglypta</i> Ehrenberg	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
<i>Coconeis</i> spp.	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
<i>Cymbella affinis</i> Kützing	3	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	•	•	•	1	3	4	•	•	•	•	1	4	•	•	•	•	•	19	32
<i>Cymbella cuspidata</i> Kützing	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	•	•	•	•	•	•	•	1
<i>Cymbella gracilis</i> (Ehr.) Kützing	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5	1	1	1	1	•	•	•	9
<i>Cymbella minuta</i> Hilse	3	•	•	1	1	•	1	•	1	1	1	1	•	2	4	7	2	11	35
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	3	3	3	7	•	2	•	•	•	1	1	4	•	3	•	1	4	•	32
<i>Cymbella sinuata</i> Gregory	•	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	•	•	•	•	2
<i>Cymbella</i> spp.	1	1	1	1	•	1	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	•	7
<i>Cymbella tumida</i> (Bréb.) Van. Heurck	•	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
<i>Cymbella turgidula</i> Grunow	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	2	3	2	7	•	15
<i>Diatoma vulgaris</i> Bory	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	•	•	•	•	2
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	2	2	•	6
<i>Eunotia bigibba</i> Kützing	•	•	•	•	•	•	1	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Eunotia flexuosa</i> (Bréb.) Kützing	19	14	19	15	10	5	5	4	7	4	5	•	3	•	•	•	•	•	110
<i>Eunotia lunaris</i> Brebisson	14	27	19	27	9	9	7	4	2	•	10	11	6	•	•	2	•	•	147
<i>Eunotia lunaris</i> var. <i>subarctata</i> Nägeli	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Eunotia pectinalis</i> (Dill) Rabenholsy	5	2	•	2	•	2	1	•	•	1	•	•	•	•	•	•	1	•	14
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> Berg	5	3	8	4	•	•	2	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	23
<i>Eunotia praenupta</i> Ehrenberg	1	3	1	•	1	•	•	•	1	•	•	4	2	7	•	•	•	•	20
<i>Eunotia praenupta</i> var. <i>tidens</i> (Ehr.) Grunow	•	•	2	•	•	•	•	•	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	3
<i>Eunotia robusta</i> Ralfs	•	•	•	•	•	1	•	•	•	2	1	•	•	1	•	•	1	•	6
<i>Eunotia robusta</i> var. <i>polyodon</i> Ralfs	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	•	•	•	•	•	•	1
<i>Eunotia serpa</i> Ehrenberg	•	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Eunotia</i> spp.	19	16	18	15	17	15	8	5	2	2	4	7	4	2	10	7	5	•	156
<i>Frustulia rhomboides</i> (Ehr.) De Toni	•	•	•	•	•	•	•	•	•	28	30	34	39	•	•	•	•	•	131
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thw.) De Toni	•	•	•	16	9	11	31	5	1	•	•	•	•	•	8	11	18	10	120
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
<i>Gomphonema acuminatum</i> var. <i>coronata</i> (Ehr.) W. Smith	1	•	1	•	1	•	•	•	•	1	•	•	•	•	•	•	1	•	5
<i>Gomphonema angustatum</i> Kützing	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>lurris</i> (Ehr.) Cleve	•	2	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Gomphonema angustatum</i> var. <i>lurris</i> (Ehr.) Cleve	•	•	•	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1	2
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	11	17	16	3	2	1	1	1	1	5	6	•	4	1	•	6	11	13	98
<i>Gomphonema parvulum</i> Kützing	5	11	6	4	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3	•	•	4	•	37
<i>Gomphonema</i> spp.	6	•	2	2	•	•	•	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	11
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2
<i>Meridion circulare</i> (Gre.)	•	1	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
<i>Meridion circulare</i> var. <i>constricta</i> (Ral.) Van Heurck	•	•	•	•	4	•	•	•	•	•	1	•	•	•	•	•	•	•	5

第23表 92Gb区SD27珪藻分析結果表(1)

種 類	生 態 性			環境 指標種													
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
<i>Achnanthes coarctata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-hil	al-bi	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Achnanthes japonica</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J. T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Achnanthes lapidosa</i> Krasske	Ogh-ind	ac-il	ind	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	6	7	2	5	1	14	-	-	-	4	-	-	-
<i>Anomoeoneis gomphonemacea</i> (Grun.) H. Kobayasi	Ogh-ind	ac-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Anomoeoneis vitrea</i> (Grun.) Ross	Ogh-hob	ac-il	l-ph	T	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	20	16	4	4	-	5	1	-	-	10	-	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	1	2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Caloneis aerophila</i> Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Caloneis lauta</i> Carter & Bailey-Watts	Ogh-ind	ind	ind		-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	1	-	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-	-
<i>Caloneis schumanniana</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-bi		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		1	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> var. <i>minuta</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ceratoneis arcus</i> Kuetzing	Ogh-hob	ind	r-bi	K. T	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	1
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>euglypta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	4
<i>Cocconeis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
<i>Craticula ambigua</i> (Ehr.) D. G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Craticula halophila</i> (Grun.) ex V. Heurck D. G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella amphioxys</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		2	4	4	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O. T	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		1	-	1	-	-	5	2	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella gracilis</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	T	2	1	2	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cymbella heteropleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella japonica</i> Reichelt	Ogh-unk	unk	unk	T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Cymbella mesiana</i> Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	2	1	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
<i>Cymbella perpusilla</i> A. Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		4	1	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	11	5	15	23	1	-	-	-	-	12	-	-	-
<i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K. T	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb.) ex Kuetz. V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> var. <i>gracilis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella turgidula</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K. T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	4
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-	-	-	1	1	1	4	-	1	-	-	1
<i>Diatoma hyemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	r-bi	K. T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		-	3	-	9	-	1	-	1	-	3	-	-	-
<i>Diploneis parva</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	5	1	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	8	4	5	1	-	-	-	-
<i>Epithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Epithemia sorex</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
<i>Epithemis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia biseriatioides</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
<i>Eunotia incisa</i> W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia monodon</i> var. <i>asiatica</i> Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	3	1	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>undulata</i> (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	8	5	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>mesolepta</i> (Rabh.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria construens</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	12	10	3	4	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Fragilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	12	26	12	5	-	1	-	-	-	9	-	-	-
<i>Fragilaria exigua</i> Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph		11	30	37	4	-	-	-	-	-	3	-	-	-
<i>Fragilaria lapponica</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria parasitica</i> (W. Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria pinnata</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	S	19	14	11	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Fragilaria pinnata</i> var. <i>lancetula</i> (Schum.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxonica</i> (Rabh.) De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
<i>Gomphonema augur</i> var. <i>turris</i> (Ehr.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema christenseni</i> Lowe et Kociolek	Ogh-unk	unk	unk	T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	3
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	1
<i>Gomphonema clevei</i> var. <i>inaequilongum</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Gomphonema contrarurris</i> Lange-B. & Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第25表 95Aa区珪藻分析結果表(1)

種 類	生 態 性			環境 指標種													
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	1	1	4	1	-	2	-	-	-	2	-	-	1
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	8	6	19	15	-	-	-	-	-	5	-	-	1
Gomphonema parvulum var. lagenula (Kuetzing)Frenguelli	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Gomphonema pseudoaugur Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Gomphonema pseudosphaerophorum H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema punilum (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema sphaerophorum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema subtile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema sumatrense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	-	-	1	-	-	1	1	-	-	17	2	-	4
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	2	1	2	-	-	-	1	-	-	-
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	1	-	-	2	-	-	1	-	-	5	-	-	1
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Navicula americana Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula bacillum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula bryophila Boye-Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula cohnii (Hilse)Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula confervacea (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB, S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	-	-	1	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Navicula cryptocephala Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula difficillima Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis var. cuneata H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	15	15	8	12	-	-	-	-	-	4	-	-	-
Navicula kotschy Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula laevissima Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	1	1	5	5	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	2	2	2	4	-	-	-	-	-	6	-	-	-
Navicula plausibilis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	S	5	4	6	5	-	-	-	-	-	6	-	-	-
Navicula pupula var. capitata Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula radiosa fo. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula viridula (Kuetz.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	3	2	2	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Navicula viridula var. rostellata (Kuetz.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-
Neidium affine (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Neidium ampliatus (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	-	2	-	1	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Neidium productum (W. Smith)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia debilis (Arnott)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB, U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Nitzschia frustulum (Kuetz.)Grunow	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia nana Grunow	Ogh-ind	ind	ind	RB, S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Nitzschia perminuta (Grun.)Peragallo	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Nitzschia tubicola Grunow	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia acrosphaeria W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	1	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia acuminata W. Smith	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	-	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia braunii (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia brebissonii (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	U	-	1	2	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia brevicostata var. sumatrana Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia divergens W. Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia divergens var. elliptica (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	1	2	6	14	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Pinnularia gibba var. dissimilis H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Pinnularia gibba var. parva (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	-	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia interrupta W. Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	1	-	2	7	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Pinnularia macilenta (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia major Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W. Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	S	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Pinnularia ornata H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia schoenfelderii Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-
Pinnularia similis Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia streptoraphe Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	-	2	3	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第26表 95Aa区珧藻分析結果表(2)

種 類	生 態 性			環境 指標種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	塩分	pH	流水														
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	0	2	1	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	4	3	1	6	18	8	5	1	7	1	-	-
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lange-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K, T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
<i>Rhopalodia gibba</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-hil	al-il	ind		13	10	6	5	-	8	6	1	-	5	-	-	1
<i>Stauroneis acuta</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	2	1	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> var. <i>siberica</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis kriegeri</i> Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	1	-	-	1	-	-	-	-	-	unk	-	-	-
<i>Stauroneis legumen</i> var. <i>elliptica</i> H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis legumen</i> var. <i>nipponica</i> (Skv.) H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis nobilis</i> Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis obtusa</i> Lagerst	Ogh-ind	ind	ind	RB	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	0	4	1	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> fo. <i>gracilis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	0	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>hattorii</i> Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	0	1	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Meister	Ogh-ind	ind	ind		-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	5	3	2	-	-	-	-	-
<i>Surirella angusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Surirella ovata</i> var. <i>pinnata</i> (W. Smith) Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyngb.) Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	0, T	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水-汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					214	212	219	206	17	101	33	22	2	203	7	1	39
珪藻化石総数					214	212	219	206	17	101	33	22	2	203	7	1	39

凡例

H. R. : 塩分濃度に対する適応性

Ogh-hil: 貧塩好塩性種

Ogh-ind: 貧塩不定性種

Ogh-hob: 貧塩嫌塩性種

Ogh-unk: 貧塩不明種

pH: 水素イオン濃度に対する適応性

al-bi: 真7/10性種

al-il: 好7/10性種

ind : pH不定性種

ac-il: 好酸性種

ac-bi: 真酸性種

unk : pH不明種

C. R. : 流水に対する適応性

l-bi: 真止水性種

l-ph: 好止水性種

ind : 流水不定性種

r-ph: 好流水性種

r-bi: 真流水性種

unk : 流水不明種

環境指標種

J: 上流性河川指標種 K: 中～下流性河川指標種 0: 沼沢湿地付着生種

S: 好汚濁性種 U: 広適応性種 T: 好清水性種 (以上はAsai, K. & Watanabe, T. 1995)

RI: 陸生珪藻 (RA: A群, RB: B群、伊藤・堀内, 1991)

第27表 95Aa区珪藻分析結果表 (3)

表 花粉分析結果

種 類	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
木本花粉														
モミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-
ツガ属	13	5	1	4	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-
トウヒ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属	95	80	11	50	-	6	1	8	-	-	-	1	1	-
コウヤマキ属	-	1	-	-	-	4	2	11	-	-	-	-	-	-
スギ属	-	6	3	5	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤナキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ヤマモモ属	-	1	1	1	1	4	-	2	1	-	-	-	-	-
サウグルミ属-クルミ属	1	2	-	1	-	2	2	2	-	-	-	3	1	-
クマシデ属-アサダ属	1	2	-	7	-	8	-	5	-	-	-	1	-	-
カバノキ属	-	3	-	3	-	4	1	1	-	-	-	1	-	-
ハンノキ属	2	4	3	5	1	5	-	6	2	-	-	1	-	-
ブナ属	4	4	1	4	-	12	2	21	2	-	-	1	-	-
コナラ属コナラ亜属	4	12	2	5	-	11	4	8	1	-	-	-	-	-
コナラ属アカガシ亜属	2	5	2	10	-	52	8	38	3	-	-	-	-	-
クリ属-シイノキ属	2	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属	2	5	1	4	-	4	-	4	1	-	-	1	1	-
エノキ属-ムクノキ属	1	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウコギ科	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ツツジ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トネリコ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本花粉														
サジオモダカ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	304	493	117	385	4	151	12	207	2	1	2	-	-	-
カヤツリグサ科	9	26	3	29	1	5	2	20	1	-	-	-	-	-
ホシクサ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	4	11	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ属-ウナギツカミ属	2	6	6	9	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
タデ属	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ソバ属	28	12	21	67	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科	2	8	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	13	22	5	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科	-	9	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フクロソウ属	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-
キカシグサ属	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アリノトウグサ属	7	6	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	3	2	1	3	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	2	5	2	2	-	5	-	2	4	2	-	-	-	-
他のキク亜科	13	31	6	4	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
タンポポ亜科	3	4	2	15	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉	2	1	-	2	-	2	-	2	-	-	-	2	1	4
シダ類孢子														
ミズウラボシ属	14	5	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
他のシダ類孢子	226	287	101	232	12	268	321	1083	536	3	29	15	6	-
合 計														
木本花粉	130	133	25	104	4	117	20	113	11	0	11	3	0	0
草本花粉	393	638	166	562	41	163	14	237	8	4	2	0	0	0
不明花粉	2	1	0	2	0	2	0	2	0	0	2	1	4	-
シダ類孢子	240	292	101	232	12	268	321	1084	536	3	29	15	6	-
総計（不明を除く）	763	1063	292	898	57	548	355	1434	555	7	42	18	6	-

第28表 95Aa区花粉分析結果表

表 植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ科葉部短細胞珪酸体														
イネ族イネ属	24	18	6	19	2	3	3	2	-	-	-	-	-	-
キビ族キビ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族チゴザサ属	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
キビ族	4	2	1	2	1	3	6	5	-	-	-	-	-	-
タケ亜科ネザサ節	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科	24	18	4	28	13	9	13	14	10	2	5	-	-	-
ヨシ属	11	11	6	6	7	14	61	79	15	3	12	-	-	-
ウシクサ族コブナグサ属	3	2	1	1	-	7	24	18	2	1	3	1	-	-
ウシクサ族ススキ属	13	8	6	3	6	11	25	11	4	-	3	-	-	-
イチゴツナギ亜科オオムギ族	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科	14	11	5	8	2	2	4	2	4	-	-	-	-	-
不明キビ型	60	23	10	47	15	28	57	52	12	1	7	-	-	-
不明ヒゲシバ型	18	7	10	5	6	12	24	23	4	5	7	-	-	-
不明ダンチク型	36	21	9	39	18	24	41	43	10	1	12	-	-	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体														
イネ族イネ属	34	42	28	38	24	44	24	75	-	-	-	-	-	-
キビ族	4	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
タケ亜科ネザサ節	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科	14	13	8	5	3	5	6	16	3	-	-	2	1	-
ヨシ属	6	8	3	2	6	11	14	52	4	2	3	-	-	-
ウシクサ族	16	14	10	20	6	25	43	51	3	-	3	-	-	-
シバ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	29	40	18	41	42	32	32	65	7	1	8	-	-	-
合 計														
イネ科葉部短細胞珪酸体	213	122	59	160	70	114	258	249	61	13	49	1	0	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体	106	118	68	106	82	118	119	260	17	3	14	2	1	-
総 計	319	240	127	266	152	232	377	509	78	16	63	3	1	-
組 織 片														
イネ属珪酸体	5	5	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ属短細胞列	3	5	-	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ属機動細胞列	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第29表 95Aa区植物珪酸体分析結果表

第4節 畑作農村地帯を特徴づける田所遺跡の地表性歩行虫

先史一歴史時代の地層中からゴミムシ類をはじめ、地表性歩行虫の昆虫化石が多数産出することは、これまで多くの研究者により指摘されてきた（森、1994；富永、1994・1996ほか）。ゴミムシ類は甲虫目オサムシ亜目（Coleoptera：Adephaga）に属するオサムシ科、ホソクビソゴミムシ科などの分類群に与えられた一般的な名称（石谷、1996a）であり、国内だけで1200種とも1500種ともいわれる種が確認されている。ゴミムシ類は鞘翅が癒合し飛翔能力を失ったものが多いことから、地域ごとの種分化が顕著に認められる昆虫として知られる。また、ゴミムシ類は環境に対する適応進化が速く、そのため人間による自然改変に伴って森林地帯から農耕地や人為空間へと速やかに移動・拡散したことが考えられる。

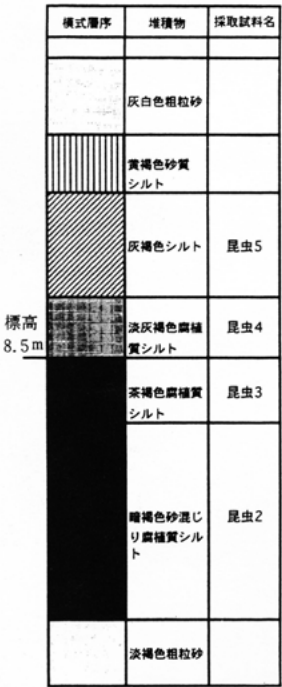
本論では、田所遺跡（中世）および西上免遺跡（弥生時代中期）の地層中より見いだされた畑作農村地帯を特徴づける地表性歩行虫について述べる。

分析試料および方法 田所遺跡は、愛知県一宮市田所と隣接する葉栗郡木曾川町黒田にまたがって位置し、標高約10mの弥生時代～中世にかけての遺跡である。一方、西上免遺跡は、愛知県尾西市開明字西上免に所在し、古墳時代を主体に弥生時代から中世に至る複合遺跡である。

分析試料は、田所遺跡では主に13～14世紀に掘削された墳墓堂遺構の周溝SD03の北溝を埋積する地層中より、西上免遺跡では弥生時代中期の土坑内より採取されたものである。分析試料はいずれも腐植層を挟在する暗褐色のシルト質細粒砂層である。第118図に、遺構配置図および試料採取地点を示した。

昆虫化石の抽出は主にブロック割り法によった。昆虫化石の検出にあたってはアサヒペンタックス単眼顕微鏡（20倍）を利用し、実体顕微鏡下でクリーニングののち、一つずつの節片について筆者採集の現生標本の各部位と顕微鏡下で比較・検討しながら同定した。

昆虫化石群集 田所遺跡より発見された昆虫化石（節片ないし破片数）の現時点での集約数は計931点である。試料ごとでは試料Aが47点、試料Bが102点、試料Cが204点、試料Dが126点、試料Eが127点、試料Fが45点、試料Gが158点、試料Hが122点であった。西上免遺跡では試料Aが134点、試料Bが7点の計141点であった。産出した昆虫化石のリストを第31表および第32表に、また、主な昆虫化石の顕微鏡写真をカラー図版7に示した。発見された昆虫は、そのほと



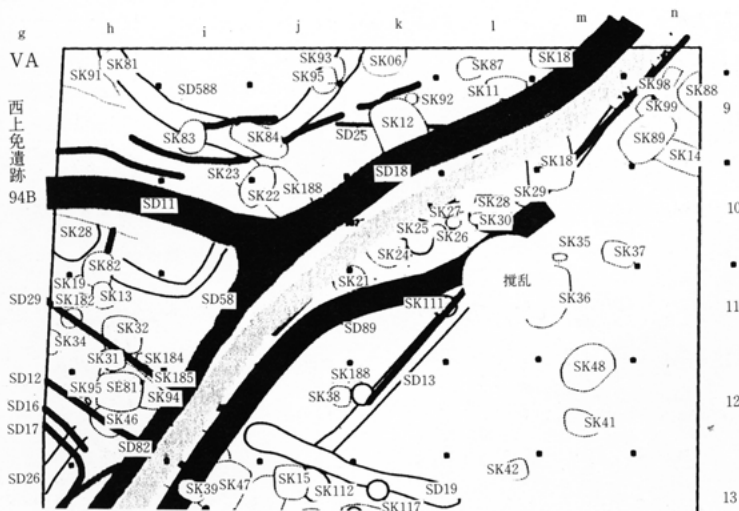
第117図 SD03・北溝（92Gb区、SD27）の層序、試料採取層準

んどが鞘翅目 (COLEOPTERA) であり、鞘翅目以外では、アリ科 (FORMICIDAE) や双翅目 (DIPTERA) などが発見された。

生息環境および生態による分類では、陸生の食植性昆虫を主体に、食肉、雑食および食糞性の地表性歩行虫を随伴し、一部食肉性ないし食植性の水生昆虫をまじえる昆虫群集であるとみなすことができる。

また、全試料を通じマメ類や果樹など畑作物を加害する食葉性のヒメコガネ *Anomala rufocuprea* の出現頻度が高く、とりわけ田所遺跡では全産出点数の39.3%が本種で占められた。このほかにドウガネブイブイ *Anomala cuprea*、マメコガネ *Popillia japonica*、サクラコガネ属 *Anomala* sp. など、いずれも果樹・畑作物等の葉や根を食害するコガネムシ科が多数認められることから、平安時代後期から中世にかけての頃、田所遺跡周辺では畑地と人家が混在する人里的な景観が展開していたことが考えられる。この結果は隣接する大毛沖遺跡 (森、1996) や大毛池田遺跡 (森、1997) をはじめ、一宮市より葉栗郡木曽川町にかけての濃尾平野北西部の同時代の地層中から得られた昆虫化石群集とも共通している。

攪乱環境の 西上免および田所両遺跡より得られた昆虫化石群集には、ヒメコガネ・ドウガネブイブイなどの食植性昆虫と並び、地表性歩行虫がかなりの頻度で検出された。西上免遺跡 (弥生時代中期) では全産出点数 (141点) の52.5%にあたる74点がゴミムシ類、食糞ないし食屍性の地表性歩行虫 (15点) を含めると63.1%が地表性歩行虫で占められた。中世の田所遺跡では、同じく全産出点数 (931点) のうち17.8%がゴミムシ類、食糞ないし食屍性の地表性歩行虫 (89点) を含めると27.2%が地表性歩行虫であった。



第118図 西上免遺跡試料採取位置図

調査区	試料名	試料採取場所	時代
91A区	試料B	井戸内埋積物	中世

第30表 西上免遺跡91A区採取試料

第31表 田所遺跡から産出した昆虫化石

生態	和名	学名	試料A 92Gb SD28最下	試料B 92Gb SD28	試料C 92Gb SD26, 27	試料D 92Gb SD26下層	試料E 92Gb 昆虫2	試料F 92Gb 昆虫3	試料G 92Gb 昆虫4	試料H 92Gb 昆虫5	総計
水生 肉食性	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE		A1	A1	P1 W1		P1 W1	P3 W3 A3 L2	W1	18
	ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i> SHARP				P1 W4	W1	W3 T1	W7		25
	クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i> AUBE		T1					W1		2
	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE						T1			1
	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus pulverosus</i> (STEPHENS)			T1						1
	キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i> SHARP								W2	2
	マメゲンゴロウ属	<i>Agabus</i> sp.					P1 T2		T2		5
	クロズマメゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i> SHARP			P1						1
	ミズスマシ科	GYRINIDAE			T1						1
	ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i> SHARP				W1					1
	オオミズスマシ	<i>Dinocoris orientalis</i> MODEER			W8						8
	コガシラミズムシ	<i>Peltodytes intermedius</i> (SHARP)								W1	1
	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	W1	W3	W2		W1		L1		8
	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY		W1 L1	P2 W8 T2 A4 L4		P1	W1 L1	W2 L1		28
昆虫 植食性	コガムシ	<i>Hydrochus affinis</i> (SHARP)			W1 T1		H1		L1		4
	ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (FABRICIUS)			W1	L1				W1	3
	セマルガムシ	<i>Ceolostoma stultum</i> (VALKER)			W2	P1 W3	P1		P2 W6	P3	18
	マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i> (FABRICIUS)			W2	W3	W1		W3	W2	11
	タマガムシ	<i>Amphips mater</i> SHARP							W1		1
	キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i> (SHARP)							W1		1
	ミズクサハムシ属	<i>Platycormis</i> sp.							P1		1
地表性 食肉性	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.			A1	T2 A1	P1 W1	T1 A1	P1 A1 L1	P1 T1 A1 L1	15
	コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i> WATERHOUSE			W1				W1	W2	4
	カドマルエンマコガネ	<i>Onthophagus lenzii</i> HAROLD			P1	P1					2
	マダソコガネ属	<i>Aphodius</i> sp.							W1		1
	マダソコガネ	<i>Aphodius rectus</i> (MOTSCHULSKY)			P1 W1	W5	W1		W3	P3 W9	23
	エンマムシ科	HISTERIDAE							W2		2
	エンマムシ	<i>Microhister Jekeli</i> MARSEUL				P1					1
	シデムシ科	SILPHIDAE							W1		1
	ゴミムシ科	HARPALIDAE		A1	H2 P1 W4 T1 A5	H3 大顎1P7 W13 A7 L3	H1 P1 W3 A1 L3	P1 W1 A2 L1	H3 大顎1 P3 W4 T2 A9 L1	H7 P5 W12 T3 A3 L1	116
	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.				P1					1
	セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i> (SCHALLER)			W1	W1					2
	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.				W3	W1		W4	W1	9
	オオトックリゴミムシ	<i>Oodes vicarius</i> BATES			P1						1
	ヤマトトックリゴミムシ	<i>Lachnocerps Japonica</i> BATES			W1	W1					2
歩行 雑食性	ナガヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites terricola pacificus</i> BATES			W1 大顎1	H1 P2			P2 W1	P2	10
	アトキリゴミムシ亜科	LEBNIINAE								W1	1
	アオゴミムシ属	<i>Chlaenius</i> sp.				P1 W2	W1	A1	W4	P1	10
	スジアオゴミムシ	<i>Hapiochlaenius costiger</i> (CHAUPOIR)							W1		1
	アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i> MORAWITZ				W1				W1	2
	ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE			P1	P1	P2 W1 T1		P1	W1	8
	キマワリ属	<i>Plesiophthalmus</i> sp.								W1	1
	キマワリ	<i>Plesiophthalmus nigrocyanus</i> MOTSCHULSKY			W1						1
	ヒメナガキマワリ	<i>Strongylium impigrum</i> LEWIS			W1						1
陸生 植食性	コガネムシ科	SCARABAEIDAE			T1 A1 L1	P2 W4	W3	W2 L1	H1 P1 W6 A2 L3	P1	29
	スジコガネ亜科	RUTELINAE			L1	W1			P1 W1 L1		5
	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.			S1 P1 W1 T2 A1 L3	H1 P2 W2 A1 L3	P1		H1 S1 P4 W11 T1 L3	H2 S1 P2 W8 A1 L3	57
	スジコガネ	<i>Mimela lasiocarpus</i> MOTSCHULSKY			H1 P1				W1		3
	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE			W1 A1	W1 A1			P1 L1		6
	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	H3 P7 W31 A1 L4	H2 P32 T1 W59	H3 P22 W50 A5 L7	H1 P4 W6 A2 L1	H6 P31 W35 T1 A4 L15	H1 P6 W9 L2	P1	P3 W9 T1 L1	366
	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD			W1						1
	マメコガネ	<i>Popillia Japonica</i> NEVMANN							A1	W2 T1 A2 L2	8
	クロコガネ	<i>Holotrichia kiotoensis</i> BRENSKE			P1					P1	2
	ヒメカンショコガネ	<i>Apogonia amida</i> LEWIS								W1	1
	ハナムグリ亜科	CETONINAE							L1		1
	カナブン	<i>Rhombohina Japonica</i> HOPE			A1	S1					2
	ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis</i> MOTSCHULSKY			W9						9
	タワガタムシ科	LUCANIDAE			P1	P1					2
昆虫 型性	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE			W1	W2	L1		W6 L1	W3	14
	サルハムシ亜科	EUMOLPINAE			W1						1
	ルリハムシ	<i>Linacidea aenea</i> (LINNE)			W1						1
	ヤナギルリハムシ	<i>Plagiocera versicolora</i> (LAICHARTING)								W1	1
	コメツキムシ科	ELATERIDAE			W4	P1 W4	W2	P1	P1 W2		15
	アカアシオオクシコメツキ	<i>Melanotus cete</i> CANDEZE			P1		P1				2
	サビキコリ	<i>Agrypnus binodulus</i> (MOTSCHULSKY)				P1				P2	3
	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE				W2		W1	W6	W3 T1	13
	オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas</i> (FABRICIUS)							W1		1
	クワヒメゾウムシ	<i>Baris deplanata</i> ROELOFS							W1		1
	オトシブミ科	ATTELABIDAE				P1					1
	不明甲虫	COLEOPTERA			部位不明4	P2 触角1 部位不明4		W2 部位不明3	H2 L4 部位不明4	W1 L2 部位不明1	30
総計			47	102	204	126	127	45	158	122	931

(検出部位凡例)

W (Wing) : 鞘翅 H (Head) : 頭部 T (thorax) : 胸部 A (Abdomen) : 腹部 P (Pronotum) : 前胸背板 S (Scutellum) : 小楯板
 L (Legs) : 腿脛節 M (Mandible) : 大顎

地表性歩行虫の産出点数の多さは、昆虫化石を含有する地層が堆積した時代に、これらの昆虫がエサとする動物質ないしは植物起源の食物が地表面上に豊富に存在していたことを示すものと理解される。地表性歩行虫の過半を占めるゴミムシ類は、体節片のみから種を同定することはきわめて困難である。しかし、ゴミムシ類の環境による棲み分けが明瞭であることを考えると、鞘翅や前胸背板など遺跡中より検出される可能性の高い部位を用いたゴミムシ類の種同定についての検索マニュアルの確立が真に待たれるところである。

筆者は、実体顕微鏡に加え電子顕微鏡下で鞘翅表面の微細構造や、前胸背板の形状・背面の構造などを観察することにより、ゴミムシ類の一部の分類群について、属および種の同定が可能であることを確認した（森・前田、1993）。本分析では、この成果をもとに種レベルではセアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis*、ツヤマルガタゴミムシ *Amara obscuripes*、オオトックリゴミムシ *Oodes vicarius*、ヤマトトックリゴミムシ *Lachnocrepis japonica*、ナガヒョウタンゴミムシ *Scarites terricola pacificus*、スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger*、アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger* の7種、属レベルではナガゴミムシ属 *Pterostichus* sp.、アオゴミムシ属 *Chlaenius* sp.、ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp. の3属について、

第32表 西上免遺跡から産出した昆虫化石

生態		和名	学名	試料 A 94B SK28	試料 B 91A	総計
水生	食肉性	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	H1 W1 A4		6
		クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i> AUBE	W1		1
		ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	T1		1
		クロズマメゲンゴロウ	<i>Gaurodytes conspicuus</i> SHARP	W1		1
昆虫	食植性	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	P1		1
		ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i> (FABRICIUS)	W1		1
		セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	W2		2
		ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	P1		1
		キベリヒラタガムシ	<i>Enochrus japonicus</i> (SHARP)	P1		1
地表性	食糞性	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	P1 W1 T5 A1		8
		コブマルエンマコガネ	<i>Onthophagus atripennis</i> WATERHOUSE	P1 W2		3
		コマグソコガネ	<i>Aphodius pusillus</i> (HERBST)	W1		1
		エンマムシ科	HISTERIDAE	P1		1
		エンマムシ	<i>Hister jekeli</i> MARSEUL	W1		1
		コツヤエンマムシ	<i>Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus</i> (GYLLENHAL)	W1		1
歩行虫	食肉及び雑食性	ゴミムシ科	HARPALIDAE	H14 P12 W19 T2 A6 L1	P1	55
		ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	W4		4
		ツヤマルガタゴミムシ	<i>Amara obscuripes</i> BATES	W1		1
		セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i> (SCHALLER)	W8		8
		ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	P2 W1 A2		5
		キマワリ属	<i>Plesiophthalmus</i> sp.	W1		1
陸生の植生依存型昆虫	食	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	H1	W1	2
		スジコガネ亜科	RUTELINAE	L1		1
		サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	P1 W2 T1 A1 L3	W1 L2	11
	食植性	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	H1 P2 W6 A1	W2	12
		ヒメカンショコガネ	<i>Apogonia amida</i> LEWIS	W1		1
		ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	A1		1
		コメツキムシ科	ELATERIDAE	W1		1
		ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	W3		3
		ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i> (THUNBERG)	W1		1
		アリ科	FORMICIDAE	H1		1
不明甲虫	COLEOPTERA	W2 部位不明1		3		
総計				134	7	141

分類・同定を行った。

ゴミムシ類の種や属レベルの同定が可能になると、これらが生息する地表環境の温度・湿度・光条件・土壌・地表の形状・植生・他の動物相など、数多くの情報が得られることが期待される。石谷(1996a・1996b)は、ゴミムシ類をニッチ幅の狭い「攪乱回避型種群」とニッチ幅の広い「攪乱後侵入型種群」に2大別し、ゴミムシ類の計72種について環境指標値を求めている。これによるとエゾカタビロオサムシ*Campalita chinense*ほか26種は環境指標値が1.00であり「攪乱回避型種群」に、またセアカヒラタゴミムシの環境指標値は最低値の0.26となり「攪乱後侵入型種群」の代表種であるとした(石谷、1996b)。セアカヒラタゴミムシは、本分析では西上免遺跡より8点、田所遺跡より2点検出されている。

筆者は遺跡産出の昆虫化石の分析と並行し、日本各地の種々の環境下における昆虫相を把握することを目標に、バイトトラップ法やライトトラップ法などを利用して採集・調査を継続してきた。セアカヒラタゴミムシは、初夏から盛夏にかけての頃、バイトトラップ法により、三重県多度町古野(Site-0111)・同員弁町平古(Site-0221)・同藤原町坂本(Site-0415)など、いずれも中位段丘ないしはこれに相当する扇状地性の水はけの良い畑地や人家周辺から多くの個体が得られている。本種は、石谷(1996b)でも不安定な環境の代表種とされており、歴史時代以降、人為による攪乱リスクの高い住居の周りや農耕地(主に畑作地)などに積極的に進出し、個体数を増加させた種群であると考えられる。

一方、田所・西上免両遺跡からは、ツヤヒラタゴミムシ属・アトボシアオゴミムシなどのゴミムシ類が検出されている。両分類群は攪乱から時間の経過した安定した環境の指標種とされ(石谷、1996b)、また田所遺跡より発見されたナガヒョウタンゴミムシは最近の水没から間もない環境の指標種であるといわれる(石谷、1996b)。このように、本昆虫化石群集の地表性步行虫の中には、攪乱後侵入型種群(攪乱耐性型昆虫)と攪乱回避型種群(攪乱回避型昆虫)の両者が混在している。前者は人の介在が顕著な人為度の高い環境下に生息していた昆虫であり、後者は出水や河道変遷の結果、人為による影響がほとんど認められなくなった時期に生活していた昆虫であると考えられる。

本分析により、セアカヒラタゴミムシなど攪乱耐性型昆虫は、すでに弥生時代中期(西上免遺跡)には人里周辺に進出し、中世(田所遺跡)になると畑作地の周囲で他の分類群とともに普通種として定着していたことが明らかになった。

文 献

- 石谷正宇(1996a) 環境指標としての地表徘徊性ゴミムシ類、特集/地表性甲虫、昆虫と自然、31(12)、ニュー・サイエンス社、2-7。
 石谷正宇(1996b) 環境指標としてのゴミムシ類(甲虫目:オサムシ科、ホソクビゴミムシ科)に関する生態学的研究、比和科学博物館研究報告、34、1-110。
 森 勇一・前田弘子(1993) 珪藻および昆虫化石群集から得られた岡島遺跡の古環境変遷、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第43集)岡島遺跡Ⅱ・不馬入遺跡、愛知県埋蔵文化財センター、87-132。
 森 勇一(1994) 昆虫化石による先史-歴史時代における古環境の変遷の復元、第四紀研究、33(5)、331-349。
 森 勇一(1996) 愛知県一宮市大毛沖遺跡より得られた昆虫群集について、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第66集)大毛沖遺跡、愛知県埋蔵文化財センター、188-194。
 森 勇一(1997) 畑作農村地帯を特徴づける愛知県大毛池田遺跡(中世)の食植性昆虫について、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書(第72集)大毛池田遺跡、愛知県埋蔵文化財センター、139-143。
 富永 修(1994) 日本の遺跡から産出した昆虫遺体のリスト、特集/考古遺跡の昆虫遺体、昆虫と自然、29(8)、ニュー・サイエンス社、33-41。
 富永 修(1996) 地表性甲虫-歴史を語るもの、特集/地表性甲虫、昆虫と自然、31(12)、ニュー・サイエンス社、8-12。

第5節 鉄滓類の分析

田所遺跡出土の鉄滓等について、化学成分分析を含む自然科学的な観点での分析を川鉄テクノロジーに委託し実施した。本報告はこの報告書をもとに一部改変したものである。

調査項目お (1) 化学成分分析

よび分析方 化学成分分析はJISの分析法に準じておこなった。分析結果を第33表に示す。ここでは
法 化学成分から鉄をつくるために使用した原料の推定と、生産工程のどの部分で発生した鉄滓かの判断用データを得るためにおこなった。

(2) 顕微鏡組織観察

試料の一部を切り出し、樹脂に埋め込み、細かい研磨剤等で研磨（鏡面仕上げ）し、顕微鏡で観察した。溶融状況や鉱物の混合状態等から加工工程や鉄滓の材質を判断するものである。

(3) X線回折測定

試料を粉砕して板状に形成し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有の反射（回折）されたX線が観察される。これを利用して、試料中の未知の化合物を同定した。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

(4) 重量測定と磁着力調査

電子天秤を使用して計重した。また、磁着力調査については、直径30mm、1300 Gauss（0.13 Tesla）のリング状フェライト磁石を使用し、官能試験により「強・やや強・中・弱・なし」の5ランクで表示した。

調査結果概 田所遺跡の分析結果を総合すると次のように分類される。(1) 長期間水分との接触の
要 機会が多かったものが多い。(2) 水酸化鉄と土の固着した資料が多い。(3) 完全に錆化した鉄片が多く、鉄器の原型を残すものもあった。また、錆化した片と思われるものもあった。(4) 鍛冶場の炉中で発生して、ほぼ完全な形で残っている梃型鍛冶滓もあった。(5) 金属鉄は原料が砂鉄とは判断できないものであった。(6) 何らかの原因で上記鉄滓を再利用するためか、別の目的のために割り欠いたような比較的小さいサイズのそろっている鉄滓の小片が多い。

まとめ 結果の(1)～(3)に示したように、田所遺跡での鉄滓の特徴は、水分との接触の機会が多かったと推定される。また、鉄の原料となったものが砂鉄とは断定できないものが多く、とくに金属鉄の中に閉じこめられている介在物の情報からは、チタン・バナジウム等が全く検出されない。これはこれからの研究課題であろう。

鉄は当初より再加工（いわゆるリサイクル）の可能な素材として利用されてきたと考えられる。そのため鍛冶場には各所で生産された鉄が持ち込まれたと考えるのが妥当である。素材である鉄や鉄塊がどこで生産されたものとか、製鉄技術の進歩の状況等の問題点については、特定製鉄遺跡に付随する鍛冶工房や、製品としての鉄器類での追跡調査研究を進めていく過程でさらに解明されることを期待する。

試料番号	調査区	遺構	グリッド	採取年月日	形状	磁着力	重量(g)	分析結果概要
1	91A	SD07	IVA6n	920217	鉄滓	中	94.5	長さ75ミリ縦横30ミリの各材サイズの鉄滓。水酸化鉄に覆われている。メタル分なし。
2	91A	SK16	IVA7I	920218	鉄滓	中	27	40ミリ×30ミリ。礫状。黒色発砲部あり。
3	91A	SK52	IVA8j	920219	鉄滓	弱	45.6	60ミリ×30ミリ。水酸化鉄に覆われている。形は椀型滓の断片状である。
4	92Aa	SK251	VE15b	920908	鉄滓	中	33.1	径25ミリの礫状。表面にひび割れあり。部分的に褐色。メタル反応あり。
5	92Aa	SB16	VE11,12a,b	921029	鉄滓	やや弱	73.3	55ミリ×40ミリ。ごつごつした感じ。
6	92Aa	SB17-P4	VW14b	920825	鉄滓	中	39	2.4g、4.5g、32.1g。の3塊。大きい資料が磁着力中。小片は弱。
7	92Aa	SB08	-	-	?	やや弱	10.2	2.5ミリ30ミリ角状小片。黒色発砲滓。熔融炉壁状も呈する。炉材噛み込み。
8	92Aa	SB08	-	920917	鉄滓	弱	16	表面は粗く凹凸が激しく、付着砂が多く入り込んでいる。発砲痕著しい。
9	92Aa	SK354	VID16,17t	920910	鉄滓	やや強	21.5	黒色熔融滓。40ミリ×20ミリで一部突出。小片の割りに質重感あり。植物繊維痕あり。
10	92Aa	検Ⅲ	VE14b	920911	鉄滓	中	35	40ミリ×30ミリ。礫状。水酸化鉄に覆われている。
11	92Aa	SB22-P1	VID14t	920724	鉄滓?	やや強	21.4	長さ50ミリ巾30ミリの土砂、小片の噛み込み植物繊維痕の多い資料。茶褐色部あり。
12	92Aa	SB03	VIG14,15a	920724	椀型滓	やや弱	60	ごつごつし、砂付着の多い滓。中央部凹で椀型滓の断片状。
13	92Aa	SB03	VIG14,15a	-	鉄滓	中	56.1	発砲痕著しい偏平な滓と1g程度の細片計11片から構成された資料。
14	92Aa	SB12	-	-	鉄滓	弱	19.5	土砂の付着が著しい小片2個。
15	92Aa	SB12	-	-	鉄滓	強	21	9.4g、11.6gの小片。酸化鉄塊状。メタル反応なし。断面観察の要あり。
17	92Aa	検Ⅲ	VIG15a VIF15t	920729	鉄滓	弱	31.1	黒色発砲の凹凸のある滓。5gの小粒な滓を伴っている。
18	92Aa	検Ⅲ	VIF14t VIG14a	920803	鉄滓	中	22.9	資料17と同様、小片2点で構成。
19	92Aa	検Ⅲ	VE14,15b	920909	鉄滓	中	33.5	4.2gの球状小塊を共伴。砂付着の多い資料。
20	92Aa	検Ⅱ	VIG14a	920729	鉄滓	やや弱	61.6	3片で構成。砂付着の多い滓。47gの偏平な鉄滓を調査対象とする。
21	92Aa	検Ⅱ	VIF15t VIG15a	920727	鉄滓	やや弱	43	小枝状の酸化鉄片および礫状鉄滓2点と共伴。
22	92Ab	検Ⅱ	VE11a,b	921019	鉄滓	弱	8.4	熔融してガラス状の部分がある小片。
23	92Ab	検Ⅱ	VIG11a,b	921021	鉄滓	弱	20.2	30ミリ×20ミリ。礫状の資料22と類似の鉄滓。
24	92Ab	検Ⅲ	VE11a,b	921105	鉄滓	弱	11.2	砂礫と水酸化鉄が多量に付着している径20ミリ程度の空豆状。
25	92Ab	検Ⅱ	VIF17t VIG17a	920723	鉄滓	弱	138.6	11.6gの酸化鉄塊を伴っている。水酸化鉄で覆われている大塊を調査対象とする。
26	92Aa	検Ⅱ	VIF17t VIG17a,b	920727	鉄滓	中	25.7	1.5gの小枝状酸化鉄塊を伴っている。下部に炉材の付着した小型の滓である。
27	92Aa	検Ⅱ	VE15b	920729	鉄滓	弱	20.2	5.8gの酸化鉄塊を伴う。黒色発砲の小片。

第33表 鉄滓分析結果概要

鉄滓関係

単位：％(m/m)

成分 試料No	T.Fe	M.Fe	FeO	Fe ₂ O ₃	SiO ₂	Al ₂ O ₃	CaO	MgO	TiO ₂	MnO	P ₂ O ₅	Cr ₂ O ₃	Na ₂ O	K ₂ O	C	V	Cu	C・W
1	47.0	0.06	4.42	62.2	20.2	3.76	0.24	<0.1	0.14	0.10	0.13	0.01	0.60	0.74	0.58	<0.01	<0.01	6.24
2	36.4	0.08	31.8	16.6	39.1	5.76	1.60	0.37	0.25	0.18	0.25	0.02	0.64	2.02	0.12	0.01	<0.01	1.21
3	45.5	0.11	34.5	26.6	23.5	6.40	0.55	0.10	0.24	0.14	0.24	0.01	0.33	0.70	0.39	0.01	<0.01	3.65
4	35.6	0.22	1.01	49.5	31.3	4.94	0.57	0.10	0.18	0.11	2.02	0.01	0.93	1.15	0.39	0.01	<0.01	5.56
5	58.7	0.20	47.3	31.1	14.2	2.39	0.76	0.14	0.11	0.15	0.48	0.04	0.36	0.59	0.13	0.03	<0.01	1.24
6	36.2	0.15	4.85	46.2	31.8	5.55	0.62	<0.1	0.19	0.11	1.26	0.01	0.99	1.33	1.49	0.01	0.05	4.66
10	50.0	0.36	48.0	17.6	27.0	3.09	0.55	0.19	0.17	0.13	0.16	0.01	0.26	0.55	0.21	0.01	0.01	1.63
12	62.8	0.17	67.8	14.2	11.3	1.36	0.78	<0.1	<0.1	0.15	0.12	<0.01	0.17	0.54	0.15	0.01	<0.01	1.24
13	41.0	0.06	45.3	8.19	34.9	5.75	1.53	0.43	0.24	0.17	0.25	0.01	0.94	1.71	0.063	<0.01	<0.01	0.46
16	66.3	43.6	3.34	28.7	11.3	1.76	0.13	<0.1	<0.1	<0.1	0.59	0.03	0.33	0.41	1.99	<0.01	0.01	3.21
17	53.8	0.32	56.8	13.3	20.9	2.71	1.91	0.31	0.24	0.22	0.28	0.01	0.33	1.25	0.11	0.03	<0.01	0.90
19	42.7	0.08	33.8	23.4	29.9	5.70	1.15	0.29	0.20	0.12	0.54	0.01	0.83	1.47	0.22	<0.01	0.01	2.21
20	48.8	0.17	37.0	28.4	23.5	4.57	0.86	<0.1	0.17	0.11	0.40	0.01	0.69	1.07	0.40	0.01	<0.01	2.29
21	39.4	0.17	13.3	41.3	35.5	3.24	0.80	0.25	0.15	0.18	0.21	0.01	0.46	1.01	0.31	0.01	0.01	3.05
23	61.1	0.08	68.4	11.2	13.1	2.14	1.25	0.31	0.16	0.10	0.22	0.01	0.25	1.05	0.078	0.01	<0.01	0.43
25	29.9	0.11	11.1	30.3	41.9	7.66	0.82	0.35	0.28	0.14	0.20	0.01	1.32	1.79	0.31	<0.01	0.12	3.38

【分析方法】 鉄滓等の分析方法はJ I S法に準拠し、以下の方法とした。

T.Fe：三塩化チタン還元－ニクロム酸カリウム滴定法

M.Fe：臭素メタノール分解－EDTA滴定法

FeO：ニクロム酸カリウム滴定法

Fe₂O₃：計 算

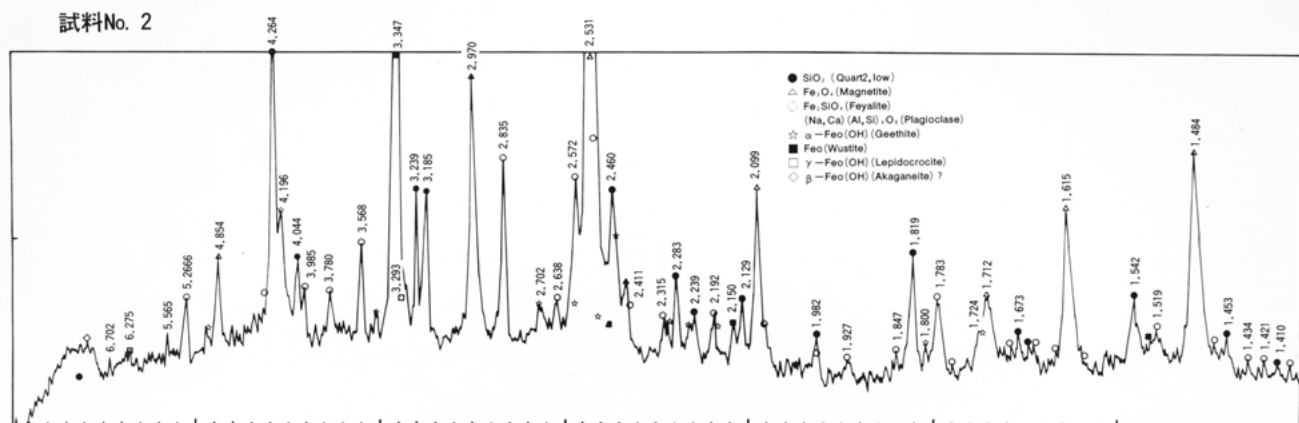
C・W：カールフィッシャー法

C：燃焼－赤外線吸収法

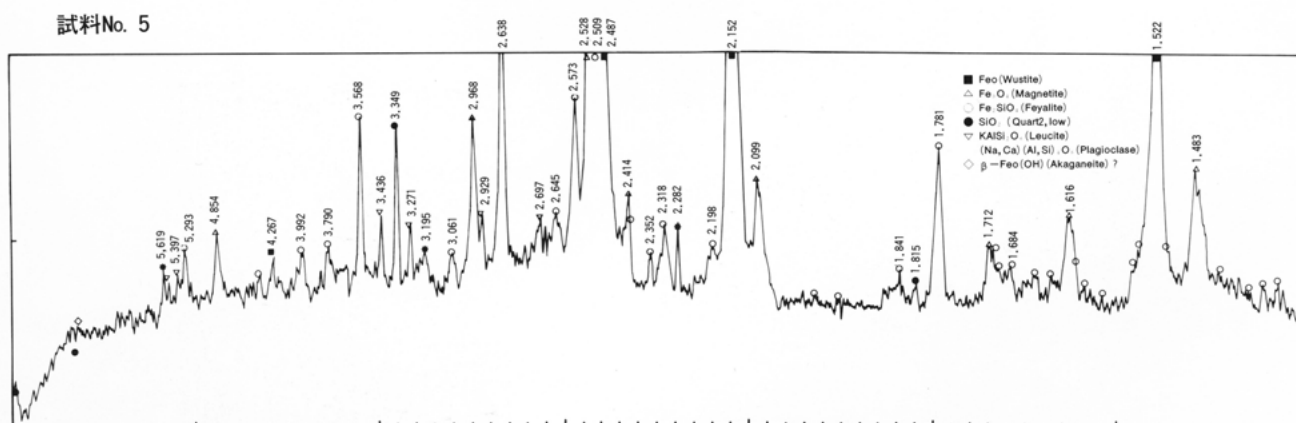
Cr₂O₃, Na₂O, V, Cu：原子吸光法

SiO₂, Al₂O₃, CaO
MgO, TiO₂, MnO }：ガラスビード蛍光X線分析法
P₂O₅, K₂O

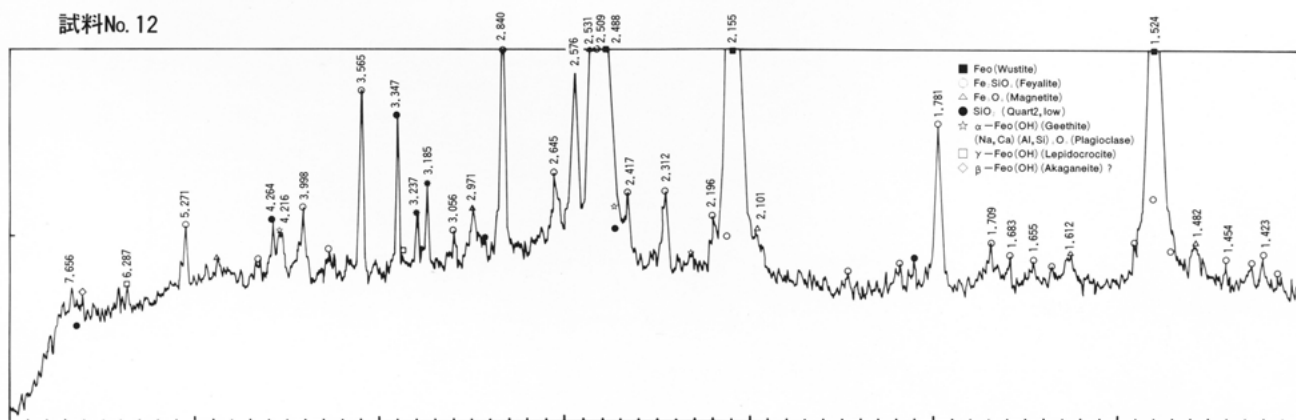
第34表 鉄滓化学成分一覧表



第119図 X線回析測定結果図(1)



第120図 X線回析測定結果図(2)

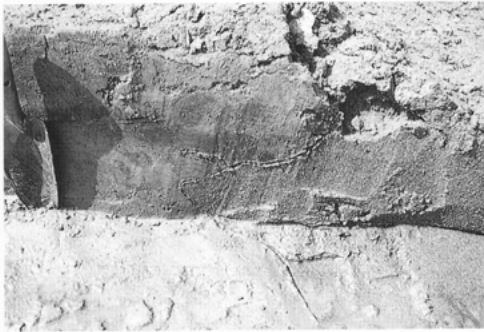


第121図 X線回析測定結果図(3)

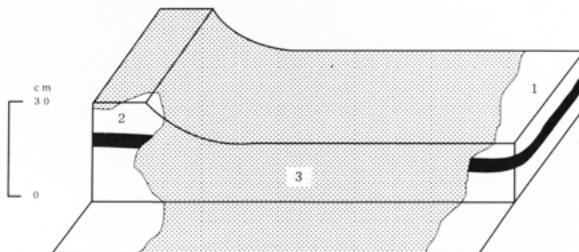
第6節 田所遺跡の地震痕跡

低湿地の遺跡の発掘調査において、歴史時代の地震の痕跡が確認されることがあり、これを研究対象とする地震考古学（寒川、1988）という研究領域も確立している。田所遺跡と同様に、東海北陸自動車道建設に先立って行われた北道手遺跡や大毛沖遺跡などからも、やはり歴史時代の地震の痕跡が報告されている（服部、1996a、1996b）。ここでは、田所遺跡で確認された歴史地震の痕跡を記載し、その発生年代について考察する。

<92Aa区の 地震痕> 92Aa区は、下層より灰褐色中粒砂層、灰褐色シルト層、暗灰色シルト層、灰褐色シルト層（古墳時代水田土壌）、褐色シルト層（奈良時代包含層）の順に堆積している。地震痕は第122図に示すように灰褐色中粒砂層を給源とし、暗灰色シルト層および灰褐色シルト層（古墳時代水田土壌）を引き裂き、その水田畦畔上に広がる噴砂丘を有する噴砂として確認された。噴砂の形状は、噴き出し口がほぼ楕円形を呈しており、その規模は、長径



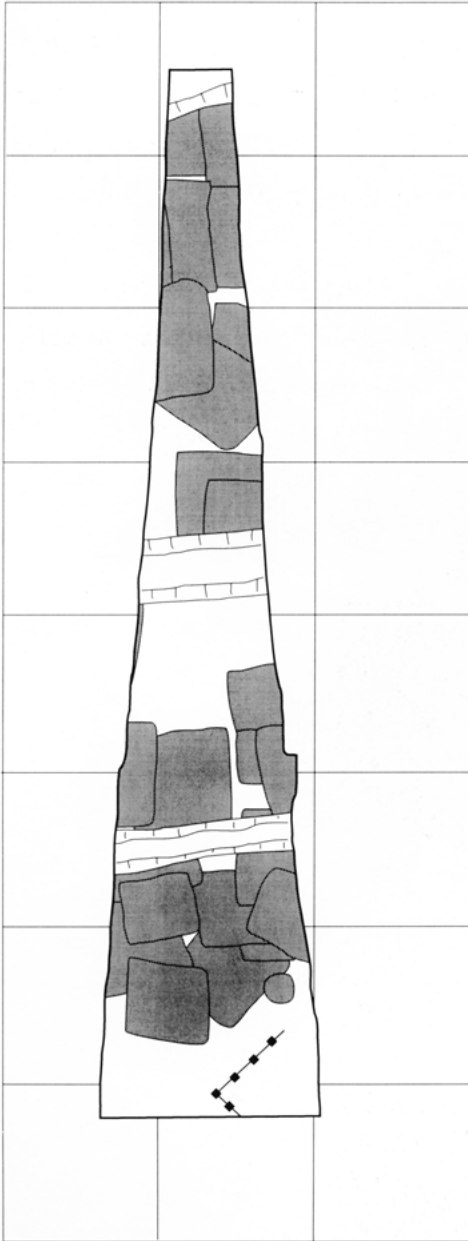
上：92Aa区の噴砂断面
右：92Aa区の噴砂の広がり



第122図 92Aa区噴砂スケッチ図

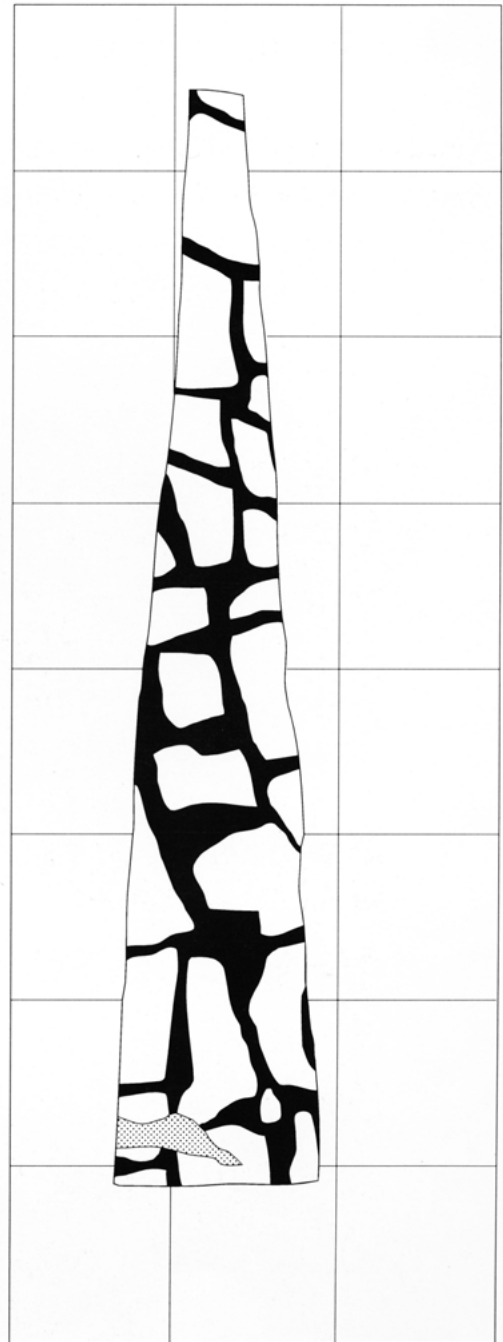
で約3m、旧地表面では第123図に示すような広がりを呈する。噴砂は給源となる砂層から約30cm上昇している。

噴砂丘は、新期の遺構である竪穴住居群によりその上端部を掘削されている。なお、この竪穴住居群の年代は、出土遺物より黒笹14号窯～折戸53号窯式に比定される。



第123図 上面：竪穴住居跡検出状況

92Aa区の噴砂検出状況
上面では噴砂は検出されないが、下面で噴砂の広がりを確認することができる。



第124図 下面：古墳時代水田と噴砂検出状況

<95Aa区の地震痕> 95Aa区は、下層より灰色中粒砂層、灰褐色砂質シルト層、灰褐色中粒砂層、灰色シルト層、灰褐色粘土層（古墳時代水田土壌）、灰色シルト層（奈良時代包含層）の順に堆積している。地震痕は灰色中粒砂層を給源とし、灰褐色砂質シルト層および灰褐色中粒砂層を引き裂いて噴き出し、上端部を洪水性の砂層である灰褐色中粒砂層に削剥された状態の中粒砂よりなる砂脈として確認された。噴出口の形態は確認できなかったが、断面においては砂脈下端部で幅1m、給源の砂層から60～80cm程度上昇している様子が観察された。噴出時に周囲から取り込んだと思われる40×60cm程度のシルト塊を挟み、枝分かれしているような状況を呈している。なお、砂脈および引き裂かれている灰褐色砂質シルト層を削剥し、これを覆っている灰褐色中粒砂層からは年代を示す考古遺物は得られていない。

<93J区の地震痕> 93J区は下層より灰白色中粒砂層、灰褐色シルト層、黒褐色シルト層、灰褐色シルト層、明黄灰色粗～中粒砂層よりなる。確認された地震痕は、砂脈で黒褐色シルト層を引き裂いて噴き出しているが、上端部がどの層準まで達しているかは不明である。また砂の噴き出しによる砂層内の体積減少で黒褐色シルト層の陥没と変形構造が確認された。



95Aa 区の砂脈



93J 区の地層の変形

＜田所遺跡の地震発生履歴＞

以上のような観察所見から推定される田所遺跡における歴史時代の地震発生履歴についての若干の考察を加えてみる。なお、ここで扱う地震の規模は、地層中に液状化の痕跡を残すものであり、最低でも震度5以上のものである。従って、防災基準の整備された現代とはくらべものにならないような被害が生じたことは想像出来よう。

まず、92Aa区の地震痕については、噴砂として畦畔部分から5世紀中頃の宇田型甕を検出した古墳時代後期の水田を引き裂き、その畦畔上に広がり、かつ黒笹14号窯～折戸53号窯式(9～10世紀頃)に比定される竪穴住居群に噴砂上端部を掘削されていることから年代幅の絞り込みが可能になる。この噴砂は、水田畦畔上に広がりを持つことから、上層に展開する竪穴住居群よりもむしろ水田が営まれていた年代に近い時期の地震によるものと考えることが妥当であろう。「新編日本被害地震総覧」(宇佐美、1996)によるこの間の年代に相当する地震として、684年の白鳳南海地震、715年の三河国府を震源とする地震、745年の美濃国府を震源とする地震がある。白鳳南海地震は、東海地方とは関係のない地震と考えられるが、寒川(1992など)により静岡県坂尻遺跡、川合遺跡などでこれに対応する東海地震の存在が確実視されている。服部(1993)は、出土遺物の整理が進んでいない段階で、この92Aa区の噴砂を古墳時代後期より新しく、奈良・平安時代よりも古い地震として白鳳南海地震としていたが、現時点ではさらに古い時代の地震である可能性も否定できなくなった。この問題については、田所遺跡周辺の遺跡で検出されている地震痕の年代と共に改めて検討しなくてはならない。

95Aa区の地震痕の地震痕については、砂脈の影響を受けた地層中から年代を示す考古遺物は得られていないために、起源となる地震の発生年代は特定出来ない。しかしながら、古墳時代後期の水田土壌が形成される以前に洪水により砂脈上端部を削剥されていることから、最低でも水田の時期よりは古いことがわかる。

93J区の地震痕についても形成時期不明であるが、噴砂による支持層の堆積減少から発生した黒褐色シルト層の陥没が、比較的速やかに埋積されているように観察されることから、黒褐色シルト層形成直後の可能性が考えられる。しかしながら黒褐色シルト層の形成年代をしめす考古遺物は検出されていない。

田所遺跡では、この他に1891年の濃尾地震により形成された地震痕を多数検出している。地震痕の形態はそのほとんどが砂脈で、上端部は最近の水田あるいは畑の耕作により削り取られている。

文 献

- 宇佐美龍夫(1996)新編日本被害地震総覧増補改訂版。東京大学出版会。
- 寒川旭(1988)考古学の研究対象に認められる地震の痕跡。古代学研究, 116, 1-26。
- 寒川旭(1992)地震考古学—遺跡が語る地震の歴史—。中央公論社。
- 服部俊之(1993)濃尾平野における歴史時代の地震痕。(財)愛知県埋蔵文化財センター年報平成4年度, 126-136。
- 服部俊之(1996a)北道手遺跡の地震の痕跡。愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第67集 北道手遺跡, 74-79。
- 服部俊之(1996b)歴史時代の自然災害。愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第66集 大毛沖遺跡, 154-159。

第5章 まとめ

第1節 田所遺跡出土の中国陶磁器について

田所遺跡から出土した中国陶磁器の破片総数は296点、その内訳は白磁143点、青白磁9点、青磁142点、青花2点となる（表36）。出土した破片はほとんどが小片であり、口縁部または高台部が確認できる破片は126点で、しかも半数以上の口縁部・高台部の残存率が12分の2以下である。従来の研究（*1）では、中国陶磁器は口縁部形態、高台部形態、紋様構成によって分類されており、本遺跡出土の小片では分類可能なものも少なく、遺構内からの出土も少数であるが、尾張北部における中国陶磁器出土の一例として分類と遺跡内の分布の傾向について触れたい。

1. 分類（第125図、第126図）

白磁 確認できる白磁の破片は143点。器種別では碗121点、皿16点、四耳壺2点、瓶3点となる。

碗 875・876は口縁部が小さい玉縁状になる。釉はうすく全体に貫入が見られる。875は体部がやや丸味をもち、釉色はうすい緑色がかった灰白色であるが、876は体部が直線的で、釉色は黄色味をおびた灰白色。（太宰府編年Ⅱ類・Ⅲ類）

778は口縁部を玉縁にする。釉は灰色をおびた白色で厚めにかけられる。877は幅が広く削り出しが浅い高台で、外面体部下半と高台内には施釉されない。見込み付近に沈線状の段をもつ。（太宰府編年Ⅳ類）

191は口縁部を外反させる。418・837・878・879は口縁部を外反させ端部を水平にする。体部内面の上位に浅い沈線をもつ418・837と体部内面に櫛状工具で紋様を描く878・879がある。（太宰府編年Ⅴ類）

838は底部内面の釉を輪状に掻き取ったもの。見込み付近に細い沈線をいれる。811・881は体部が口縁部にかけて直線的にのび、口縁部近くに一条の沈線をいれる。（太宰府編年Ⅶ類）

880・662は口縁部を外反させるもの。885・884は体部が直線的に外方向へのびる。口縁部形態しか確認できないため太宰府編年Ⅴ類かⅦ類としか言えない。

882・883・810は口縁端部に施釉しないいわゆる口禿のもの。釉はうすく、青味をおびた灰白色である。（太宰府編年Ⅸ類）

皿 886・417は体部を内弯させる皿。497は外面体部下半から底部にかけて施釉されない。

887・498は口縁端部が口禿になるもの。（太宰府編年Ⅸ類）

888は口縁部を外反させ、釉はうすくかけられる。（白磁皿E群）

779は器肉が厚く体部中位から口縁部にかけて外方向にひらく皿。

壺 500は四耳壺。釉はやや黄色味をおびた灰白色で、頸部に製作時の継ぎ目の痕跡がみられる。

瓶 小片で図化できなかったが体部に3本の縦沈線がはいる瓶がある。

青磁 青磁は同安窯系と龍泉窯系に区別できる。同安窯系28点、龍泉窯系111点。

同安窯系 確認できる器種は碗18点、皿10点。

碗 891は体部外面に細かい櫛目紋を有する。釉色はうすい緑がかった青色。(同安窯系Ⅰ類)

皿 893・892・979・419は体部が屈曲し口縁部が外方向へひらく。892は外面体部下半と底部には施釉されず、内外面ともに無紋。419は全面施釉の後、底部の釉を掻き取っている。見込みにはヘラ状工具による片彫りとジグザグ紋様をもつ。(同安窯系Ⅰ類)

龍泉窯系 確認できる器種は碗96点、小碗1点、皿11点、瓶1点。

碗 894は体部外面は無紋、内面に紋様を有する。895・896は底部の器肉が厚く、高台の断面四角形で露胎。見込みに紋様を有する。(龍泉窯系Ⅰ類)

746・190・812・980・897は体部外面に鎬連弁紋を有する。746は口縁部がやや外反する。

897は底部の器肉が厚く、台形状の高台を浅く削り出している。(龍泉窯系B1類)

661・813は体部外面がヘラ描きの連弁紋碗。(龍泉窯系B3類)

線描きの大きな連弁紋碗(龍泉窯系B2類)、細い線描きの連弁紋碗(龍泉窯系B4類)、高台の断面が細い三角形になる鎬連弁碗(龍泉窯系B0類)なども確認できる。

898は体部外面に連弁紋を施し、胎土は黒色である。他の窯系である可能性もある。

899は口縁部を外反させる碗。内外面とも無紋である。(龍泉窯系D類)

口縁部が直口し内外面とも無紋の碗が1点確認できる。(龍泉窯系E類)

皿 192・901は体部中位で屈曲し、901は口縁端部をうすく引き出している。900は見込みに花紋を櫛状工具で描き、釉は焼成前に掻き取られている。(龍泉窯系Ⅰ類)

902は口縁部を外反させ端部を上引き出した皿で、体部内面を菊状にする。

青白磁 確認できる器種は碗1点、皿4点、合子4点。

皿 899は口縁部に施釉されない口禿の皿。

合子 499・890は合子の身。499は福建～広東窯産のものと思われる。

青花 確認できる器種は皿2点。

皿 663・903は口縁部がやや内弯し、底部が碁笥底になる皿。紋様構成は外面口縁部に波濤紋、体部外面に芭蕉葉紋を描く。(染付皿C群)

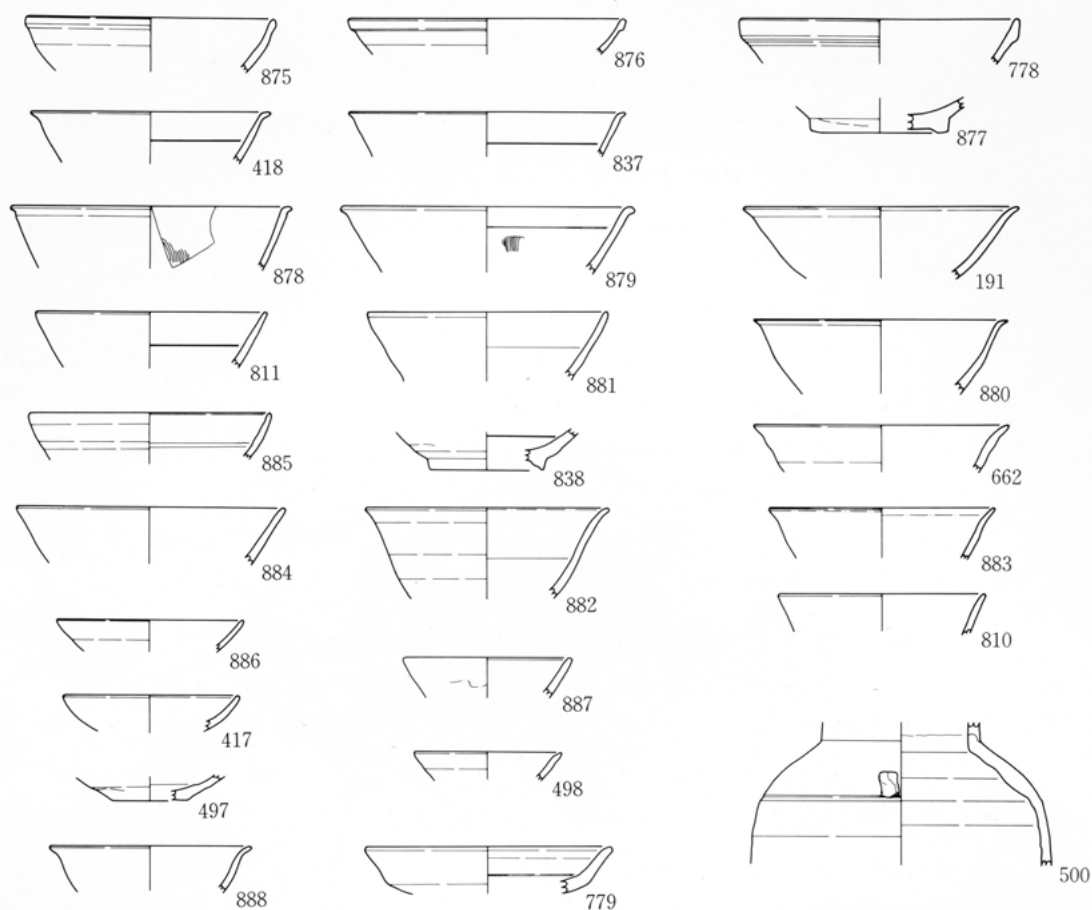
2. 分布の傾向と時期

遺跡内における中国陶磁器の出土数の割合は白磁が48%、青磁が48%と同じである。さらに、分布の状況を比較してみても全体的にはほぼ同じような傾向を示している(図127)。

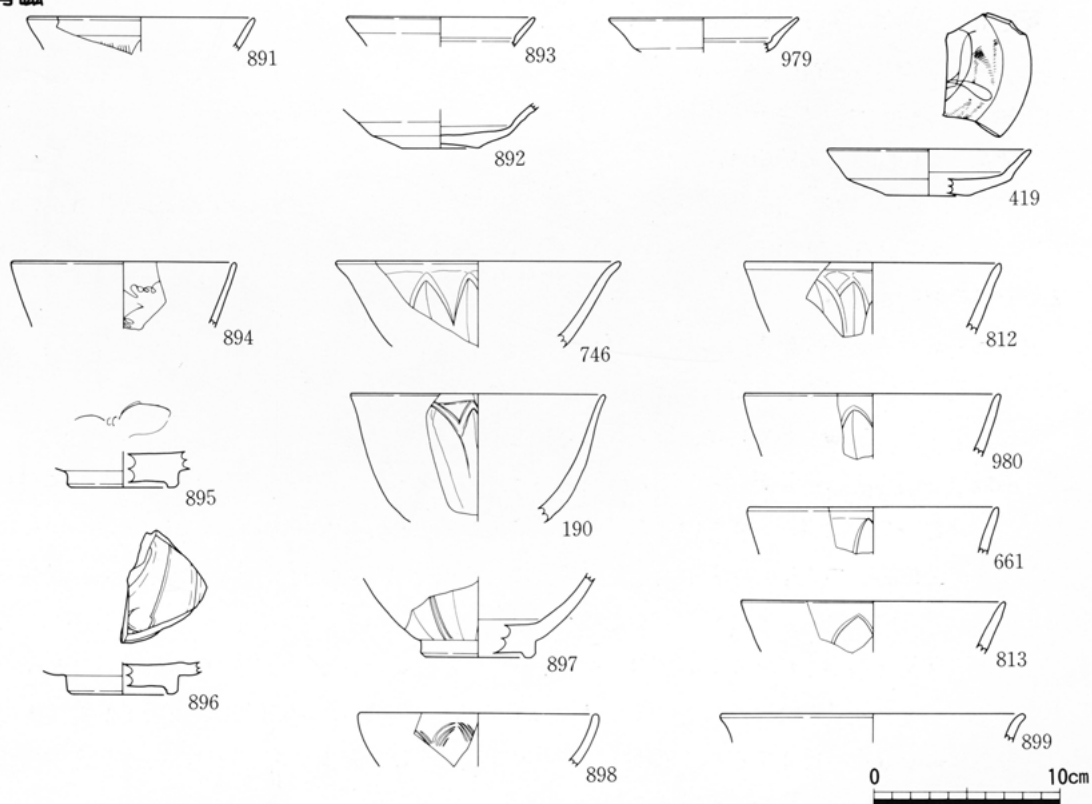
次に、出土した遺構の時期と中国陶磁器の時期を照らし合わせてみる。

白磁 太宰府編年Ⅱ類からⅤ類の時期は11世紀中葉から12世紀の初頭とされている。本遺跡において、太宰府編年Ⅱ類からⅤ類と確認できる破片は12世紀後半から13世紀前半の遺物が主体を占める遺構から出土している。太宰府編年Ⅷ類の時期は12世紀後半から13世紀前半とされている。この類は12世紀末から13世紀初めが主体となる井戸SE08で碗(838)と13世紀後半が主体となる井戸SE10で碗(811)が確認できる。太宰府編年Ⅸ類は13世紀中葉から14世紀中葉とされている。井戸SE10から碗(810)が1点、12世紀後半から13世紀初めの遺物が主体を占めるSD214から皿(417)が、12世紀後半から13世紀前半の遺物主体のSD220から皿(498)が出土している。

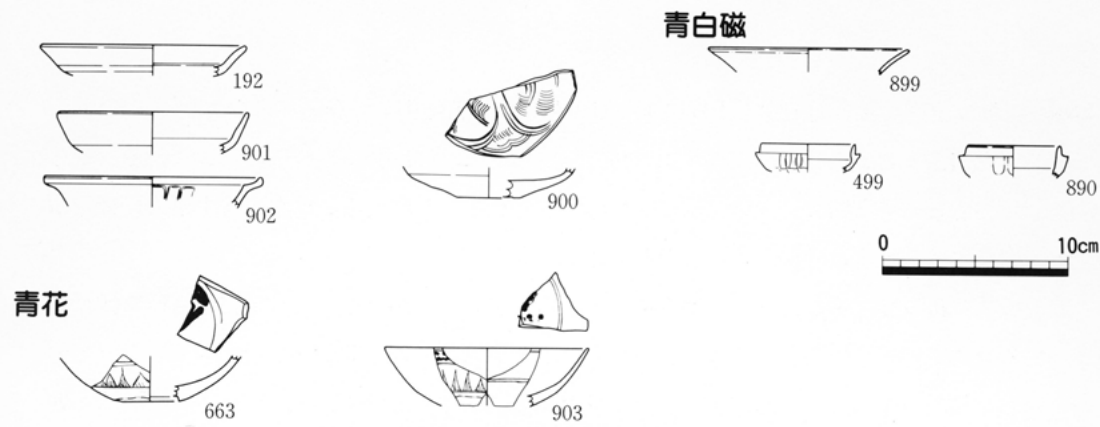
白磁



青磁



第125図 中国陶磁器実測図(1)



第126図 中国陶磁器実測図（2）



第127図 中国陶磁器出土分布図

	白磁	青白磁	青磁	計
93K	1			1
93Eb			1	1
93F			1	1
92E	1			1
94Ba	4		3	7
94Bb	3		1	4
94Ab	7			7
93J	1		2	3
92D	2		1	3
94Aa			1	1
92Aa	4	1	3	8
95Aa	1		1	2
93Ha	1			1
95Ab			1	1
93G	2		5	7
92H	3	1	6	10

第35表 分布図以外の出土
中国陶磁器一覧表

青磁 同安窯系Ⅰ類と龍泉窯系Ⅰ類の碗・皿の時期は12世紀中葉から13世紀初頭とされている。同安窯系Ⅰ類と確認できる碗・皿はSD01・SD02・SD214（419）から出土している。さらに、龍泉窯系Ⅰ類については、SD214からの出土が7点を数える。12世紀後半から13世紀初頭を主体とする遺構からの出土が多く確認できる。

次に鎬蓮弁文をもつ碗。太宰府編年では龍泉窯系Ⅰ-5類とされ国立歴史民俗博物館による分類基準では龍泉窯系碗B 1類となる。B 1類は13世紀中葉から14世紀初頭とされている。墳墓堂を巡る溝SD03の東側部分（旧92Gb区SD26）からは古瀬戸の水注（743）・四耳壺（745）と碗（746）が出土している。龍泉窯系B 2類は14世紀末から15世紀初めとされている。13世紀後半を主体とする井戸SE10から碗（813）が出土している。その他、龍泉窯系B 3類、D類、E類の存在も確認できるがいずれも包含層からの出土である。

以上のことから中国陶磁器は太宰府編年そのものの時期よりも新しい時期の遺構から出土していると言える。

3. まとめ

田所遺跡は93Ⅲ区の北部に善光寺街道が通り、この街道を境に遺構の性格が異なることが中国陶磁器も含めた他の特殊遺物の出土状況から窺える。街道の北側が墓域、南側には集落が展開している。白磁・青磁ともに南側の集落部分からの出土が多く、11世紀中葉から12世紀初めの時期とする白磁と12世紀中葉から14世紀中葉の時期とする青磁は同じような分布の傾向を示し、15世紀代から16世紀にかけての中国陶磁器の出土は僅かである。中国陶磁器からみた田所遺跡の南側集落は12世紀後半から14世紀初めにかけて生活面があったものと考えられる。

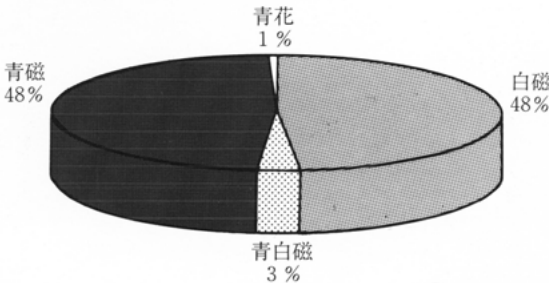
さらに尾張北部の中世の遺跡から出土する中国陶磁器を考察するためには、田所遺跡の近隣に位置する大毛沖遺跡や大毛池田遺跡についても遺跡の性格や中心となる時期をふまえて考えることが今後の課題として残されている。

付記
中国陶磁器の産地、分類については森達也氏に御教示を得た。記して感謝いたします。
* 1 中国陶磁器の分類にあたっては以下の文献を参考にした。
横田堅次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』1978
上田秀夫「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2号 1982
森田勉「14から16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2号 1982
小野正敏「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』2号 1982
国立歴史民俗博物館『日本出土の貿易陶磁 東日本編2』1994

白 磁	143
青白磁	9
青 磁	142
青 花	2
計	296

	碗	小碗	皿	壺・瓶	合子	不明	計
白 磁	121	0	16	5	0	1	143
青白磁	1	0	4	0	4	0	9
青 磁	115	1	22	2	0	2	142
青 花	0	0	2	0	0	0	2

第36表 出土中国陶磁器器種別一覧表



第128図 中国陶磁器組成図

登録番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	遺構時期	グリッド	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	分類	時期	備考
876	93G	SD210	SD11	12C後～13C前	ⅣE17d	白磁	碗	14.8	—	(1.8)	2/12	太宰府編年Ⅱ類	11C中～12C初	
875	94Ba	検Ⅱ			ⅣD14p	白磁	碗	13.2	—	(2.9)	3/12	太宰府編年Ⅱ類	11C中～12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅣE14b	白磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅱ類	11C中～12C初	
	93I	SD01	SD03	9C後～10C・12C後	ⅣD9p9q	白磁	碗	—	7.0	(2.5)	5/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
778	93G	SE09	SE01	12C末～13C前	ⅣE19c	白磁	碗	15.0	—	(2.3)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
877	92Ab	SK222	SK48		ⅣE7a8b	白磁	碗	—	7.3	(1.9)	4/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	93I	ST22	ST02		ⅣD3p	白磁	碗	13.0	—	(3.3)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92Ab	検Ⅱ			ⅣD11tⅣE12a	白磁	碗	14.8	—	(2.8)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92E	SK74			ⅣD11o	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	93I	検Ⅰ			ⅣD4o	白磁	碗	—	—	(2.3)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Ab	検Ⅰ			ⅣD19n	白磁	碗	11.9	—	(1.8)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Ba	検Ⅱ			ⅣD19n	白磁	碗	12.2	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Ba	検Ⅰ			ⅣD19n	白磁	碗	16.0	—	(2.3)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅣE14a	白磁	碗	—	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Ab	SD01	SD01	9C後～10C・12C後	ⅣD9r	白磁	碗	—	5.4	(2.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅣE6d	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
418	93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅣE20b	白磁	碗	12.8	—	(2.7)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
837	93G	SE08	SE04	12C末～13C前	ⅣE1617d	白磁	碗	14.8	—	(2.4)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
191	93Ha	ST95	ST05		ⅣE9c	白磁	碗	14.8	—	(3.8)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
878	95Ab	検Ⅰ			ⅣD13s	白磁	碗	15.0	—	(3.3)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
885	93F	掘り下			ⅣE17a	白磁	碗	11.8	—	(2.7)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Ab	検Ⅰ			ⅣD13s	白磁	碗	13.0	—	(2.7)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Ba	検Ⅱ			ⅣD14o	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92Aa	検Ⅰ			ⅣE14a15a	白磁	碗	15.4	—	(2.4)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	93K	SD92	SX02		ⅣD19r19s	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
879	93G	検Ⅰ			ⅣE16d18d	白磁	碗	15.6	—	(3.5)	3/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Ab	検Ⅱ			ⅣD15tⅣE15a	白磁	碗	11.4	—	(1.9)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD15tⅣE15a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92H	SK325	北西土坑		ⅣD2t	白磁	碗	12.0	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	93F	検Ⅰ			ⅣD2r	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅣD14r	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅣD13s	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅣD13s	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅣE14b	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅣE14c	白磁	碗	—	—	(4.0)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	SB18	SB12			ⅣG12a13a	白磁	碗	—	(2.8)	1/12	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
662	93G	SD01	SD01下層	9C後～10C・12C後	ⅣD18s	白磁	碗	13.6	—	(2.5)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	93G	SD01	SD01下層	9C後～10C・12C後	ⅣD17s	白磁	碗	—	—	(3.7)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	93G	SE09	SE01上層	12C末～13C前	ⅣE19c	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
880	94Ba	検Ⅱ			ⅣD13tⅣE13a	白磁	碗	13.6	—	(3.9)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92E	検Ⅰ			ⅣD3o3p	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Aa	検Ⅰ			ⅣD2r	白磁	碗	13.6	—	(2.3)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	94Ab	検Ⅰ			ⅣD2r	白磁	碗	13.0	—	(2.9)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Aa	検Ⅰ			ⅣD13t	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	95Ab	検Ⅰ			ⅣE14b	白磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	11C中～12C初	
	92Aa	SB22	SB03		ⅣD14tⅣE14a	白磁	碗	—	6.8	(1.8)	5/12	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
838	93G	SE08	SE04	12C末～13C前	ⅣE1617d	白磁	碗	—	6.0	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
811	93G	SE10	SE02	13C後半	ⅣE20c	白磁	碗	12.4	—	(2.0)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
881	92Aa	SK241	SK10		ⅣE14a	白磁	碗	12.8	—	(3.7)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
	93Hb	ST24	ST01		ⅣD1tⅣE1a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD13tⅣE13a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD17tⅣE17a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD17tⅣE17a	白磁	碗	—	—	—	—	太宰府編年Ⅳ類	12C後～13C前	
810	93G	SE10	SE02	13C後半	ⅣE20c	白磁	碗	11.0	—	(3.0)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	13C中～14C中	
882	94Bb	検Ⅰ			ⅣD13t	白磁	碗	13.0	—	(4.8)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	13C中～14C中	
883	93G	検Ⅰ			ⅣE1c	白磁	碗	12.0	—	(2.6)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	13C中～14C中	
	92Aa	SB14	SB06		ⅣG15a16b	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Aa	SB22	SB03		ⅣD14tⅣE14a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Cb	SD01	SD03	9C後～10C・12C後	ⅣD14q15q	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	加工円盤
	92Cb	SD01	SD03	9C後～10C・12C後	ⅣD14p15p	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93G	SD01	SD01上層	9C後～10C・12C後	ⅣD18s	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	外面下半無軸
	93G	SD01	SD01下層	9C後～10C・12C後	ⅣD17s	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	見込み段あり 外面下半無軸
	93G	SD01	SD01下層	9C後～10C・12C後	ⅣD17s	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93G	SD01	SD02上層	9C後～10C・12C後	ⅣE20b	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93I	SD147	SD18	12C後～13C前	ⅣE9a10b	白磁	碗	—	5.6	(2.0)	4/12	—	15C	外面下半無軸
	92Ab	SD186	SD09	12C後半	ⅣE7c8f	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92H	SD226	SD40		ⅣE88h	白磁	碗	—	5.4	(2.5)	1/12	—	—	軟質
	92H	SD228	SD49	9C前	ⅣE88h	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93G	SE09	SE01上層	12C末～13C前	ⅣE19c	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	中世後半
	92Aa	SK245	SK35		ⅣE14b	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93G	SK294	SK107	12C後半	—	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	外面下半無軸
	92E	ST03	SK76		—	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92D	ST19	ST16		—	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93I	ST22	ST02		ⅣD3o	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	外面下半無軸
	93Hb	ST25	ST02		ⅣE4b	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93Ha	ST28	ST04		ⅣE6a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	外面下半無軸
884	92Ab	検Ⅱ			ⅣE11a11b	白磁	碗	14.4	—	(3.0)	1/12	—	—	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD14tⅣE14a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD15tⅣE15a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	見込み段あり
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD15tⅣE15a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	見込み段あり 外面下半無軸
	92Aa	検Ⅱ			ⅣE15a16b	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	見込み段あり 外面下半無軸
	92Aa	検Ⅱ			ⅣE16b17b	白磁	碗	11.0	—	(2.1)	1/12	—	—	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD17tⅣE17a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Aa	検Ⅲ			ⅣE14a15a	白磁	碗	11.2	—	(3.0)	1/12	—	11C後～12C	口縁部近くに一条の沈線
	92Aa	検Ⅰ			—	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD15tⅣE15a	白磁	碗	—	—	—	1/12	—	—	高台部 高い削り
	92Aa	検Ⅱ			ⅣD17tⅣE17a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Aa	検Ⅰ			—	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	見込み段あり 外面下半無軸
	92Ab	検Ⅱ			ⅣE12a12b	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Ab	検Ⅱ			ⅣD8tⅣE8a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Ab	検Ⅱ			ⅣD11tⅣE12a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92Ca	検Ⅰ			ⅣD13r	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	2Db	検Ⅱ			—	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92H	検Ⅲ			ⅣE7b	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92H	検Ⅲ			ⅣD2t	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92H	検Ⅲ			ⅣE6a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	92H	SK325	北西土坑		ⅣD2t	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	外面下半無軸
	92H	SK325	北西土坑		ⅣD2t	白磁	碗	—	—	—	1/12	—	—	口縁部やや外反
	93G	検Ⅰ			—	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	
	93G	掘り下			ⅣE7a	白磁	碗	—	—	—	—	—	—	

第37表 出土中国陶磁器一覧表(1)

登録番号	調査区	遺構番号	遺構時期	グリッド	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	分類	時期	備考
93Ha		検Ⅱ		ⅤE10d	白磁	碗	—	—	—	—			
93Ha		掘り下Ⅰ		ⅤD12s	白磁	碗	—	—	—	—			
93Ha		東壁			白磁	碗	—	—	—	—			
93Hb		掘り下Ⅱ		ⅤE20b	白磁	碗	—	—	—	—			
94Ab		検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Ab		検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Ab		検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Ba		検Ⅱ		ⅣD14p	白磁	碗	—	—	—	—			見込み段あり 外面下半無袖
94Ba		検Ⅱ		ⅣD17o	白磁	碗	—	—	—	—			見込み段あり 外面下半無袖
94Ba		検Ⅱ			白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
94Ba		検Ⅰ			白磁	碗	—	—	—	—			
94Bb		表土はき			白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
94Bb		表土はき			白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14a	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	碗	—	—	—	—			
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14t	白磁	碗	—	—	—	—			外面下半無袖
95Ab		検Ⅰ		ⅤE14c	白磁	碗	—	—	—	—			
93G		検Ⅰ		ⅤE15b15c	白磁	不明	—	—	—	—			
92Ab	SB31	SB10		ⅤE12a12b	白磁	瓶	—	—	—	—			体部に3条の縦沈線
92Aa		検Ⅰ			白磁	瓶	—	—	—	—			
93F		掘り下		ⅣD2s	白磁	瓶	—	—	—	—			体部に3条の縦沈線
500	92H	SD02	SD43-45	12C後～13C前	ⅤE8f	白磁	四耳壺	—	—	(7.6)	—	12C	
	92E		SD36		ⅣD2r	白磁	四耳壺	—	—	—	—	12C～13C	
497	92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅤE6d	白磁	皿	—	4.0	(1.2)	1/12	太宰府編年Ⅴ類	11C中～12C初
417	93G	SD214	SD02(SD05)	12C後～13C初	ⅤE20a	白磁	皿	9.4	—	(1.8)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	12C
498	92H	SD220	SD45	12C後～13C前	ⅤE2a	白磁	皿	8.0	—	(1.5)	1/12	太宰府編年Ⅳ類	13C中～14C中
887	92E		検Ⅰ		ⅣD19o	白磁	皿	9.0	—	(2.1)	2/12	太宰府編年Ⅳ類	13C中～14C中
888	93Hb		掘り下Ⅰ		ⅤE3b3c	白磁	皿	10.8	—	(2.4)	1/12	白磁皿E群	15C後～16C後
	92Ca	SD01	SD03	9C後～10C・12C後	ⅤD12q	白磁	皿	—	—	—	—	15C	
779	93G	SE09	SE01下層	12C末～13C前	ⅤE19c	白磁	皿	12.9	—	(2.4)	4/12	中世後半?	
	93Hb	ST25	ST02		ⅤE3b	白磁	皿	—	—	—	—		
886	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	白磁	皿	10.0	—	(1.5)	1/12		
	92Aa		検Ⅱ		ⅤD13tⅤE13a	白磁	皿	—	—	—	—		
	92Aa		検Ⅱ		ⅤE14a	白磁	皿	—	—	—	—		
	92Aa		検Ⅱ		ⅤD16tⅤE16a	白磁	皿	—	—	(1.4)	1/12		
	92Aa		検Ⅱ		ⅤE15a16b	白磁	皿	—	3.0	(1.6)	5/12		平底
	92H		検Ⅱ		ⅤE2b	白磁	皿	—	—	—	—		
	93G		検Ⅰ		ⅤE19c	白磁	皿	—	3.4	(1.0)	1/12		外面下半無袖
	93K		検Ⅰ			白磁	皿	7.4	—	(1.7)	2/12		
	93Ha		検Ⅰ		ⅤD8t	青白磁	碗	—	—	—	—		
	92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅤE8a	青白磁	碗	—	—	—	1/12	13C～14C前	口歪皿
	93Hb	ST25	ST02		ⅤE5a	青白磁	碗	—	—	—	1/12	12C～13C	
889	94Bb		検Ⅱ		ⅣD7r	青白磁	碗	10.6	—	(1.3)	1/12	13C～14C前	口歪皿
	92Aa		検Ⅱ		ⅤE14a15a	青白磁	碗	—	—	—	—		
	92Aa	SB15	SB07		ⅤG14a15a	青白磁	合子	—	6.0	(0.8)	2/12		
499	92H	SD02	SD43	12C後～13C前		青白磁	合子	5.1	—	(1.4)	1/12	12C	福建・広東産
890	92Aa		検Ⅰ			青白磁	合子	4.9	—	(1.7)	1/12	12C	
	92Aa		検Ⅱ		ⅤD16tⅤE16a	青白磁	蓋	—	—	—	—		
	92Aa	SB18	SB12		ⅤG12a13a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92Aa	SB22	SB03		ⅤD14tⅤE14a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	93G	SD01	SD01下層	9C後～10C・12C後	ⅤD18s	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92H	SD02	SD43	12C後～13C前		青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅤE6d	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤD20b	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92Aa	SK241	SK10		ⅤE14a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
891	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14a	青磁	碗	12.2	—	(1.7)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92Aa		検Ⅱ		ⅤD13tⅤE13a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92Aa		検Ⅱ		ⅤD14tⅤE14a	青磁	碗	12.0	—	(2.0)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92Aa		検Ⅰ			青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92Aa		検Ⅰ			青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92E		検Ⅰ		ⅣD19m19n	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	93F		掘り下		ⅣE1a	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	93G		検Ⅰ		ⅤE18d17d	青磁	碗	13.0	—	(1.6)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	93Ha		掘り下Ⅱ		ⅤD7t	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	—	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14c	青磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	同安窯系Ⅰ類	12C中～13C初
	92Ca	SD01	SD03	9C後～10C・12C後	ⅤD13q	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	92Cb	SD01	SD03	9C後～10C・12C後	ⅤD14o15o	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	95Ab	SD01	SD01	9C後～10C・12C後	ⅤD14s	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	95Ab	SD01	SD01	9C後～10C・12C後	ⅤD13t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	92H	SD02	SD43	12C後～13C前		青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅤE5f	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93Ha	SD199	SD02	12C後半	ⅤE12b	青磁	碗	—	—	(2.2)	1/12	龍泉窯系	
	92H	SD219	SD47		ⅤE2a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	92H	SD219	SD47		ⅤD2t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	92H	SD225	SD42上層		ⅤE4f	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93Hb	ST24	ST01		ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	95Ab	SK22	SK01		ⅤE14c	青磁	碗	—	—	(2.1)	1/12	龍泉窯系	
	95Ab	SK22	SK01		ⅤE14c	青磁	碗	—	—	(1.0)	1/12	龍泉窯系	
894	93Ha		掘り下Ⅰ		ⅤE12b	青磁	碗	12.0	—	(3.4)	1/12	龍泉窯系	12C中～13C初
	93Eb		掘り下Ⅱ		ⅣD11t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93Eb		掘り下			青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93G		検Ⅰ		ⅤE19c	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93G		検Ⅰ		ⅤE20d	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93G		検Ⅰ		ⅤE17d	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93Ha		検Ⅰ		ⅤD6t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93Ha		掘り下		ⅤD13t	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	93K		検Ⅰ		ⅣE11a	青磁	碗	—	5.0	(4.4)	4/12	龍泉窯系	14C後～15C初
	95Aa		検Ⅰ		ⅤD13s	青磁	碗	—	—	(1.2)	1/12	龍泉窯系	
	95Aa		検Ⅰ		ⅤD14s	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	95Aa		検Ⅰ		ⅤD2s	青磁	碗	—	—	(1.4)	1/12	龍泉窯系	
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14a	青磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	龍泉窯系	
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系	
	95Ab		検Ⅰ		ⅤE14s	青磁	碗	—	—	—	1/12	龍泉窯系	
898	95B	SD29	SD05	9C後	ⅣE9e	青磁	碗	12.6	—	(2.8)	1/12	龍泉窯系?	中世後半?
	92Aa		検Ⅱ		ⅤD16tⅤE16a	青磁	碗	—	—	—	—	龍泉窯系B0類	13C後～14C初

第38表 出土中国陶磁器一覧表(2)

登録番号	調査区	遺構番号	旧遺構番号	遺構時期	グリッド	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率	分類	時期	備考	
		92Cb	SD01	SD03	9C後～10C・12C後	ⅤD14q15q	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	転貢	
		92H	SD02	SD43	12C後～13C前		青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
746		92Gb	SD03	SD26-4	13C後半	ⅡE16d	青磁	碗	15.2	—	(4.6)	3/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
980		94Aa	SE05	SE01		ⅤD2p	青磁	碗	13.5	—	(3.2)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		93G	SE09	SE01	12C末～13C前	ⅤE19c	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
812		93G	SE10	SE02	13C後半	ⅤE20d	青磁	碗	13.6	—	(3.8)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		93G	SE10	SE02	13C後半		青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
190		93Hb	ST02	ST02		ⅤE4c	青磁	碗	13.6	—	(6.8)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		93Hb	ST24	ST01		ⅤD3t	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
897		94Aa	検Ⅰ			ⅤD2o	青磁	碗	—	5.6	(4.2)	5/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		92H	SD44			ⅤE6q	青磁	碗	10.4	—	(3.5)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		93F	西壁				青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
		93G	表探				青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
		93J	検Ⅰ				青磁	碗	15.6	—	(2.6)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		94Ba	検Ⅱ			ⅣD8q	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
		94Ba	検Ⅰ				青磁	碗	13.2	—	(2.8)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		94Ba	検Ⅰ				青磁	碗	12.0	—	(3.1)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		95Aa	検Ⅰ			ⅤD3q	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	加工円盤	
		95Ab	検Ⅰ			ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B1類	13C中～14C初		
		95Ab	検Ⅰ			ⅤE13b	青磁	碗	—	—	(3.5)	1/12	龍泉窯系B1類	13C中～14C初	
		93Ha	SD201	SD03	9C前	ⅤE12a	青磁	碗	—	—	(3.5)	1/12	龍泉窯系B2類	14C末～15C初	
777		93G	SE09	SE01上層	12C末～13C前	ⅤE19c	青磁	碗	14.9	—	(2.8)	1/12	龍泉窯系B2類	14C末～15C初	
813		93G	SE10	SE02	13C後半	ⅤE20c	青磁	碗	14.0	—	(2.7)	1/12	龍泉窯系B2類	14C末～15C初	
		93G	SE10	SE02	13C後半	ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B3類	14C末～15C初		
		93Hb	ST25	ST02		ⅤE3b	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B3類	15C末～16C初		
		93G	検Ⅰ			ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B3類	14C末～15C初		
		93G	検Ⅰ				青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B3類	15C末～16C初		
		95Aa	検Ⅰ			ⅤD20p	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B4類	15C末～16C初		
661		94Aa	SD01	SD01	9C後～10C・12C後		青磁	碗	13.3	—	(2.5)	1/12	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
		92H	SD220	SD45	12C後～13C前	ⅤE3b	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初		
		92H	SD220	SD45	12C後～13C前	ⅤD3t	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初		
		93Hb	ST24	ST01		ⅤE1a	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初		
		92E	検Ⅰ			ⅣD1o	青磁	碗	—	—	(2.0)	1/12	龍泉窯系B類	13C中～14C初	
		93G	トレンチ03			ⅤE20c	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系B類	13C中～14C初		
		93Hb	ST24	ST01		ⅤE1a	青磁	碗	—	3.8	—	1/12	龍泉窯系B類	14C末～15C初	
899		94Aa	検Ⅰ			ⅤD2s	青磁	碗	16.2	—	(1.4)	2/12	龍泉窯系D類	14C末～15C初	
		95Ab	検Ⅰ			ⅤE14b	青磁	碗	13.0	—	(1.8)	1/12	龍泉窯系E類	14C末～15C初	
		93G	SB07	SB02			青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		92H	SD01	SD39	9C後～10C・12C後		青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD01	SD01上層	9C後～10C・12C後	ⅤD19s	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD01	SD01上層	9C後～10C・12C後	ⅤD20s	青磁	碗	—	—	(4.1)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
		95Aa	SD192	SD02	12C後半	ⅤD1p	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤE20a	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤE20a	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	—	(3.9)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤE20b	青磁	碗	12.0	—	(3.3)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
		93G	SD214	SD02上層	12C後～13C初	ⅤD20t	青磁	碗	13.0	—	(2.5)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
		92H	SD220	SD45	12C後～13C前	ⅤD3t	青磁	碗	—	7.6	(2.0)	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
		93G	SE09	SE01	12C末～13C前	ⅤE19c	青磁	碗	—	—	—	1/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
		92E	ST03	ST42		ⅢD16r	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
895		93G	検Ⅰ			ⅤE16d18d	青磁	碗	—	6.0	(1.9)	3/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
896		95Ab	検Ⅰ			ⅤE14c	青磁	碗	—	5.4	(1.7)	6/12	龍泉窯系I類	12C中～13C初	
		92Aa	検Ⅱ			ⅤE14a	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		92Aa	検Ⅱ			ⅤE14a15b	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		92Aa	検Ⅱ			ⅤD17tⅤE17a	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		92Ab	検Ⅱ			ⅤD11tⅤE12a	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		92H	SK325	北西土坑		ⅤD2t	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93Eb	掘り下Ⅰ			ⅢD4r	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93F	掘り下Ⅱ			ⅢE16a	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		93G	表探				青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		95Aa	検Ⅰ			ⅤD14s	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		95Aa	検Ⅰ				青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		95Ab	検Ⅰ			ⅤD13s	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		95Ab	検Ⅰ			ⅤE14b	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		92E	ST03	ST42		ⅢD16q	青磁	碗	—	—	—	龍泉窯系I類	12C中～13C初		
		94Ba	検Ⅰ				青磁	不明	—	—	—	龍泉窯系			
		95Ab	検Ⅰ			ⅤE14c	青磁	不明	—	—	—	龍泉窯系			
		92Aa	検Ⅱ			ⅤD14tⅤE14a	青磁	瓶	—	—	—	龍泉窯系			
		92Aa	検Ⅰ				青磁	瓶	—	—	—	龍泉窯系			
		94Bb	検Ⅰ				青磁	小碗	—	—	(1.6)	3/12	龍泉窯系		
		93J	検Ⅰ				青磁	皿	7.6	—	(1.5)	2/12	?		
		93G	SD01	SD01下層	9C後～10C・12C後	ⅤD18s	青磁	皿	—	2.9	(0.8)	7/12	同安窯系	12C中～13C初	
419		93G	SD214	SD02	12C後～13C初	ⅤD20t	青磁	皿	10.8	4.4	(2.4)	3/12	同安窯系	12C中～13C初	
193		93Hb	ST24	ST01		ⅤE2b	青磁	皿	—	3.2	(1.4)	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
892		93Ha	検Ⅰ			ⅤE12c	青磁	皿	—	4.0	(2.3)	3/12	同安窯系	12C中～13C初	
893		93Ha	検Ⅰ			ⅤE12c	青磁	皿	10.0	—	(1.6)	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
979		95Ab	表土はぎ				青磁	皿	10.0	—	(1.7)	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
		92H	SK325	北西土坑		ⅤD2t	青磁	皿	—	(4.2)	—	2/12	同安窯系	12C中～13C初	
		93G	検Ⅰ			ⅤE17d	青磁	皿	10.0	—	(1.6)	1/12	同安窯系	12C中～13C初	
		93Hb	掘り下Ⅰ			ⅤD1t	青磁	皿	8.8	—	(1.1)	1/12	同安窯系	12C中～13C初	
		94Aa	検Ⅰ			ⅤD3o	青磁	皿	—	—	—	同安窯系	12C中～13C初		
		92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅤE6d	青磁	皿	—	—	(2.0)	1/12	龍泉窯系	12C中～13C初	
901		92H	SD02	SD43	12C後～13C前	ⅤE6d	青磁	皿	10.2	—	(2.2)	3/12	龍泉窯系	12C中～13C初	
900		95Aa	SD191	SD03-11		ⅤD20o	青磁	皿	—	3.4	(1.7)	4/12	龍泉窯系	12C後～13C前	
192		93Hb	ST24	ST01		ⅤE20b	青磁	皿	10.0	—	(1.6)	2/12	龍泉窯系	12C中～13C初	
		92Db	検Ⅱ			ⅤD20nⅤD1n	青磁	皿	—	—	—	龍泉窯系			
		92F	検Ⅰ			ⅢD17s	青磁	皿	—	8.0	(1.6)	2/12	龍泉窯系		
902		92Da	検Ⅱ				青磁	皿	11.8	—	(1.6)	1/12	龍泉窯系	13C後～14C前	
		92Aa	検Ⅱ			ⅤE16b17b	青磁	皿	7.2	—	(1.8)	1/12	龍泉窯系	12C中～13C初	
		92Aa	検Ⅱ			ⅤD17tⅤE17a	青磁	皿	—	—	—	龍泉窯系	12C中～13C初		
		92H	検Ⅱ			ⅤD3t	青磁	皿							

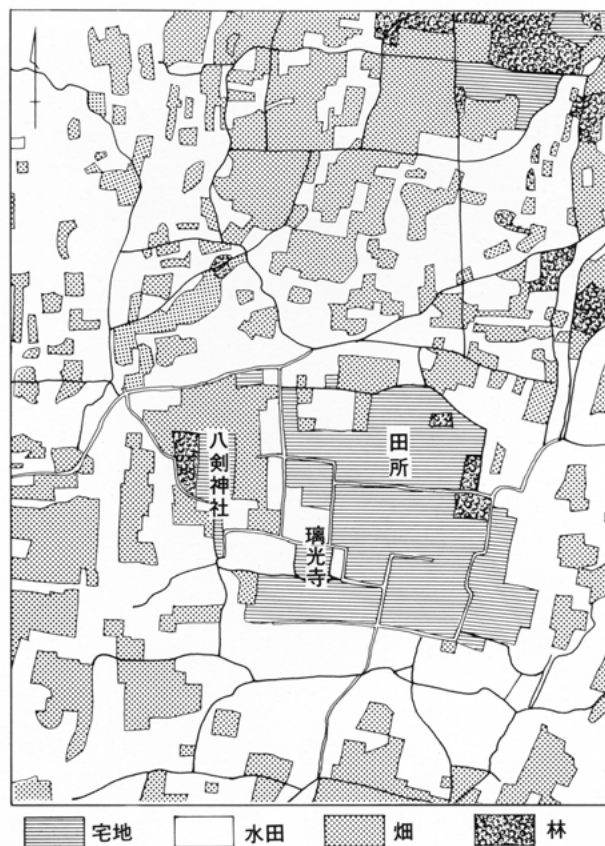
第39表 出土中国陶磁器一覧表(3)

第2節 田所集落と大溝

1. 大溝の検出と田所集落を囲む大溝の推定

1992年度の調査において、92C区と92D区から幅8～10mの南北方向に走る中世（鎌倉時代）の大溝が検出された。また、92H区では南北に走る溝に加えて、東西方向に走る幅約15mの溝が、さらに92E区の南端では、南から東へと屈曲していると思われる溝らしき遺構が検出された。この4つの発掘区から検出された大溝は、田所集落との位置関係から考えると、集落を囲む可能性も出てきた。そこで、明治17年の地籍図と、昭和25年に米軍が撮影した航空写真を基に、その位置を推定してみた。地籍図を取り上げたわけは、土地利用の状況が細かく読み取れ、そこから当時の地形が類推されるためである。特に田所は木曽川によって形成された自然堤防と後背湿地が入り組んだ場所に位置しており、古来畑作地としての利用が多かった。寛文12年（1672）頃のすがたを示す『寛文村々覚書』によると、畑・宅地の面積は79.9反であるのに対し、田の面積は20.2反であり、田の面積の割合は20％程度しかない。それが、江戸中期の新田開発及び、水利設備の開発による畑地の田への転換が進んだ結果、明治9年には畑・宅地面積92.4反に対して田の面積95.4反と、田の面積が50％以上の割合を示すに至った。つまり、地籍図に描かれた畑の部分は、中世においても畑か未開墾地であった可能性が高く、地籍図の田の部分に大溝が存在する可能性が高いと思われるのである。一方、航空写真からは、色調の差や模様から微地形が読み取れるので、低地の部分を判読することによって、大溝の位置が推定できると考える。

まず、地籍図を基に作成した土地利用図（第129図）を見ると、田所集落は東西・南北共に約200mの範囲に住居が密集しており、集落の西に村社八剣神社があり、その周囲には畑地が分布している。この住居の密集している部分と神社を含めた畑地の部分を合わせた部分が、自然堤防がほぼ長方形に残存した田所集落である。八剣神社の西側には、ほぼ南北に帯状に水田が並んでいる部分があり、明らかに人為的に造られた地形のように思われる。この帯状のラインの上に、92年度に検出した溝を重ねてみると、ほぼ位置が重なることがわかった。次に、東へ溝が屈曲していると思われる部分を重ねてみると、南側では水田が広がっており溝が伸びていく可能性が高いと思われた。しかし、北側では島畑がたくさん見られ、ここからは大溝の位置を推定することはできなかった。



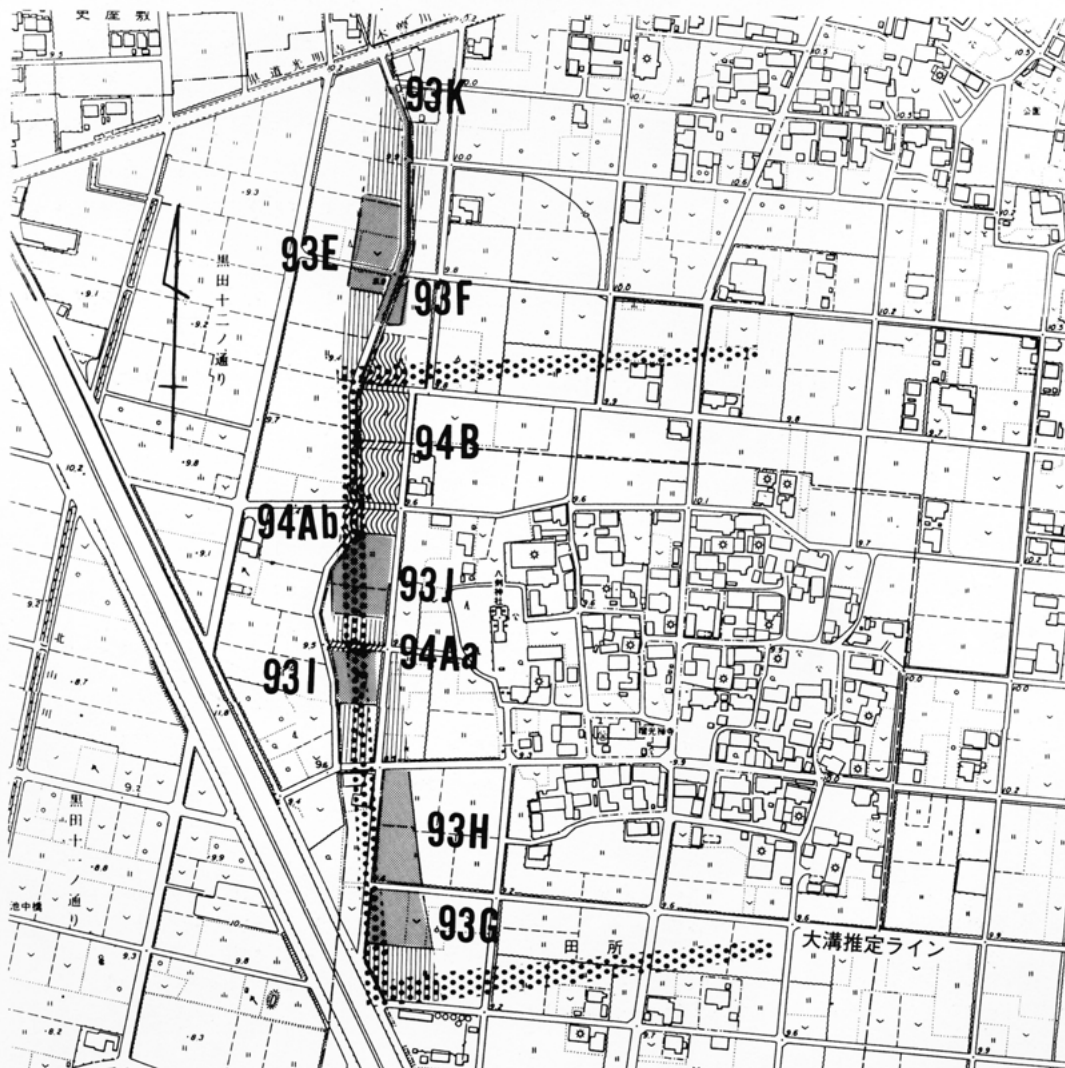
第129図 田所の土地利用図
（明治17年の地籍図より作成）

0 100 200m

次に、航空写真を見ると、集落の周辺に低地が帯状にいくつか走っているのが読み取れた。特に集落の西側を南北に走るものと、集落の北西角を北東から南西に向かって走るものが明確にとらえられた。さらに、集落の北側を東西に低地が筋状に走っている様子が読み取れることから、この辺りにも大溝が伸びる可能性があると思われた。

以上の点から、第130図のように大溝の位置を推定した。なお、この溝のことを田所大溝と呼ぶことにした。

田所周辺の航空写真



第130図 大溝推定ラインと平成5・6年度調査区位置図 (1:5000)

2. 1993・94年度の調査の結果

1993年度は、93E・F・G・H・I・J・Kの7区の調査を行った。

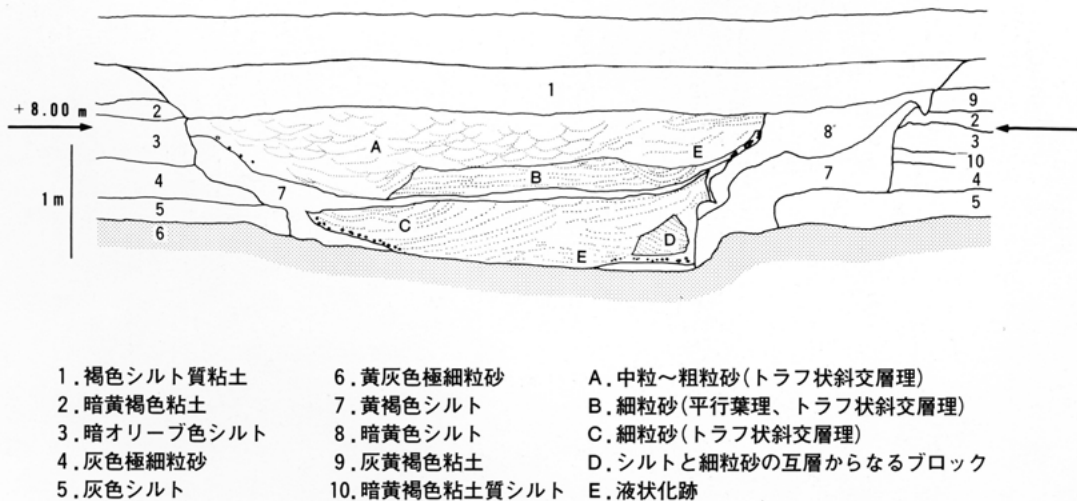
その結果、93I区において、幅最大8m、残存部の深さ最大約1.5mの大溝が、92C・D区に連続する形で検出された。一方、93J区においても、南の92D区と連続して南北に直線上に伸びた状態で検出されたが、発掘区のはぼ中ほどで消滅してしまっていた（第10図）。大溝の推定位置と比較すると、南北の長さが100m以上短く、また東へ屈曲している様子も見られなかった。

93G区では、田所大溝と同時期の土坑、井戸、小溝などが集中して検出された。（第13図）。井戸は1基重複して5基検出され、そのうち4基に曲物及び木組などの構造物が遺存した。小土坑は百数十基検出されたが、掘立柱建物などは確認されなかった。注目されるのは、十数条検出された小溝である。いずれも東西方向、あるいは南北方向をとっており、田所大溝や田所集落の軸と同一の方向性を示しており、大溝の内側を区画する溝の可能性も考えられる。また、SD02からは13～14世紀の比較的多量の灰系糸陶器が出土した。93G区と同様に田所大溝に近接した位置にある北隣の93H区では、14世紀以降と思われる水田が調査区の中央から北部に広がっていた。しかし、集落に関する遺溝は南端部以外は検出されていない。93G区の位置は、溝が集落を方形にめぐっているとすると、その区画の中では南西のコーナーにあたり、集落域において特殊な部分にあたるためと考えられる。

1994年度は、92D・93I区間の道路部分（94Aa区）と田所大溝が消滅している93J区から方へ向かう地点の94Ab・B区の調査を実施した。その結果、94Aa区では田所大溝が連続して検出されたが、94Ab区以北は大溝と思われる遺構は検出されなかった。また、1992年度の調査で、南北に伸びた大溝が東に屈曲されると予想された92E区の東側からは、遺構検出面のシルト層をつき破り、方形に噴出した砂の層が認められた。その結果、この地点においては東に伸びる溝は存在しないことが明らかになった。

ただ、94B区では数は少ないが、溝やピット列が南北の方向性を示していることから、大溝の方向性と一致していることから、何等かの関連性がうかがえる。

以上の調査結果より、田所大溝は田所集落の西側と南側にL字型に造られたという点では疑うべきものではないが、現状では集落を連続して囲む溝ではないことが明らかになった。



第131図 大溝SD01土層断面図

3. 田所大溝の機能

それでは大溝は何のために掘られたのであろうか。大溝のセクションを見ると（第131図）、大溝の堆積物は、灰色粘土層（1）、中粒～粗粒砂層（A）、細粒砂層（B）、細粒砂層（C）、黄褐色シルト層（7）、暗黄色シルト層（8）である。シルト層を切る形で砂層が堆積しさらにその上にシルト層が堆積していることから、止水性の時期があった後強い流れが起こり、シルト層を削った後砂層が堆積し、また止水性の時期になったことがうかがわれる。さらに、砂層中には葉理が発達しており、そこからは北から南への流れがあったことが明らかになった。一方、92H区から検出された幅約15mの東西の溝も、その葉理から東から西へ向かっての流水性を示す時期があったことが明らかになった。

以上の点を念頭に置き大溝が掘られた目的について推測すると、可能性として下記の3つが挙げられる。

- ①集落を防御するための堀
- ②集落を区画するための溝
- ③灌漑水路および排水路

（このうち①と②については、大溝が田所集落を巡るということを前提として考えている。）

まず、防御という点についてであるが、大溝が幅が広く深さも深い点から考え、防御の機能を持っていたと考えるのは自然であろう。そうすると、大溝が推定ラインのかなり手前でとぎれているのは、出入口として開けてあるのであろうか。94年度の調査では、この辺りには浅い溝やピット列が南北方向に伸びていることが確認されている。溝がない代わりに柵などを設けていた可能性もある。防御といっても、人だけでなく動物などの侵入を防ぐ目的も考えられる。ただこの大溝が、武士の館の堀だと考えるのはどうであろうか。全国的に見て当時の武士の館の大きさは、半町×半町、1町×1町程度が普通であり、4町四方の堀というのは前例がない大きさである。武士の館の堀としては無理があると思われる。

集落を区画する溝という点についてであるが、区画するだけなら水を入れる必要はないし、もっと浅くてもよいであろう。田所周辺の後背湿地は地下水位が高く、空堀として掘っても底部から湧水があり、止水性の溝の状況を呈すと考えられる。と言うことは、田所大溝は水を必要とする意図があったと考えるのが自然であろう。他の中世の遺跡にも、複合的な機能を持っているものや途中で別の用途に使われ出したものもかなり見られる。集落を区画する意味はあったにしろ、それだけではなかったと考えられる。

次に、灌漑水路という点についてであるが、田所集落の周辺、特に南側は近世に新田開発が進められたり、水田化が進んだ地域である。この当時に、南に水を流し新たな水田を得ようという動きがあっても不思議ではない。また、東西・南北の溝が92H区の西側で合流後、さらに西ないし南西方向へ水を導き、野府川（旧黒田川）へと排水された可能性も高いと考えられる。だとすると、大溝は灌漑用水としての機能を持っていたことが予想される。ただ、用水ならば、水の供給源があるはずである。しかし、今回の調査ではそれははっきりしなかった。また、大溝に止水性の時期がある点から見て、常に灌漑用水の機能を果たしていたとは考えにくい。また、逆に水はけの悪い湿地の排水の役割を持っていたとも考えられる。

以上、田所大溝の機能について、その可能性を推測してみたが、やはり溝の全貌が明らかにならないと分らないと言えよう。

4. 田所集落の成立時期

田所遺跡からは、大溝と同時期の住居跡は検出されていない。それでは、大溝を掘削した人々はどこに住んでいたのであろうか。自然環境の面から考えても、大溝との位置関係から言っても、やはり今の田所集落の位置に住んでいたと考えるのが妥当であろう。

それでは、現在の田所集落が、田所大溝と同じ時期に成立した中世村落であったのだろうか。その点について、文献及び聞き取り調査を行った。

(1) 文献より

昭和61年に刊行された『葉栗史誌、神社仏閣編』には、田所集落の璃光寺と八剣神社の沿革が記載されていた。

璃光寺の前身は本寺がなかったので、慶長4年(1599)笹野の妙光寺の末寺とし、寺号を薬師堂と称した。その後、寛文年中(1661~1672)に璃光寺と寺号を改めたとのことである。

八剣神社は延喜年中(901~923)に創建されたと伝えられるという記述が見られるが、定かではない。天正12年(1584)に奉勤請願主なりと記載がある。

『織田信雄分限帳(戦国時代)』に「光明寺の内田所の郷内」と見え、信雄の家臣村井専次子・石田孫左衛門子・塙伝三郎子の知行地が合わせて130貫文あったと記載されている。

さて、大正6年に刊行された『葉栗村志稿』に、13世紀頃の田所集落とそれをめぐる堀に関する記述があることが知られている。この記述の基となる古文書が現存しないことから、この記述の信憑性についてはやや問題がある。しかし、参考までにそれを記すと、次の通りである。「屋敷の廣さは外構東西四町南北五町あり内構は一町平方あり其の周圍に大堀及び大土堤を築けり現今田所といふは此の屋敷のことなり。」この記述からは、田所集落の外構の周圍に大堀と大土堤を築いたとも読み取れる。すると、その大堀及び大土堤の大きさは、東西約400m、南北約500mを超える大きさと考えられ、大溝の推定ラインの大きさと似ているのは興味深い。

以上、文献からは戦国時代までは遡れることは確実なようである。

(2) 過去帳の調査

田所集落の菩提寺である笹野の妙光寺の過去帳によると、寛永6年(1629)が第1巻であり、それ以前については不明であった。田所集落関係では、寛永9年に「忠右衛門没」の記載があったが、寛永6年以前に「忠右衛門の母、大室妙用禪定尼没」の記載もあり、年代不明ではあるがこれも最も古い記録である。

(3) 田所集落の調査

田所集落は璃光寺の周圍に60戸ほどの家がほぼ長方形に集まっており、集落の西には村社の八剣神社が鎮座する。天保12年の村絵図(1841)と比べても、基本的な集落の形態にはほとんど変化がない。古くから住んでいる人はすべて臨済宗を信仰しているが、菩提寺は璃光寺ではなく、笹野にある妙光寺である。八剣神社の秋祭りの際にはすべての家から準備のために人が集まるなど、集落の結束は強

い。田所集落に古くから住んでいる住民の姓は、小島、橋川、野々垣の3種類しかない。その3つの姓について、本家分家の関係を聞き取り調査により調べたところ、第132図のような関係が明らかになった。これによると、小島 (Ko) 橋川 (Ki) 野々垣 (6系統) の流れがとえられ、時代の違いはあるものの、合計8軒の本家が確認された。本家は分家を出すときは、屋敷の一部を分け与えるのが一般的とのことであり、田所集落は中心部から次第に四方八方へと集落を拡大していったことがわかる。この、本家に当たる家に、古文書、位牌等の、古い年代を表すものについて聞き取りを行った。その結果、Ntmには文化8年(1811)、Nk・Ndには元禄時代(1688~1703)の位牌があった。Kiは、独自に位牌や過去帳を調べ、今日まで18代続いており、初代は寛永9年(1632)頃に没しているとのことであった。Koには、古文書が残されていた。それによると、先祖は慶長年中(1596~1614)に清須城主福島正則に仕え、やがて国替えになって安芸国広島へ随行した。しかし元和元年(1615)浪人となり、これ以後田所に帰ってくる。帰国後は武士の面目上苗字帯刀の願書を4回に渡り出していることがわかった。

以上のことから、やはり戦国末期ぐらまでは確実なものの、それより以前については明らかではないという結果になった。



第132図 田所集落における本家・分家の関係図(1:2500)

5. 尾張における他の中世遺跡の消長

同じ尾張の沖積平野における中世遺跡の消長から、田所集落の成立時期を探ってみたい。ここでは、清洲町周辺にまとまって存在する遺跡の例を見る。

- ・朝日遺跡……100を越える土壌群が検出された。時期は、出土した副葬品から、14世紀中頃から15世紀前半だと考えられる。ただ、被葬者の居住域は調査区内には認められなかった。葬られた人々は、隣接する朝日西遺跡に住んでいたものと推定される。
- ・朝日西遺跡……11世紀後半から15世紀前半の村落遺跡であるが、大きく3つの画期が見受けられる。12世紀後半から屋敷地を区画する溝が掘削され始め、村落が出現する。13世紀後半から14世紀前半代になると、遺構はほぼ全域に展開し、屋敷地を区画する溝は幅5 m深さ2 mの大規模なものになる。14世紀後半から15世紀前半になると新しい溝が掘られるとともに、新しい屋敷地が設定されたり、旧来の屋敷地が拡張される。そして、15世紀中頃以降遺跡は衰退していく。
- ・土田遺跡……12世紀から15世紀の村落遺跡であるが、4つの画期が見られる。14世紀から15世紀にかけて、調査区内の遺構は機能を停止し、畑地や荒地に変わっていく。
- ・森南遺跡……14世紀から15世紀中葉にかけての村落遺跡である。微高地南縁沿いに幅5 mを超える大溝が走り、居住域を区画する。遺跡の最盛期は14世紀後半から15世紀前半である。
- ・阿弥陀寺遺跡……13世紀後半から15世紀前半にかけての村落遺跡で、遺跡の最盛期は14世紀に入ってからである。調査区全域に屋敷地を区画する溝が見られる。
- ・大淵遺跡……13世紀後半の村落遺跡である。

これらの村落遺跡の消長をまとめると、清洲周辺の中世村落は、13世紀後半から14世紀にかけて増大していく。この頃は、自然堤防や微高地が安定し、現在の自然地形にかなり近い形になると考えられ、在地の土豪勢力の伸張と相俟って、微高地や低湿地の開発が本格化したものと考えられる。村落の構造にも変化が見られ、村落内では屋敷地を区画する溝の規模が大きくなり、屋敷地が拡大する。また、村ごとに共同の墓域が居住域と隔絶された地区に出現する。しかし、こうした中世村落は、15世紀前半以降姿を消していく。それは、この時期に村落の再編成が行われるとともに、その位置が現存の村落下に移動したためと考えられる。

6. 研究の成果と課題

田所遺跡の発掘調査及び田所集落の調査により集落の西側及び南側に、大溝が造られたことが明らかにになった。そして、その内側に井戸等の集落に関わる遺構や、一定の方向性を持った溝が存在することも確認された。一方、田所集落の成立時期については、文献及び聞き取り調査によって戦国時代までは遡れることが明らかにになったが、大溝の造られた時期とは300年余りもの開きがあった。現在の田所集落が、鎌倉時代から継続して営まれてきた集落なのか、それとも尾張の他の中世村落の例と同様、その間に断絶があるのかは現時点では不明である。しかし、田所集落の北側と東側にも溝が造られている可能性があることが物理探査の結果からも指摘されている。今後、発掘調査の機会があれば、大溝がどのようにめぐっており、田所集落とどう関わっているのかが明らかになるものと期待される。

第3節 遺構・遺物から見た田所遺跡

田所遺跡において検出した遺構と出土した遺物について若干のまとめである。調査区全体が南北に細長く東西が狭い調査範囲となっており、遺跡の南北の広がりも想定できたが東西の広がりも不明確である。

1. 住居跡

奈良時代から平安時代の住居跡を29棟検出した。調査区の南側（92A区より南）に偏って建てられておりS B 05が住居跡の南限となる。92A区では住居跡の重複が激しく狭い地域に何度も建て替えられたことが窺える一方、遺跡を南下するにしたがって住居跡の重複も少なく1棟のみ単独でという地点もある。92A区では8世紀後半の住居が4棟（S B 11・12・15・19）、9世紀初の住居が1棟（S B 10）、9世紀後半の住居が7棟（S B 09・13・14・15・16・17・22）、10世紀後半以降の住居が4棟（S B 18・20・21・23）それぞれ検出している。

住居内出土各製品の生産地を見ると、遺跡の立地を反映し当時操業していた近在窯業地の猿投窯、美濃須衛窯、尾北窯、美濃窯の各製品があり、とりわけ美濃須衛窯と尾北窯の製品が目だった。

猿投窯の製品が主体を占めるS B 01・04・06、美濃須衛窯の製品が主体を占めるS B 07、尾北窯の製品が主体を占めるS B 16、美濃窯の製品が主体を占めるS B 18がある。8世紀末から9世紀初にかけての住居からは猿投窯・美濃須衛窯、9世紀後半の住居では猿投窯・尾北窯、10世紀後半の住居では美濃窯の各製品が出土している。

田所遺跡の南方に位置する大毛沖遺跡では住居は1、2棟が散らばって集落を形成していたようであるが、本遺跡も南下するにしたがい大毛沖遺跡と同様の様相を呈していくようである。

住居の形態も奈良時代、平安時代ともに一辺5～6m前後の方形プランを呈する。竈は明確には確認できなかったが壁面の近くで石と焼土、土師器甕がまとまって出土していることから竈の存在が窺えるのである。

集落の中心については、調査区の南側に住居跡が偏っていること、墨書陶器、緑釉陶器等の遺物出土分布が調査区の南側に集中していること、地籍図などの旧地形から、南北に位置する現在の田所集落に集落の中心があると想定される。

2. 土坑

土坑（S K 251）より灰釉陶器の椀、皿が「富壽神寶」3枚とともに出土したが、灰釉椀は猿投窯で黒笹90号窯期、灰釉皿は尾北窯で篠岡4号窯期で、9世紀後半の時期である。「富壽神寶」は818年（弘仁9年）から834年（承和元年）にかけて鑄造されており、共伴して出土した灰釉陶器の時期を知るうえで貴重な資料となった。なお愛知県下での「富壽神寶」の出土は、渥美町貝の浜貝塚で1例採集された報告があり、これについて2例目となった。

3. 水田

古墳時代の水田は畦畔によって区画され、やや南北方向に細長く延びる長方形状及び不定形の平面形を呈する。一区画が東西3～4m、南北5～7mを測る。93H区では幅180cmを測る大畦畔と大畦畔内を区画する幅40cm前後の小畦畔を検出した。また95Aa区では一辺が2～5mを測る小区画の水田を検出した。一方中世の水田については古墳時代の水田ほど明確には確認できなかった。

4. 溝

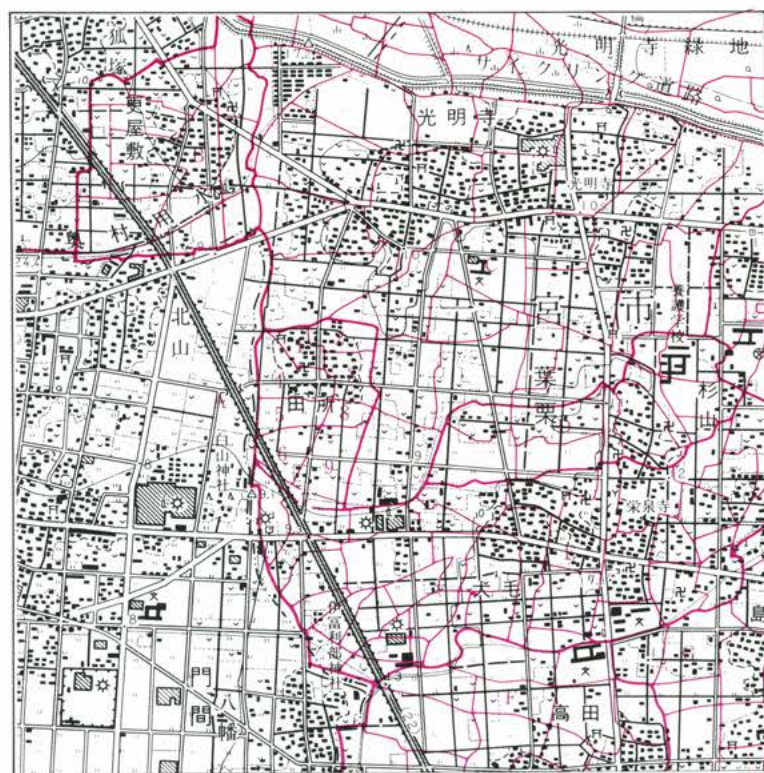
大溝（SD01）は幅8mから10m前後、深さは1m50cm前後を測るもので、調査当初は現在の田所集落を囲むように位置すると考えられた（第130図）が、93J区の調査で発掘区のはほぼ中央で大溝が消滅すること、94Ab区以北には大溝が検出されなかったこと、94B区の北側には東に伸びる溝が検出されなかったこと等から、大溝が現在の田所集落を囲むように存在していたと推定した大溝ラインの大幅変更を余儀なくされた。

大溝は調査区のはほぼ中央付近93J区よりはじまり南下し、南側で東に屈曲したL字型に掘られていたことから、現状では集落の西側と南側に掘られたL字型の大溝といえる。

出土遺物は古い時期の遺物では7世紀の杯身、新しい時期では17世紀の菊皿が出土している。

大溝出土の遺物総点数は5910点で、土師器類が2201点、灰釉系陶器が1844点、灰釉陶器1093点、須恵器661点、瀬戸・美濃40点、中国陶磁34点、常滑24点、古瀬戸9点、土錘3点、緑釉陶器1点である。土師器類が一番多く、新としたものは、柱状高台皿、土師質皿、清郷型・伊勢型の鍋等を指し、1509点、古としたものは、古墳時代以来の土師器を指し、692点出土している。灰釉系陶器は尾張型が1315点、東濃型が529点出土しており、尾張型が多い。

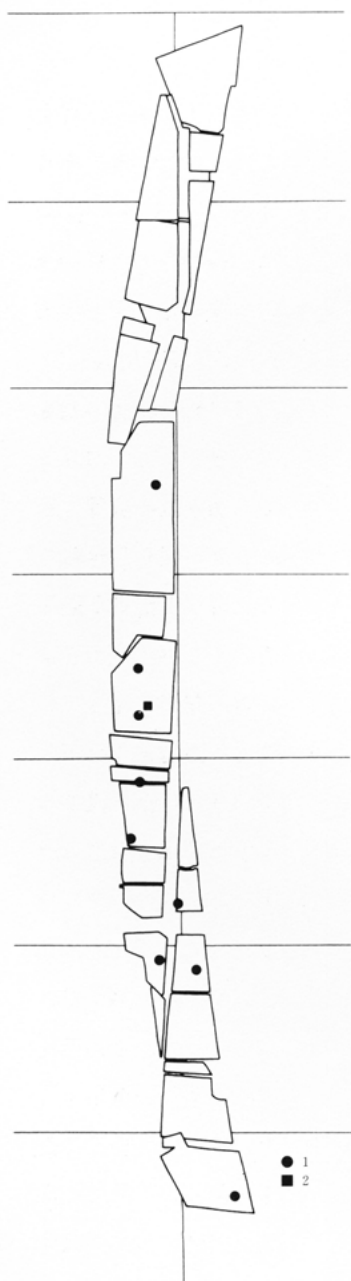
大溝を南北方向のSD01と東西方向のSD02に区別し、遺物組成をみたのが第141図、第142図、第42表、第43表である。SD01では3397点出土し、その内95Aa区よりの出土が1668点と49%を占める。東濃型353点、須恵器348点、土師器（新）336点、灰釉陶器318点、尾張型129点、土師器（古）119点等が出土している。この地点の調査区に遺物が多いのは、溝の東側の92Aa・Ab区と93Hb区に住



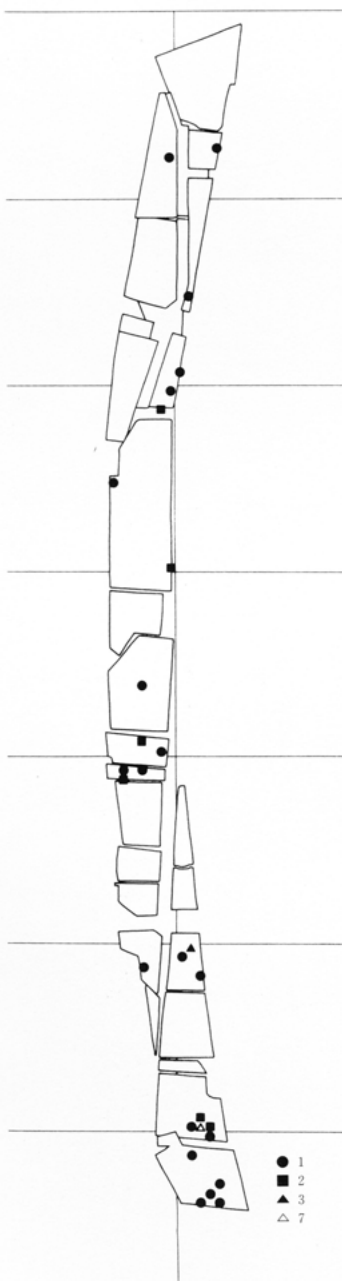
- | 字 | 大字 |
|--------|--------|
| 1. 戌亥出 | A. 田所 |
| 2. 郷浦 | B. 更屋敷 |
| 3. 郷前 | C. 光明寺 |
| 4. 宮前 | D. 杉山 |
| 5. 下川田 | E. 大毛 |
| 6. 白山 | F. 高田 |
| 7. 堤下 | G. 島村 |
| 8. 一丁田 | |
| 9. 南方 | |

第133図 田所周辺字境図

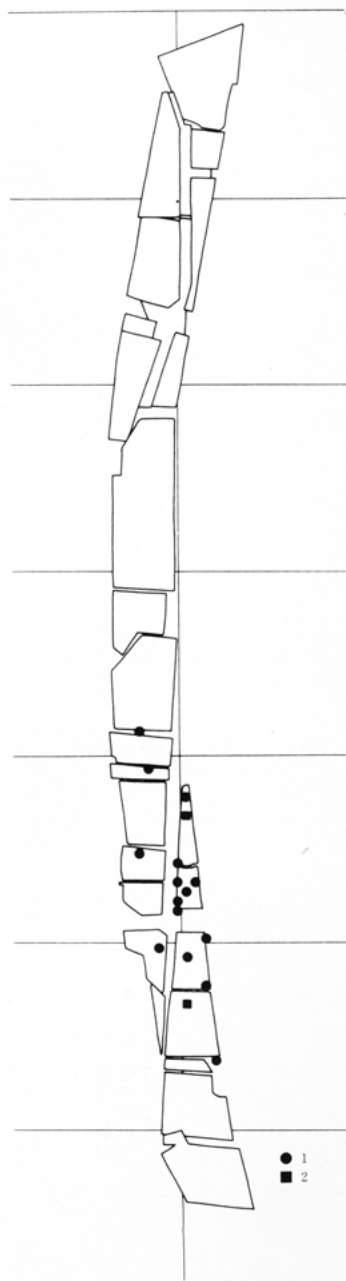
居跡が検出され、この付近から東にかけて居住域が展開していたためと考えられる。S D 0 2では2513点出土し、尾張型910点、灰釉陶器619点、土師器（新）406点、土師器（古）279点、須恵器199点、東濃型85点、中国陶磁12点、土錘3点が出土している。尾張型の灰釉系陶器が36%、灰釉陶器が25%と多い。溝の北側には住居跡が検出され、S D 0 1と同様に居住域の近くの溝からは多くの遺物が出土している。



第134図
墨書陶器(須恵器・灰釉
陶器)地区別出土分布図



第135図
墨書陶器(灰釉系陶器)
地区別出土分布図

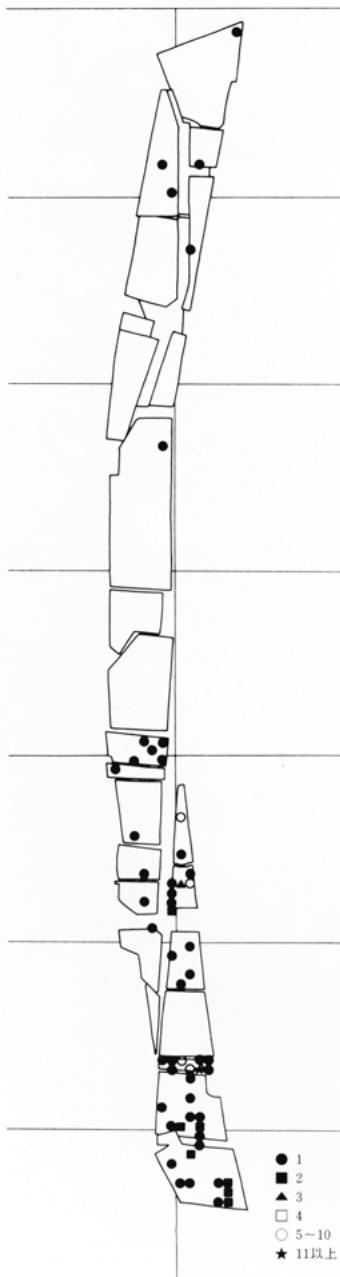


第136図
緑釉陶器地区別
出土分布図

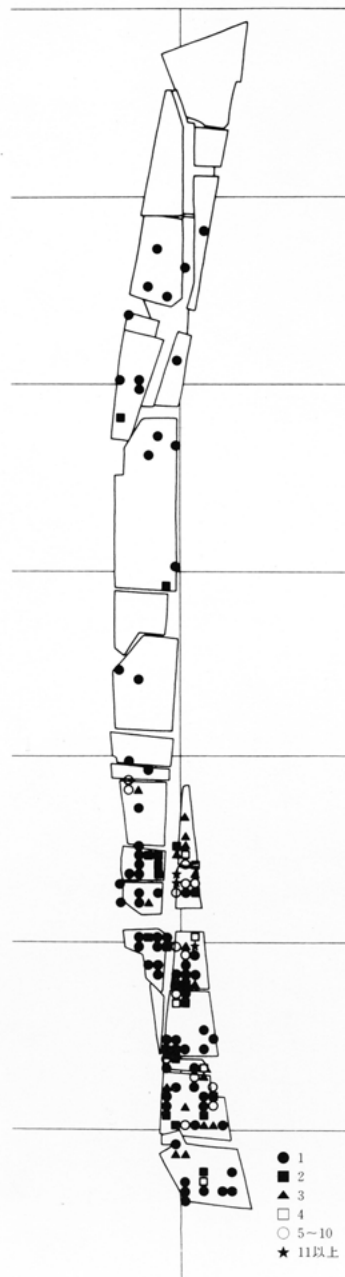
大溝の時期であるが、8世紀後半頃溝が掘削され、これ以降17世紀頃まで溝は機能していた。灰釉陶器と尾張型灰釉系陶器が多く出土していることなどから9世紀後半から10世紀代と13世紀前半にその中心が考えられる。止水の時期、強い流水の時期、止水の時期が土層より観察でき、砂層中の葉理よりSD01では北から南へ、SD02では東から西へ、流水性を示す時期があったことが明らかになったが、現状においては機能を論ずるのが難しく、今後溝の全貌が明らかになった時に待ちたいが

農業用水をも兼ねた境溝ではないかと思われる。

大溝の北端が位置する93J区の北側とその北の調査区94Ab区では、両調査区以外の溝の方位の軸線が南北方向あるいは東西方向だったのに対し、溝の軸線が斜めになっており、この調査区の位置を地籍図等に照らし合わせると善光寺街道が通っており、善光寺街道は木曽川左岸を通過して美濃で東山道とつながっており、12世紀後半の尾張型灰釉系陶器の出土したSD118やSD124（遺物なし）、10世紀前半の灰釉陶器と12世紀後半から13世紀の灰釉系陶器が出土したSD126は善光寺街道の脇溝の可能性もある。12世紀後半にはすでに街道があり、この街道を境に北側と南側の遺構の性格が変わってきているのである。



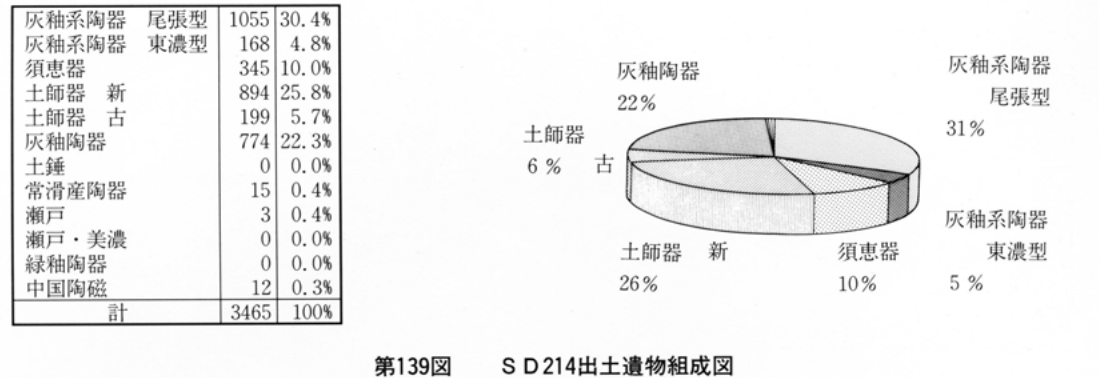
第137図
土鍾地区別
出土分布図



第138図
加工円盤地区別
出土分布図

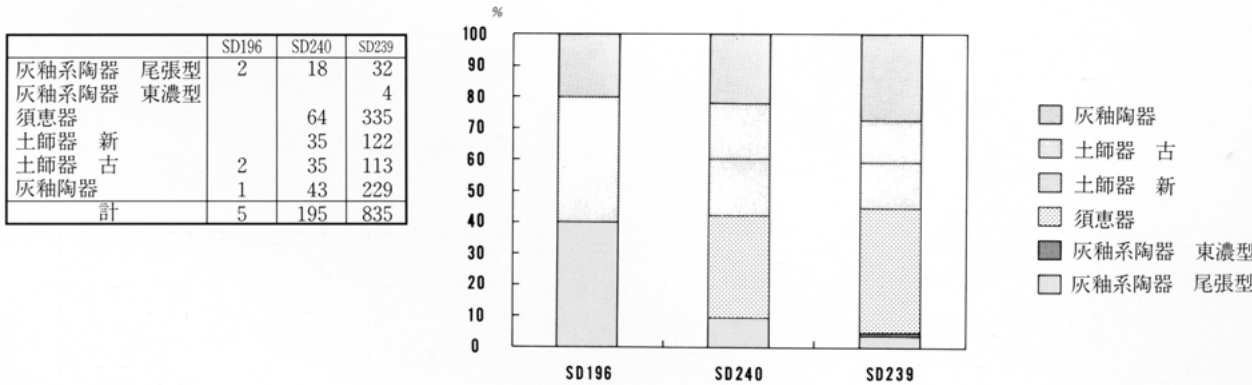
北側には「墳墓堂遺構」を中心にした遺構群の墓域が形成されており、南側では水田地帯と居住域がある。墓域や居住域は自然堤防上に、水田は後背湿地を利用したのであろう。

S D 2 1 4 は12世紀後半から13世紀初めの時期で、93G 区の南側に位置する東西方向に走る溝で中程で井戸 S E 1 0（13世紀後半）に切られ、溝の幅が東側で幅 3 m 5 cm 測ったものが西側では幅 86 cm と狭くなっている。S D 0 1 が調査区の西側に、北側には 8 世紀後半から 9 世紀初頭の住居 S B 0 7 ・



調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型	計		新	古	計									
93G	SD214	887	130	1017	219	884	100	984	562		15	3			11	2811	93GSD02
93G	SD214	168	38	206	126	10	99	109	212						1	654	93GSD05
計		1055	168	1223	345	894	199	1093	774		15	3			12	3465	

第40表 S D 214出土遺物集計表



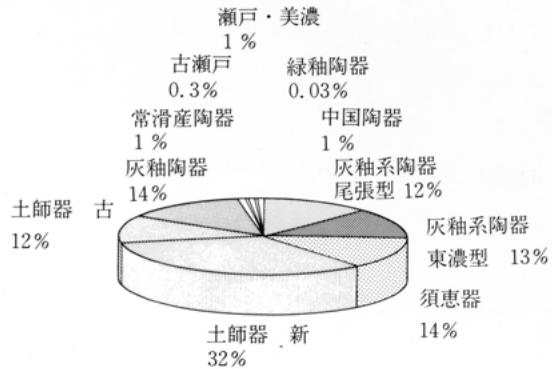
調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型	計		新	古	計									
93Hb	SD196	2		2			2	2	1							5	93HbSD03
93Hb	SD240	18		18	64	35	35	70	43							195	93HbSD05
93Hb	SD239	32	4	36	335	122	113	235	229							835	93HbSD06
計		52	4	56	399	157	150	307	273							1035	

第41表 S D 196・239・240出土遺物集計表

08が検出されている。出土遺物は3465点あり、尾張型灰釉系陶器1055点、伊勢型鍋、清郷型鍋、土師質皿等の土師器（新）894点、灰釉陶器774点、須恵器345点等が出土し、灰釉陶器は美濃窯が主体で、尾張型灰釉系陶器と土師質皿が多く、土師質皿の多さが目立ち、二段くぼみ撫での皿も出土。

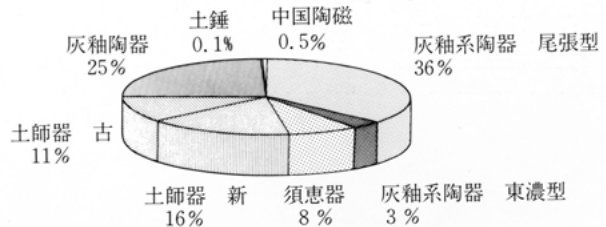
SD239は9世紀後半の時期で、93Ha区の南側に位置する東西溝で最大幅4m60cmを測り、出土遺物は835点、須恵器335点、灰釉陶器229点、土師器（新）122点（古）113点等で須恵器は美濃須

灰釉系陶器	尾張型	405	11.9%
灰釉系陶器	東濃型	444	13.1%
須恵器		462	13.6%
土師器	新	1103	32.5%
土師器	古	413	12.2%
灰釉陶器		474	14.0%
土錘		0	0.0%
常滑産陶器		24	0.7%
瀬戸		9	0.3%
瀬戸・美濃		40	1.2%
緑釉陶器		1	0.0%
中国陶磁		22	0.6%
計		3397	100%



第141図 大溝（SD01）出土遺物組成図（1）

灰釉系陶器	東濃型	910	36.2%
灰釉系陶器	尾張型	85	3.4%
須恵器		199	7.9%
土師器	新	406	16.2%
土師器	古	279	11.1%
灰釉陶器		619	24.6%
土錘		3	0.1%
常滑産陶器		0	0.0%
瀬戸		0	0.0%
瀬戸・美濃		0	0.0%
緑釉陶器		0	0.0%
中国陶磁		12	0.5%
計		2513	100%



第142図 大溝（SD02）出土遺物組成図（2）

調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型	計		新	古	計									
大溝	93G SD01	36		36		274	35	309	9		3				9	366	93GSD01
	92H SD01	224	16	240	63	85	4	89	84			4			1	481	92HSD39
	92Ca SD01				3	78	71	149	3						2	157	92CaSD03
	92Cb SD01	1	3	4	11	168	101	269	3						4	291	92CbSD03
	92Db SD01						1	1								1	92DbSD03
	93I SD01		1	1	8	51	39	90	9						1	109	93ISD03
	93J SD01	4	9	13		1	2	3								16	93JSD25
	93J SD01	1		1	4	20	20	40	8							53	93JSD26
	94Aa SD01	6	62	68	22	19	12	31	38				2		1	162	94AaSD01
	95Aa SD01	129	353	482	348	336	119	455	318		21	4	38	1	1	1668	95AaSD01
大溝計	95Ab SD01	4		4	3	70	10	80	2			1			3	93	95AbSD01
	大溝計	405	444	849	462	1103	413	1516	474	0	24	9	40	1	22	3397	

第42表 大溝出土遺物集計表（1）：SD01

調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土錘	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張型	東濃型	計		新	古	計									
92H	SD02	910	85	995	199	406	279	685	619	3					12	2513	92HSD43

第43表 大溝出土遺物集計表（2）：SD02

衛窯の製品が灰釉陶器は美濃窯の製品が多い。

5. 墳墓堂遺構群

墳墓堂は阿弥陀堂とか法華堂と呼ばれるもので、死後ゆかりの仏堂に遺体を安置し、一定期間供養するためにつくられた建物で、後に目的を転じて遺体を埋葬しその上に堂が建てられたり、堂の中に遺体（遺骨）を安置するようになったと考えられている。前者の例として大分県豊後高田市の富貴寺大堂があり、堂の内陣床下に径1 m60cm程のやや偏平な自然石とこの石の下部に穴があったと推定されている。後者の例として岩手県平泉町の中尊寺金色堂がある。なおカラー図版の復元墳墓堂は愛知県幡豆郡吉良町金蓮寺阿弥陀堂を基に復元を行っている。

当初は「墳墓堂」と称したが、建物の下から墓壇などが検出されていないことを考えて「墳墓堂遺構」とした。方形区画溝に囲まれた中央部から建物が検出されており「堂」のような建物があったことはまちがいないが「墳墓堂」とするまでの遺構、遺物が乏しいのが現状である。

墳墓堂遺構を中心とする遺構群は調査区の北側92F区、92Ga区、92Gb区、93E区、93K区、95B区に展開しており、墳墓堂遺構を含め区画内や集石の検出作業中において焼土や骨片を確認している。

墳墓堂遺構は溝幅3 mから6 m、深さ80cmを測る周溝S D 0 3で囲まれており、南側では入口である開口部が存在し、周溝で囲まれた内部（平坦部幅、東西約13m、南北15m）からは総柱掘立柱建物が1棟検出され、建物は東西3間、南北4間であった。

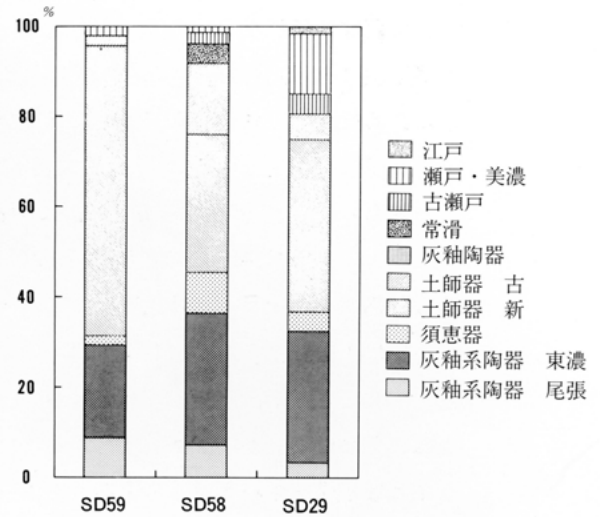
周溝S D 0 3からは東濃型の灰釉系陶器の椀161点、土師質皿58点、常滑甕46点、土師器甕35点、羽釜22点、伊勢型鍋16点、東濃型の灰釉系陶器の皿11点、この他に古瀬戸の壺や中国陶磁等、合計388点出土している。この内訳は東溝から210点、西溝から110点、南溝から62点、北溝から6点である。東溝と西溝に遺物が集中しており、東溝では東濃型の灰釉系陶器椀が78点、常滑の甕が39点、土師質皿22点、羽釜22点等が主だったもので、西溝では東濃型の灰釉系陶器椀が47点、土師質皿30点が主である。東溝に遺物が多いのは調査区の東側にも西側に展開しているような土坑等の墓域が展開しているためと思われる。東溝と西溝の遺物の多さに比べ、南溝や北溝の少なさは、付近の遺構の過多にあり、南溝では開口部があり、墓道に続く入口や井戸が、北溝では北西部分に小区画があるのみである。東溝より出土の古瀬戸の水注は漆継ぎが施され、四耳壺と同様に13世紀前半の製品である。

周溝S D 0 3は13世紀後半の東濃型の灰釉系陶器が主体を占めていることから13世紀後半がこの墓域の中心時期と考えられる。またS D 0 3の南溝の開口部に近い所からは燈籠の根石が出土している。

なお北溝の珪藻、花粉分析および堆積物の層相によって、溝は水深のある滞水域で、溝の中ではガマ属・オモダカ属・セリ科などの水生植物が繁茂していたこととイネ科やカヤツリグサ科の草本花粉の割合がマツ属やスギ属の本花粉より多いことから周辺がかなり開けた裸地的な環境であることが、昆虫化石からは、果樹や畑作物の葉や根を食害するヒメコガネの出現頻度が高かったことと、この他にも食害するコガネムシ科が多数産出していることから、田所遺跡周辺は畑地と人家が混在する人里的な景観が展開していたと考えられるのである。

墳墓堂遺構を中心に南側には墓道があり、墓道の西側には方形台状遺構とした塚墓が、この南側には墓域の南限を区画するためと思われる東西方向の2条の溝がある。さらにその南側に大きく不整形に削平され周囲を楕円状に走る溝をもった遺構があり、池の可能性がある。また周辺の墓域は堂を取り囲むように溝によって区画され、大区画と、規模の小さい溝によって区画された小区画とによって配置され、東と西には大区画、北には小区画によって区画されていたものと推定できる。

		SD06	SD07・SD08	SD15	
		東	西		計
		92GaSD59	92GaSD58	92GaSD29	
須恵器	杯		2		2
	甕	1	4	3	8
	盤		2		2
土師器	古	1	13	4	18
	高杯		1		1
土師質	新	伊勢型鍋	8		31
		皿	19	26	53
灰釉系陶器	尾張	碗	4	1	5
		鉢	4	2	7
	東濃	碗	8	25	53
		皿	2	1	3
常滑		甕	4		4
古瀬戸		碗		1	1
		皿	1	2	3
		仏花	1		1
瀬戸・美濃		灰釉皿	1	3	5
		重圈皿		1	1
		天目茶碗		3	3
		鉢		2	2
江戸		甕		1	1
計		48	88	68	204



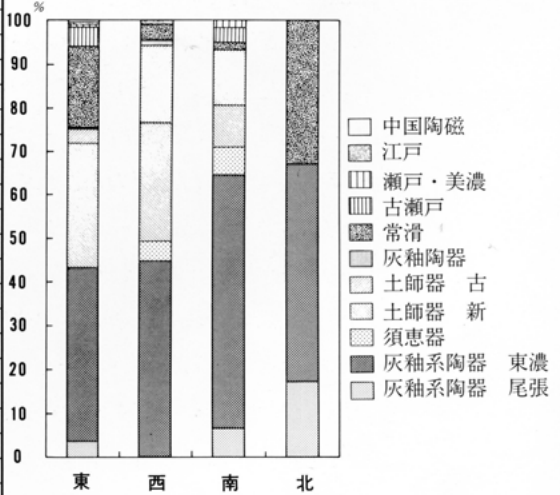
第143図 墓道脇溝出土器種組成図

第44表 墓道脇溝出土遺物器種別集計表：SD06・07・08・15

調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土鉢	常滑産陶器	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張	東濃	計		新	古	計									
92Ga	SD06	4	10	14	1	31	1	32					1			48	92GaSD59
92Ga	SD07・08	6	26	32	8	27	14	41			4	2	1			88	92GaSD58
92Ga	SD15	2	20	22	3	26	4	30					3	9	1	68	92GaSD29
計		12	56	68	12	84	19	103	0	0	4	5	11	1	0	204	

第45表 墓道脇溝出土遺物集計表：SD06・07・08・15

		SD03					
		東	西	南	北		計
		92GbSD26	93KSD03	92GbSD28	95BSD01	92GbSD27	
須恵器	杯		3	1			4
	甕		2	3			5
土師器	古	7	20	8			35
	新	羽釜	22				22
土師質		伊勢型鍋	16				16
		皿	22	30	6		58
灰釉陶器		碗	1				1
		瓶		1			1
灰釉系陶器	尾張	碗	5		4		9
		鉢	2		1		3
	東濃	碗	78	47	33	1	161
		皿	6	2	3		11
常滑		甕	39	4	1	1	46
古瀬戸		瓶子	1				1
		壺	7		1		8
		水注	1		1		2
瀬戸・美濃		碗	1				1
		重圈皿			1		1
江戸		碗	1				1
		皿		1			1
中国陶磁器		碗	1				1
計		210	110	62	3	3	388

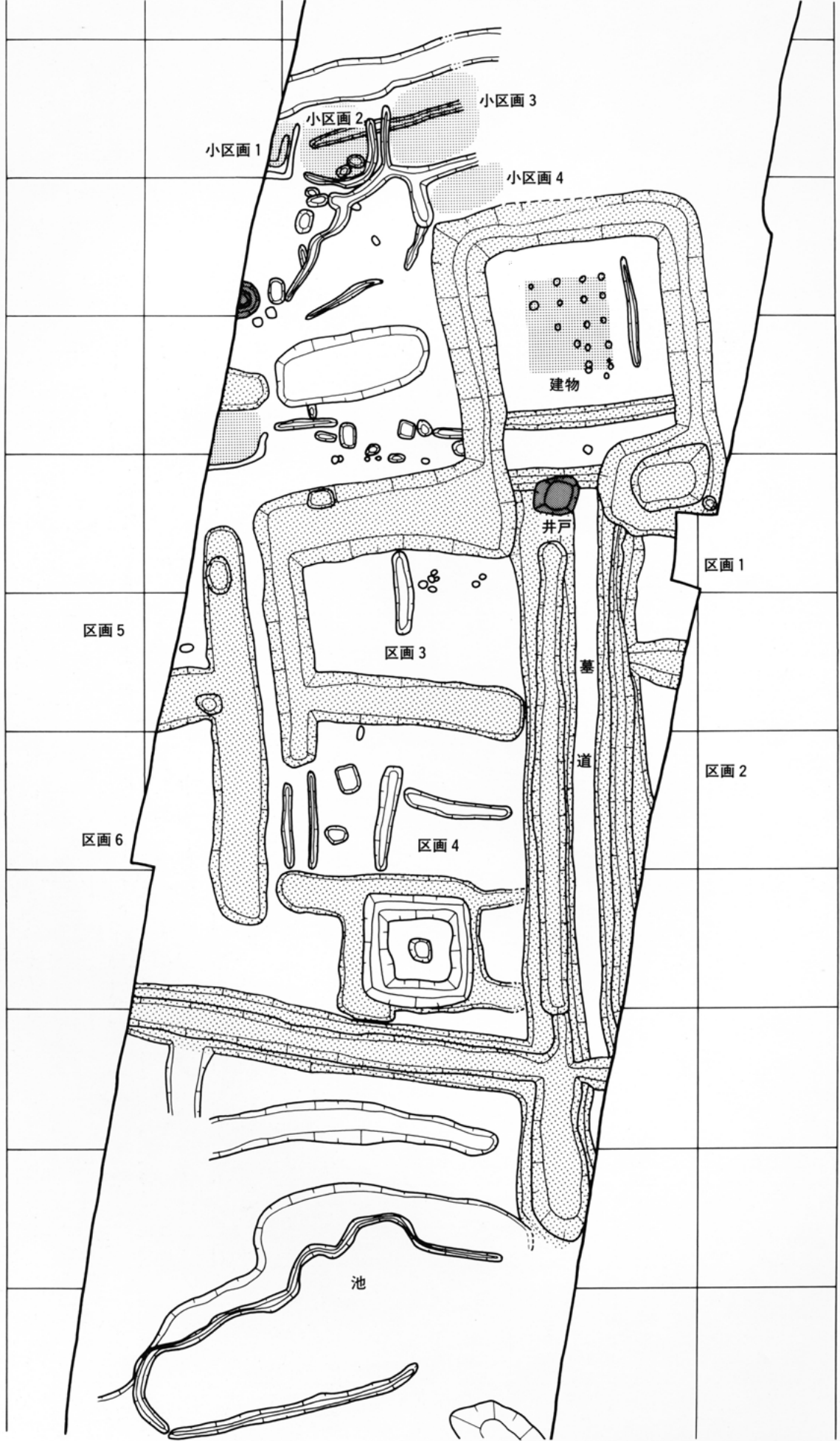


第144図 墳墓堂遺構周溝出土器種組成図

第46表 墳墓堂遺構周溝出土遺物器種別集計表

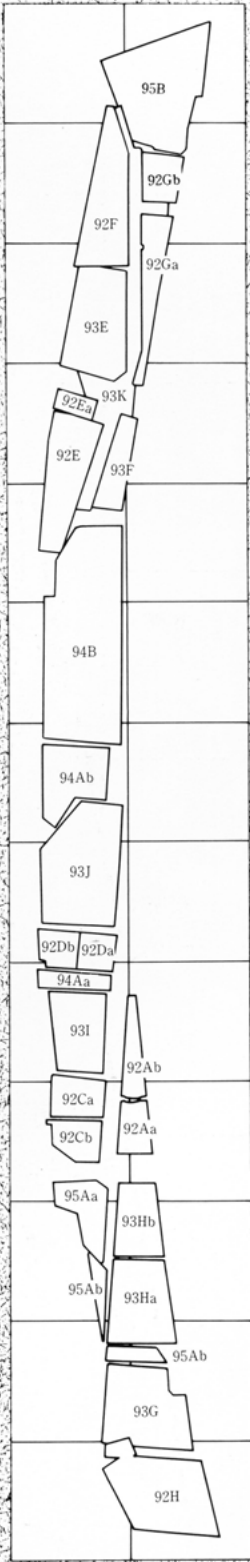
調査区	遺構番号	灰釉系陶器			須恵器	土師器			灰釉陶器	土鉢	常滑	古瀬戸	瀬戸・美濃	緑釉	中国陶磁	合計	旧番号
		尾張	東濃	計		新	古	計									
92Gb	SD03	7	84	91		60	7	67	1		39	9	1	1	1	210	92GbSD26
93K	SD03		49	49	5	30	20	50	1		4			1		110	93KSD03
92Gb	SD03	4	36	40	4	6	8	14			1	2	1			62	92GbSD28
95B	SD03	1	1	2				0			1					3	95BSD01
92Gb	SD03		2	2				0			1					3	92GbSD27
計		12	172	184	9	96	35	131	2	0	46	11	2	2	1	388	

第47表 墳墓堂遺構周溝出土遺物集計表



第145図 墳墓堂遺構周辺概念図

遺構一覽表



挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
7	SD26	95B	SD04	E2f8e	45.6	2.35	0.35	○	12C後～13C前
7	SD27	95B	SD13	E11c12b	(7.8)	6.00	0.38	○	
7	SD28	92Gb	SD29	E13b17c	16.8	1.1	0.09	○	13C後・16C
7	SD29	95B	SD05	E3g13c	(54.7)	1.65	0.30	○	9C後
7	SD30	92Gb	SD25	E13c17c	16.6	1.5	0.14	○	
7	SD31	95B	SD10	E2g3g	(4.8)	2.60	0.15	○	
7	SD32	95B	SD09	E4c3e	(8.7)	0.90	0.10	○	12C後
7	SD33	95B	SD23	E3d3e	(18.5)	1.3	0.25	○	13C後
7	SD34	95B	SD03	E6c12e	(27.3)	3.70	0.25	○	
7	SD35	95B	SD06	E7b	(16.3)	2.30	0.20	○	
7	SD36	95B	SD31	E8f8g	(3.1)	0.5	0.29		
7	SD37	95B	SD38	E7t	(2.0)	1.0	0.27		
7	SD38	95B	SD36	E7a8b	(3.5)	0.8	0.46		
7	SD39	95B	SD34	E7c8e	(1.4)	0.7	0.40		
7	SD40	95B	SD37	E8a	(1.0)	0.7	0.16		
7	SD41	95B	SD15	D8s8t	(6.4)	1.50	0.24		
7	SD42	95B	SD08	D8t E9b	(16.5)	0.85	0.13		
7	92F	SD52	D9st	(3.6)	(1.8)	0.32			
7	93K	SD10	D9t10t	(4.3)	0.7	0.13			
7	93K	SD11	D9t10t	(1.8)	0.5	0.10			
7	93K	SK02	D9t	(1.6)	(1.0)	0.21	○		
7	SD43	95B	SD26	E8a	(3.4)	(0.6)	0.44		
7	SD44	95B	SD27	E9a	3.4	0.6	0.41	○	
7	SD45	95B	SD28	E8t9t	(2.3)	0.5	0.52		
7	SD46	95B	SD25	D8t	(3.2)	0.5	0.28		
7	SD47	95B	SD42	D8t	(6.6)	(0.8)	0.09		
7	SD48	95B	SD39	E8t9t	2.8	0.4	0.29		
7	SD49	95B	SD33	E8c9d	(6.0)	0.3	0.17		
7	SD50	95B	SD48	E9c	(3.0)	(0.6)	0.14		
7	SD51	95B	SD46	E9d	(1.2)	0.4	0.21		
7	SD52	95B	SD44	E10b8c	(1.5)	0.5	0.20		
7	SD53	95B	SD14	E10c11c	(3.3)	0.80	0.45	○	
7	SD54	95B	SD12	E11b12b	(9.0)	1.70	0.23	○	13C前
7	SD55	95B	SD11	E11b12b	(7.9)	1.50	0.06	○	13C前
7	SD56	92F	SD50	D9s10s	(3.9)	(1.4)	0.21	○	
7	SD60	93K	SD12	E11a	2.9	0.6	0.04		
7	SD66	95B	SD02	E11e13e	(9.0)	(2.0)	1.10	○	12C後
7	92Gb	SK71	E13e14e	(2.5)	(1.6)	0.50	○		
7	SD70	92Gb	SD30	E13c17c	16.6	(1.0)	0.16	○	
7	SD72	92Gb	SD32	E14c15d	(8.0)	(0.6)	-	○	
7	SD74	92F		D18t19t	4.8	(0.5)	0.07		
7	SD75	92F		E19a D19st	(9.2)	1.2	0.12		
7	SD76	92F		D17r	(1.9)	0.6	0.08		
7	SK01	95B	SK18	E8b	1.1	0.9	0.32		
7	SK02	95B	SK19	E3t	(0.8)	0.8	0.09		
7	SK03	95B	SK17	E8c	1.8	1.4	0.47		
7	SK04	95B	SK16	E8c	1.6	(0.7)	0.23	○	
7	SK05	93K	SK04	D9t	(1.3)	1.1	0.08		
7	SK06	93K	SK05	D10t	(2.1)	1.2	0.10		
7	SK07	95B	SK13	E9e	(2.4)	2.2	0.26		
7	SK08	95B	SK07	E9d	(0.6)	0.5	0.20		
7	SK09	95B	SK15	E9d10c	(3.5)	0.5	0.15		
7	SK10	95B	SK14	E10c	(0.9)	(0.5)	0.02		
7	SK11	95B	SK22	E11d	0.6	(0.3)	0.26		
7	SK12	95B	SK12	E11d	2.3	0.6	0.07		
7	SK13	95B	SK10	E11d	2.3	0.3	0.13		
7	SK14	95B	SK08	E12d	1.6	0.5	0.07		
7	SK15	95B	SK05	E12d	3.2	0.9	0.06		
7	SK16	95B	SK06	E12d	1.0	0.5	0.13		
7	SK17	95B	SK23	E12d	(1.0)	0.8	0.30		
7	SK18	95B	SK25	E12d	0.8	0.8	0.30		
7	SK19	95B	SK26	E12d	0.7	0.4	0.29		
7	SK20	95B	SK27	E13d	(0.9)	(0.3)	0.41		
7	SK21	95B	SK28	E13d	(0.6)	(0.3)	0.44		
7	SK22	95B	SK20	E11a	0.8	0.6	0.36		
7	SK23	95B	SK04	E11a	(0.9)	(0.2)	0.07		
7	SK24	95B	SK03	E11a	(2.1)	(0.3)	0.09		
7	SK25	95B	SK21	E11b	0.6	0.4	0.39		
7	SK26	95B	SK02	E12a	(0.6)	(0.2)	0.07		
7	SK27	95B	SK01	E12a	(2.8)	(0.3)	0.07		
7	SK28	92F		D11s	0.6	0.4	0.05		
7	SK29	92F		D11t	0.6	0.5	0.07		
7	SK30	92F		D11t	0.9	0.8	0.16		
7	SK36	92F		D13r	0.7	0.6	0.04		
7	SK39	93K	SK06	E12a13a	3.9	(1.4)	0.15		
7	SK40	93K	SK01	E13a	(2.0)	0.7	0.09	○	
7	SK47	92F	SK86	D16r	0.4	0.4	0.09	○	
7	SK55	93K		E16a	0.5	(0.3)	0.06		
7	SK57	93K		E17b	(0.7)	0.8	0.13		
7	SK58	92Gb		E14e	0.7	0.6	0.17		
7	SK59	92Gb		E15e	0.5	0.5	0.08		
7	SK60	92Gb	P03	E15e	0.8	0.8	0.13	○	13C前
7	SK61	92Gb		E16e	(1.8)	1.0	0.08		
7	SK62	92Gb		E16e	(1.2)	0.9	0.06		
7	SK65	93K	SK03	E17b18b	2.4	2.4	0.51	○	
7	SK66	92Ga		E18e	(1.4)	(0.7)	0.28		
7	SK72	92F		E18a19a	(5.1)	(1.1)	0.10		
7	SK74	92F	SK89	D17q18q	(4.0)	(1.8)	0.32	○	
7	SK75	92F		D17r	(1.1)	1.3	0.07		
7	SK01	95B	SK01	E11c	4.7	2.3	0.43	○	
7	NR01	95B	NR01	D7s E3c	(24.4)	(13.8)	0.75	○	
7	P23	92Gb		E15c	0.3	0.3	0.06		
7	P24	92Gb		E15c	0.3	0.3	0.06		
7	P25	92Gb		E15c	0.3	0.3	0.09		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
7	P26	92Gb		E15c	0.2	0.2	0.10		
7	P27	92Gb		E15c	0.1	0.1	0.06		
7	P28	92Gb		E14d	0.4	0.4	0.12		
7	P29	92Gb		E14d	0.5	0.3	0.11		
7	P30	92Gb		E14d	0.3	0.3	0.11		
7	P31	92Gb		E14d	0.4	0.4	0.10		
7	P32	92Gb		E14d	0.4	0.5	0.10		
7	P33	92Gb		E14d	0.6	0.5	0.10		
7	P34	92Gb		E14d	0.4	0.4	0.13		
7	P35	92Gb		E14d	0.4	0.4	0.11		
7	P36	92Gb		E14d	0.4	0.4	0.11		
7	P37	92Gb		E14d	0.4	0.4	0.12		
7	P38	92Gb		E14d	0.3	0.4	0.14		
7	P39	92Gb	P01	E14d	0.5	0.4	0.12	○	13C前
7	P40	92Gb		E14d15d	0.4	0.4	0.09		
7	P41	92Gb		E14d15d	0.5	0.4	0.09		
7	P42	92Gb		E15d	0.4	0.2	0.09		
7	P43	92Gb		E15d	0.4	0.4	0.10		
7	P44	92Gb		E15d	0.3	0.3	0.10		
7	P45	92Gb		E15d	0.4	0.4	0.08		
7	P46	92Gb		E15d	0.3	0.4	0.06		
7	P47	92Gb		E15d	0.4	0.3	0.07		
7	P48	92Gb		E15d	0.3	0.3	-		
7	P49	92Gb		E15d	0.4	0.3	0.07		
7	P50	92Gb		E15d	0.4	0.3	0.09		
7	P51	95B	P08	E3g	0.2	0.5	0.08		
7	P52	95B		E4d	0.5	0.5	-		
7	P53	95B	P07	E4f5f	0.3	0.2	0.08		
7	P54	95B	P06	E6d	0.5	0.5	-		
7	P55	95B	P09	E8f	0.6	0.5	0.15		
7	P56	95B	P13	E8a	0.4	0.4	0.27		
7	P57	95B	P14	E8b	0.6	0.5	0.41		
7	P58	95B	P15	E8a	0.4	0.4	0.24	○	
7	P59	95B	P16	E9a	0.4	0.4	0.05		
7	P60	95B	P04	E9t	0.4	0.4	0.14		
7	P61	95B	P03	E9a	0.4	0.4	0.05		
7	P62	95B	P05	E9f	0.5	0.4	0.19		
7	P63	95B	P25	E9b	0.4	0.3	0.38		
7	P64	95B	P02	E10a	0.4	0.4	0.09		
7	P65	95B	P24	E10a	0.4	(0.2)	0.17		
7	P66	95B	P01	E10a	0.4	0.3	0.16		
7	P67	95B	P11	E11f	0.2	0.2	0.07		
7	P68	95B	P12	E11f	0.2	0.2	0.07		
7	P69	95B	P10	E11e	0.3	0.2	0.10	○	
7	P70	95B	SK11	E11d11e	0.7	0.4	0.08		
7	P71	95B	P22	E12d	0.4	0.4	0.22		
7	P72	95B	SK24	E12d	0.5	0.5	0.15		
7	P73	95B	P23	E13d	0.4	0.4	0.34		
7	P74	95B	P20	E12c	0.5	0.4	0.24		
7	P75	95B	P21	E12c	0.4	0.3	0.09		
7	P76	95B	P19	E12b	0.3	0.3	0.30		
7	P77	92F		D13t	0.3	0.3	0.10		
7	P78	92F		D13t	0.4	0.4	0.10		
7	P79	92F		D13s	0.3	0.3	0.16		
7	P84	92Gb	P22	E14e	0.5	0.5	-		
8	SD78	93K		E1a	4.0	0.5	0.08		
8	SD80	93K	SD19	E1a3a	(9.1)	0.7	0.06		
8	SD81	92F		D1q2q	2.1	0.8	0.10		
8	SD82	93Eb	SD37	D3s	(3.0)	(0.5)	0.09		
8	SD83	93Eb	SD41	D4s	(4.6)	1.6	0.11		
8	SD84	92Ga		E4c	(1.4)	0.4	0.12		
8	SD85	93Eb	SD38	D7pq	(6.9)	1.1	0.13		
8	SD86	93Eb	SD43	D7p8p	(1.1)	0.5	0.06		
8	SD87	93K	SD23	E13a	(18.0)	1.5	0.15	○	12C後
8	SD88	93K		D15t17s	(7.2)	1.5	0.16		
8		93K		D17s	(2.1)	0.8	0.05		
8	SD89	93F	SD13	D16t18t	(9.0)	1.0	0.10		
8	SK78	92Ga		E19d20d	(0.9)	(0.6)	0.23		
8	SK79	92Ga		E20d	(2.7)	(0.5)	-		
8	SK80	92F		D20s	0.9	(0.5)	0.01		
8	SK82	92F		D1s	(2.2)	0.6	0.04		
8	SK85	92F		D2q	(2.6)	(2.1)	0.10		
8	SK87	93Eb		D4s	1.8	1.2	0.14		
8	SK88	93Eb	SK250	D6p	(0.9)	0.5	0.05		
8	SK89	93Eb	SK182	D6s7s	(1.3)	0.6	0.13		
8	SK90	93Eb	SK183	D6t7t	(0.9)	0.5	0.07		
8	SK91	93Eb	SK169	D7q	(2.0)	0.6	0.16		
8	SK92	93Eb	SK165	D8q	0.7	0.6	0.20		
8	SK93	93Eb2	SK163	D9q	1.9	1.4	0.43		
8	SK94	93Eb2	SK162	D9p	1.4	1.0	0.44		
8	SK95	92Ga	SD67	E10b11b	(4.5)	5.0	0.81	○	12C後
8	SK96	93K	SK09	E10a11a	(5.9)	(2.7)	0.63	○	13C後
8	SK97	93Ea	SK01	D13pq	2.5	1.3	0.35		
8	SK97	93K		D14r	1.0	0.9	0.04		
8	SK98	93K		D15t	0.9	(0.6)	0.08		
8	SK99	93K		D17s	2.1	1.5	0.07		
8	SK100	93K		D17s	(1.0)	(1.0)	0.06		
8	SK101	93K		D17t	(4.0)	0.7	0.03		
8	SK102	92E		D17o	1.4	0.8	0.12		
8	P87	93Eb	SK168	D7p	0.5	0.4	0.08		
8	P88	93Eb	SK172	D7q	0.4	0.3	0.06		
8	P89	93Eb	SK181	D8p	0.4	0.3	0.20		
8	P90	93Ea	SK02	D14r	0.4	0.4	0.11		
8	P91	93Ea	SK03	D14r	0.4	0.3	0.15		

棟号	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
8	P92	93Ea	SK04	ⅢD14r	0.3	0.2	0.12		
8	P93	93Ea	SK05	ⅢD15r	0.2	0.2	0.12	○	
8	P94	93Ea	SK06	ⅢD15q	0.2	0.2	0.15	○	
8	P95	93K		ⅢD14t	0.4	0.4	0.13		
8	P96	93K		ⅢD14t	0.4	0.4	0.16		
8	P97	93K		ⅢD14t	0.6	0.4	0.30		
8	P98	93K		ⅢD15r	0.3	0.3	0.03		
8	P99	93K		ⅢD16s	0.4	0.3	0.03		
8	P100	93K		ⅢD16s	0.5	0.3	0.03		
8	P101	93K		ⅢD16s	0.8	0.4	0.05		
8	P102	93K		ⅢD17s	0.4	0.4	0.05		
9	SD89	93F	SD11	ⅢD16t18t	(3.3)	(1.5)	0.09		
9		93F	SD12	ⅢD18t	(2.0)	(1.0)	0.12		
9	SD90	93F	SD16	ⅢD17t18t	(8.6)	(1.0)	0.10		
9	SD91	93K		ⅢD18s	(1.0)	1.4	0.22		
9		93F	SD10	ⅢD18sⅢE20a	(9.8)	1.5	0.79	○	12C後
9		92E	SD66	ⅢD18r19n	(19.3)	1.2	0.19	○	10C前・12C後
9	SD92	93K	SX02	ⅢD18r	(6.2)	4.2	0.04	○	12C後・13C後・14C前
9		93F	SD07	ⅢD18sⅢE19a	(9.9)	(3.9)	0.94	○	12C後
9	SD93	93F	SD06	ⅢD19r20s	5.0	1.1	0.41		
9		93F	SD06	ⅢD2s	10.0	1.1	0.03	○	
9	SD94	93F	SD08	ⅢD19tⅢE19a	(4.5)	0.5	0.05		
9	SD95	93F	SD09	ⅢD19tⅢE20a	(5.2)	(1.2)	0.09		
9	SD96	93F	SD04	ⅢD20sⅢD3t	(16.3)	1.1	0.15	○	
9	SD97	93F	SD05	ⅢD20s	(5.0)	(1.7)	0.12	○	
9	SD98	94Bb	SD02	ⅢD4t6t	(21.6)	1.2	0.16	○	
9	SD99	94Bb	SD01	ⅢD4s8s	(18.8)	0.7	0.12	○	12C後
9	SD100	94Ba	SD06	ⅢD17p18p	6.3	0.3	0.05	○	
9	SD101	94Ba	SD01	ⅢD4q8o	(18.6)	(3.4)	0.12	○	12C後～13C前
9	SD102	94Bb	SD03	ⅢD5t	(3.3)	0.2	0.06		
9	SD103	94Bb	SD04	ⅢD6s6t	(5.4)	0.4	0.07		
9	SD104	92E	SD03	ⅢD6n6o	(8.2)	(3.5)	-		
9	SD105	94Bb	SD05	ⅢD8s8t	(9.1)	0.6	0.09	○	
9	SD106	94Bb	SD07	ⅢD9r10s	5.5	0.6	0.07	○	
9	SD107	94Bb	SD09	ⅢD9t10t	(46.4)	1.0	0.06	○	
9	SD108	94Ba	SD02	ⅢD8o12o	(19.0)	0.7	0.10	○	12C後・13C後
9	SD109	94Ba	SD03	ⅢD12o19p	35.4	0.9	0.08	○	14C前
9	SD110	94Bb	SD08	ⅢD13r	4.9	0.5	0.07	○	14C前
9	SK103	93K		ⅢD18r18s	(6.2)	1.4	0.26		
9	SK103	93K		ⅢD19rs	(6.2)	(1.6)	0.46		
9	SK103	93F	SD17	ⅢD18s	(1.5)	(1.8)	0.28		
9	SK104	93K		ⅢD18s	(1.6)	(0.8)	0.07		
9	SK105	92E	SK74	ⅢD19np	(8.0)	(3.0)	0.06	○	12C後・13C後
9	SK106	92E	SK93	ⅢD20nⅢD2n				○	12C後～13C前
9	SK106	92E	SK93	ⅢD20nⅢD2n	8.2	4.8	0.18	○	
9	SK107	93K		ⅢD19r20q	(2.8)	(0.7)	0.07		
9	SK108	93K		ⅢD20q	0.7	0.6	0.05		
9	SK109	93K		ⅢD19rs	(3.0)	(1.8)	0.05		
9	SK109	93F	SK153	ⅢD19s	1.9	2.0	0.58		
9	SK110	93F	SK157	ⅢD17t	0.4	(0.4)	0.05		
9	SK111	93F	SK152	ⅢD19t	0.7	0.6	0.26		
9	SK112	93F	SK35	ⅢD20t	(4.5)	2.4	0.32		
9	SK113	93F	SK102	ⅢD20s	(3.3)	3.0	0.70		
9	SK114	93F	SK36	ⅢD1r3r	10.1	4.8	0.95	○	10C前・12C後
9	SK115	93F	SK34	ⅢD2r3r	3.2	1.4	0.84	○	12C後
9	SK116	93K	SK08	ⅢD1q2q	3.9	2.5	0.38		
9	SK117	93K		ⅢD2q3r	3.5	(3.0)	0.52		
9	SK118	92E	SK73	ⅢD2p3p	2.9	2.1	0.33		
9	SK119	92E		ⅢD3n	(2.2)	(1.5)	0.36		
9	SK120	92E		ⅢD5o5p	(1.5)	(0.8)	0.12		
9	SK121	92E		ⅢD6n	(1.4)	(1.1)	0.20		
9	SK122	94Bb	SK01	ⅢD9s9t	2.8	1.5	0.30		
9	SK123	94Bb	SK02	ⅢD9s	1.5	0.9	0.22		
9	SK124	94Bb	SK12	ⅢD10t	1.5	1.1	0.44		
9	SK125	94Bb	SK05	ⅢD9r	4.1	2.9	0.35	○	
9	SK126	94Bb	SK04	ⅢD9q9r	3.7	(1.0)	0.31		
9	SK127	94Ba	SK01	ⅢD9pq	4.7	2.0	0.08	○	12C後
9	SK128	94Ba	SK04	ⅢD10o	1.3	1.1	0.36		12C後・13C後
9	SK129	94Ba	SK02	ⅢD10o11p	5.7	3.1	0.56	○	13C後
9	SK130	94Ba	SK05	ⅢD11q	2.5	1.4	0.12	○	
9	SK131	94Ba	SK06	ⅢD11p12p	3.2	1.8	0.33		
9	SK132	94Ba	SK07	ⅢD12o	1.1	0.9	0.21		
9	SK133	94Ba	SK03	ⅢD12no	1.0	0.9	0.20	○	12C後
9	SK134	94Bb	SK06	ⅢD14r	2.9	1.6	0.12		
9	SX10	93F	SX01	ⅢD3r	(1.4)	(1.4)	0.17		
9	SX11	94Bb	SX01	ⅢD10. 11. 12t	9.6	2.8	0.41	○	
9	P103	93F	SK99	ⅢD19s	0.4	0.4	0.06		
9	P104	92E		ⅢD19p	0.4	0.4	0.09		
9	P105	92E		ⅢD19p	0.4	0.3	0.07		
9	P106	92E		ⅢD19p	0.4	0.4	0.09		
9	P107	92E		ⅢD19p	0.4	0.3	0.08		
9	P108	92E		ⅢD20p	0.4	0.3	0.04		
9	P109	92E		ⅢD20p	0.3	0.3	0.06		
9	P110	92E		ⅢD20p	0.6	0.4	0.06		
9	P111	92E		ⅢD20p	0.4	0.3	0.06		
9	P112	92E		ⅢD20p	0.5	0.3	0.09		
9	P113	92E		ⅢD20p	0.5	0.4	0.10		
9	P114	92E		ⅢD20p	0.7	0.5	0.11		
9	P115	92E		ⅢD20p	0.6	0.5	0.11		
9	P116	92E		ⅢD20p	0.6	0.5	0.13		
9	P117	92E		ⅢD1p	0.6	0.5	0.14		
9	P118	92E		ⅢD1p	0.7	0.5	0.28		
9	P119	92E		ⅢD1p	0.6	0.5	0.16		
9	P120	92E		ⅢD1p	0.6	0.5	0.10		

地図区	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
9	P121	93K		ⅢD2q	0.4	0.4	0.07		
9	P122	94Bb	P01	ⅢD5s	0.6	0.5	0.09		
9	P123	94Bb	P05	ⅢD5t	0.5	0.4	0.08		
9	P124	94Bb	P06	ⅢD6t	0.4	0.4	0.10		
9	P125	94Bb	P07	ⅢD6t	0.7	0.2	0.09		
9	P126	94Bb	P08	ⅢD6t	0.6	0.3	0.07		
9	P127	94Bb	P09	ⅢD6t	0.5	0.3	0.09		
9	P128	94Bb	P10	ⅢD6t	0.5	0.3	0.06		
9	P129	94Bb	P02	ⅢD7t	0.5	0.4	0.09		
9	P130	94Bb	P03	ⅢD7t	0.4	0.3	0.07		
9	P131	94Bb	P04	ⅢD8t	0.2	0.8	0.07		
9	P132	94Ba	P01	ⅢD8q	0.6	0.4	0.16		
9	P133	94Ba	P02	ⅢD9o	0.6	0.4	0.06		
9	P134	94Ba	P08	ⅢD10o	0.7	0.3	0.06		
9	P135	94Ba	P06	ⅢD12o	0.9	0.5	0.16		
9	P136	94Ba	P03	ⅢD12o	0.8	0.5	0.06		
9	P137	94Ba	P04	ⅢD12o	0.5	(0.4)	0.04		
9	P138	94Ba	P07	ⅢD12o	0.5	(0.3)	0.07		
9	P139	94Ba	P05	ⅢD12o	(0.6)	0.4	0.07		
9	P140	94Bb	P11	ⅢD13t	0.3	0.3	0.08		
9	P141	94Bb	P12	ⅢD13t	0.3	0.2	0.09		
9	P142	94Bb	P13	ⅢD14t	0.2	0.2	0.10		
9	P143	94Bb	P14	ⅢD14t	0.2	0.2	0.10		
9	P144	94Bb	P15	ⅢD14t	0.2	0.2	0.08		
9	P145	94Bb	P16	ⅢD14t	0.2	0.1	0.09		
9	P146	94Bb	P17	ⅢD14s	0.4	0.3	0.15		
10	SD111	94Ba	SD07	ⅤD17qr	4.5	0.3	0.10		
10	SD111	94Ba	SD10	ⅤD17qr	4.5	0.3	0.08		
10	SD112	94Ba	SD05	ⅤD17p20p	(16.0)	0.4	0.10		
10	SD113	94Bb	SD06	ⅤD5q6q	4.2	1.0	0.10	○	
10	SD114	94Ba	SK09	ⅤD17n19n	(11.6)	(2.0)	0.14	○	
10	SD115	94Ba	SD08	ⅤD20pⅤD1p	(4.2)	0.3	0.06	○	
10	SD116	94Bb	SD11	ⅤD1t	(2.8)	0.2	0.06		
10	SD117	94Bb	SD12	ⅤD1s1t	(3.7)	0.3	0.07		
10	SD118	94Ab	SD02	ⅤD3r8n	(31.5)	4.0	0.20	○	12C後
10	SD119	94Ab	SD03	ⅤD3s4q	(12.0)	1.2	0.07		
10	SD120	94Ab	SD01	ⅤD3t4s	(7.5)	0.8	0.18		
10	SD121	94Ab	SD04	ⅤD5q6q	(4.2)	1.5	0.27		
10	SD122	94Ab	SD07	ⅤD5p6q	(4.1)	0.5	0.10		
10	SD123	94Ab		ⅤD5o6o	6.7	0.7	0.07		
10	SD124	94Ab		ⅤD6s7r	(8.5)	2.2	0.17		
10	SD125	94Ab	SD05	ⅤD7s	(3.5)	0.7	0.15		
10	SD126	93J	SD01	ⅤD8r12m	(31.0)	0.9	0.24	○	10C前・12C後・13C前
10	SD127	93J	SD02	ⅤD8r12p	(24.6)	0.9	0.05	○	
10	SD128	93J	SD09	ⅤD12p18o	(27.9)	1.5	0.35	○	10C前・12C後
10	SD129	93J	SD05	ⅤD11q12p	(4.5)	(1.0)	0.10		
10	SD130	93J	SD06	ⅤD12p13p	(6.7)	1.2	0.07	○	
10	SD131	93J	SD03	ⅤD9p11p	(7.8)	1.5	0.18	○	
10	SD132	93J	SD04	ⅤD12no	(7.6)	2.2	0.05	○	12C後
10	SD133	93J	SD32	ⅤD12q13q	(3.2)	0.7	0.07		
10	SD134	93J	SD08	ⅤD12q13q	(3.5)	0.6	0.04		
10	SD135	93J	SD07	ⅤD11r14r	(16.0)	0.6	0.16		
10	SD136	93J	SD30	ⅤD12n16p	(19.2)	2.0	0.27		
10	SD137	93J	SD28	ⅤD14rs	4.5	1.0	0.10		
10	SD138	93J	SD27	ⅤD14st	(6.8)	1.2	0.09	○	
10	SK135	94Ba	SK08	ⅢD16o	(4.3)	2.1	0.26	○	
10	SK136	94Bb	SK07	ⅢD16s17s	3.2	1.6	0.27	○	
10	SK137	94Bb	SK08	ⅢD17q18q	2.4	1.2	0.10	○	
10	SK138	94Bb	SK09	ⅢD20s20t	3.2	2.4	0.27	○	9C前・13C後
10	SK139	94Bb	SK10	ⅢD20s20t	4.5	3.1	0.26	○	
10	SK140	94Bb	SK11	ⅢD2r2s	5.0	2.6	0.46	○	14C
10	SK141	94Ba	SK10	ⅢD1o2o	(8.0)	(3.6)	0.36	○	
10	SK142	94Ab	SK02	ⅤD3q	1.2	0.7	0.23		
10	SK143	94Ab	SK03	ⅤD5o	3.0	1.2	0.37		
10	SK144	94Ab	SK01	ⅤD5no	2.2	1.3	0.56		
10	SK145	93J	SK09	ⅤD9p	1.6	(0.6)	0.06		
10	SK146	93J	SK01	ⅤD9r10p	6.0	2.3	0.13	○	
10	SK147	93J	SK10	ⅤD12o	1.6	1.2	0.14		
10	SK148	93J	SK04	ⅤD12o13o	4.1	1.3	0.09		
10	SK149	93J	SK03	ⅤD13o14o	2.6	0.6	0.08	○	
10	SK150	93J	SK11	ⅤD13p	0.9	0.5	0.16	○	
10	SK151	93J	SK05	ⅤD14p	1.0	(0.8)	0.21		
10	SK152	93J	SK12	ⅤD12q	0.6	0.4	0.12		
10	SK153	93J	SK13	ⅤD12q	0.5	0.5	0.10		
10	SK154	93J	SK14	ⅤD13q	0.3	0.3	0.09		
10	SK155	93J	SK18	ⅤD14t	1.8	(1.2)	0.41		
10	SX12	94Bb	SX02	ⅤD19r, 20t	(4.0)	(4.8)	0.63	○	
10	SX13	93J	SX01	ⅤD11op	6.8	6.6	0.49	○	10C前・12C後
10	P147	94Bb	P18	ⅢD16t	0.4	0.3	0.12		
10	P148	94Bb	P19	ⅢD16t	0.4	0.3	0.14		
10	P149	94Bb	P22	ⅢD17s	0.5	0.2	0.10		
10	P150	94Bb	P20	ⅢD17t	(0.3)	0.3	0.06		
10	P151	94Bb	P20	ⅢD17t	0.3	0.3	0.08		
10	P152	94Bb	P21	ⅢD17s	0.4	0.4	0.16		
10	P153	94Bb	P24	ⅢD18t	(0.3)	0.4	0.10	○	
10	P154	94Bb	P23	ⅢD17r	0.3	0.3	0.11		
10	P155	94Ba	P09	ⅢD17p	0.2	0.2	0.05		
10	P156	94Ba	P10	ⅢD17p	0.2	0.2	0.05		
10	P157	94Ba	P11	ⅢD17p	0.3	0.2	0.08		
10	P158	94Ba	P12	ⅢD17p	0.3	0.2	0.07		
10	P159	94Ba	P13	ⅢD17p	0.3	0.9	0.07		
10	P160	94Ba	P14	ⅢD17p	0.4	0.3	0.06		
10	P161	94Ba	P15	ⅢD20n	0.4	0.3	0.14		
10	P162	94Bb	P26	ⅤD20r	0.3	0.3	0.02		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
10	P163	94Bb	P25	VD20s	0.3	0.2	0.09		
10	P164	94Bb	P27	VD2q	0.8	0.5	0.18		
11	SD139	93j	SD11	VD15o15p	(5.8)	2.0	0.10	○	12C後
11	SD140	93j	SD10	VD15p16p	(5.0)	1.2	0.19		
11	SD141	93j	SD12	VD15o17n	(16.6)	1.8	0.22	○	12C後～13C前
11	SD142	93j	SD13	VD16o16p	(5.2)	1.1	0.08		
11	SD143	93j	SD14	VD16o	(2.5)	0.7	0.15	○	
11	SD144	93j	SD15	VD16o16p	(6.5)	0.6	0.06		
11	SD145	93j	SD16	VD17o	(2.1)	0.8	0.14		
11	SD146	93j	SD17	VD17o	(4.1)	1.5	0.34		
11	SD147	93j	SD18	VD15q16s	(13.5)	2.2	0.34	○	9C前・10C前 12C後～13C前
11	SD148	93j	SD22	VD16q16t	(24.8)	0.3	0.80	○	
11	SD149	93j	SD19	VD16q17s	(19.1)	0.7	0.16	○	
11	SD150	93j	SD20	VD17rs	(8.2)	0.7	0.18	○	
11	SD151	93j	SD23	VD17q17s	(10.8)	0.9	0.09	○	
11	SD152	93j	SD24	VD17r18t	(8.0)	0.8	0.07		
11	SD153	93j	SD21	VD17rs	6.8	1.8	0.30	○	
11	SD154	93j	SD29	VD17qr	(1.3)	0.7	0.24		
11	SD155	93j	SD31	VD18o	(2.5)	(0.7)	0.03		
11	SD156	92D	SD11	VD18nVD1n	(12.5)	2.7	0.14	○	13C前～後
11	SD157	92D	SD12	VD18nVD1n	(15.2)	2.6	0.13	○	11C前
11	SD158	92D	SD13	VD18nVD1n	(15.5)	1.9	0.28	○	10C前・12C後
11	SD158	94Aa	SD08	VD2o3o	(6.5)	0.4	0.11		
11	SD158	94Aa	SD09	VD2o3o	(6.7)	1.1	0.22	○	
11	SD158	93l	SD05	VD3o7o	(17.6)	1.7	0.33	○	12C後
11	SD159	92D	SD07	VD19rs	(7.8)	0.4	0.07	○	
11	SD160	94Aa	SD04	VD2mn	(3.0)	(0.4)	0.29		
11	SD161	94Aa	SD05	VD2mo	7.8	0.4	0.11	○	
11	SD162	94Aa	SD18	VD2n	(2.7)	0.8	-		
11	SD163	94Aa	SD02	VD2m3m	(7.8)	(1.1)	0.13	○	12C後
11	SD164	94Aa	SD06	VD2mo	(7.5)	0.6	0.16	○	
11	SD165	94Aa	SD07	VD2mn	(4.6)	0.4	0.09		
11	SD166	94Aa	SD03	VD2m3m	(4.2)	0.7	0.08	○	
11	SD166	93l	SD04	VD3n5o	(10.2)	0.9	0.25		
11	SD167	94Aa		VD2r	(2.2)	0.5	0.09		
11	SD168	94Aa	SD11	VD2rs	(5.5)	0.4	0.06		
11	SD169	94Aa	SD13	VD2rs	(3.8)	0.4	-		
11	SD169	94Aa	SD16	VD3qr	(5.7)	0.3	-		
11	SD170	94Aa		VD2q3r	(13.1)	0.3	-		
11	SD171	94Aa		VD2q3r	(12.9)	0.6	-		
11	SD172	94Aa	SD17	VD3qr	(4.0)	0.3	-		
11	SD173	94Aa	SD10	VD2p3p	(6.2)	0.5	-		
11	SD174	93l	SD01	VD3rs	(4.3)	1.0	0.12	○	9C後・13C前
11	SD175	93l	SD02	VD4qs	(8.8)	1.5	0.23	○	10C前・12C後
11	SD176	93l	SD07	VD3o10o	(35.4)	1.1	0.53	○	12C後
11	SD177	93l	SD08	VD4o6o	(10.6)	0.9	0.18	○	10C前・12C後
11	SD178	93l	SD06	VD4n5o	(5.4)	0.7	0.12	○	
11	SD179	93l	SD11	VD3o5o	(10.6)	1.6	0.19	○	9C前・12C後
11	SD180	93l	SD10	VD4o6o	11.0	0.5	-	○	
11	SD181	93l	SD09	VD4o6o	(15.9)	1.1	0.20	○	10C前・12C後
11	SD182	92C	SD06	VD10o11p	(3.8)	(3.2)	0.29	○	13C前
11	SD183	92C	SD05	VD10n17o	(30.6)	4.2	0.28	○	10C前・12C後
11	SK156	93j	SK15	VD15rs	2.2	1.0	0.09		
11	SK157	93j	SK06	VD17r	1.2	1.1	0.02		
11	SK158	93j	SK07	VD17rs	0.5	(0.2)	0.09		
11	SK159	92D	SK50	VD18o19o	(3.0)	(3.2)	0.08	○	
11	SK160	92D	SK21	VD18q18r	(2.6)	(2.0)	0.21	○	13C後
11	SK161	92D	SK22	VD19q20q	(1.4)	0.6	0.09	○	
11	SK162	92D	SK20	VD19tVD2s	(13.3)	(2.5)	0.10	○	13C前・14C
11	SK163	92D	SK23	VD1q2s	(10.9)	3.6	0.19	○	9C前・10C前・13C後
11	SK164	92D	SK53	VD19op	1.6	1.1	0.10	○	
11	SK165	92D		VD19o	1.1	0.9	0.12		
11	SK166	92D		VD20o	0.9	0.8	0.09		
11	SK167	92D	SK54	VD19n20o	3.2	2.8	0.19	○	9C後・10C前
11	SK168	92D	SK51	VD1po	(3.1)	(2.8)	0.08	○	9C後・12C後
11	SK169	92D	SK52	VD1p	(2.9)	1.2	0.08	○	12C後
11	SK170	92D	SK55	VD1819m				○	12C後
11	SK171	94Aa	SK04	VD2p	1.1	0.4	-		
11	SK172	94Aa	SK03	VD2op	(2.0)	0.6	-		
11	SK173	94Aa	SK05	VD2p	1.5	1.0	-		
11	SK174	94Aa		VD2r	(1.4)	0.5	-		
11	SK175	94Aa	SK06	VD2q3q	3.2	1.0	-		
11	SK176	94Aa	SK08	VD3r	(1.2)	(0.4)	-		
11	SK177	94Aa	SK01	VD3o	(0.6)	0.4	-	○	
11	SK178	94Aa	SK02	VD3no	1.4	0.6	-		
11	SK179	93l	SK29	VD4o	0.5	0.4	0.10		
11	SK180	93l	SK28	VD5o	0.8	0.7	0.13		
11	SK181	93l	SK32	VD6s	(0.7)	0.7	0.21		
11	SK182	93l	SK04	VD7o	0.8	(0.5)	0.11	○	
11	SK183	93l	SK05	VD7o	0.8	0.4	0.10		
11	SK184	93l	SK06	VD7o	0.7	0.4	0.08	○	
11	SK185	93l	SK07	VD7o	1.0	(0.6)	0.08	○	10C後
11	SK186	93l	SK08	VD7o	1.0	0.7	0.09	○	
11	SK187	93l	SK09	VD7o	0.8	0.7	0.06	○	
11	SK188	93l	SK10	VD7o	0.8	0.5	0.07	○	
11	SK189	93l	SK11	VD8o	0.7	0.5	0.03	○	
11	SK190	93l	SK12	VD8o	0.7	0.5	0.05		
11	SK191	93l	SK13	VD8o	(0.6)	0.5	0.04	○	
11	SK192	93l	SK14	VD8o	0.7	(0.6)	0.04	○	
11	SK193	93l	SK15	VD8o	(0.9)	0.6	0.04	○	
11	SK194	93l	SK16	VD9o	0.9	0.6	0.04	○	
11	SK195	93l	SK17	VD9o	0.7	0.4	0.03	○	
11	SK196	93l	SK18	VD9o	0.9	0.6	0.04	○	

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
11	SK197	93l	SK19	VD9o	0.6	0.6	0.06	○	
11	SK198	93l	SK20	VD9o	1.0	0.8	0.04	○	
11	SK199	93l	SK21	VD9o	0.9	0.5	0.04	○	
11	SK200	93l	SK22	VD10o	0.7	0.5	0.05	○	
11	SK201	93l	SK23	VD10o	0.7	0.5	0.05	○	
11	SK202	93l	SK24	VD10o	0.7	0.5	0.05	○	
11	SK203	93l	SK30	VD10o	1.4	(1.1)	0.12	○	
11	SK204	93l	SK31	VD10p	(0.8)	0.4	0.21		
11	SK205	93l	SK01	VD9r	1.2	1.0	0.12		
11	SK206	93l	SK02	VD9r	0.5	0.5	0.05		
11	SK207	93l	SK03	VD10r	1.0	0.7	0.20		
11	SK208	93l	SK25	VD8o	0.8	0.4			
11	SK209	93l	SK26	VD8o	0.4	0.4	0.08		
11	SK210	93l	SK27	VD9o	1.1	0.4	0.16		
11	SK211	92C	SK07	VD11p	1.8	1.5	0.10	○	
11	SK212	92C	SK12	VD11p	(4.7)	0.5	0.15	○	
11	SK213	92C	SK04	VD12r	1.3	1.1	0.13	○	12C後
11	SK214	92C	SK05	VD12r	1.1	0.8	0.07	○	
11	SK215	92C	SK06	VD12r	1.7	1.2	0.11	○	
11	SK216	92C	SK15	VD13r	1.1	0.9	0.08	○	12C前
11	SX14	93j	SX04	VD14q15q	(4.7)	(4.6)	0.89	○	10C前
11	SX15	93j	SX02	VD17op	(2.2)	(1.6)	0.36	○	
11	SX16	93j	SX03	VD17rs	(8.2)	(1.5)	0.21		
11	SX17	92D	SX01	VD20oVD1n	(5.2)	2.9	0.03	○	8C後
11	SX18	93l	SX02	VD3n3o	(4.5)	(0.8)	0.16		
11	SX19	93l	SX01	VD3p4p	(3.8)	1.6	0.53	○	10C前
11	P165	94Aa	P10	VD2o	0.3	0.3	-		
11	P166	94Aa	P08	VD2r	0.5	(0.2)	-		
11	P167	94Aa	P23	VD2s	(0.4)	0.4	-		
11	P168	94Aa	P20	VD2q	0.6	0.3	-		
11	P169	94Aa	P03	VD3r	0.7	0.6	-		
11	P170	94Aa	P02	VD3r	1.0	0.8	-		
11	P171	94Aa	P21	VD3r	0.5	0.4	-		
11	P172	94Aa	P01	VD3r	0.8	0.7	-		
11	P173	94Aa	P04	VD3r	0.3	0.3	-		
11	P174	94Aa	P05	VD3q	0.4	0.5	-		
11	P175	94Aa	P06	VD3q	0.3	0.3	-		
11	P176	94Aa	P07	VD3q	0.6	0.2	-		
11	P177	94Aa	P18	VD2p	(0.3)	(0.3)	-		
11	P178	94Aa	P09	VD3p	0.6	(0.8)	-		
11	P179	94Aa	P19	VD3p	(0.3)	(0.2)	-		
11	P180	94Aa	P12	VD2o	0.4	0.3	-		
11	P181	94Aa	P11	VD3o	0.3	0.3	-		
11	P182	94Aa	P13	VD3o	0.4	0.3	-		
11	P183	94Aa	P14	VD3n	0.4	0.3	-		
11	P184	94Aa	P15	VD3n	0.4	0.4	-		
11	P185	94Aa	P16	VD2p	0.3	0.3	-		
11	P186	94Aa	P17	VD3n	0.9	0.7	0.35		
11	P187	94Aa	P22	VD3s	0.4	0.4	-		
12	SD184	92C	SD04	VD14r	(3.8)	(1.4)	0.04	○	13C後
12	SD189	92C	SD11	VD14n	(1.0)	(1.5)	0.22	○	9C前・12C後・13C後
12	SD190	95Aa	SD04	VD19nVD1n	(8.3)	(2.6)	0.34	○	
12	SD191	95Aa	SD03	VD19oVD1n	(7.0)	(2.6)	0.06	○	
12	SD192	95Aa	SD02	VD20pVD1s	-	-	-	○	10C前・12C後
12	SD193	95Aa	SD05	VD20s	(2.2)	(0.8)	-	○	
12	SD194	93Hb	SD01	VD20tVE20c	(14.1)	1.4	0.11	○	10C後・11C前
12	SD195	93Hb	SD02	VE19a20a	(4.6)	0.8	0.06	○	11C前
12	SD197	93Hb	SD04	VD5t	(4.1)	0.6	0.09		
12	SD198	93Ha	SD01	VD6t10t	(20.3)	1.8	0.31	○	
12	SK261	95Aa	SE01	VD1r	(2.2)	(2.2)	0.46	○	10C後
12	SK262	95Aa	SK01	VD19n	1.2	0.9	0.14		
12	SK263	95Aa	SK02	VD19p	0.9	0.6	0.26		
12	SK264	95Aa	SK03	VD20p	0.8	0.6	0.09	○	
12	SK265	93Hb	SK01	VE19b	1.6	1.4	0.06	○	
12	SK266	93Hb	SK02	VE20a	2.3	0.7	0.06	○	
12	SK267	93Ha	SK02	VD10t	0.6	0.5	0.12		
12	SK268	93Ha	SK03	VD10t	0.5	0.4	0.09		
12	SK269	93Ha	SK01	VD10t	0.5	0.6	0.13		
12	SX20	93Ha	SX01	VD9t	(1.9)	(0.9)	0.18		
13	SD199	93Ha	SD02	VD12tVE12d	(25.0)	1.8	0.31	○	10C前・12C後
13	SD199	93Ha	SD06	VD12s13s	(4.6)	1.3	0.18	○	
13	SD200	93Ha	SD05	VD12st	(5.5)	0.8	0.11	○	
13	SD201	93Ha	SD03	VE12a12d	(16.0)	1.3	0.26	○	
13	SD201	93Ha	SD04	VD13tVE12a	(5.2)	1.8	0.19	○	9C前
13	SD202	93Ha	SD07	VD13s	(1.1)	1.0	0.10		
13	SD203	93Ha	SD08	VD12s13s	(4.0)	(1.3)		○	12C後～13C前
13	SD204	95Ab	SD03	VD13st	-	-	-		
13	SD205	95Ab	SD02	VD13tVE14a	(5.5)	(2.9)	0.19	○	
13	SD206	95Ab	SD07	VE13a	(1.1)	(1.1)	0.15		
13	SD207	95Ab	SD04	VD14t	(3.5)	(3.3)	0.22	○	12C後
13	SD208	93G	SD10	VD18tVE18a	(6.8)	1.0	0.10		
13	SD209	93G	SD09	VE17e20e	(16.6)	1.7	0.15	○	13C前
13	SD210	93G	SD11	VE17d19c	(6.6)	1.3	0.34	○	12C後～13C前
13	SD211	93G	SD12	VE18d19d	8.8	1.6	0.26	○	
13	SD212	93G	SD13	VE18d19d	4.7	1.1	0.08	○	12C後～13C前
13	SD213	93G	SD02	VD20t	(1.7)	1.2	0.28	○	10C前・13C後～14C
13	SD215	93G	SD04	VD16c	(3.9)	1.4	0.20	○	12C後
13	SD216	93G	SD07	VD1d	(5.2)	1.1	0.08		
13	SD217	93G	SD08	VD1d	(3.1)	1.0	0.09	○	
13	SD218	93G	SD06	VE1d1f	(6.0)	1.5	0.10		
13	SD219	92H	SD47	VD2tVE2a	(6.0)	(1.5)	0.13		
13	SD220	92H	SD45	VD3tVE2e	(16.7)	(2.9)	0.17	○	12C後～13C前
13	SD221	92H	SD48	VE3c6d	(15.0)	1.1	0.17	○	
13	SD222	92H		VE3c5d	(14.5)	0.5	0.12		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
13	SD223	92H	VE5c		(2.3)	0.4	0.04		
13	SD224	92H	VE5a5d		(16.0)	0.5	0.13		
13	SD225	92H	SD42 VE3f4f		(9.5)	(3.9)	0.30	○	
13	SD226	92H	SD40 VE1d8t		(20.1)	(9.2)	0.25	○	
13	SD227	92H	SD41 VE7g		-	-	-	○	
13	SD228	92H	SD49 VE8f8h		(9.5)	(2.8)	0.75	○	9C前
13	SK270	93Ha	SK05 VE11s12s		0.9	0.9	0.15		
13	SK271	93Ha	SK16 VE10a12a		1.5	1.0	0.17	○	9C前
13	SK272	93Ha	SK17 VE11a		1.1	0.9	0.32	○	
13	SK273	93Ha	SK15 VE12b		(1.4)	0.7	0.13		
13	SK274	93Ha	SK10 VE11bc		1.4	1.0	0.41	○	
13	SK275	93Ha	SK11 VE11c		0.7	0.6	0.07		
13	SK276	93Ha	SK12 VE12c		0.6	0.5	0.11		
13	SK277	93Ha	SK13 VE12c		0.5	0.5	0.17		
13	SK278	93Ha	SK14 VE12c		1.6	1.2	0.38		
13	SK279	93Ha	SK04 VE13d		(1.2)	(0.3)	0.14		
13	SK280	93Ha	SK06 VE12s		0.9	0.9	0.12	○	
13	SK281	93Ha	SK07 VE12s		1.6	1.1	0.28	○	
13	SK282	93Ha	SK09 VE12t		1.3	0.9	0.11	○	
13	SK283	93Ha	SK08 VE12s		0.9	0.6	0.15	○	
13	SK284	95Ab	SK01 VE14s		(1.1)	(0.5)	0.11	○	12C後
13	SK285	95Ab	SK05 VE13r		(0.3)	(0.2)	-		
13	SK286	95Ab	SK11 VE14t		(2.4)	(1.0)	0.27		
13	SK287	95Ab	SK04 VE14t		0.9	0.4	0.34		
13	SK288	95Ab	SK03 VE13st		0.7	0.4	0.11	○	
13	SK289	93G	SK130 VE15b		(0.2)	0.2	0.16		
13	SK290	93G	SK78 VE15b		(0.7)	0.5	0.13	○	8C後
13	SK291	93G	SK125 VE15c		(0.8)	1.1	0.16	○	
13	SK292	93G	SK129 VE15c		(1.0)	0.9	0.14		
13	SK293	93G	SK106 VE15c		1.2	1.0	0.20	○	12C後
13	SK294	93G	SK107 VE15c		1.5	1.4	0.27	○	12C後
13	SK295	93G	SK105 VE15cd		1.1	1.1	0.17	○	
13	SK296	93G	SK104 VE15c		1.0	1.0	0.20	○	
13	SK297	93G	SK76 VE15b		1.1	0.9	0.15	○	10C前・12C後
13	SK298	93G	SK44 VE16a		1.0	0.7	0.07	○	
13	SK299	93G	SK86 VE16b		1.5	0.8	0.09	○	
13	SK300	93G	SK53 VE17a		1.5	1.2	0.10		
13	SK301	93G	SK113 VE17b		0.8	0.7	0.47	○	
13	SK302	93G	SK112 VE17b		0.9	0.8	0.17	○	12C後
13	SK303	93G	SK128 VE17c					○	
13	SK304	93G	SK133 VE17c		2.0	1.4	0.25	○	
13	SK305	93G	SK137 VE17bc		1.5	1.0	0.38	○	12C後
13	SK306	93G	SK116 VE17b		0.9	0.7	0.07	○	
13	SK307	93G	SK132 VE17c		1.8	1.3	0.07	○	12C後
13	SK308	93G	SK131 VE17cd		1.5	1.4	0.19	○	
13	SK309	93G	SK33 VE18e		0.9	(0.3)	0.06		
13	SK310	93G	SK32 VE18e		1.0	(0.8)	0.06		
13	SK311	93G	SK31 VE18e		1.2	1.1	0.08	○	
13	SK312	93G	SK136 VE18de		3.4	3.1	0.26	○	12C後～13C前
13	SK313	93G	SK142 VE19s		1.4	1.0	0.16		
13	SK314	93G	SK126 VE19ab		3.5	0.7	0.20	○	
13	SK315	93G	SK127 VE19b		1.1	0.5	0.10		
13	SK316	93G	SK02 VE20t		(2.2)	2.1	0.24	○	12C後～13C前
13	SK317	93G	SK06 VE20a VE1a		(1.4)	1.7	0.12	○	
13	SK318	93G	SK10 VE11b		0.9	0.7	0.08	○	
13	SK319	93G	SK11 VE11b		0.6	0.5	0.09	○	
13	SK320	93G	SK12 VE11b		0.8	0.7	0.12		
13	SK321	93G	SK17 VE11c		0.8	0.4	0.09		
13	SK322	93G	SK19 VE11c		1.0	0.5	0.14		
13	SK323	93G	SK23 VE20e		0.7	0.5	0.10	○	
13	SK324	93G	SK25 VE11e		0.7	0.6	0.10		
13	SK325	92H	VE2t		2.8	1.6	0.30		
13	SK326	92H	SK26 VE2t		1.7	1.2	0.17	○	12C後～13C前
13	SK327	92H	SK27 VE3a		1.8	1.1	0.08	○	15C前
13	SK328	92H	SK25 VE7c		3.0	0.8	0.07		
13	SX21	95Ab	SX04 VE4a4b		-	-	-	○	
13	SX22	95Ab	SX01 VE14b		(3.4)	0.8	0.13	○	
13	SX23	93G	SX01 VE18ab		3.8	3.0	0.23	○	13C前～後
13	SX24	92H	SX03 VE2f		(11.5)	(6.0)	0.09		
13	P236	95Ab	SK06 VE14s		0.2	0.2	-		
13	P237	95Ab	SK07 VE14s		0.2	0.2	-		
13	P238	95Ab	SK08 VE14s		0.2	0.2	0.05		
13	P239	95Ab	SK09 VE14s		0.2	0.2	0.05		
13	P240	95Ab	SK10 VE14s		0.2	0.2	0.04		
13	P241	93G	SK34 VE15t		0.6	0.5	0.10		
13	P242	93G	SK54 VE15a		0.4	0.3	0.11	○	
13	P243	93G	SK39 VE15t		0.5	0.4	0.12		
13	P244	93G	SK55 VE15a		0.4	0.3	0.16	○	
13	P245	93G	SK111 VE15c		0.5	0.4	0.22	○	
13	P246	93G	SK49 VE15a		0.3	0.2	0.09		
13	P247	93G	SK48 VE15a		0.4	0.3	0.12		
13	P248	93G	SK40 VE15t		0.5	0.4	0.12	○	
13	P249	93G	SK66 VE15a		0.3	0.3	0.10	○	10C後・12C後
13	P250	93G	SK56 VE15a		0.5	0.3	0.08		
13	P251	93G	SK57 VE15a		0.4	0.3	0.06	○	
13	P252	93G	SK103 VE15a		0.3	0.3	0.11		
13	P253	93G	SK50 VE15a		0.5	0.5	0.16	○	
13	P254	93G	SK47 VE15a		0.3	0.2	0.11	○	
13	P255	93G	SK46 VE15a		0.3	0.3	0.10		
13	P256	93G	SK41 VE16t		0.5	0.4	0.13		
13	P257	93G	SK42 VE16t		0.4	0.4	0.10		
13	P258	93G	SK37 VE16t		0.3	0.3	0.10		
13	P259	93G	SK36 VE16t		0.8	0.5	0.08		
13	P260	93G	SK38 VE16t		0.3	0.2	0.06		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
13	P261	93G	SK45 VE16a		0.3	0.3	0.07		
13	P262	93G	SK51 VE16a		0.4	0.4	0.08		
13	P263	93G	SK58 VE15a		0.4	0.3	0.10	○	
13	P264	93G	SK67 VE15a		0.4	0.4	0.12		
13	P265	93G	SK73 VE15b		0.3	0.3	0.11		
13	P266	93G	SK72 VE15b		0.3	0.3	0.09		
13	P267	93G	SK80 VE16b		0.3	0.3	0.11	○	
13	P268	93G	SK82 VE16b		0.5	0.5	0.30	○	
13	P269	93G	SK83 VE16b		0.3	0.3	0.06		
13	P270	93G	SK69 VE16a		0.4	0.4	0.10		
13	P271	93G	SK81 VE16b		0.4	0.3	0.19		
13	P272	93G	SK70 VE16a		0.4	0.3	0.08		
13	P273	93G	SK52 VE16a		0.4	0.3	0.11	○	
13	P274	93G	SK43 VE16t		0.5	0.4	0.10	○	
13	P275	93G	SK109 VE15c		0.4	0.4	0.19		
13	P276	93G	SK108 VE16c		0.4	0.4	0.13		
13	P277	93G	SK123 VE16c		0.3	0.3	0.12		
13	P278	93G	SK124 VE17c		0.4	0.4	0.10		
13	P279	93G	SK85 VE16b		0.4	0.4	0.12	○	
13	P280	93G	SK98 VE17b		0.4	0.3	0.09		
13	P281	93G	SK97 VE17b		0.3	0.3	0.09		
13	P282	93G	SK96 VE17b		0.3	0.3	0.08		
13	P283	93G	SK88 VE17b		0.4	0.4	0.10		
13	P284	93G	SK89 VE17b		0.4	0.4	0.09		
13	P285	93G	SK95 VE17b		0.4	0.4	0.15	○	
13	P286	93G	SK90 VE17b		0.4	0.4	0.12		
13	P287	93G	SK91 VE17b		0.3	0.3	0.09		
13	P288	93G	SK92 VE17b		0.3	0.3	0.09		
13	P289	93G	SK94 VE17b		0.5	0.4	0.11	○	
13	P290	93G	SK115 VE17b					○	
13	P291	93G	SK114 VE17b		0.3	0.3	0.13		
13	P292	93G	SK144 VE17b		0.4	0.2	0.09		
13	P293	93G	SK143 VE17c		0.6	0.5	0.20		
13	P294	93G	SK140 VE17d		0.4	0.4	0.10	○	
13	P295	93G	SK118 VE17b		0.4	0.2	0.10		
13	P296	93G	SK134 VE17b		0.4	0.4	0.12		
13	P297	93G	SK120 VE17b		0.3	0.3	0.12	○	
13	P298	93G	SK121 VE17b		0.4	0.3	0.15	○	
13	P299	93G	SK145 VE18c		0.3	0.2	0.11		
13	P300	93G	SK122 VE18b		0.4	0.4	0.10		
13	P301	93G	SK138 VE19d		0.4	0.4	0.30	○	12C後～13C前
13	P302	93G	SK139 VE19d		0.5	0.4	0.06		
13	P303	93G	SK01 VE20t		0.5	0.4	0.16		
13	P304	93G	SK04 VE20t		0.4	0.3	0.08		
13	P305	93G	SK141 VE20a		0.5	0.4	0.04		
13	P306	93G	SK07 VE11a		0.5	0.4	0.10		
13	P307	93G	SK15 VE11c		0.4	0.3	0.12		
13	P308	93G	SK16 VE11c		0.4	0.3	0.10		
13	P309	93G	SK18 VE11c		0.5	0.4	0.09		
13	P310	93G	SK20 VE11d		0.5	0.5	0.04		
13	P311	92H	P10 VE3t		0.3	0.3	0.09	○	
13	P312	92H	VE3t		0.3	0.3	0.05		
13	P313	92H	VE3a		0.4	0.4	0.09		
13	P314	92H	VE3t		0.4	0.4	0.10		
13	P315	92H	VE3d		0.3	0.3	0.07		
13	P316	92H	VE3d		0.4	0.4	0.09		
13	P317	92H	P11 VE4t		0.13	0.6	0.12	○	
13	P318	92H	VE4a		0.4	0.3	0.05		
13	P319	92H	VE4a		0.5	0.5	0.07		
13	P320	92H	VE4a		0.4	0.4	0.07		
13	P321	92H	VE4a		0.2	0.2	0.07		
13	P322	92H	P13 VE4a		0.3	0.3	0.06	○	
13	P323	92H	VE4b		0.3	0.3	0.10		
13	P324	92H	VE4b		0.4	0.3	0.11		
13	P325	92H	VE4a		0.5	0.5	0.07		
13	P326	92H	VE4a		0.4	0.4	0.06		
13	P327	92H	P12 VE5t		0.3	0.3	0.07	○	
13	P328	92H	VE5a		0.5	0.5	0.07		
13	P329	92H	VE5a		0.6	0.5	0.13		
13	P330	92H	VE5a		0.6	0.6	0.20		
13	P331	92H	P14 VE5a		0.8	0.6	0.05	○	
13	P332	92H	VE5a		0.4	0.4	0.06		
13	P333	92H	P15 VE5b		0.4	0.4	0.06	○	
13	P334	92H	VE5b		0.4	0.3	0.06		
13	P335	92H	VE6b (0.3)		(0.3)	(0.3)	0.09		
13	P336	92H	P16 VE6b		0.6	0.4	0.07	○	
13	P337	92H	VE6b		0.7	(0.4)	0.08		
13	P338	92H	VE6b		0.3	0.3	0.09		
13	P339	92H	VE6b		0.4	0.3	0.06		
13	P340	92H	VE6b		0.4	0.3	0.07		
13	P341	92H	VE6a (0.6)		(0.6)	(0.5)	0.06		
13	P342	92H	VE6a		0.4	0.3	0.07		
13	P343	92H	VE6a (0.4)		(0.4)	0.3	0.07		
13	P344	92H	VE6a		0.3	0.3	0.05		
13	P345	92H	VE6b		0.8	0.8	0.09		
13	P346	92H	VE6b		0.5	(0.3)	0.07		
13	P347	92H	VE6b		0.2	0.2	0.11		
13	P348	92H	VE6b		0.4	0.4	0.11		
13	P349	92H	VE6b		0.4	0.4	0.11		
13	P350	92H	VE6b		0.4	0.4	0.06		
13	P351	92H	VE6a		0.4	0.3	0.07		
13	P352	92H	VE6a		0.3	0.3	0.05		
13	P353	92H	VE6a		0.4	0.3	0.05		
13	P354	92H	VE6a		0.5	0.3	0.05		

採掘区	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
13	P355	92H		ⅥE6a	0.4	0.3	0.06		
13	P356	92H		ⅥE6a	0.4	0.4	0.05		
13	P357	92H		ⅥE6a	0.4	0.4	0.05		
13	P358	92H		ⅥE6a	0.3	0.3	0.03		
13	P359	92H		ⅥE6a	0.8	0.5	0.04		
13	P360	92H		ⅥE6a	0.5	0.5	0.06		
13	P361	92H		ⅥE6a	0.4	0.4	0.05	○	
13	P362	92H		ⅥE6a	0.4	0.4	0.05		
13	P363	92H		ⅥE6a	(0.4)	0.4	0.06		
13	P364	92H		ⅥE6a	0.5	0.4	0.07		
13	P365	92H		ⅥE6b	0.4	0.4	0.08		
13	P366	92H		ⅥE5cd	(0.5)	0.5	0.03	○	
13	P367	92H		ⅥE4f	0.6	0.6	0.61		
14	SD229	95B2	SD21	ⅡE4e5d	(11.0)	0.6	0.32	○	
14	SD230	95B2	SD22	ⅡE4g5d	(22.0)	1.0	0.31	○	
14	SD231	95B2	SD24	ⅡE3g8c	(31.2)	0.8	0.45	○	
14		95B2	SD29	ⅡE6a8g	(31.5)	0.9	0.36		
14		95B2	SD30	ⅡE7g8f	(7.8)	0.4	0.32		
14		95B2	SD32	ⅡE8d8f	(10.8)	1.0	0.46		
14		95B2	SD45	ⅡE12e	(3.3)	0.4	0.05		
14		95B2	SD50	ⅡE13e	(3.8)	0.7	0.32		
15	SK358	93Eb2	SK161	ⅢD9t	(0.3)	0.2	0.09	○	
15	SK359	93F2	SK078	ⅢE20a	1.5	(1.1)	0.06	○	
15	SK360	93F2	SK101	ⅣD11s	(5.0)	1.7	0.53	○	
15		93K	SK11	ⅢD15s	3.3	2.5	0.41		
15		93K	SK12	ⅢD13t	3.5	2.8	0.04		
15		93Eb	SD27	ⅢD11s	(2.4)	0.5	0.07		
15		93Eb	SD28	ⅢD11s11t	(5.3)	1.1	0.05		
15		93Eb	SD30	ⅢD10s ⅢE9a	(7.6)	0.8	0.12		
15		93Eb	SD31	ⅢD9s	2.4	0.4	0.08		
15		93Eb	SD32	ⅢD9s9t	3.0	0.4	0.09		
15		93Eb	SD33	ⅢD8t9s	3.0	0.4	0.06		
15		93Eb	SD35	ⅢD8s7t	(10.0)	0.5	0.09		
15		93Eb	SD39	ⅢD10o11q	(8.0)	0.5	0.12		
15		93Eb	SD40	ⅢD11p	(1.2)	0.5	0.12		
15		93Eb	SK164	ⅢD11r	2.4	1.0	0.22		
15		93Eb	SK170	ⅢD7q	0.3	0.3	0.10		
15		93Eb	SK171	ⅢD7q	0.4	0.4	0.07		
15		93Eb	SK173	ⅢD7p	0.2	0.2	0.03		
15		93Eb	SK174	ⅢD8p	0.2	0.2	0.03		
15		93Eb	SK175	ⅢD8p	0.2	0.2	-		
15		93Eb	SK176	ⅢD7s	1.2	0.7	0.21		
15		93Eb	SK177	ⅢD7s	(1.0)	0.5	0.05		
15		93Eb	SK178	ⅢD8s	0.3	0.2	0.03		
15		93Eb	SK179	ⅢD8t	(0.4)	0.5	0.04		
15		93Eb	SK180	ⅢD8t	(0.5)	(0.5)	0.10		
15		93Eb	SK184	ⅢD9r	0.3	0.2	0.03		
15		93Eb	SK185	ⅢD9r	0.3	0.2	0.08		
15		93Eb	SK186	ⅢD9r	(0.5)	0.4	0.27		
15		93Eb	SK187	ⅢD9r	(0.8)	(0.5)	0.19		
15		93Eb	SK188	ⅢD9r	(0.4)	(0.2)	-		
15		93Eb	SK189	ⅢD9r	0.4	0.3	0.28		
15		93Eb	SK190	ⅢD9r	(0.6)	0.8	0.21		
15		93Eb	SK191	ⅢD9r	0.3	0.3	0.09		
15		93Eb	SK192	ⅢD9r	0.3	0.3	0.10		
15		93Eb	SK193	ⅢD9r	0.9	0.4	0.07		
15		93Eb	SK194	ⅢD9r	0.7	0.4	0.07		
15		93Eb	SK195	ⅢD8t	0.4	0.3	0.06		
15		93Eb	SK196	ⅢD8s	0.3	0.2	0.04		
15		93Eb	SK197	ⅢD9s	0.4	0.3	0.04		
15		93Eb	SK198	ⅢD6q	0.3	0.3	0.10		
15		93Eb	SK199	ⅢD9t	0.4	0.3	0.04		
15		93Eb	SK200	ⅢD9t	0.4	0.4	0.07		
15		93Eb	SK201	ⅢD9t	0.4	0.3	0.06		
15		93Eb	SK202	ⅢD9t	0.4	0.3	0.09		
15		93Eb	SK203	ⅢD9t	0.8	0.5	0.08		
15		93Eb	SK204	ⅢD9t	0.4	0.4	0.09		
15		93Eb	SK205	ⅢD9t	1.0	0.6	0.10		
15		93Eb	SK206	ⅢD9t	0.3	0.2	0.09		
15		93Eb	SK207	ⅢD9s	0.6	0.4	0.07		
15		93Eb	SK208	ⅢD9s	0.9	0.6	0.07		
15		93Eb	SK209	ⅢD9s	0.7	0.5	0.08		
15		93Eb	SK210	ⅢD9q	0.7	0.4	0.10		
15		93Eb	SK211	ⅢD10q	0.4	0.3	0.06		
15		93Eb	SK212	ⅢD10s	0.4	0.4	0.17		
15		93Eb	SK213	ⅢD10s	0.3	0.3	0.05		
15		93Eb	SK214	ⅢD10s	0.2	0.2	0.06		
15		93Eb	SK215	ⅢD10s	0.3	0.2	0.05		
15		93Eb	SK216	ⅢD10s	0.4	0.3	0.01		
15		93Eb	SK217	ⅢD10s	(0.3)	0.3	-		
15		93Eb	SK218	ⅢD10s	0.3	0.3	0.13		
15		93Eb	SK219	ⅢD10s	0.3	0.3	0.16		
15		93Eb	SK220	ⅢD10t	0.3	0.3	0.12		
15		93Eb	SK221	ⅢD10t	0.3	0.2	0.12		
15		93Eb	SK222	ⅢD10t	0.3	0.3	0.11		
15		93Eb	SK223	ⅢD10t	0.5	0.4	0.09		
15		93Eb	SK225	ⅢD10s	0.6	0.5	0.09		
15		93Eb	SK226	ⅢD10s	0.6	0.5	0.06		
15		93Eb	SK227	ⅢD11s	0.4	0.3	0.04		
15		93Eb	SK228	ⅢD11s	0.5	0.5	0.10		
15		93Eb	SK229	ⅢD11s	0.4	0.3	0.06		
15		93Eb	SK230	ⅢD11s	0.7	0.7	0.13		
15		93Eb	SK231	ⅢD11s	0.4	0.3	0.07		
15		93Eb	SK232	ⅢD11s	0.5	0.3	0.10		

採掘区	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
15		93Eb	SK233	ⅢD11s	0.5	0.5	0.13		
15		93Eb	SK234	ⅢD11s	0.5	0.4	0.07		
15		93Eb	SK235	ⅢD11s	0.4	0.3	0.05		
15		93Eb	SK236	ⅢD11s	0.4	0.3	0.07		
15		93Eb	SK237	ⅢD10r	0.5	0.4	0.07		
15		93Eb	SK238	ⅢD10r	(0.9)	(1.0)	0.22		
15		93Eb	SK239	ⅢD6q7q	(0.8)	0.7	0.19		
15		93Eb	SK240	ⅢD12s	(0.7)	0.5	0.05		
15		93Eb	SK241	ⅢD7q	(0.2)	0.2	0.06		
15		93Eb	SK242	ⅢD11r	0.4	0.3	0.13		
15		93Eb	SK243	ⅢD11r	0.3	0.3	0.11		
15		93Eb	SK244	ⅢD11r	0.4	0.4	0.11		
15		93Eb	SK245	ⅢD11r	0.6	0.5	0.11		
15		93Eb	SK246	ⅢD11q	0.6	0.4	0.09		
15		93Eb	SK247	ⅢD11q	0.4	0.3	0.09		
15		93Eb	SK248	ⅢD11q	1.1	(0.6)	0.23		
15		93Eb	SK249	ⅢD11q	0.7	(0.4)	0.08		
15		93Eb	SK251	ⅢD7q	0.2	0.2	0.08		
15		93Eb	SK252	ⅢD6p7q	0.5	0.3	0.06		
15		93Eb	SK253	ⅢD9t	0.5	0.4	0.07		
15		93Ea	SD01	ⅢD13o14r	(17.5)	0.6	0.07		
15		93Ea	SD02	ⅢD13o15p	(11.4)	0.7	0.06		
15		93Ea	SD03	ⅢD14q15r	(7.2)	0.9	0.13		
15		93Ea	SK07	ⅢD14p	0.5	0.4	0.11		
15		93Ea	SK08	ⅢD14p	0.6	0.5	0.24		
15		93Ea	SK09	ⅢD14p	0.6	0.4	0.20		
15		93Ea	SK10	ⅢD13p	0.5	0.4	0.12		
15		93Ea	SK11	ⅢD13p	0.6	0.5	-		
15		93Ea	SK12	ⅢD13o	0.6	0.6	0.28		
15		93Ea	SK13	ⅢD14o	0.5	0.5	0.10		
15		93Ea	SK14	ⅢD14o	0.6	0.6	0.11		
15		93Ea	SK15	ⅢD14p	0.4	0.4	0.16		
15		93Ea	SK16	ⅢD14p	0.5	0.4	0.22		
15		93Ea	SK17	ⅢD13pq	(0.7)	0.7	0.24		
15		93Ea	SK18	ⅢD13q	(0.9)	(0.3)	0.16		
15		93Ea	SK19	ⅢD13q14q	(2.0)	(1.5)	0.08		
15		93Ea	SK20	ⅢD14p	0.4	0.4	0.13		
15		93Ea	SK21	ⅢD14p	0.5	(0.4)	0.04		
15		93Ea	SK22	ⅢD14p	0.5	0.4	0.15		
15		93Ea	SK23	ⅢD14p	0.4	0.4	0.08		
15		93Ea	SK24	ⅢD15p	0.5	0.4	0.11		
15		93Ea	SK25	ⅢD15p	0.5	0.3	0.12		
15		93Ea	SK26	ⅢD13p	(0.4)	(0.4)	-		
15		93Ea	SK27	ⅢD14o	0.3	0.4	0.04		
15		93Ea	SK28	ⅢD14o	0.6	0.5	0.04		
15		93Ea	SK29	ⅢD14o	0.5	0.4	0.06		
15		93Ea	SK30	ⅢD14o	0.5	0.4	0.06		
15		93Ea	SK31	ⅢD14o	0.5	0.4	0.05		
15		93Ea	SK32	ⅢD13p	0.5	0.5	0.12		
15		93Ea	SK33	ⅢD14p	0.5	(0.4)	0.15		
15		93F	SD14	ⅢD16t ⅢE15a	(7.9)	0.7	0.05		
15		93F	SD15	ⅢD19t ⅢE19a	(2.0)	0.4	0.15		
15		93F	SK37	ⅢD3t	0.5	(0.3)	0.04		
15		93F	SK38	ⅢD3t	0.5	0.4	0.06		
15		93F	SK39	ⅢD3t	0.5	0.4	0.09		
15		93F	SK40	ⅢD3t	0.4	0.4	0.07		
15		93F	SK41	ⅢD3t	0.4	0.4	0.07		
15		93F	SK42	ⅢD2t	0.5	0.4	0.10		
15		93F	SK43	ⅢD2t2s	0.6	0.4	0.12		
15		93F	SK44	ⅢD2s	0.4	0.4	0.08		
15		93F	SK45	ⅢD2s	0.5	0.5	0.07		
15		93F	SK46	ⅢD3s	0.4	(0.2)	0.06		
15		93F	SK47	ⅢD3s	0.4	(0.3)	0.05		
15		93F	SK48	ⅢD3s	0.5	(0.3)	0.09		
15		93F	SK49	ⅢD2s	0.4	0.3	0.06		
15		93F	SK50	ⅢD2s	(0.4)	0.3	0.08		
15		93F	SK51	ⅢD2s	0.3	0.3	0.02		
15		93F	SK52	ⅢD2s	0.3	0.3	0.04		
15		93F	SK54	ⅢD2s	0.2	0.2	0.04		
15		93F	SK55	ⅢD2s	0.4	0.3	0.05		
15		93F	SK56	ⅢD2s	0.7	0.4	0.08		
15		93F	SK57	ⅢD2s	(0.4)	0.4	0.04		
15		93F	SK58	ⅢD1s	(0.3)	0.3	0.05		
15		93F	SK59	ⅢD2t	0.6	0.5	0.06		
15		93F	SK60	ⅢD1s1t	1.5	0.4	0.06		
15		93F	SK61	ⅢD1s	0.5	(0.4)	0.07		
15		93F	SK64	ⅢD3s	0.3	0.3	0.05		
15		93F	SK65	ⅢD3s	0.5	0.2	0.08		
15		93F	SK66	ⅢD3s	0.4	0.3	0.07		
15		93F	SK67	ⅢE1a	0.4	0.3	0.14		
15		93F	SK68	ⅢE1a	0.4	0.4	0.07		
15		93F	SK69	ⅢE1a	0.3	0.3	0.05		
15		93F	SK70	ⅢE20a	0.4	0.4	0.04		
15		93F	SK71	ⅢE20a	0.3	0.3	0.04		
15		93F	SK72	ⅢE20a	0.3	0.2	0.04		
15		93F	SK73	ⅢE20a	0.3	0.3	0.05		
15		93F	SK75	ⅢD1t	0.2	0.1	0.04		
15		93F	SK76	ⅢD1t	0.3	(0.3)	0.05		
15		93F	SK77	ⅢD20t	0.9	0.6	0.04		
15		93F	SK79	ⅢE20a	0.3	0.2	0.13		
15		93F	SK80	ⅢE20a	0.3	0.2	0.12		
15		93F	SK81	ⅢE20a	0.4	0.3	0.06		
15		93F	SK82	ⅢE19a20a	1.1	(0.7)	0.17		
15		93F	SK83	ⅢD1t	0.4	0.4	0.06		

棟号	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
15	93F	SK84	III D20t		(0.5)	0.5	0.08		
15	93F	SK85	III D1s		0.6	0.4	0.05		
15	93F	SK86	III D1s		1.0	0.3	0.04		
15	93F	SK87	III D2s		0.4	(0.3)	0.08		
15	93F	SK88	III D3r		(0.3)	0.2	0.03		
15	93F	SK89	III D1s		0.7	0.6	0.32		
15	93F	SK90	III D1s		0.8	(0.5)	0.08		
15	93F	SK91	III D1s		0.5	0.4	0.36		
15	93F	SK95	III D20s		0.4	0.3	-		
15	93F	SK97	III D19t		(0.5)	0.3	0.05		
15	93F	SK100	III D1t		2.5	2.5	0.30		
15	93F	SK103	III D1t2t		(3.6)	0.7	0.08		
15	93F	SK106	III E18a		0.4	0.3	0.05		
15	93F	SK107	III E18a		0.3	0.3	0.03		
15	93F	SK108	III D18t		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK109	III E18a		0.5	0.4	0.11		
15	93F	SK110	III E18a		0.5	0.5	0.10		
15	93F	SK111	III E17a		0.4	0.3	0.09		
15	93F	SK112	III E17a		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK113	III E17a		0.4	0.3	0.03		
15	93F	SK114	III E17a		0.3	0.3	0.03		
15	93F	SK115	III D17t		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK116	III E17a		0.4	0.3	0.05		
15	93F	SK117	III E17a		0.4	0.3	0.06		
15	93F	SK118	III E17a		0.4	0.4	0.05		
15	93F	SK119	III E17a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK120	III E17a		0.5	0.4	0.06		
15	93F	SK121	III E16a		0.4	0.4	0.06		
15	93F	SK122	III E16a		0.5	0.4	0.08		
15	93F	SK123	III E16a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK124	III E16a		0.5	0.5	0.07		
15	93F	SK125	III E16a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK126	III E16a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK128	III E15a		0.5	0.4	0.07		
15	93F	SK129	III E15a		0.5	0.4	0.04		
15	93F	SK130	III E15a		0.5	0.4	0.05		
15	93F	SK131	III E15a		0.4	0.2	0.08		
15	93F	SK132	III E16a		0.7	0.2	0.09		
15	93F	SK133	III E16a		0.4	0.6	0.04		
15	93F	SK134	III E16a		0.4	0.4	0.04		
15	93F	SK135	III E16a		0.4	0.4	0.04		
15	93F	SK136	III E16a		0.4	0.4	0.08		
15	93F	SK137	III E15a		0.6	0.4	0.10		
15	93F	SK138	III E15a		0.5	0.4	0.05		
15	93F	SK139	III E15a		0.5	0.4	0.05		
15	93F	SK140	III D15t III E15a		0.4	0.4	0.07		
15	93F	SK141	III D16t		0.5	0.4	0.09		
15	93F	SK142	III D16t		(0.4)	0.4	0.08		
15	93F	SK143	III D16t		(1.0)	0.7	0.11		
15	93F	SK144	III D16t		0.5	0.5	0.06		
15	93F	SK145	III D18t		0.7	0.6	0.15		
15	93F	SK146	III D18t		0.5	(0.2)	0.07		
15	93F	SK147	III D18t		0.5	0.3	0.05		
15	93F	SK148	III D17t		(2.0)	(0.7)	0.17		
15	93F	SK149	III D16t		(0.8)	(1.2)	0.17		
15	93F	SK154	III D17t		0.4	(0.2)	0.05		
15	93F	SK155	III D17t		0.4	(0.2)	0.04		
15	93F	SK156	III D17t		0.3	0.2	0.04		
15	93F	SK158	III D18t		0.3	0.2	0.07		
15	93F	SK159	III D15t III E15a		(0.3)	(0.3)	0.06		
16	SD232	92D	SD14	V D19a V D1p	(15.2)	1.2	0.18	○	
16	SD233	92D	SD16	V D19n20n	(14.7)	0.3	0.16	○	
16	SD234	92D	SD17	V D20m18n	(14.8)	0.7	0.12	○	
16	SD235	92D	SD18	V D19mn	(13.8)	0.8	0.17	○	
16	SD236	92D	SD19	V D19mn	(2.1)	1.3	0.23	○	
16	SD237	92D	SD22	V D18m	(11.5)	1.4	0.26	○	
16	SD237	93Hb	SD14	V D1t V E20a	(7.6)	1.0	0.23	○	
16	SD238	93Hb	SD09	V E20a19c	(7.5)	2.0	0.21	○	
16	SD241	93Hb	SD08	V E3a5a	(10.0)	1.1	0.21	○	
16	SK361	92D	SK56	V D20n	(1.9)	(0.9)	0.17	○	
16	SK362	92D	SK57	V D20no	(2.5)	(0.7)	0.29	○	
16	SK363	92D	SK58	V D20m	(2.9)	(1.1)	0.22	○	
16	SK364	92Aa	SK114	V E16b	2.3	1.4	0.12	○	
16	SK365	93Hb	SK04	V D4t	2.8	0.9	0.17	○	
16	SK366	93Hb	SK03	V D5t	(2.5)	(1.1)	0.73	○	
16	SX25	92D	SX02	V D19m19o	(10.4)	(1.5)	0.07	○	
16		92D	SD15	V D19n	(6.2)	0.5	0.10		
16		92D	SD20	V D19p V D1m	(16.3)	4.5	0.39		
16		92D	SD21	V D19np	(10.8)	0.5	0.14		
16		92D	SK59	V D19m	(4.1)	(0.7)	0.19		
16		92Aa	SK115	V D13t V E13a	1.4	1.0	0.06		
16		92Aa	SK116	V E16b	(2.0)	(1.5)	0.08		
16		93Hb	SD07	V D35t	(13.3)	0.9	0.10		
16		93Hb	SD10	V E19b20b	(4.3)	1.6	0.10		
16		93Hb	SD11	V E1a V D20c	(8.4)	2.0	0.18		
16		93Hb	SD12	V D1t V E20b	(11.7)	0.8	0.20		
16		93Hb	SD13	V D1t V E19b	(15.0)	1.8	0.15		
16		93Hb	SD15	V D1t V E1b	(11.5)	0.8	0.16		
16		93Hb	SK05	V E19b	(1.2)	(0.6)	0.10		
16		93Hb	SK06	V E20b	(1.1)	(0.6)	0.35		
16		93Hb	SK07	V E20b	(0.7)	(0.5)	0.05		
16		93Hb	SK08	V E1a	0.7	0.6	0.16		
16		93Hb	SK09	V E20b	(0.8)	(0.5)	0.06		
18	SD185	92Ab	SD10	V E4a	(3.8)	1.3	0.07	○	

棟号	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
18	SK217	92Ab	SK41	VE4a	1.8	1.1	0.17	○	
18	SK218	92Ab		VE6a	1.0	0.6	0.10		
18	SK219	92Ab	SK43	VE6a	1.5	0.9	0.20	○	
18	SK220	92Ab	SK42	VE6b	(2.3)	(0.6)	0.08	○	
18	SK221	92Ab	SK46	VE7a	(1.5)	(0.8)	0.10	○	
18	SK222	92Ab	SK48	VE7a	1.6	1.2	0.24	○	
18	SK223	92Ab	SK44	VE8a	1.8	1.4	0.08	○	
18	SK224	92Ab	SK45	VE8a8b	1.3	1.0	0.15	○	
18	SK225	92Ab	SK49	VD8t VE8a	1.7	1.2	0.15	○	
18	SK226	92Ab		VE8b	(2.4)	(0.5)	0.13		
18	P188	92Ab		VE8b	(0.3)	0.5	0.12		
18	P189	92Ab		VE8a	0.4	0.3	0.07		
18	P190	92Ab		VE8b	0.4	0.3	0.07		
19	SD186	92Ab	SD09	VD10t VE10b	(8.0)	4.0	0.28	○	12C後
19	SK227	92Ab	SK47	VD9t	1.7	1.3	0.15	○	
19	SK228	92Ab		VE9a	1.2	0.9	0.12		
19	SK229	92Ab	SK61	VE11a	1.0	0.9	0.12	○	
19	SK230	92Ab	SK63	VE11a	0.7	0.5	0.13	○	
19	SK231	92Ab		VE11b	1.1	0.7	0.13		
19	SK232	92Ab	SK62	VE11a	2.6	1.4	0.11	○	12C後
19	SK233	92Ab		VE11a	1.2	1.0	0.33		
19	SK234	92Ab		VE11a	0.9	0.7	0.06		
19	SK235	92Ab		VE11b	1.0	0.9	0.07		
19	SK236	92Ab	SK60	VD12t	(1.4)	(0.2)	0.10		
19	SK237	92Ab	SK65	VE12a	0.9	0.7	0.05		
19	SK238	92Aa	SK34	VE13a	1.0	0.7	0.04		
19	SK239	92Aa	SK38	VE13a	1.7	1.6	0.02	○	
19	P191	92Ab		VD11t	0.5	(0.2)	0.08		
19	P192	92Ab		VD11t	0.4	0.3	0.11		
19	P193	92Ab		VE11a	0.3	0.3	0.08		
19	P194	92Ab		VE11a	0.4	0.3	0.13		
19	P195	92Ab		VD12t	0.4	0.3	0.06		
19	P196	92Ab		VE11b	0.4	0.3	0.10		
19	P197	92Ab		VE11a	0.3	0.3	0.06		
19	P198	92Ab		VD12t	0.3	0.3	0.14		
19	P199	92Ab		VD12t	0.4	0.4	0.12		
19	P200	92Ab		VD12t	0.4	0.4	0.12		
19	P201	92Ab		VD12t	0.4	0.3	0.10		
19	P202	92Ab		VD12t	0.4	0.3	0.07		
19	P203	92Ab		VE12a	0.5	0.4	0.09		
19	P204	92Ab		VE12a	0.4	0.4	0.07		
19	P205	92Ab		VE12a	0.4	0.4	0.05		
19	P206	92Ab		VE12a	0.3	0.3	0.06		
19	P207	92Ab		VE12a	0.3	0.3	0.07		
19	P208	92Aa		VD13t	0.3	0.3	0.08		
19	P209	92Aa		VE13a	0.4	0.3	0.06		
19	P210	92Aa		VE13b	0.4	0.3	0.06		
20	SK329	92Ab		VE11b	1.2	0.9	0.06		
20	SK330	92Ab		VE11a	1.6	1.0	0.12		
20	SK331	92Ab		VE11a	0.8	0.5	0.07		
20	SK332	92Ab	SK117	VD10t12t	1.9	0.9	0.26	○	
20	P368	92Ab		VE10a	0.4	0.3	0.03		
20	P369	92Ab		VE11t	0.4	0.3	0.07		
20	P370	92Ab	P119	VD11t	0.4	0.3	0.09	○	
20	P371	92Ab		VE12a	0.4	0.3	0.13		
21	SD187	92Aa	SD01	VD13t VE13b	(11.1)	2.0	0.09	○	12C後
21	SD188	92Aa	SD02	VE16t	(4.7)	0.3	0.05	○	12C後
21	SK240	92Aa	SK36	VE14a	1.1	0.9	0.13		
21	SK241	92Aa	SK10	VD14t VE14a	2.8	2.6	0.29	○	
21	SK242	92Aa	SK39	VD14t	(0.6)	(0.3)	-		
21	SK243	92Aa		VE14a	(0.4)	(0.2)	0.02		
21	SK244	92Aa		VE14a	(0.8)	(0.5)	0.03		
21	SK245	92Aa	SK35	VE14b15b	(3.7)	(2.0)	0.11	○	
21	SK246	92Aa	SK30	VE15a	1.1	1.1	0.32		
21	SK247	92Aa	SK31	VE15a	1.2	1.0	0.07		
21	SK248	92Aa	SK33	VE15a16a	2.3	1.4	0.09		
21	SK249	92Aa	SK37	VD16t	0.8	0.7	0.01	○	9C前
21	SK250	92Aa	SK32	VE15a	1.2	0.9	0.16		
21	SK252	92Aa	SK09	VE15b	2.1	(1.1)	0.21	○	
21	SK253	92Aa		VE15b	(1.4)	(1.0)	0.11		
21	SK254	92Aa	SK11	VE16a	(1.0)	(0.8)	0.12	○	
21	SK255	92Aa	SK40	VD16t	0.7	0.4	-	○	10C前
21	SK256	92Aa		VE16b	(0.5)	(0.5)	0.09		
21	SK257	92Aa	SK01	VE16b	(3.1)	(2.3)	0.23	○	10C後
21	SK258	92Aa	SK02	VE16b	0.9	0.3	-	○	11C前
21	SK259	92Aa	SK08	VD16t17t	1.2	0.9	0.15	○	
21	SK260	92Aa		VD17t	(1.5)	(0.9)	0.10		
21	P211	92Aa		VE14a	0.6	0.3	0.35		
21	P212	92Aa		VE14a	(0.4)	(0.3)	0.40		
21	P213	92Aa		VE16b	0.4	0.4	0.18		
21	P214	92Aa		VE16b	0.3	0.4	0.11		
21	P215	92Aa	P05	VE16b	0.6	0.5	0.17	○	
21	P216	92Aa	P04	VE16b	0.6	0.4	0.18	○	
21	P217	92Aa	P03	VE16b	0.3	0.3	0.13	○	
21	P218	92Aa		VE16b	0.4	0.4	0.19		
21	P219	92Aa		VE16a	0.5	0.4	0.16		
21	P220	92Aa		VE17a	0.6	0.4	0.09		
21	P221	92Aa	P01	VE17a	(0.5)	(0.3)	0.14	○	
21	P222	92Aa		VE16a	0.5	(0.3)	0.05		
21	P223	92Aa		VE16a	0.5	0.5	0.05		
21	P224	92Aa		VE16a	0.5	0.4	0.06		
21	P225	92Aa	P10	VE16a	0.4	0.3	0.07	○	
21	P226	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.08		
21	P227	92Aa		VE16a	0.5	0.4	0.11		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
21	P228	92Aa		VE16b	0.4	0.4	0.14		
21	P229	92Aa		VE17b	0.6	0.6	0.14		
21	P230	92Aa	P02	VE16b	0.2	0.2	0.07	○	
21	P231	92Aa		VE16b	0.4	0.3	0.10		
21	P232	92Aa		VE17b	0.4	0.3	0.16		
21	P233	92Aa		VE17b	0.3	0.3	0.07		
21	P234	92Aa		VE17b	(0.3)	(0.3)	0.18		
21	P235	92Aa		VD17t VE16a	0.5	0.4	0.03		
22	SK334	92Aa	SK103	VE13a	3.6	3.1	0.26	○	
22	SK335	92Aa		VE13b	1.7	1.1	0.16		
22	SK336	92Aa		VE13a	1.0	0.6	0.18		
22	SK337	92Aa	SK112	VE13a	1.0	0.7	0.08	○	
22	SK338	92Aa	SK113	VD13t VE14a	(1.0)	1.0	0.11	○	
22	SK339	92Aa	SK110	VD14t	0.7	0.6	0.05	○	
22	SK340	92Aa		VD15t	(1.3)	(1.4)	0.12		
22	SK341	92Aa	SK103	VD15t	2.6	1.6	0.10	○	
22	SK342	92Aa	SK108	VE15a	1.3	0.9	0.11	○	
22	SK343	92Aa	SK109	VE15a	1.0	0.8	0.16	○	
22	SK344	92Aa	SK102	VE15a	1.9	1.4	0.20	○	
22	SK345	92Aa		VE15a	(0.8)	0.6	0.12		
22	SK346	92Aa	SK104	VE14b15b	2.2	1.2	0.15	○	
22	SK347	92Aa	SK107	VE14b15b	(0.5)	0.4	0.17	○	
22	SK348	92Aa		VE15a	(1.1)	0.8	0.10		
22	SK349	92Aa	SK111	VE15b	1.8	0.5	0.11	○	
22	SK350	92Aa		VE15b16b	1.5	1.0	0.10		
22	SK351	92Aa		VE15b16b	(1.3)	(0.7)	0.02		
22	SK352	92Aa	SK106	VE16ab	2.2	2.2	0.19	○	
22	SK353	92Aa		VE16a	0.6	0.4	0.08		
22	SK354	92Aa	SK101	VD16t17t	3.6	1.3	0.04	○	
22	SK355	92Aa		VD17t	(0.6)	(0.4)	0.15		
22	SK356	92Aa		VE16ab	1.6	0.9	0.10		
22	SK357	92Aa		VE16a	0.9	0.6	0.10		
22	P372	92Aa		VE12a	0.2	0.2	0.06		
22	P373	92Aa	P114	VE12a	0.3	0.2	0.13	○	
22	P374	92Aa		VE13a	0.2	0.1	0.13		
22	P375	92Aa		VE13a	0.2	0.2	0.08		
22	P376	92Aa		VE13a	0.2	0.2	0.14		
22	P377	92Aa	P115	VE12a	0.3	0.2	0.14	○	
22	P378	92Aa		VD13t	0.3	0.3	0.10		
22	P379	92Aa		VE13a	0.2	0.2	0.14		
22	P380	92Aa	P113	VE12a	0.3	0.3	0.18	○	
22	P381	92Aa	P116	VE13t	0.3	0.3	0.14	○	
22	P382	92Aa	P117	VE13t	0.5	0.4	0.12	○	
22	P383	92Aa	P118	VD14t	0.5	0.2	0.14	○	
22	P384	92Aa	P111	VE12a	0.3	0.2	0.11	○	
22	P385	92Aa		VE13b	0.4	0.4	0.10		
22	P386	92Aa		VE13b	0.4	0.3	0.14		
22	P387	92Aa		VE13b	(0.4)	0.3	0.08		
22	P388	92Aa	P108	VE12a	0.3	0.2	0.20	○	
22	P389	92Aa		VE13a	0.4	0.2	0.22		
22	P390	92Aa	P112	VE12a	0.3	0.2	0.18	○	
22	P391	92Aa		VE13b	0.3	0.2	0.05		
22	P392	92Aa		VE13b14b	(0.3)	0.2	0.03		
22	P393	92Aa		VE13b14b	(0.3)	0.2	0.03		
22	P394	92Aa		VE13b14b	0.3	0.3	0.03		
22	P395	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.04		
22	P396	92Aa		VE14b	0.2	0.2	0.03		
22	P397	92Aa	P105	VE14b	0.3	0.2	0.23	○	
22	P398	92Aa	P104	VE14b	0.3	0.2	0.11	○	
22	P399	92Aa		VE14b	0.3	0.2	0.12		
22	P400	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.07		
22	P401	92Aa		VE14b	0.2	0.2	0.07		
22	P402	92Aa		VE14b	0.3	0.2	0.06		
22	P403	92Aa		VE14b	(0.3)	0.2	0.08		
22	P404	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.10		
22	P405	92Aa		VE14b	0.3	0.2	0.14		
22	P406	92Aa		VE14b	0.3	0.3	0.13		
22	P407	92Aa		VE14b	0.2	0.2	0.24		
22	P408	92Aa	P109	VE14b	0.5	0.3	0.15	○	
22	P409	92Aa		VE14b	0.4	0.3	0.07		
22	P410	92Aa		VE15b	(0.4)	0.2	0.12		
22	P411	92Aa		VE15b	(0.3)	0.2	0.09		
22	P412	92Aa		VE15a	(0.4)	0.3	0.07		
22	P413	92Aa		VE15a	0.3	0.3	0.14		
22	P414	92Aa		VE15a	0.2	0.2	0.12		
22	P415	92Aa	P110	VE15a	0.4	0.3	0.11	○	
22	P416	92Aa		VE15a	0.3	0.3	0.16		
22	P417	92Aa		VE15a	0.3	0.3	0.14		
22	P418	92Aa		VE15a	0.2	0.2	0.10		
22	P419	92Aa		VD15t	0.3	0.2	0.10		
22	P420	92Aa		VD15t	0.2	0.2	0.10		
22	P421	92Aa		VD15t	0.2	0.2	0.09		
22	P422	92Aa		VD15t	0.3	0.3	0.18		
22	P423	92Aa		VD15t	0.2	0.2	0.09		
22	P424	92Aa		VD15t	0.5	0.4	0.10		
22	P425	92Aa		VD16t	0.3	0.3	0.08		
22	P426	92Aa		VE15b	0.5	0.4	0.06		
22	P427	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.07		
22	P428	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.07		
22	P429	92Aa	P101	VE15b	0.3	0.3	0.17	○	
22	P430	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.14		
22	P431	92Aa		VE15b	0.3	0.3	0.08		
22	P432	92Aa		VE15b	0.4	0.3	0.09		
22	P433	92Aa		VE15b16b	0.4	0.3	0.14		

挿入	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時 期
22	P434	92Aa		VE15b16b	0.2	0.2	0.06		
22	P435	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.09		
22	P436	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.09		
22	P437	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.07		
22	P438	92Aa		VE16a	0.3	0.3	0.04		
22	P439	92Aa		VE16a	0.3	0.3	0.06		
22	P440	92Aa		VE16a	0.4	0.3	0.07		
22	P441	92Aa		VE16a	0.3	0.3	0.07		
22	P442	92Aa		VE16a	0.3	0.2	0.04		
22	P443	92Aa		VE16a	0.2	0.2	0.02		

図

版





1. 92F・Ga・Gb・E区

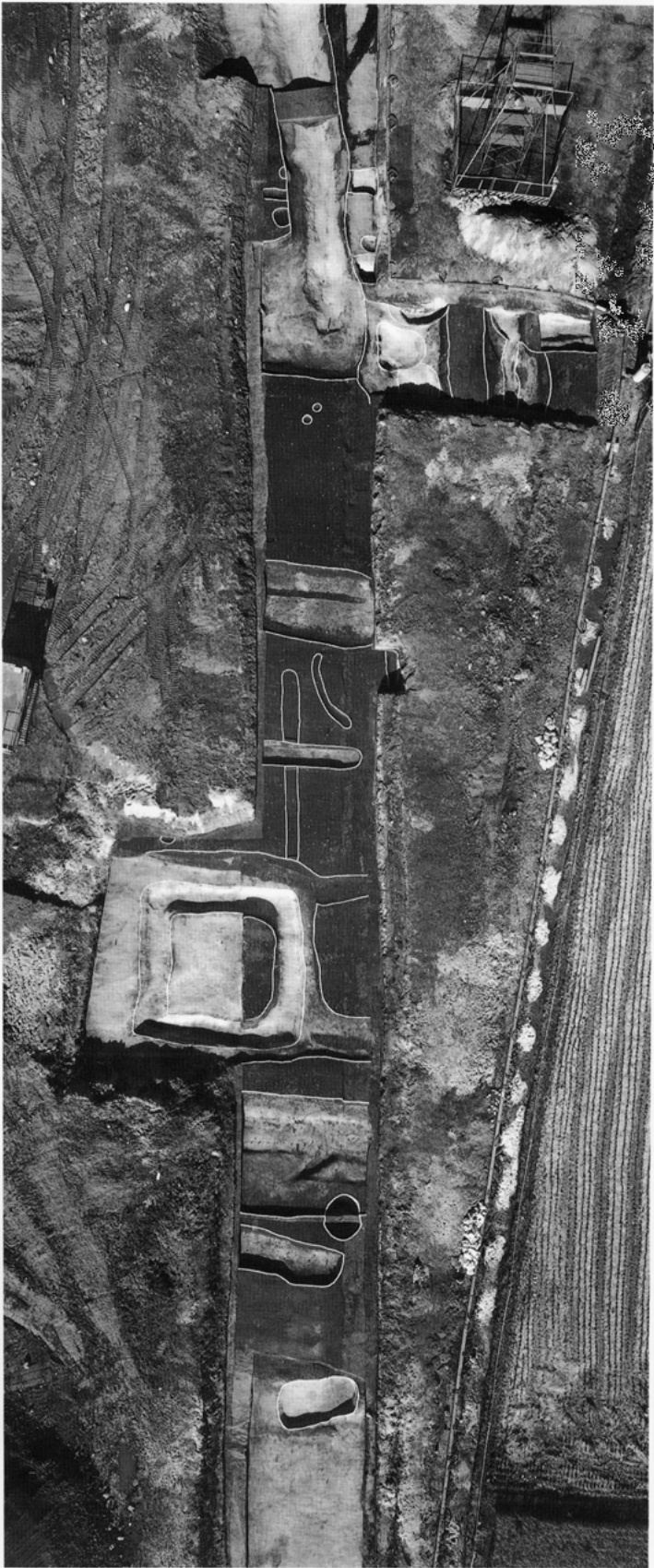


2. 93K区





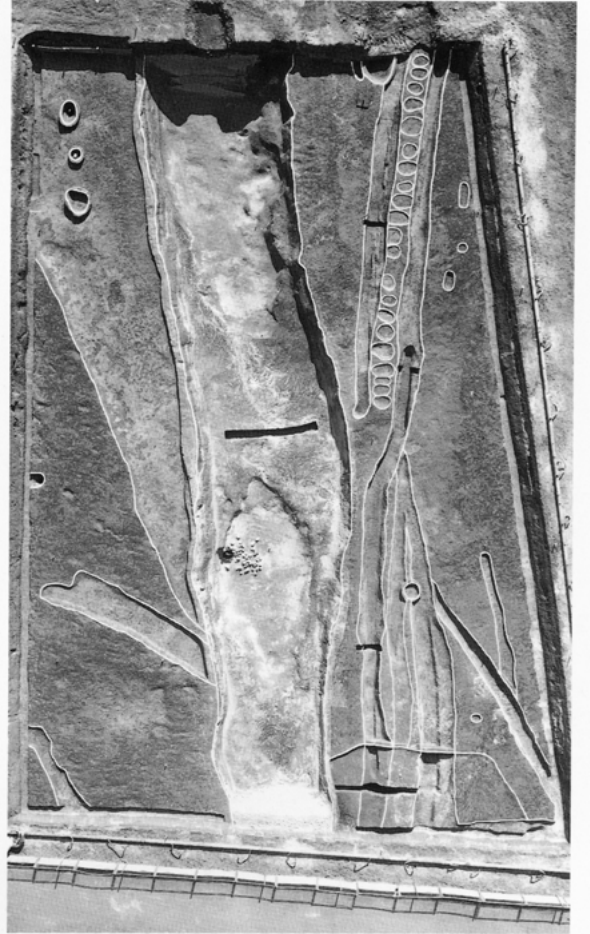
1. 93E区



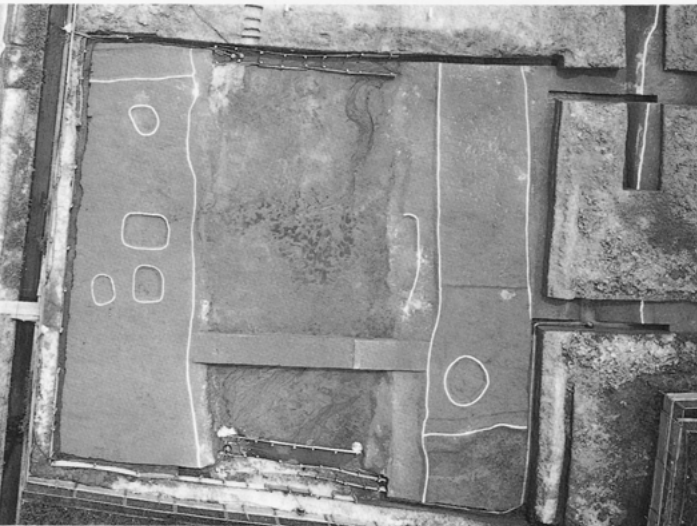
2. 93K区



1. 93J区



2. 93I区



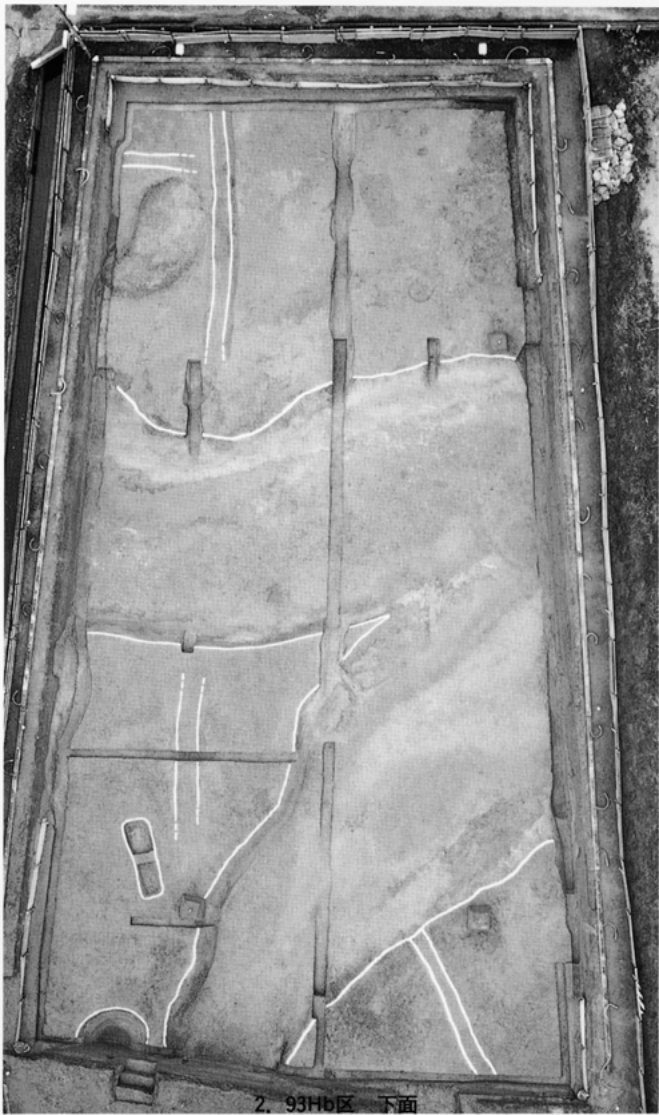
3. 92Ca区



4. 92Cb区



1. 93Hb区



2. 93Hb区 下面



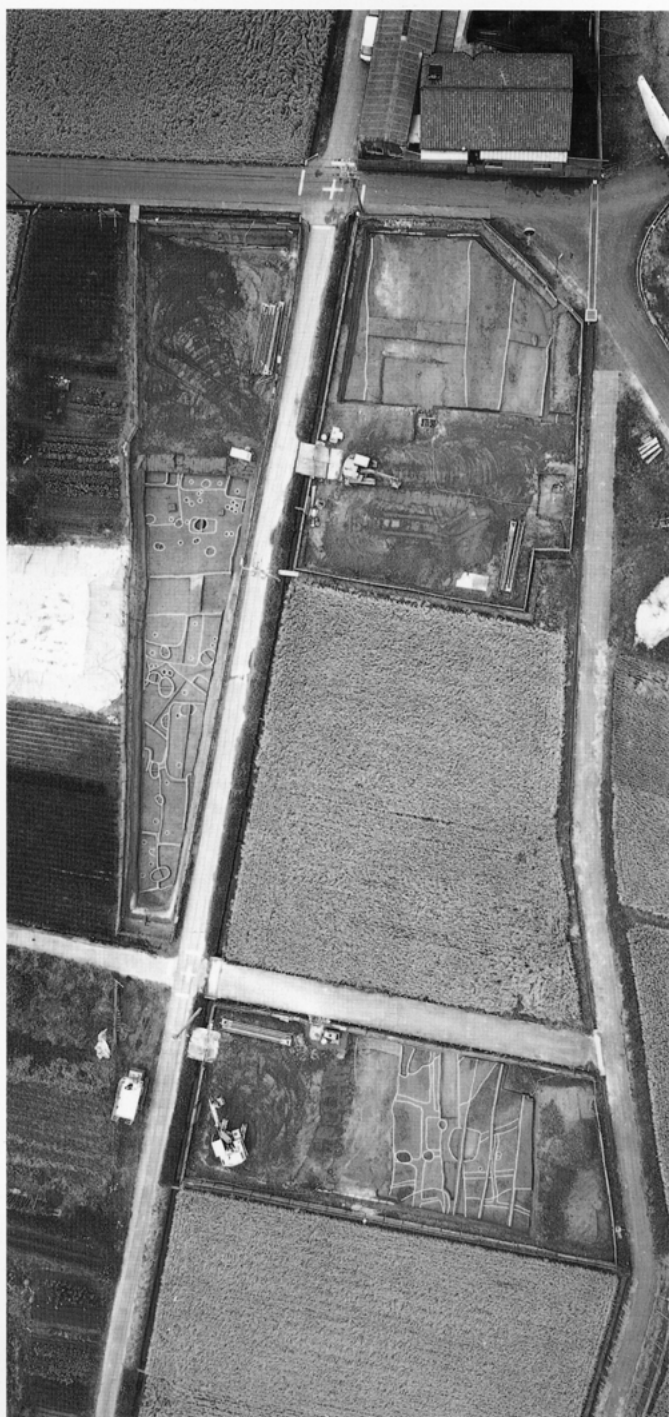
3. 92Cb区 下面



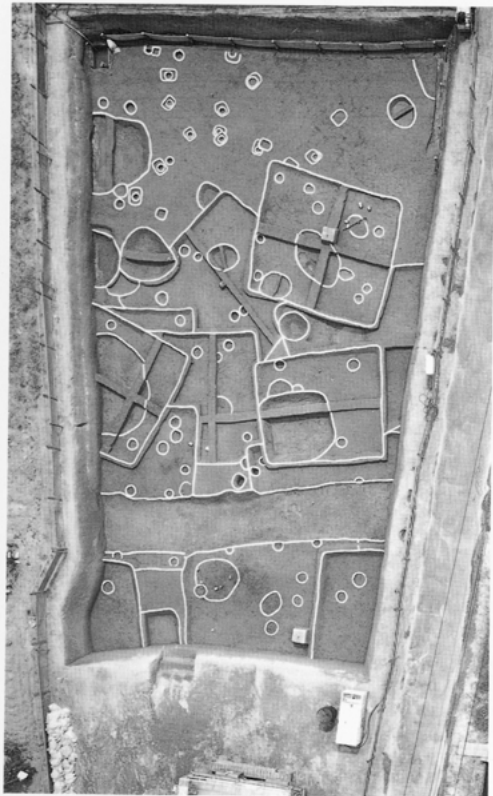
4. 93Ha区



1. 92Aa・Ca・Da区



2. 92Ab・Cb・Db区



1. 92Aa区



3. 93G区



2. 92Ab区



4. 92H区



1. 92F区 集石全景(東より)



2. 92F区 全景



3. 92F区 集石全景(南より)



4. 92F区 SX03



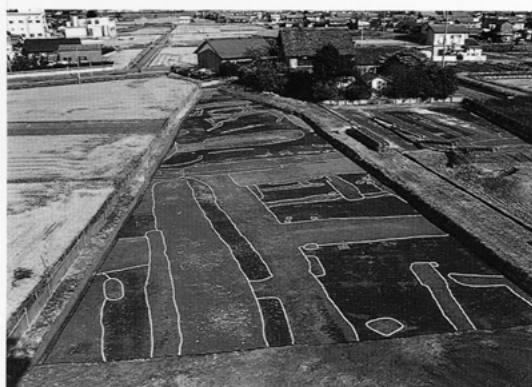
6. 92F区 SX05(西から)



5. 92F区 SX09(西から)



7. 92F区 SX05(断面)



1. 92F区 遺構検出状況



4. 92Gb区 検出状況



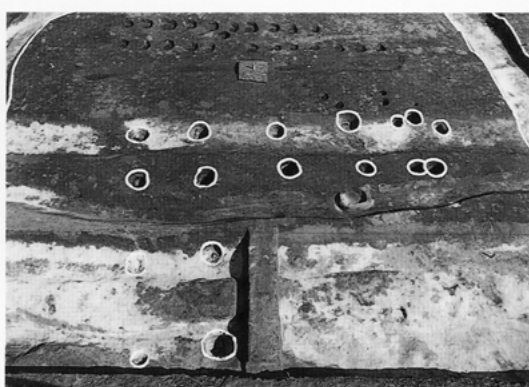
2. 92F区 完掘状況



5. 92Gb区 完掘状況



3. 92Ga区 完掘状況



6. 92Gb区 墳墓堂遺構の柱穴



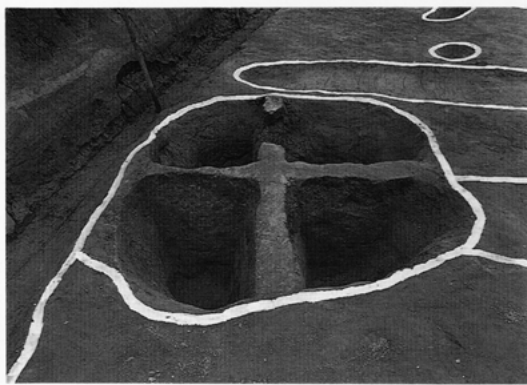
7. 92Gb区 P14柱



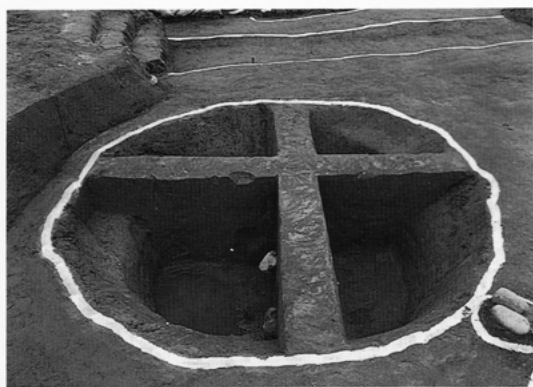
8. 92Gb区 P4柱



1. 93G区 SD214・SE10



3. 93G区 SE11



2. 93G区 SE08



6. 93G区 SE10 南から



4. 93G区 SE09



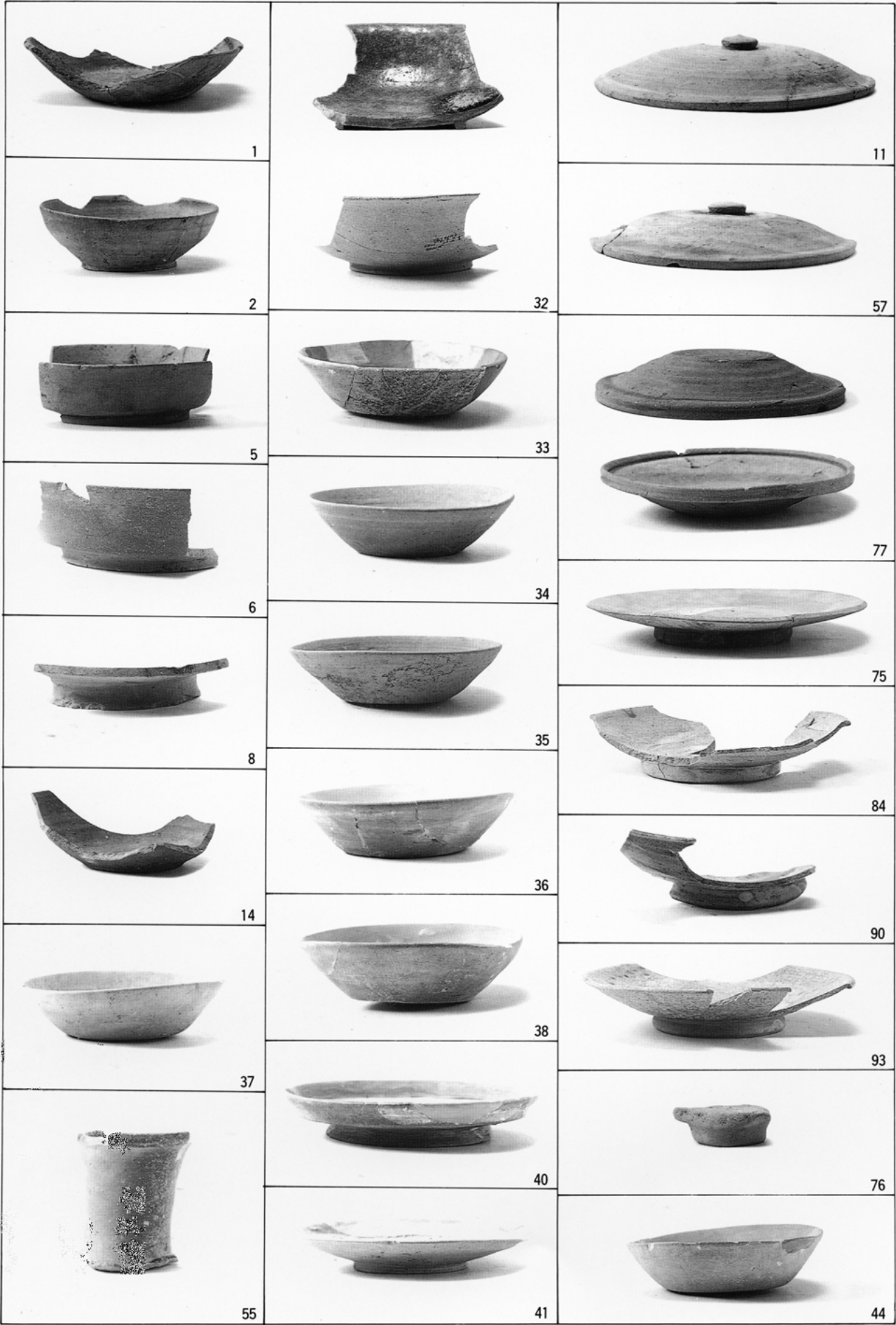
7. 93G区 SE10

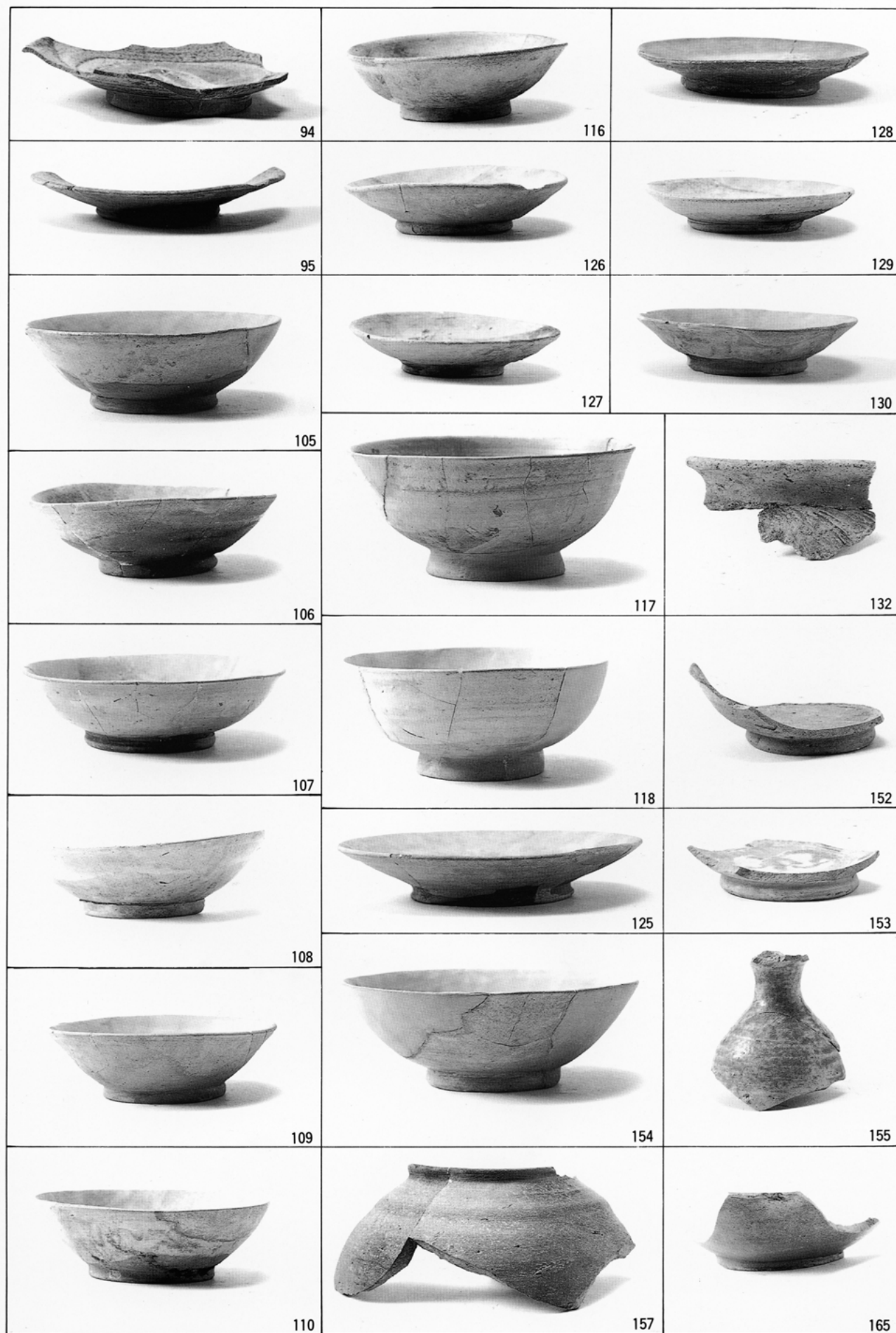


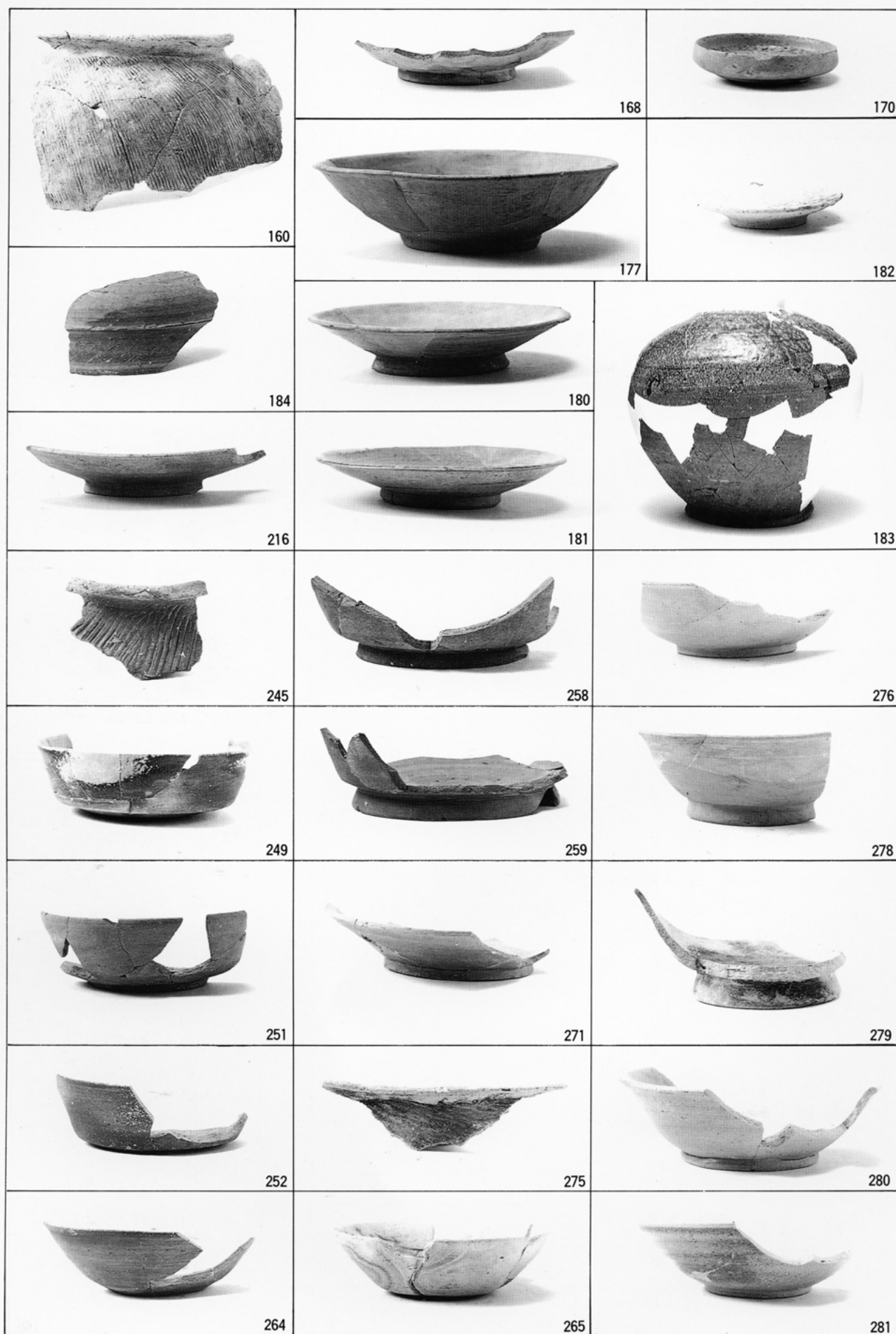
5. 93G区 SE09

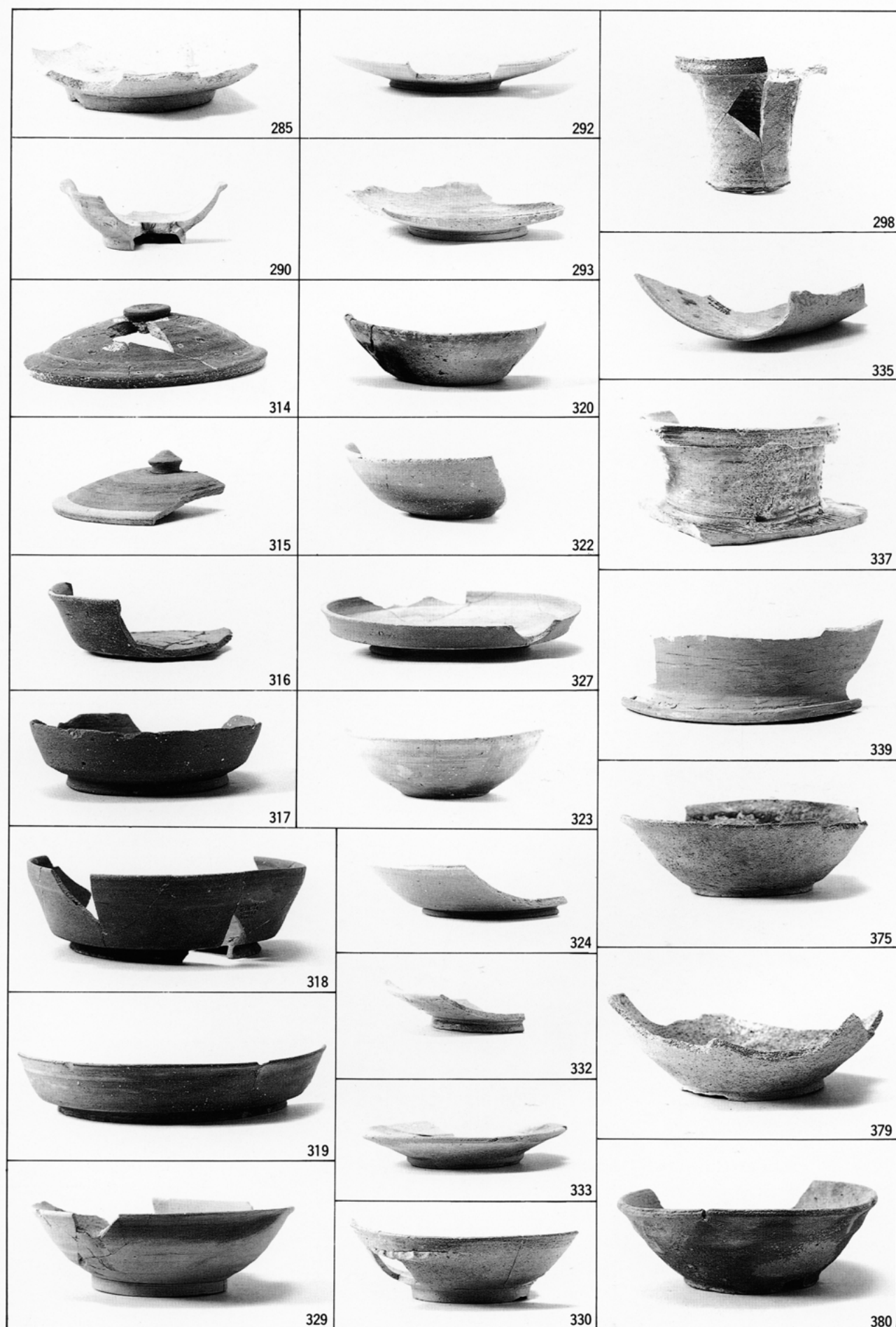


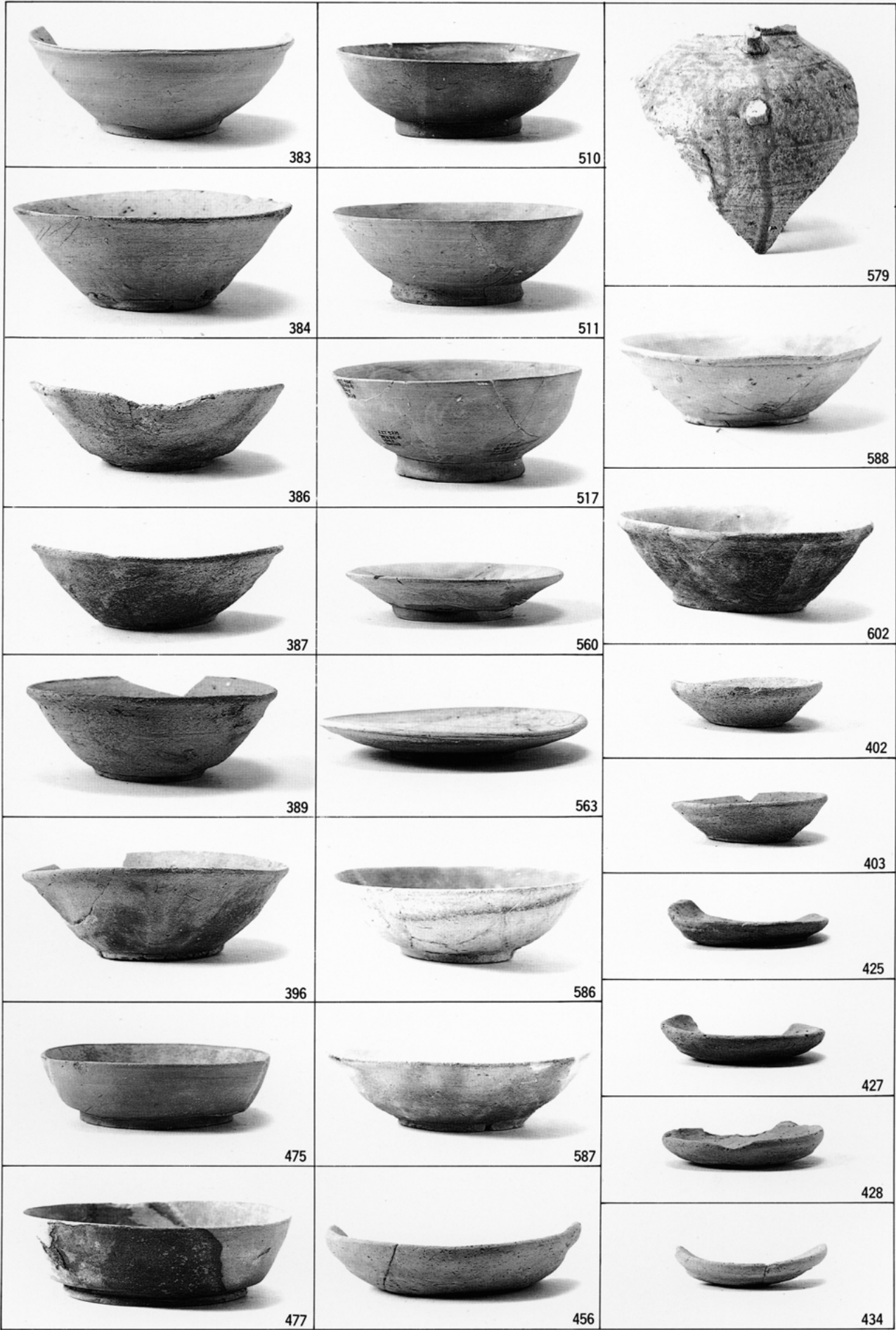
8. 93G区 SE10

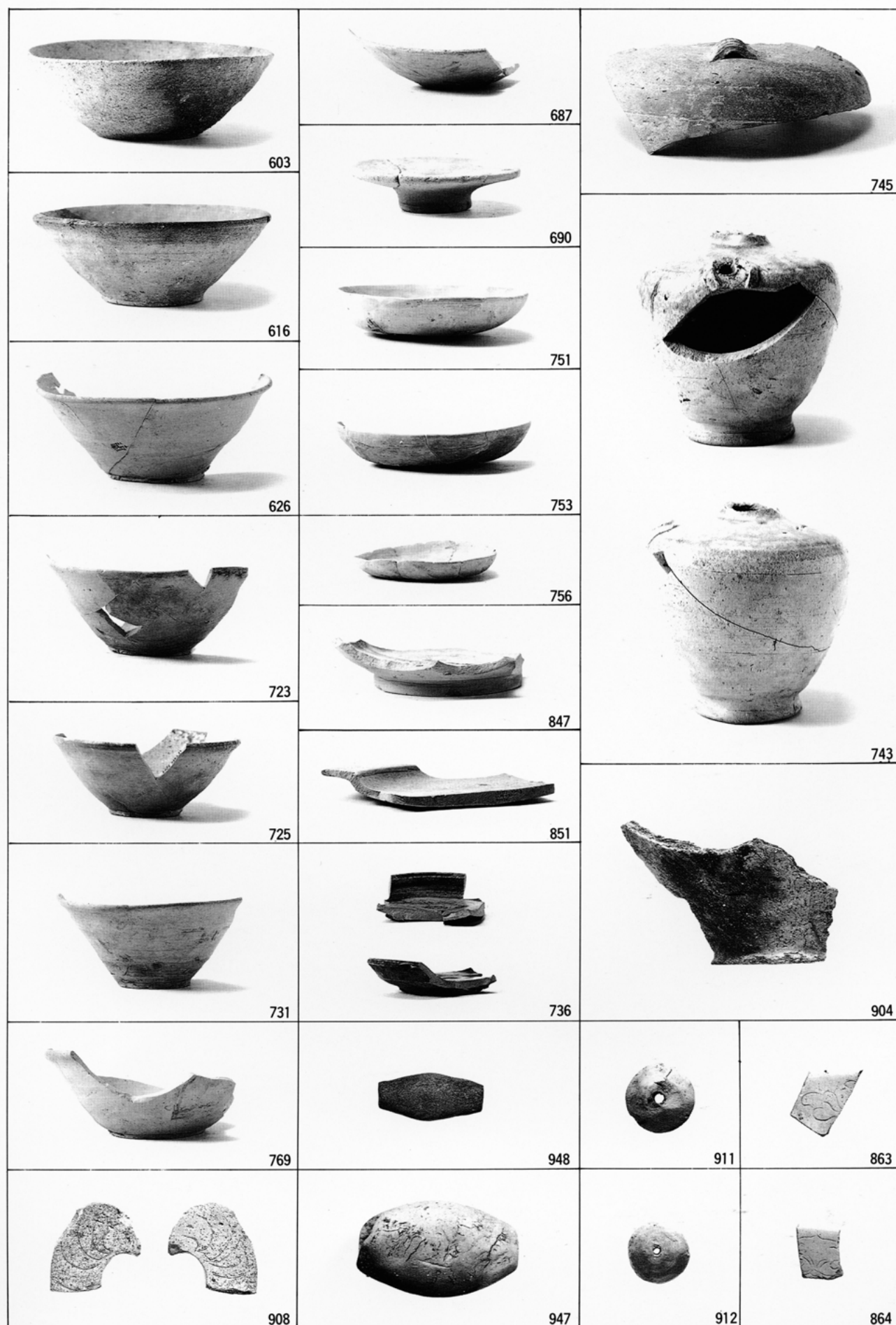


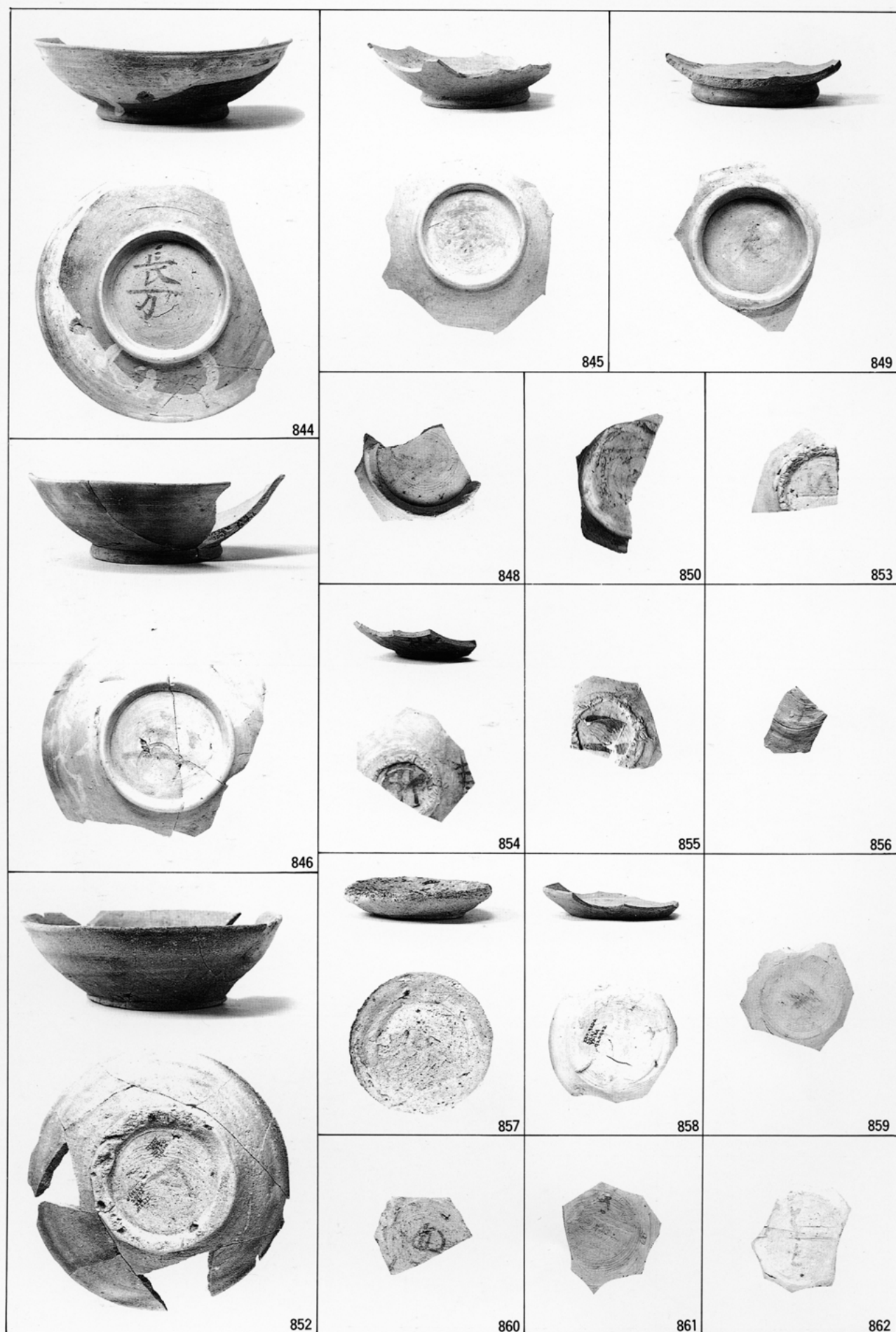


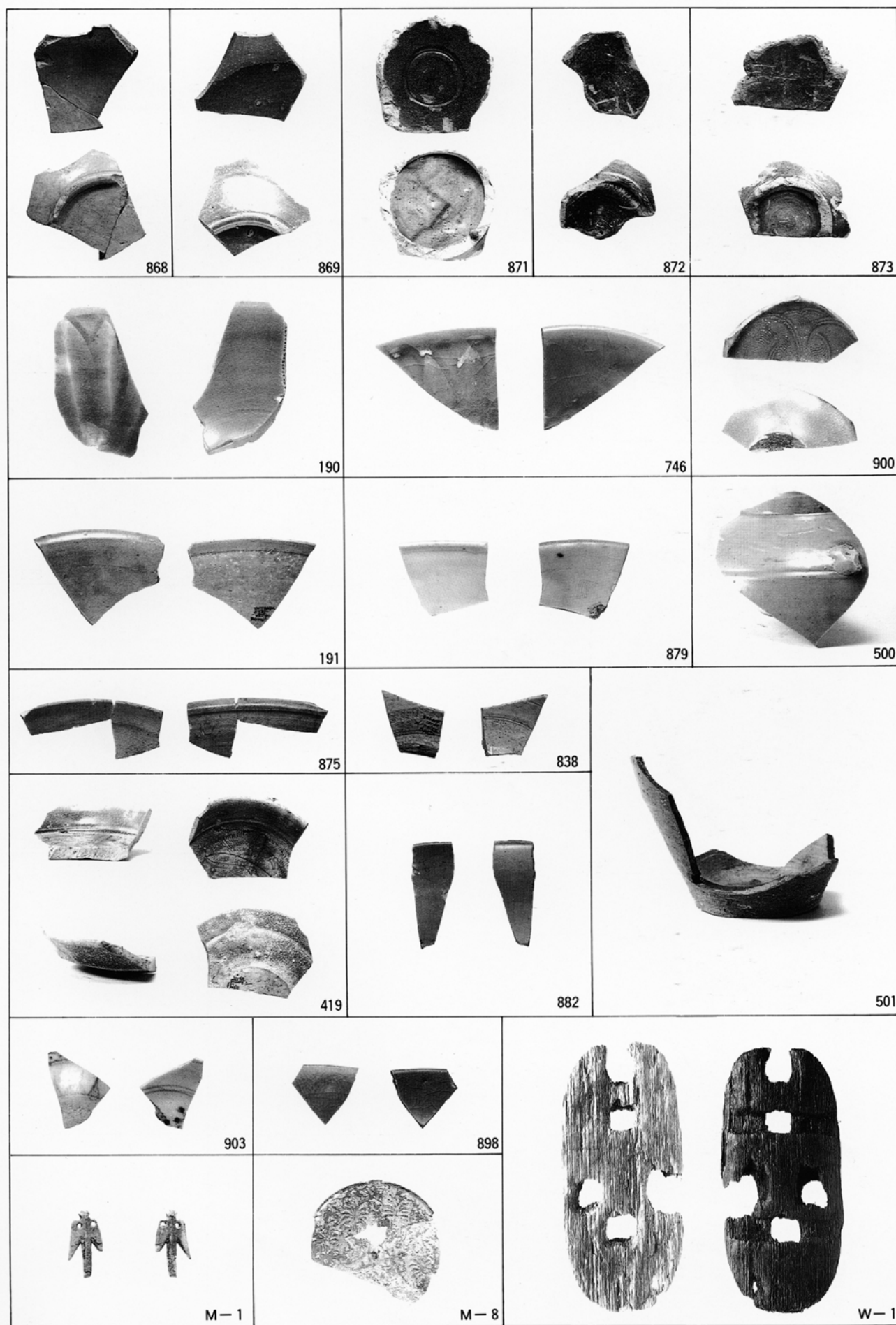




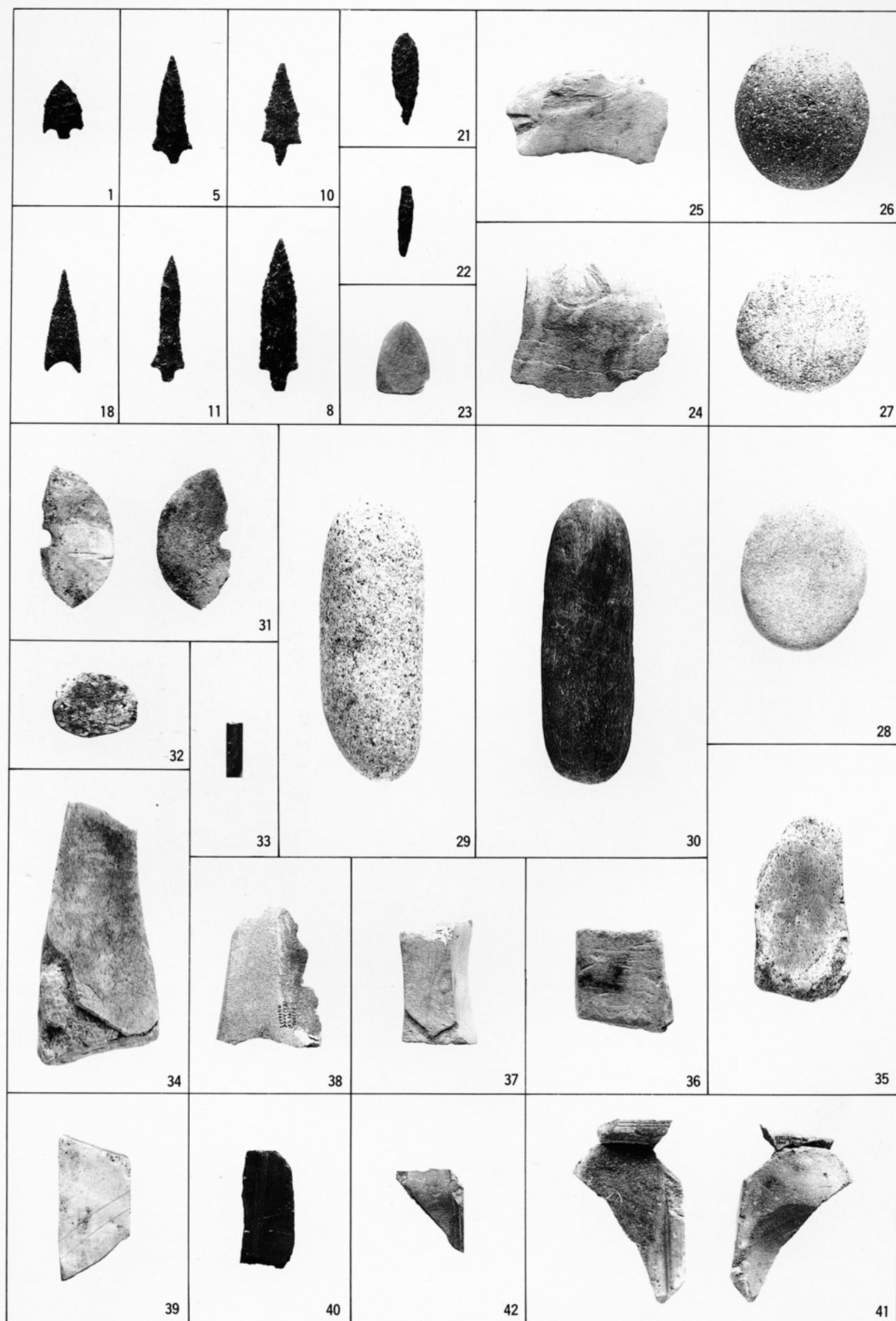


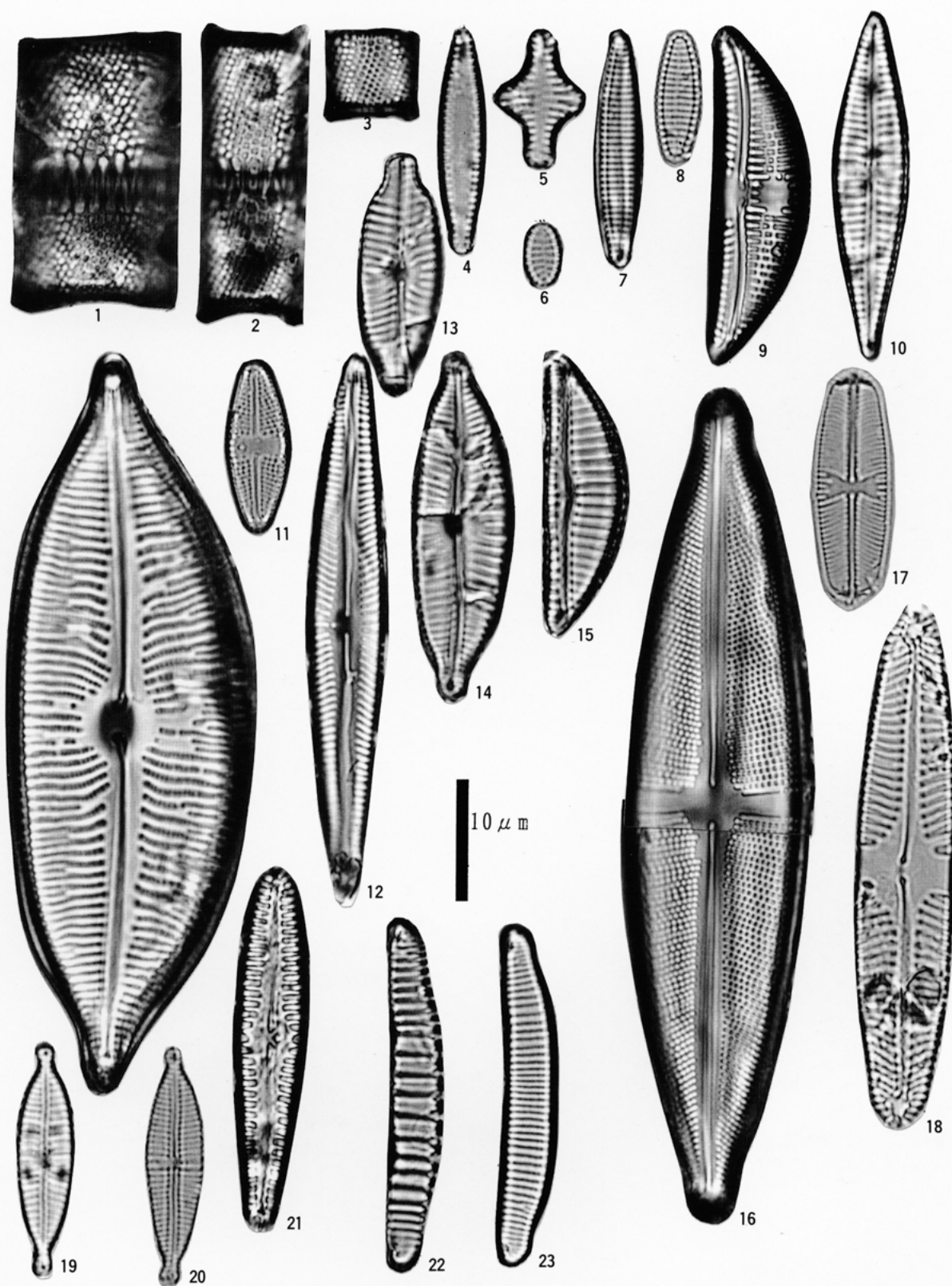






図版19
出土遺物
：石製品



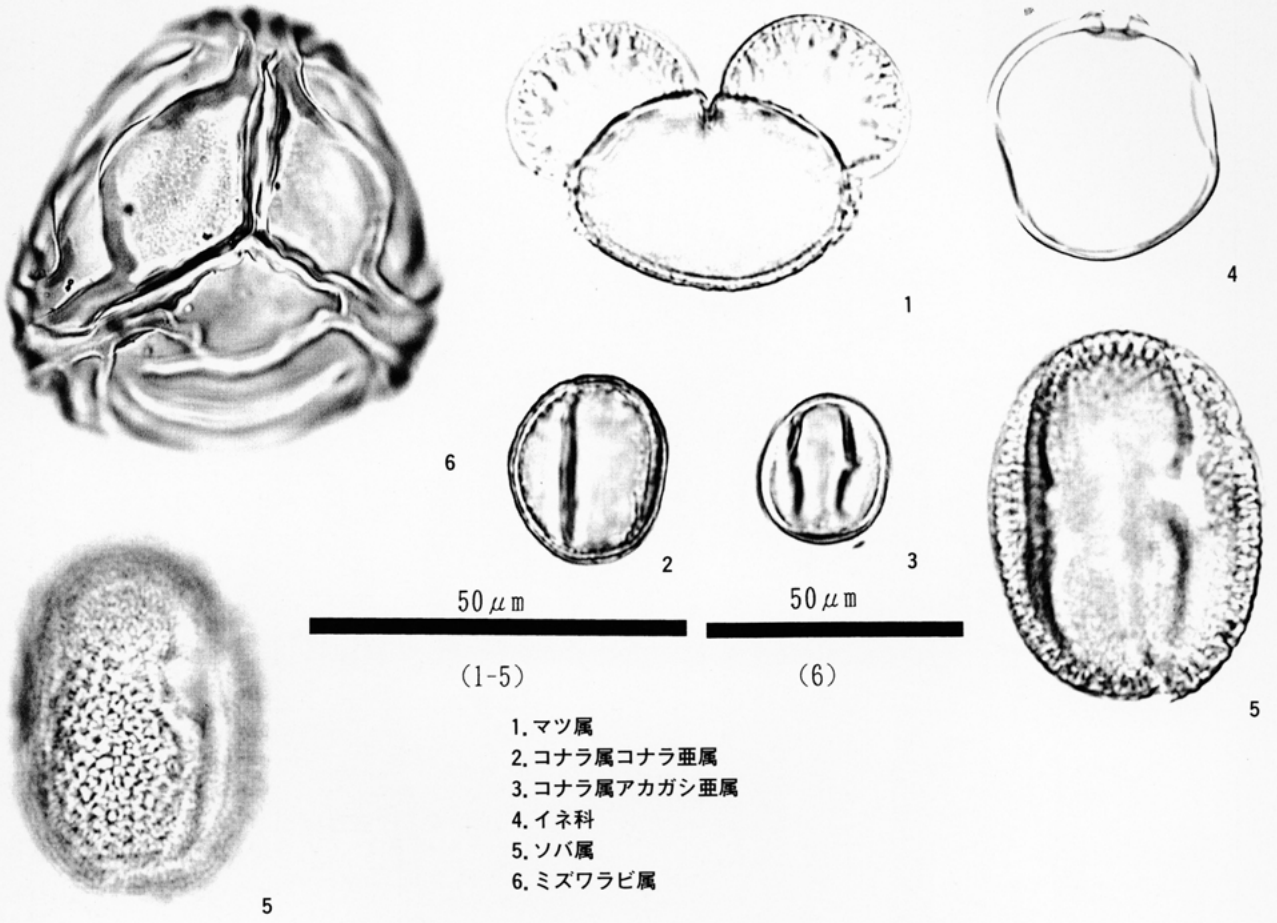


1. *Aulacoseira italica* var. *valida* (Grun.) Simonsen
2. *Aulacoseira italica* var. *valida* (Grun.) Simonsen
3. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen
4. *Fragilaria brevistriata* Grunow
5. *Fragilaria construens* (Ehr.) Grunow
6. *Fragilaria construens* fo. *venter* (Ehr.) Hustedt
7. *Fragilaria exigua* Grunow
8. *Fragilaria exigua* Grunow

9. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) V. Heurck
10. *Gomphonema gracile* Ehrenberg
11. *Navicula mutica* Kuetzing
12. *Cymbella amphioxys* (Kuetz.) Grunow
13. *Navicula elginensis* var. *neglecta* (Krass.) Patrick
14. *Cymbella naviculiformis* Auerwald
15. *Cymbella silesiaca* Bleisch
16. *Stauroneis phoenicenteron* var. *hattori* Tsumura

17. *Navicula pupula* Kuetzing
18. *Pinnularia gibba* Hustedt
19. *Gomphonema parvulum* Kuetzing
20. *Gomphonema parvulum* Kuetzing
21. *Gomphonema sumatrense* Fricke
22. *Eunotia biserialis* H. Kobayasi
23. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst
24. *Cymbella cuspidata* Kuetzing

花粉化石



植物珪酸体



報 告 書 抄 録

ふりがな		たどころいせき						
書名		田所遺跡						
副書名								
巻次								
シリーズ名		愛知県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号		第71集						
編著者名		小澤一弘、伊藤秀紀、尾崎和美、鬼頭剛、永井智子、服部俊之、堀木真美子、増澤徹、森勇一						
編集機関		財団法人愛知県埋蔵文化財センター						
所在地		〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL0567-67-4163						
発行年月日		西暦 1997年 8 月29日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
たどころ 田所	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 おおざたどころ 大字田所	23203	23381	35°20'56"	136°47'49"	199204～ 199602	24272m ²	東海北陸 自動車道 建設に伴う 事前調査
	あいちけんはぐりぐん 愛知県葉栗郡 きそがわちよう 木曽川町 おおざくらだ 大字黒田	23381						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
田所	集落	古代	竪穴住居・土坑 水田・溝		須恵器、灰釉陶器、 銭貨		富壽神寶	
	集落	中世	大溝・堂 集石・土坑 井戸 水田		灰釉系陶器、下駄 貿易陶磁器			

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第71集

田 所 遺 跡

1997年8月29日

編集・発行 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

印刷 マツモト印刷株式会社
